
JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理 9.0 製品ガイド

2008 年 12月

商標と登録商標について

OracleはOracle Corporationおよびその関連企業の登録商標です。その他の名称は、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

ライセンス制約の保証と結果的に生じる損害の免責

このソフトウェアおよび関連ドキュメントの使用と開示は、ライセンス契約の制約条件に従うものとし、知的財産に関する法律により保護されています。ライセンス契約で明示的に許諾されている場合もしくは法律によって認められている場合を除き、形式、手段に関係なく、いかなる部分も使用、複写、複製、翻訳、放送、修正、ライセンス供与、送信、配布、発表、実行、公開または表示することはできません。このソフトウェアのリバース・エンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイルは互換性のために法律によって規定されている場合を除き、禁止されています。

米国特許第5,781,908、5,828,376、5,950,010、5,960,204、5,987,497、5,995,972、5,987,497、6,223,345号により保護されています。その他の特許は申請中です。

保証免責

ここに記載された情報は予告なしに変更される場合があります。また、誤りが無いことの保証はいたしかねます。誤りを見つけた場合は、オラクル社までご連絡ください。

制限付権利

このソフトウェアまたは関連ドキュメントが、米国政府機関もしくは米国政府機関に代わってこのソフトウェアまたは関連ドキュメントをライセンスされた者に提供される場合は、次のNoticeが適用されます。

U.S. GOVERNMENT RIGHTS

Programs, software, databases, and related documentation and technical data delivered to U.S. Government customers are “commercial computer software” or “commercial technical data” pursuant to the applicable Federal Acquisition Regulation and agency-specific supplemental regulations. As such, the use, duplication, disclosure, modification, and adaptation shall be subject to the restrictions and license terms set forth in the applicable Government contract, and, to the extent applicable by the terms of the Government contract, the additional rights set forth in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software License (December 2007). Oracle USA, Inc., 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

危険な用途への使用について

このソフトウェアは様々な情報管理アプリケーションでの一般的な使用のために開発されたものです。このソフトウェアは、危険が伴うアプリケーション（人的傷害を発生させる可能性があるアプリケーションを含む）への用途を目的として開発されていません。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用する際、このソフトウェアを安全に使用するために、適切な安全装置、バックアップ、冗長性（redundancy）、その他の対策を講じることは使用者の責任となります。このソフトウェアを危険が伴うアプリケーションで使用したこと起因して損害が発生しても、オラクル社およびその関連会社は一切の責任を負いかねます。

第三者のコンテンツ、製品、サービスに対する免責

このソフトウェアおよびドキュメントは、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセス、あるいはそれらに関する情報を提供することがあります。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスに関して一切の責任を負わず、いかなる保証もいたしません。オラクル社およびその関連会社は、第三者のコンテンツ、製品、サービスへのアクセスまたは使用によって損失、費用、あるいは損害が発生しても、一切の責任を負いかねます。

Contains GNU libgmp library; Copyright © 1991 Free Software Foundation, Inc. This library is free software which can be modified and redistributed under the terms of the GNU Library General Public License.

Includes Adobe® PDF Library, Copyright 1993–2001 Adobe Systems, Inc. and DL Interface, Copyright 1999–2008 Datalogics Inc. All rights reserved. Adobe® is a trademark of Adobe Systems Incorporated.

Portions of this program contain information proprietary to Microsoft Corporation. Copyright 1985–1999 Microsoft Corporation.

Portions of this program contain information proprietary to Tenberry Software, Inc. Copyright 1992–1995 Tenberry Software, Inc.

Portions of this program contain information proprietary to Premia Corporation. Copyright 1993 Premia Corporation.

This product includes code licensed from RSA Data Security. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>).

This product includes cryptographic software written by Eric Young (ey@cryptsoft.com).

This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com). All rights reserved.

This product includes the Sentry Spelling–Checker Engine, Copyright 1993 Wintertree Software Inc. All rights reserved.

Open Source Disclosure

Oracle takes no responsibility for its use or distribution of any open source or shareware software or documentation and disclaims any and all liability or damages resulting from use of said software or documentation. The following open source software may be used in Oracle's JD Edwards EnterpriseOne products and the following disclaimers are provided:

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>). Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. THIS SOFTWARE IS PROVIDED “AS IS” AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE APACHE SOFTWARE FOUNDATION OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

目次

はじめに

この PeopleBook について	xxv
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件.....	xxv
アプリケーションの基礎.....	xxv
最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード.....	xxvi
最新版ドキュメンテーションの入手(英語版のみ).....	xxvi
ドキュメンテーションのダウンロード.....	xxvi
追加情報.....	xxvi
表記規則.....	xxviii
表記規則.....	xxviii
注意事項の表示.....	xxix
国、地域、業種の表記.....	xxix
通貨コード.....	xxx
ご意見、ご要望をお寄せください.....	xxx
製品ガイドで使用する共通フィールド.....	xxx

まえがき

JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理 – まえがき.....	xxxiii
JD Edwards EnterpriseOne製品.....	xxxiii
JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基礎.....	xxxiii

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理 – はじめに.....	1
JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理の概要.....	1
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理のビジネス・プロセス.....	3
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理のビジネス・プロセス.....	3
JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理の統合.....	4
JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理の導入.....	9
グローバル導入の手順.....	10
契約/サービス請求管理の導入手順.....	10

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理およびサービス請求管理の設定.....	11
---	----

設定要件について.....	11
多通貨設定について.....	13
通貨モード.....	14
固定金額および非固定金額.....	14
請求用通貨モード.....	14
多通貨取引.....	14
請求固定情報の設定.....	16
請求固定情報について.....	17
収益額と請求額の不一致可について.....	17
暫定請求書番号および最終請求書番号の制御について.....	19
多通貨の固定情報について.....	20
事前設定.....	20
請求固定情報の設定に使用するフォーム.....	21
請求固定情報の設定.....	21
会社例外の設定.....	27
暫定請求書番号および最終請求書番号の制御の設定.....	27
UDCの設定.....	28

第 3 章

テーブル情報の設定.....	33
請求料金/割増規則について.....	33
この章で使用する共通フィールド.....	33
請求料金/割増テーブル.....	36
請求料金/割増テーブルの主要キー.....	37
請求料金/割増テーブルの補助キー.....	40
割増の計算.....	40
複合割増.....	41
追加料金情報.....	42
請求料金/割増テーブルの多通貨設定.....	42
請求料金/割増規則の検索について.....	44
割増の計算.....	44
主要キーの値.....	45
給与計算トランザクションの補助キーの値.....	45
設備用の非給与計算トランザクションの補助キーの値.....	47
その他すべての取引用の補助キーの値.....	48
請求料金/割増規則の設定.....	49
事前設定.....	50
請求料金/割増規則の設定に使用するフォーム.....	50
請求料金/割増テーブル (P48096) の処理オプションの設定.....	50

請求料金/割増テーブルの設定.....	51
請求料金/割増規則のコピー.....	55
税決定規則の設定.....	55
税決定規則について.....	56
事前設定.....	56
税決定規則の設定に使用するフォーム.....	56
税決定基準テーブルの設定.....	56
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の相手勘定/留保金規則の設定.....	57
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の相手勘定/留保金規則について.....	57
事前設定.....	59
相手勘定/留保金規則の設定に使用するフォーム.....	60
相手勘定/留保金テーブルの設定.....	60
請求のAAIの設定.....	61
請求の会計AAIについて.....	61
契約の請求AAIについて.....	62
請求AAIについて.....	62
請求AAIのキー・タイプおよびテーブル・キーについて.....	64
請求AAIの主要キーについて.....	65
請求AAIの補助キーについて.....	66
請求書および総勘定元帳仕訳の生成用のAAI処理について.....	67
基本規則について.....	70
再配賦規則について.....	70
事前設定.....	71
この項で使用する共通フィールド.....	71
請求のAAI(自動仕訳)の設定に使用するフォーム.....	73
請求AAI(P48S95)の処理オプションの設定.....	73
AAI基本規則の設定.....	74
AAI再配賦規則の設定.....	75
追加料金規則の設定.....	76
追加料金規則について.....	76
追加料金の多通貨設定について.....	78
事前設定.....	78
追加料金規則の設定に使用するフォーム.....	79
追加料金計算規則の設定.....	79
複合追加料金の設定.....	81
既存の割増規則への追加料金規則の追加.....	81
手数料の設定.....	81
手数料について.....	82
手数料の設定に使用するフォーム.....	82
手数料のレート・コードの定義.....	82

第 4 章

請求書処理の設定	83
順序/集計規則の設定	83
順序/集計規則について	83
順序/集計規則の設定に使用するフォーム	84
順序/集計データ項目の選択	84
順序/集計キーの設定	85
請求書印刷バージョン相互参照の設定	86
請求書印刷処理について	87
請求書印刷バージョン相互参照プログラムについて	88
請求書印刷バージョン相互参照の設定に使用するフォーム	89
請求書印刷バージョン相互参照の設定	89
請求書フォーマットの設定	91
請求書フォーマットについて	91
事前設定	95
請求書フォーマットの設定に使用するフォーム	96
請求書フォーマット・テンプレートへのスマート・フィールドの追加	96
新規請求書印刷バージョンのチェックイン	97

第 5 章

請求サイクルの会計について	99
請求AAI規則	99
基本規則	100
例1 - 請求のみ	101
例2 - 収益認識のみ	102
例3 - 収益認識および請求(調整なし)	103
例4 - 収益認識および請求(調整あり)	108
再配賦規則	113
例5 - 請求のみ	113
例6 - 収益認識のみ	114
例7 - 収益認識および請求(調整なし)	116
例8 - 収益認識および請求(調整あり)	120

第 6 章

多通貨勤怠処理について	125
システム設定	125
JD Edwards EnterpriseOne Human Capital Managementの会社オプションの設定に関する考慮事項	125
JD Edwards EnterpriseOne一般会計の固定情報の設定に関する考慮事項	125

為替レートの設定に関する考慮事項.....	126
UDC 48/MT(割増生成タイプ)の設定に関する考慮事項.....	126
時間入力MBF処理オプション(P050002A)の設定に関する考慮事項.....	126
請求料金/割増テーブルの設定に関する考慮事項.....	127
従業員給与計算情報の設定に関する考慮事項.....	127
時間入力.....	128
多通貨タイムカードの入力に関する考慮事項.....	128
タイムカード仕訳の作成に関する考慮事項.....	129
バッチの承認と転記に関する考慮事項.....	129
ワークファイルの生成.....	130
タイムカードのワークファイル取引の生成に関する考慮事項.....	130
ワークファイル取引の検討に関する考慮事項.....	130
例: 多通貨タイムカード入力.....	130
設定.....	131
テスト・ケース1.....	131
テスト・ケース2.....	133

第 7 章

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金計算について.....	135
売掛金元帳の留保金を使用する複数の留保金規則 - 繰延税金なし.....	135
例の設定.....	135
請求書の生成.....	136
留保金の計算.....	137
自動入力されたテーブル.....	137
売掛金仕訳.....	139
売掛金元帳照会.....	139
売掛金元帳の留保金 - 繰延税金あり.....	140
例の設定.....	141
請求書の生成.....	141
留保金の計算.....	141
税の計算.....	141
仕訳編集レジスタ(R48300).....	142
自動入力されたテーブル.....	142
売掛金仕訳.....	143
売掛金元帳照会.....	143
総勘定元帳の留保金 - 繰延税金なし.....	144
例の設定.....	144
請求書の生成.....	145
留保金の計算.....	145

税の計算.....	145
仕訳編集レジスタ(R48300).....	145
自動入力されたテーブル.....	146
売掛金仕訳.....	147
売掛金元帳照会.....	147
総勘定元帳の留保金 - 繰延税金あり.....	147
例の設定.....	148
請求書の生成.....	148
留保金の計算.....	148
税の計算.....	148
仕訳編集レジスタ(R48300).....	149
自動入力されたテーブル.....	149
売掛金仕訳.....	150
売掛金元帳照会.....	151
部分完了契約の留保金 - T&M請求行に予定値なし.....	151
例の設定.....	151
請求書の生成.....	152
留保金の計算.....	152
税の計算.....	152
部分完了契約の留保金 - T&M請求行に予定値あり.....	153
例の設定.....	153
請求書の生成.....	153
留保金の計算.....	153
税の計算.....	154
複数の完了率 - T&M請求行に予定値なし.....	154
例の設定.....	154
請求書の生成.....	155
留保金の計算.....	155
税の計算.....	156
複数の完了率 - T&M請求行に予定値あり.....	156
例の設定.....	156
請求書の生成.....	157
留保金の計算.....	157
税の計算.....	158
留保金規則での複数の完了率 - T&M請求行に予定値あり.....	158
例の設定.....	158
請求書の生成.....	158
留保金の計算.....	159
税の計算.....	159
留保金 - 割引あり.....	160

例の設定.....	160
請求書の生成.....	160
税の計算.....	161
留保金の計算.....	161
部分完了契約の留保金 - 割引あり.....	161
例の設定.....	162
請求書の生成.....	162
税の計算.....	162
留保金の計算.....	162

第 8 章

最高限度の計算について.....	165
例の設定.....	165
1つのワークファイル取引の収益生成.....	165
例1 - 「2」の最高限度規則(請求および収益に適用).....	166
例2 - 「3」の最高限度規則(収益に適用).....	166
例3 - 「4」の最高限度規則(請求に適用).....	167
1つのワークファイル取引の収益認識を伴う請求.....	167
例4 - 「2」の最高限度規則(請求および収益に適用).....	167
例5 - 「3」の最高限度規則(収益に適用).....	168
例6 - 「4」の最高限度規則(請求に適用).....	168
2つのワークファイル取引の収益生成.....	168
例7 - 「2」の最高限度規則(請求および収益に適用).....	169
例8 - 「3」の最高限度規則(収益に適用).....	169
例9 - 「4」の最高限度規則(請求に適用).....	170
2つのワークファイル取引の収益認識を伴う請求.....	170
例10 - 「2」の最高限度規則(請求および収益に適用).....	171
例11 - 「3」の最高限度規則(収益に適用).....	171
例12 - 「4」の最高限度規則(請求に適用).....	172

第 9 章

契約の設定.....	173
契約について.....	173
請求タイプについて.....	174
変更オーダーについて.....	175
契約請求行の改訂について.....	175
多通貨契約について.....	176
契約の作成.....	177

契約マスター情報について.....	177
データ・リレーションシップと契約について.....	180
事前設定.....	180
契約の作成に使用するフォーム.....	181
契約マスターの改訂 (P5201) の処理オプションの設定.....	181
契約マスター情報の設定.....	182
最高限度規則の割当.....	186
最高限度規則について.....	186
この項で使用する共通フィールド.....	187
最高限度規則の割当に使用するフォーム.....	188
契約マスターへの最高限度規則の割当.....	188
変更オーダーへの最高限度規則の割当.....	189
契約請求行への最高限度規則の割当.....	189
契約の留保金規則の定義.....	190
契約の留保金規則について.....	190
留保金規則の定義に使用するフォーム.....	193
留保金規則の定義.....	193
契約マスターへの留保金規則の割当.....	194
変更オーダーへの留保金規則の割当.....	195
請求行への留保金規則の割当.....	196
支払時請求要件の定義.....	196
支払時請求要件について.....	196
支払時請求要件の定義に使用するフォーム.....	197
請求行に対する支払時請求要件の定義.....	197

第 10 章

独立契約請求行の定義.....	199
独立契約請求行について.....	199
事前設定.....	199
この章で使用する共通フィールド.....	199
独立契約請求行.....	203
総額の契約請求行の定義.....	203
総額請求行について.....	203
総額での請求金額の計算方法について.....	204
定期請求金額について.....	205
事前設定.....	205
総額の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	205
契約請求行詳細 (P5202) の処理オプションの設定.....	205
手動計算の総額の定義.....	207

請求金額を計算するための総額の定義.....	207
定期請求金額の定義.....	208
単価の契約請求行の定義.....	208
単価請求行について.....	209
単価の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	210
手動計算の単価の定義.....	210
請求金額を計算するための単価の定義.....	210
マイルストーン請求の契約請求行の定義.....	211
マイルストーン請求行について.....	211
マイルストーン請求の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	213
マイルストーン請求の請求行の定義.....	213
マイルストーン請求の請求イベントの定義.....	214
進捗請求の契約請求行の定義.....	214
進捗請求行について.....	215
進捗請求の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	216
進捗請求の請求行の定義.....	216
進捗請求の請求イベントの定義.....	217
マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了.....	218
マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了について.....	218
マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了に使用するフォーム.....	218
マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了日付の指定.....	218
以前に請求した進捗請求行の変更.....	219
以前に請求した進捗請求行の変更について.....	219
以前に請求した進捗請求行の変更を使用するフォーム.....	220
以前に請求した進捗請求行の置換.....	220
T&Mまたは原価加算の契約請求行の定義.....	221
T&Mおよび原価加算の請求行について.....	221
T&Mまたは原価加算の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	222
T&Mおよび原価加算の請求行の定義.....	222
T&Mまたは原価加算の請求行の相互参照の定義.....	223

第 11 章

従属契約請求行の定義.....	225
従属契約請求行について.....	225
この章で使用する共通フィールド.....	225
従属契約請求行.....	228
契約の前払について.....	229
事前設定.....	229
直接分割融資および率による分割融資の契約請求行の定義.....	229

直接分割融資請求行および率による分割融資請求行について.....	230
直接分割融資または率による分割融資の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	231
直接分割融資または率による分割融資の請求行の定義.....	232
直接分割融資または率による分割融資の相互参照の定義.....	232
手数料の契約請求行の定義.....	233
手数料請求行について.....	233
事前設定.....	234
手数料の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	234
手数料の契約請求行の定義.....	234
手数料の相互参照の定義.....	235
追加料金の契約請求行の定義.....	237
追加料金請求行について.....	237
事前設定.....	238
追加料金の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	238
追加料金の請求行の定義.....	238
追加料金の相互参照の定義.....	239
適用済間接費の契約請求行の定義.....	239
適用済間接費の請求行について.....	240
事前設定.....	240
適用済間接費の請求行の定義に使用するフォーム.....	241
適用済間接費の請求行の定義.....	241
適用済間接費の相互参照の定義.....	242
適用済間接費行の相互参照行の選択.....	242
間接労務費の契約請求行の定義.....	243
間接労務費請求行について.....	243
事前設定.....	244
間接労務費の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	245
間接労務費の請求行の定義.....	245
間接労務費の相互参照の定義.....	246
収益のみ契約請求行の定義.....	247
収益のみ契約請求行について.....	247
事前設定.....	248
収益の契約請求行の定義に使用するフォーム.....	248
完了率の収益請求行の定義.....	248
請求割合の収益請求行の定義.....	250
収益のみ請求行の相互参照の定義.....	251

第 12 章

ワークファイルの管理.....	253
-----------------	-----

ワークファイルについて.....	253
ワークファイル取引.....	253
ワークファイル内の親/子関係.....	257
適格性コード.....	257
順序番号.....	259
ワークファイル履歴.....	260
ワークファイルの生成.....	261
ワークファイルの生成について.....	261
事前設定.....	262
ワークファイルの生成の実行.....	262
ワークファイルの生成(R48120)の処理オプションの設定.....	262
ワークファイル取引の確認.....	263
潜在的なワークファイル・エラーについて.....	263
ワークファイル取引の確認に使用するフォーム.....	266
取引合計の確認.....	266
間接労務費取引の確認.....	267
追加料金取引の確認.....	268
間接費取引および遡及調整取引の確認.....	269
ワークファイル取引の改訂.....	270
ワークファイル取引の改訂について.....	270
間接費取引と遡及調整取引のワークファイルの改訂について.....	274
ワークファイル取引の改訂に使用するフォーム.....	275
ワークファイルへの既存の総勘定元帳取引の追加.....	275
ワークファイル取引の割増の変更.....	276
アドホック・ワークファイル取引の入力.....	279
ワークファイル取引への保留状態の割当.....	283
非T&M収益ワークファイル取引の改訂.....	285
ワークファイル取引の分割.....	287
ワークファイルの再計算プログラムの実行.....	287
ワークファイルの再計算(R481202)の処理オプションの設定.....	288
ワークファイル履歴の改訂.....	288
ワークファイル履歴について.....	289
ワークファイル履歴の除去プログラムについて.....	289
ワークファイル履歴の改訂に使用するフォーム.....	290
ワークファイル履歴テーブルへのワークファイル取引の移動.....	290
ワークファイル履歴の照会(P4812H)の処理オプションの設定.....	291
履歴からの取引の移動.....	291
ワークファイル履歴の除去プログラムの実行.....	291
ワークファイル履歴の除去(R48S999)の処理オプションの設定.....	292

第 13 章

収益の認識.....	293
収益認識について.....	293
元帳仕訳の生成に使用するバージョンおよびモード.....	295
元帳仕訳の生成の対話型バージョン.....	296
仕訳の種類について.....	296
収益認識の伝票タイプ.....	296
仕訳の振替.....	297
収益認識の総勘定元帳バッチについて.....	297
収益認識と請求書処理の組合せ.....	297
収益調整.....	298
タイミングの違いの調整.....	298
収益額と請求額の不一致可の調整.....	298
契約請求行の収益と請求書作成.....	299
収益の戻し(逆仕訳).....	300
収益ワークファイルの生成.....	301
収益ワークファイルの生成プログラムについて.....	301
収益ワークファイルの生成プログラムの実行.....	301
収益ワークファイルの生成(R52120)の処理オプションの設定.....	301
仮の総勘定元帳仕訳の生成.....	302
仮の総勘定元帳仕訳について.....	302
事前設定.....	303
仕訳の生成プログラムの実行.....	303
仕訳の生成(R48132)のデータ選択の設定.....	304
仕訳の生成(R48132)の処理オプションの設定.....	304
仮の総勘定元帳仕訳の確認および改訂.....	305
仕訳編集レジスタ・レポートについて.....	305
仮の総勘定元帳仕訳のエラーについて.....	305
収益情報の削除について.....	306
事前設定.....	306
仮の総勘定元帳仕訳の確認および改訂に使用するフォーム.....	307
総勘定元帳仕訳の仕訳編集レジスタの印刷.....	307
最終の総勘定元帳仕訳の作成.....	307
最終の総勘定元帳仕訳について.....	307
最終の総勘定元帳仕訳の作成に使用するフォーム.....	308
総勘定元帳仕訳の作成(R48198)の処理オプションの設定.....	308
最終の総勘定元帳仕訳の作成.....	309
総勘定元帳バッチの転記.....	309
総勘定元帳バッチの転記について.....	309
総勘定元帳バッチの転記プログラムの実行.....	309

契約請求管理の契約収益集計テーブルの再作成.....	310
契約収益集計テーブルについて.....	310
契約収益集計テーブルの再作成プログラムの実行.....	310

第 14 章

請求書の処理.....	311
請求書処理について.....	311
この章で使用する共通フィールド.....	311
請求書の生成.....	314
請求書の維持管理と処理.....	315
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の取引の順序/集計規則.....	318
仕訳の振替.....	318
関連元帳バッチ処理.....	319
請求書の処理の伝票タイプ.....	319
請求書の生成の多通貨処理.....	320
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の自動生成.....	320
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の生成について.....	320
事前設定.....	322
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の生成プログラムの実行.....	322
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の生成のデータ選択の設定.....	322
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の生成 (R48121) の処理オプションの設定.....	323
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の自動生成.....	324
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成について.....	324
事前設定.....	326
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成プログラムの実行.....	326
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成のデータ選択の設定.....	327
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成 (R52121) の処理オプションの設定.....	327
請求書バッチの検討.....	329
請求書バッチについて.....	330
請求書バッチの検討に使用するフォーム.....	331
バッチの検討 (P48221) の処理オプションの設定.....	332
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書バッチの検討.....	333
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の検討.....	334
JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書明細の検討.....	335
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書バッチの検討.....	335
JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書明細の検討.....	335
タイム・アンド・マテリアル契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	336
単価契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	337
総額契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	338

手数料契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	338
マイルストーン契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	339
進捗契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	339
直接分割融資契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	340
率による分割融資契約請求行の請求書の集計情報の検討.....	340
請求書情報の改訂.....	341
請求書の改訂での多通貨処理について.....	341
非T&M契約請求行の請求書金額の改訂について.....	342
請求書情報の改訂に使用するフォーム.....	343
非T&M契約請求行の請求書金額の改訂.....	344
請求書情報の削除.....	344
請求書情報の削除について.....	345
新しいバッチへの請求書の移動について.....	346
ワークファイル取引の請求書支払項目からの削除について.....	346
請求書情報の削除に使用するフォーム.....	347
新しいバッチへの請求書の移動.....	347
サービス請求管理の請求書支払項目からのワークファイル取引の削除.....	348
T&M請求書支払項目からのワークファイル取引の削除.....	348
請求書情報の追加.....	349
請求書情報の手動作成について.....	350
請求書への取引の追加について.....	350
請求書情報の追加に使用するフォーム.....	351
請求書バッチの手動作成.....	352
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理のバッチへの新しい請求書の作成.....	353
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理のバッチへの新しい請求書の作成.....	354
既存のワークファイル取引の請求書への追加.....	355
既存の総勘定元帳取引の請求書への追加.....	356
アドホック・ワークファイル取引の請求書への追加.....	357
クレジット・メモの作成.....	361
クレジット・メモについて.....	361
クレジット・メモの作成に使用するフォーム.....	362
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理用のクレジット・メモの作成.....	362
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理用のクレジット・メモの作成.....	362
請求書仕訳の作成.....	363
仮の請求書仕訳について.....	363
仕訳編集レジスタについて.....	365
日付について.....	365
最終の請求書仕訳について.....	365
請求書仕訳の作成に使用するフォーム.....	367
仕訳の生成(R48131)の処理オプションの設定.....	367

仕訳編集レジスタ(R48300)の処理オプションの設定.....	368
仮の請求書仕訳の作成.....	368
請求書仕訳の仕訳編集レジスタの印刷.....	368
一時変更日付の改訂.....	369
売掛仕訳の作成(R48199)の処理オプションの設定.....	369
最終の請求書仕訳の作成.....	370
請求書バッチの転記.....	370
請求書および元帳バッチの転記について.....	370
請求書バッチの転記プログラムの実行.....	371
請求書の印刷.....	371
請求書の印刷について.....	371
請求書印刷バージョンについて.....	372
請求書のデザインについて.....	373
事前設定.....	382
請求書の印刷に使用するフォーム.....	383
請求書印刷(R48504)の処理オプションの設定.....	383
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の一時変更請求書印刷バージョンの割当.....	385
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の一時変更請求書印刷バージョンの割当.....	385
請求書の自動印刷.....	385
請求書バッチの手動印刷.....	385
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金の処理.....	386
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金について.....	386
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金のリリースについて.....	386
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金の処理に使用するフォーム.....	387
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金の再計算.....	387
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金のリリース.....	388
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金の処理.....	389
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金について.....	390
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金のリリースについて.....	390
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金の処理に使用するフォーム.....	391
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金の改訂.....	392
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金の再計算.....	393
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の契約または変更オーダーの留保金のリリース.....	393
契約請求行の留保金のリリース.....	395
請求書履歴の処理.....	395
請求書履歴について.....	395
最終請求書の無効化について.....	396
請求書履歴の処理に使用するフォーム.....	398
履歴からの請求書の印刷.....	398
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の請求書履歴の検討.....	398

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の詳細な請求書履歴の検討.....	399
契約の状況の検討.....	399
最終請求書の無効化.....	400
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金リリース請求書の無効化.....	400

第 15 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の伝票処理.....	403
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の伝票処理について.....	403
伝票バッチについて.....	405
伝票の自動生成.....	405
伝票の生成について.....	405
事前設定.....	406
伝票の生成 (R48122) の処理オプションの設定.....	406
伝票の生成の実行.....	407
伝票情報の検討.....	407
伝票情報について.....	407
伝票情報の検討に使用するフォーム.....	408
伝票情報の削除.....	408
伝票情報の削除について.....	408
伝票支払項目からのワークファイル取引の削除について.....	409
伝票情報の削除に使用するフォーム.....	410
伝票支払項目からのワークファイル取引の削除.....	410
伝票仕訳の作成.....	410
仮の伝票仕訳について.....	410
最終の伝票仕訳について.....	412
事前設定.....	413
伝票仕訳の作成に使用するフォーム.....	413
仮の伝票仕訳の生成.....	413
伝票仕訳の仕訳編集レジスタの印刷.....	413
買掛仕訳の作成 (R48197) の処理オプションの設定.....	413
最終の伝票仕訳の生成.....	413
伝票バッチの転記.....	414
伝票バッチの転記について.....	414
伝票バッチの転記プログラムの実行.....	414

第 16 章

制御レポートの確認.....	415
制御レポートについて.....	415

制御レポート.....	415
ワークファイル制御レポート.....	415
ワークファイル履歴制御レポート.....	419
元帳リンクから取引明細への制御レポート.....	424
取引明細から元帳リンクへの制御レポート.....	424
ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート.....	425
元帳リンクからワークファイルへの制御レポート.....	426
請求書集計からワークファイルへの制御レポート.....	427
請求書集計から売掛金元帳への制御レポート.....	428
売掛金元帳から請求書集計への制御レポート.....	429
制御レポートの実行.....	429
請求書集計からワークファイルへの制御レポート(R48S751)の処理オプションの設定.....	429

付録 A

請求明細ワークファイル(F4812)のフィールドの取得.....	431
請求明細ワークファイルによって使用されるテーブル.....	431
請求明細ワークファイルのフィールド・ソース.....	432

付録 B

JD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneへの契約/サービス請求管理のアップグレード.....	449
アップグレード・パスについて.....	449
事前設定.....	451
JD Edwards WorldバージョンA7.3からの契約/サービス請求管理テーブルのアップグレード.....	452
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4805の変換について.....	452
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48051の変換について.....	452
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48091の変換について.....	453
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48096の変換について.....	456
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812の変換について.....	458
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812Hの変換について.....	472
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4822の変換について.....	485
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48520の変換について.....	493
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4860の変換について.....	495
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4861の変換について.....	496
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4862の変換について.....	497
JD Edwards WorldバージョンA7.3からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード.....	498
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48127の変換について.....	498
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48128の変換について.....	499
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48221の変換について.....	501

JD Edwards WorldバージョンA7.3からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード.....	502
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5201の変換について.....	502
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5202の変換について.....	508
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5204の変換について.....	515
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5212の変換について.....	516
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5213の変換について.....	518
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52131の変換について.....	520
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5214の変換について.....	521
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5215の変換について.....	522
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5216の変換について.....	524
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52161の変換について.....	527
A7.3テーブル変換プログラムの実行.....	529
JD Edwards Worldバージョン8.1からの契約/サービス請求管理テーブルのアップグレード.....	529
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4805の変換について.....	529
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48051の変換について.....	530
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48091の変換について.....	531
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48096の変換について.....	534
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812の変換について.....	536
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812Hの変換について.....	552
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4822の変換について.....	568
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48520の変換について.....	578
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4860の変換について.....	581
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4861の変換について.....	582
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4862の変換について.....	583
JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード.....	584
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48127の変換について.....	584
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48128の変換について.....	585
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48221の変換について.....	587
JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード.....	589
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5201の変換について.....	589
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5202の変換について.....	595
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5204の変換について.....	602
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5212の変換について.....	603
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5213の変換について.....	605
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52131の変換について.....	607
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5214の変換について.....	608
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5215の変換について.....	609
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5216の変換について.....	611
A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52161の変換について.....	614
A7.3テーブル変換プログラムの実行.....	616

JD Edwards Worldバージョン8.1からの契約/サービス請求管理テーブルのアップグレード.....	616
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4805の変換について.....	616
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48051の変換について.....	617
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48091の変換について.....	618
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48096の変換について.....	621
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812の変換について.....	623
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812Hの変換について.....	639
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4822の変換について.....	655
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48520の変換について.....	665
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4860の変換について.....	668
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4861の変換について.....	669
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4862の変換について.....	670
JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード.....	671
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48127の変換について.....	671
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48128の変換について.....	672
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48221の変換について.....	674
JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード.....	676
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5201の変換について.....	676
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5202の変換について.....	682
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5204の変換について.....	689
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5212の変換について.....	690
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5213の変換について.....	692
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52131の変換について.....	694
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5214の変換について.....	695
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5215の変換について.....	696
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5216の変換について.....	698
A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52161の変換について.....	702
A8.1テーブル変換プログラムの実行.....	704

付録 C

JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理レポート.....	705
JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理のすべてのレポート.....	705
制御レポート.....	707
JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理の主なレポート.....	708
R48096B - 請求料金/割増テーブル一覧.....	708
R48127 - 税決定基準テーブル一覧.....	709
R48128 - 相手勘定/留保金テーブル一覧.....	709
R48405 - ワークファイルの印刷.....	709
ワークファイルの印刷 (R48405) の処理オプション.....	710

R4860 – 追加料金テーブル一覧.....	710
R48S412 – ワークファイル取引例外レポート.....	710
R48S496 – 失効予定の請求料金/割増テーブル.....	711
失効予定の請求料金/割増テーブル(R48S496)の処理オプション.....	711
R48S95 – 請求AAIテーブル一覧.....	711
請求AAIテーブル一覧(R48S95)の処理オプション.....	712
R48TW – ワークファイル合計レポート.....	712
R5201 – 契約の印刷.....	712
契約の印刷(R5201)の処理オプション.....	712
R52412 – 契約別ワークファイル取引.....	713
R52425 – 契約履歴レポート.....	713
契約履歴レポート(R52425)の処理オプション.....	714
JD Edwards EnterpriseOne用語集.....	715
索引	731

この PeopleBook について

JD Edwards EnterpriseOne製品ガイドでは、オラクル社のJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの導入と使用に必要な情報が提供されています。

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件
- アプリケーションの基礎
- 最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード
- 追加情報
- 表記規則
- ご意見、ご要望について
- 製品ガイドで使用する共通フィールド

注意: 製品ガイドでは、追加の説明が必要な場合のみ、フィールドやチェックボックスなどの説明を記載しています。処理や業務の説明箇所に、そこで使用されるフィールドの説明がない場合は、追加の説明が必要ないか、または、項、章、製品ガイド全体、製品ライン全体で使用される共通フィールドとして説明されています。すべてのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションで共通して使用されるフィールドは、この章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOneアプリケーション導入の事前要件

このガイドの内容を十分に理解して活用するには、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションの基本的な使い方を熟知している必要があります。

また、少なくとも1つの入門トレーニング・コースを修了することをお薦めします。

この製品ガイドでは、ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneのメニューやフォーム、ウィンドウを使用して、アプリケーションを操作したり、情報を追加、更新、削除したりできることを前提としています。また、Webブラウザと、Microsoft WindowsまたはWindows NTの操作に習熟していることも必要です。

これらの製品ガイドでは、JD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを効果的に導入および使用するために必要な情報を提供します。そのため、アプリケーションの操作手順など基本的な説明は省略されています。

アプリケーションの基礎

各アプリケーションの製品ガイドでは、それぞれのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションを導入して使用するための情報を提供しています。

一部のアプリケーションでは、システムの設定や設計に必要な基本情報は、このガイドの姉妹編ともいえるアプリケーションの基礎製品ガイドに記載されています。ほとんどの製品ラインには、アプリケーションの基礎製品ガイドが用意されています。それぞれの製品ガイドのまえがきの章に、関連するアプリケーションの基礎製品ガイドの情報が記載されています。

アプリケーションの基礎製品ガイドで取り上げている項目は、どのJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションにも当てはまる、あるいはその多くに共通する重要なものです。JD Edwards EnterpriseOneシステムを導入する際は、製品ラインの中から1つのアプリケーションだけを導入する場合でも、いくつかのアプリケーションを組み合わせで導入する場合でも、あるいは製品ライン全体を導入する場合でも、アプリケーションの基礎製品ガイドに書かれている内容を十分に理解しておく必要があります。このガイドの内容が、アプリケーションの導入に着手する出発点となります。

最新版ドキュメンテーションの入手とドキュメンテーションのダウンロード

この項では、次の方法について説明します。

- 最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）
- ドキュメンテーションのダウンロード

最新版ドキュメンテーションの入手（英語版のみ）

本リリースおよび旧リリースの最新版および追加ドキュメンテーションは、オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから入手できます。オラクル社のPeopleSoft Customer ConnectionのDocumentationセクションから、ファイルをダウンロードして製品ガイド・ライブラリに追加することができます。このセクションでは、CD-ROMで提供されているすべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションに対する更新事項など、最新かつ有益な資料が提供されます。

重要: アップグレードを行う際は、その前にオラクル社のPeopleSoft Customer Connectionサイトで、アップグレードに関する最新情報があるかどうかを確認してください。オラクル社では、アップグレード手法の向上に伴い、常に最新の情報を掲載するようにしています。

関連項目:

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection: http://www.oracle.com/support/support_peoplesoft.html

ドキュメンテーションのダウンロード

すべてのJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションは、CD-ROMで提供されているだけでなく、オラクル社のWebサイトでも提供されています。Oracle Technology Networkから、PDF版のJD Edwards EnterpriseOneドキュメンテーションをダウンロードできます。PDFファイルは、ソフトウェアの出荷後すぐにメジャー・リリース別にオンラインで提供されます。

参照: Oracle Technology Network: <http://www.oracle.com/technology/documentation/psftent.html>

追加情報

オラクル社のPeopleSoft Customer Connection Webサイトから、次の情報を入手できます。

情報	ナビゲーション
アプリケーションのメンテナンス情報	「Updates + Fixes」
ビジネス・プロセス図	「Support」、「Documentation」、「Business Process Maps」
インタラクティブ・サービス・リポジトリ	「Support」、「Documentation」、「Interactive Services Repository」
ハードウェア要件とソフトウェア要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Hardware and Software Requirements」
インストール・ガイド	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Installation Guides and Notes」
統合情報	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Implementation Documentation and Software」、「Pre-Built Integrations for PeopleSoft Enterprise and JD Edwards EnterpriseOne Applications」
最低要件	「Implement, Optimize + Upgrade」、「Implementation Guide」、「Supported Platforms」
最新版ドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」
製品ガイド・サポート・ポリシー	「Support」、「Support Policy」
プレリリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
製品出荷予定	「Support」、「Roadmaps + Schedules」
リリース・ノート	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Notes」
リリース・バリュープロポジション	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Release Value Proposition」
製品概要	「Support」、「Documentation」、「Documentation Updates」、「Category」、「Statement of Direction」
トラブルシューティング情報	「Support」、「Troubleshooting」
アップグレード関連のドキュメンテーション	「Support」、「Documentation」、「Upgrade Documentation and Scripts」

表記規則

ここでは、次の事項について説明します。

- 表記規則
- 注意事項の表示
- 国、地域、業種の表記
- 通貨コード

表記規則

製品ガイドは、次の表記規則に従って記述されています。

表記規則	説明
太字	PeopleCodeの関数名、メソッド名、言語要素や、関数呼び出しでそのまま記述すべきPeopleCodeの予約語は太字で記述しています。
斜体	PeopleCodeの構文で、プレースホルダとなる引数部分は斜体になっています。
キー+キー	キーを組み合わせる操作を示しています。キー名とキー名の間にプラス記号がある場合は、最初のキーを押しながら2番目のキーを押すという意味です。たとえば、[Alt]+[W]は、[Alt]キーを押しながら[W]キーを押すことを表します。
固定幅のフォント	PeopleCodeのプログラムや、その他のコードの例の表記には、この固定幅のフォントを使用しています。
... (省略記号)	PeopleCodeの構文で、先行要素の任意の繰り返しを示します。
{ } (中かっこ)	PeopleCodeの構文で、2つの選択肢のうちいずれか一方を選択することを示します。選択肢は縦棒()で区切られています。
[] (角かっこ)	PeopleCodeの構文で、省略できる要素を示します。
& (アンパサンド)	PeopleCodeの構文で、アンパサンドが頭に付いたパラメータはインスタンス化されたオブジェクトであることを示します。 また、PeopleCodeの変数は必ずアンパサンドが頭に付きます。

注意事項の表示

表記規則

注意

JD Edwards EnterpriseOneシステムを使って作業するときの注意事項が書かれています。

注意: 注意事項は、このような形式で示しています。

システムが正しく機能するために必ず守っていただきたい大切な事柄は、“重要:”と示されています。

重要: 重要な注意事項は、このような形式で示しています。

警告

システムの導入にあたって、特に注意しなければならない重要な事柄は、“警告:”と示されています。“警告:”と書かれた部分には十分な注意を払ってください。

警告: 警告は、このような形式で示しています。

相互参照

相互参照は、“参照”または“関連項目”という形で示しています。通常は、それぞれの説明の後に、その内容に関連する他のドキュメンテーションが示されています。

国、地域、業種の表記

特定の国、地域、業種にのみ関連する情報については、国や地域名などをかっこ書きで付記して示しています。このような国や地域の表示は、通常は項の見出しに付記されますが、注意事項などに付記されることもあります。

特定の国を対象とした見出しの例: 「(FRA)従業員の採用」

特定の地域を対象とした見出しの例: 「(中南米)減価償却の設定」

国の表記

国際標準化機構 (ISO) が定める国コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の国コード」

地域の表記

地域を表す名称で表記しています。以下に例を示します。

- アジア太平洋
- ヨーロッパ
- 中南米
- 北米

業種の表記

業種を表す名称か略称を使用して表記しています。以下に例を示します。

- USF (米国連邦政府)
- E&G (教育/公的機関)

通貨コード

金額はISOが定める通貨コードを使って表記しています。

参照: この PeopleBook について、「ISO標準の国コードおよび通貨コード」、「ISO標準の通貨コード」

ご意見、ご要望をお寄せください

お客様のご意見は非常に貴重です。製品ガイドおよびその他のオラクル社の参考資料やトレーニング・ガイドについて、変更のご希望がございましたら、ぜひご一報ください。日本オラクル株式会社WPTG-Japanのランゲージ・マネージャまで、ご意見、ご要望をお寄せください(宛先: 〒107-0061 東京都港区北青山2-5-8 オラクル青山センター)。電子メール(etsjpn_us@oracle.com)でも受け付けております。

いただいた電子メールすべてにご返答のできない場合もありますが、弊社では皆様のご意見やご要望に留意し、貴重な情報として今後の参考にさせていただきます。

製品ガイドで使用する共通フィールド

住所録番号	エンティティのマスター・レコードを識別する固有の番号を入力します。住所録番号は、顧客、仕入先、会社、従業員、応募者、加入者、テナントなどのIDとして使用できます。アプリケーションによっては、フォーム上の住所録番号フィールドが、顧客番号、仕入先番号、会社番号、従業員ID、応募者ID、加入者番号などに相当する場合があります。
仮定通貨コード	取引金額の表示に使用される通貨を指定する3文字のコードを入力します。このコードを指定することにより、取引の入力時に実際に使用された通貨ではなく、指定した通貨に基づいて取引金額を参照することができます。
バッチ番号	システムによって処理される取引のグループを識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーがバッチ番号を割り当てるか、または自動採番プログラム(P0002)を使用して自動的に割り当てることができます。
バッチ日付	バッチが作成される日付を入力します。このフィールドを空白のままにすると、システム日付がバッチ日付として使用されます。
バッチ状況	<p>バッチの転記状況を示すユーザー定義コード(UDC)テーブル(98/IC)のコードが表示されます。値は次のとおりです。</p> <p>空白: バッチは転記されず、承認が保留状態になります。</p> <p>A: バッチにエラーがなく転記が承認されますが、保留状態でまだ転記されていません。</p> <p>D: バッチが正常に転記されています。</p> <p>E: バッチにエラーが発生しました。転記の前にエラーを修正する必要があります。</p>

	<p>P: バッチの転記処理中です。転記処理が完了するまで、バッチにアクセスすることはできません。転記中にエラーが発生した場合は、バッチ状況コードがEに変更されます。</p> <p>U: 別のユーザーがバッチを操作中のため一時的に使用できないか、またはバッチの処理中に停電があったため、バッチが使用中と認識されています。</p>
事業所	倉庫、作業、プロジェクト、作業場、支店、工場など、配送業務や製造業務が行われる場所や単位を表すコードを入力します。システムによっては、ビジネスユニットと呼ばれる場合もあります。
ビジネスユニット	原価のトラッキング対象となる個々の事業単位を表す英数字のコードを入力します。システムによっては、事業所と呼ばれる場合もあります。
カテゴリ・コード	特定のカテゴリ・コードを表すコードを入力します。カテゴリ・コードはユーザー定義コードの1つで、各組織の情報追跡(トラッキング)やレポートの要件に合わせてカスタマイズできます。
会社	特定の企業、組織、団体などを識別するコードを入力します。会社コードはF0010テーブルにすでに存在しており、完全な貸借対照表を持つ法人に対応する必要があります。
通貨コード	取引の通貨を表す3文字のコードを入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、国際標準化機構(ISO)が定める通貨コードを使用しています。通貨コードは、F0013テーブルに定義されています。
伝票会社	<p>伝票に関連付けられている会社番号を入力します。この番号は、伝票番号、伝票タイプ、元帳日付とあわせて使用され、当初伝票を一意に識別します。</p> <p>会社と会計年度別に次の番号を割り当てる場合は、伝票会社に基づいて、該当する会社に正確な“次の番号”が割り当てられます。</p> <p>2つ以上の当初伝票が同じ伝票番号と伝票タイプを持つ場合は、伝票会社を使用して必要な伝票を表示できます。</p>
伝票番号	伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなどの当初伝票を識別する番号が表示されます。入力フォームでは、ユーザーが当初伝票番号を割り当てるか、または自動採番プログラムを使用して自動的に割り当てることができます。
伝票タイプ	<p>ユーザー定義コード・テーブル(00/DT)に定義された、取引の発生元と目的を表す2文字のユーザー定義コード(伝票、請求書、仕訳、タイム・シートなど)を入力します。JD Edwards EnterpriseOneでは、伝票タイプ用に次のプレフィックスが予約されています。</p> <p>P: 買掛金伝票</p> <p>R: 売掛金伝票</p> <p>T: 時間および給与伝票</p> <p>I: 在庫伝票</p> <p>O: 購買オーダー伝票</p> <p>S: 受注オーダー伝票</p>
有効日付	住所、品目、取引、またはレコードがアクティブになる日付を入力します。このフィールドの意味は、プログラムによって異なります。たとえば、有効日付で次の日付を表すことができます。

- 住所の変更が有効になる日付
- 賃貸契約が有効になる日付
- 価格が有効になる日付
- 為替レートが有効になる日付
- 税率が有効になる日付

会計期間、会計年度

元帳で使用される会計期間および会計年度を示す数値を入力します。多くのプログラムでは、このフィールドを空白のままにできます。その場合、会社名および番号プログラム(P0010)で定義された現在の会計期間と会計年度が使用されます。

元帳日付

取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。取引で入力した日付と会社に割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号と会計年度が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理 – まえがき

この章では、次の内容について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 製品
- JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

JD Edwards EnterpriseOne 製品

この製品ガイドには、オラクル社の次の JD Edwards EnterpriseOne 製品が関連しています。

- JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理
- JD Edwards EnterpriseOne 一般会計
- JD Edwards EnterpriseOne Payroll
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理
- JD Edwards EnterpriseOne サービス管理
- JD Edwards EnterpriseOne 時間会計
- JD Edwards EnterpriseOne Project and Government Contract Accounting

JD Edwards EnterpriseOne アプリケーションの基礎

システムの設定や設計に必要な基本情報は、このドキュメンテーションの姉妹編とも言える『JD Edwards EnterpriseOne Financial Management アプリケーションの基礎 9.0 製品ガイド』に記載されています。

JD Edwards EnterpriseOne の最低要件に記載されているとおりに、リリースでサポートされているプラットフォームに準拠する必要があります。また、JD Edwards EnterpriseOne は、オラクル社の他の製品と統合、連結または連携する場合があります。オラクル社の様々な製品の互換性を確保するため、プログラムの事前設定やバージョンの相互参照マニュアルについて <http://oracle.com/contracts/index.html> のプログラム・ドキュメンテーションにある相互参照資料を参照してください。

第 1 章

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理 – はじめに

この章では、JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理の概要と、次の項目について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理のビジネス・プロセス
- JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理の統合
- JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理の導入

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理の概要

オラクル社の JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理では、提供したサービスおよび商品に対する請求書を発行できます。JD Edwards 契約/サービス請求管理には、部門間振替と顧客請求の両方に対応する高度な機能が備えられています。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理

それぞれのサービス請求処理は、顧客とサービス業者の間の契約によって開始されます。顧客は製品またはサービスを要求します。会社は、サービス業者として、提供した製品またはサービスの対価を顧客に請求します。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理システムを使用すると、次の処理を実行できます。

- 商品やサービスの原価の計上
- 収益計上のための原価の精算
- 提供した商品とサービスの料金請求
- 費用の請求事由を示す証明書の提供
- 商品とサービスの仕訳作成

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理

それぞれの契約請求処理は、顧客とサービス業者（外注業者）の2者間の契約によって開始されます。顧客、つまり作業またはプロジェクトの所有者は、製品またはサービスを要求します。会社は、サービス業者として、契約に基づいて提供した製品またはサービスの対価を顧客に請求します。契約では作業に対する請求条件が定められ、顧客に請求書を送付して支払を求める基礎となります。契約は、時間の経過に伴う顧客のニーズの変化に応じて修正できます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムでは、請負契約の条件に基づいて請求書を作成できます。また、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムでは、当初の契約に対する複数の変更オーダー(改訂)の並行請求もサポートされています。

それぞれの契約には次の項目が含まれています。

- 次のような契約の請求条件
 - タイム・アンド・マテリアル(T&M)、総額、単価などの請求タイプ
 - 予定値に基づく請求額
 - 当初の契約に対する修正条項および変更オーダー
 - 請求に使用する通貨
- 請求先の顧客に関する次のような情報
 - 請求書宛名
 - 支払条件
 - 値引条件

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムを使用すると、次の処理を実行できます。

- 商品やサービスのT&Mに関連する原価の計上
- 収益計上のための原価の精算
- 手数料の計算
- 契約の条件に基づく請求
- 費用の請求事由を示す証明書の提供
- 契約請求金額に対する会計仕訳の作成

契約請求管理とサービス請求管理の比較選択

サービス請求管理は、多くの場合、短期間の契約および大量の小規模な作業に使用されます。サービス請求管理には次の機能があります。

- タイム・アンド・マテリアル(T&M)の原価に対する請求書の生成
- サービス管理取引に対する請求書の生成

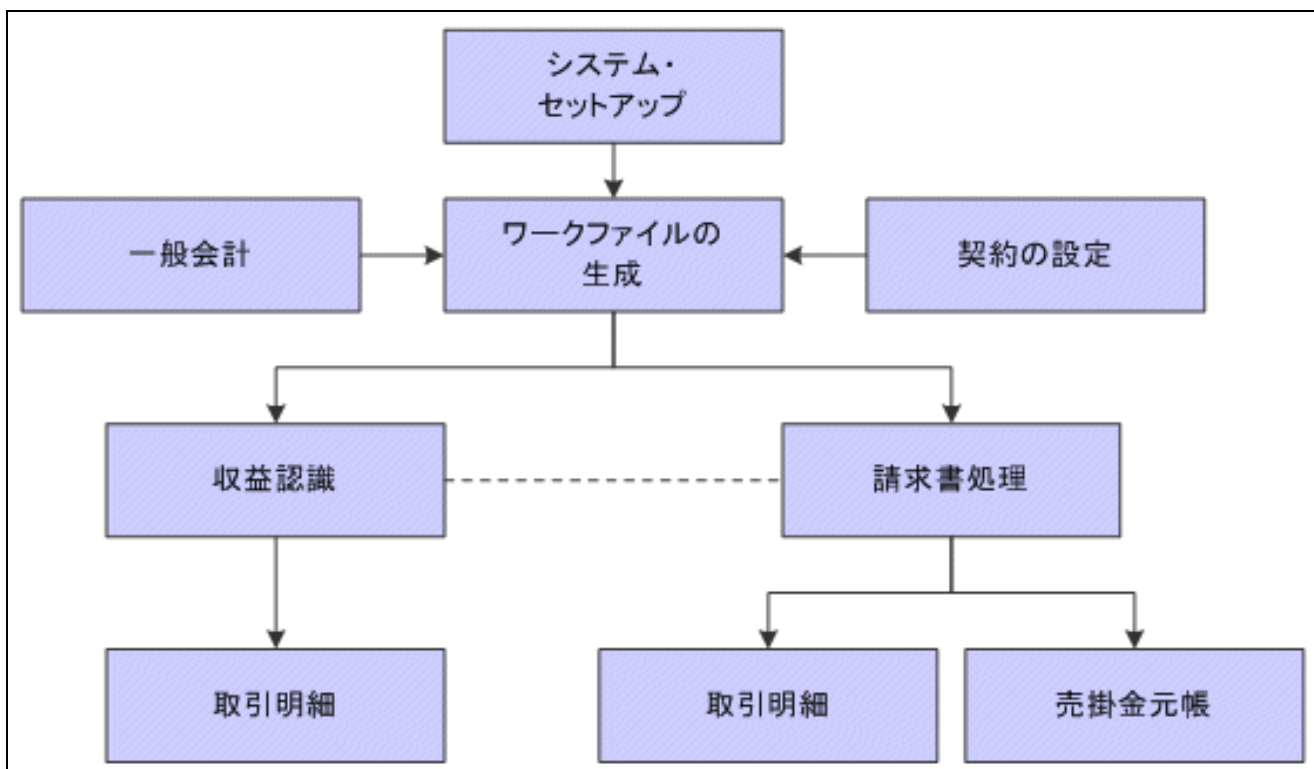
契約請求管理は、サービス請求管理で使用するものと同じ処理およびテーブルを数多く使用しますが、サービス請求管理では使用できない処理およびテーブルを使用する追加的な機能があります。

契約請求管理は、多くの場合、長期間の契約および長期のプロジェクトに使用され、次の機能があります。

- 非T&Mの原価に対する請求書の生成
- 定期的な固定金額の請求
- 請求の制限
- 最小請求金額

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のビジネス・プロセス

次のフローチャートは、JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のビジネス・プロセスを示しています。

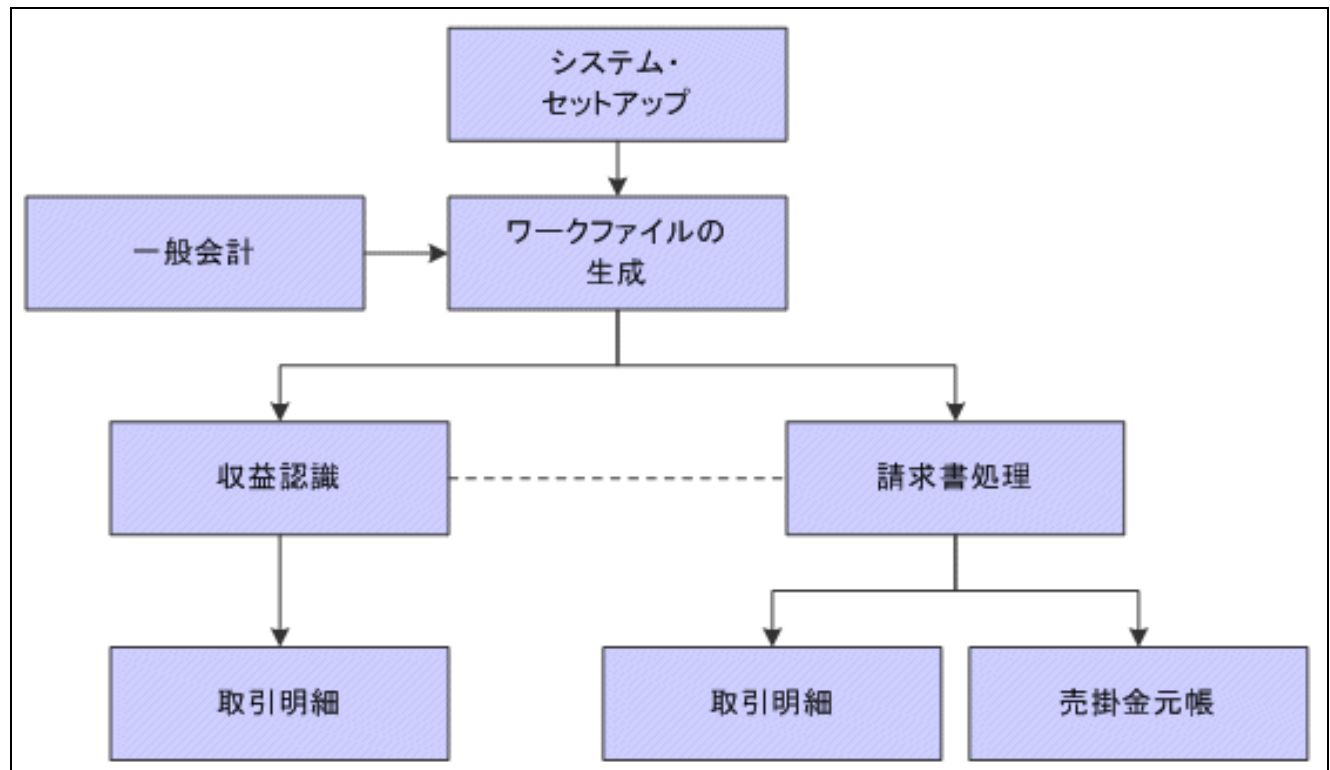


契約請求管理のプロセス・フロー

これらのビジネス・プロセスについては、この製品ガイドの各ビジネス・プロセスの章で説明します。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理のビジネス・プロセス

次のフローチャートは、JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理のビジネス・プロセスを示しています。

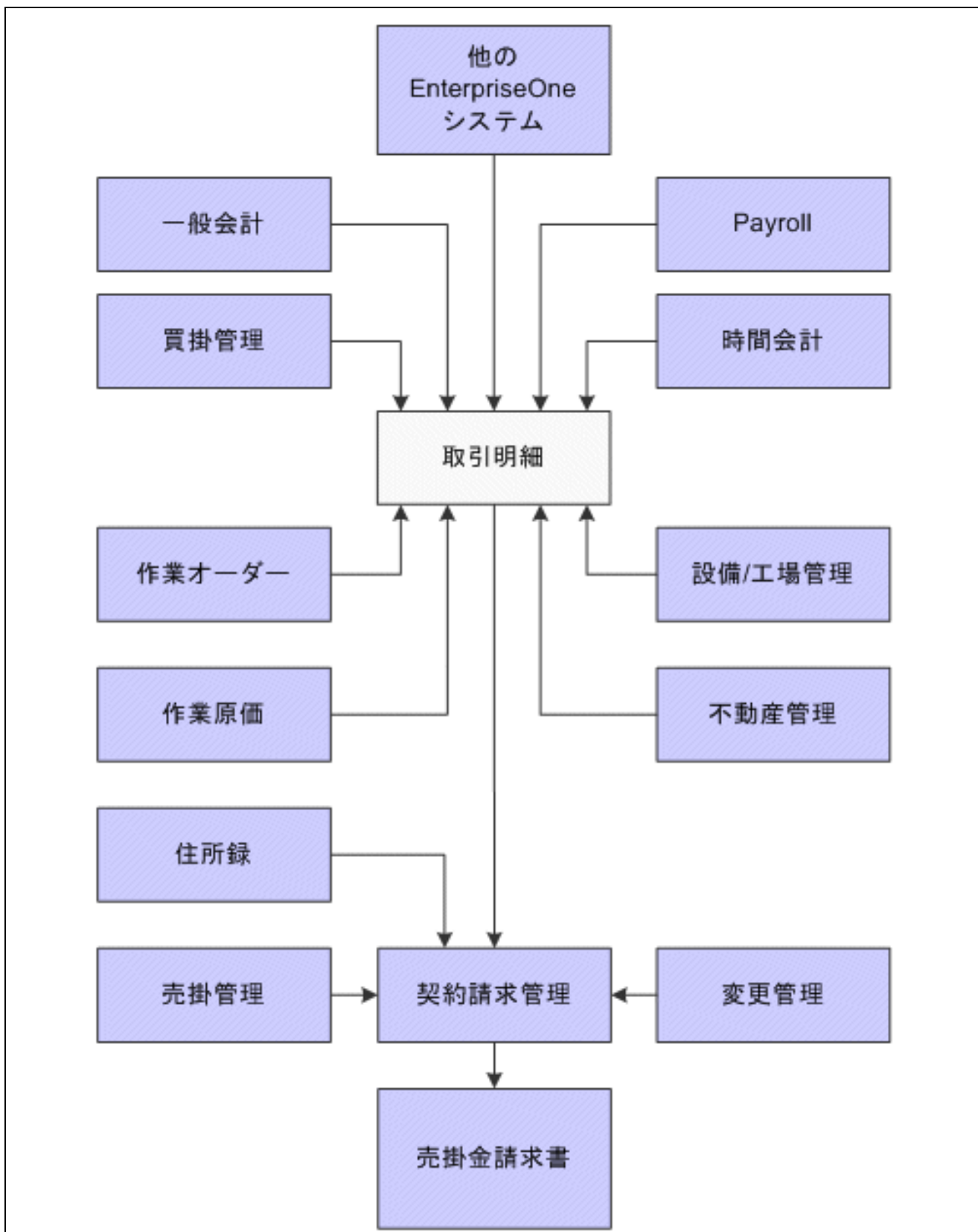


注意: JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理には、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理取引の伝票を処理する機能も備えられています。

これらのビジネス・プロセスについては、この製品ガイドの各ビジネス・プロセスの章で説明します。

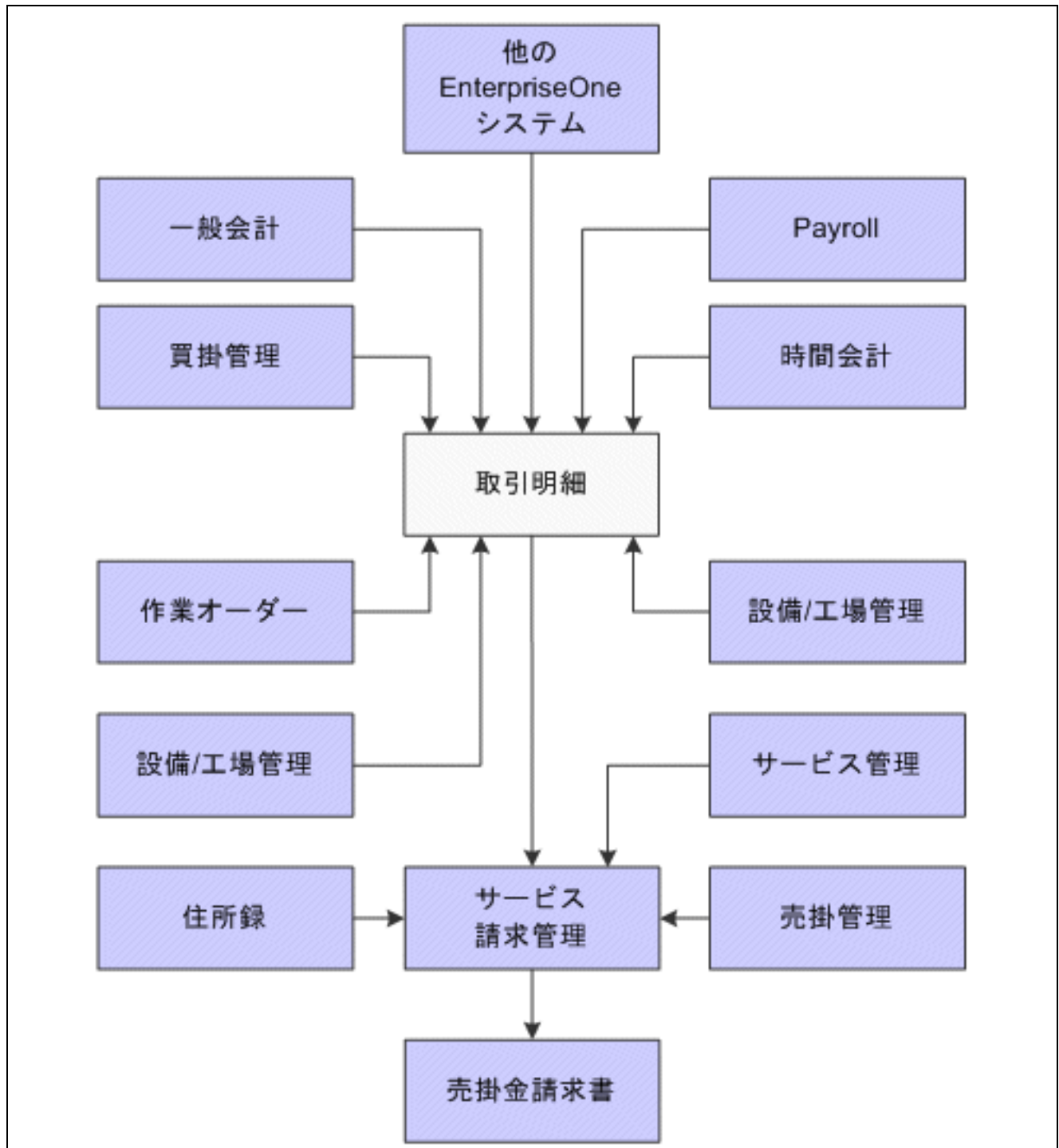
JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理の統合

次の図は、JD Edwards EnterpriseOneシステムのJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理との統合を示しています。



JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の統合

次の図は、JD Edwards EnterpriseOneシステムのJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理との統合を示しています。



JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の統合

JD Edwards EnterpriseOne一般会計

請求管理システムでは、勘定科目マスター(F0901)の情報と取引明細テーブル(F0911)の取引を使用して、各取引が請求管理システムで処理する対象となるかどうかを判断します。

勘定科目マスターの請求可能 (Y/N) フィールド、および請求固定情報プログラム (P48091) の「仕訳作成の制御」オプションに対して選択したモードに基づいて、適格性コードがワークファイル取引に割り当てられます。

JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理

請求管理システムでは、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムに記録した原価トランザクションを累計します。請求管理システムでは、取引明細テーブル (F0911) の買掛取引からの情報を使用して、次の項目を識別します。

- 仕入先番号
- 仕入先請求書番号
- 仕入先サービス日付
- 実績金額
- 担当 (管轄) ビジネスユニット
- 作業オーダー番号

また、JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理を JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理と統合することによって、支払受領後支払処理をサポートすることもできます。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理

請求管理システムでは、顧客マスター (F0301) を使用して次の項目を識別します。

- 支払条件
- 税目、税率および税域
- 元帳クラス

請求を生成した後、請求書情報を売掛金元帳テーブル (F03B11) に転記します。顧客の支払を受領した後、この支払で顧客の売掛金勘定を消し込みます。

また、JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理を JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理と統合することによって、支払受領後支払処理をサポートすることもできます。

JD Edwards EnterpriseOne Payroll および時間会計

給与計算に基づく原価には次のものがあります。

- 従業員に対する、控除前の実際の支払金額および実際作業時間数
- 間接労務費の実績または固定 (見積) 金額
- 従業員に対する割増労務費請求配賦金額および関連時間数
- 従業員が設備を使用した実績時間数と設備の請求料金
- 労務費および設備配賦用の勘定科目番号

給与計算情報は毎日処理したり、給与計算サイクルに基づいて処理できます。JD Edwards EnterpriseOne Payroll システムでは、次のテーブルを更新します。

- 従業員トランザクション明細ファイル (F06116)
- 従業員トランザクション履歴 (F0618)
- 間接費配賦 (F0724 および F07241)
- 取引明細 (F0911)

請求管理システムでは、取引明細テーブル内の取引を処理し、次に、従業員トランザクション履歴テーブルおよび従業員トランザクション明細ファイル・テーブルから給与情報を取得します。その後、関連するワークファイル取引が請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に作成されます。次の伝票タイプによって識別される取引が取得されます。

- T2 - 給与労務費配賦
- T3 - 間接労務費配賦
- T4 - 労務費請求配賦
- T5 - 設備配賦

間接労務費配賦取引(T3)は、対応する給与労務費配賦取引(T2)に常にリンクされます。間接労務費は、会社で従業員を雇用したことによって発生する、賃金以外の原価です。これらの原価には、税および保険料が含まれる場合があります。請求書の固定情報の設定に従い、これらの間接費取引は、請求明細ワークファイル・テーブル内の関連する労務費取引とともに処理される場合があります。

間接労務費は、次の要素を使用して計算できます。

- 従業員に対する、間接費レートおよびパーセントと従業員の実際の時間数および賃率
- 固定(見積)間接労務費のパーセント

通常の給与計算サイクル中に、固定間接労務費と実績間接労務費をシステムで計算できます。給与計算サイクルを完了することなく給与計算の仕訳を毎日処理する場合は、固定間接費配賦のみが計算されます。

請求管理システムによって給与計算情報が処理された後、給与計算トランザクション履歴テーブルまたは従業員トランザクション明細ファイル・テーブル内のトランザクションが更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne作業オーダー

作業オーダーを使用すると、プロジェクトの原価を分類できます。取引明細テーブル(F0911)内の取引に、補助元帳タイプがWの補助元帳番号が含まれている場合は、作業オーダー情報が存在します。請求対象の作業オーダーの情報は、その作業オーダーの状況が“請求対象”になっている場合、T&M取引の割増、税および勘定規則に影響を及ぼします。

JD Edwards EnterpriseOne設備/工場管理

職務、作業およびプロジェクトには、設備を使用する場合があります。たとえば、警備員が会社所有のトラックを使用して、オフィス・ビルの敷地をパトロールする場合、警備会社とビル管理会社の間の契約には、警備員がトラックを使用する時間に対する、時間ごとの請求レートに関する条項が含まれます。

また、別の例として、作業現場で重い資材を移動するためにクレーンを使用する場合をあげることができます。業者と顧客の間の契約には、プロジェクトのためにクレーンを使用する時間に対する、時間ごとの請求レートに関する条項が含まれます。

請求管理システムでは、JD Edwards設備/工場管理システムで作成され、伝票タイプがTEである、これらのタイプの取引を処理します。設備取引を処理する場合、請求管理システムでは次の項目を使用します。

- 請求の対象となる設備を識別するための設備番号
- 従業員がその設備を使用した時間数

JD Edwards EnterpriseOne 不動産管理

JD Edwards 不動産管理システムでは、テナントの要求に応じて賃貸状況の改善を管理するための作業オーダーを入力できます。テナント作業オーダーには、作業を追跡するために必要となる、賃貸契約番号、建物、区画情報を入力します。補助元帳としてテナント作業オーダーを参照する、取引明細テーブル(F0911)内のすべての請求原価は、請求管理システムを通じて処理することによって、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理に渡すことができます。

JD Edwards EnterpriseOne サービス管理

JD Edwards EnterpriseOne サービス管理システムでは、サービス契約とサービス・オーダーの請求書の生成および印刷に使用するため、ワークファイル取引を書き出すことができます。これにより、JD Edwards サービス管理の請求対象サービスと、サービス請求管理製品内の標準の請求対象サービスを、1つの請求書に結合できます。

また、JD Edwards サービス管理では、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムで伝票を作成することをサポートするために、ワークファイル取引を書き出すこともできます。これらの伝票は、組織外で作業を実行したサービス業者に対して支払われる保証請求を表します。

JD Edwards EnterpriseOne 住所録

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理システムでは、住所録番号を使用して次の項目を識別します。

- 請求書の宛先となる個人、会社または事業所の名前
- 請求書郵送先住所

JD Edwards EnterpriseOne Project and Government Contract Accounting

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のプログラムの多くは、JD Edwards EnterpriseOne Project and Government Contract Accounting (PGCA) の、請求行の設定、収益認識、請求書の処理に使用される処理をサポートしています。

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理の導入

この項では、JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理システムの導入に必要な手順の概要を説明します。

導入の計画段階では、インストール・ガイドやトラブルシューティング情報など、JD Edwards EnterpriseOne に関して提供されるすべての情報を活用してください。『この製品ガイドについて』のまえがきの章では、参考となるリソースの一覧が提供されています。また、各リソースの最新バージョンの掲載場所についても記載があります。

参照: この製品ガイドについて

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理について、どの ESU (電子ソフトウェア更新) をインストールするかを決める際は、EnterpriseOne and World Change Assistant を使用します。Java ベースのツールである EnterpriseOne and World Change Assistant を使用すると、必要となる ESU を検索してダウンロードするためにかかる時間を 75% 以上削減できます。さらに、複数の ESU を一度にインストールすることも可能です。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Software Update Guide

グローバル導入の手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理のグローバル導入の推奨手順を示します。

手順	参照
1. 会計期間パターン、会社およびビジネスユニットを設定します。	
2. 勘定科目を設定します。	
3. 一般会計固定情報を設定します。	
4. 通貨コードや為替レートなどの多通貨処理を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」 JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「為替レートの設定」
5. 元帳タイプ規則を設定します。	
6. 住所録レコードを入力します。	

契約/サービス請求管理の導入手順

次の表に、JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理のアプリケーション別の推奨導入手順を示します。

手順	参照
1. 請求管理システムの請求固定情報およびUDCを設定します。	<u>第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、11ページ</u>
2. 請求料金/割増規則、税決定規則、相手勘定/留保金規則、請求管理システムのAAI(自動仕訳)、および追加料金規則を設定します。	<u>第 3 章、「テーブル情報の設定」、33ページ</u>
3. 間接費を設定します(省略可)。	
4. 順序/集計規則、請求書印刷バージョンの相互参照、および請求書フォーマットを設定します。	<u>第 4 章、「請求書処理の設定」、83ページ</u>

第 2 章

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定

この章では、設定要件と多通貨設定の概要および次の方法について説明します。

- 請求固定情報の設定
- ユーザー定義コードの設定

注意: これは必須の章です。JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理を導入する際は、この章で説明する作業を完了する必要があります。

関連項目:

第 3 章、「テーブル情報の設定」、33 ページ

第 4 章、「請求書処理の設定」、83 ページ

設定要件について

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理および JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理を使用するには、請求処理で使用する固定情報および規則をあらかじめ定義しておく必要があります。請求固定情報および規則で定義する情報によって、次の項目が指定されます。

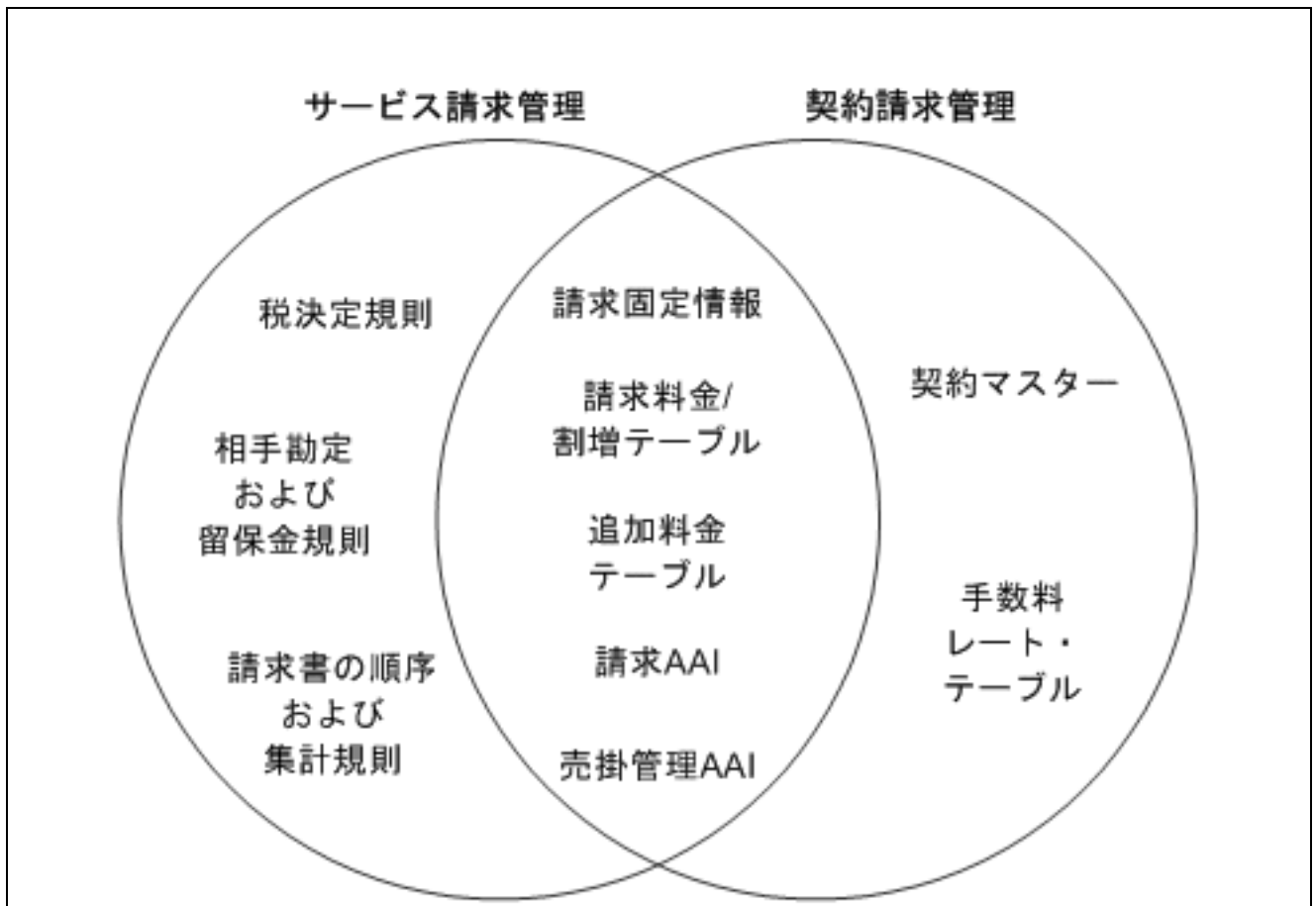
- 請求制御、追加料金連結、遡及調整グループ (RAG) および契約レコードに割り当てる番号を決定する方法
- 日付 (サービス/税日付、元帳日付、様々な有効日付など) を請求 AAI (自動仕訳)、割増規則および税決定規則と組み合わせて使用し、ソース取引を処理する方法
- 請求 AAI を使用して仕訳を作成する方法
- JD Edwards EnterpriseOne Payroll システムおよび時間会計システムからの請求対象取引を処理する方法

次の表は、JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理および JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の設定機能を示しています。

設定機能	説明
請求固定情報	<p>次の項目の一括処理を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 請求原価 • 顧客情報 • 日付 • 請求書 • 仕訳 • デフォルト割増
自動採番	<p>次のレコードに対して使用する自動採番をシステム・コード48で指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 請求制御番号 • 追加料金連結 • RAG番号 <p>契約番号レコードに対して使用する自動採番をシステム・コード52で指定します。</p> <p>自動採番は、自動採番プログラム (P0002) で設定します。</p>
請求料金/割増規則	<p>間接費および利益を計上するために原価に追加する金額の計算を定義します。</p>
請求AAI	<p>請求、収益認識および再配賦の仕訳トランザクションを処理するために使用される勘定規則を定義します。</p>
追加料金規則	<p>金額と数量に基づく追加割増を定義します。割増規則ではこの情報を使用して、追加割増を定義します。</p>
相手勘定/留保金規則	<p>次の項目を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 売掛管理情報の転記中に相手勘定入力を作成される勘定科目 • 作業が完了するまで留保される請求書金額のパーセント <hr/> <p>注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、相手勘定/留保金規則は使用されません。</p>
税決定規則	<p>次の項目を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 課税対象となるソース取引 • 税率および共通の税率が割り当てられる地域 <hr/> <p>注意: 契約請求管理では、税決定規則は使用されません。</p>

設定機能	説明
AAI	会計情報と総勘定元帳の関係を定義します。
ユーザー定義コード	追加料金コードや調整理由など、システム用のカスタム・コードを定義します。
順序/集計規則	請求書に表示される取引情報の順序を設定し、集計する方法を定義します。 注意: 契約請求管理では、順序/集計規則は使用されません。

次の図は、JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理とサービス請求管理の設定の相違を示しています。



サービス請求管理と契約請求管理の設定要素

多通貨設定について

国際的な顧客ネットワークを確立するには、多通貨について理解することが不可欠です。多通貨の概念は、請求管理システムによる多通貨取引の処理方法を理解するために役立ちます。

ここでは、次の事項について説明します。

- 通貨モード
- 固定金額および非固定金額
- 請求用通貨モード
- 多通貨取引

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド

通貨モード

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理システムでは、外貨モードまたは国内通貨モードを選択する必要があります。モードによって、請求管理システムでの金額の計算および格納方法が管理されます。モードは固定情報における一括制御であり、すべての固定情報の場合と同様に、設定後は変更しないでください。

固定金額および非固定金額

「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションの値がYまたはZであり、取引に2つの通貨がある場合、JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理システムでは、金額は両方の通貨で計算および格納されます。国内通貨金額のフィールドには、常に、作業が属する会社の通貨で金額が表示されます。外貨金額のフィールドには、常に、顧客通貨で金額が表示されます。ただし、これらの設定を契約マスター (F5201) で一時変更していない場合にかぎり (契約請求管理のみ)、請求固定情報で指定した通貨モードに基づいて、これらの通貨のいずれかが固定として定義されている必要があります。固定通貨がワークファイル取引の制御通貨になり、システムによって管理されます。固定金額は静的なままですが、非固定金額は通貨の変動によって影響を受けます。

請求用通貨モード

請求用に、会社は顧客との請求関係を管理するために使用する通貨を決定する必要があります。たとえば、会社が米国にあり、国内通貨として米ドル (USD) を使用しているとします。販売担当者がカナダで新規プロジェクトを契約しますが、顧客はすべての請求書をカナダ・ドル (CAD) で受け取ることを希望しています。為替レートの変動に関係なく、特定のサービスについて顧客はCADのレートに同意しています。この特定の例では、外貨モードで請求管理システムを使用できます (外貨金額は固定です)。逆に、顧客の通貨に関係なく取引のほとんどをUSDで交渉する場合は、請求管理システムを国内通貨モードに設定できます (国内通貨金額は固定です)。

多通貨取引

多通貨環境では様々な通貨で取引を作成できます。発生元の入力の通貨に関係なく、ワークファイルの生成プログラム (R48120) および会計取引の選択プログラム (P48124) によって取引明細テーブル (F0911) のAA (実績金額) 元帳から原価金額が取得され、この値がワークファイルの国内原価のフィールドに配置されます。

これに対し、JD Edwards EnterpriseOne Payroll エントリは従業員トランザクション履歴テーブル (F0618) から取得されます。従業員には所属ビジネスユニットの通貨で支払われます。この通貨は、請求対象の作業または作業オーダーの通貨および顧客の通貨と比較されます。

たとえば、作業の通貨がUSD、顧客の通貨がフランス・フラン (FRF)、所属ビジネスユニットの通貨がUSDの場合、F0618テーブルから原価金額 (USD) が国内原価金額として使用され、外貨金額が換算されます。逆に、所属ビジネスユニットがFRFの場合、F0618テーブルから原価金額 (FRF) が外貨原価金額として使用され、国内通貨金額が換算されます。所属ビジネスユニット通貨がベルギー・フラン (BEF) の場合、原価は最初にUSDに換算されてから国内原価金額として使用され、外貨金額が換算されます。

F4812テーブルの原価金額が更新された後、請求固定情報で指定した基準日の為替レート・テーブルを使用して非固定原価金額が計算されます。次に、請求固定情報で定義されているように、固定通貨のレコードの割増情報がプログラムによって取得されます。割増情報は固定通貨についてのみ取得されます。固定原価金額に割増金額を加えたものが、取引の課税対象額になります。固定課税対象額に対して為替レートを使用して非固定課税対象額が計算され、それぞれの通貨について個別に税および割引率が計算されます。

この項の計算式は、給与以外のタイプの入力での国内通貨金額および外貨金額の計算処理を示しています。(計算は、必ずしも記載されている順序どおりに実行されるわけではありません。)

国内通貨モードの計算

次の計算式は、国内通貨モードでの様々な金額の計算方法を示しています。

- 課税対象額 (国内通貨) × 税率 = 税額 (国内通貨)
- 課税対象額 (国内通貨) + 税額 (国内通貨) = 請求書合計金額 (国内通貨)
- 課税対象額 (国内通貨) × 割引率 = 割引額 (国内通貨)
- 原価 (国内通貨) × 為替レート = 原価 (外貨)
- 課税対象額 (国内通貨) × 為替レート = 課税対象額 (外貨)
- 課税対象額 (外貨) × 税率 = 税額 (外貨)
- 課税対象額 (外貨) + 税額 (外貨) = 請求書合計金額 (外貨)
- 課税対象額 (外貨) × 割引率 = 割引額 (外貨)

外貨モードの計算

次の計算式は、外貨モードでの様々な金額の計算方法を示しています。

- 原価 (国内通貨) × 為替レート = 原価 (外貨)
- 原価 (外貨) + 割増金額 = 課税対象額 (外貨)
- 課税対象額 (外貨) × 税率 = 税額 (外貨)
- 課税対象額 (外貨) + 税額 (外貨) = 請求書合計金額 (外貨)
- 課税対象額 (外貨) × 割引率 = 割引額 (外貨)
- 課税対象額 (外貨) × 為替レート = 課税対象額 (国内通貨)
- 課税対象額 (国内通貨) × 税率 = 税額 (国内通貨)
- 課税対象額 (国内通貨) + 税額 (国内通貨) = 請求書合計金額 (国内通貨)
- 課税対象額 (国内通貨) × 割引率 = 割引額 (国内通貨)

請求書金額の計算 (国内通貨モード)

次の計算式は、国内通貨モードでの請求書金額の計算方法を示しています。フィールドはすべてF4812テーブルのフィールドです。

- 原価 (AA) + 割増金額 (ADCI) = 課税対象額 (ITXA)

- 課税対象額 (ITXA) × 税率 = 税額 (ITAM)
- 課税対象額 (ITXA) + 税額 (ITAM) = 合計金額 (ITOL)
- 原価 (AA) × 為替レート = 外貨 (AA2)
- 課税対象額 (ITXA) × 為替レート = 課税対象額 (外貨) (CITA)
- 課税対象額 (外貨) (CITA) × 税率 = 税額 (外貨) (CITX)
- 課税対象額 (外貨) (CITA) + 税額 (外貨) (CITX) = 合計金額 (外貨) (CITL)
- 課税対象額 (ITXA) × 割引率 = 割引額 (IDSC)
- 課税対象額 (外貨) (CITA) × 割引率 = 割引額 (外貨) (CIDS)
- 原価 (AA) ÷ 単位 = 単価 (PRIC)
- 外貨 (AA2) ÷ 単位 = 単価 (PRIF)

注意: これらの計算式は、給与計算トランザクションの所属ビジネスユニットの通貨が作業と同じであるという前提に基づきます。

請求書金額の計算 (外貨モード)

次の計算式は、外貨モードでの請求書金額の計算方法を示しています。フィールドはすべて F4812 テーブルのフィールドです。

- 原価 (AA) × 為替レート = 外貨 (AA2)
- 外貨 (AA2) + 割増金額 (ADCI) = 課税対象額 (外貨) (CITA)
- 課税対象額 (外貨) (CITA) × 為替レート = 課税対象額 (ITXA)
- 課税対象額 (ITXA) × 税率 = 税額 (ITAM)
- 課税対象額 (ITXA) + 税額 (ITAM) = 合計金額 (ITOL)
- 課税対象額 (外貨) (CITA) × 税率 = 税額 (外貨) (CITX)
- 課税対象額 (外貨) (CITA) + 税額 (外貨) (CITX) = 合計金額 (外貨) (CITL)
- 課税対象額 (ITXA) × 割引率 = 割引額 (IDSC)
- 課税対象額 (外貨) (CITA) × 割引率 = 割引額 (外貨) (CIDS)
- 原価 (AA) ÷ 単位 = 単価 (PRIC)
- 外貨 (AA2) ÷ 単位 = 単価 (PRIF)

請求固定情報の設定

この項では、請求固定情報、収益額と請求額の不一致可、暫定請求書番号および最終請求書番号の制御、多通貨の固定情報の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 請求固定情報の設定
- 会社例外の設定
- 暫定請求書番号および最終請求書番号の制御の設定

請求固定情報について

請求固定情報は、ソース取引および関連する請求の処理方法に関する会社の決定を表します。固定情報によって、次の項目の処理方法が制御されます。

- 請求原価
- 顧客情報
- 日付
- 請求書
- 仕訳
- デフォルト割増率
- 多通貨取引
- 暫定請求書番号および最終請求書番号の制御
- 非T&M(非タイム・アンド・マテリアル)取引での収益認識(契約請求管理のみ)
- 間接費取引

固定情報を設定した後は、変更しないでください。固定情報は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)に保存されます。

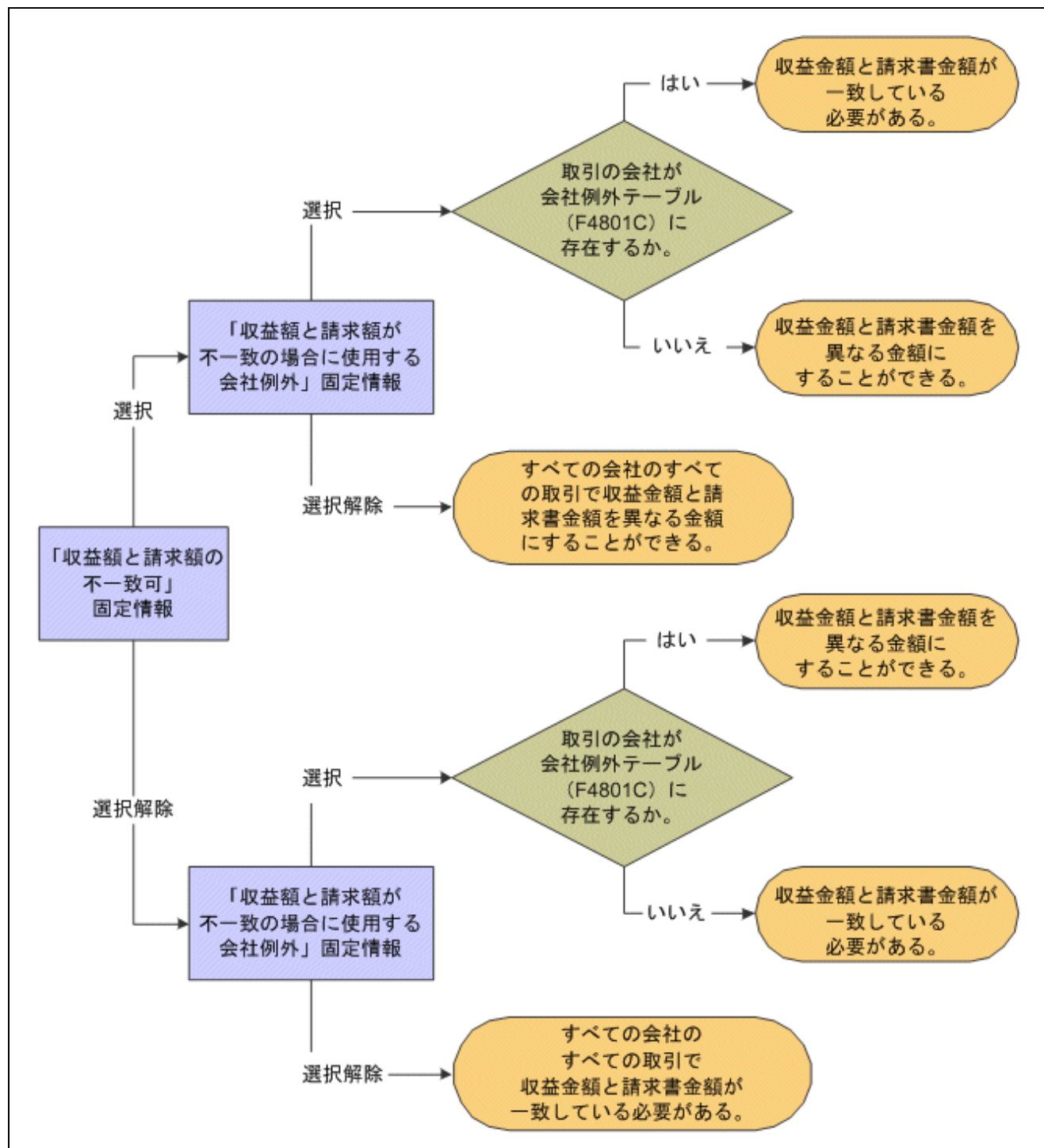
重要: F48091テーブルはキャッシュされるテーブルであるため、固定情報に対する変更は、JD Edwards EnterpriseOne環境からサインアウトして再度サインインするまで適用されません。

収益額と請求額の不一致可について

「収益額と請求額の不一致可」チェックボックスを使用すると、ワークファイル取引の収益金額と請求書金額が一致する必要があるかどうかを指定できます。このチェックボックスを選択しない場合、請求書金額とは別に収益金額を改訂できないように、ワークファイルの改訂プログラム(P4812)の「収益合計」フィールドは無効になります。このチェックボックスを選択した場合、「収益合計」フィールドは有効になり、収益金額と請求書金額を異なる金額にすることができます。

「収益額と請求額の不一致可」チェックボックスの設定を組織内のすべての会社に応用するわけではない場合は、会社を規則の例外として指定できます。どの会社が例外かを指定するには、「サービス請求固定情報」フォームの「収益額と請求額が不一致の場合に使用する会社例外」チェックボックスを選択し、「会社例外」フォームで会社を入力します。

次の図は、請求書額と収益金額を異なる金額にすることができるかどうかの決定方法を示しています。



「収益額と請求額の不一致可」および「収益額と請求額が不一致の場合に使用する会社例外」チェックボックスの設定は、請求料金/割増テーブルを設定するときに選択できる生成タイプにも影響します。

「収益額と請求額の不一致可」に関する考慮事項

請求書金額と収益金額が個別に割増される場合、収益認識の仕訳作成の制御オプション（残高調整ありまたは残高調整なし）は、見越し売掛金および見越し収益という勘定科目で管理される残高差異に影響します。（「仕訳作成の制御」オプションは、「請求固定情報」フォームの「仕訳記録制御」タブに表示されます。）

「サービス請求固定情報」フォームの「収益額と請求額の不一致可」オプションによって、ワークファイル取引について計算される割増金額で、請求書金額と収益金額に対して同じ規則を使用する必要があるかどうか指定されます。このオプションが、請求書金額と収益金額に対して異なる割増規則の使用を許可するように設定された場合、残高調整なしの請求および収益認識の処理では、見越し売掛金と実際の売掛金の間に永続的な差異が作成されます。請求書金額と収益金額は常に異なります。

「収益額と請求額の不一致可」オプションが、請求書金額と収益金額に対して異なる割増規則の使用を許可するように設定された場合、残高調整ありの請求および収益認識の処理では、見越し勘定は調整されますが、請求書金額と収益金額が異なる場合もあります。

次の表は、システム固定情報と収益認識処理間の関係に基づく結果を表しています。最初の2つの列はシステム固定情報であり、後の3つの列は収益認識の結果です。

仕訳作成の制御	収益額と請求額の 不一致可	収益金額	請求書金額	見越し売掛金
請求/収益 - 調整なし	選択解除	同じ	同じ	差異なし
請求/収益 - 調整なし	選択	異なる	異なる	差異
請求/収益 - 調整あり	選択解除	同じ	同じ	差異なし
請求/収益 - 調整あり	選択	異なる	異なる	差異なし

注意: 前述の表に表示されている結果は、「収益額と請求額が不一致の場合に使用する会社例外」チェックボックスの設定、および取引の会社番号が会社例外テーブルにあるかどうかの影響も受けます。

暫定請求書番号および最終請求書番号の制御について

一部の国では、会社は請求書に連続して順に番号を割り当てる必要があります。請求管理システムで発生する請求書は、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで作成される前に削除できます。その結果、請求書番号間に空きが発生します。このような空きを防ぐために、暫定伝票タイプおよび暫定請求書番号を割り当てるように請求管理システムを設定できます。JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムで最終請求書仕訳を作成するときに、連続した最終請求書番号が割り当てられます。

暫定請求書番号および最終請求書番号の制御を使用するには、暫定伝票タイプを最終伝票タイプと関連付ける必要があります。たとえば、暫定伝票タイプとしてDFを使用し、最終伝票タイプとしてRIを使用する場合、これら2つの伝票タイプ間の関係を確立する必要があります。この関係は、暫定および最終請求書伝票テーブル (F48S001) で設定します。

暫定請求書番号および最終請求書番号の制御を使用するには、サービス請求固定情報プログラム (P48091) で「請求書番号の制御」オプションも選択する必要があります。

多通貨の固定情報について

「サービス請求固定情報」フォーム (W48091A) で、次のオプションが正しく設定されていることを確認します。

オプション	用途
為替レート基準日	この日付によって、ワークファイルの生成 (R48120) およびワークファイルの再計算 (R481202) プログラムを実行するときにワークファイル・レコードに適用される為替レートが制御されます。
外貨	<p>このオプションによって、請求処理中に固定される通貨が制御されます。このオプションを選択すると、顧客通貨が固定通貨になり、ビジネスユニット通貨または会社通貨は非固定とみなされます。この場合、割増は顧客通貨で計算され、計算された外貨金額に基づいて国内通貨金額が再計算されます。</p> <p>このオプションを選択しない場合、国内通貨または会社通貨が請求処理で固定されます。この場合、割増は会社通貨で計算され、計算された国内通貨金額に基づいて外貨金額が再計算されます。このフィールドによって、ワークファイルの改訂プログラム (P4812) に対して指定されるモードも制御されます。</p>

事前設定

暫定請求書番号および最終請求書番号の制御を設定する前に、次の処理を実行します。

- 請求書のデフォルトの伝票タイプが、ユーザー定義コード (UDC) の 00/DT (伝票タイプ - すべての伝票) と 00/DI (伝票タイプ - 請求書のみ) で設定されていることを確認します。
- 会社および会計年度別の自動採番を設定し、使用する暫定伝票タイプおよび最終伝票タイプごとに自動採番を設定します。

請求固定情報の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス請求固定情報	W48091A	<ul style="list-style-type: none"> 「システム・セットアップ」(G48S40)、「請求固定情報」 「システム・セットアップ」(G5240)、「請求固定情報」 	請求固定情報を設定します。 暫定請求書番号および最終請求書番号の制御を設定します。
関連付けられた下書きおよび最終の伝票タイプ	W48S001A	「サービス請求固定情報」フォームで「請求書番号の制御」チェックボックスを選択し、「伝票タイプの関連付け」をクリックします。	暫定伝票タイプを最終伝票タイプに関連付けます。
会社例外	W48091C	「サービス請求固定情報」フォームの「収益額と請求額が不一致の場合に使用する会社例外」チェックボックスを選択し、「会社例外」ボタンをクリックします。	会社例外を設定します。

請求固定情報の設定

「サービス請求固定情報」フォームにアクセスします。

「サービス請求固定情報」フォーム: 「ワークファイル生成制御」タブ

「プロジェクトおよび公共事業契約」タブのフィールドについては、『JD Edwards EnterpriseOne Project and Government Contract Accounting 9.0 Implementation Guide』で説明されています。

ワークファイル生成制御

「ワークファイル生成制御」タブを選択します。

間接労務費請求

契約/サービス請求管理のワークファイルの生成時に間接費を含める場合に選択します。このチェックボックスを選択しない場合、間接費は含まれません。間接費を含める場合は、次の点に注意します。

- 請求対象給与計算トランザクションに関連付けられたすべての間接費が処理されます。
- 間接賃金勘定は請求対象勘定科目である必要があります。

間接費は、会社が労働者を雇用したことの直接の結果として発生する原価です(会社負担の税、保険、賃金外給付金など)。間接費には、直接労務費の機能として配賦または査定される、小型の道具、消耗品またはその他の間接費用の割当も含まれます。

未転記請求

契約/サービス請求管理のワークファイルの生成時に、取引明細テーブル(F0911)の未転記と転記済両方の請求対象取引を含める場合に選択します。このチェックボックスを選択しない場合は、取引明細テーブルの転記済請求対象取引のみが処理されます。

注意: 未転記請求対象取引は変更または削除の対象であるため、通常はワークファイルの生成時には含めません。

契約収益制御

タイム・アンド・マテリアルに関連しない契約請求行の収益を認識する場合にクリックします。

このオプションは、請求処理の前に非T&M契約請求行の収益を認識するための請求明細取引を生成するかどうかを指定します。非T&M契約請求行の収益を認識するための請求明細取引を生成する場合に、このオプションを選択します。

注意: 非T&M契約請求行の収益を認識するための請求明細取引を生成する場合、次のことが実行されます。

- ワークファイルの生成時に、総額請求行と単価請求行の収益金額が生成されます。
- 収益の生成時に、料金請求行の収益金額が生成されます。

注意: このオプションは、契約請求管理に対してのみ使用されます。

収益額と請求額の不一致可

請求明細取引の請求書金額と収益金額を別々に割増する場合に選択します。このチェックボックスを選択した場合、関連付けられた収益金額または請求書金額のいずれか一方に影響を与えずに他方を操作および処理できます。このチェックボックスを選択しない場合、請求明細取引の請求書金額と収益金額は常に同じになります。

収益額と請求額が不一致の場合に使用する会社例外

一部の会社が「収益額と請求額の不一致可」固定情報で指定された規則の例外であることを指定する場合に選択します。このチェックボックスを選択すると、「会社例外」ボタンが表示され、「会社例外」フォームにアクセスできます。

「収益額と請求額の不一致可」チェックボックスを選択した場合、「会社例外」フォームで入力したすべての会社について、請求明細取引の請求書金

額と収益金額は常に同じになります。「収益額と請求額の不一致可」チェックボックスを選択しない場合、「会社例外」フォームで入力した会社について、関連付けられた収益金額または請求書金額のいずれか一方に影響を与えずに他方を操作および処理できます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「会社例外の設定」、27 ページ

デフォルト割増率

立案者、エンジニア、コンサルタントなどの専門的サービス担当者の請求に反映される、収益金額を割増するために使用するパーセントを入力します。このパーセントは従業員への給与に影響を及ぼしません。このパーセントは請求料金/割増テーブルのプログラム (P48096) で設定します。設定には、生成タイプ 1 を使用して、収益と請求の割増率のテーブルを指定します。

パーセントは整数で入力してください。たとえば、50.275% の場合は「50.275」と入力します。

注意: 割増は、タイム・アンド・マテリアル取引についてのみ使用されます。

為替レート基準日

前月の最終日を使用して為替レートを取得するには、1 を入力します。この日付は、会社日付パターンに基づいて決定されます。

請求原価 (ソース) 取引の日付を使用して為替レートを取得するには、2 を入力します。この日付は、「有効日付基準」および「作業有効日基準」請求固定情報の値に基づいて決定されます。

システム日付を使用して為替レートを取得するには、3 を入力します。(この値は、急激なインフレ経済が発生している場合にのみ使用します。)

注意: 契約/サービス請求管理では、2 つの為替レートを認識できます。最初は請求明細取引を作成するときのワークファイル生成処理中であり、2 番目は請求書生成処理中です。この固定情報では、ワークファイル生成処理が制御されます。この固定情報は、請求書生成中に一時変更できます。

日付処理

「日付処理」タブを選択します。

有効基準日

テーブルの有効日付との比較の基準として、請求対象ソース取引の元帳日付を使用するかサービスおよび税日付を使用するかを指定するオプションを選択します。

注意: 契約/サービス請求管理では、請求処理中に請求料金/割増テーブル (F48096)、請求 AAI 情報テーブル (F48S95) などのテーブルが使用されます。日付範囲によって、テーブル情報が有効な期間が指定されます。

作業の有効基準日

テーブルの有効日付との比較の基準として使用する日付を指定するオプションを選択します。この日付は、JD Edwards EnterpriseOne Payroll システムで発生した請求対象ソース取引の日付である必要があります。

請求処理に JD Edwards EnterpriseOne Payroll システムが含まれていない場合、このコードは無視されます。

注意: 契約/サービス請求管理では、請求処理中に請求料金/割増テーブル(F48096)、請求AAI情報テーブル(F48S95)などのテーブルが使用されます。日付範囲によって、テーブル情報が有効な期間が指定されます。

サービス/税の基準日

サービス/税日付として売掛金取引の元帳日付を使用するか請求書日付を使用するかを決定するオプションを選択します。

請求制御

「請求制御」タブを選択します。

顧客番号基準

サービス請求管理についてのみ、すべてのワークファイル取引には取引の請求対象の顧客番号が含まれている必要があります。個別の作業または作業オーダーで顧客番号を識別する必要があります。

請求明細取引について取得する顧客番号を決定するオプションを選択します。値は次のとおりです。

所有者住所番号(作業): 作業マスター(F0006)から所有者住所番号を取得します。

作業オーダーの顧客: 作業オーダー・マスター(F4801)から顧客番号を取得します。顧客番号がブランクの場合は、F0006テーブルから所有者住所番号が取得されます。

「所有者住所番号(作業)」を選択し、作業の顧客番号を指定しない場合、ワークファイル取引はエラー状況になり、請求処理は行われません。

単一ビジネスユニット・フォームの住所録番号は、顧客番号ではありません。

請求書日付の一時変更

請求書仕訳生成および売掛金/総勘定元帳の作成プログラムを使用するときに、請求書日付および元帳日付を一時変更できるかどうかを決定するオプションを選択します。値は次のとおりです。

日付変更を許可しない: 「日付の一時変更」にアクセスできません。

日付変更を許可する: 「日付の一時変更」はオプションです。

自動的に一時変更する: 「日付の一時変更」が自動的に表示されます。

請求書集計アクセス・テーブルの制御

請求書集計アクセス・テーブル(F48520)を作成および管理する場合に選択します。このテーブルには、元帳日付、従業員/仕入先、原価勘定科目番号および契約請求行別に集計された累積請求金額が含まれています。このテーブルを管理するには、追加のディスク容量が必要です。集計された請求情報は、サービス/契約請求管理の請求書に請求累計金額を表示するなど、様々なレポート用に使用できます。

請求累計金額は、所有者支払項目別に請求書集計テーブル(F4822)に保存されます。F48520テーブルには、F4822テーブルよりも詳細に請求累計金額が保存されます。

請求書番号の制御

暫定伝票タイプと最終伝票タイプおよび請求書番号を使用する場合に選択します。

一部の国では、連続して順に請求書番号を割り当てる必要があります。連続した請求書番号を割り当てる場合、少なくとも2つの異なる伝票タイプを使用する必要があります。最初の伝票タイプは仮の請求書に割り当てら

れ、後の伝票タイプは最終の売掛仕訳および元帳仕訳を作成するときに割り当てられます。

このチェックボックスを選択した場合、暫定請求書と最終請求書に対して異なる請求書番号および伝票タイプが使用されます。このチェックボックスを選択しない場合、暫定請求書と最終請求書に対して同じ請求書番号および伝票タイプが使用されます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「暫定請求書番号および最終請求書番号の制御の設定」、27 ページ

デフォルト請求書伝票タイプ

請求書入力の伝票タイプを指定します。「請求のみ」の入力に対して設定する伝票タイプは、R(売掛金)で始まる必要があります。デフォルトは、RI、RR、RM です。伝票、請求書、入荷確認書およびタイムシートに対して、予約済の伝票タイプが定義されています。

予約済の伝票タイプは次のとおりです。

P: 買掛伝票

R: 売掛伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: オーダー処理伝票

注意: 請求書のデフォルト伝票タイプがUDC 00/DTおよびUDC 00/DIの両方で設定されていることを確認します。

仕訳記録制御

「仕訳記録制御」タブを選択します。

仕訳作成の制御

契約/サービス請求管理で仕訳の生成処理を制御するオプションを選択します。値は次のとおりです。

請求のみ

収益のみ

請求/収益 - 調整なし

請求/収益 - 調整あり

次の項目も影響を受けます。

- 請求明細取引の適格性コード(ELGC)の初期値
- 仕訳の生成処理によって作成される入力

仕訳振替の制御

仕訳振替を有効にする場合に選択します。この固定情報によって、仕訳の生成処理の機能として仕訳振替を実行するかどうかは制御されます。

注意: 仕訳振替は、契約/サービス請求管理内で発生し、当初の原価入力を別の勘定科目に再分類して、取引明細 (F0911) に仕訳の訂正を自動的に作成できるようにします。これらの仕訳の訂正に対して、BA伝票タイプが作成されます。給与計算で発生した請求入力を訂正する場合、給与計算トランザクション履歴ファイル (F0618) に調整仕訳が作成されます。給与計算以外の仕訳の訂正と同様に、これらの仕訳の訂正に対してAJ伝票タイプが作成されます。

最高限度 (NTE) の制御

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の最高限度処理を有効にする場合に選択します。

このオプションは、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理にのみ適用されます。

PDBAコード一時変更 (支払タイプ、控除、福利厚生および有給コードの一時変更)

当初の給与計算トランザクションの支払タイプを一時変更するコードを入力します。仕訳振替中、調整の給与計算履歴レコードを作成するときこのコードが使用されます。

注意: 支払タイプの番号は、1 から 999 です。

振替の処理には支払タイプ 999 を使用することをお勧めします。

間接費規則

「間接費規則」タブを選択します。

間接費使用

間接費および遡及調整を処理する場合に選択します。間接費取引作成プログラム (R52G11) を実行して間接費取引を作成し、遡及調整取引の処理プログラム (P52G30) を実行して遡及調整取引を作成します。

セグメント・ソース

プール・グループ・コードのソースを識別するオプションを選択します。プール・グループ・コードは、従業員の所属ビジネスユニットまたは作業の「カテゴリ・コード12」フィールドから生成できます。ワークファイルの生成時にプール・グループ・コードおよび取引の有効日付が使用され、プール・グループ・コード・テーブル (F48S84) からセグメントが選択されます。

「職務」を選択した場合、取引明細テーブル (F0911) の「職務プール・グループ・コード」フィールド (JPGC) から取引のプール・グループ・コードが使用されます。「従業員」を選択した場合、F0911 テーブルの「従業員プール・グループ・コード」フィールドから労務取引のプール・グループ・コードが使用されます。ただし、「従業員」を選択した場合でも、「職務プール・グループ・コード」フィールドから非労務取引のプール・グループ・コードが取得されません。

間接費有効日基準

間接費テーブルの有効日付との比較の基準として、ソース (原価) 取引の元帳日付を使用するかサービスおよび税日付を使用するかを指定するオプションを選択します。

注意: 契約/サービス請求管理では、間接費処理中にセグメント定義テーブル (F48S80)、間接費基本規則テーブル (F48S82) などのテーブルが使用されます。日付範囲によって、テーブル情報が有効な期間が指定されます。

間接費レート・タイプ

間接費金額ごとに、間接費の計算時に使用されるレート・タイプを指定します。間接費レート・タイプのコードは、UDCテーブル48S/RTに保存されます。次に例を示します。

PR: 暫定

TA: 目標

一般に、目標レートは承認されていないレートであり、暫定レートは承認されているレートです。

原価

原価金額(AA)の間接費を計算するときに使用するレート・タイプを指定します。

代替原価

代替原価金額(AA3)の間接費を計算するときに使用するレート・タイプを指定します。

請求

請求書金額(ITOL)の間接費を計算するときに使用するレート・タイプを指定します。

収益

収益金額(BTOL)の間接費を計算するときに使用するレート・タイプを指定します。

会社例外の設定

「会社例外」フォームにアクセスします。

レコード 1-3	グリッドのカスタマイズ
<input type="checkbox"/> 会社	会社名
<input type="checkbox"/> 00001	Financial/Distribution Company
<input type="checkbox"/> 00050	Project Management Company
<input type="checkbox"/>	

「会社例外」フォーム

「収益額と請求額の不一致可」固定情報の設定の例外として指定する会社の番号を入力します。会社固定情報テーブル(F0010)の有効な会社番号を入力します。

暫定請求書番号および最終請求書番号の制御の設定

「サービス請求固定情報」フォームにアクセスします。「請求制御」タブを選択します。

暫定請求書番号および最終請求書番号の制御を設定するには、次の手順に従います。

1. 「請求書番号の制御」チェックボックスを選択します。

「請求書番号の制御」チェックボックスを選択すると、「伝票タイプの関連付け」ボタンが表示されます。

2. 「伝票タイプの関連付け」ボタンをクリックして、「関連付けられた下書きおよび最終の伝票タイプ」フォームにアクセスします。

暫定伝票タイプ

暫定請求書の伝票タイプを指定します。「請求のみ」の入力に対して設定する伝票タイプは、R(売掛金)で始まる必要があります。デフォルトは、RI、RR、RMです。伝票、請求書、入荷確認書およびタイムシートに対して、予約済の伝票タイプが定義されています。

予約済の伝票タイプは次のとおりです。

P: 買掛伝票

R: 売掛伝票

T: 給与計算伝票

I: 在庫伝票

O: オーダー処理伝票

S: 受注オーダー伝票

注意: 請求書のデフォルト伝票タイプがUDC 00/DTおよびUDC 00/DIの両方で設定されていることを確認します。

最終伝票タイプ

最終請求書の伝票タイプを指定します。伝票、請求書、入荷確認書、タイム・カードなどの伝票タイプ用に、いくつかのプレフィックスがあらかじめ予約されています。

UDC の設定

次のUDCを設定する必要があります。これらは、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理とJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の両方で使用されます。

税目コード(00/EX)

様々な税額計算方法のコードを割り当てることができます。請求用のコードは次のとおりです。

C: VAT(付価値税) + 売上税

S: 売上税

V: VAT

E: 免税

V+: Vと同じだが、税込金額への課税として計算

追加料金コード(48/CM)

追加料金コードは、ワークファイル取引を生成または改訂するときに作成される追加料金のタイプを表します。次に例を示します。

COM: 金利

DUES: 時間当たりの組合費

FEE: 料金

FRG: 付加

OVH: 間接費

調整理由 (48/AR)

調整理由コードは、ワークファイル取引が改訂された理由を示します。次に例を示します。

DP: 未解決品目

SP: 取引分割

R: 再有効化

ビジネスユニット (職務) クラス (00/11)

ビジネスユニット・クラスは、ビジネスユニットをグループ化するために使用するカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、JD Edwards EnterpriseOne システム全体で使用されます。請求管理システム内で、この UDC を各種テーブルの設定時の主要キーとして使用できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべてのビジネスユニットに割増規則が適用される場合に、この UDC を請求料金/割増テーブル (F48096) でテーブル・キーとして使用できます。次に例を示します。

112: 南東部

113: 北東部

114: 北西部

115: 西南部

116: 中北部

原価プール (00/12)

原価プールは、ビジネスユニットをグループ化するために使用するカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、すべての JD Edwards EnterpriseOne システムで使用されます。この UDC を使用して、割増情報を適用するときに、労務費や設備費などの請求対象活動をグループ化できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべての所属ビジネスユニットに割増規則が適用される場合に、この UDC を請求料金/割増テーブルで補助キーとして使用できます。次に例を示します。

CA: カリフォルニア

MI: ミシガン

WV: ウェストバージニア

作業オーダー・クラス (00/W7)

作業オーダー・クラスは、作業オーダーをグループ化するために使用するカテゴリ・コードです。このカテゴリ・コードは、JD Edwards EnterpriseOne システム全体で使用されます。請求管理システム内で、この UDC を各種テーブルの設定時の主要キーとして使用できます。

たとえば、このカテゴリ・コードを共有するすべての作業オーダーに割増規則が適用される場合に、この UDC を請求料金/割増テーブルで主要キーとして使用できます。次に例を示します。

PER: 周辺部ガード

SCR: スクリーン・ガード

SUP: 監督者

変更状況 (52/CH)

変更状況コードは、契約の現在の変更オーダー状況を示します。次に例を示します。

AP: 承認済変更

OR: 当初契約

PL: 計画変更

PN: 計画保留

注意: このUDCは契約に対してのみ使用されます。サービス請求管理の取引には必要ではありません。

契約状況 (52/CS)

契約状況コードは、契約の現在の状況を示します。次に例を示します。

10: 入札済

15: 受諾された契約

20: 発行済-未開始

30: 仕掛品

35: アクティブな契約

注意: このUDCは契約に対してのみ使用されます。サービス請求管理の取引には必要ではありません。

変更オーダー・カテゴリ・コード1から2 (52/A1からA2)

変更オーダー・カテゴリ・コードを使用して、一部の属性を共有する変更オーダーを分類し、これらの変更オーダーを記録します。

注意: これらのカテゴリ・コードは契約に対してのみ使用されます。サービス請求管理の取引には必要ではありません。

請求行カテゴリ・コード3から5 (52/A3からA5)

請求行カテゴリ・コードを使用して、一部の属性を共有する請求行を分類し、これらの請求行を記録します。

注意: これらのカテゴリ・コードは契約に対してのみ使用されます。サービス請求管理の取引には必要ではありません。

契約カテゴリ・コード1から5 (52/01から05)

契約カテゴリ・コードを使用して、一部の属性を共有する契約を分類し、これらの契約を記録します。これらのコードの長さは3文字です。

注意: これらのカテゴリ・コードは契約に対してのみ使用されます。サービス請求管理の取引には必要ではありません。

契約カテゴリ・コード11から15(52/11から15)

契約カテゴリ・コードを使用して、一部の属性を共有する契約を分類し、これらの契約を記録します。これらのコードの長さは10文字です。

注意: これらのカテゴリ・コードは契約に対してのみ使用されます。サービス請求管理の取引には必要ではありません。

第 3 章

テーブル情報の設定

この章では、請求料金/割増規則、および請求料金/割増規則の検索の概要と、次の方法について説明します。

- 請求料金/割増規則の設定
- 税決定規則の設定
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の相手勘定/留保金規則の設定
- 請求のAAI(自動仕訳)の設定
- 追加料金規則の設定
- 手数料の設定

請求料金/割増規則について

ここでは、次の事項について説明します。

- 請求料金/割増テーブル
- 請求料金/割増テーブルの主要キー
- 請求料金/割増テーブルの補助キー
- 割増の計算
- 複合割増
- 追加料金情報
- 請求料金/割増テーブルの多通貨設定

この章で使用する共通フィールド

追加料金コード

勘定規則の割当に使用する追加料金コードを指定します。基本および追加料金のワークファイル取引でこの勘定規則を使用できるようにするには、このフィールドをブランクのままにします。有効な追加料金コードでこのフィールドを更新し、基本のワークファイル取引に対して設定されている勘定規則とは異なる勘定規則を、追加料金ワークファイル取引に割り当てます。追加料金のワークファイル取引と厳密に一致する追加料金コードが割増テーブルにない場合は、基本ワークファイル取引に設定した勘定規則が使用されます。

たとえば、基本ワークファイル取引にOVH(間接費)、GA(一般管理費)、およびFEE(手数料)の3つの追加料金ワークファイル取引があり、ある勘定規則に割り当てられたOVH収益を基本ワークファイル取引やその他の追加料金ワークファイル取引とは異なるものにする場合は、勘定規則を2つ設定

します。1つはOVH収益を処理するための勘定規則であり、「追加料金コード」フィールドをOVHに設定します。もう1つは基本、GAおよびFEEのワークファイル取引用の勘定規則であり、追加料金コードはブランクとします。

原価追加料金テーブル

請求料金/割増テーブル(F48096)の入力に使用する追加料金原価レート・テーブルの名前を入力します。追加料金テーブルによって、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金の金額は、取得価額への間接費として適用されます。「追加料金テーブルの改訂」フォームで追加料金テーブルを設定します。

相手勘定

このフィールドに顧客情報を入力し、住所録または顧客マスター情報の顧客情報を一時変更します。

請求書や伝票の転記時に相手勘定として使用する取引勘定科目を決定するコードを入力します。AAI項目RC(売掛管理)またはPC(買掛管理)とこの値を組み合わせて、取引勘定科目が検索されます。たとえば、「TRAD」と入力すると、AAI項目RCTRAD(売掛管理)またはPCTRAD(買掛管理)が検索されます。

相手勘定を表す最大4文字の英数字、または3文字の通貨コード(多通貨環境で取引を入力する場合)を割り当てることができます。ただし、対応するAAI項目をシステムに設定しておく必要があります。この設定がない場合は相手勘定は無視され、指定された会社のPCまたはRCに設定されている勘定科目が使用されます。

顧客または仕入先レコードの「相手勘定」フィールドにデフォルト値を設定した場合、一時変更しないかぎり、取引入力中はこのデフォルト値が使用されます。

注意: コード9999は使用しないでください。仕訳を作成しないように設定されている転記プログラムの予約コードです。

請求/収益追加テーブル

請求料金/割増テーブル(F48096)の入力に使用する追加料金請求/収益テーブルの名前を入力します。追加料金テーブルによって、追加料金とその計算規則が識別されます。追加料金の金額は、任意の請求/収益割増に加えて請求額または収益額として認識されます。

請求料金/割増テーブルの生成タイプは、請求固定情報プログラム(P48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションと連動して機能して、追加料金テーブルが請求金額または収益金額、あるいはその両方であることを特定します。「追加料金テーブルの改訂」フォームで追加料金テーブルを設定します。

キー・タイプ

ソースとワークファイル取引を検索し、契約/サービス請求管理の各種テーブルとユーザー定義コードに対して検証するために、テーブル・キーと組み合わせて使用されるコードを入力します。

キー・タイプ・コードおよびその関連テーブルやユーザー定義コードは次のとおりです。

- 1: 作業オーダー番号 - 作業オーダー・マスター(F4801)
- 2: 作業オーダー・クラス - ユーザー定義コード(00/W7)
- 3: 契約番号 - 契約マスター(F5201)
- 4: 親契約番号 - 契約マスター(F5201)
- 5: 顧客 - 住所録マスター(F0101)

- 6: 作業またはビジネスユニット - ビジネスユニット・マスター (F0006)
- 7: 作業クラス - ユーザー定義コード (00/11)
- 8: 会社 - 会社固定情報 (F0010)
- 9: デフォルト

キー・タイプを選択する場合、次の点を確認してください。

契約番号のキー・タイプ (3) または親契約番号のキー・タイプ (4) は、税決定基準テーブルおよび相手勘定/留保金テーブルで使用できません。

会社のキー・タイプ (8) は、相手勘定/留保金テーブルで使用できません。

デフォルトのキー・タイプ (9) は、請求 AAI 情報テーブル (F48S95) および請求料金/割増テーブル (F48096) でのみ使用できます。

開始主科目

勘定科目コードの中で、原価コード (労務費、材料費、設備費など) をサブカテゴリに分類する部分を入力します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。

注意: 任意勘定科目表を使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁のすべてを使用することをお勧めします。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

終了主科目

勘定科目範囲の終了主科目を識別する値を入力します。

開始補助科目

主科目の中の区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。

注意: 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。

終了補助科目

勘定科目範囲の終了補助科目を指定する番号を入力します。この範囲の勘定科目が、配賦基準の決定に使用されます。この勘定科目範囲に転記された金額のみが含まれます。

テーブル・キー

ワークファイル取引を検索し、契約/サービス請求管理の各種テーブルに対して検証するために、キー・タイプと組み合わせて使用される値を入力します。「キー・タイプ」フィールドで入力した値によって、「テーブル・キー」フィールドの値が決定されます。たとえば、作業オーダー番号のキー・タイプ (1) を指定した場合、作業オーダー・マスター (F4801) の有効な作業オーダー番号を「テーブル・キー」フィールドに入力する必要があります。指定したキー・タイプによって、検索ボタンをクリックしたときに「テーブル・キー」フィールドからアクセスする検索ウィンドウの制御も行われます。たとえば、キー・タイプ1を選択した場合、「テーブル・キー」フィールドの検索ボタンをクリックして、「作業オーダーの検索」ウィンドウにアクセスできます。キー・タイプ2を選択した場合、作業オーダー・クラスの「ユーザー定義コード」ウィンドウにアクセスします。

請求料金/割増テーブル

ワークファイル取引を生成または改訂する前に、請求料金/割増テーブルで割増規則を設定する必要があります。請求料金は、顧客に提供した商品やサービスの請求金額を計算する場合に作業量に乗算するレートとして定義されます。割増は、間接費および利益を計上するために原価に追加するパーセントまたは金額として定義します。

契約/サービス請求管理を設定するときに設定した請求料金/割増規則に基づくワークファイル取引を生成および改訂すると、割増金額が計算されます。

主要キーおよび補助キーの値を指定して、請求料金/割増規則を設定します。これらの値を組み合わせ使用して、個々のソース取引に適用される特定の請求料金/割増規則が識別されます。

ワークファイル取引を生成および改訂すると、原価の割増計算が次のように実行されます。

- 請求料金/割増規則にアクセスします。
- 主要キーの特定のソース取引の値に一致する規則を検索および選択します。
- ソース取引の補助キーの値に基づいて規則の選択を絞り込んで検索を続行します。
- 割増計算規則に基づいて、個別の取引の割増金額を計算します。
- 該当する割増金額でワークファイル取引を更新します。

この割増情報は、請求料金/割増テーブル(F48096)に保存されます。

ワークファイル取引を生成または改訂すると、割増規則のキー値がワークファイル取引の同じ値と照合されます。検出された規則のうち、最も限定的な規則を使用して、ワークファイル取引の割増が計算されます。

通常は、契約/サービス請求管理で処理するワークファイル取引のほとんどに該当する汎用的な割増規則を設定します。また、例外的なワークファイル取引用に割増規則を追加設定することもできます。たとえば、個々の顧客または作業オーダー用の代替割増規則を規定した規則を設定できます。

ソース取引の割増が不要な場合は、原価で処理されます。ソース取引を原価で請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に含める場合は、請求料金/割増規則に次の情報を設定する必要があります。

- 取引に関連する勘定科目を含む勘定科目範囲
- 割増計算用のブランクのフィールド

これらの情報を設定しない場合は、システム固定情報内のデフォルト割増規則またはデフォルト率を使用して取引の割増金額が計算されます。

特定の請求料金/割増規則のキー値に一致しない取引の場合は、デフォルトの請求料金/割増規則を使用して割増金額が計算されます。主要キーおよび補助キーのデフォルトの請求料金/割増規則を設定できます。

主要キーのデフォルト割増規則の場合は、キー・タイプとして9、テーブル・キーとして*ALLを指定します。補助キーのデフォルト割増規則の場合は、勘定科目範囲をブランクにして、割増計算を指定します。

補助キーの割増計算を指定しないと、取引は原価で処理されます。取引が、定義したいずれの割増規則の主要キーまたは補助キーの値とも一致しない場合は、請求固定情報プログラム(P48091)で定義したデフォルトの割増率が使用されます。

請求料金/割増規則は、これらの項目を設定したときに指定した日付まで有効です。この有効日付は変更できません。ただし、既存の規則をコピーして新しい有効日付を指定することで、既存の請求料金/割増規則に基づいた新しい請求料金/割増規則を作成できます。

ワークファイルの生成 (R48120) プログラムおよびワークファイルの再計算 (R481202) プログラムを実行すると、割増情報をワークファイル取引に適用するために、請求料金/割増テーブルへのアクセスが行われます。

請求料金/割増テーブルの主要キー

設定する請求料金/割増テーブルごとに1つの主要キーを指定する必要があります。主要キーには、次のようなものがあります。

生成タイプ

生成タイプ・キーによって、請求金額、収益金額、または追加料金の金額の計算に割増規則を適用するかどうかを指定します。請求固定情報の設定内容によっては、金額ごとに異なる割増規則を適用できます。

請求料金/割増テーブルの生成タイプ

割増テーブルでは、間接費および利益を計上するために請求サイクルで取引に割増を適用する方法を指定します。原価の累計時または請求ワークファイル・テーブル (F4812) の取引を改訂すると、割増金額が計算されます。

割増規則と追加料金の計算は、割増テーブルの「生成タイプ」フィールド (GTYP) に基づいて適用されます。割増テーブルは、生成タイプの逆の順序で読み込まれます。最初に、生成タイプ3 (追加料金のデフォルト) のテーブルが読み込まれ、次に、該当する場合は生成タイプ2 (収益一時変更) のテーブルが読み込まれ、最後に、生成タイプ1 (請求、収益、および追加料金) のテーブルが読み込まれます。

注意: 請求固定情報 (P48091) で収益額と請求額の不一致可が有効になっている場合は、生成タイプ1、2、および3を使用できます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「収益額と請求額の不一致可について」、17 ページ

次の表に、生成タイプおよびこれらの生成タイプが割増に及ぼす影響を示します。

生成タイプ	割増
1	<p>生成タイプ1のテーブルは、最後に読み込まれ、最も頻繁に使用されるデフォルト・テーブルです。これらのテーブルでは、請求金額と収益金額の両方の割増を作成したり、原価、収益、および請求金額に基づく追加料金を作成できます。</p> <p>生成タイプ2のテーブルが定義されている場合、生成タイプ1のテーブルは、請求金額および請求の追加料金にのみ適用されます。生成タイプ2または生成タイプ3のテーブルが定義されていない場合は、すべての割増および追加料金の情報が生成タイプ1のテーブルから取得されます。生成タイプ1のテーブルが存在しない場合は、請求固定情報プログラム (P48091) で指定したデフォルトの割増率 (PERT) が使用されます。</p>

生成タイプ	割増
2	<p>請求固定情報で収益額と請求額の不一致可が有効になっていない場合は、生成タイプ1と3のテーブルのみを使用できます。生成タイプ2のテーブルは、請求固定情報で収益額と請求額の不一致可が有効になっている場合にのみ使用できます。生成タイプ2のテーブルは、請求固定情報が収益認識のみに設定されている場合（仕訳作成の制御[PRRR]=2）は適用されません。</p> <p>請求金額と追加料金とは別に収益金額と追加料金を計算する場合は、生成タイプ2のテーブルを定義します。生成タイプ2のテーブルを使用して収益金額の割増規則を定義し、生成タイプ1のテーブルを使用して請求金額の割増規則を定義します。生成タイプ2のテーブルが見つからない場合は、生成タイプ1のテーブルで検出された計算が収益金額に使用されます。</p>
3	<p>生成タイプ3のテーブルは、追加料金を作成する場合にのみ使用されます。生成タイプ3のテーブルで指定した追加料金の情報によって、生成タイプ1および生成タイプ2のテーブルの追加料金情報が一時変更されます。生成タイプ3のテーブルで指定された割増は無視され、生成タイプ3のテーブルの追加料金情報、および生成タイプ1と2のテーブルの割増規則が使用されます。生成タイプ3のテーブルの追加料金フィールドが空白の場合、生成タイプ2のテーブルが読み込まれ、次に生成タイプ1のテーブルが読み込まれて、追加料金の計算が特定されます（存在する場合）。</p>
P	<p>生成タイプPテーブルは、JD Edwards EnterpriseOneでのみ使用可能で、多通貨勤怠管理にのみ使用されます。これらのテーブルは、請求料金および振替請求料金を決定するために時間入力プログラム（P051121）で使用されます。これらの割増テーブルの追加料金フィールドに入力された値は無視されます。</p>

キー・タイプ

キー・タイプでは、割増テーブルの主要キー値のタイプを定義します。ハードコードされている9つの値が使用されます。

テーブル・キー

テーブル・キーによって、キー・タイプに基づく主要キー値が定義されます。

キー・タイプおよびテーブル・キー

次のキー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて使用して、割増テーブルを設定します。

- 1: 作業オーダー
- 2: 作業オーダー・クラス（作業オーダー・マスターのカテゴリ・コード07）
- 3: 契約番号
- 4: 親契約番号
- 5: 顧客番号

- 6: 作業またはビジネスユニット番号
- 7: 作業またはビジネスユニット・クラス (ビジネスユニット・マスター[F0006]のカテゴリ・コード11)
- 8: 会社番号
- 9: デフォルト

たとえば、割増規則を作業オーダー別に設定する必要がある場合は、キー・タイプ1と、特定の作業オーダーのテーブル・キーを使用します。3つの作業オーダーがあり、それぞれに異なる割増規則が必要な場合は、3つの異なる規則を設定する必要があります。

通貨コード

通貨コード・キーによって、請求料金/割増テーブルで定義されている割増金額の通貨の小数点以下桁数を制御します。

有効日付

有効日付キーによって、割増テーブルが有効になる日付を指定します。請求料金/割増テーブルを検索するとき、ワークファイル取引のテーブル比較基準日が、これらの日付と比較されます。

検索時の通貨コードの使用方法

請求料金/割増テーブルの通貨コードによって、そのテーブルの割増規則を構成している請求料金と割増金額の通貨が識別されます。

ワークファイル取引ごとに、国内通貨、外貨、および通貨モードが保存されます。国内通貨は、会社の通貨を表します。外貨は、顧客の通貨を表します。通貨モードは、適切な請求料金/割増テーブルへのアクセスに現在使用されている通貨を示します。

たとえば、国内通貨が米ドル(USD)、外貨がユーロ(EUR)で通貨モードがFのワークファイル取引の場合、ユーロに設定された請求料金/割増テーブルが検索されます。すべての割増計算がユーロで行われ、米ドルを計算する為替レートが使用されます。

次の表に、割増が適用される前のワークファイル取引を示します。

ビジネス ユニット (USD)	国内 通貨	外貨	通貨 モード	為替 レート	国内原価	数量	外貨原価	請求(国 内通貨)	請求 (外貨)
501	USD	EUR	F	5.68	50.00	10	284.00	50.00	10

次の表に、請求料金/割増テーブルを示します。

ビジネスユニット (USD)	通貨コード	割増一時変更レート	割増率	割増金額
501	EUR	284.00	10	142.00

次の表に、割増が適用された後のワークファイル取引を示します。

ビジネス ユニット (USD)	国内 通貨	外貨	通貨 モード	為替 レート	国内原価	数量	外貨原価	請求(国 内通貨)	請求 (外貨)
501	USD	EUR	F	5.68	50.00	10	284.00	575.00	3266.00

請求料金/割増テーブルの補助キー

請求料金/割増テーブルで設定した割増規則ごとに、補助キーを指定する必要があります。補助キーには、次のようなものがあります。

勘定科目範囲

勘定科目範囲キーによって、割増規則の適用に使用する主科目と補助科目の範囲を指定します。この割増規則を使用するには、ワークファイル取引の主科目と補助科目が指定した範囲に含まれている必要があります。補助科目フィールドをブランクにした場合は、すべての補助科目が勘定科目範囲に含まれます。

給与計算情報

給与計算情報キーによって、割増規則の適用に使用する給与計算情報を指定します。この割増規則を使用するには、ワークファイル取引の給与計算情報が一致している必要があります。給与計算情報には、職務タイプ、職階、原価プール、所属ビジネスユニット、従業員、および支払タイプが含まれています。

設備情報

設備情報キーによって、割増規則の適用に使用する設備情報を指定します。この割増規則を使用するには、ワークファイル取引の設備情報が一致している必要があります。設備情報には、設備番号、料金グループ、および料金コードが含まれています。

給与計算情報または設備情報の組合せを指定できます。単一の割増入力に労務関連のフィールド(職務タイプ、職務コード、支払タイプ、従業員番号など)と設備関連のフィールド(設備番号、料金コード、料金グループなど)の両方を入力することはできません。

割増の計算

1つの補助キーに3つの割増計算を関連付けることができます。ワークファイル取引に割増を適用する場合は、補助キーの計算が次の順序で行われます。

1. レート一時変更の計算

このレート一時変更ワークファイル取引からの数量を乗算して、請求金額または収益金額が算出されます。数量がゼロの場合、この計算は実行されません。

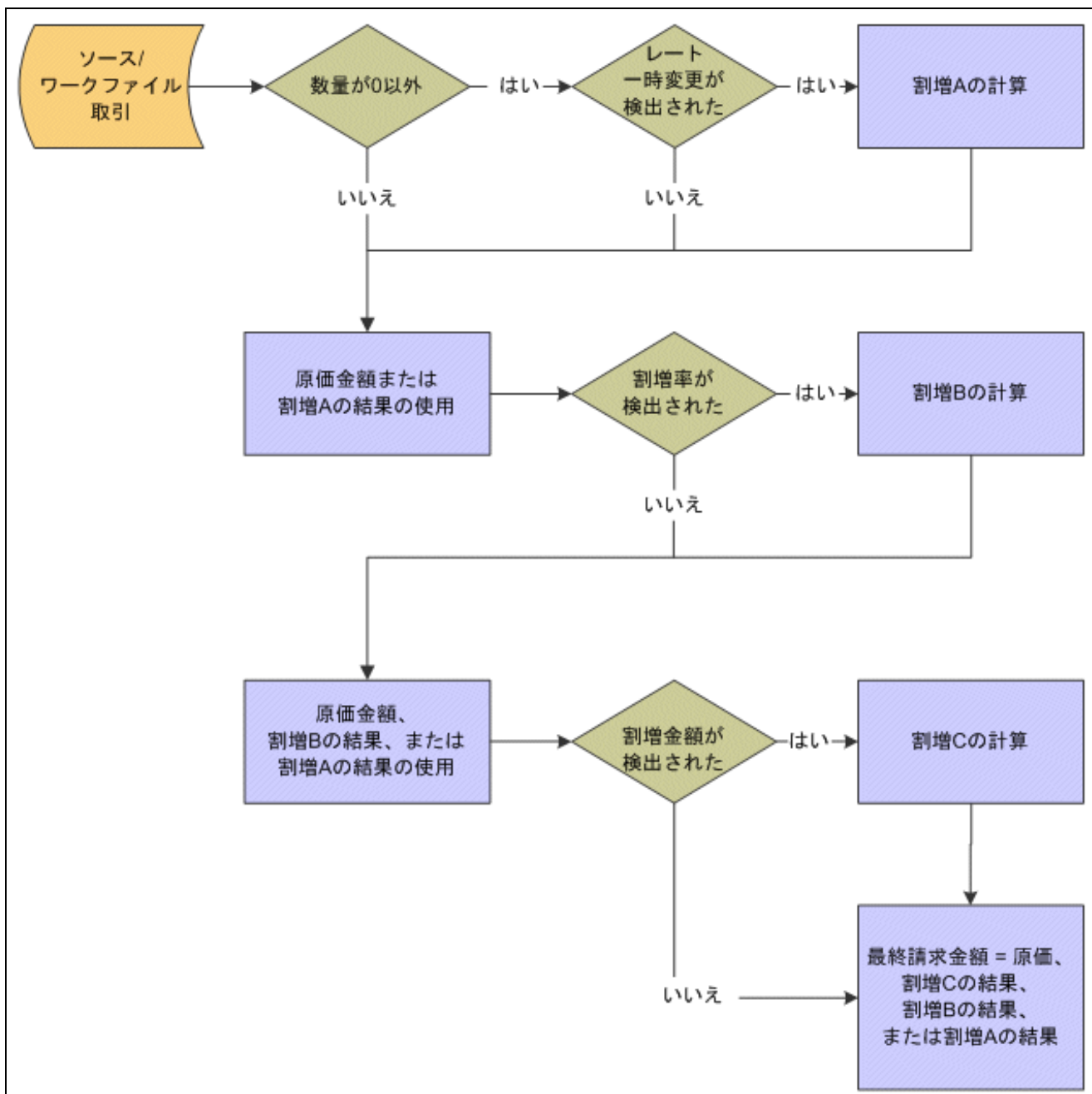
2. 割増率の計算

この割増率にワークファイル取引からの原価金額を乗算して、請求金額または収益金額が算出されます。

3. 割増金額の計算

この金額をワークファイル取引からの原価金額に加算して、請求金額または収益金額が算出されます。

次の図は、補助キーの計算方法を示しています。



割増の計算

複合割増

単一の補助キーに対して複数の割増計算を設定していると、複合割増が発生します。

たとえば、数量10のワークファイル取引では、次の割増計算に補助キーを使用する場合があります。

- 数量当たり50 USDのレート一時変更
- 割増率10%
- 割増金額25 USD

複合割増は次のように計算されます。

1. 数量10 × 50 USD = 500 USD
2. (500 USD × 10%) + 500 USD = 550 USD
3. 550 USD + 25 USD = 575 USD

これと同じ複合割増規則を使用して、数量ゼロ、原価200 USDのワークファイル取引を計算すると、次のようになります。

1. 数量がゼロであるため、料金計算は実行されません。
2. 200 USD × 10% + 200 USD = 220 USD
3. 220 USD + 25 USD = 245 USD

追加料金情報

追加料金情報は、ワークファイル取引に対する追加割増として処理されます。システム設定の一部として、追加料金テーブル内で追加料金規則を設定します。その後、この追加料金テーブルを請求料金/割増テーブルの割増規則に割り当てます。

追加料金テーブルで定義した追加料金規則ごとに、個別の追加料金ワークファイル取引が作成されます。

請求料金/割増テーブルの多通貨設定

請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)で、「通貨コード」フィールドが正しく設定されていることを確認します。

通貨コードは、フォームでの表示小数以下桁数を制御し、ワークファイルの生成プログラム(R48120)およびワークファイルの再計算プログラム(R481202)を実行するときにキーの一部として使用されます。「通貨コード」フィールドは、「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションがYまたはZの場合にのみ表示されます。

通貨コードは、キー・タイプのマスター・テーブルから読み込まれます。通貨コードは関連するテーブルに基づいていますが、新しい割増テーブルを追加するときに一時変更できます。次の表に、キー・タイプとその関連テーブルを示します。

キー・タイプ	テーブル
1 (作業オーダー)	作業オーダー・マスター (F4801)
3 (契約)	契約マスター (F5201)
4 (親契約)	契約マスター (F5201)
5 (顧客)	顧客マスター (F0301)
6 (ビジネスユニット[作業])	ビジネスユニット・マスター (F0006)
8 (会社)	会社固定情報 (F0010)

「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」フィールドの値がYまたはZの場合は、次のキー・タイプの通貨コードを入力する必要があります。

- 2: 作業オーダー・クラス (WR07)
- 7: 作業クラス (RP11)

- 9: デフォルト

例: 請求料金/割増テーブルの通貨処理

ワークファイルの生成プログラム(R48120)およびワークファイルの再計算プログラム(R481202)が実行されるとときに選択される割増テーブルは、次のプログラムで設定したモードと、請求料金/割増テーブルのキー・フィールドによって決定されます。

- サービス請求固定情報(P48091)
- 相手勘定/留保金テーブル(P48128)(サービス請求管理の場合)
- 契約マスターの改訂(P5201)(契約請求管理の場合)

通貨はキー・フィールドであり、原価取引を請求料金/割増テーブルと照合する場合の検索に使用されます。この処理を次の例で示します。

- ビジネスユニット1234は会社00062に属し、通貨コードはBEFです。
- 顧客番号3333の通貨はFRFに設定されています。
- 顧客番号3333はビジネスユニット1234に所有者として適切に関連付けられています。
- 300 BEFの取引が請求対象勘定科目1234.1350.02200に転記されています。

次に、請求料金/割増テーブル1の設定内容を示します。

- 生成タイプ: 1 - 請求
- キー・タイプ: 5 - 顧客
- テーブル・キー: 3333
- 通貨コード: FRF
- 日付範囲: 2005年1月1日から2005年12月31日
- 主科目の範囲: 1340から1399
- 割増率: 150

次に、請求料金/割増テーブル2の設定内容を示します。

- 生成タイプ: 1 - 請求
- キー・タイプ: 6 - 作業
- テーブル・キー: 1234
- 通貨コード: BEF
- 日付範囲: 2005年1月1日から2005年12月31日
- 主科目の範囲: 1340から1399
- 割増率: 150

「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションの値がNで、通貨コードが入力されていない場合、通貨コードは検索キーの一部ではないため、テーブル1が割増として使用されます。したがって、残りの主要キーの階層順でキー・タイプ5が最初に見つかります。

「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションの値がYまたはZで、システム固定情報が外貨モードに設定されている場合、ワークファイルの生成プログラムは外貨、または顧客、通貨で設定されているテーブル1を使用して取引の請求対象金額を計算します。

システム固定情報が国内通貨モードに設定されている場合、ワークファイルの生成プログラムは国内通貨、または会社、通貨で設定されているテーブル2を使用して取引の請求対象金額を計算します。

サービス請求管理の場合、テーブルの通貨がシステム固定情報で定義されている固定通貨と一致しなかったり、通貨モードが相手勘定/留保金テーブル・プログラムで一時変更されている場合は、システム固定情報で設定したデフォルトの割増率が使用されます。

契約請求管理の場合、テーブルの通貨がシステム固定情報または契約マスターの改訂プログラムで設定した固定通貨と一致しない場合は、システム固定情報で設定したデフォルトの割増率が使用されます。

注意:「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションの値がNの場合、「通貨コード」フィールドは「請求レート/割増の改訂」フォームに表示されません。追加するすべてのテーブルで、「通貨コード」フィールドの値がブランクになります。後で「多通貨換算」オプションの値をYまたはZに変更し、有効な通貨コードが関連付けられている取引を入力した場合、請求料金/割増テーブルはブランクの値を持つため、ワークファイルの生成プログラムは、このテーブルで一致する有効値を検出できません。

逆の場合も同様です。「多通貨換算」オプションがYまたはZのときに請求料金/割増テーブルを有効な通貨コードで作成し、次に、取引を入力する前に、このオプションをNに変更した場合、「取引通貨」フィールドはブランクになり、割増テーブルはブランクになりません。この場合も一致する値は検索されなくなります。このため、「多通貨換算」の値は変更しないようにしてください。

請求料金/割増規則の検索について

ここでは、次の事項について説明します。

- 割増の計算
- 主要キーの値
- 給与計算トランザクションの補助キーの値
- 設備用の非給与計算トランザクションの補助キーの値
- その他すべての取引用の補助キーの値

割増の計算

割増は、間接費および利益を計上するために原価に追加する金額です。契約/サービス請求管理を設定するときに設定した割増規則に基づくワークファイル取引を生成および改訂すると、割増金額が計算されます。

主要キーおよび補助キーの値を指定して、割増規則を設定します。これらの値を組み合わせて使用して、個々のソース取引に適用される特定の割増規則が決定されます。適切な割増規則を決定するために、システムによって次のことが実行されます。

- 割増規則へのアクセス
- 特定のソース取引で指定した値に一致する主要キー情報の検索
- 補助キー情報のソース取引で指定した値との照合、および検索の絞込み
- 割増計算規則に基づく、個別取引の割増金額の計算
- 該当する割増金額でのワークファイル取引の更新

検出された規則のうち、最も限定的な規則を使用して、取引の割増が計算されます。

主要キーの値

割増テーブルに設定した主要キー情報が、請求対象のワークファイル取引の情報と照合されます。

次の表に、主要キーで使用可能な検索を示します。

検索レベル	キー・タイプ	検索条件	検証に使用されるテーブル
1 番目	1	作業オーダー	作業オーダー・マスター (F4801)
2 番目	2	作業オーダー・クラス	ユーザー定義コード (00/W7)
3 番目	3	契約番号	契約マスター (F5201)
4 番目	4	親契約番号	契約マスター (F5201)
5 番目	5	顧客番号	住所録マスター (F0101)
6 番目	6	作業/ビジネスユニット	ビジネスユニット・マスター (F0006)
7 番目	7	作業クラス	ユーザー定義コード (00/11)
8 番目	8	会社	会社固定情報 (F0010)
9 番目	9	システム・デフォルト	検証なし

前述のいずれのレベルにも該当がない場合は、キー・タイプ9が使用されます。残りの適格な取引が、このキー・タイプを持つテーブルに適用されます。キー・タイプ9に該当がなければ、システム固定情報で指定したデフォルトの割増率が使用されます。

給与計算トランザクションの補助キーの値

給与計算トランザクションは、伝票タイプT2およびT4を使用して識別されます。T2またはT4の伝票が識別されると、関連する補助キーの値が2つの方法で検索されます。

第1レベル検索

第1レベル検索では、ワークファイル取引の従業員番号、職階、職務タイプ、および支払タイプとの一致が検索されます。

これらの検索は、最も限定的なキーから最も汎用的なキーの順で行われます。

検索レベル	検索条件従業員 (AN8)	職階 (JBST)	職務タイプ (JB CD)	支払タイプ (PD BA)
1 番目	○	○	○	○
2 番目	○	○	○	

検索レベル	検索条件従業員 (AN8)	職階 (JBST)	職務タイプ (JBCD)	支払タイプ (PDBA)
3 番目	○	○		○
4 番目	○	○		
5 番目	○		○	○
6 番目	○		○	
7 番目	○			○
8 番目	○			

第2レベル検索

第1レベル検索で割増テーブルのエントリが見つからない場合は、検索が続行されます。給与計算割増情報の第2レベル検索では、職階、職務タイプ、支払タイプ、所属ビジネスユニット、および原価プールが使用されます。

注意: 従業員番号、所属ビジネスユニット、および原価プールはそれぞれ単独でのみ使用できるため、第2検索で組み合わせて使用することはできません。

検索レベル	検索条件 職階 (JBST)	職務タイプ (JBCD)	支払タイプ (PDBA)	所属ビジネスユ ニット (HMCU)	原価プール (RP12)
1 番目	○	○	○	○	
2 番目	○	○	○		○
3 番目	○	○	○		
4 番目	○	○		○	
5 番目	○	○			○
6 番目	○	○			
7 番目	○		○	○	
8 番目	○		○		○
9 番目	○		○		
10 番目	○			○	
11 番目	○				○
12 番目	○				
13 番目		○	○	○	

検索レベル	検索条件 職階 (JBST)	職務タイプ (JBCD)	支払タイプ (PDBA)	所属ビジネスユ ニット(HMCU)	原価プール (RP12)
14番目		○	○		○
15番目		○	○		
16番目		○		○	
17番目		○			○
18番目		○			
19番目			○	○	
20番目			○		○
21番目			○		
22番目				○	
23番目					○
24番目					

設備用の非給与計算トランザクションの補助キーの値

設備取引は、伝票タイプTEおよびT5を使用して識別されます。次の表に、伝票タイプTEおよびT5の取引に使用される検索条件を示します。

検索レベル	検索条件設備 (NUMB)	レート・グループ (ACL0)	レート・コード (ERC)	所属ビジネスユ ニット(HMCU)	原価プール (RP12)
1番目	○		○		
2番目	○				
3番目		○	○	○	
4番目		○	○		○
5番目		○	○		
6番目		○		○	
7番目		○			○
8番目		○			
9番目			○	○	
10番目			○		○

検索レベル	検索条件設備 (NUMB)	レート・グループ (ACLO)	レート・コード (ERC)	所属ビジネスユ ニット(HMCU)	原価プール (RP12)
11 番目			○		
12 番目				○	
13 番目					○
14 番目					

注意: 設備番号、所属ビジネスユニット、および原価プールはそれぞれ単独でのみ使用できるため、組み合わせて設定することはできません。

請求料金/割増テーブル(F48096)の「設備番号」フィールド(NUMB)によって、ワークファイル取引の「設備番号」フィールド(EQCG)が検索されます。

その他すべての取引用の補助キーの値

残りの適格な取引(伝票タイプT2、T4、T5、またはTE以外)については、補助キーの値が次のように検索されます。

検索レベル	検索条件従業員 (AN8)	職階(JBST)	所属ビジネスユ ニット(HMCU)	原価プール(RP12)
1 番目	○	○	○	
2 番目	○	○		○
3 番目	○	○		
4 番目	○		○	
5 番目	○			○
6 番目	○			
7 番目		○	○	
8 番目		○		○
9 番目		○		
10 番目			○	
11 番目				○
12 番目				

注意: この検索では、従業員番号、所属ビジネスユニット、および原価プールを組み合わせて使用できます。

主科目と補助科目の検索

補助キーの値が請求する取引と一致した場合は、割増テーブル規則と請求対象の取引間で次のように主科目と補助科目情報の一致が検索されます。

検索レベル	検索条件OBJ(主科目)	SUB(補助科目)
1 番目	○	○
2 番目	○	
3 番目		○
4 番目		

設備情報を持つ給与計算トランザクションT2

割増テーブル規則にレート・グループ(ACLO)、設備番号(EQCG)、またはレート・コード(ERC)の情報が含まれている場合、設備情報を持つT2給与計算トランザクションは、割増テーブル規則の設備情報と一致する必要があります。情報が一致しない場合は、正しい規則の検索が続行されます。次の3つの例で、この検索について説明します。

- 割増テーブル規則で設備番号を180と指定し、T2給与計算トランザクションに設備番号100が含まれているとします。
設備番号が一致しないため、引き続き別の規則が検索されます。
- 割増テーブルで設備番号を180と指定し、T2給与計算トランザクションに設備番号が含まれていないとします。
設備番号が一致しないため、引き続き別の規則が検索されます。
- 割増規則で設備番号を指定せず、T2給与計算トランザクションに設備番号100が含まれているとします。
規則で設備番号を指定しないと、設備番号が含まれているかどうかに関係なく、すべてのT2給与計算トランザクションに適用されます。この場合、システムは検索を停止してこの規則を使用します。

請求料金/割増規則の設定

この項では、事前設定および次の方法について説明します。

- 請求料金/割増テーブル(P48096)の処理オプションの設定
- 請求料金/割増テーブルの設定
- 請求料金/割増規則のコピー

注意: この項は任意です。この項で説明するタスクを実行するかどうかは、商慣習に従って選択できます。

関連項目:

第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求料金/割増規則の検索について」、44ページ

事前設定

この項で説明されているタスクを実行する前に、次の請求固定情報の設定を確認してください。

収益額と請求額の不一致可	請求金額と収益金額を個別に割増計算する場合は、このチェックボックスを選択します。
通貨モード	ワークファイル取引の国内通貨または外貨を請求料金/割増テーブル (F48096) の検索に使用するかどうかを制御するオプションを選択します。
有効基準日	非給与計算請求原価の入力を請求料金/割増テーブルの検索に使用する開始日を指定するオプションを選択します。
作業有効日基準	給与計算に基づく請求原価の入力を請求料金/割増テーブルの検索に使用する開始日を指定するオプションを選択します。 参照: <u>第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ</u>

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 割増テーブルの設定に使用する主要キーおよび補助キーの値を決定します。
これらの値は、請求料金/割増テーブルを作成または更新すると、有効性を確保するために編集されます。
- ワークファイル取引に適用する請求料金および割増の計算を設定します。
- 追加料金のワークファイル取引の計算に使用する追加料金規則を決定します。
参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「追加料金規則の設定」、76 ページ

請求料金/割増規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求料金/割増テーブルの処理	W48096B	<ul style="list-style-type: none"> • 「テーブル情報」 (G48S41)、「請求料金/割増テーブル」 • 「テーブル情報」メニュー (G5241)、「請求料金/割増テーブル」 	既存の請求料金/割増規則を検索および確認します。
請求レート/割増の改訂	W48096A	「請求料金/割増テーブルの処理」で、「追加」または「コピー」をクリックします。	新しい請求料金/割増テーブルを設定するか、既存の請求料金/割増テーブルをコピーします。

請求料金/割増テーブル (P48096) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

セキュリティ

キー・タイプの処理オプションによって、ユーザーがアクセスするテーブル・キー・タイプを設定します。テーブル生成タイプの処理オプションによって、ユーザーがアクセスするテーブル生成タイプを設定します。

- | | |
|--------------------------------|---|
| 1. キー・タイプ1(作業オーダー番号) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで作業オーダー番号のキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 2. キー・タイプ2(作業オーダークラス) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで作業オーダークラスのキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 3. キー・タイプ3(契約番号) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで契約番号のキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 4. キー・タイプ4(親契約番号) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで親契約番号のキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 5. キー・タイプ5(顧客番号) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで顧客番号のキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 6. キー・タイプ6(作業/ビジネスユニット) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで作業/ビジネスユニットのキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 7. キー・タイプ7(作業クラス) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで作業クラスのキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 8. キー・タイプ8(会社) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで会社番号のキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 9. キー・タイプ9(割増テーブル用デフォルト) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで割増テーブル用デフォルトのキー・タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 10. テーブル生成タイプ1(請求、収益および追加料金割増) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで請求、収益および追加料金割増のテーブル生成タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 11. テーブル生成タイプ2(収益、割増一時変更) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで収益割増一時変更のテーブル生成タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |
| 12. テーブル生成タイプ3(追加料金割増一時変更) | この処理オプションをblankにすると、ユーザーはこのアプリケーションで追加料金割増一時変更のテーブル生成タイプにアクセスできます。アクセスを有効にする必要がない場合は、「1」を入力します。 |

請求料金/割増テーブルの設定

「請求料金/割増テーブルの処理」フォームで「追加」をクリックして、「請求レート/割増の改訂」フォームにアクセスします。

請求料金/割増テーブル - 請求レート/割増の改訂

請求料金/割増テーブルの処理

請求レート/割増の改訂

OK(O)

検索(O)

削除(D)

取消(L)

フォーム(F)

ロー(R)

前

次

ツール(T)

作成タイプ *

1

請求書/収益/追加の金額

開始日付 *

2005/01/01

キー・タイプ *

2

作業オーダー・クラス

終了日付 *

2008/12/31

テーブル・キー *

C01

コンコース・セキュリティ

通貨コード

USD

U.S. Dollar

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	開始 主科目	終了 主科目	開始 補助科目	終了 補助科目	割増料金 一時変更	上限 あり	割増率	割増 金額	職務 タイプ	職務	原価 プール	所属 ビジネスユニッ
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1342			100.00	1		50.00				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1350	1350					10.000					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1355	1355			50.00							
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1366	1370										
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1342			70.00				50PE			
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1342			120.00				50PM			
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1342			50.00				50SU			
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1341	1342					175.000		61			
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	8110	8115			100.00							
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	8116	8120			125.00							

「請求レート/割増の改訂」フォーム

生成タイプ

請求金額、収益金額、および追加料金に適用されるバッチ・タイプと割増規則を決定するコードを入力します。バッチ・タイプはバッチが作成されるときに割り当てられます。請求固定情報の設定によって、各金額に適用される割増規則が決まります。値は次のとおりです。

1: 請求書、収益および追加料金の金額に割増規則を適用します。請求固定情報によって、請求書金額と収益金額が常に同じになるよう指定されている場合は、収益、請求書および追加料金の金額に対して割増規則が適用されます。請求固定情報によって、請求書金額と収益金額が異なるよう指定されている場合でも、タイプ2の規則が存在しないときには、収益、請求書および追加料金の金額に対して割増規則が適用されます。

2: 収益および追加料金の金額に割増規則を適用します。請求固定情報によって、請求書金額と収益金額が異なるよう指定されている場合は、収益および追加料金の金額にのみ割増規則が適用されます。

3: 追加料金の金額にのみ割増規則を適用します。この規則は、請求固定情報の設定に依存しません。

P: 多通貨勤怠管理取引にのみ割増規則を適用します。

通貨コード

基本通貨コードを入力します。ビジネスユニットの会社の通貨コードが使用されます。

割増料金一時変更

製図技師、エンジニア、コンサルタントなどの専門的サービス担当者の請求に反映される、収益金額の割増に使用するレートを入力します。このレートは従業員への給与に影響を及ぼしません。一時変更レートまたは上限レートとして割増レートを使用できます。

収益割増の合計に対するレート一時変更の計算は、次のとおりです。

$$(\text{レート一時変更} \times \text{数量}) \times (1 + \text{割増率}) + \text{割増金額}$$

上限レートが指定されている場合は、レート一時変更が原価取引のレートと比較されます。比較後、より低いレートが一時変更レートとして使用されます。

請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して、一時変更または上限の単位レートを設定します。

契約/サービス請求管理では、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求固定情報の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。生成タイプ1を使用して請求、収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定し、生成タイプ2を使用して収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定します。

生成タイプ1を使用して、請求固定情報で収益金額と請求金額が異なるように設定されている場合にのみ請求、収益および追加料金の割増レートを指定します。

割増レートを入力して、既存のレートを一時変更できます。たとえば、標準のコンサルティング手数料を通常の時給よりも高くする場合は、そのコンサルティング手数料をこのフィールドに入力します。

また、このフィールドを「上限あり」フィールドと組み合わせて使用して、入力の上限レートを指定することもできます。

上限あり

関連付けられた金額がレートの上限であることを示すには、「1」を入力します。関連付けられた金額が一時変更レートであることを示すには、このフィールドをブランクにします。「1」を入力すると、原価レートが上限レートよりも低い場合はその原価レートが使用され、原価レートが上限レートよりも高い場合は上限レートが使用されます。

割増率

製図技師、エンジニア、コンサルタントなどの専門的サービス担当者の請求に反映される、収益金額の割増に使用するパーセントを入力します。このパーセントは従業員への給与に影響を及ぼしません。割増率は請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)で設定されます。設定では、生成タイプ1を使用して、収益と請求の割増率のテーブルを指定します。

パーセントは整数で入力してください。たとえば、50.275%の場合は、「50.275」と入力します。

このフィールドでは、収益認識の金額に関する割増率を含めることができます。

サービス請求管理では、生成タイプ1を指定して請求料金/割増テーブルを設定できます。このように設定すると、収益認識で使用される金額とは異なる単一原価取引の請求金額を入力および維持できます。生成タイプ2を指定したテーブルでは、このフィールドを使用して、テーブル入力値の収益認識金額専用の割増率を適用できます。

割増金額

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。

職務タイプ

UDC 07/Gのコードを入力します。これらのコードによって、組織内での作業が設定されます。職務タイプに給与および福利厚生情報を関連付けて、その情報をその職務タイプにリンクされている従業員に適用できます。

職階

UDC 07/GSのコードを入力します。これらのコードによって、特定の作業タイプ内の特定レベルが指定されます。賃率テーブルの職務によって賃率を決定できるよう、職務タイプとともにこのコードが使用されます。

原価プール	ビジネスユニット・マスター (F0006) と関連付けられているカテゴリ・コード 12 の値を入力します。このコードはユーザー定義コード (00/12) であり、任意勘定科目のマッピングおよび選択したデータのレポートへの印刷に使用します。
所属ビジネスユニット	従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。
従業員 No.	住所録システムの従業員を識別する番号を入力します。
支払タイプ	支払、控除、福利厚生または有給のタイプを定義するコードを入力します。 支払タイプには、1 から 999 のコードが付けられています。控除および福利厚生には、1000 から 9999 のコードが付けられています。
設備 No.	資産を一意に識別する 8桁の番号を入力します。
料金コード	DY (日次)、MO (月次)、WK (週次) などの請求料金を指定する UDC 00/RC のコードを入力します。設備品目 1 つに対して複数の請求料金を設定できます。 このフィールドをブランクにすると、次の順序で有効な請求料金が検索されます。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 勘定科目マスター (F0901) このテーブルには請求料金に関する最も詳細な情報が含まれます。1 つのジョブに複数の請求料金を割り当てることができます。たとえば、複数の設備稼働条件に対して別個の請求料金を設定できます。 2. ビジネスユニット・マスター (F0006) このテーブルには、勘定科目マスターよりも大まかな請求料金情報が含まれます。このテーブルに基づいて各ジョブに設定できる請求料金は 1 種類のみです。 3. 賃貸規則 (F1302) このテーブルにはレート・コードに関する最も単純な情報が含まれます。このテーブルの情報は、テーブル設定時に定義した検索基準に基づいて検索されます。 このコードにより、設備品目ごとに複数の請求料金を適用できます。たとえば、車両のガソリン原価の割増とは異なる割増をその車両の保守に設定できます。
料金グループ	類似した請求品目をグループ化する UDC 12/C0 のコードを入力します。キャピタル・アセット・マネジメントを使用している場合は、このカテゴリ・コードを料金グループのみに使用する必要があります。
原価追加料金テーブル	追加料金の計算をこの割増規則に関連付けるには、このフィールドに入力します。
請求/収益追加テーブル	追加料金の計算をこの割増規則に関連付けるには、このフィールドに入力します。
一時変更記述	請求対象明細取引に適用する説明、備考、摘要、名前、または住所を入力します。これは任意のフィールドであり、関連するソース取引の説明を一時変更するために使用できます。

注意: 勘定科目範囲をブランクにすると、主要キー内のすべての勘定科目範囲にこの割増規則が適用されます。ソース取引に関連する割増定義に桁ワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用できます。たとえば、ソース取引の主科目が1340だとします。取引の割増を行うために主科目を1***として設定した場合、このワークファイル取引が割増されます。

給与計算専用の割増規則を設定するには、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

職務タイプ

職階

原価プール

所属ビジネスユニット

従業員No.

支払タイプ

設備専用の割増規則を設定するには、次のフィールドのいずれかに値を入力します。

設備番号

料金コード

料金グループ

給与計算と設備の情報は相互排他です。

請求料金/割増規則のコピー

「請求料金/割増テーブルの処理」フォームにアクセスします。

請求料金/割増規則をコピーするには、次の手順に従います。

1. コピーする規則を選択し、「コピー」をクリックして、「請求レート/割増の改訂」フォームにアクセスします。
選択した規則のコピーが表示されます。
2. 「請求レート/割増の改訂」フォームで、規則の新しい有効日付を入力します。
3. 必要に応じて、「キー・タイプ」、「テーブル・キー」、または「通貨コード」のフィールドの情報を変更します。

税決定規則の設定

この項では、税決定規則の概要、事前設定、および税決定基準テーブルの設定方法について説明します。

注意: これは、サービス請求管理用の任意の項です。サービス請求管理を導入する場合、この項で説明するタスクを実行するかどうかは、商慣習に従って選択できます。契約請求管理を導入する場合は、この項で説明しているタスクを実行する必要はありません。

税決定規則について

税決定規則を設定して、作業オーダー取引に適用する税情報を指定します。税決定規則を設定しない場合は、作業オーダー情報で指定した税情報が使用されます。作業マスター情報で税情報を指定していない場合は作業マスターの情報が使用され、作業マスターに情報が存在しない場合は顧客マスターが使用されます。

税決定規則を設定するには、次の情報を指定する必要があります。

- キー・タイプとテーブル・キー
- 有効日付範囲
- 主科目と補助科目の範囲

原価を累積するか、またはワークファイル取引を改訂した場合、税規則に指定したキー情報に基づいて各取引に適切な税規則が適用されます。

事前設定

税率および税目コードを設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 税処理 9.0 製品ガイド、「税情報の設定」

税決定規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
税額計算基準の改訂	W48127C	「テーブル情報」メニュー (G48S41)、「税決定基準テーブル」 「税決定基準テーブルの処理」フォームで「追加」をクリックします。	税決定規則を設定します。

税決定基準テーブルの設定

「税額計算基準の改訂」フォームにアクセスします。

税決定基準テーブル - 税額計算基準の改訂

税決定基準テーブルの処理 税額計算基準の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) 前 次 ツール(T)

キー・タイプ * 1 作業オーダー

テーブル・キー * 65017 Security Services

開始日付 * 2005/01/01 終了日付 * 2006/12/31

レコード 1-3

	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	税率/税域	税目コード	固有キーID
<input type="checkbox"/>	1341	1343			CO	V	3
<input type="checkbox"/>	8121	8999			CO	V	2
<input type="checkbox"/>							

「税額計算基準の改訂」フォーム

税率/税域

適切な税率と納税先が割り当てられている税域または地域を示すコードを入力します。入力したコードは、税域テーブル(F4008)に対して検証されます。この税率/税域は、請求書または伝票を作成する際に、税目コードおよび税規則とともに税額と勘定科目情報の金額の計算に使用されます。

税率/税域を指定するか、次のいずれかの値を入力できます。

*CC: ビジネスユニットの税率/税域および税目コードを使用します。

*WO: 作業オーダーの税率/税域および税目コードを使用します。

税目コード

UDC (00/EX) のコードを入力します。このコードにより、税額や勘定科目情報の金額の計算に使用するアルゴリズムが制御されます。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせて税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。

注意: 「開始主科目」、「終了主科目」、「開始補助科目」、および「終了補助科目」のフィールドに入力して、規則に関する勘定科目の範囲を指定します。

「税率/税域」および「税目コード」のフィールドに入力して、規則に関する税情報を指定します。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の相手勘定/留保金規則の設定

この項では、JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の相手勘定/留保金規則の概要、事前設定、および相手勘定/留保金テーブルの設定方法について説明します。

注意: これは、JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理用の任意の項です。この項で説明するタスクを実行するかどうかは、商慣習に従って選択できます。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理を導入する場合は、この項で説明しているタスクを実行する必要はありません。留保金規則テーブルのプログラム (P5204) を使用して、契約の留保金規則を設定します。

参照: 第 9 章、「契約の設定」、「契約の留保金規則の定義」、190 ページ

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の相手勘定/留保金規則について

ワークファイル取引を生成または改訂する前に、相手勘定と留保金の計算規則を設定できます。この情報は、相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)に保存されます。

相手勘定/留保金テーブルには次の項目が定義されます。

- 相手勘定および支払条件の一時変更
- 留保金情報
- 通貨モードの一時変更

これらの情報の設定に相手勘定/留保金テーブルを使用しなかった場合は、顧客マスター情報の相手勘定および支払条件が使用され、留保金は計算されません。

請求書を生成するとき、取引ごとに次のフィールドに値が入力されます。

- 支払条件

- 相手勘定
- 留保パーセント
- 留保金相手勘定
- 留保金税計算

複数のキー・タイプとテーブル・キーを使用して、相手勘定/留保金テーブルを設定します。これらのキー値を使用して、相手勘定および支払条件が、同じ値を持つ請求明細取引に関連付けられます。

相手勘定/留保金テーブルのキー・タイプおよびテーブル・キー

キー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて使用すると、相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)の入力をより詳細に設定できます。キー・タイプは次のとおりです。

1. 作業オーダー
2. 作業オーダー・クラス
3. 顧客番号
4. ビジネスユニット番号
5. ビジネスユニット・クラス

たとえば、勘定規則を作業オーダー番号別に設定する必要がある場合は、キー・タイプ1と、特定の作業オーダーのテーブル・キーを使用します。3つの作業オーダーにそれぞれ異なる勘定規則が必要な場合は、キー・タイプ1と、テーブル・キーとして特定の作業オーダーを指定して3つの異なる規則を設定する必要があります。

相手勘定/留保金テーブルの主要キー

設定する相手勘定/留保金規則ごとに1つの主要キーを指定する必要があります。キー・タイプによって、相手勘定/留保金テーブルのエントリに主要キー値のタイプを定義します。ハードコードされている5つの値が使用されます。テーブル・キーでは、キー・タイプに基づいて主要キー値をより詳細に定義します。

相手勘定および支払条件の一時変更

相手勘定および支払条件の情報を入力して、顧客マスター(F0301)の顧客用に設定されている相手勘定および支払条件を一時変更します。

相手勘定によって、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)を実行するときに相殺仕訳が作成される勘定科目が特定されます。エントリが存在しない場合、顧客マスターの顧客に定義されている相手勘定が使用されます。

支払条件は、売掛仕訳の作成プログラムを実行して請求書を生成するとき、支払期日および割引を特定するために使用されます。エントリが存在しない場合、顧客マスターの顧客に定義されている支払条件が使用されます。

留保金情報

留保金は、作業完了後に支払われる請求書支払項目のパーセントです。売掛仕訳の作成プログラムを実行すると、留保額用の仕訳が個別に作成されます。

次の表に、留保金に関連する「相手勘定/留保金テーブルの改訂」フォームのフィールドを示します。

フィールド	説明
留保パーセント	作業が完了するまで留保または支払保留される請求金額のパーセントを指定します。パーセントが入力されない場合、留保額は計算されません。
留保金相手勘定	売掛仕訳の作成プログラムを実行して留保額を算出する場合は、相殺仕訳が作成される勘定科目を指定します。
留保金税計算	留保額がJD Edwards EnterpriseOne売掛管理または一般会計システムに保存されているかどうか、および税の計算方法を示します。課税対象金額合計に対する税金を計算するか、留保額の税金を税額合計から減算して、留保金がリリースされるまで留保額の税金を繰り延べることができます。

個別の取引の通貨モードの一時変更

通貨モードにより、契約/サービス請求管理内の個別の取引に関する金額の計算方法および保存方法を管理します。このモードは請求固定情報における一括設定であり、すべての固定情報の場合と同様に、設定後は変更しないことをお勧めします。

計算の場合、国内通貨モードは国内通貨金額から外貨への換算を示し、外貨モードは外貨金額から国内通貨への換算を示します。

相手勘定/留保金テーブルのプログラム(P48128)を使用して、請求固定情報のグローバル通貨モード設定を一時変更します。請求固定情報の通貨モードが外貨モードに設定されているが、特定の作業を国内通貨で管理する必要がある場合、その作業の相手勘定/留保金テーブルを国内モードで設定できます。「通貨モード」オプションによって、請求処理中に固定される通貨が決定されます。

相手勘定/留保金テーブルのプログラム(P48128)で、「通貨モード」オプションが正しく設定されていることを確認します。

相手勘定テーブルでこのオプションを「外貨」に設定すると、顧客通貨が固定通貨になり、ビジネスユニット通貨または会社通貨は非固定とみなされます。この場合、請求金額は顧客通貨で計算され、計算された外貨金額に基づいて国内通貨金額を換算します。

このオプションを「国内通貨」に設定すると、国内通貨または会社通貨が請求処理で固定されます。割増は会社通貨で計算され、計算された国内通貨金額に基づいて外貨金額を換算します。この設定により、請求固定情報で設定したオプションが一時変更されます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 支払条件および相手勘定のA/R AAIを設定します。
- 留保金相手勘定のAAIを設定します。
- 相手勘定/留保金規則の設定に使用される主要キー値を決定します。

相手勘定/留保金規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
相手勘定/留保金テーブルの改訂	W48128C	「テーブル情報」(G48S41)、「相手勘定/留保金テーブル」 「相手勘定/留保金テーブルの処理」で「追加」をクリックします。	相手勘定を設定して、住所録または顧客マスター情報の顧客情報を一時変更し、留保金の相殺仕訳が作成される勘定科目を含む留保率を指定します。

相手勘定/留保金テーブルの設定

「相手勘定/留保金テーブルの改訂」フォームにアクセスします。

相手勘定/留保金テーブル - 相手勘定/留保金テーブルの改訂

相手勘定/留保金テーブルの処理 相手勘定/留保金テーブルの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) 前 次 ツール(T)

キー・タイプ ★ 作業オーダー

テーブル・キー ★ Security - Perimeter Guards

支払条件

相手勘定

留保パーセント

留保金相手勘定

留保金税計算

通貨モード ☒ 国内 ☐ 外貨

「相手勘定/留保金テーブルの改訂」フォーム

支払条件

このフィールドに顧客情報を入力し、住所録または顧客マスター情報の顧客情報を一時変更します。

顧客のデフォルトの支払条件を示すコードを入力します。支払条件により、支払期日、割引額、割引期日が決まります。これらは、請求書の作成時に自動的に割り当てられます。最も頻繁に使用する支払条件にはブランク・コードを設定してください。支払条件には次のようなものがあります。

ブランク: 15日以内支払

1: 30日以内支払(10日以内に支払った場合1%割引)

2: 30日以内支払(10日以内に支払った場合2%割引)

D: 受取時払い

N: 30日以内支払

P: 毎月25日

留保パーセント	請求書支払項目の留保率を入力します。留保率は整数のパーセントで指定します。たとえば、留保率が10.5%の場合は、「10.5」と入力します。99.99より大きい留保パーセントやゼロより小さい留保パーセントを入力しないでください。
留保金相手勘定	留保金の相手勘定を指定するコードを入力します。たとえば、「RETN」または「1225」と入力して、売掛仕訳の作成プログラム (R48199) を実行するときに留保金の相殺仕訳が作成される勘定科目を指定します。AAIとしてコードを設定します。
	注意: コード9999は使用しないでください。このコードは、転記プログラム用の予約コードであり、相殺を行わないように指定するものです。
留保金税計算	<p>JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに留保金を保存し、課税対象金額合計から税を計算するには、このフィールドをブランクにします。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに留保金を保存し、留保金額に対する税を計算して、税額合計からその金額を差し引くには、「1」を入力します。留保金の税は、留保金がリリースされるまで繰り延べられます。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムに留保金を保存し、課税対象金額合計から税を計算するには、「2」を入力します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムに留保金を保存し、留保金額に対する税を計算して、税額合計からその金額を差し引くには、「3」を入力します。留保金の税は、留保金がリリースされるまで繰り延べられます。</p>
	注意: 請求固定情報で設定されている通貨モードを一時変更する場合は、通貨コードを指定します。

請求の AAI の設定

この項では、請求の会計 AAI、契約の請求 AAI、請求 AAI、請求 AAI のキー・タイプとテーブル・キー、請求 AAI の主要キー、請求 AAI の補助キー、請求書と総勘定元帳仕訳の生成用の AAI 処理、基本規則、および再配賦規則の概要を説明し、事前設定と共通フィールドを示し、次の方法について説明します。

- 請求 AAI (P48S95) の処理オプションの設定
- AAI 基本規則の設定
- AAI 再配賦規則の設定

注意: これは必須の項です。契約/サービス請求管理を導入する場合は、この項で説明するタスクを実行する必要があります。

請求の会計 AAI について

請求管理システムと JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムが情報のやり取りをする規則を設定するために、RC (売掛金勘定) AAI を設定する必要があります。契約/サービス請求管理では、RC AAI (売掛金勘定) を使用して、売掛金および留保金に関する仕訳の借方用の勘定科目を決定します。

AAI の情報は AAI マスター (F0012) に保存されます。

AAI を変更する前に、その細部まで理解しておく必要があります。

契約/サービス請求管理では、次の AAI を使用します。

- RC – 売掛金勘定。
- RCxxxx – 売掛金。xxxxは顧客マスター・レコードまたは相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)で設定した相手勘定を表します。
- RTxxxx – 未払の売上税または付加価値税(VAT)。xxxxは、顧客マスター・レコードまたは相手勘定/留保金情報テーブルで設定した相手勘定を表します。
- RTVATD – 売掛金の繰延税。
- RCRETN – 未収留保金勘定。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 税処理 9.0 製品ガイド、「税情報の設定」

契約の請求AAIについて

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムと一般会計システムが情報のやり取りをする規則を設定するために、BC AAIを設定する必要があります。契約請求管理では、適切な請求行および請求行タイプにBC AAIを使用して、収益の仕訳の貸方に関する総勘定元帳の勘定科目を決定します。

注意: BC AAIは、非T&M請求行にのみ使用されます。

AAIの情報はAAIマスター(F0012)に保存されます。

AAIを変更する前に、その細部まで理解しておく必要があります。

契約請求管理システムで使用されるAAIは次のとおりです。

- BC01: 総額
- BC02: 単価
- BC03: 手数料行
- BC04: マイルストーン請求
- BC05: 進捗請求
- BC06: 直接分割融資
- BC07: 率による分割融資
- BC08: 収益行の完了率計算方法
- BC09: 収益行の請求割合方式

請求AAIについて

テスト・モードまたは最終モードで仕訳を生成する前に、請求AAIで勘定規則を設定する必要があります。請求AAIは、日次会計業務、勘定科目表、および財務レポート間のリンクです。請求AAIは、元帳仕訳を自動作成する方法を決定する際に使用されます。たとえば、契約/サービス請求管理では、請求AAIによって、顧客に提供した商品やサービスの請求金額計算時に取引に入力する方法が決定されます。

各請求AAIは、ビジネスユニット、主科目、および任意の補助科目、補助元帳、補助元帳タイプで構成される特定の勘定科目に関連付けられます。

顧客請求書で税を徴収する場合は、請求AAIを使用してその税額を適切な勘定科目に割り当てます。

請求AAIは請求AAI情報テーブル(F48S95)に保存されます。

実績収益勘定科目(4811) - 必須

収益勘定科目の請求AAI番号4811は必須です。この請求AAIでは、仕訳に割り当てられる実績収益勘定科目を定義します。

この請求AAIを使用して、収益を収益勘定科目の貸方に計上します。請求固定情報プログラム(P48091)で「仕訳作成の制御」オプションが1(請求のみ)または4(調整ありの請求/収益認識)に設定されている場合、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)の実行時に収益がこの勘定科目の貸方に計上されます。仕訳生成固定情報が2(収益のみ)または3(請求/収益認識)に設定されている場合、総勘定元帳仕訳の作成プログラム(R48198)の実行時に、この勘定科目の貸方に計上されます。

未払税勘定科目(4815)

未払税勘定科目の請求AAI番号4815は任意です。この請求AAIでは、仕訳に割り当てられる未払税勘定科目を定義します。ワークファイル取引からの税額は、この勘定科目の貸方に計上されます。この請求AAIを設定しない場合、税額は請求4811(実績収益)用に設定した収益勘定科目の貸方に計上されます。

この請求AAIは、請求書仕訳の生成時に、収益に関係なく売上税またはPST(州売上税)を配賦するために使用します。VATやGST(物品サービス税)を配賦する場合は、売掛管理AAIを使用します。この請求AAIを使用しても、再配賦規則は自動的に有効化されません。

注意: 売上税の金額は、Vertexがアクティブで、「契約請求行詳細の改訂」フォームで「請求AAI制御」フィールド(ACCO)が0(収益勘定)に設定されている場合、RTxxxx AAIに記録されます。

課税対象売掛金勘定科目(4822および4823)

課税対象売掛金勘定科目の請求AAI番号4822および4823は任意です。これらの請求AAIを使用して、ワークファイル取引から課税対象請求額の仕訳を作成します。

AAI 4822では、請求書仕訳の作成時に貸方に計上する課税対象売掛金勘定科目を定義し、AAI 4823では、請求書仕訳の作成時に借方に計上する課税対象売掛金勘定科目を定義します。

請求書仕訳を作成すると、これらの勘定科目が借方と貸方に計上されます。これらの請求AAIは任意ですが、請求AAI 4822を設定した場合は、貸借を一致させるために請求AAI 4823も設定する必要があります。

見越し収益勘定科目(4831)

見越し(未請求)収益勘定科目の請求AAI番号4831は、請求固定情報プログラム(P48091)の「仕訳作成の制御」オプションが4(調整ありの請求/収益認識)に設定されている場合は必須です。設定されていない場合、この請求AAIは使用されません。

収益認識時に、この請求AAIを使用して、収益を見越し収益勘定科目の貸方に計上します。その後、請求書の処理中に、収益金額がこの勘定科目の借方に計上され、課税対象請求額が請求AAI 4811 - 実績収益の貸方に計上されます。この請求AAIを使用しても、再配賦規則は自動的に有効化されません。

見越し売掛金勘定科目(4832)

見越し(未請求)売掛金勘定科目の請求AAI番号4832は、請求固定情報プログラム(P48091)の「仕訳作成の制御」オプションが2(収益のみ)、3(収益認識ありの請求)、または4(調整ありの請求/収益認識)に設定されている場合は必須です。設定されていない場合、この請求AAIは使用されません。

収益認識時に、この請求AAIを使用して、収益を見越し(未請求)売掛金勘定科目の借方に計上します。「仕訳作成の制御」オプションが3または4に設定されている場合、請求書仕訳の生成時に、収益金額がこの勘定科目の貸方に計上されます。この請求AAIを使用しても、再配賦規則は自動的に有効化されません。

仕掛品勘定科目(4841)および売上原価勘定科目(4842)

仕掛品(WIP)勘定科目の請求AAI番号4841は、原価がワークファイル取引と関連付けられている場合に原価取引を処理するために必須となります。関連付けられていない場合は任意です。この請求AAIでは、仕訳に割り当てられる仕掛品勘定科目を定義します。ワークファイル取引からの原価金額は、この勘定科目の貸方に計上されます。仕掛品勘定科目を入力した場合、請求AAI番号4842(売上原価)を設定して、貸借一致仕訳を作成する必要があります。この請求AAIを使用して、WIP勘定科目の原価を削減します。

売上原価勘定科目の請求AAI番号4842は、請求4841(仕掛品)の基本規則を設定した場合は必須です。貸借一致仕訳を作成するために、請求AAI 4842への入力が必要となります。この請求AAIを使用して、原価を売上原価勘定科目の借方に計上します。

収益粗利益勘定科目(4871および4872)

収益粗利益勘定科目の請求AAI番号4871および4872は任意です。これらの請求AAIを使用して、収益粗利益金額の仕訳を作成します。収益粗利益金額は、ワークファイル取引の収益金額から原価金額を差し引いて算出されます。

AAI 4871では、総勘定元帳仕訳の作成時に貸方に計上する収益粗利益勘定科目を定義し、AAI 4872では、総勘定元帳仕訳の作成時に借方に計上する収益粗利益勘定科目を定義します。

元帳仕訳を作成すると、これらの勘定科目が借方と貸方に計上されます。これらの請求AAIは任意ですが、請求AAI 4871を設定した場合は、貸借を一致させるために請求AAI 4872も設定する必要があります。

請求粗利益勘定科目(4873および4874)

請求粗利益勘定科目の請求AAI番号4873および4874は任意です。これらの請求AAIを使用して、請求粗利益金額の仕訳を作成します。請求粗利益金額は、ワークファイル取引の請求金額合計から原価金額を差し引くことで計算されます。

AAI 4873では、請求書仕訳の作成時に貸方に計上する請求粗利益勘定科目を定義し、AAI 4874では、請求書仕訳の作成時に借方に計上する請求粗利益勘定科目を定義します。

請求書仕訳を作成すると、これらの勘定科目が借方と貸方に計上されます。これらの請求AAIは任意ですが、請求AAI 4873を設定した場合は、貸借を一致させるために請求AAI 4874も設定する必要があります。

最高限度相殺(4851および4852)

最高限度(NTE)相殺の請求AAI番号4851および4852は任意です。これらの請求AAIを使用して、NTE超過の適切な勘定科目をサポートする仕訳を作成します。収益認識時に、認識済の収益がチェックされ、現在のワークファイル取引の収益金額が追加され、その合計が契約のNTE上限と照合され、検証されます。合計金額がNTE上限を超えた場合は、上限を超過した金額を表すNTE相殺ワークファイル取引が作成されます。

- 4851: 収益の認識時に、貸方に計上するNTE相殺勘定科目を定義します。
- 4852: 収益の認識時に、借方に計上するNTE相殺勘定科目を定義します。

収益認識に最終の総勘定元帳仕訳を作成すると、これらの勘定科目が借方と貸方に計上されます。これらの請求AAIは任意ですが、請求AAI 4851を設定した場合は、貸借を一致させるために請求AAI 4852も設定する必要があります。

注意: 請求AAI 4851と4852は契約にのみ使用され、サービス請求管理の取引には必要ありません。

請求AAIのキー・タイプおよびテーブル・キーについて

次のキー・タイプをテーブル・キーと組み合わせて使用すると、請求AAIテーブルをより詳細に設定できます。

- 1: 作業オーダー
- 2: 作業オーダー・クラス
- 3: 契約番号
- 4: 親契約番号
- 5: 顧客番号
- 6: ビジネスユニット番号
- 7: ビジネスユニット・クラス
- 8: 会社番号
- 9: デフォルト

たとえば、勘定規則を作業オーダー別に設定する必要がある場合は、キー・タイプ1と、特定の作業オーダーのテーブル・キーを使用します。3つの作業オーダーにそれぞれ異なる勘定規則が必要な場合は、キー・タイプ1と、テーブル・キーとして特定の作業オーダーを指定して3つの異なる基本勘定規則を設定する必要があります。

請求AAIの主要キーについて

設定する請求AAIテーブルごとに1つの主要キーを指定する必要があります。主要キーには、次のようなものがあります。

請求AAI

作成した仕訳のタイプに対応しています。たとえば、AAI 4811(実績収益勘定科目)によって、請求または収益認識の処理時に収益の貸方に計上する勘定科目が示されます。

キー・タイプ

請求AAIの主要キー値のタイプを定義します。ハードコードされている次の値が使用されます。

- 作業オーダー
- 作業オーダー・クラス
- 契約番号
- 親契約番号
- 顧客
- 職務またはビジネスユニット
- 作業クラス
- 会社
- デフォルト

テーブル・キー

キー・タイプに基づいて、契約/サービス請求管理の様々なテーブルに請求明細取引の情報が存在することを確認するために使用される主要キー値を定義します。

有効日付

請求AAIテーブルが有効な期間を指定します。請求AAIの検索時に、ワークファイル取引のテーブル比較基準日が、これらの日付と比較されます。

請求AAIの補助キーについて

設定した請求AAIテーブルごとに、少なくとも1つの補助キーを指定する必要があります。補助キーには、次のようなものがあります。

開始主科目、終了主科目、開始補助科目、終了補助科目

勘定規則の割当に使用する主科目と補助科目の範囲を指定します。この勘定規則を使用するには、ワークファイル取引の主科目と補助科目が指定した範囲に含まれている必要があります。主科目の範囲をブランクにすると、すべての主科目がその規則の対象となります。補助科目の範囲をブランクにすると、すべての補助科目がその規則の対象となります。

結果の取引が契約/サービス請求管理によって再処理されないように、この範囲で選択した勘定科目を請求不可とする必要があります。

補助元帳、補助元帳タイプ

勘定規則の割当に使用する補助元帳と補助元帳タイプを指定します。この勘定規則を使用するには、ワークファイル取引の補助元帳と補助元帳タイプがこれらの入力と一致している必要があります。補助元帳と補助元帳タイプをブランクにすると、すべての補助元帳およびタイプがその規則の対象となります。補助元帳を入力した場合は補助元帳タイプを入力する必要があります。逆に、補助元帳タイプを入力した場合は補助元帳を入力する必要があります。

注意: この勘定規則をキー・タイプ1に設定した場合、テーブル・キー値として割り当てた作業オーダーが、デフォルト値として補助元帳タイプWの補助元帳に指定されます。

相手勘定

勘定規則の割当に使用する相手勘定を指定します。「相手勘定」フィールドをブランクにすると、すべての相手勘定がその規則の対象となります。ワークファイル取引の相手勘定がこの値と比較されます。ただし、税率/税域テーブルで設定した納税先の相手勘定に使用されるAAI番号4815(未払税)は除きます。

追加料金コード

勘定規則の割当に使用する追加料金コードを指定します。基本および追加料金のワークファイル取引でこの勘定規則を使用できるようにするには、このフィールドをブランクのままにします。有効な追加料金コードでこのフィールドを更新し、基本のワークファイル取引に対して設定されている勘定規則とは異なる勘定規則を、追加料金ワークファイル取引に割り当てます。追加料金のワークファイル取引と厳密に一致する追加料金コードが請求AAIテーブルにない場合は、基本ワークファイル取引に設定した勘定規則が使用されます。

たとえば、基本ワークファイル取引にOVH(間接費)、GA(一般管理費)、およびFEE(手数料)の3つの追加料金ワークファイル取引があり、勘定規則に割り当てられたOVH収益を基本ワークファイル取引やその他の追加料金ワークファイル取引とは異なるものにする場合は、勘定規則を2つ設定します。1つはOVH収益を処理するための勘定規則で、「追加料金コード」フィールドをOVHに設定します。もう1つは基本、GA、およびFEEのワークファイル取引用の勘定規則で、追加料金コードはブランクとします。

間接費カテゴリ

勘定規則の割当に使用する間接費カテゴリを指定します。追加料金コードと同様に、間接費カテゴリを使用して勘定規則が割り当てられます。間接費カテゴリと追加料金コードはいずれか1つのみ使用できます。間接費カテゴリの例として、FR(付加給与)およびOV(間接費)などがあります。

請求固定情報プログラム (P48091) で「間接費使用」チェックボックスを選択した場合にのみ、「AAI基本規則の改訂」フォームにこのフィールドが表示されます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ

請求書および総勘定元帳仕訳の生成用の AAI 処理について

総勘定元帳仕訳の生成と請求書仕訳の生成では AAI 処理が異なります。この項の表では、請求固定情報プログラム (P48091) の「仕訳作成の制御」の設定、およびワークファイル取引の適格性コード割当に関して、請求書仕訳の生成と総勘定元帳仕訳の生成における様々な AAI 処理を示します。借方金額と貸方金額は、非課税のワークファイル取引に保存された金額に基づく、各仕訳項目のサンプル金額を表します。

フィールド	金額
原価金額 (WDAA)	750.00 USD
収益金額 (WDBTOL)	1000.00 USD
課税対象額 (WDITXA)	1000.00 USD
税額 (WDITAM)	0.00 USD
請求金額 (WDITOL)	1000.00 USD

総勘定元帳仕訳の生成

次の表は、仕訳生成固定情報が「請求のみ」、「請求/収益 - 調整なし」または「請求/収益 - 調整あり」であり、適格性コードが 1 (請求書のみを使用可能) である場合に、総勘定元帳仕訳の生成に使用される AAI を示しています。入力には請求書バッチに関連付けられた総勘定元帳バッチとして処理されます。

AAI テーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00 (貸方)
4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00 (借方)
4841	仕掛品	WDAA	任意	750.00 (貸方)
4842	原価	WDAA	任意	750.00 (借方)
4873	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00 (貸方)
4874	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00 (借方)

次の表は、仕訳生成固定情報が「収益のみ」、「請求/収益 - 調整なし」または「請求/収益 - 調整あり」であり、適格性コードが 2 (収益のみを使用可能) である場合に、総勘定元帳仕訳の生成に使用される AAI を示しています。

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4811	実際収益	WDBTOL	必須	1,000.00(貸方)
4832	見越し売掛金	WDBTOL	必須	1,000.00(借方)
4841	仕掛品	WDAA	任意	750.00(貸方)
4842	原価	WDAA	任意	750.00(借方)
4871	収益粗利益	WDBTOL - WDAA	任意	250.00(貸方)
4872	収益粗利益	WDBTOL - WDAA	任意	250.00(借方)

次の表は、仕訳生成固定情報が「請求/収益 - 調整なし」であり、適格性コードが0(請求/収益用に使用可能)である場合に、総勘定元帳仕訳の生成に使用されるAAIを示しています。

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4811	実際収益	WDBTOL	必須	1,000.00(貸方)
4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00(貸方)
4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00(借方)
4832	見越し売掛金	WDBTOL	必須	1,000.00(借方)
4841	仕掛品	WDAA	任意	750.00(貸方)
4842	売上原価	WDAA	任意	750.00(借方)
4871	収益粗利益	WDBTOL - WDAA	任意	250.00(貸方)
4872	収益粗利益	WDBTOL - WDAA	任意	250.00(借方)
4873	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00(貸方)
4874	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00(借方)

次の表は、仕訳生成固定情報が「請求/収益 - 調整あり」であり、適格性コードが0(請求/収益用に使用可能)である場合に、総勘定元帳仕訳の生成に使用されるAAIを示しています。

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00(貸方)
4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00(借方)
4831	見越し収益	WDBTOL	必須	1,000.00(貸方)
4832	見越し売掛金	WDBTOL	必須	1,000.00(借方)

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4841	仕掛品	WDAA	任意	750.00(貸方)
4842	売上原価	WDAA	任意	750.00(借方)
4871	収益粗利益	WDBTOL - WDAA	任意	250.00(貸方)
4872	収益粗利益	WDBTOL - WDAA	任意	250.00(借方)
4873	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00(貸方)
4874	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00(借方)

次の表は、仕訳生成固定情報が「任意」であり、適格性コードが4(原価のみに使用可能)である場合に、原価取引の総勘定元帳仕訳の生成に使用されるAAIを示しています。

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4841	仕掛品	WDAA	任意	750.00(貸方)
4842	売上原価	WDAA	任意	750.00(借方)

適格性コードが5(A/Pのみに使用可能)である場合は、総勘定元帳仕訳は生成されません。

請求書仕訳の生成

仕訳生成固定情報が「収益のみ」である場合は、請求書仕訳を生成する必要はありません。

次の表は、仕訳生成固定情報が「請求のみ」、「請求/収益 - 調整なし」または「請求/収益 - 調整あり」であり、適格性コードが1(請求書のみに使用可能)である場合に、請求書仕訳の生成に使用されるAAIを示しています。

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4811	実際収益	WDITOL	必須	1,000.00(貸方)
4815	税	WDITAM	任意	0.00(貸方)
RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	1,000.00(借方)

次の表は、仕訳生成固定情報が「請求/収益 - 調整なし」であり、適格性コードが0(請求/収益用に使用可能)である場合に、請求書仕訳の生成に使用されるAAIを示しています。

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4832	見越し売掛金	WDITOL	必須	1,000.00(貸方)
4815	税	WDITAM	任意	0.00(貸方)
RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	1,000.00(借方)

次の表は、仕訳生成固定情報が「請求/収益 - 調整あり」であり、適格性コードが0（請求/収益用に使用可能）である場合に、請求書仕訳の生成に使用されるAAIを示しています。

AAIテーブル番号	勘定科目	金額の取込み	用途	入力額
4831	見越し収益	WDITOL	必須	1,000.00（借方）
4832	見越し売掛金	WDITOL	必須	1,000.00（貸方）
RC + GLC	売掛金	W4THPD	必須	1,000.00（借方）
4811	実際収益	WDBTOL	必須	1,000.00（貸方）
4815	税	WDITAM	任意	0.00（貸方）
4831	見越し収益	WDBTOL	必須	1,000.00（貸方）
4822	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00（貸方）
4823	課税対象売掛金	WDITXA	任意	1,000.00（借方）
4873	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00（貸方）
4874	請求粗利益	WDITOL - WDAA	任意	250.00（借方）
4832	見越し売掛金	WDBTOL	必須	1,000.00（借方）

基本規則について

基本規則では、請求処理、原価計算および収益認識の仕訳が作成される場合に、どの勘定科目が使用されるようにするかを指定します。システムでは、基本および追加料金のワークファイル取引の金額の100%に対して、基本規則を使用して仕訳を作成します。基本規則におけるパーセント基準は100%に設定されている必要があります。

再配賦規則について

再配賦規則は金額を別の勘定科目に移動するときに使用されます。再配賦規則は2つ以上の相殺仕訳で構成され、これらの仕訳は貸借が一致する必要があります。たとえば、1つ目の相殺仕訳が基本規則で設定された仕訳に対する減額を表すとし、2つ目の仕訳は、新しい勘定科目に対する増額を表すとし、再配賦規則に含めるパーセントの合計は0である必要があります。貸方の再配賦規則にマイナスのパーセントを入力する必要はありません。

任意のAAIの、任意の基本規則に基づいて再配賦規則を設定できます。ただし、4831の見越し（未請求）収益および4832の見越し（未請求）売掛金は除きます。これらのAAIでは再配賦規則が有効ではありません。これは、請求固定情報の仕訳作成の制御設定に応じて、これらのAAIが貸方または借方に計上される場合があり、再配賦規則の貸方または借方のオプションによって誤処理が発生する可能性があるためです。

収益または課税対象売掛金の配賦仕訳に再配賦規則を割り当てる場合は、AAI 4811の実際収益または4822の課税対象売掛金を使用することをお勧めします。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 仕訳生成の制御の請求固定情報設定を確認します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ

- 請求 AAI 規則の作成に使用する主要キーおよび補助キーの値を決定します。

請求 AAI 規則を追加または更新すると、これらの値が検証されます。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求の AAI の設定」、61 ページ

この項で使用する共通フィールド

従業員制御フラグ	仕訳の従業員番号を更新する場合は、「1」を入力します。このフィールドをブランクにすると、仕訳の従業員番号は更新されません。
設備制御フラグ	仕訳の従業員番号を更新しない場合は、このフィールドをブランクにします。 使用設備の番号を使用して仕訳の資産番号を更新する場合は、「1」を入力します。 作業対象設備の番号を使用して仕訳の資産番号を更新する場合は、「2」を入力します。
結果ビジネスユニット	結果として発生する取引のビジネスユニットを識別するコードを入力します。ビジネスユニットを指定するか、または次のいずれかの値を使用できます。 ブランク: 顧客マスター情報の勘定科目情報に対するデフォルト勘定科目コードから取得されたビジネスユニット。 *SRC: ソース取引から取得されたビジネスユニット。 *WO: 作業オーダーのマスター情報から取得された請求先ビジネスユニット。 *HOME: ソース取引から取得された所属ビジネスユニット。所属ビジネスユニットが存在しない場合は、ソース取引から取得されたビジネスユニットが使用されます。 *PROJ: 作業のマスター情報から取得されたプロジェクト番号。 *CO: ソース取引から取得された会社番号。 *HOST: ワークファイル取引から取得された担当ビジネスユニット。 *EHMCU: 設備のマスター情報から取得された担当(管轄)ビジネスユニット。
結果主科目	結果として発生する取引の主科目を判別する値を入力します。次の処理が可能です。 主科目を指定します。 ソース取引に関連する定義でワイルドカードとしてアスタリスク(*)を使用します。たとえば、ソース取引の主科目が3106であるとし、結果の取引の主科目を4***として設定すると、結果の主科目は4106となります。 次のいずれかの値を使用します。

結果補助元帳タイプ

ブランク: 顧客マスターの勘定科目情報のデフォルト勘定科目コードから取得された主科目

*SRC: ソース取引から取得された主科目

「補助元帳」フィールドで使用されるUDC (00/ST) のコードを入力し、補助元帳タイプおよび補助元帳の編集方法を指定します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義します。次の値があります。

A: 英数字フィールド(編集しない)

N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)

C: 英数字フィールド(右揃え、ブランクで埋める)

結果補助元帳

取引の補助元帳および補助元帳タイプを入力します。補助元帳および補助元帳タイプを指定するか、または次のいずれかの値を使用できます。

*SRC: ワークファイル取引から取得された補助元帳および補助元帳タイプを使用します。

*WO: 作業オーダー番号および補助元帳タイプWを使用します。

*CUST: 顧客の住所番号および補助元帳タイプAを使用します。

*CC: ワークファイル取引から取得されたビジネスユニットおよび補助元帳タイプCを使用します。

*EMP: ワークファイル取引から取得された従業員または仕入先の住所番号および補助元帳タイプAを使用します。

*AUTH: 納税先の住所録番号および補助元帳タイプAを使用します。納税先はワークファイル取引に割り当てられた税率/税域に関連付けられています。この値は未払税 - 貸方請求AAI(4815)の場合のみです。

結果補助科目

結果の取引の補助科目を識別するコードを入力します。補助科目を指定するか、または次のいずれかの値を使用できます。

ブランク: 顧客マスターの勘定科目情報のデフォルト勘定科目コードから取得された補助科目

*BLANK: 結果の取引に対してブランクの補助科目

*SRC: ワークファイル取引から取得された補助科目

*WO: 作業オーダーのマスター情報から取得された原価コード(補助科目)

数量制御フラグ

仕訳の数量を記録するには、「1」を入力します。このフィールドをブランクにすると、仕訳の数量は記録されません。

請求のAAI(自動仕訳)の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求AAIの処理	W48S95B	<ul style="list-style-type: none"> 「テーブル情報」(G48S41)、「請求AAI」 「AAIの処理」フォームでAAI番号を選択して、「選択」をクリックします。 「テーブル情報」(G5241)、「請求AAI」 「AAIの処理」フォームでAAI番号を選択して、「選択」をクリックします。 	請求AAIを選択します。
AAI基本規則の改訂	W48S95C	「請求AAIの処理」フォームで「追加」をクリックします。	請求AAIの基本規則を設定します。 基本規則に再配賦が存在すると、「AAI基本規則の改訂」フォームの「R」フィールドにXが表示されます。
AAI再配賦規則の改訂	W48S95D	「AAI基本規則の改訂」フォームで基本規則を選択して、「ロー」メニューから「再配賦規則」を選択します。	請求AAIの再配賦規則を設定します。

請求AAI(P48S95)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、フォームを開いたときに表示する最初のAAIテーブル番号を指定できます。

1. **AAIテーブル番号** スキップ先となるAAIテーブルを指定します。

セキュリティ

この処理オプションでは、ユーザーがアクセスするテーブル・キー・タイプを定義します。

1. **キー・タイプ1 - 作業オーダー** 作業オーダー番号によって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、アクセス可能になります。
2. **キー・タイプ2 - 作業オーダー・クラス** 作業オーダー・クラスによって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、アクセス可能になります。
3. **キー・タイプ3 - 契約番号** 契約番号によって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、アクセス可能になります。

4. キー・タイプ4 - 親契約番号

親契約番号によって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、アクセス可能になります。
5. キー・タイプ5 - カスタマー番号

顧客番号によって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、アクセス可能になります。
6. キー・タイプ6 - 作業番号

ビジネスユニット(作業)番号によって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、アクセス可能になります。
7. キー・タイプ7 - 作業クラス

ビジネスユニット(作業)クラスによって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、アクセス可能になります。
8. キー・タイプ8 - 会社番号

会社番号によって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、アクセス可能になります。
9. キー・タイプ9 - デフォルト

デフォルト処理によって設定されたAAI基本規則へのアクセスを禁止するには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、アクセス可能になります。

AAI基本規則の設定

「AAI基本規則の改訂」フォームにアクセスします。

請求AAI - AAI基本規則の改訂

OK(O) 検索(F) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

AAIテーブル番号4811

Actual Revenue - Credit

キー・タイプ2

作業オーダー・クラス

有効開始日2005/01/01

テーブル・キーC01

コンコース・セキュリティ

有効終了日2010/12/31

レコード 1-3

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 相互参照	開始主科目	終了主科目	開始補助科目	終了補助科目	補助元帳タイプ	補助元帳	相手勘定	追加料金コード	間接費カテゴリ	結果ビジネスユニット*	結果主科目
<input type="checkbox"/>		1340	1349							FR	*SRC	138
<input type="checkbox"/>		8000	8999								*SRC	138
<input type="checkbox"/>												

「AAI基本規則の改訂」フォーム

- 補助元帳

総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類する補助的なコードを入力します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
- 補助元帳タイプ

「補助元帳」フィールドで使用されるUDC (00/ST) のコードを入力し、補助元帳タイプおよび補助元帳の編集方法を指定します。「ユーザー定義コード」フォームでは、記述の第2行目により補助元帳の編集方法が制御されます。このコードはハードコードされているか、またはユーザーが定義できます。次の値があります。

A: 英数字フィールド(編集しない)

N: 数字フィールド(右揃え、ゼロで埋める)

間接費カテゴリ

C: 英数字フィールド(右揃え、ブランクで埋める)

間接費カテゴリを識別するユーザー定義コード(UDC)テーブル48S/BCの値を指定します。

間接費カテゴリと追加料金コードはいずれか1つのみ入力できます。

注意: このフィールドは、サービス請求固定情報プログラム(P48091)で「間接費使用」チェックボックスを選択した場合にのみ、表示されます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16ページ

注意: 結果の取引が契約/サービス請求管理によって再処理されないように、結果の勘定科目フィールドに請求不可の勘定科目を指定する必要があります。

AAI再配賦規則の設定

「AAI再配賦規則の改訂」フォームにアクセスします。

請求AAI - AAI再配賦規則の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

テーブル情報

AAIテーブルNo. 4811 Actual Revenue - Credit

キー・タイプ 2 作業オーダー・クラス 開始日 2005/01/01

テーブル・キー C01 コンコース・セキュリティ 終了日 2010/12/31

基本規則情報

主科目範囲 1340 1349 補助科目範囲

補助元帳/タイプ 相手勘定 追加料金コード

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

元帳 タイプ	結果 ビジネスユニット	結果 主科目	結果 補助科目	結果補助 元帳 タイプ	結果 補助元帳	記述	従業員 制御フラグ	数量 制御フ

「AAI再配賦規則の改訂」フォーム

元帳タイプ

AA(実績金額)、BA(予算金額)、AU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するUDC 09/LTのコードを入力します。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。

組込パーセント

仕訳の基準として使用するワークファイル取引金額のパーセントを指定します。

このパーセントは小数で入力します。たとえば、100%の場合は「1.000」、45%の場合は「0.4500」と入力します。

注意: 基本規則では、このフィールドは100%になる必要があります。再配賦規則が適用される場合は、貸方の合計パーセントと借方の合計パーセントが等しくなる必要があります。生成タイプ2の取引では、プラスの収益金額の合計パーセントがマイナスの収益金額の合計パーセントと等しくなり、プラスの原価金額の合計パーセントがマイナスの原価金額の合計パーセントと等しくなる必要があります。

貸方借方

仕訳が書き込まれるとき、AAI(自動仕訳)テーブルのこの行が貸方仕訳に使用されるようにするには、「C」を入力します。この行が借方仕訳に使用されるようにするには、「D」を入力します。

注意: 再配賦規則の貸借は一致する必要があります。貸方の再配賦規則のパーセントは借方の再配賦規則のパーセントと等しくなる必要があります。マイナスのパーセントを入力する必要はありません。仕訳の金額は、貸方および借方の割当に基づいて計算されます。

追加料金規則の設定

この項では、追加料金規則と追加料金の多通貨設定の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 追加料金計算規則の設定
- 複合追加料金の設定
- 既存の割増規則への追加料金規則の追加

注意: この項は任意です。この項で説明するタスクを実行するかどうかは、商慣習に従って選択できます。

関連項目:

第 12 章、「ワークファイルの管理」、「追加料金取引の確認」、268 ページ

第 3 章、「テーブル情報の設定」、「既存の割増規則への追加料金規則の追加」、81 ページ

追加料金規則について

この項では、追加料金および複合追加料金について説明し、総額で計算した追加料金および正味額で計算した追加料金の例を示します。

追加料金

追加料金は、金額および数量に基づいて計算される割増の一種です。たとえば、労務費の請求には借金の原価を部分的に相殺する追加料金が含まれている場合があります。追加料金規則は割増規則と連動して機能します。追加料金規則を設定した後、割増規則に関連付けて追加料金が自動計算されるようにする必要があります。または、手動で追加料金取引を作成し、追加料金規則を取引に直接適用することもできます。原価金額と割増金額で個別のワークファイル取引を作成する場合は、追加料金規則を割増規則に割り当てます。

原価を累計すると、追加料金取引を作成するために設定した追加料金規則を使用して追加料金が計算されます。追加料金取引は常に親ワークファイル取引に関連付けられています。両方の取引タイプに同一の請求制御ID番号および追加料金連結番号が割り当てられ、各追加料金の計算が該当のワークファイル取引に関連付けられます。

次の項目を使用して追加料金規則を設定します。

- 一連の追加料金計算規則を識別するコード
- 有効日付範囲
- 金額と単位レートのいずれかまたは両方に基づく1つ以上の計算規則

次の表は、追加料金がどのように計算されるかを示しています。

生成タイプ	追加料金テーブル	追加料金の計算基準
1 (請求)	原価	原価金額。
2 (収益)	原価	原価金額。生成タイプ1と2の両方に原価テーブル情報がある場合は、生成タイプ2の情報が使用されます。
1 (請求)	請求/収益	請求金額。
2 (収益)	請求/収益	収益金額。
3 (追加料金)	原価 または 請求/収益	生成タイプ1または2のテーブルに追加料金情報が存在しない場合の、すべての追加料金情報のデフォルト・テーブル。

複合追加料金

追加料金の計算を相互参照して、複合追加料金を設定できます。たとえば、2%の追加料金レートは40%の追加料金レートと相互参照されます。次のステップを使用して原価1000に対する追加料金が計算されます。

1. $1000 \times 2\% = 20$
2. $1000 \times 40\% = 400$
3. $400 \times 2\% = 8$

数量基準の追加料金計算規則は、相互参照に含めることはできますが、相互参照情報の基準としては使用できません。

例: 総額で計算された追加料金

この例では、次の金額やレートが使用されます。

- 原価金額: 100.00
- 追加料金レート: 10.00%
- 税率/税域: 3.8%

追加料金の合計請求金額は、基本レコードの合計請求金額に基づいて計算されます。

計算	請求金額課税分 (ITXA)	請求書税額 (ITAM)	合計請求金額 (ITOL)
基本レコード	100.00	3.80	103.80
追加料金	10.00	.38	10.38
		追加料金込みの請求金額	114.18

例: 正味額で計算された追加料金

この例では、次の金額やレートが使用されます。

- 原価金額: 100.00

- 追加料金レート: 10.00%
- 税率/税域: 3.8%

追加料金の合計請求金額は、基本レコードの請求金額課税分に基づいて計算されます。

計算	請求金額課税分 (ITXA)	請求書税額 (ITAM)	合計請求金額 (ITOL)
基本レコード	100.00	3.80	103.80
追加料金	9.63	.37	10.00
		追加料金込みの請求金額	113.80

追加料金の多通貨設定について

追加料金テーブル・プログラム (P4860) では、通貨コードが添付先の請求料金/割増テーブルの通貨コードと一致している必要があります。

追加料金テーブルの通貨コードは、フォームでの表示小数以下桁数を制御し、ワークファイルの生成プログラム (R48120) およびワークファイルの再計算プログラム (R481202) がこのテーブルを処理するときにキーの一部として使用されます。「通貨コード」フィールドは、「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションが Y または Z の場合にのみ表示されます。

事前設定

「追加料金テーブルの改訂」フォームで個別の追加料金計算規則を識別するために使用するコードを、追加料金コード (UDC テーブル 48/CM) に設定します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「UDC の設定」、28 ページ

追加料金規則の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
追加料金テーブルの改訂	W4860B	<ul style="list-style-type: none"> 「テーブル情報」(G48S41)、「追加料金テーブル」 「追加料金テーブルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「テーブル情報」(G5241)、「追加料金テーブル」 「追加料金テーブルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。 	追加料金計算規則を設定します。
追加料金コード相互参照の改訂	W4860D	「追加料金テーブルの改訂」フォームで追加料金を選択して、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	複合追加料金を設定します。
請求レート/割増の改訂	W48096A	<ul style="list-style-type: none"> 「テーブル情報」(G48S41)、「請求料金/割増テーブル」 追加料金規則を追加する割増規則を選択し、「請求料金/割増テーブルの処理」フォームで「選択」をクリックします。 「テーブル情報」(G5241)、「請求料金/割増テーブル」 追加料金規則を追加する割増規則を選択し、「請求料金/割増テーブルの処理」フォームで「選択」をクリックします。 	既存の割増規則に追加料金規則を追加します。

追加料金計算規則の設定

「追加料金テーブルの改訂」フォームにアクセスします。

追加料金テーブル - 追加料金テーブルの改訂

追加料金テーブルの処理

追加料金テーブルの改訂

OK(O)

削除(D)

取消(L)

ロー(R)

前

次

ツール(T)

追加料金テーブル *

G&AADDONS

開始日付

2005/01/01

記述 *

G&A with Additional Burden

終了日付

2006/12/31

通貨コード *

USD

U.S. Dollar

レコード 1-5

グリッドのカスタマイズ

	相互参照	追加料金 * コード	記述	基本料金	追加料金 レート	順序 No.
<input checked="" type="radio"/>		COM	金利	1	15.00000	
<input type="radio"/>		FEE	料金	1	20.00000	
<input type="radio"/>		FRG	付加	U	.07000	
<input type="radio"/>	X	G&A	総務管理	1	10.00000	
<input type="radio"/>						

「追加料金テーブルの改訂」フォーム

追加料金テーブル

システムの他の場所で追加料金テーブルを識別する場合に使用する名前を入力します。追加料金テーブルを使用すると、請求明細取引レベルで添付される暫定の間接費を設定できます。追加料金は、基本請求明細取引の原価、請求（税込み）または収益の金額の任意の組合せに基づいて、計算できます。

たとえば、原価金額に基づいて追加料金を計算すると、組織で発生した原価に追加の間接費を適用できます。請求金額に基づいて追加料金を計算すると、請求の割増金額以外に料金を適用できます。

この計算の金額基準は「請求レート/割増の改訂」フォームで制御します。「原価追加料金テーブル」フィールドに追加料金テーブルの名前を入力すると、すべての計算が原価金額に基づいて実行されます。同様に、「請求/収益追加テーブル」フィールドに追加料金テーブルの名前を入力すると、すべての計算が請求金額と収益金額のいずれかまたは両方に基づいて実行されます（請求料金/割増テーブルの生成タイプおよびシステム固定情報の仕訳作成の制御フラグ設定によって異なります）。

追加料金コード

追加料金規則を識別する追加料金コードを入力します。

基本料金

基本請求明細取引の総額に基づいて追加料金を計算するには、「1」を入力します。「追加料金レート」フィールドの数値はパーセントとして処理されます。追加料金は、追加料金レートのパーセントに基本請求明細取引の原価、請求（合計）または収益の金額を乗算して算出されます。

基本請求明細取引の数量に基づいて追加料金を計算するには、「2」を入力します。「追加料金レート」フィールドの数値は固定金額として処理されます。追加料金は、追加料金の固定金額に基本請求明細取引の数量を乗算して算出されます。

基本請求明細取引の正味額に基づいて追加料金を計算するには、「3」を入力します。「追加料金レート」フィールドの数値はパーセントとして処理されます。追加料金は、基本請求明細取引の原価、請求（課税対象）または収益の金額に追加料金レートのパーセントを乗算して算出されます。

追加料金レート

個別の追加料金レコードを作成するときに使用されるレートを入力します。この値は、パーセントまたは固定金額のいずれかで指定できます（「追加料金レート基準」（UORC）フィールドに入力された値によって異なります）。

追加料金レート基準が数量である場合は、固定金額に基本請求明細取引の数量を乗算した値が追加料金レートとなります。

追加料金レート基準が金額である場合、基本請求明細取引の原価、請求または収益の金額にパーセントを乗算した値が追加料金レートとなります。

複合追加料金の設定

「追加料金コード相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

追加料金テーブル - 追加料金コード相互参照の改訂

OK(O) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

レコード 1-3		追加料金コード	記述
<input checked="" type="radio"/>		COM	金利
<input type="radio"/>		FEE	料金
<input type="radio"/>		FRG	付加

グリッドのカスタマイズ   

「追加料金コード相互参照の改訂」フォーム

「追加料金コード相互参照の改訂」フォームで、相互参照に含めるそれぞれの追加料金計算規則を選択し、「ロー」メニューから「相互参照の追加」を選択します。

相互参照情報には、事前に定義した追加料金計算規則のみを含めることができます。

相互参照を含む追加料金計算規則には、「追加料金テーブルの改訂」フォームの「相互参照」カラムにXマークが付きます。

既存の割増規則への追加料金規則の追加

「請求レート/割増の改訂」フォームにアクセスします。

生成タイプ1または2を使用して、追加料金規則を割増規則に割り当てることができます。

「原価追加料金テーブル」フィールドと「請求/収益追加テーブル」フィールドのいずれかまたは両方を使用して、フォームの1つ以上の行に対して追加料金規則を指定できます。

関連項目:

第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求料金/割増規則の設定」、49ページ

手数料の設定

この項では、手数料の概要と、手数料のレート・コードの定義方法について説明します。

手数料について

手数料請求行の請求金額を計算するには、レート・コードまたは手数料のパーセントを手数料請求行に割り当てる必要があります。レート・コードには、手数料請求行の計算に使用されるテーブルまたは手数料のパーセントを指定します。レート・コードは有効な日付レートに基づいています。

契約において一定期間中に様々な手数料のパーセントが指定されている場合は、その契約に固有のレート・コードを定義できます。開始日および終了日を使用して各手数料のパーセントの有効期間を識別します。適用可能な手数料のパーセントを決定するために、レート・コードの有効な日付範囲と、手数料の基準として使用される請求情報に割り当てられたテーブル比較基準日が比較されます。

手数料の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
手数料レート・コード・テーブルの改訂	W52131B	「テーブル情報」(G5241)、 「手数料コード・テーブル」 「手数料レートコード・テーブルの処理」フォームで、 「追加」をクリックします。	手数料コードを定義します。

手数料のレート・コードの定義

「手数料レート・コード・テーブルの改訂」フォームにアクセスします。

OK(O)

削除(D)

取消(L)

ツール(T)

レート・コード

10%

記述

10% Rate Code

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

料金 %

開始日付

終了日付

10.0000

2000/01/01

2006/12/31

「手数料レート・コード・テーブルの改訂」フォーム

レート・コード

手数料ベースの行である所有者支払項目に対して契約請求管理で使用されるレート・コードを入力します。特定のレート・コードを定義することによって、日付の変化に対応した手数料のパーセントを設定できます。

料金%

所有者支払項目の手数料行の請求金額を計算する場合に使用される割増のパーセントを入力します。このフィールドにパーセントを入力するか、または「レート・コード」フィールドにレート・コードを入力します。パーセンテージは整数で入力してください。たとえば、10%の場合は「10」と入力します。

第 4 章

請求書処理の設定

この章では、次の方法について説明します。

- 順序/集計規則の設定
- 請求書印刷バージョン相互参照の設定
- 請求書フォーマットの設定

順序/集計規則の設定

この項では、順序/集計規則の概要と次の方法について説明します。

- 順序/集計データ項目の選択
- 順序/集計キーの設定

注意: 順序/集計規則はサービス請求管理の取引にのみ適用されます。

順序/集計規則について

請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) 内の取引から請求書バッチを生成すると、各顧客に対して自動的に新規請求書が作成されます。請求書が作成されたら、請求書に記載される取引情報の順序設定と集計の方法を定義できます。そのためには、順序/集計規則を設定します。

設定した順序/集計規則により、生成される請求書バッチ内およびバッチ内の個別の請求書の区分が示されます。次のレベルで区分を設定します。

レベル	説明
ブランク	レベル区切りを使用せずに取引がグループ化されます。
請求書レベル (I)	設定した順序/集計規則が請求書レベルで変わる場合、固有の請求書番号で新規請求書が作成されます。
支払項目レベル (P)	設定した順序/集計規則が支払項目レベルで変わる場合、請求書に新しい請求明細行が作成されます。新規請求明細行に固有の支払項目番号が割り当てられます。

設定した順序/集計キーを使用して、次の処理が行われます。

- 請求書番号の割当

- 請求書および支払項目別の取引の集計
- 売掛金および元帳仕訳の作成時における、売掛金元帳テーブル(F03B11)での取引の表示方法の制御
- 適切なキー情報(請求書および支払項目番号など)でのワークファイル取引の更新

たとえば、請求書レベルでビジネスユニット(作業)を使用し、支払項目レベルで補助元帳(作業オーダー)を使用する順序/集計キーを設定できます。請求書の生成時に、このキーを使用して次の処理が実行されます。

- ビジネスユニットが変わるときの新規請求書番号の作成
- ビジネスユニットの補助元帳(作業オーダー)が変わるときの新規支払項目番号の作成

請求書バッチのソース・ビジネスユニット番号でワークファイル取引をグループ化できます。そのためには、最初にソース・ビジネスユニット別に請求情報の順序を設定して、「集計コード」フィールドを空白にします。次に、補助元帳番号を使用して、バッチ内の個別の請求書の順序を設定して集計します。最後に、主科目を使用して、請求書で支払項目の順序を設定して集計します。

1つの請求書に使用できる顧客番号は1つのみです。顧客番号が変わる場合は、順序/集計キーの設定方法に関係なく、新規請求書番号が作成されます。

順序/集計データ項目

順序/集計データ項目プログラム(P4848)にリストされているデータ項目を使用して、順序/集計キーを設定できます。ここにリストされていないデータ項目を使用する場合は、順序/集計データ項目プログラムでユーザー定義コード(UDC)48S/DIのデータ項目を追加します。ただし、請求書の順序設定および集計では、UDC 48S/DIのハードコード化されている値のみがサポートされています。

順序/集計規則の設定に使用するフォーム



フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
順序/集計データ項目の順序	W4848A	「システム・セットアップ」(G48S40)、「順序/集計データ項目」	順序/集計データ項目を選択します。
請求書順序/集計テーブル	W4805B	「システム・セットアップ」(G48S40)、「請求書順序/集計のキー設定」 「請求書順序/集計テーブルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	順序/集計キーを設定します。


順序/集計データ項目の選択

「順序/集計データ項目の順序」フォームにアクセスします。

順序/集計データ項目 - 順序/集計データ項目の順序

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)



レコード 1 - 10		グリッドのカスタマイズ	
	順序 No.	データ 項目	記述
<input checked="" type="radio"/>		ACL0	Category Code - F/A 10 (Rate G
<input type="radio"/>		AN8	Address Number
<input type="radio"/>		AN80	Owner/Receivable Address
<input type="radio"/>		BCI	Billing Control ID
<input type="radio"/>		BRTI	Rate - Invoice Override Rate M
<input type="radio"/>		CCOD	Component Code
<input type="radio"/>		CO	Company
<input type="radio"/>		COCH	Contract Change Number
<input type="radio"/>		CRCD	Currency Code - From
<input type="radio"/>		CRCF	Currency Code - Origin

「順序/集計データ項目の順序」フォーム

順序番号を使用してこのリスト内の値をソートできます。番号の付いていないデータ項目が最初にリストされ、次に番号の付いたデータ項目が順にリストされます。たとえば、データ項目MCUに「1」を入力すると、MCUはリストの一番下の番号の付いていない項目の次に移動します。

重要: リストからデータ項目を削除しないでください。削除するとエラーが発生する可能性があります。

順序/集計キーの設定

「請求書順序/集計テーブル」フォームにアクセスします。

請求書順序/集計のキー設定 - 請求書順序/集計テーブル

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

集計キー S001

記述 Job/WorkOrder/ObjectAccount

レコード 1-4 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>		区切り * レベル	集計 コード	順序/集 計 データ項 目	データ項目 記述
<input type="checkbox"/>		1.00		MCU	CostCenter
<input type="checkbox"/>		2.00	I	SBL	Subledger
<input type="checkbox"/>		3.00	P	OBJ	ObjectAccount
<input type="checkbox"/>					

「請求書順序/集計テーブル」フォーム

集計キー

テーブル・キーを入力して、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の集計方法を指定します。テーブル・キーで識別される各テーブル内で、複数の関連付けられたキー・フィールドによってサービス請求明細取引をソートおよび集計するためのレベルと方法が指定されます。

区切りレベル

このデータ項目の表示順序を指定する番号を入力します。

集計コード

請求書の生成時にサービス請求管理ワークファイル内のレコードを集計する方法を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

I: 請求書番号レベルで集計します。

P: 請求書支払項目レベルで集計します。

注意: 順序と集計キーの組合せごとに、1つのIおよび1つのPを指定する必要があります。

順序/集計データ項目

データ項目を指定して、請求書の情報の順序を定義します。請求ワークファイル内の特定のフィールドが、請求書に含めることができる有効なデータ項目として指定されています。

注意: 各集計規則に、新規請求書の作成を制御する集計コードIを1つと、請求書支払項目の作成を制御する集計コードPを1つ含める必要があります。

必要な任意の数のデータ項目を使用して、請求明細情報の順序を設定できます。「区切りレベル」フィールドに入力した数によって、バッチ内の請求書の請求情報をグループ化する方法が制御されます。

請求書印刷バージョン相互参照の設定

この項では、請求書印刷処理および請求書印刷バージョン相互参照プログラムの概要と、請求書印刷バージョン相互参照の設定方法について説明します。

請求書印刷処理について

請求書を印刷する場合、請求書印刷選択プログラム(R48504)が実行されます。請求書印刷選択プログラムにより、印刷する請求書ごとに1つのバージョンの請求書印刷(スマート・フィールドあり)プログラム(R48507)が呼び出されます。システムで提供されているバージョンの請求書印刷プログラムを使用することも、独自のカスタマイズ・バージョンを作成することもできます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理およびJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理内の様々な領域から請求書を印刷できます。「請求書の処理」(G48S21)の「請求書印刷」を選択すると、直接請求書を印刷できます。バッチの検討プログラム(P48221)内から請求書を印刷することもできます。バッチの検討プログラム内で、「バッチの処理」フォームから完全な請求書バッチを印刷したり、「請求書の処理」フォームから特定の請求書を印刷したりできます。

使用する請求書印刷バージョンの決定方法

請求書に使用するレポートおよびバージョンを決定するために、請求書印刷選択プログラム(R48504)では最初に「請求書印刷プログラム」、「請求書印刷バージョン」および「請求書ワークファイル明細フォーマット選択」の処理オプションを使用します。この3つの処理オプションが設定されている場合、他のテーブルの設定は一時変更され、印刷対象として選択したすべての請求書に対して、指定した請求書印刷プログラムおよびバージョンが使用されます。

この3つの処理オプションが設定されていない場合、「請求書フォーマット名」処理オプションの値を基に、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)を使用して請求書印刷プログラムおよびバージョンが選択されます。

「印刷」タブの処理オプションがいずれも設定されていない場合、各請求書の特定の情報を使用してその請求書の請求書印刷プログラムおよびバージョンが決定されます。最初に、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)、またはJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合は、契約マスター(F5201)の「請求書フォーマット・コード」フィールド(INVF)が設定されているかどうかを確認されます。このフィールドが設定されている場合、このフィールドのフォーマット・コードを基に、請求書印刷バージョン相互参照テーブルを使用して請求書印刷プログラムおよびバージョンが選択されます。「請求書フォーマット・コード」フィールドが設定されていない場合、個別の請求書のキー・タイプ情報を基に、印刷バージョン相互参照テーブルを使用して請求書印刷プログラムおよびバージョンが選択されます。

次の表は、使用する請求書バージョンの決定方法を示しています。最初に、表の1列目で説明しているシナリオが検査されます。このシナリオに当てはまる場合、対応する処理が実行されます。このシナリオに当てはまらない場合、表の2列目で説明しているシナリオが検査され、以後同様に続きます。

注意: 記述のないすべてのケースで、請求書タイプは請求書印刷選択の「選択」タブの処理オプションで特定されます。請求書タイプをフォーマット名とともに使用して、使用するプログラムおよび印刷バージョンが決定されます。

シナリオ	処理
請求書印刷選択のバージョンで、「請求書印刷プログラム」、「請求書印刷バージョン」および「請求書ワークファイル明細フォーマット選択」の各処理オプションが設定されています。	「請求書印刷プログラム」、「請求書印刷バージョン」および「請求書ワークファイル明細フォーマット選択」の各処理オプションが使用されます。「請求書のフォーマット・タイプ」処理オプションは使用されません。
請求書印刷選択のバージョンで、「請求書フォーマット名」処理オプションが設定されています。	「請求書フォーマット名」および「請求書のフォーマット・タイプ」処理オプションを使用して、請求書印刷相互参照テーブルからUBE名、バージョン名およびワークファイル明細の選択が検索されます。

シナリオ	処理
サービス請求管理の請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)または契約請求管理の契約マスター(F5201)の、「請求書フォーマット・コード」フィールドが更新されています。	「請求書フォーマット名」および「請求書のフォーマット・タイプ」処理オプションを使用して、請求書印刷相互参照テーブルからUBE名、バージョン名およびワークファイル明細の選択が検索されます。
前述のいずれも当てはまりません。	請求書集計ワークファイル・テーブルの特定の情報(作業オーダー、作業オーダー・クラス、契約など)を「請求書のフォーマット・タイプ」処理オプションとともに使用して、請求書印刷相互参照テーブルからUBE名、バージョン名およびワークファイル明細の選択が検索されます。

「通貨」処理オプション

「通貨」処理オプションは金額スマート・フィールド(SFAMT)とともに使用します。SFAMTを使用して請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)および請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)から金額を取得して印刷する場合、この処理オプションを使用すると、国内通貨金額または外貨金額のいずれを印刷するかを制御したり、レコードのモードで印刷する通貨金額を指定したりできます。

請求書印刷バージョン相互参照プログラムについて

請求書の印刷時に、請求書印刷バージョン相互参照プログラム(P48S58)で定義した情報を使用して、生成された請求書バッチ内の各請求書の印刷に使用する請求書印刷バージョンが特定されます。請求書印刷バージョンは、アプリケーション(請求書印刷(スマート・フィールドあり)(R48507))、そのアプリケーションのバージョンおよび請求書タイプで構成されます。次の2つの方法のいずれかを使用して、請求書印刷バージョン相互参照プログラムに情報を設定できます。

- キー・タイプとテーブル・キーの組合せを請求書印刷バージョンに割り当てることができます。

割り当てた情報は、個別の請求書を構成する請求取引の値と照合されます。たとえば、特定の請求書印刷バージョンを設定して、特定の顧客に対する請求書を印刷するとします。特定の顧客を示すキー・タイプとテーブル・キーの組合せを選択し、その組合せを請求書印刷バージョンに割り当てます。請求書の印刷時に、その顧客に属するすべての請求書が検索され、指定した請求書印刷バージョンで印刷されます。使用するテーブル・キーはキー・タイプに対応している必要があります。上の例でキー・タイプとして顧客を入力する場合は、テーブル・キーに有効な顧客番号を入力する必要があります。

次の階層を使用して請求書印刷バージョンが検索されます。

- 作業オーダー番号
- 作業オーダー・クラス
- 契約番号
- 親契約No.
- 顧客
- 職務またはビジネスユニット
- 作業クラス
- 会社番号

- 請求書フォーマット・コードを請求書印刷バージョンに割り当てることができます。

このコードを使用し、請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822)、または契約請求管理の場合のみ契約マスター (F5201) の、各請求書に格納されている請求書フォーマット・コードに基づいて、各請求書の印刷に使用する請求書印刷バージョンが決定されます。フォーマット・コードの作成時には、「キー・タイプ」フィールドにデフォルト値「9」が、「テーブル・キー」フィールドにデフォルト値「*ALL」が入力されます。たとえば、指定されている請求書印刷バージョンXJDE0005のタイプDに請求書フォーマット・コード (FORMAT) を割り当てると、請求書の印刷時に、「請求書フォーマット・コード」フィールドの値が「FORMAT」である選択された請求書がすべてバージョンXJDE0005の請求書タイプDで印刷されます。

請求書印刷バージョン相互参照の多通貨設定

請求書印刷バージョン相互参照プログラム (P48S58) で、「請求書タイプ」フィールドが設定されていることを確認します。このフィールドを使用して、印刷する請求書フォーマットの通貨 (国内通貨または外貨) を一時変更できます。この時点で、または請求書処理中に一時変更を設定しなかった場合、請求取引で指定したモードに基づいて請求書が印刷されます。新規請求書フォーマットを設定する場合は、国内通貨と外貨の両方の請求書が必要になる可能性があることに注意してください。

請求書印刷バージョン相互参照の設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求書印刷バージョン相互参照の改訂	W48S58B	<ul style="list-style-type: none"> 「システム・セットアップ」 (G48S40)、「請求書印刷バージョン相互参照」 「請求書印刷バージョン相互参照の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 「システム・セットアップ」 (G5240)、「請求書印刷バージョン相互参照」 「請求書印刷バージョン相互参照の処理」フォームで、「追加」をクリックします。 	生成された請求書バッチ内の各請求書の印刷に使用される請求書印刷バージョンを設定します。

請求書印刷バージョン相互参照の設定

「請求書印刷バージョン相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

請求書印刷バージョン相互参照 - 請求書印刷バージョン相互参照の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

UBE名 ★ R48507 請求書印刷 - スマート・フィールドあり
 請求書タイプ ★ D テスト・バージョン
 バージョン名 ★ XJDE0002 Generic Sample Invoice #1
 ワークファイル明細の選択 基本、間接費、追加料金

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

請求書 フォーマット・ コード	フォーマット・コード 記述	キー・ タイプ	キー・タイプ 記述	テーブル・キ ー	契約 タイプ	契約 会社	テーブル・キー 記述
		9	デフォルト	*ALL			Default Table

「請求書印刷バージョン相互参照の改訂」フォーム

キー・タイプとテーブル・キーの組合せでこの請求書印刷バージョンを検索する場合は、「キー・タイプ」、「テーブル・キー」、「契約タイプ」および「契約会社」フィールドに値を入力します。「キー・タイプ記述」および「テーブル・キー記述」フィールドの値は自動入力されます。キー・タイプとテーブル・キーの組合せを入力する場合、請求書フォーマット・コードおよびフォーマット・コード記述は使用されません。契約タイプおよび契約会社は、キー・タイプ3(契約番号)およびキー・タイプ4(親契約番号)を使用する場合のみ使用されます。

請求書フォーマット・コードで請求書印刷バージョンを検索する場合は、「請求書フォーマット・コード」および「フォーマット・コード記述」フィールドに値を入力します。「キー・タイプ」、「キー・タイプ記述」、「テーブル・キー」および「テーブル・キー記述」フィールドの値は自動入力されます。

注意: キー・タイプとテーブル・キーの組合せを使用しても請求書フォーマット・コードを使用しても、結果として特定の請求書の印刷に同じ請求書印刷バージョンが選択される可能性があります。

UBE名 (ユニバーサル・バッチ・エンジン名)	請求書印刷プログラムのオブジェクト名を入力します。
請求書タイプ	同じ請求書フォーマットの異なるバージョンを表す英数字コードを入力します。たとえば、Dはドラフトを、Fは最終の請求書フォーマットを表します。
バージョン名	請求書印刷プログラムのバージョン番号を入力します。バージョン番号によって、アプリケーションに使用するデータ選択とデータ順序の設定の組合せが決まります。バージョンには、英数字を組み合わせて名前を付けることができます。XJDEまたはZJDEで始まるバージョンは事前設定済です。
ワークファイル明細の選択	請求書の印刷中に個別の行品目として処理されるワークファイルまたはワークファイル履歴レコードを特定するコードを入力します。
キー・タイプ	<p>ソースとワークファイル取引を検索し、契約/サービス請求管理の各種テーブルとユーザー定義コードに対して検証するために、テーブル・キーと組み合わせて使用されるコードを入力します。</p> <p>キー・タイプ・コードとその関連テーブルまたはユーザー定義コードは次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1: 作業オーダー番号 - F4801 2: 作業オーダー・クラス - ユーザー定義コード(00/W7) 3: 契約番号 - F5201 4: 親契約番号 - F5201 5: 顧客 - F0101 6: 作業またはビジネスユニット - F0006 7: 作業クラス - ユーザー定義コード(00/11) 8: 会社 - F0010 9: デフォルト
テーブル・キー	ワークファイル取引を検索し、契約/サービス請求管理の各種テーブルに対して検証するために、キー・タイプと組み合わせて使用される値を入力します。「キー・タイプ」フィールドで入力した値によって、「テーブル・キー」フィールドの値が決定されます。たとえば、作業オーダー番号のキー・タイプ(1)を指定した場合、作業オーダー・マスター(F4801)の有効な作業オーダー番号を「テーブル・キー」フィールドに入力する必要があります。また、指定したキー・タイプによって、検索ボタンを使用したときに「テーブル・キー」

フィールドからアクセスする先の検索ウィンドウが制御されます。たとえば、キー・タイプ1を選択した場合、「テーブル・キー」フィールドの検索ボタンを使用すると「作業オーダーの検索」ウィンドウにアクセスできます。キー・タイプ2を選択した場合、作業オーダー・クラスの「ユーザー定義コード」ウィンドウにアクセスします。

契約タイプ

「R2」と入力すると、契約請求管理の伝票が指定されます。このコードはトランザクションの発生元を示します。

契約会社

伝票の会社番号を入力します。この番号とオーダー番号およびオーダー・タイプで、オーダー伝票（購買オーダー、契約、受注オーダーなど）が一意に識別されます。

会社/会計年度別自動採番機能を使用すると、オーダー会社を使用して、この会社に対して正しい次番号が取得されます。複数のオーダー伝票のオーダー番号とオーダー・タイプが同一の場合、オーダー会社で目的の伝票を見つけることができます。

標準の自動採番機能を使用した場合は、次番号の割当にオーダー会社は使用されません。このため、伝票の検索にオーダー会社を使用することもほとんどありません。

請求書フォーマット・コード

一連のフォーマットを一意に識別して請求書の全体的なレイアウトを決定するコードを入力します。

請求書フォーマットの設定

この項では、請求書フォーマットの概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 請求書フォーマット・テンプレートへのスマート・フィールドの追加
- 新規請求書印刷バージョンのチェックイン

注意: 請求書フォーマットはWindowsクライアントで設定する必要があります。この機能は、Webクライアントでは使用できません。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Foundation Guide

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools、レポート設計ツールに関する項

請求書フォーマットについて

請求書を生成した後、顧客請求書用にカスタマイズ設計した請求書印刷バージョンを使用できます。

契約/サービス請求管理では、請求書フォーマットはレポート設計ツールを使用して作成したバージョンになります。請求書印刷バージョン相互参照プログラム (P48S58) を使用すると、顧客請求書の印刷に使用する請求書フォーマットを指定できます。

会社では、JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアとともに配布されているテンプレートとは異なるフォーマットなど、様々な請求書フォーマットの印刷が必要になる場合があります。たとえば、次のような理由で異なるフォーマットが必要になる場合があります。

- 伝票の特定の領域に請求書情報を印刷するよう顧客から要求されている。

- 内部配布と外部配布で異なる請求書フォーマットが必要になる場合がある。
- 請求タイプに応じて異なる請求書フォーマットが必要になる場合がある。

請求書フォーマット・テンプレート

請求書フォーマット・テンプレートは、請求書のカスタマイズに使用できる特定のフィールドおよび特性のすべてが含まれている基本バージョンです。請求書フォーマットをカスタマイズするには、テンプレートの既存バージョンをコピーしてからそのコピーを修正します。契約/サービス請求管理は、請求書印刷(スマート・フィールドあり)テンプレート(R48507)とともにインストールされています。このテンプレートおよび関連バージョンではスマート・フィールドが使用されています。スマート・フィールドは、レポート設計ツールで請求書フォーマットに挿入できる変数です。スマート・フィールドは、関連付けられた定数または計算を持つビジネス・ビュー・フィールドに似ています。フォーマット内にスマート・フィールドを作成すると、スマート・フィールドによって入力が必要とされます。請求書印刷時に、変更内容がプログラミング・ロジックとともに使用され、ユーザー定義情報が取得されて請求書に印刷されます。

標準的な請求書フィールドを非表示、表示および移動することによって、請求書の表示方法を変更できます。そのためにはレポート設計ツールを使用します。レポート設計ツールの詳しい知識やイベント・ルールは必要ありません。

印刷(スマート・フィールドあり)プログラムの標準バージョンは、XJDE0001からXJDE0009までです。バージョンXJDE0001はテンプレート・バージョンです。スマート・フィールドを使用した請求書印刷では請求書に様々なフィールドを印刷できますが、請求書に印刷するフィールドのすべてを含めることはできません。印刷(スマート・フィールドあり)プログラムのテンプレート・バージョンにはフィールドが含まれていないため、請求書フォーマットをカスタマイズすることができます。テンプレート・バージョンには、ブランクの見出しセクション、ブランクのカラム明細セクションおよびブランクのフッター・セクションが含まれています。

印刷(スマート・フィールドあり)プログラムの既存バージョンに、必要な請求書と類似したものがない場合は、XJDE0001のコピーを作成してこのコピーをカスタマイズできます。XJDE0001の明細セクションには、選択したすべての請求ワークファイル・レコードが表示されます。必要とする請求書フォーマットで明細レコードを集計または区別する必要がある場合は、ユーザー定義レベル区切りでアクセスされる条件セクションを含める必要があります。

重要: JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに同梱されているバージョンまたはテンプレートは変更しないでください。かわりに、標準バージョンのいずれかをコピーして、そのコピー・バージョンを変更します。

既存バージョンに基づかない、請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド・プログラム(R48507)の新規バージョンを作成できます。たとえば、提供されているバージョンが請求要件を満たしていないという理由で新規バージョンを作成する場合があります。独自のバージョンを作成するには、最初にXJDEバージョンをコピーします。これにより、当初バージョンを変更せず、テンプレートとしてのみ使用します。コピー対象として選択できるバージョンは次のとおりです。

- XJDE0001 - 請求書印刷(スマート・フィールドあり)(ブランク・テンプレート)
- XJDE0002 - 請求書汎用サンプル#1
- XJDE0003 AIA - 集計テキスト・バージョン
- XJDE0004 AIA - 段組バージョン
- XJDE0005 - 契約バージョン - 変更オーダー内の支払項目別
- XJDE0006 - 作業オーダー請求書 - 作業オーダーごとに1行
- XJDE0007 - 勘定科目 - 主科目別、補助科目別
- XJDE0008 - 支払項目別
- XJDE0009 - 進捗請求バージョン

請求書印刷バージョンをコピーした場合、そのバージョンの基本レポート仕様などの仕様レコードは使用中のワークステーションにのみ保存されます。そのバージョンを他のワークステーションから使用できるようにするには、サーバーにチェックインする必要があります。バージョンをチェックインすると、そのバージョンの仕様レコードが現在の環境のパス・コードに応じてセントラル・オブジェクト・データ・ソース(サーバー)にコピーされます。

請求書印刷スマート・フィールド

80を上回る数のスマート・フィールドを請求書設計時に請求書に挿入できます。これらのスマート・フィールドの名前は、プレフィックスS、テーブル番号、データ・タイプを示す文字(A(英字)、C(文字)、D(日付)、N(数値)など)を順に並べた名前になっています。たとえば、ビジネスユニット・マスター(F0006)から数値情報を取得して印刷するために使用するスマート・フィールドの名前は、SF0006Nとなっています。スマート・フィールドの大部分は、様々なテーブルに格納されている、請求書に印刷可能な情報を取得するために使用されます。請求書関連情報を含む各テーブルについて、次の目的でスマート・フィールドを使用できます。

- 英字情報の取得および印刷
- 単一文字情報の取得
- 日付情報の取得
- 数値情報の取得
- 請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)と請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)からの金額の印刷
- テキスト・ブロックの印刷
- 他のフィールドに基づいた値の計算および印刷
- ユーザー定義のメモリー位置に格納されている累計値の印刷

請求書設計時にテーブル情報の取得に使用できるスマート・フィールドは次のとおりです。

テーブル	テーブル名	英字スマート・フィールド	文字スマート・フィールド	数値スマート・フィールド	日付スマート・フィールド
F0006	ビジネスユニット・マスター	SF0006A	SF0006C	SF0006N	SF0006D
F0014	支払条件	SF0014A	SF0014C	SF0014N	SF0014D
F0101	住所録マスター	SF0101A	SF0101C	SF0101N	SF0101D
F0111	住所録 - 人名録	SF0111A	SF0111C	SF0111N	SF0111D
F0115	住所録 - 連絡先電話番号	SF0115A	SF0115C	SF0115N	SF0115D
F0116	日付別住所	SF0116A	SF0116C	SF0116N	SF0116D
F03012	業種別顧客マスター	SF03012A	SF03012C	SF03012N	SF03012D
F0401	仕入先マスター	SF0401A	SF0401C	SF0401N	SF0401D

テーブル	テーブル名	英字スマート・フィールド	文字スマート・フィールド	数値スマート・フィールド	日付スマート・フィールド
F00692	ビジネスユニット 補足データ・コード	SF0692A	SF0692C	SF0692N	SF0692D
F0901	勘定科目マスター	SF0901A	SF0901C	SF0901N	SF0901D
F1201	固定資産マスター	SF1201A	SF1201C	SF1201N	SF1201D
F1721	契約明細	SF1721A	SF1721C	SF1721N	SF1721D
F4801	作業オーダー・マスター	SF4801A	SF4801C	SF4801N	SF4801D
F4812	請求明細ワーク ファイル	SF4812A	SF4812C	SF4812N	SF4812D
F4822	請求書集計ワーク ファイル	SF4822A	SF4822C	SF4822N	SF4822D
F48520	請求書集計アクセス	なし	なし	SF48520N	なし
F5201	契約マスター	SF5201A	SF5201C	SF5201N	SF5201D
F5202	契約請求の明細 行	SF5202A	SF5202C	SF5202N	SF5202D
F5216	マイルストーン/ 進捗請求情報	SF5216A	SF5216C	SF5216N	SF5216D
F4201	受注オーダー見 出し	なし	なし	SF4201N	なし
F00693	ビジネスユニット 補足データ・テキ スト	SF0693A	なし	なし	なし
F4802	作業オーダー指 示ファイル	SF4802A	なし	なし	なし
F00165	メディア・オブジェ クト・ストレージ	SFABTXT SFCNTTXT SFINVTXT	なし	なし	なし
F0005	ユーザー定義 コード	SF0005A	なし	なし	なし

テーブルに格納されていない情報を提供する特別なスマート・フィールドは次のとおりです。

スマート・フィールド	スマート・フィールド - 名前	説明
SFAMT	金額	このスマート・フィールドは、F4812 および F4812H テーブルから金額を印刷するために使用します。間接費および追加料金を包括または除外できます。請求書印刷プログラム (R48504) の「通貨」処理オプションとともに使用すると、外貨金額または国内通貨金額を可変的に印刷できます。
SFADD	計算 - 加算	このスマート・フィールドは、様々なフィールドを加算して、その和を印刷するために使用します。
SFSUB	計算 - 減算	このスマート・フィールドは、様々なフィールドを減算して、その差を印刷するために使用します。
SFMUL	計算 - 乗算	このスマート・フィールドは、様々なフィールドを乗算して、その積を印刷するために使用します。
SFDIV	計算 - 除算	このスマート・フィールドは、様々なフィールドを除算して、その商を印刷するために使用します。
SFTOTAL	登録合計	このスマート・フィールドは、フィールドに累計額を印刷し、必要に応じてレジスタ (請求書設計者がスマート・フィールドの値を格納および累計するために使用できる可変のメモリー位置) を初期化するために使用します。
SFCALC	レジスタ計算	このスマート・フィールドは、複数のレジスタ値を使用して計算を実行し、その結果を印刷するために使用します。

事前設定

請求書印刷バージョン相互参照テーブル・プログラム (P48S58) を設定します。

参照: 第 4 章、「請求書処理の設定」、「請求書印刷バージョン相互参照の設定」、86 ページ

請求書フォーマットの設定に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチ・バージョンの処理 – 使用可能なバージョン	W98305A	<ul style="list-style-type: none"> 「システム・セットアップ」(G48S40)、「請求書フォーマットの改訂 – スマート・フィールド」 「システム・セットアップ」(G5240)、「請求書フォーマットの改訂 – スマート・フィールド」 	新規請求書印刷バージョンをチェックインします。 バッチ・プログラムの既存バージョンを処理します。
バージョンのコピー	W98305F	「バッチ・バージョンの処理 – 使用可能なバージョン」フォームでバージョンを選択して、「コピー」をクリックします。	請求書フォーマット・テンプレートにスマート・フィールドを追加します。
バッチ・バージョンの設計	W98305S	「バージョンのコピー」フォームで「OK」をクリックします。	バッチ・バージョンを修正します。
バージョン・プロンプト	W98305D	「バッチ・バージョンの処理 – 使用可能なバージョン」フォームで新規作成したバージョンを選択してから、「選択」をクリックします。	バッチ・バージョンを処理するために送信します。
上級バージョン・プロンプト	W98305I	「バージョン・プロンプト」フォームで、「フォーム」メニューの「上級」を選択します。	バッチ・バージョンの送信に影響するオプションを指定します。
送信済ジョブの検索	W9986110BA	「バッチ・バージョンの処理 – 使用可能なバージョン」フォームの「フォーム」メニューから「送信済ジョブ」を選択します。	ジョブの処理状況を確認します。
上級操作	W98305J	「バッチ・バージョンの処理 – 使用可能なバージョン」フォームで新規バージョンを選択して、「ロー」メニューから「上級操作」を選択します。	サーバーにバージョンをチェックインします。

請求書フォーマット・テンプレートへのスマート・フィールドの追加

「バージョンのコピー」フォームにアクセスします。

請求書フォーマット・テンプレートにスマート・フィールドを追加するには、次の手順に従います。

1. 「バージョンのコピー」で「新しいバージョン」、「セキュリティ」および「バージョン・タイトル」フィールドに値を入力し、「OK」をクリックして「バッチ・バージョンの設計」フォームにアクセスします。
2. 「ツール」タブを選択して、「レポート設計」ボタンをクリックします。

レポート設計ツールが開き、請求書バージョンに対する変更や追加を行えるようになります。

セクションごとにバージョン仕様を一時変更して、イベント・ルール、データ選択または順序設定のレイアウトを修正する必要があります。

3. バージョン仕様を一時変更するには、セクションを右クリックして「Override Version Specifications」を選択します。
4. 「Group Section」ダイアログ・ボックスで変更する項目のオプションをクリックして、「OK」をクリックします。
5. レポート設計ツールで、スマート・フィールドを設定するセクションを見つけて、「Insert」メニューから「Smart Field」を選択します。
6. 「Create New Smart Field」ダイアログ・ボックスで、追加するスマート・フィールドを選択して「Next」をクリックします。

このリストには、請求書の印刷に使用可能なスマート・フィールドがリストされます。

7. 「Smart Field Name」ダイアログ・ボックスで、将来参照しやすいようにスマート・フィールド変数名のデフォルト名を任意で変更します。
8. 「Next」をクリックします。

選択したスマート・フィールドに基づいて、このスマート・フィールドで取得および表示される情報を定義するための質問が表示されます。

9. 各質問に対し回答を入力してから、「Next」をクリックします。

注意: テーブル・フィールド記述に関しては、すべて大文字で入力します。テーブル・フィールド記述に入力した内容は検証されません。「Next」をクリックする前に、入力した情報が正しいことを確認します。

すべての質問に対する回答が終了すると、最後にクリックした位置の横にスマート・フィールドが表示されます。

10. スマート・フィールドの位置が正しくない場合は、スマート・フィールドをドラッグしてセクションの適切な領域に配置します。
11. 修正が完了した後、変更を保存してレポート設計ツールを終了します。

新規請求書印刷バージョンのチェックイン

「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームにアクセスします。

新規請求書印刷バージョンをチェックインするには、次の手順に従います。

1. 「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームで新規作成したバージョンを選択してから、「選択」をクリックして「バージョン・プロンプト」フォームにアクセスします。
2. 「フォーム」メニューの「上級」を選択して、「上級バージョン・プロンプト」フォームにアクセスします。
3. 「バージョン・スペックのみを送信」オプションをクリックしてから、「OK」をクリックします。
「バージョン・プロンプト」フォームが再表示されます。
4. 「送信」をクリックします。
「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームが再表示されます。
5. 「フォーム」メニューから「送信済ジョブ」を選択して、「送信済ジョブの検索」フォームにアクセスします。
6. ジョブに関連付けられた状況が「D」(完了)になるまで「検索」をクリックしてから、「閉じる」をクリックします。

「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォームが再表示されます。

7. 新規バージョンを選択した後、「ロー」メニューから「上級操作」を選択してこのバージョンの「上級操作」フォームにアクセスします。
8. サーバーにバージョンをチェックインするには、そのバージョンを選択して「ロー」メニューから「バージョンのチェックイン」を選択します。

第 5 章

請求サイクルの会計について

この章では、請求AAI規則、基本規則および再配賦規則の概要について説明します。

請求AAI規則

請求サイクルの会計は、請求AAI規則によって制御されます。規則は次の目的で使用されます。

- ワークファイル取引の識別および処理
- 結果の仕訳の金額を特定の勘定科目に移動

次の規則を使用して、会計処理を定義できます。

- 基本規則。この規則を使用して、請求および収益認識処理の仕訳を作成するときに使用される勘定科目を指定します。

基本規則は、基本および追加料金の金額の合計の仕訳を作成するために使用されます。

- 再配賦規則。この規則を使用して、勘定科目間で金額を移動します。

再配賦規則は、貸借一致する必要がある2つ以上の相殺仕訳で構成されます。最初の相殺仕訳は、ソース勘定科目の減額を表します。2番目の仕訳は、ターゲット勘定科目の増額を表します。

契約請求管理のシステム固定情報の「仕訳作成の制御」フィールドによって、次の処理に対して定義する請求AAI規則のタイプが制御されます。

- 請求のみ
収益調整は適用できません。
- 収益認識のみ
収益調整は適用できません。
- 収益認識および請求（次のタイプがあります）
 - 請求される収益勘定科目および売掛金勘定科目に対する見越し売掛金勘定科目の調整なし
見越し売掛金勘定科目はゼロではありません。見越し売掛金差異は許可されます。
 - 請求される収益金額および売掛金金額に対する見越し収益金額および見越し売掛金金額の調整あり
請求の生成後、見越し収益金額および見越し売掛金金額はゼロである必要があります。見越し差異は許可されません。

基本規則

3つのタイプの請求AAIを使用して、収益認識および請求仕訳を作成できます。システム固定情報で選択する仕訳処理のタイプによって、特定のテーブル・タイプの使用が制限されるかどうかは制御されます。適用可能な各タイプには、仕訳の作成方法を定義する基本規則が含まれている必要があります。

次の表は、システム固定情報の「仕訳作成の制御」フィールドと請求AAIテーブル番号間の関係を示しています。

処理	「仕訳作成の制御」の設定	請求AAIテーブル番号
請求のみ	1	4811、実際収益 - 貸方
収益認識のみ	2	<ul style="list-style-type: none"> 4832、見越し売掛金 4811、実際収益 - 貸方
収益調整なしの請求および収益認識	3	<ul style="list-style-type: none"> 4832、見越し売掛金 4811、実際収益 - 貸方
収益調整ありの請求および収益認識	4	<ul style="list-style-type: none"> 4831、見越し収益 4832、見越し売掛金 4811、実際収益 - 貸方

注意: 請求を生成するときに、売掛管理にRC AAIが使用されます。収益認識のみを処理している場合は、RC AAIは適用されません。

次の表は、基本規則を使用して会計仕訳を作成する方法を示しています。基準金額は、請求、収益認識または原価処理から発生します。

仕訳作成の制御	処理	テーブル番号	借方/貸方	ワークファイル取引適格性コード
1 請求書	請求書	4811、実際収益 - 貸方	貸方	1、請求 4、原価計算
	請求書	RC AAI	借方	
2 収益認識	収益認識	4832、見越し売掛金	借方	2、収益 4、原価計算
	収益認識	4811、実際収益 - 貸方	貸方	
3 調整なしの請求/収益認識	収益認識	4832、見越し売掛金	貸方	1、請求 2、収益 4、原価計算 0、請求および収益

仕訳作成の制御	処理	テーブル番号	借方/貸方	ワークファイル取引 適格性コード
	収益認識	4811、実際収益－貸方	借方	
	請求書	4811、実際収益－貸方	貸方	
	請求書	RC AAI	借方	
4 調整ありの請求/収益認識	収益認識	4832、見越し売掛金	借方	1、請求 2、収益 4、原価計算 0、請求および収益
	収益認識	4831、見越し収益	貸方	
	請求書	4811、実際収益－貸方	貸方	
	請求書	4831、見越し収益	借方	
	請求書	4832、見越し売掛金	貸方	
	請求書	RC AAI	借方	

例1 - 請求のみ

請求のみを処理する場合、次の情報が該当します。

- 仕訳作成の制御は、1（請求のみ）です。
- 収益認識は適用されません。
- 実際収益と売掛金に対して同じ金額が計算されます。
- 収益と売掛金に対して金額が同時に計算されます。
- RC AAIによって売掛金勘定科目が指定されます。

たとえば、ワークファイル取引の原価が100.00で割増が15%の場合、請求および売掛金の金額は115.00です。次の仕訳が作成されます。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	115.00	
実際収益		(115.00)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

売掛金		実際収益	
借方	貸方	借方	貸方
115			115

例1のT勘定転記

RC AAIによって売掛金勘定科目が指定されます。請求AAIテーブル番号4811によって、実際収益勘定科目の基本規則が指定されます。

例2 - 収益認識のみ

収益認識のみを処理する場合、次の情報が該当します。

- ・ 仕訳作成の制御は、2(収益認識のみ)に設定されます。
- ・ 請求は適用されません。
- ・ 実際収益と見越し売掛金に対して同じ金額が計算されます。
- ・ 収益と見越し売掛金に対して金額が同時に計算されます。
- ・ 請求が存在しないため、RC AAIは適用されません。

たとえば、ワークファイル取引の原価が100.00で割増が25%の場合、見越し売掛金および実際収益の金額は125.00です。次の仕訳が作成されます。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	125.00	
実際収益		(125.00)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		実際収益	
借方	貸方	借方	貸方
125			125

例2のT勘定転記

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- ・ 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832

- ・ 実際収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4811

例3 - 収益認識および請求（調整なし）

請求と収益認識の間の差異を許可したほうが都合がよいと会社が判断する場合があります。たとえば、会社が収益を月次で認識するが、作業の完了後にのみ請求を生成する場合、収益、見越し売掛金および請求勘定科目は次のようになります。

- ・ 請求書仕訳の作成前には差異が含まれます。
- ・ 完了したプロジェクトのすべての請求書仕訳が生成されて勘定元帳に転記されるにつれて調整されます。

調整なしで収益認識を処理して請求を生成する場合、次の情報が該当します。

- ・ 仕訳作成の制御は、3（収益認識および請求、収益調整の必要なし）です。
- ・ 収益認識を処理するときに請求は適用されません。
- ・ 実際収益と見越し売掛金に対して同じ金額が計算されます。
- ・ 収益と見越し売掛金に対して金額が同時に計算されます。

作業が完了して請求を処理すると、次の処理が行われます。

- ・ 見越し売掛金と売掛金に対して同じ金額が計算されます。
- ・ 見越し売掛金と売掛金に対して金額が同時に計算されます。
- ・ RC AAIを使用して売掛金勘定科目が指定されます。

たとえば、会社が6月15日にプロジェクトを開始し、90日後に完了したとします。プロジェクトの合計原価は1,000.00でした。毎週、会社は原価に15%の割増を加算してワークファイル取引を生成します。会社は、6月から開始して、毎月末に収益認識を処理します。請求は9月25日に処理します。

プロジェクト原価について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月30日	プロジェクト原価	350.00	
2005年6月30日	買掛金		(350.00)
2005年7月31日	プロジェクト原価	500.00	
2005年7月31日	買掛金		(500.00)
2005年9月30日	プロジェクト原価	150.00	
2005年9月30日	買掛金		(150.00)

総勘定元帳でのプロジェクト原価の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	350.00		350.00

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日	500.00		850.00
2005年8月31日			850.00
2005年9月30日	150.00		1,000.00

仕訳の基本規則を指定するために次のテーブル・タイプが使用されます。

- 実際収益の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4811
- 見越し売掛金の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832

6月の収益認識

6月30日に、会社は収益認識を処理します。ワークファイルに402.50の新しい取引が含まれます。ワークファイル取引には、次の計算が使用されます。

$$350.00(\text{原価}) \times 15\% \text{の割増} = 52.50$$

$$350.00(\text{原価}) + 52.50 = 402.50$$

収益認識について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月30日	見越し売掛金	402.50	
2005年6月30日	実際収益		(402.50)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		実際収益	
借方	貸方	借方	貸方
402.50			402.50

例3の6月のT勘定転記

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832
収益認識金額の借方仕訳が作成されます。
- 実際収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4811
収益認識金額の貸方仕訳が作成されます。

7月の収益認識

7月31日に、会社は収益認識を処理します。ワークファイルに575.00の新しい取引が含まれます。ワークファイル取引には、次の計算が使用されます。

$$500.00 (\text{原価}) \times 15\% \text{の割増} = 75.00$$

$$500.00 (\text{原価}) + 75.00 = 575.00$$

収益認識について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年7月31日	見越し売掛金	575.00	
2005年7月31日	実際収益		(575.00)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		実際収益	
借方	貸方	借方	貸方
6月 402.50			402.50 6月
7月 575.00			575.00 7月
<hr/>			<hr/>
残高 977.50			977.50 残高

例3の7月のT勘定転記

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832
収益認識金額の借方仕訳が作成されます。
- 実際収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4811
収益認識金額の貸方仕訳が作成されます。

8月の収益認識

8月は、会社にはプロジェクトの新しい原価はありません。プロジェクトの新しいワークファイル取引は存在しません。

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記および残高を示しています。

見越し売掛金		実際収益	
借方	貸方	借方	貸方
6月 402.50			402.50 6月
7月 575.00			575.00 7月
8月			8月
残高 977.50			977.50 残高

例3の8月のT勘定転記

9月の請求

9月25日に、会社は請求を処理します。ワークファイルに172.50の新しい取引が含まれます。ワークファイル取引には、次の計算が使用されます。

$$150.00 (\text{原価}) \times 15\% \text{の割増} = 22.50$$

$$150.00 (\text{原価}) + 22.50 = 172.50$$

請求について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年9月25日	売掛金	1,150.00	
2005年9月25日	見越し収益		(1,150.00)

6月、7月および9月のワークファイル取引は、まだ請求されていません。この3か月の請求金額が加算され、1,150.00という請求金額が作成されます。

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		売掛金	
借方	貸方	借方	貸方
6月 402.50		6月	
7月 575.00		7月	
8月		8月	
	1,150.00 9月	9月 1,150.00	
172.50 残高		残高 1,150.00	

例3の9月のT勘定転記の請求

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832

請求金額の貸方仕訳が作成されます。見越し売掛金勘定科目には、172.50という未調整残高が含まれています。

- 売掛金勘定科目を指定するRC AAI

請求金額の借方仕訳が作成されます。

9月の収益認識調整

請求の仕訳を生成すると、収益認識の調整仕訳も生成されます。請求バッチのワークファイル取引が使用され、収益認識の以前の仕訳に適用可能な調整を作成する必要があるかどうかが決まります。調整は、次に示すような様々な理由で発生します。

- 現在のバッチの請求されるワークファイル取引を、以前の収益仕訳に含めていない。
- 主科目、原価金額、適格性コードなどのワークファイル取引の情報が、最初に収益バッチに含めたときから変更された。

請求は、月末の前に処理されました。請求される金額に含まれた172.50のワークファイル取引について、収益は計算されていません。収益認識について、次の調整仕訳が作成されました。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年9月25日	見越し売掛金	172.50	
2005年9月25日	実際収益		(172.50)

調整を転記した後、実際収益の金額は売掛金の金額と等しくなり、見越し売掛金の差異は自動修正されます。

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		実際収益	
借方	貸方	借方	貸方
6月 402.50			402.50 6月
7月 575.00			575.00 7月
8月			8月
9月 172.50	1,150.00 9月		172.50 9月
0.00 残高		1.150.00 残高	

例3の9月のT勘定転記の収益認識調整

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- ・ 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832
収益認識金額の借方仕訳が作成されます。
- ・ 実際収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4811
収益認識金額の貸方仕訳が作成されます。

注意: 一般に、会社は各月において複数の請求バッチを処理します。会社の方針に基づいて、収益認識は月に複数回処理される場合があります。収益認識と請求処理のタイミングの違いは常に発生します。したがって、見越し売掛金の勘定科目には差異金額が含まれ、各月でゼロにはなりません。

例4 - 収益認識および請求（調整あり）

多くの会社は、請求金額と認識される収益金額の間の差異を望みません。この場合、収益金額および売掛金金額は見越し見積です。実際収益金額および売掛金金額は、請求される金額と常に等しくなります。会社が請求を処理するときに、すべての見積は調整されます。

たとえば、会社が収益を月次で認識するが、作業の完了後にのみ請求を生成する場合、見積られた収益金額および売掛金金額は、請求の実際収益金額および売掛金金額が処理されるときに調整されます。

収益調整ありの請求を処理する場合、仕訳作成の制御は4（収益認識および請求、収益調整の必要あり）です。

収益認識を処理する場合、次の情報が該当します。

- ・ 各月の月末に収益認識を処理するときに請求は適用されません。
- ・ 見越し収益と見越し売掛金に対して同じ金額が計算されます。
- ・ 見越し収益と見越し売掛金に対して金額が同時に計算されます。
- ・ 仕訳を作成するために請求AAIテーブルの次のテーブル・タイプが使用されます。
 - 実際収益の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4811
 - 見越し売掛金の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832

後で作業が完了し、請求を処理する場合、次の情報が該当します。

- ・ 見越し売掛金と売掛金に対して同じ金額が計算されます。
- ・ 見越し売掛金と売掛金に対して金額が同時に計算されます。
- ・ RC AAIによって売掛金勘定科目が指定されます。
- ・ 仕訳を作成するために請求AAI規則およびAAIが使用されます。

請求AAIテーブル番号4832によって見越し売掛金の基本規則が指定され、RC AAIによって売掛金の勘定科目情報が指定されます。

また、次の処理も行われます。

- ・ 収益調整仕訳が処理されます。
- ・ 見越し収益金額および見越し売掛金金額が調整されます。
- ・ 実際の請求金額が作成されます。
- ・ 仕訳を作成するために請求AAI規則の次のテーブル・タイプが使用されます。
 - 実際収益金額を調整する4811
 - 見越し収益金額を貸方記入する4831
 - 見越し売掛金金額を調整する4832

たとえば、会社が6月15日にプロジェクトを開始し、30日後に完了したとします。プロジェクトの合計原価は1,000.00でした。毎週、会社は原価に15%の割増を加算してワークファイル取引を生成します。会社は、6月から開始して、毎月末に収益認識を処理します。請求は7月25日に処理します。

プロジェクト原価について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月25日	プロジェクト原価	350.00	
2005年6月25日	買掛金		(350.00)
2005年7月25日	プロジェクト原価	650.00	
2005年7月25日	買掛金		(650.00)

総勘定元帳でのプロジェクト原価の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月25日	350.00		350.00
2005年7月25日	650.00		1,000.00

6月の収益認識

6月30日に、会社は収益認識を処理します。ワークファイルに402.50の新しい取引が含まれます。ワークファイル取引には、次の計算が使用されます。

$$350.00 (\text{原価}) \times 15\% \text{の割増} = 52.50$$

$$350.00(\text{原価}) + 52.50 = 402.50$$

見越し収益と見越し売掛金の収益認識について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月30日	見越し売掛金	402.50	
2005年6月30日	見越し収益		(402.50)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		見越し収益	
借方	貸方	借方	貸方
402.50			402.50

例4の6月のT勘定転記

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- ・ 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832
収益認識金額の借方仕訳が作成されます。
- ・ 見越し収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4831
収益認識金額の貸方仕訳が作成されます。

6月分を含む7月の請求

7月25日に、会社は請求を処理します。ワークファイルに747.50の新しい取引が含まれます。ワークファイル取引には、次の計算が使用されます。

$$650.00(\text{原価}) \times 15\% \text{の割増} = 97.50$$

$$650.00(\text{原価}) + 97.50 = 747.50$$

請求に適用される402.50と747.50を加算して、6月および7月のワークファイル取引について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年7月25日	売掛金	1,150.00	
2005年7月25日	見越し売掛金		(1,150.00)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		売掛金	
借方	貸方	借方	貸方
6月 402.50		6月	
	1,150.00 7月	7月 1,150.00	
747.50 残高		残高 1,150.00	

例4の7月のT勘定転記

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- ・ 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832
請求金額の貸方仕訳が作成されます。
- ・ 売掛金勘定科目を指定するRC AAI
請求金額の借方仕訳が作成されます。

7月および6月の収益金額の収益調整

請求処理では、収益の調整中に収益認識金額および請求金額の仮勘定として見越し売掛金が使用されます。

収益認識金額の調整について、次の請求仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年7月25日	見越し収益	1,150.00	
2005年7月25日	収益		(1,150.00)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し収益		実際収益	
借方	貸方	借方	貸方
	402.50 6月		
7月 1,150.00			1,150.00 7月
747.50 残高		1,150.00 残高	

例4の6月および7月の収益調整のT勘定転記

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- 見越し収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4831
収益認識金額の借方仕訳が作成されます。
- 実際収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4811
請求金額の貸方仕訳が作成されます。

すべての仕訳が転記された後で、見越し勘定科目が調整されます。実際収益勘定科目および売掛金勘定科目にのみ、請求されるワークファイル取引の残高が含まれます。

7月の収益認識

請求される金額に含まれた747.50のワークファイル取引について、見越し売掛金および見越し収益は計算されていません。収益認識金額の調整について、次の仕訳が作成されます。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年7月25日	見越し売掛金	747.50	
2005年7月25日	見越し収益		(747.50)

次の図は、総勘定元帳でのT勘定転記を示しています。

見越し売掛金		見越し収益	
借方	貸方	借方	貸方
6月 402.50			402.50 6月
	1,150.00 7月	7月 1,150.00	
7月 747.50			747.50 7月
0.00 残高		0.00 残高	

例4の7月のT勘定転記の収益認識

仕訳を作成するために次のAAIが使用されます。

- 見越し売掛金勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4832
収益認識金額の借方仕訳が作成されます。
- 見越し収益勘定科目の基本規則を指定する請求AAIテーブル番号4831
収益認識金額の貸方仕訳が作成されます。

再配賦規則

会社は、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理または契約請求管理システムによって処理される取引を転記するときに必要となる会計仕訳を分析することによって、再配賦規則の必要性を決定できます。

例 5 - 請求のみ

会社が、1,200.00の請求を作成します。単位当たりの当初原価は、100単位で10.00です。各単位の原価は、仕掛品勘定科目で記録されます。単位が請求された後、原価は仕掛品勘定科目から売上原価勘定科目に移動されます。各単位は12.00で販売されます。

仕訳は次のとおりです。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月30日	仕掛品	1,000.00	
2005年6月30日	買掛金		(1,000.00)
2005年7月31日	売掛金	1,200.00	
2005年7月31日	売上収益		(1,200.00)
2005年7月31日	売上原価	1,000.00	
2005年7月31日	仕掛品		(1,000.00)

請求AAIテーブル番号4811によって、最初に1,200.00の請求金額は売上収益勘定科目に指定されます。仕訳の売掛金部分を作成するためにAAIが使用されます。次に、請求AAIテーブル番号4841によって仕掛品勘定科目が原価金額分減額され、請求AAIテーブル番号4842によって売上原価勘定科目が原価金額分増額されます。

総勘定元帳での6月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	1,000.00		1,000.00

総勘定元帳での6月の買掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		1,000.00	(1,000.00)

総勘定元帳での7月の売掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日	1,200.00		1,200.00

総勘定元帳での7月の売上収益の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日		1,200.00	(1,200.00)

総勘定元帳での7月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	1,000.00		1,000.00
2005年7月31日		1,000.00	0

総勘定元帳での7月の売上原価の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日	1,000.00		1,000.00

注意: 例では、会社は収益認識なしで請求のみを作成しているため、仕訳作成システム固定情報は1に設定されます。請求AAIテーブル番号4811は、収益を作成するために必要な唯一のテーブルです。再配布仕訳は、請求AAIテーブル番号4841および4842から作成されます。

請求AAIテーブル規則

請求のみの場合は、次の請求AAIテーブル規則を設定します。

AAIテーブル番号	勘定科目	借方/貸方	用途
4811	実際収益 - 貸方	WDUTAM	必須
RC + 元帳クラス	売掛金	WDITOL	必須
4841	仕掛品 - 貸方	WDAA	任意
4842	売上原価 - 借方	WDAA	任意

注意: RC AAIによって、売掛金に対する借方に関連付けられる勘定科目情報が指定されます。

例6 - 収益認識のみ

会社が、1,200.00の収益を認識します。単位当たりの当初原価は、100単位で10.00です。各単位の原価は、仕掛品勘定科目で記録されます。単位の収益が認識された後、原価は仕掛品勘定科目から売上原価勘定科目に移動されます。各単位の収益は、単位当たり12.00として認識されます。割増は200.00です。

仕訳は次のとおりです。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月30日	仕掛品	1,000.00	
2005年6月30日	買掛金		(1,000.00)
2005年7月31日	見越し売掛金	1,200.00	
2005年7月31日	収益		(1,200.00)
2005年7月31日	売上原価	1,000.00	
2005年7月31日	仕掛品		(1,000.00)

請求AAIテーブル番号4811によって、最初に1,200.00の請求金額は収益勘定科目に指定されます。請求AAIテーブル番号4832(見越し売掛金)によって、1,200.00は見越し売掛金勘定科目に指定されます。次に、請求AAIテーブル番号4841によって仕掛品勘定科目が原価金額分減額され、請求AAIテーブル番号4842によって売上原価勘定科目が原価金額分増額されます。

総勘定元帳での6月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	1,000.00		1,000.00

総勘定元帳での6月の買掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		1,000.00	(1,000.00)

総勘定元帳での7月の見越し売掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日	1,200.00		1,200.00

総勘定元帳での7月の収益の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日		1,200.00	(1,200.00)

総勘定元帳での7月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	1,000.00		1,000.00
2005年7月31日		1,000.00	0

総勘定元帳での7月の売上原価の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日	1,000.00		1,000.00

請求AAIテーブル規則

収益認識のみの場合は、次の表に示すように請求AAIテーブル規則を設定します。

AAIテーブル番号	勘定科目	借方/貸方	用途
4811	実際収益 - 貸方	WDBTOL	必須
4832	見越し売掛金	WDBTOL	必須
4841	仕掛品 - 貸方	WDAA	任意
4842	売上原価 - 借方	WDAA	任意

例7 - 収益認識および請求（調整なし）

会社が、2か月にわたって1,200.00の収益を認識します。2か月目に、会社は1,200.00の請求を処理します。単位当たりの当初原価は、100単位で10.00です。各単位の原価は、仕掛品勘定科目で記録されます。単位の収益が認識された後、原価は仕掛品勘定科目から売上原価勘定科目に移動されます。各単位の収益は、単位当たり12.00として認識されます。6月の割増は120.00、7月の割増は80.00です。

仕訳は次のとおりです。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月30日	仕掛品	600.00	
2005年6月30日	買掛金		(600.00)
2005年6月30日	見越し売掛金	720.00	
2005年6月30日	収益		(720.00)
2005年6月30日	売上原価	600.00	
2005年6月30日	仕掛品		(600.00)
2005年7月31日	仕掛品	400.00	

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年7月31日	買掛金		(400.00)
2005年7月31日	売掛金	1,200.00	
2005年7月31日	見越し売掛金		(1,200.00)
2005年7月31日	見越し売掛金	480.00	
2005年7月31日	収益		(480.00)
2005年7月31日	売上原価	400.00	
2005年7月31日	仕掛品		(400.00)

6月の収益処理では、請求AAIテーブル番号4811(実際収益)によって、最初に720.00の収益金額が収益勘定科目に指定されます。請求AAIテーブル番号4832(見越し売掛金)によって、720.00の見越し売掛金が見越し売掛金勘定科目に指定されます。

7月の収益認識ありの請求では、請求の金額の売掛金勘定科目を借方記入するためにRC AAIが使用されます。次に、1,200.00の貸方を作成するために請求AAIテーブル番号4832(見越し売掛金)が使用されます。

また、1,200.00の請求を構成するワークファイル取引に収益調整が必要かどうかも決定されます。この例では、請求の作成前に480.00のワークファイル取引は収益バッチに含まれていませんでした。ワークファイル取引に適用可能な収益調整のための2つの追加仕訳が作成されます。

480.00を調整し、収益勘定科目の貸方を作成するために、請求AAIテーブル番号4811(実際収益)が使用されます。次に、見越し売掛金を480.00調整し、見越し売掛金勘定科目の借方を作成するために、請求AAIテーブル4832(見越し売掛金)が使用されます。

注意: この例では、収益認識と請求のタイミングの違いのために、見越し売掛金勘定科目はゼロに調整されました。一般に、見越し残高を調整する調整入力を作成されないため、各月で勘定科目に差異が生じます。

最後に、各月で請求AAIテーブル番号4841によって仕掛品勘定科目が原価金額分減額され、各月で請求AAIテーブル番号4842によって売上原価勘定科目が原価金額分増額されます。

総勘定元帳での6月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00

総勘定元帳での6月の買掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		600.00	(600.00)

総勘定元帳での6月の見越し売掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	720.00		720.00

総勘定元帳での6月の収益の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		720.00	(720.00)

総勘定元帳での6月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00
2005年6月30日		600.00	0

総勘定元帳での6月の売上原価の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00

総勘定元帳での7月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日	400.00		400.00

総勘定元帳での7月の買掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		600.00	(600.00)
2005年7月31日		400.00	(1,000.00)

総勘定元帳での7月の見越し売掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	720.00		720.00
2005年7月31日		1,200.00	(480.00)

総勘定元帳での7月の収益の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		720.00	(720.00)
2005年7月31日		480.00	(1,200.00)

総勘定元帳での7月の見越し売掛金の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	720.00		720.00
2005年7月31日		1,200.00	(480.00)
2005年7月31日	480.00		0

総勘定元帳での7月の仕掛品の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年7月31日	400.00		400.00
2005年7月31日		400.00	0

総勘定元帳での7月の売上原価の勘定転記および残高は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00
2005年7月31日	400.00		1,000.00

請求AAIテーブル規則

調整なしの収益認識および請求の場合は、次の請求AAIテーブル規則を設定します。

AAIテーブル番号	勘定科目	借方/貸方	用途
4811	実際収益 - 貸方	WDBTOL	必須
4832	見越し売掛金	WDBTOL / WDITOL	必須
4841	仕掛品 - 貸方	WDAA	任意
4842	売上原価 - 借方	WDAA	任意

注意: RC AAIによって売掛金勘定科目が指定されます。仕訳の借方を作成するために請求金額が使用されます。

例8 - 収益認識および請求（調整あり）

会社が、2か月にわたって1,200.00の収益を認識します。2か月目に、会社は1,200.00の請求を処理します。単位当たりの当初原価は、100単位で10.00です。各単位の原価は、仕掛品勘定科目で記録されます。単位の収益が認識された後、原価は仕掛品勘定科目から売上原価勘定科目に移動されます。各単位の収益は、単位当たり12.00として認識されます。6月の割増は120.00、7月の割増は80.00です。

6月の仕訳は次のとおりです。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年6月30日	仕掛品	600.00	
2005年6月30日	買掛金		(600.00)
2005年6月30日	見越し売掛金	720.00	
2005年6月30日	見越し収益		(720.00)
2005年6月30日	売上原価	600.00	
2005年6月30日	仕掛品		(600.00)

総勘定元帳での6月の仕掛品の勘定転記および残高（収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00

総勘定元帳での6月の買掛金の勘定転記および残高（収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		600.00	(600.00)

総勘定元帳での6月の見越し売掛金の勘定転記および残高（収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	720.00		720.00

総勘定元帳での6月の見越し収益の勘定転記および残高（収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		720.00	(720.00)

総勘定元帳での6月の仕掛品の勘定転記および残高（収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00
2005年6月30日		600.00	0

総勘定元帳での6月の売上原価の勘定転記および残高(収益認識)は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00

6月に、請求AAIテーブル番号4811(実際収益)によって、最初に720.00の収益金額は収益勘定科目に指定されます。請求AAIテーブル番号4831(見越し収益)によって、720.00の見越し収益は見越し収益勘定科目に指定されます。

7月の仕訳は次のとおりです。

元帳日付	勘定科目	借方	貸方
2005年7月31日	見越し売掛金	480.00	
2005年7月31日	見越し収益		(480.00)
2005年7月31日	売上原価	400.00	
2005年7月31日	仕掛品		(400.00)
2005年7月31日	売掛金	1,200.00	
2005年7月31日	見越し売掛金		(1,200.00)
2005年7月31日	見越し収益	1,200.00	
2005年7月31日	収益		(1,200.00)

総勘定元帳での7月の仕掛品の勘定転記および残高(請求および収益認識)は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00
2005年7月31日	400.00		1,000.00
2005年7月31日		(400.00)	600.00
2005年7月31日		(600.00)	0

総勘定元帳での7月の売上原価の勘定転記および残高(請求および収益認識)は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	600.00		600.00
2005年7月31日	400.00		1,000.00

総勘定元帳での7月の買掛金の勘定転記および残高（請求および収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		600.00	(600.00)
2005年7月31日		400.00	(1,000.00)

総勘定元帳での7月の見越し収益の勘定転記および残高（請求および収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日		720.00	(720.00)
2005年7月31日		480.00	(1,200.00)
2005年7月31日	1,200.00		0

総勘定元帳での7月の見越し売掛金の勘定転記および残高（請求および収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日	720.00		720.00
2005年7月31日	480.00		1,200.00
2005年7月31日		1,200.00	0

総勘定元帳での7月の売掛金の勘定転記および残高（請求および収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日			
2005年7月31日	1,200.00		1,200.00

総勘定元帳での7月の収益の勘定転記および残高（請求および収益認識）は、次のとおりです。

日付	借方	貸方	残高
2005年6月30日			
2005年7月31日		1,200.00	(1,200.00)

請求AAIテーブル規則

調整ありの収益認識および請求の場合は、次の請求AAIテーブル規則を設定します。

AAIテーブル番号	勘定科目	借方/貸方	用途
4811	実際収益 - 貸方	WDBTOL	必須
4831	見越し収益	WDBTOL / WDITOL	必須
4832	見越し売掛金	WDBTOL / WDITOL	必須
4841	仕掛品 - 貸方	WDAA	任意
4842	売上原価 - 借方	WDAA	任意

注意: RC AAIによって売掛金勘定科目が指定されます。仕訳の借方を作成するために請求金額が使用されます。

第 6 章

多通貨勤怠処理について

この章では、システム設定、時間入力、ワークファイル生成の概要を説明し、多通貨タイムカード入力の例を示します。

システム設定

この項では、次のような設定に関する考慮事項について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne Human Capital Managementの会社オプションの設定
- JD Edwards EnterpriseOne一般会計の固定情報の設定
- 為替レートの設定
- UDC 48/MT(割増生成タイプ)の設定
- 時間入力MBF処理オプション(P050002A)の設定
- 請求料金/割増テーブルの設定
- 従業員給与計算トランザクションの設定

JD Edwards EnterpriseOne Human Capital Managementの会社オプションの設定に関する考慮事項

多通貨勤怠管理を有効にするには、会社オプション・プログラム(P05001C)で、デフォルト会社00000に関する次のフィールドに値を入力する必要があります。

多通貨機能の有効化 このフィールドに「Y」と入力します。

G/Lへの転記方法 このフィールドに「T」(時間会計)と入力します。

このように設定すると、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)が更新されます。

JD Edwards EnterpriseOne一般会計の固定情報の設定に関する考慮事項

多通貨勤怠管理を有効にするには、一般会計固定情報プログラム(P0000)で次のフィールドに値を入力する必要があります。

多通貨換算 このフィールドに、「Y」(多通貨会計乗数を使用)、または「Z」(多通貨会計除数を使用)と入力します。

多通貨会社間取引の許可 このチェックボックスを選択します。

会社間決済 「2」(ハブなしで会社間決済を任意作成)と入力します。

為替レートの設定に関する考慮事項

自社の基本通貨と顧客/仕入先の通貨との間の為替レートを設定する必要があります。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「為替レートの設定」

UDC 48/MT(割増生成タイプ)の設定に関する考慮事項

請求料金/割増テーブル・プログラム(P48096)から請求料金を取得する場合に使用する生成タイプに、値P(給与計算振替請求料金)が設定されていることを確認します。

注意: P(給与計算振替請求料金)以外の値を定義できます。別の値を使用する場合は、使用する値が請求料金/割増テーブル・プログラムで割増規則の生成タイプとして指定されていること、および時間入力MBF処理オプション・プログラム(P050002A)で「給与計算 - 生成タイプ」処理オプションに指定されていることを確認してください。

時間入力MBF処理オプション(P050002A)の設定に関する考慮事項

時間入力MBF処理オプション・プログラム(P050002A)のバージョンの処理オプションで、「再請求レコード・オプション」タブに次の値を入力します。

1. 多通貨機能の有効化

多通貨機能を有効にするには、「1」を入力します。

2. 基本金額のビジネスユニット通貨

振替請求ビジネスユニット通貨を指定する場合は「1」を入力し、従業員マスター情報テーブル(F060116)の所属ビジネスユニット通貨を使用する場合は「0」を入力します。

この処理オプションを使用すると、請求料金と外貨建て請求料金のうち、いずれが基本料金とみなされ、いずれが換算されるかを決定できます。この選択に応じて、タイムカード上の特定の多通貨フィールドが有効になります。「1」を選択して、振替請求ビジネスユニットの通貨を固定通貨として使用することを指定した場合、多通貨タイムカード上で有効なフィールドは「請求料金(外貨)」フィールドのみとなります。このオプションをブランク(デフォルト)のままにして、従業員の所属ビジネスユニットの通貨を固定通貨とみなした場合、多通貨タイムカード上で有効なフィールドは「請求料金」フィールドのみとなります。

たとえば、カナダの会社に勤務する米国人従業員に対する請求料金をUSDまたはCADで指定できるとします。請求料金がUSDで指定された場合は、この料金をCADに換算して外貨建て請求料金が決定されます。この場合は、「基本金額のビジネスユニット通貨」処理オプションを「0」に設定して、従業員マスター情報テーブルの所属ビジネスユニット通貨を固定通貨または基本通貨として使用する必要があります。外貨建て請求料金がCADで指定された場合は、その料金をUSDに換算して請求料金が決定されます。この場合は、「基本金額のビジネスユニット通貨」処理オプションを「1」に設定して、振替請求ビジネスユニット通貨を固定通貨または基本通貨として使用します。

従業員の所属ビジネスユニットが9で、USDの会社00001に所属する場合、請求料金/割増テーブルはUSD通貨向けに定義する必要があります。

カナダ通貨を使用する会社で振替請求ビジネスユニットがビジネスユニット77(労務費)である場合、請求料金/割増テーブルはCAD通貨向けに定義する必要があります。

- | | |
|----------------------------------|---|
| 3. レート検索に請求マークアップ・テーブルを使用 | 請求料金/割増テーブル(F48096)を使用して料金を取得する場合は、「1」を入力します。 |
| 4. 給与計算 - 生成タイプ | 「P」(振替請求料金)と入力します。 |
| 5. 請求マークアップ・レートが見つからなかった場合の処置 | 従業員費用レートを使用する場合は、「1」を入力します。 |
| 6. 請求料金マークアップ・テーブル(P48096)のバージョン | 「ZJDE0001」と入力します。 |
| 7. 動的科目作成の強制 | <p>動的科目作成を使用する場合は、「1」を入力します。この処理オプションは任意です。</p> <p>動的科目作成処理では、システムで無効な勘定科目コードが含まれるタイムカードを入力すると、有効な勘定科目が作成されます。ただし、その勘定科目コードがモデル・ビジネスユニット内に存在している必要があります。動的科目作成では、請求料金/割増テーブルにはレコードが作成されません。</p> |

請求料金/割増テーブルの設定に関する考慮事項

次のいずれかのアプローチによって、請求料金/割増テーブル内の請求料金を設定できます。

- 料金の一時変更
- 割増金額または割増率

請求料金の一時変更を作成するには、通常の従業員賃率より高い特定の請求料金を定義します。原価割増を定義するには、通常の賃率に追加するパーセント値を入力します。

見出しに次の情報を入力します。

- | | |
|---------|--|
| 生成タイプ | 「P」(振替請求料金)と入力します。 |
| キー・タイプ | 「6」(作業またはビジネスユニット)、または他の有効なキー・タイプを入力します。 |
| テーブル・キー | 振替請求ビジネスユニット、または他の有効なテーブル・キーを入力します。 |

詳細グリッドに次の情報を入力します。

- 「開始主科目」と「終了主科目」
- ビジネス・ニーズに応じて、「割増金額」、「割増率」、または「割増料金一時変更」

注意: 請求料金/割増テーブル・プログラム(P48096)から追加料金テーブル・プログラム(P4860)にアクセスできますが、多通貨勤怠管理では追加料金テーブル・プログラムを使用しません。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求料金/割増規則の設定」、49ページ

従業員給与計算情報の設定に関する考慮事項

選択した従業員ごとに、次の従業員給与計算情報を設定します。

- 「レコード・タイプ」フィールドに、「2」(給与計算および振替請求処理)、または「3」(振替請求処理のみ)と入力します。

注意: 従業員レコードでのこのオプションの設定は任意です。かわりに、タイムカードの入力中に「レコード・タイプ」フィールドに、「2」(給与計算および振替請求処理)または「3」(振替請求処理のみ)を入力できます。

- 配賦率を追加するか、レコードに率が存在することを確認します。

時間入力

この項では、多通貨勤怠管理向けの時間入力に関する考慮事項について説明します。

多通貨タイムカードの入力に関する考慮事項

多通貨タイムカードの入力時には、次の考慮事項に留意してください。

- 個別時間入力(P051121)プログラムまたはスピード時間入力(P051121)プログラムで、「時間入力」タブの「時間入力バージョン」処理オプションに、時間入力MBF処理オプション・プログラム(P050002A)向けに設定するバージョンを入力します。

- 「スピード時間入力の改訂」フォームで、次の必須フィールドに値を入力します。

- 日付
- バッチ

- 振替請求タイムカードを完成させるには、次のフィールドに値を入力します。

- 従業員No.
- 給与
- 時間数
- 勘定科目コード

勘定科目番号が不明な場合は、「フォーム」メニューから「マークアップ・テーブル」を選択してQBE行の「生成タイプ」カラムに「P」と入力し、「検索」をクリックして振替請求入力向けに設定する勘定科目を検索します。

- 勤務日付
- レコード・タイプ

従業員レコードのレコード・タイプに「2」と入力した場合は、タイムカードの「レコード・タイプ」フィールドを変更する必要はありません。レコード・タイプに「2」を入力しなかった場合は、タイムカードのレコード・タイプを「2」(給与計算および振替請求処理)に一時変更してください。振替請求処理の場合、使用できるレコード・タイプは「2」と「3」のみとなります。

- 詳細グリッドの次のフィールドを検討します。

- 請求料金(外貨)

請求料金は、時間入力MBF処理オプション・プログラム(P050002A)向けに設定した処理オプション、および従業員マスター・レコードにある所属ビジネスユニットの通貨と課金のビジネスユニットの通貨に基づいて、請求料金/割増テーブルで設定した料金情報から生成されます。

- 基本通貨

基本通貨とは従業員の所属ビジネスユニットの通貨のことです。

- 通貨コード

取引通貨とは時間課金される作業の通貨のことです。

- 請求料金

請求料金は、時間入力MBF処理オプション・プログラム向けに設定した処理オプション、および従業員マスター・レコードにある所属ビジネスユニットの通貨と課金のビジネスユニットの通貨に基づいて、請求料金/割増テーブルで設定した料金情報から生成されます。

注意: 振替請求料金または請求料金が正しくない場合は、請求料金/割増テーブルの有効勘定科目日付を確認してください。タイムカードの日付が有効日付内でない場合は、従業員マスター・レコードのデフォルトの料金情報が使用されます。

- 請求料金を確認します。

次の例ではCADからUSDに換算されます。会社固定情報の多通貨換算オプションは、除数0.66666667を使用するように設定されています。計算は $250.00 \div 0.66666667 = 375.00$ となります。

請求料金	請求料金(外貨)	基本通貨コード	換算先通貨コード
375.000	250.000	USD	CAD

次のフィールドは、多通貨勤怠管理が有効なときにのみ表示されます。

- 請求料金
- 請求料金(外貨)
- 基本通貨コード
- 換算先通貨コード

- バッチ番号を書き留めます。

- 「OK」をクリックすると、従業員トランザクション明細テーブル(F06116)にエントリが作成されます。

タイムカード仕訳の作成に関する考慮事項

「タイムカード転記/履歴更新」(G05BT11)の「タイムカード仕訳の作成」を選択します。

次の手順に従います。

1. 処理オプションの元帳日付を確認します。
2. データ選択のために、「バッチ番号」(F06116)オプションでタイムカードのバッチ番号を指定します。
3. レポートを確認し、元帳バッチ番号を書き留めます。

バッチの承認と転記に関する考慮事項

バッチを転記すると、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)と取引明細テーブル(F0911)が更新され、従業員トランザクション明細テーブル(F06116)がクリアされます。

ワークファイルの生成

この項では、多通貨勤怠管理向けのワークファイル生成に関する考慮事項について説明します。

タイムカードのワークファイル取引の生成に関する考慮事項

データ選択のために、「バッチ番号」(F0911) (ICU) オプションで元帳のバッチ番号を指定します。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイルの生成」、261 ページ

ワークファイル取引の検討に関する考慮事項

元帳日付、会社、顧客、または伝票タイプを検索します。次の表に示すように、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) が更新されます。

データ項目	説明
AA	外貨または国内通貨での取引の作業原価。
U	時間入力に入力された数量。
PRIC	単位レート。この値は、請求料金/割増の生成タイプP テーブルで設定されたレートと一致します。
CRCD	作業の通貨コード。
CRCF	顧客の通貨コード。
CRCE	従業員の所属ビジネスユニットの通貨コード。
AA2	顧客の通貨での取引の作業原価。
PRIF	顧客の通貨での単価。
BRTおよびBRTI	モード通貨での割増料金。

他のタイプの多通貨取引の場合と同様に、請求書金額と収益金額が計算されます。

注意: 取引明細テーブル (F0911) の仕訳が2行であっても、T4取引が1つのみ作成されます。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイル取引の確認」、263 ページ

例: 多通貨タイムカード入力

この項では、多通貨タイムカード入力の例を示します。

設定

この例は次の従業員情報に基づいています。

- 時給 (PHRT、従業員の「基本給」フォームでの時間当たりの賃金) = 25.00
- 配賦率 (PBRT、従業員の「給与計算」フォーム) = 45.00
- 所属ビジネスユニット = 9、会社00001に所属、米国通貨 (USD)

この例は、次に示すUSDからカナダ通貨 (CAD) への為替レートに基づいています。

日付	乗数	除数
2005/01/01	2.0	.50
2005/02/01	1.50	.6666667
2005/03/03	1.50	.6666667

この例は、次に示すCADからUSDへの為替レートに基づいています。

日付	乗数	除数
2005/04/01	1.50	.6666667
2005/05/01	1.50	.6666667
2005/06/01	1.1764706	.85

この例は次の設定に基づいています。

- 多通貨換算 = Y (乗算)
- 外貨 × 為替レート = 国内通貨
- 国内通貨 ÷ 為替レート = 外貨
- 労務費勘定 = 77.1341
- ビジネスユニット77は会社00077に属します。会社00077は、会社名および番号プログラム (P0010) で通貨コードCADを使用するように設定されます。

テスト・ケース1

次のテスト・ケースは、従業員の所属ビジネスユニット (USD) の使用に基づいています。

時間入力MBF処理オプション (P050002A)、「再請求レコード・オプション」タブ、処理オプション2 (基本金額のビジネスユニット通貨) = 0 (従業員の所属ビジネスユニット)

請求料金/割増テーブル

請求料金/割増テーブルは次の表のように設定されています。

生成タイプ	キー・タイプ	テーブル・キー	通貨コード	開始日付	終了日付	割増料金一時変更	割増率	割増金額
P	6	9	USD	2005/01/01	2005/01/31	250.00		
P	6	9	USD	2005/02/01	2005/02/28		150.00	
P	6	9	USD	2005/03/01	2005/03/31			100.00

一時変更レートを使用したタイムカード入力

次の例に、一時変更レートを使用したタイムカードを示します。

日付	給与	時間数	勘定科目コード	請求料金(外貨)	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属BU
2005/01/01	1	1	77.1341	500.00	USD	CAD	250.00	9

(請求料金) = (請求料金/割増テーブルからの割増料金の一時変更)

(請求料金(外貨)) = (国内通貨の請求料金) × (為替レート乗数[USDからCADへ])

$$250.00 \times 2.0 = 500.00$$

注意: 元帳日付の為替レートが作業日と異なる場合は、為替レート乗数の値が変わります。

割増率を使用したタイムカード入力

次の例に、割増率を使用したタイムカードを示します。

日付	給与	時間数	勘定科目コード	請求料金(外貨)	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属BU
2005/02/01	1	1	77.1341	93.75	USD	CAD	62.50	9

(請求料金) = (時給[PHRT]) + (割増)

$$25 + 150\% \text{の割増} = 62.50$$

(請求料金(外貨)) = (国内通貨の請求料金) × (為替レート乗数[USDからCADへ])

$$62.50 \times 1.50 = 93.75$$

注意: 元帳日付の為替レートが作業日と異なる場合は、為替レート乗数の値が変わります。

割増金額を使用したタイムカード入力

次の例に、割増金額を使用したタイムカードを示します。

日付	給与	時間数	勘定科目 コード	請求料金 (外貨)	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属BU
2005/03 /01	1	1	77.1341	187.50	USD	CAD	125.00	9

(請求料金) = (時給[PHRT]) + (割増金額)

25 + 10 = 125.00

(請求料金(外貨)) = (国内通貨の請求料金) × (為替レート乗数[USDからCADへ])

125.00 × 1.50 = 187.50

注意: 元帳日付の為替レートが作業日と異なる場合は、為替レート乗数の値が変わります。

テスト・ケース2

次のテスト・ケースは、振替請求ビジネスユニットの使用に基づいています。

時間入力MBF処理オプション(P050002A)、「振替請求」タブ、処理オプション2(基準額のビジネスユニット通貨) = 1(振替請求ビジネスユニット)

請求料金/割増テーブル

請求料金/割増テーブルは次の表のように設定されています。

生成タイプ	キー・ タイプ	テーブル・ キー	通貨コード	開始日付	終了日付	割増料金 一時変更	割増率	割増金額
P	6	77	CAD	2005/04 /01	2005/04 /30	250.00		
P	6	77	CAD	2005/05 /01	2005/05 /31		150.00	
P	6	77	CAD	2005/06 /01	2005/06 /31			100.00

一時変更レートを使用したタイムカード入力

次の例に、一時変更レートを使用したタイムカードを示します。

日付	給与	時間数	勘定科目 コード	請求料金 (外貨)	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属BU
2005/04 /01	1	1	77.1341	250.00	USD	CAD	375.00	9

請求料金(外貨)は固定され、請求料金は時間入力MBF処理オプション(P050002A)の設定に基づいて計算されます。

(請求料金) = (請求料金(外貨)) × (為替レート乗数[CADからUSDへ])

250.00 × 1.50 = 375.00

注意: 元帳日付の為替レートが作業日と異なる場合は、為替レート乗数の値が変わります。

割増率を使用したタイムカード入力

次の例に、割増率を使用したタイムカードを示します。

日付	給与	時間数	勘定科目 コード	請求料金 (外貨)	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属BU
2005/05 /01	1	1	77.1341	62.50	USD	CAD	93.75	9

(請求料金(外貨)) = (時給[PHRT]) + (割増)

25 + 150%の割増 = 62.50

(請求料金) = (請求料金(外貨)) × (為替レート乗数[CADからUSDへ])

62.50 × 1.50 = 93.75

注意: 元帳日付の為替レートが作業日と異なる場合は、為替レート乗数の値が変わります。

割増金額を使用したタイムカード入力

次の例に、割増金額を使用したタイムカードを示します。

日付	給与	時間数	勘定科目 コード	請求料金 (外貨)	基本通貨	通貨コード	請求料金	所属BU
2005/06 /01	1	1	77.1341	125.00	USD	CAD	147.059	9

(請求料金(外貨)) = (時給[PHRT]) + (割増金額)

25 + 10 = 125.00

(請求料金) = (請求料金(外貨)) × (為替レート乗数[CADからUSDへ])

125.00 × 1.1764706 = 147.06

注意: 元帳日付の為替レートが作業日と異なる場合は、為替レート乗数の値が変わります。

第 7 章

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の 留保金計算について

この項では、次の項目について例を示します。

- 売掛金元帳の留保金を使用する複数の留保金規則 – 繰延税金なし
- 売掛金元帳の留保金 – 繰延税金あり
- 総勘定元帳の留保金 – 繰延税金なし
- 総勘定元帳の留保金 – 繰延税金あり
- 部分完了契約の留保金 – T&M(タイム・アンド・マテリアル)請求行に予定値なし
- 部分完了契約の留保金 – T&M請求行に予定値あり
- 複数の完了率 – T&M請求行に予定値なし
- 複数の完了率 – T&M請求行に予定値あり
- 留保金規則での複数の完了率 – T&M請求行に予定値あり
- 留保金 – 割引あり
- 部分完了契約の留保金 – 割引あり

注意: この章のすべての例について、留保金規則は原価請求行タイプのみで留保金を計算するように設定されています。

売掛金元帳の留保金を使用する複数の留保金規則 – 繰延税金なし

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 自動入力されたテーブル
- 売掛金仕訳
- 売掛金元帳照会

例の設定

この例では、3つの留保金規則が、変更オーダー・レベル000および001と、請求行レベルで設定されています。計算は契約完了率100%に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。

分割融資および率による分割融資請求行は計算から除外されます。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム (P5204) で設定されています。

留保金規則	説明
A	100%完了するまで10%の留保金
B	100%完了するまで15%の留保金
C	100%完了するまで5%の留保金

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN		S	D1 = 3.5%
変更オーダー 000、請求行001	B	RETN		S	D1 = 3.5%
変更オーダー001	C	RETN		S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	総額	000	12,000.00	3,000.00	105.00	3,105.00	450.00
002	数量	000	15,000.00	78.00	2.73	80.73	7.80
003	マイルストーン	000	2,500.00	275.00	9.63	284.63	27.50
004	進捗	000	3,500.00	455.00	15.93	470.93	45.50
005	分割融資	000	1,500.00–	275.00–	9.63–	284.63–	
006	率による分割融資	000	1,000.00–	130.00–	4.55–	134.55–	
007	T&M	000		750.00	26.25	776.25	75.00
変更オーダー000合計			30,500.00	4,153.00	145.36	4,298.36	605.80
001	総額	001	6,000.00	100.00	3.50	103.50	5.00

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
変更オーダー001 合計			6,000.00	100.00	3.50	103.50	5.00
契約合計			36,500.00	4,253.00	148.86	4,401.86	610.80

注意: 分割融資請求行はマイルストーン請求行と相互参照されます。

率による分割融資請求行は進捗請求行と相互参照されます。

留保金の計算

次の計算式は、変更オーダー000、請求行001の留保額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (留保金テーブルB) = (留保額)
001	3,000.00 × .15 = 450.00

次の計算式は、変更オーダー000、請求行002から004と007の留保額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (留保金テーブルA) = (留保額)
002	78.00 × .10 = 7.80
003	275.00 × .10 = 27.50
004	455.00 × .10 = 45.50
007	750.00 × .10 = 75.00

次の計算式は、変更オーダー001の留保額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (留保金テーブルC) = (留保額)
001	100.00 × .05 = 5.00

自動入力されたテーブル

次の表は、仕訳の生成(R48131)で請求書の生成(R52121)を実行したときに値が自動入力される請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の留保金関連フィールドの一覧です。

COCH	OPIM	TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
000	001	8	105.00	3,105.00	3,000.00	105.00	RETN
000	002	8	2.73	80.73	78.00	2.73	RETN
000	003	8	9.63	284.63	275.00	9.63	RETN

COCH	OPIM	TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
000	004	8	15.93	470.93	455.00	15.93	RETN
000	005	8	9.63–	284.63–	275.00–	9.63–	RETN
000	006	8	4.55–	134.55–	130.00–	4.55–	RETN
000	007	8	26.25	776.25	750.00	26.25	RETN
001	001	8	3.50	103.50	100.00	3.50	RETN

次の表は、仕訳の生成 (R48131) で請求書の生成 (R52121) を実行したときに値が自動入力される請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) の留保金関連フィールドの一覧です。

COCH	OPIM	THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RTNR
000	001	3,105.00	105.00	3,000.00	450.00	RETN	B
000	002	80.73	2.73	78.00	7.80	RETN	A
000	003	284.63	9.63	275.00	27.50	RETN	A
000	004	470.93	15.93	455.00	45.50	RETN	A
000	005	284.63–	9.63–	275.00–		RETN	A
000	006	134.55–	4.55–	130.00–		RETN	A
000	007	776.25	26.25	750.00	75.00	RETN	A
001	001	103.50	3.50	100.00	5.00	RETN	C

次の表は、仕訳の生成 (R48131) で請求書の生成 (R52121) を実行したときに値が自動入力される請求明細仕訳ワークファイル・テーブル (F48S910) の留保金関連フィールドの一覧です。

COCH	LNID	TCLS	AA
000	001	8	3,105.00–
000	002	8	80.73–
000	003	8	284.63–
000	004	8	470.93–
000	005	8	284.63
000	006	8	134.55
000	007	8	776.25
001	001	8	103.50–

集計済仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) の AA フィールドは留保金と関連があり、仕訳の生成 (R48131) で請求書の生成 (R52121) を実行したときに 4,401.86- が自動入力されます。

AA
4,401.86-

売掛金仕訳

バッチの検討プログラム (P48221) から売掛仕訳の作成 (R48199) を実行すると、次の仕訳が売掛金元帳に作成されます。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	3,791.06	
収益		4,401.86-
留保金	610.80	

売掛金元帳照会

次の表は、売掛仕訳の作成を実行した後に売掛金元帳照会プログラム (P03B2002) で契約顧客の勘定科目を照会した結果の一部を示しています。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	摘要
RI	001	2005年11月15日	3,105.00	3,105.00	A	アプリケーション1調整0
RI	002	2005年11月15日	450.00-	450.00-	A	留保金
RI	003	2005年11月15日	450.00	450.00	H	留保金
RI	004	2005年11月15日	80.73	80.73	A	アプリケーション1調整0
RI	005	2005年11月15日	7.80-	7.80-	A	留保金
RI	006	2005年11月15日	7.80	7.80	H	留保金
RI	007	2005年11月15日	284.63	284.63	A	アプリケーション1調整0
RI	008	2005年11月15日	27.50-	27.50-	A	留保金

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	摘要
RI	009	2005年11月15日	27.50	27.50	H	留保金
RI	010	2005年11月15日	470.93	470.93	A	アプリケーション1調整0
RI	011	2005年11月15日	45.50-	45.50-	A	留保金
RI	012	2005年11月15日	45.50	45.50	H	留保金
RI	013	2005年11月15日	284.63-	284.63-	A	アプリケーション1調整0
RI	014	2005年11月15日	134.55-	134.55-	A	アプリケーション1調整0
RI	015	2005年11月15日	776.25	776.25	A	アプリケーション1調整0
RI	016	2005年11月15日	75.00-	75.00-	A	留保金
RI	017	2005年11月15日	75.00	75.00	H	留保金
RI	018	2005年11月15日	103.50	103.50	A	アプリケーション1調整0
RI	019	2005年11月15日	5.00-	5.00-	A	留保金
RI	020	2005年11月15日	5.00	5.00	H	留保金
			4,401.86	4,401.86		

売掛金元帳の留保金 - 繰延税金あり

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算
- 仕訳編集レジスタ(R48300)

- 自動入力されたテーブル
- 売掛金仕訳
- 売掛金元帳照会

例の設定

この例では、1つの留保金規則のみが契約レベルで設定されています。計算は契約完了率100%に基づいています。制御フラグは、繰延税金ありで売掛金元帳に留保金を作成するように、1に設定されています。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム (P5204) で設定されています。

留保金規則	説明
A	10%の留保金 ÷ 100%の完了率

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN	1	S	D1 - 3.5 %

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000		2,000.00	63.00	2,063.00	200.00
002	総額	000	12,000.00	1,000.00	31.50	1,031.50	100.00
変更オーダー合計			12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00
契約合計			12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00

留保金の計算

次の計算式は、変更オーダー000の留保額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (留保金テーブルA) = (留保額)
001	2,000.00 × .10 = 200.00
002	1,000.00 × .10 = 100.00

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (税率) = (課税対象額)
001	2,000.00 × .035 = 70.00
002	1,000.00 × .035 = 35.00

次の計算式は、繰延税額の計算方法を示しています。

請求行	(税額) × (留保パーセント) = (繰延税額)
001	70.00 × .10 = 7.00
002	35.00 × .10 = 3.50

次の計算式は、現行税額の計算方法を示しています。

請求行	(税額) - (繰延額) = (現行税額)
001	70.00 - 7.00 = 63.00
002	35.00 - 3.50 = 31.50

仕訳編集レジスタ (R48300)

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を実行すると、次の仕訳が売掛金元帳に作成されます。

勘定科目	借方	貸方	相殺額
売掛金	2,749.50		
収益		3,105.00-	
留保金	300.00		10.50

自動入力されたテーブル

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の留保金関連フィールドの一覧です。

OPIM	TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
001		70.00	2,070.00	2,000.00	70.00	RETN
002	8	35.00	1,035.00	1,000.00	35.00	RETN

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) の留保金関連フィールドの一覧です。

OPIM	THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RCTL	DDTR
001	2,063.00	63.00	2,000.00	200.00	RETN	1	7.00
002	1,031.50	31.50	1,000.00	100.00	RETN	1	3.50

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求明細仕訳ワークファイル・テーブル (F48S910) の留保金関連フィールドの一覧です。

LNID	TCLS	AA
001		2,070.00-
002	8	1,035.00-

集計済仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) の AA フィールドは留保金と関連があり、請求書仕訳の生成で請求書の生成を実行したときに 3,105.00- が自動入力されます。

AA
3,105.00-
300.00

売掛金仕訳

バッチの検討プログラム (P48221) から売掛仕訳の作成 (R48199) を実行すると、次の仕訳が売掛金元帳に作成されます。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	2,794.50	
収益		3,105.00-
留保金	310.50	

売掛金元帳照会

次の表は、売掛仕訳の作成を実行した後に売掛金元帳照会プログラム (P03B2002) で契約顧客の勘定科目を照会した結果の一部を示しています。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	摘要
RI	001	2005年11月15日	2,063.00	2,063.00	A	アプリケーション1調整0
RI	002	2005年11月15日	200.00-	200.00-	A	留保金

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	摘要
RI	003	2005年11月15日	200.00	200.00	H	留保金
RI	004	2005年11月15日	7.00	7.00	H	留保金
RI	005	2005年11月15日	1,031.50	1,031.50	A	アプリケーション1調整0
RI	006	2005年11月15日	100.00-	100.00-	A	留保金
RI	007	2005年11月15日	100.00	100.00	H	留保金
RI	008	2005年11月15日	3.50	3.50	H	留保金
			3,105.00	3,105.00		

総勘定元帳の留保金 - 繰延税金なし

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算
- 仕訳編集レジスタ (R48300)
- 自動入力されたテーブル
- 売掛金仕訳
- 売掛金元帳照会

例の設定

この例では、1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は契約完了率100%に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで総勘定元帳に留保金を作成するように、2に設定されています。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム (P5204) で設定されています。

留保金規則	説明
A	100%完了するまで10%の留保金

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN	2	S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000		2,000.00	70.00	2,070.00	200.00
002	総額	000	12,000.00	1,000.00	35.00	1,035.00	100.00
変更オーダー合計			12,000.00	3,000.00	105.50	3,105.00	300.00
契約合計			12,000.00	3,000.00	105.50	3,105.00	300.00

留保金の計算

次の計算式は、変更オーダー 000 の留保額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (留保金テーブル A) = (留保額)
001	2,000.00 × .10 = 200.00
002	1,000.00 × .10 = 100.00

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (税率) = (課税対象額)
001	2,000.00 × .035 = 70.00
002	1,000.00 × .035 = 35.00

仕訳編集レジスタ (R48300)

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を実行すると、次の仕訳が売掛金元帳に作成されます。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	2,805.00	

勘定科目	借方	貸方
収益		3,105.00-
留保金	300.00	

自動入力されたテーブル

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の留保金関連フィールドの一覧です。

OPIM	TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
001		70.00	2,070.00	2,000.00	70.00	RETN
002	8	35.00	1,035.00	1,000.00	35.00	RETN
001	R		200.00-	200.00-		RETN
002	R		100.00-	100.00-		RETN

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) の留保金関連フィールドの一覧です。

OPIM	THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RCTL
001	2,070.00	70.00	2,000.00	200.00	RETN	2
002	1,035.00	35.00	1,000.00	100.00	RETN	2

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求明細仕訳ワークファイル・テーブル (F48S910) の留保金関連フィールドの一覧です。

LNID	TCLS	AA
001		2,070.00-
002	8	1,035.00-
001	R	200.00
002	R	100.00

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される集計済仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) の留保金関連フィールドの一覧です。

AA
3,105.00-

売掛金仕訳

バッチの検討プログラム (P48221) から売掛仕訳の作成 (R48199) を実行すると、次の仕訳が売掛金元帳に作成されます。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	2,805.00	
収益		3,105.00-
留保金	300.00	

売掛金元帳照会

次の表は、売掛仕訳の作成を実行した後に売掛金元帳照会プログラム (P03B2002) で契約顧客の勘定科目を照会した結果の一部を示しています。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	摘要
RI	001	2005年11月15日	2,070.00	2,070.00	A	アプリケーション1 調整0
RI	002	2005年11月15日	200.00-	200.00-	A	留保金
RI	003	2005年11月15日	1,035.00	1,035.00	A	アプリケーション1 調整0
RI	004	2005年11月15日	100.00-	100.00-	A	留保金
			2,805.00	2,805.00		

総勘定元帳の留保金 - 繰延税金あり

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算
- 仕訳編集レジスタ (R48300)
- 自動入力されたテーブル
- 売掛金仕訳
- 売掛金元帳照会

例の設定

この例では、1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は契約完了率100%に基づいています。制御フラグは、繰延税金ありで総勘定元帳に留保金を作成するように、3に設定されています。繰延税金のAAIはRTVATDです。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	説明
A	100%完了するまで10%の留保金

次の契約が契約マスターの改訂プログラム(P5201)で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	A	RETN	3	S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成(R52121)の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000		2,000.00	63.00	2,063.00	200.00
002	総額	000	12,000.00	1,000.00	31.50	1,031.50	100.00
変更オーダー合計			12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00
契約合計			12,000.00	3,000.00	94.50	3,094.50	300.00

留保金の計算

次の計算式は、変更オーダー000の留保額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (留保金テーブルA) = (留保額)
001	2,000.00 × .10 = 200.00
002	1,000.00 × .10 = 100.00

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (税率) = (課税対象額)
001	2,000.00 × .035 = 70.00
002	1,000.00 × .035 = 35.00

次の計算式は、繰延税額の計算方法を示しています。

請求行	(税額) × (留保パーセント) = (繰延税額)
001	70.00 × .10 = 7.00
002	35.00 × .10 = 3.50

次の計算式は、現行税額の計算方法を示しています。

請求行	(税額) - (繰延税額) = (現行税額)
001	70.00 - 7.00 = 63.00
002	35.00 - 3.50 = 31.50

仕訳編集レジスタ (R48300)

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を実行すると、次の仕訳が売掛金元帳に作成されます。

勘定科目	借方	貸方
繰延税金	10.50	
売掛金	2,794.50	
収益		3,105.00-
留保金	300.00	

自動入力されたテーブル

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の留保金関連フィールドの一覧です。

OPIM	TCLS	JTAX	ITOL	ITXA	ITAM	RGLC
001		70.00	2,070.00	2,000.00	70.00	RETN
002	8	35.00	1,035.00	1,000.00	35.00	RETN
001	R	7.00-	207.00-	200.00-	7.00-	RETN
002	R	3.50-	103.50-	100.00-	3.50-	RETN

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) の留保金関連フィールドの一覧です。

OPIM	THPD	STAM	ATXA	RTNG	RGLC	RCTL	DDTR
001	2,063.00	63.00	2,000.00	200.00	RETN	3	7.00
002	1,031.50	31.50	1,000.00	100.00	RETN	3	3.50

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される請求明細仕訳ワークファイル・テーブル (F48S910) の留保金関連フィールドの一覧です。

LNID	TCLS	AA
001		2,070.00–
002	8	1,035.00–
001	R	200.00
001	R	7.00
002	R	100.00
002	R	3.50

次の表は、請求書仕訳の生成で請求書生成時に値が自動入力される集計済仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) の留保金関連フィールドの一覧です。

AA
3,105.00–
300.00
10.50

売掛金仕訳

バッチの検討プログラム (P48221) から売掛仕訳の作成 (R48199) を実行すると、次の仕訳が売掛金元帳に作成されます。

勘定科目	借方	貸方
繰延税金	10.50	
売掛金	2,794.50	
収益		3,105.00–
留保金	300.00	

売掛金元帳照会

次の表は、売掛仕訳の作成を実行した後に売掛金元帳照会プログラム (P03B2002) で契約顧客の勘定科目を照会した結果の一部を示しています。

伝票タイプ	支払項目	請求書日付	総額	未決済金額	支払状況	摘要
RI	001	2005年11月15日	2,063.00	2,063.00	A	アプリケーション1 調整0
RI	002	2005年11月15日	200.00-	200.00-	A	留保金
RI	003	2005年11月15日	1,031.50	1,031.50	A	アプリケーション1 調整0
RI	004	2005年11月15日	100.00-	100.00-	A	留保金
			2,794.50	2,794.50		

部分完了契約の留保金 - T&M請求行に予定値なし

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算

例の設定

この例では、1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は契約完了率30%に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。T&M行に予定値はありません。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム (P5204) で設定されています。

留保金規則	説明
D	30%完了するまで10%の留保金

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	D	RETN		S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000		1,200.00	42.00	1,242.00	66.00
002	総額	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	330.00
変更オ ーダー合計			12,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	396.00
契約合計			12,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	396.00

留保金の計算

次の計算式は、完了率の計算方法を示しています。

$(\text{正味金額}) \div ((\text{予定値}) + (\text{正味金額})) = (\text{完了率})$
$7,200.00 \div (12,000.00 + 1,200.00) = .545454$

次の計算式は、留保合計額の計算方法を示しています。

$(\text{予定値}) \times (\text{留保完了率}) \times (\text{留保パーセント}) = (\text{留保額})$
$13,200.00 \times .30 \times .10 = 396.00$

次の表は、各請求行の留保金の計算方法を示しています。

請求行	$(\text{正味金額}) \div (\text{正味合計額}) \times (\text{留保額}) = (\text{請求行留保額})$
001	$1,200.00 \div 7,200.00 \times 396.00 = 66.00$
002	$6,000.00 \div 7,200.00 \times 396.00 = 330.00$

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	$(\text{正味金額}) \times (\text{税率}) = (\text{課税対象額})$
001	$1,200.00 \times .035 = 42.00$
002	$6,000.00 \times .035 = 210.00$

部分完了契約の留保金 - T&M 請求行に予定値あり

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算

例の設定

この例では、1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は契約完了率30%に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。T&M行に予定値があります。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム (P5204) で設定されています。

留保金規則	説明
D	30%完了するまで10%の留保金

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	D	RETN		S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000	5,000.00	1,200.00	42.00	1,242.00	85.00
002	総額	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	425.00
変更オ ーダー合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	510.00
契約合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	510.00

留保金の計算

次の計算式は、完了率の計算方法を示しています。

$(\text{正味金額}) \div ((\text{予定値}) + (\text{正味金額})) = (\text{完了率})$
$7,200.00 \div 17,000.00 = .423529411$

次の計算式は、留保合計額の計算方法を示しています。

$(\text{予定値}) \times (\text{留保完了率}) \times (\text{留保パーセント}) = (\text{留保額})$
$17,000.00 \times .30 \times .10 = 510.00$

次の表は、各請求行の留保金の計算方法を示しています。

請求行	$(\text{正味金額}) \div (\text{正味合計額}) \times (\text{留保額}) = (\text{請求行留保額})$
001	$1,200.00 \div 7,200.00 \times 510.00 = 85.00$
002	$6,000.00 \div 7,200.00 \times 510.00 = 425.00$

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	$(\text{正味金額}) \times (\text{税率}) = (\text{課税対象額})$
001	$1,200.00 \times .035 = 42.00$
002	$6,000.00 \times .035 = 210.00$

複数の完了率 – T&M請求行に予定値なし

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算

例の設定

この例では、1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は、契約の異なる2つの完了率に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。T&M行に予定値はありません。

次の表は、留保金規則テーブル・プログラム(P5204)での留保金規則E(複数の完了時留保パーセント)の設定方法を示しています。

留保パーセント	完了率
10%	20.00
15%	38.00

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	E	RETN		S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000		1,200.00	42.00	1,242.00	94.00
002	総額	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	470.00
変更オーダー合計			12,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	564.00
契約合計			12,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	564.00

留保金の計算

次の計算式は、完了率の計算方法を示しています。

$(\text{正味金額}) \div ((\text{予定値}) + (\text{正味金額})) = (\text{完了率})$
$7,200.00 \div 12,000.00 = .60$

次の計算式は、留保合計額の計算方法を示しています。

完了率	$(\text{予定値}) \times (\text{留保完了率}) \times (\text{留保パーセント}) = (\text{留保額})$
20%	$12,000.00 \times .20 \times .10 = 240.00$
$38\% - 20\% = 18\%$ (計算する残りの率)	$12,000.00 \times .18 \times .15 = 324.00$
合計	$340.00 + 459.00 = 564.00$

次の表は、各請求行の留保金の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) ÷ (正味合計額) × (留保額) = (請求行留保額)
001	1,200.00 ÷ 7,200.00 × 564.00 = 94.00
002	6,000.00 ÷ 7,200.00 × 564.00 = 470.00

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (税率) = (課税対象額)
001	1,200.00 × .035 = 42.00
002	6,000.00 × .035 = 210.00

複数の完了率 – T&M請求行に予定値あり

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算

例の設定

この例では、1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は、契約の異なる3つの完了率に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。T&M行に予定値があります。

次の表は、留保金規則テーブル・プログラム(P5204)での留保金規則F(複数の完了時留保パーセント)の設定方法を示しています。

留保パーセント	完了率
10%	20.00
15%	38.00
25%	60.00

次の契約が契約マスターの改訂プログラム(P5201)で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	F	RETN		S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000	5,000.00	1,200.00	42.00	1,242.00	164.00
002	総額	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	820.00
変更オ ーダー合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	984.00
契約合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	984.00

留保金の計算

次の計算式は、完了率の計算方法を示しています。

$(\text{正味金額}) \div ((\text{予定値}) + (\text{正味金額})) = (\text{完了率})$
$7,200.00 \div 17,000.00 = .423529411$

次の計算式は、留保合計額の計算方法を示しています。

完了率	$(\text{予定値}) \times (\text{留保完了率}) \times (\text{留保パーセント}) = (\text{留保額})$
20%	$17,000.00 \times .20 \times .10 = 340.00$
$38\% - 20\% = 18\%$ (計算する残りの率)	$17,000.00 \times .18 \times .15 = 459.00$
契約に基づく完了率は $0.423529411 - 0.38 = 0.043529411\%$ (計算する残りの率)	$17,000.00 \times .043529411 \times .25 = 185.00$
合計	$340.00 + 459.00 + 185.00 = 984.00$

次の表は、各請求行の留保金の計算方法を示しています。

請求行	$(\text{正味金額}) \div (\text{正味合計額}) \times (\text{留保額}) = (\text{請求行留保額})$
001	$1,200.00 \div 7,200.00 \times 984.00 = 164.00$
002	$6,000.00 \div 7,200.00 \times 984.00 = 820.00$
合計	$164.00 + 820.00 = 984.00$

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (税率) = (課税対象額)
001	1,200.00 × .035 = 42.00
002	6,000.00 × .035 = 210.00

留保金規則での複数の完了率 – T&M請求行に予定値あり

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 留保金の計算
- 税の計算

例の設定

この例では、1つの留保金規則が契約レベルと契約の2つの請求行の両方で設定されています。計算は、契約の異なる3つの完了率に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。T&M行に予定値があります。

次の表は、留保金規則テーブル・プログラム (P5204) での留保金規則F (複数の完了時留保パーセント) の設定方法を示しています。

留保パーセント	完了率
10%	20.00
15%	38.00
25%	60.00

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域
契約	F	RETN		S	D1 = 3.5%

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000	5,000.00	1,200.00	42.00	1,242.00	130.00
002	総額	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	924.00
変更オー ダー合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	1,054.00
契約合計			17,000.00	7,200.00	252.00	7,452.00	1,054.00

留保金の計算

次の表は、各請求行の完了率の計算方法を示しています。

請求行	(現行正味金額) ÷ (予定値) = (完了率)
001	$1,200.00 \div 5,000.00 = .24$
002	$6,000.00 \div 12,000.00 = .50$

次の表は、請求行001の留保金の計算方法を示しています。

請求行	(予定値) × (完了率) × (留保パーセント) = (請求行留保額)
001	$5,000.00 \times .20 \times .10 = 100.00$
001	$5,000.00 \times .04 \times .15 = 30.00$
合計	$100.00 + 30.00 = 130.00$

次の表は、請求行002の留保金の計算方法を示しています。

完了率	(予定値) × (完了率) × (留保パーセント) = (請求行留保額)
20%	$12,000.00 \times .20 \times .10 = 240.00$
38% - 20% = 18% (計 算する残りの率)	$12,000.00 \times .18 \times .15 = 324.00$
50 - 38 (すでに計算 済の留保完了率) = 12%の請求行完了 率	$12,000.00 \times .12 \times .25 = 360.00$
合計	$240.00 + 324.00 + 360.00 = 924.00$

税の計算

次の計算式は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(正味金額) × (税率) = (課税対象額)
001	1,200.00 × .035 = 42.00
002	6,000.00 × .035 = 210.00

留保金 - 割引あり

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 税の計算
- 留保金の計算

例の設定

この例では、割引を伴う支払条件と1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は契約完了率100%に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。T&M行に予定値はありませんが、T&M行に25.00の割増があります。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム(P5204)で設定されています。

留保金規則	説明
A	100%完了するまで10%の留保金

次の契約が契約マスターの改訂プログラム(P5201)で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域	支払条件
契約	A	RETN		S	D1 = 3.5%	30日以内支払 (10日以内1% 割引)

請求書の生成

請求書の生成(R52121)の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000		1,225.00	42.88	1,267.88	122.50
002	総額	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	600.00

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
変更オーダー合計			12,000.00	7,200.00	252.88	7,477.88	722.50
契約合計			12,000.00	7,225.00	252.88	7,477.88	722.50

税の計算

次の表は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(原価金額) + (割増金額) × (税率) = (課税対象額)
001	$1,200.00 + 25.00 \times .035 = 42.88$
002	$6,000.00 + .00 \times .035 = 210.00$

留保金の計算

次の表は、各請求行の留保金の計算方法を示しています。

請求行	(原価金額) + (割増) × (留保額) = (請求行留保額)
001	$1,200.00 + 25.00 \times .10 = 122.50$
002	$6,000.00 + 00.00 \times .10 = 600.00$

次の表は、各請求行の割引の計算方法を示しています。

請求行	(原価金額) + (割増) × (割引率) = (割引額)
001	$1,200.00 + 25.00 \times .01 = 11.03$
002	$6,000.00 + 00.00 \times .01 = 54.00$

部分完了契約の留保金 - 割引あり

ここでは、次の事項について説明します。

- 例の設定
- 請求書の生成
- 税の計算
- 留保金の計算

例の設定

この例では、割引を伴う支払条件と1つの留保金規則が契約レベルで設定されています。計算は契約完了率30%に基づいています。制御フラグは、繰延税金なしで売掛金元帳に留保金を作成するように、ブランクに設定されています。T&M行に予定値はありませんが、T&M行に25.00の割増があります。

次の留保金規則が留保金規則テーブル・プログラム (P5204) で設定されています。

留保金規則	説明
D	30%完了するまで10%の留保金

次の契約が契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されています。

契約の要素	留保金規則	留保相殺	制御フラグ	税目	税率/税域	支払条件
契約	D	RETN		S	D1 = 3.5%	30日以内支払 (10日以内1% 割引)

請求書の生成

請求書の生成 (R52121) の実行で次の値が生成されます。

請求行	請求行記述	変更 オーダー	予定値	現行正味 金額	現行税額	現行合計額	現行留保額
001	T&M	000		1,225.00	42.88	1,267.88	67.49
002	総額	000	12,000.00	6,000.00	210.00	6,210.00	329.48.55
変更オ ーダー合計			12,000.00	7,200.00	252.88	7,477.88	396.75
契約合計			12,000.00	7,225.00	252.88	7,477.88	396.75

税の計算

次の表は、課税対象額の計算方法を示しています。

請求行	(原価金額) + (割増金額) × (税率) = (課税対象額)
001	1,200.00 + 25.00 × .035 = 42.88
002	6,000.00 + .00 × .035 = 210.00

留保金の計算

次の計算式は、完了率の計算方法を示しています。

$(\text{正味金額}) \div ((\text{予定値}) + (\text{正味金額})) = (\text{完了率})$
$7,200.00 \div (12,000.00 + 1,225.00) = .54442344$

次の計算式は、留保額の計算方法を示しています。

$((\text{予定値}) + (\text{割引})) \times (\text{留保完了率}) \times (\text{留保パーセント}) = (\text{留保額})$
$(13,200.00 + 25.00) \times .30 \times .10 = 396.75$

次の表は、各請求行の留保金の計算方法を示しています。

請求行	$((\text{正味金額}) + (\text{割増})) \div ((\text{正味合計額}) + (\text{割増})) \times (\text{留保合計額}) = (\text{請求行留保額})$
001	$(1,200.00 + 25.00) \div (7,200.00 + 25.00) \times 396.75 = 67.27$
002	$(6,000.00 + 00.00) \div (7,200.00 + 25.00) \times 396.75 = 329.48$

次の表は、各請求行の割引の計算方法を示しています。

請求行	$((\text{原価金額}) + (\text{割増}) - (\text{留保額})) \times (\text{割引率}) = (\text{割引額})$
001	$(1,200.00 + 25.00 - 67.27) \times .01 = 11.58$
002	$(6,000.00 + 00.00 - 329.48) \times .01 = 56.71$

第 8 章

最高限度の計算について

この章では、例の設定と、次のタイム・アンド・マテリアル請求行の最高限度 (NTE) の計算例を示します。

- 1つのワークファイル取引の収益生成
- 1つのワークファイル取引の収益認識を伴う請求
- 2つのワークファイル取引の収益生成
- 2つのワークファイル取引の収益認識を伴う請求

例の設定

すべての例が、この項で説明した設定に基づいています。

最高限度金額は、契約マスターの改訂プログラム (P5201) で設定されている10,000.00です。

これらのAAIは、請求AAIプログラム (P48S95) で設定されています。

AAIテーブル	キー・タイプ記述	テーブル・キー記述	開始日付	終了日付	結果勘定
4851 (最高限度 - 貸方)	8 (会社)	00050 (プロジェクト管理会社)	2005年1月1日	2005年12月31日	収益相手勘定
4852 (最高限度 - 借方)	8 (会社)	00050 (プロジェクト管理会社)	2005年1月1日	2005年12月31日	見越し売掛金相手勘定

請求固定情報プログラム (P48091) で「最高限度 (NTE) の制御」チェックボックスを選択してあります。

1つのワークファイル取引の収益生成

次の3つの例は、最初に収益が生成され、次に請求が処理された場合の最高限度金額の計算結果を示しています。これらの例は、割増および税金を伴わない金額15,000.00の単一ワークファイル取引に基づいています。

ここでは、次の事項について説明します。

- 例1 - 「2」の最高限度規則 (請求および収益に適用)
- 例2 - 「3」の最高限度規則 (収益に適用)

- 例3 - 「4」の最高限度規則（請求に適用）

例1 - 「2」の最高限度規則（請求および収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。ワークファイルの金額(15,000.00)が契約の最高限度金額(10,000.00)を超えているため、請求の仕訳は作成されません。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム(R48132)によって呼び出されると、最初に次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	10,000.00	
収益勘定		10,000.00
収益相手勘定		5,000.00
見越し売掛金相手勘定	5,000.00	

請求書処理

収益認識が完了した後に請求書処理が実行されますが、仕訳は作成されません。

例2 - 「3」の最高限度規則（収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム(R48132)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	10,000.00	
収益勘定		10,000.00
収益相手勘定		5,000.00
見越し売掛金相手勘定	5,000.00	

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	15,000.00	
見越し売掛金		15,000.00

例3 - 「4」の最高限度規則（請求に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。ワークファイルの金額(15,000.00)が契約の最高限度金額(10,000.00)を超えているため、請求の仕訳は作成されません。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム(R48132)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	15,000.00	
収益勘定		15,000.00

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)によって呼び出されたとき、仕訳を作成しません。

1つのワークファイル取引の収益認識を伴う請求

これら3つの例は、収益とともに請求を処理している場合の最高限度金額の計算結果を示しています。これらの例は、割増および税金を伴わない金額15,000.00の単一ワークファイル取引に基づいています。

ここでは、次の事項について説明します。

- 例4 - 「2」の最高限度規則（請求および収益に適用）
- 例5 - 「3」の最高限度規則（収益に適用）
- 例6 - 「4」の最高限度規則（請求に適用）

例4 - 「2」の最高限度規則（請求および収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。ワークファイルの金額(15,000.00)が契約の最高限度金額(10,000.00)を超えているため、請求または収益の仕訳は作成されません。

元帳仕訳の生成による請求処理

請求書仕訳の生成プログラム(R48131)では、売掛金または総勘定元帳の仕訳は作成しません。

例5 - 「3」の最高限度規則（収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) は、総勘定元帳仕訳の生成 (R48132) によって呼び出されると、次の総勘定元帳の仕訳を作成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	10,000.00	
収益勘定		10,000.00
収益相手勘定		5,000.00
見越し売掛金相手勘定	5,000.00	

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) は、請求書仕訳の生成プログラム (R48131) によって呼び出されると、次の売掛金の仕訳を作成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	15,000.00	
見越し売掛金		15,000.00

例6 - 「4」の最高限度規則（請求に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。ワークファイルの金額 (15,000.00) が契約の最高限度金額 (10,000.00) を超えているため、請求または収益の仕訳は作成されません。

元帳仕訳の生成による請求処理

請求書仕訳の生成プログラム (R48131) では、売掛金または総勘定元帳の仕訳は作成しません。

2つのワークファイル取引の収益生成

次の3つの例は、最初に収益が生成され、次に請求が処理された場合の最高限度金額の計算結果を示しています。これらの例は2つのワークファイル取引に基づいています。1つは金額8,000.00、もう1つは金額15,000.00のワークファイル取引です。両方の取引に、割増および税は含まれません。

ここでは、次の事項について説明します。

- ・ 例7 - 「2」の最高限度規則（請求および収益に適用）
- ・ 例8 - 「3」の最高限度規則（収益に適用）

- ・ 例9 - 「4」の最高限度規則（請求に適用）

例7 - 「2」の最高限度規則（請求および収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。8,000.00の取引では請求の仕訳が作成されますが、15,000.00の取引では最高限度金額（10,000.00）を超えているため、作成されません。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム（R48300）は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム（R48132）によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	10,000.00	
収益勘定		10,000.00
収益相手勘定		13,000.00
見越し売掛金相手勘定	13,000.00	

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム（R48300）は、請求書仕訳の生成プログラム（R48131）によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	8,000.00	
見越し売掛金		8,000.00

例8 - 「3」の最高限度規則（収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム（R48300）は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム（R48132）によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	10,000.00	
収益勘定		10,000.00
収益相手勘定		13,000.00
見越し売掛金相手勘定	13,000.00	

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) は、請求書仕訳の生成プログラム (R48131) によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	23,000.00	
見越し売掛金		23,000.00

例9 - 「4」の最高限度規則 (請求に適用)

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。8,000.00の取引では請求の仕訳が作成されますが、15,000.00の取引では最高限度金額 (10,000.00) を超えているため、作成されません。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム (R48132) によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	23,000.00	
収益勘定		23,000.00

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) は、請求書仕訳の生成プログラム (R48131) によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	8,000.00	
見越し売掛金		8,000.00

2つのワークファイル取引の収益認識を伴う請求

これら3つの例は、収益とともに請求を処理している場合の最高限度金額の計算結果を示しています。これらの例は2つのワークファイル取引に基づいています。1つは金額8,000.00、もう1つは金額15,000.00のワークファイル取引です。両方の取引に、割増および税は含まれません。

ここでは、次の事項について説明します。

- 例10 - 「2」の最高限度規則 (請求および収益に適用)
- 例11 - 「3」の最高限度規則 (収益に適用)

- 例12 - 「4」の最高限度規則（請求に適用）

例10 - 「2」の最高限度規則（請求および収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。8,000.00の取引では請求および収益の仕訳が作成されますが、15,000.00の取引では最高限度金額(10,000.00)を超えているため、作成されません。

元帳仕訳の生成による請求処理

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、仕訳の生成プログラム(R48132)によって呼び出されると、次の仕訳を作成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	8,000.00	
収益勘定		8,000.00

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	8,000.00	
見越し売掛金		8,000.00

例11 - 「3」の最高限度規則（収益に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム(R48132)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	10,000.00	
収益勘定		10,000.00
収益相手勘定		13,000.00
見越し売掛金相手勘定	13,000.00	

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	23,000.00	
見越し売掛金		23,000.00

例12 - 「4」の最高限度規則（請求に適用）

この例では、最高限度金額はワークファイル取引の全額に基づいて計算されます。8,000.00の取引では収益および請求の仕訳が作成されますが、15,000.00の取引では最高限度金額(10,000.00)を超えているため、作成されません。

収益認識

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、総勘定元帳仕訳の生成プログラム(R48132)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
見越し売掛金	8,000.00	
収益勘定		8,000.00

請求書処理

仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)は、請求書仕訳の生成プログラム(R48131)によって呼び出されると、次の結果を生成します。

勘定科目	借方	貸方
売掛金	8,000.00	
見越し売掛金		8,000.00

第 9 章

契約の設定

この章では、契約、請求タイプ、変更オーダー、契約請求行の改訂および多通貨契約の概要と、次の方法について説明します。

- 契約の作成
- 最高限度規則の割当
- 契約の留保金規則の定義
- 支払時請求要件の定義

契約について

すべての作業またはプロジェクトには、新しい契約を作成し、請求方法、請求時期および請求対象者を定義します。

契約の状況をトラッキングして請求サイクルを正確に計画するために、契約情報を確認および分析します。

契約が正確に請求されるようにするには、契約の様々な要素について理解する必要があります。次の表は、契約の各要素についてまとめたものです。

契約の要素	説明
マスター情報	マスター情報は、顧客や契約日付など、契約全体に関連する基本的な情報です。この情報は契約マスター (F5201) に保存されます。
変更オーダー情報	変更オーダーは、顧客が要求する、当初の契約には含まれていない追加作業を表します。変更オーダーには、追加作業の新しい請求条件を定義する1つまたは複数の請求行が含まれます。変更オーダー情報は、契約請求行詳細テーブル (F5202) に保存されます。
請求行情報	請求行情報は、タイム・アンド・マテリアル、総額、単価など、請求対象の商品やサービスに関する行単位の詳細 (請求行) で構成されます。この情報は、契約請求行詳細テーブル (F5202) に保存されます。

契約の要素	説明
マイルストーンおよび進捗請求情報	マイルストーンおよび進捗請求情報は、イベント、パーセントおよび金額で構成され、対応する請求行の基準として使用されます。この情報は、マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216) に保存されます。
相互参照情報	<p>請求は、相互参照情報を使用して実行されます。次の情報が認識されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 勘定科目相互参照詳細。この情報によって、原価勘定科目が正しい請求行に関連付けられます。この相互参照テーブルは、タイム・アンド・マテリアル、総額および単価の請求行で使用されます。この情報は、T&M、単価および合計相互参照勘定科目テーブル (F5212) に保存されます。 手数料行相互参照詳細。この情報によって、手数料計算の基準となる請求行が識別されます。この情報は、手数料請求行相互参照詳細テーブル (F5213) に保存されます。 マイルストーン/進捗相互参照詳細。この情報によって、マイルストーンまたは進捗請求行の計算に使用される請求行が識別されます。この情報は、マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細テーブル (F52161) に保存されます。 追加料金コード/間接費相互参照。この情報によって、間接費請求行のDBAまたは税タイプ、あるいは追加料金請求行の追加料金コードが識別されます。この情報は、追加料金コード/間接費相互参照テーブル (F5214) に保存されます。 追加料金/間接費請求行相互参照。この情報によって、追加料金コードまたは間接費に相互参照される請求行が識別されます。この情報は、追加料金/間接費請求行相互参照詳細テーブル (F5215) に保存されます。

請求タイプについて

契約請求行では、契約の請求情報が定義されます。契約の各請求行では、特定の請求条件が定義されます。請求行に基づいて請求金額または顧客請求書が計算されます。

契約には独立請求行と従属請求行を設定できます。請求行のタイプによってその請求行が独立か従属かが判別されます。たとえば、作業完了のために発生する費用の実際原価に基づいてタイム・アンド・マテリアルについて顧客に請求する場合があります。タイム・アンド・マテリアル請求行を独立請求行として設定し、請求対象の原価を含む勘定科目を指定します。契約の請求書を作成すると、請求行に基づいて請求金額が計算され、請求書には指定金額ごとに1行が作成されます。

請求書の請求金額を割増する追加明細を含める場合、契約に従属請求行を設定します。従属請求行は、請求金額の計算時に他の請求行に依存します。

たとえば、タイム・アンド・マテリアルに対する請求金額に間接組合費の原価が含まれる場合、手数料の従属請求行を設定します。従属請求行は、間接組合費であるタイム・アンド・マテリアルの請求金額の一部を表します。間接組合費の従属請求行を、合計請求金額にこの情報を含むタイム・アンド・マテリアルの独立請求行と関連付けます。その後、請求書を作成すると、従属請求行と独立請求行の関係に基づいて請求金額が計算されます。独立タイム・アンド・マテリアル請求行および間接組合費の従属請求行の請求金額は、請求書に個別の2つの行として作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムでは、請求書計算を制御するための複数の請求行タイプが用意されています。組織は、これらの各種方法を使用することによって、顧客と交渉した請求条件を満たすことができます。これらの請求行タイプは独立請求行と従属請求行に分けられ、次の項目で構成されます。

- タイム・アンド・マテリアルまたは原価加算
- 単価
- 総額
- 手数料
- マイルストーン
- 進捗
- 直接分割融資
- 率による分割融資
- 追加料金
- 間接費
- 収益

変更オーダーについて

作業の進行に伴い、顧客との間で契約の請求情報を改訂することが決定される場合があります。基本契約の整合性を維持するために、基本契約に加える各改訂に関して、補遺を作成します。各補遺は変更オーダーと呼ばれます。

変更オーダーには、基本契約には含まれない、顧客（作業の所有者）が要求する追加作業が含まれます。変更オーダーには、追加作業の新しい請求条件を定義する1つまたは複数の請求行が含まれます。

基本契約に対する各補遺をトラッキングできるように、基本契約変更オーダーには番号000が常に割り当てられます。追加の各変更オーダーには、001、002などの番号を割り当てることができます。

契約請求行の改訂について

当初の契約情報を基本契約として入力します。基本契約は契約マスターと変更オーダー番号000で構成されます。契約は、顧客に対して作成する請求書の基準となります。契約の請求書を生成する前に、契約に設定した請求行に関連する情報を改訂できます。

顧客に対する請求書を生成するときには、契約はアクティブな請求書バッチに含まれています。契約がアクティブな請求書バッチに含まれている間は、契約マスターまたは契約請求行を変更することはできません。請求書の生成後、契約は請求書バッチからなくなり、契約請求行を改訂できるようになります。

契約がアクティブな請求書バッチに含まれていない場合は、次の処理を実行できます。

- 請求行の追加または削除
- 予定値、単位または数量の変更
- 相互参照の変更、追加または削除
- 留保金または定期請求情報の変更
- 勘定科目情報の変更

請求書に契約請求行が含まれた後で、それらの請求行を削除することはできません。

契約請求行に加えた改訂の履歴は保持されません。契約請求の変更の履歴を保持するには、変更オーダーを作成する必要があります。

当初の基本契約のレコードが保持されるようにするには、契約請求行の詳細プログラム(P5202)の処理オプションを設定して、基本契約の請求行に対する変更を防止できます。この場合、基本契約に最初に設定した請求行は変更できません。顧客から追加の作業が要求された場合は、新しい条件の請求行を追加の変更オーダーとして入力する必要があります。新しい各変更オーダーには、変更オーダー番号 001、002などの一意の番号を割り当てます。

多通貨契約について

多通貨環境で作業する場合は、多通貨契約を作成できます。多通貨契約には、会社の通貨(国内通貨)または顧客の通貨(外貨)が反映されます。

グローバル顧客ネットワークを構築すると、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムを使用して、多通貨環境での収益認識および請求処理を実行できます。たとえば、次のことができます。

- 従業員の時間に対する原価など、多通貨で入力される請求原価を累計します。
- 国内通貨または外貨のいずれかで割増金額を原価に適用します。
- 契約の通貨とは異なる通貨(外貨)で顧客に対する請求書を生成します。

システムでは、契約を担当する会社の通貨は国内通貨として認識されます。顧客に対して定義する通貨は契約に対して設定する通貨と異なる場合がありますが、契約は国内通貨で管理します。その後、契約の請求書を生成すると、顧客の通貨(外貨)を使用して請求書が作成されます。

作成した多通貨契約は、国内通貨と外貨のどちらでも確認できます。多通貨契約を改訂するには、作成したときと同じ通貨モードで契約にアクセスする必要があります。1つの契約に対して外貨と国内通貨の両方を入力することはできません。

新しい契約を追加すると、関連する作業に基づく基本通貨が使用されます。請求通貨は、顧客レコードに基づきます。通貨モードは、請求固定情報に基づきます。

請求通貨とモードを変更できるのは、変更オーダーと請求行を追加するまでの間です。請求行を入力した後では通貨コードまたはモードは変更できません。システムでは、契約の元の変更オーダーに関連付けられている日付のレートに基づいて、契約マスター(F5201)の為替レートが取得されます。また、「契約マスターの改訂」フォームに入力した請求通貨に基づいて、ワークファイル取引のすべての外貨が計算されます。

「契約マスターの改訂」フォームでは、固定モードでのみ最小しきい値金額を更新できます。元の変更オーダーの変更日付から導出される為替レートに基づいて、しきい値金額の代替モードが計算されます。

契約マスター・レコードを設定した後、変更オーダーと請求行を設定する必要があります。最初の請求行を追加すると、契約マスターと請求行テーブルで通貨為替レートが更新されます。予定値は固定モードでのみ入力できます。導出された為替レートに基づいて代替モードが計算されます。

注意: 為替レートは、元の変更オーダーの変更日付に基づいて、日次為替レート・テーブルから導出されます。変更オーダーを新しい日付とレートで入力しても、為替レートは更新されません。一度導出された為替レートは、契約期間全体を通して変わりません。

契約の作成

この項では、契約マスター情報、データ・リレーションシップと契約の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 契約マスターの改訂 (P5201) の処理オプションの設定
- 契約マスター情報の設定

契約マスター情報について

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理システムで管理および請求する契約ごとに契約マスターを設定します。契約マスター情報は契約マスター (F5201) に保存されます。契約マスターを使用して、システム内の個々の契約を識別します。

まず、契約のマスター・レコードを作成してから、契約情報の他の部分を入力します。契約のマスター情報の設定では、次の項目を指定します。

- 契約番号、顧客番号、関連する作業またはプロジェクトなどの識別情報
- 割引条件や支払期日など、契約全体に影響を及ぼす可能性のある支払条件
- 税情報 (該当する場合)
- 作業またはプロジェクトの場所、契約関係者の名前と住所、担当ビジネスユニット、開始日付と完了日付などの追加詳細
- 通貨の指定
- 留保金規則
- 最高限度規則
- 10個のユーザー定義カテゴリ・コード (契約の分類に使用)

契約へのカテゴリ・コードの割当

カテゴリ・コードを割り当てると、契約の識別、トラッキングおよびレポート作成をさらに詳細に行うことができます。

顧客および契約タイプの割当

プロジェクト内の契約情報に基づいて、契約に顧客番号と契約タイプが自動的に割り当てられます。この情報は手動で一時変更できます。

親/子関係

契約(子)は、主契約(親)の下位に位置付けることができます。この親/子関係を使用して、関連する契約を管理できます。

たとえば、会社が空港建設の外注業者であるとします。空港プロジェクトには、次の建設フェーズがあります。

- メイン・ターミナル
- 連絡通路
- 自動輸送システム
- コンコース

顧客とは建設フェーズごとに個別の契約を締結しています。この場合、空港プロジェクトの親契約を設定して各フェーズの子契約を親契約に関連付けることで、親/子関係を確立できます。

契約間の関係を確立するには、「親契約」フィールドを使用します。また、「親契約」フィールドの値を使用して、請求料金/割増テーブルのキー値および請求用のAAIを定義できます。これらの情報は、子契約に自動的に入力されます。

参照: [第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求料金/割増規則の設定」、49ページ](#)

参照: [第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求のAAIの設定」、61ページ](#)

契約への請求書フォーマット・コードの割当

請求書の印刷に使用する請求書印刷プログラムとバージョンを指定できます。このためには、「請求書フォーマット」フィールドに有効な請求書フォーマット・コードを入力します。対象の契約の請求書の印刷時にこのコードが使用されます。

注意: これはデフォルトのコードです。このコードは、請求書印刷選択プログラム(R48504)の処理オプションを使用するか、または請求書印刷バージョンの相互参照テーブル(F48S58)に項目を設定することによって一時変更できます。

参照: [第 4 章、「請求書処理の設定」、「請求書印刷バージョン相互参照の設定」、86ページ](#)

最高限度規則の定義

最高限度(NTE)規則を指定して、顧客との間で合意した請求金額を超える収益を認識したり、請求書を生成しないようにできます。収益認識または請求書処理では、最高限度規則に基づいて、収益金額または請求書金額が契約上の限度内に収められているかどうか判断されます。

契約の留保金の定義

留保金とは、作業の完了後、会社が支払を受ける請求書金額のパーセントです。売掛仕訳の作成処理時に、留保金額用に個別の仕訳レコードが作成されます。契約の留保金は次の項目を使用して定義します。

- 留保金規則。作業が完了するまで維持される、つまり留保される請求金額のパーセントを決定するために使用されます。
- RCRETN AAIに定義されている相手勘定科目。売掛仕訳の作成処理時に相殺入力を作成するために使用されます。

次の階層を使用して、留保金勘定科目のビジネスユニットが決定されます。

1. 会社別のRCRETN AAIが取得され、対象のAAIに指定されたビジネスユニット、主科目および補助科目が使用されます。

2. RCRETN AAIにblankのビジネスユニットが含まれている場合、RCRETN留保金勘定科目に担当ビジネスユニットが使用されます。
 3. 契約マスター・レコードに担当ビジネスユニットが存在しない場合、留保金仕訳には契約請求行のプロジェクト番号が使用されます。
- 制御フラグ。留保金額をJD Edwards EnterpriseOne売掛管理システムと一般会計システムのどちらに保存するかが決定されます。
- また、留保金を含む合計課税対象額に対して税を計算するか、または契約の留保金額がリリースされるまで留保金に対する税計算を繰延べるかについても決定されます。
- RTVATD AAIに定義されている繰延勘定科目。売掛仕訳の作成処理時に繰延税の入力を作成するために使用されます。

契約の変更

契約がアクティブな請求書または収益バッチ内にある場合、契約、ユーザー住所1から4、代替請求、ユーザー日付3から4、および契約カテゴリ・コード1から5と11から15に割り当てられている説明と請求書フォーマット・コードを変更できます。他の情報を変更するには、まず、次の処理のいずれかを実行する必要があります。

- 契約に割り当てられている請求書または収益バッチ(あるいはその両方)を削除します。
- 売掛金仕訳および総勘定元帳仕訳を作成することで請求処理を完了します。

契約の削除

次の場合、契約を削除することはできません。

- 契約が親契約の場合
- 契約に変更オーダーが定義されている場合
- 契約が請求済の場合
- 契約がアクティブな請求書または収益バッチ内にある場合

契約マスター (F5201) 内の契約および相互参照テーブル内の関連するすべての請求行とそれぞれのレコードが削除されます。

変更オーダーが関連付けられている契約を削除するには、変更オーダーを削除してから基本契約を削除する必要があります。一度に削除できる変更オーダーは1つのみです。次の場合、変更オーダーが関連付けられている契約は削除できません。

- 変更オーダーが請求済の場合
- 契約がアクティブな請求書バッチ内にある場合
- 契約が親契約の場合

契約、変更オーダーまたは請求行を削除すると、次のテーブル内の関連するすべてのレコードも削除されます。

- 追加料金コード/間接費相互参照テーブル (F5214)
- 追加料金/間接費請求行相互参照詳細 (F5215)
- T&M、単価、合計相互参照勘定科目 (F5212)
- 手数料請求行相互参照詳細 (F5213)
- 料金コード定義情報 (F52131)

- マイルストーン/進捗請求情報 (F5216)
- マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細 (F52161)

データ・リレーションシップと契約について

データ・リレーションシップ・ツールは、F5201テーブルに入力されたデータの一貫性と品質を管理するために使用できる、一連のプログラムです。このツールを使用して、F5201テーブル内のカラム（データ項目）間の関係を定義します。

カラムのデータ・リレーションシップを定義した後、新しい契約の入力時に単一の基準値に対して表示するデフォルトのターゲット値を定義します。データ・リレーションシップは、データ入力時に自動的に適用されます。

F5201テーブルにすでに存在する契約に対してデータ・リレーションシップを定義した場合は、テーブルを手動で更新するか、またはデータ・リレーションシップ・ルールを使用して自動的に更新できます。

データ・リレーションシップ機能では、F5201テーブルの複数のカラムがサポートされています。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 各ビジネスユニット（プロジェクトまたは作業）または顧客に対して税情報を設定します（該当する場合）。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 税処理 9.0 製品ガイド、「税情報の設定」

- 住所録テーブル (F0101) 内の各顧客に対して住所情報を設定します。

- 顧客マスター (F0301) 内の各顧客に対してマスター情報を設定します。

- 異なる通貨を使用して請求書进行处理している場合、多通貨を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の売掛管理の設定」

- ビジネスユニット・マスター (F0006) 内の各ビジネスユニット（作業）に対してマスター情報を設定します。

参照: JD Edwards EnterpriseOne 作業原価 9.0 製品ガイド、「作業の設定」、「作業マスター・レコードの設定」

- 顧客番号がプロジェクトに割当済であることを確認します（契約の顧客を自動的に取得する場合）。

- T&M請求行进行处理するために勘定科目表のすべての請求対象勘定科目を定義します。

- 総額請求行进行处理するために原価勘定科目と予算を定義します。

- 請求固定情報が設定されていることを確認します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ

- 留保金規則を定義します（該当する場合）。

参照: 第 9 章、「契約の設定」、「契約の留保金規則の定義」、190 ページ

契約の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約マスターの改訂	W5201D	「日次処理」(G5210)、「契約マスターの改訂」 「契約マスターの処理」フォームで「追加」ボタンをクリックします。	契約マスター情報を設定します。

契約マスターの改訂(P5201)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示オプション

この処理オプションでは、税情報の表示を制御できます。

1. 税情報の表示

税情報を非表示にする場合は、この処理オプションに「1」を入力します。税情報を表示する場合は、この処理オプションをブランクにします。

編集

この処理オプションでは、最高限度規則または金額が変更されたときに警告を表示するかどうかを制御できます。

1. NTE規則/金額の変更時に警告を表示する

NTE規則またはNTE金額(あるいはその両方)が変更されたときに警告を表示する場合は、この処理オプションに「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、NTE規則またはNTE金額が変更されたときに警告は表示されません。

デフォルト

この処理オプションでは、留保金の相手勘定科目を指定できます。

1. 留保金の相手勘定

留保金の相手勘定科目を示すコードを指定します。このコードをAAIとして設定する必要があります。

通貨

この処理オプションでは、通貨金額の警告を表示するかどうかを制御できます。

1. 通貨金額警告の表示

通貨金額の警告を表示する場合は、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、通貨金額の警告は表示されません。

印刷

この処理オプションでは、使用する契約の印刷プログラム(R5201)のバージョンを指定できます。

1. 契約の印刷(R5201)のバージョン

使用する契約の印刷プログラム(R5201)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

契約マスター情報の設定

「契約マスターの改訂」フォームにアクセスします。

「契約マスターの改訂」フォーム

データ・リレーションシップ機能を使用して新しい契約を設定した場合、一部のフィールドのデフォルト値が他のフィールドに入力した特定の値に基づいて決定されます。

契約

この契約をシステム上で一意に識別する番号を入力します。契約の入力時にこの番号をblankにすると、自動採番機能(システム52、インデックス01)により番号が割り当てられます。「会社」フィールド(「契約」の3つ目のフィールド)をblankにすると、ビジネスユニット・マスター(F0006)内のプロジェクトまたは作業に割り当てられている会社番号が取得されます。

一般

「一般」タブを選択します。

プロジェクト/作業

対象の契約に関連付けられているプロジェクトまたは作業を指定します。作業原価システムでプロジェクトまたは作業を設定できます。「契約の検索」フォームでは、プロジェクトまたは作業の番号を検索条件として使用できます。

顧客

請求および売掛金取引が転記される住所番号を入力します。通常は顧客の住所番号です。顧客マスター(F0301)内の番号が使用されます。

このフィールドをblankにすると、ビジネスユニット・マスター(F0006)内のプロジェクトまたは作業に割り当てられている顧客の住所番号が取得されます。プロジェクトまたは作業の顧客番号を入力しなかった場合、「契約マスターの改訂」フォームの「顧客」フィールドに値を入力する必要があります。

親契約

この契約の親契約番号を入力します。

担当ビジネスユニット	<p>作業を担当するビジネスユニットを指定します。このことは、特に、振替価格を設定するときに役立ちます。</p> <p>収益認識時には、請求AAI 4811からのビジネスユニットが*HOSTに設定されている場合、「担当ビジネスユニット」フィールド(JMCU)に基づき、担当ビジネスユニットに収益がもう一度記録されます。また、*HOSTは再配賦でも使用できます。</p> <p>請求処理時には、売掛金仕訳にも担当ビジネスユニットを使用できます。会社別のRC AAIが取得され、RC AAIに指定されたビジネスユニット、主科目および補助科目が使用されます。RC AAIに空白のビジネスユニットが含まれている場合、RC AAI売掛金仕訳に担当ビジネスユニットが使用されます。契約マスター・レコードに担当ビジネスユニットが存在しない場合、売掛金仕訳には契約請求行のプロジェクト番号が使用されます。</p>
顧客参照No.	<p>所有者の帳簿に記録されている契約番号を入力します。「契約マスターの改訂」フォームにこの番号を入力すると、「契約の検索」フォームでその番号を検索条件として使用できます。この番号は、請求処理のために売掛金レコードの参照フィールド(VR01)で更新されます。</p>
請求書フォーマット・コード	<p>請求書の全体的なレイアウトを決定するフォーマットを一意に識別するコードを入力します。</p>
支払条件	<p>請求書が割引期日内に支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を指定する支払条件コードを入力します。空白のコードは、最も使用頻度の高い支払条件を示します。各支払条件タイプは「支払条件の改訂」フォームで定義します。支払条件には次のようなものがあります。</p> <p>空白(15日以内)</p> <p>001(30日、10日以内1%割引)</p> <p>002(30日、10日以内2%割引)</p> <p>003(各月10日支払)</p> <p>006(受取時払い)</p> <p>このコードは、顧客請求書に印刷されます。</p> <p>このフィールドを空白にすると、顧客マスター(F0301)から顧客の支払条件が取得されます。</p>
税率/税域	<p>税率と税配賦が共通している税域または地域を示すコードを入力します。税率または税域は、納税先(たとえば、都道府県や市町村)とその税率を含むように設定してください。税率/税域テーブル(F4008)にある値を設定する必要があります。</p> <p>Vertexが有効で、「契約請求行詳細の改訂」フォームの「請求AAI制御」フィールド(ACCO)が「0」(収益勘定科目)に設定されている場合、売上税額がRTxxxx AAIに記録されます。</p> <p>「税目コード」および「税率/税域」フィールドを空白にすると、ビジネスユニット・マスター(F0006)内のプロジェクトまたは作業に割り当てられている税情報が取得されます。プロジェクトの税情報を入力しなかった場合は、顧客マスターから顧客の税情報が取得されます。</p> <p>処理オプションを使用して、「税率/税域」および「税目コード」フィールドの表示を制御します。税情報フィールドが非表示の場合、プロジェクトまたは顧客の税情報は取得されません。</p>

税目コード 税の課税方法と、収益勘定および費用勘定への計上方法を制御するUDC 00/EXのコードを入力します。

追加明細

「追加明細」タブを選択します。

サード・パーティ 契約またはプロジェクトの建築士の住所番号を入力します。

サード・パーティ参照番号 所有者の帳簿に記録されている建築士の契約番号を入力します。この情報は参照用であり、「契約の検索」フォームで使用できるように保存されます。

状況 契約に関する状況情報を示すUDC 52/GSの2文字のコードを入力します。

タイプ 契約のタイプを識別するUDC 51/CTのコードを入力します。
このフィールドをブランクにすると、ビジネスユニット・マスター (F0006) からプロジェクトのタイプが取得されます。

支払後に請求 支払済の買掛金のみを契約の所有者への請求対象とする場合は、「1」を入力します。すべての取引を請求対象とする場合は、「0」を入力するか、またはこのオプションをブランクにします。このオプションは、契約レベルまたは所有者支払項目レベル(あるいはその両方)で管理されます。

契約に入力した値は、契約に関連付けられている請求行に渡されます。ただし、個々の請求行の「支払後に請求」の値は、一時変更できます。システムでは、契約マスターの値ではなく、請求行の「支払後に請求」の値が必ず使用されます。

留保規則/留保相殺/制御フラグ 契約の留保金を計算するために使用される規則を指定して、契約の留保金を定義します。次に例を示します。

留保率 - 10.00、完了率 - 50.00

留保率 - 5.00、完了率 - 95.00

この規則は、作業の50%が完了するまで10%の留保金が発生することを示します。続いて、作業の95%が完了するまで残りの45%に対して5%の留保金が計算されます。作業の95%が完了すると、留保金はリリースされます。

日付/住所

「日付/住所」タブを選択します。

代替請求 所有者が請求書(契約請求書)の送付を希望する代替の送付先住所番号を指定します。

カテゴリ・コード

「カテゴリ・コード」タブを選択します。

レポート用に契約を分類するカテゴリ・コードを指定します。

上限/下限金額

「上限/下限金額」タブを選択します。

下限金額 契約に必要な下限金額を入力します。請求金額がこのフィールドの金額を下回る場合、請求書は生成されません。

請求固定情報プログラム(P48091)で「最高限度(NTE)の制御」チェックボックスを選択したかどうかにかかわらず、このフィールドには値を入力します。

上限規則

請求固定情報プログラム(P48091)で「最高限度(NTE)の制御」チェックボックスを選択した場合は、このフィールドに値を入力します。

最高限度規則では、契約に対する最高限度金額の処理方法を指定します。このコードは、契約レベル、変更オーダーレベル、請求行レベルのいずれかで、またはこれら3つを組み合わせで定義できます。値は次のとおりです。

最高限度規則が指定されていない場合は、この処理オプションを空白にします。

収益および請求の処理に対してこのレベルで最高限度金額を適用しない場合は、「1」を入力します。このコードは変更オーダー・レベルまたは請求行レベルでのみ有効です。

このレベルで請求金額および収益金額に最高限度金額を適用するには、「2」を入力します。

このレベルで収益金額に最高限度金額を適用するには、「3」を入力します。請求処理で限度金額を超えると、警告が表示されます。

このレベルで請求金額に最高限度金額を適用するには、「4」を入力します。収益処理で限度金額を超えると、警告が表示されます。

上限金額、上限外貨金額

請求固定情報プログラム(P48091)で「最高限度(NTE)の制御」チェックボックスを選択した場合は、このフィールドに値を入力します。

最高請求金額を入力します。次の項目に対する最高限度金額を指定できます。

契約: 契約全体および関連するすべての変更オーダーに適用されます。

変更オーダー: 特定の変更オーダーにのみ適用されます。

請求行: 個別の請求行にのみ適用されます。

「上限金額」フィールドと「上限外貨金額」フィールドのどちらに値を入力するかは、契約の通貨モードによって決まります。

通貨

「通貨」タブを選択します。

請求管理システム固定情報テーブル(F48091)から通貨モードが取得されます。基本(国内通貨)通貨コードが請求(外貨)通貨コードと異なる場合は、この設定を一時変更できます。

通貨モードの設定を一時変更するには、「国内通貨」オプションまたは「外貨」オプションを選択します。会社固定情報テーブル(F0010)からプロジェクト会社の基本通貨コードが取得されます。

顧客の請求通貨コードを一時変更するには、「通貨コード」フィールドに値を入力します。顧客マスター(F0301)から顧客の請求通貨コードが取得されます。顧客のニーズを満たすために、このコードを有効な通貨コードで一時変更できます。

「通貨コード」フィールドに値を入力すると、「為替レート」フィールドが表示されます。契約を保存すると、為替レート・テーブル(F0015)から適切な為替レートが取得されます。

最高限度規則の割当

この項では、最高限度規則の概要、共通フィールドおよび次の方法について説明します。

- 契約マスターへの最高限度規則の割当
- 変更オーダーへの最高限度規則の割当
- 契約請求行への最高限度規則の割当

最高限度規則について

契約に最高限度規則を指定して、顧客との間で合意した請求金額を超える請求書を生成しないようにできます。また、最高限度規則を指定して、特定の金額を超える収益を認識しないようにできます。

最高限度規則を設定する場合は、次の情報を指定する必要があります。

- 上限とする金額、つまり最高金額
- 限度を適用する処理（収益認識または請求処理、あるいはその両方）

たとえば、顧客に請求する合計金額にのみ適用され、契約に対して認識する収益金額には適用されない最高限度規則を設定できます。また、変更オーダーに対して設定した最高限度規則が特定の請求行に適用されないようにできます。

収益認識または請求書処理では、最高限度規則に基づいて、収益金額または請求書金額が契約上の限度内に収められているかどうか判断されます。収益金額または請求金額が最高限度規則に指定した限度内に収められている場合、収益はその限度まで認識され、超過分に対しては相殺レコードが作成されます。請求処理では、請求書は作成されますが、限度超過を引き起こす取引は除外されます。収益認識または請求処理では、指定した限度を超えるレコードに対して最高限度値を手動で一時変更できます。

注意: 最高限度規則と限度を契約レベルまたは変更オーダー・レベルで定義した場合、収益生成処理で最高限度を超えたかどうかを評価するときにT&M請求行のみが考慮されます。

最高限度規則は、契約マスター、変更オーダーまたは契約請求行レベルで定義できます。

契約マスター

契約マスターに対して最高限度規則を定義した場合、その規則は基本契約（変更オーダー000）とそれに関連するすべての請求行に適用されます。

契約マスターに対して最高限度規則を定義しなかった場合、契約全体で収益または請求の限度は検索されません。

変更オーダー

特定の変更オーダー（変更オーダー000以外）に対して最高限度規則を定義した場合、その規則はその変更オーダーに関連付けられているすべての請求行の合計請求金額に適用されます。

変更オーダー000（基本契約）の超過限度は、契約マスターに対して定義した規則に基づいて検索されます。

契約請求行

契約T&M請求行に対して最高限度規則を定義した場合、その規則は該当するT&M請求行にのみ適用されます。

この項で使用する共通フィールド

上限規則

請求固定情報プログラム(P48091)で「最高限度(NTE)の制御」チェックボックスを選択した場合は、このフィールドに値を入力します。

最高限度規則では、契約に対する最高限度金額の処理方法を指定します。このコードは、契約レベル、変更オーダーレベル、請求行レベルのいずれかで、またはこれら3つを組み合わせで定義できます。値は次のとおりです。

最高限度規則が指定されていない場合は、この処理オプションをブランクにします。

収益および請求の処理に対してこのレベルで最高限度金額を適用しない場合は、「1」を入力します。このコードは変更オーダー・レベルまたは請求行レベルでのみ有効です。

このレベルで請求金額および収益金額に最高限度金額を適用するには、「2」を入力します。

このレベルで収益金額に最高限度金額を適用するには、「3」を入力します。請求処理で限度金額を超えると、警告が表示されます。

このレベルで請求金額に最高限度金額を適用するには、「4」を入力します。収益処理で限度金額を超えると、警告が表示されます。

上限金額、上限外貨金額

請求固定情報プログラム(P48091)で「最高限度(NTE)の制御」チェックボックスを選択した場合は、このフィールドに値を入力します。

最高請求金額を入力します。次の項目に対する最高限度金額を指定できます。

契約: 契約全体および関連するすべての変更オーダーに適用されます。

変更オーダー: 特定の変更オーダーにのみ適用されます。

請求行: 個別の請求行にのみ適用されます。

「上限金額」フィールドと「上限外貨金額」フィールドのどちらに値を入力するかは、契約の通貨モードによって決まります。

最高限度規則の割当に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約マスターの改訂	W5201D	「日次処理」(G5210)、「契約マスターの改訂」 「契約マスターの処理」フォームの詳細グリッドで契約を選択し、「選択」をクリックします。	契約マスターに最高限度規則を割り当てます。
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 最高限度規則を変更オーダーに割り当てるには、「契約請求行明細の処理」フォームで契約の変更オーダーを選択し、「選択」をクリックします。 最高限度規則を契約請求行に割り当てるには、「契約請求行明細の処理」フォームでその請求行を含む当初オーダーまたは変更オーダーを選択し、「選択」をクリックします。	変更オーダーまたは契約請求行に最高限度規則を割り当てます。

契約マスターへの最高限度規則の割当

「契約マスターの改訂」フォームにアクセスします。「上限/下限金額」タブを選択します。

契約マスターの改訂 - 契約マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

契約 記述 ★

請求書/バッチNo.

元帳/バッチNo.

一般 追加明細 日付/住所 カテゴリ・コード **上限/下限金額** 通貨

下限金額

下限金額

上限規則/金額

上限規則 収益と請求書の処理に適用する

上限金額

「契約マスターの改訂」フォーム: 「上限/下限金額」タブ

最高限度フィールドは、サービス請求固定情報プログラム (P48091) で「最高限度 (NTE) の制御」チェックボックスが選択されている場合にのみ使用できます。契約がアクティブな請求書バッチ内にある場合、最高限度フィールドは無効化されます。

変更オーダーへの最高限度規則の割当

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。「上限」タブを選択します。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction

変更オーダー 000 - 000 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

上限規則 ☐ NTE 適用なし

上限金額

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> 相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	X	STEEL	Steel Work	M	75,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	TRACK	Lay Track	M	100,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	FINISH	Finishing	P	40,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	GROUND	Ground Work	M	50,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	CONCRETE	Concrete Work	P	100,000,000.00				
<input type="checkbox"/>									

「契約請求行詳細の改訂」フォーム: 「上限」タブ

「上限」タブは、請求固定情報プログラム (P48091) で「最高限度 (NTE) の制御」チェックボックスが選択されている場合にのみ表示されます。

契約請求行への最高限度規則の割当

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(S) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction
 変更オーダー 000 - 000 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2004/10/14 記述 Original 留保規則

変更状況

レコード 1-6 グリッドのカスタマイズ

手続	留保規則	税率	税目コード	代替順序コード	プロジェクト/作業	上限規則	上限金額	上限数量	請求一時停止	支
					5352					
					5352					
					5352					
					5352					
					5352					

「契約請求行詳細の改訂」フォーム: 「一般」タブ

特定の契約請求行の詳細グリッドで最高限度フィールドに値を入力します。

注意: 最高限度フィールドは、T&M請求行にのみ適用されます。請求処理では、他の請求行の限度には予定値が使用されます。

上限数量 契約の単位数の限度を所有者支払項目レベルで指定します。

契約の留保金規則の定義

この項では、留保金規則の概要、共通フィールドおよび次の方法について説明します。

- 留保金規則テーブルの定義
- 契約マスターへの留保金規則の割当
- 変更オーダーへの留保金規則の割当
- 請求行への留保金規則の割当

契約の留保金規則について

留保金とは、契約の履行に顧客が確実に満足できるように、顧客が支払を留保する金額です。たとえば、顧客に請求する金額の10%を留保金として認める場合があります。顧客に100 USDを請求した場合、顧客は10 USDを留保し、90 USDを支払います。会社による作業に顧客が満足したら、留保金額をリリースし、顧客に留保分の10 USDを請求します。

留保金は、完了した作業のパーセントに基づきます。請求処理時には、契約に設定した留保金規則に基づいて留保金額が計算されます。留保率は、作業の完了率に関係しています。たとえば、作業の50%が完了するまで10%の留保金が発生し、その後、作業の95%が完了するまで5%の留保金が発生するとします。

留保金規則を設定するときには、留保金を計算する請求行のタイプを指定します。原価、手数料、報酬またはこれら3つの請求行タイプの任意の組合せに対して留保金を計算できます。

また、留保金額を累計できるようにするかどうかを指定することもできます。留保金額を累計できるように指定すると、以前の関連する請求書金額と留保金額および現在の請求書金額を使用して留保金額が計算されます。

最後に、留保金(完了率)と留保率を計算するために使用するパーセントを指定します。

留保金を計算する請求行タイプを1つのみ選択した場合は、完了率が予定値を超えるまでその請求行タイプの請求書金額に対して留保金が計算されます。その後、計算された留保金額がその請求行タイプに適用されます。たとえば、次のように留保金規則R01を設定するとします。

- 対象の請求行: 原価金額
- 留保率: 10
- 完了率: 85

留保金規則R01を使用して、原価の累計請求書金額が契約の原価金額の予定値の85%を超えるまで、10%の留保金が計算されます。計算された留保金額は、請求書の原価請求行に適用されます。

複数の請求行タイプを選択した場合は、選択したすべての請求行タイプの請求書金額が対応する予定値金額の完了率を超えるまで、留保金が計算されます。つまり、各請求行タイプの完了率を超えると、留保金は計算されません。たとえば、次のように別の留保金規則R02を設定するとします。

- 対象の請求行: 原価および手数料金額
- 留保率: 10
- 完了率: 85

規則R02を使用して、原価および手数料の累計請求書金額の合計が原価および手数料の予定値の合計の85%を超えるまで、10%の留保金が計算されます。この例では、最初に留保金額の合計が計算されてから、その合計に対するパーセントが請求書の原価および手数料の請求行に割り当てられます。留保金を計算する現在の請求書の合計金額のうち原価および手数料金額が占めるパーセントに基づいて、留保金額が割り当てられます。

契約を管理する場合は、請求条件に基づいて複数の留保金規則が必要になることがあります。留保金規則は、契約マスター、変更オーダーまたは契約請求行に対して設定できます。

契約マスター

契約マスターに対して留保金規則を設定した場合、その規則は基本契約(変更オーダー000)とそれに関連するすべての請求行に適用されます。また、契約マスターの留保金規則は、変更オーダー・レベルで一時変更しないかぎり、すべての変更オーダーに適用されます。

注意: 留保金規則を変更オーダーまたは請求行レベルで定義した場合、「契約マスターの改訂」フォームで「留保相殺」および「制御フラグ」フィールドに値を入力する必要があります。

変更オーダー

特定の変更オーダーに対して留保金規則を設定した場合、その規則はその変更オーダーに関連付けられているすべての請求行の合計請求金額に適用されます。

注意: 変更オーダー000(基本契約)の留保金は、契約マスターに対して定義した留保金規則に基づいて計算されます。

契約請求行

契約請求行に対して留保金規則を設定した場合、その規則は該当する請求行にのみ適用されます。

分割融資請求行または率による分割融資請求行の留保金は計算されません。また、留保金の計算には、分割融資請求行または率による分割融資請求行の予定値は含まれません。

注意: 変更オーダーに適用される留保金規則が請求行に適用されない場合、留保金なしの特定の規則をその請求行に割り当てる必要があります。留保率を0、完了率を100として留保金規則を定義できます。

この場合、それぞれの請求行に対して留保金規則のフィールドをブランクにすることはできません。フィールドをブランクにすると、変更オーダーの留保金規則が使用されます。

契約の留保金の計算時には、まず請求行の留保金規則が検索されます。次に、その契約に関連する変更オーダーの留保金規則が検索されます。最後に、その契約の留保金規則が検索されます。

注意: 売掛仕訳の作成プログラム (R48199) を実行した後に契約の変更オーダーに留保金規則を追加した場合、売掛仕訳の作成プログラムを再び実行しても、基本契約にしか留保金は反映されません。バッチ検討プログラム (P48221) を使用して、変更オーダーの請求行ごとに留保金を手動で更新する必要があります。

留保金の計算例

この例では、次の表の情報を留保金規則情報テーブル (F5204) に設定しています。

留保パーセント	完了率
10%	50%
5%	95%

対象の請求行タイプは原価請求行のみで、「累計」チェックボックスが選択されています。

予定値の合計は500,000で、請求書金額485,000です。

請求書金額485,000は、予定値の合計500,000の97%です。

テーブルの1行目は50%の完了率を示しているため、請求書の最初の250,000 (予定値の最初の50%) に対して10%の留保金が計算されます。

$$250,000 \times 10\% = 25,000$$

テーブルの2行目は95%の完了率を示しているため、請求書の次の225,000 (予定値の次の45%) に対して5%の留保金が計算されます。

$$225,000 \times 5\% = 11,250$$

テーブルには他の行が存在しないため、請求書の残りの10,000に対しては留保金は計算されません。

この請求書の留保金の合計は次のように計算されます。

$$25,000 + 11,250 = 36,250$$

変更オーダーの留保金の計算

変更オーダーの完了率は、請求行レベルで特定の留保金規則が設定されていないすべての請求行の累計正味金額を、請求行の予定値の合計で除算することで決定されます。請求行に予定値の金額が含まれない場合は、その請求行の累計正味金額が予定値の金額として使用されます。

その後、完了率を使用して、累計正味金額に留保金規則が適用され、変更オーダーに対して留保される留保金の合計金額が算出されます。さらに、変更オーダーに対する請求行の割合に基づいて、各請求行に現在の留保金額が割り当てられます。

注意: 留保金が処理された後で留保金規則が変更された場合、留保する必要がある留保金の合計金額から、以前に留保された留保金を減算することで、変更オーダーの現在の留保金額が調整されます。

留保金規則の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
留保金規則テーブルの改訂	W5204D	「テーブル情報」(G5241)、 「留保金規則テーブル」 「留保金規則の処理」 フォームで、「追加」をクリックします。	留保金規則を定義します。
契約マスターの改訂	W5201D	「日次処理」(G5210)、「契約マスターの改訂」 詳細グリッドで契約を選択し、「契約マスターの処理」 フォームで「選択」をクリックして、「追加明細」タブ を選択します。	契約マスターに留保金規則を割り当てます。
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 留保金規則を変更オーダーに割り当てるには、 「契約請求行明細の処理」 フォームの詳細グリッドで 変更オーダーを選択し、 「選択」をクリックします。 留保金規則を請求行に割り 当てるには、「契約請求行 明細の処理」フォームでそ の請求行を含む契約また は変更オーダーを選択し、 「選択」をクリックします。	留保金規則を変更オーダーまたは請求行に割り当てます。

留保金規則の定義

「留保金規則テーブルの改訂」フォームにアクセスします。

留保金規則テーブル - 留保金規則テーブルの改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) ツール(T)

留保金規則

R02

記述

Retainage rule 2

含める請求行タイプ

☒ 原価

☐ 手数料

☐ 報酬

完了率ソース

☒ 累計

Schedule of Values

レコード 1-3

グリッドのカスタマイズ

留保パーセント

完了率(%)

10.00

50.00

5.00

95.00

「留保金規則テーブルの改訂」フォーム

留保規則、記述

留保金規則を識別するコードおよび関連する説明を入力します。

累計

以前の関連する請求書金額と留保金額、および現在の関連する請求書金額を使用して留保金額を計算するように選択します。このチェックボックスを選択しないと、現在の関連する請求書金額のみを使用して留保金額が計算されます。

原価

契約に設定されている原価請求行に対して、対象の規則に関連付けられている留保金額を計算するように選択します。原価請求行タイプには、間接労務費、タイム・アンド・マテリアル、単価、総額、追加料金、マイルストーン、進捗、原価加算および適用済間接費が含まれます。

手数料

契約に設定されているすべての手数料請求行に対して、対象の規則に関連付けられている留保金額を計算するように選択します。

報酬

契約に設定されているすべての報酬請求行に対して、対象の規則に関連付けられている留保金額を計算するように選択します。

留保パーセント

契約の留保率を指定します。留保率は整数のパーセントで指定します。たとえば、留保率が10.5%の場合は、「10.5」と入力します。

完了率(%)

作業全体またはプロジェクト全体のうち完了した部分のパーセントを指定します。

このフィールドを空白にすると、契約の完了率が100%になるまで留保金が適用されます。

注意: 請求固定情報プログラム (P48091) で「米国公共事業契約勘定使用」チェックボックスを選択している場合は、「完了率ソース」フィールドも表示されます。

契約マスターへの留保金規則の割当

「契約マスターの改訂」フォームにアクセスします。「追加明細」タブを選択します。

194

Copyright © 2003, 2008, Oracle and/or its affiliates. All rights reserved.

契約マスターの改訂 - 契約マスターの改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

契約	5352	R2	00050	記述 *	Light Rail Construction
請求書バッチNo.					
元帳バッチNo.					

サード・パーティ	3480	Digger Enterprises
サード・パーティ参照番号	Subcontractor - Concessio	
状況	<input type="checkbox"/>	
タイプ	DEV	開発中
支払後に請求	<input type="checkbox"/>	すべての取引を請求する
料金集計レベル	<input type="checkbox"/>	
留保規則/留保相殺/制御フラグ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>

「契約マスターの改訂」フォーム: 「追加明細」タブ

留保規則

対象の契約に関連付ける留保金規則を識別するコードを入力します。

留保相殺

留保金の相手勘定科目を指定するコード(たとえば、RETNまたは1225)を入力します。コードはAAIとして設定します。

注意: コード9999は使用しないでください。仕訳を作成しないように設定されている転記プログラムの予約コードです。

制御フラグ

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに留保金を保存し、課税対象金額合計から税を計算するには、このフィールドをブランクにします。

JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムに留保金を保存し、留保金額に対する税を計算して、税額合計からその金額を差し引くには、「1」を入力します。留保金の税は、留保金が発行されるまで繰り延べられます。

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムに留保金を保存し、課税対象金額合計から税を計算するには、「2」を入力します。

JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムに留保金を保存し、留保金額に対する税を計算して、税額合計からその金額を差し引くには、「3」を入力します。留保金の税は、留保金が発行されるまで繰り延べられます。

変更オーダーへの留保金規則の割当

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。「一般」タブを選択します。

契約マスターの改訂 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction
 変更オーダー 000 - 000 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2008/03/07 記述 Change 留保規則

変更状況

レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	STEEL	Steel Work	M	75,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	TRACK	Lay Track	M	100,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	FINISH	Finishing	P	40,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	GROUND	Ground Work	M	50,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	CONCRETE	Concrete Work	P	100,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

「契約請求行詳細の改訂」フォーム: 「一般」タブ

留保規則 留保金規則を変更オーダー・レベルで割り当てるには、「一般」タブのこのフィールドに値を入力します。

請求行への留保金規則の割当

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

留保規則 留保金規則を割り当てる請求行に対して、詳細グリッドのこのフィールドに値を入力します。

支払時請求要件の定義

この項では、支払時請求要件の概要および請求行に対して支払時請求要件を定義する方法について説明します。

注意: 契約全体に対して支払時請求要件を定義することもできます。

参照: 第 9 章、「契約の設定」、「契約マスター情報の設定」、182ページ

支払時請求要件について

会社は、仕入先に対して支払が行われるまでT&Mに関連する原価を顧客に請求しないことに合意する場合があります。支払時請求機能を使用すると、仕入先の伝票に対して会社から支払が行われるまで請求処理で関連するワークファイル取引を扱えなくなります。

支払時請求要件は、契約全体または契約内の特定の請求行に対して定義できます。契約全体を支払時請求として定義した場合は、特定のワークファイル取引の要件を一時変更して、仕入先に対して支払が行われるまで請求処理でその取引が使用されないようにできます。同様に、契約全体が支払時請求として定義されていない場合は、特定の請求行に対して支払時請求要件を定義できます。

支払時請求要件の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 変更オーダーを選択し、「契約請求行明細の処理」フォームで「選択」をクリックします。	請求行に対して支払時請求要件を定義します。

請求行に対する支払時請求要件の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build
変更オーダー 000 000 請求書バッチ 7274 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2005/06/01 記述 Original 留保規則

変更状況

レコード 1 - 11 グリッドのカスタマイズ

	税目 コード	代替 順序コード	プロジェクト/ 作業	上限 規則	上限 金額	上限 数量	請求 一時停止	支払後 請求額	カテゴリ コード3
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					
	S			5351					

「契約請求行詳細の改訂」フォーム: 「一般」タブ

支払後に請求

支払済の買掛金のみを契約の所有者への請求対象とする場合は、「1」を入力します。すべての取引を請求対象とする場合は、「0」を入力するか、またはこのオプションをブランクにします。

「支払後に請求」フィールドには、請求行を追加したときに契約マスターに入力した値が自動的に挿入されます。ただし、この値は請求行ごとに一時変更できます。

第 10 章

独立契約請求行の定義

この章では、独立契約請求行の概要と、次の方法について説明します。

- 総額の契約請求行の定義
- 単価の契約請求行の定義
- マイルストーン請求の契約請求行の定義
- 進捗請求の契約請求行の定義
- マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了
- 以前に請求した進捗請求行の変更
- タイム・アンド・マテリアル (T&M) または原価加算の契約請求行の定義

独立契約請求行について

この項では、事前設定、共通フィールド、および独立契約請求行について説明します。

事前設定

契約の契約マスターを設定します。

参照: [第 9 章、「契約の設定」、「契約マスター情報の設定」、182 ページ](#)

この章で使用する共通フィールド

代替順序コード

順序番号を入力し、契約情報をデフォルトの行番号順ではなく順番に表示します。

請求一時停止

請求書集計ワークファイル (F4822) に請求レコードを追加して該当金額を請求するには、このフィールドをブランクにします。

請求処理レコードをワークファイルに追加するものの、金額を請求しない場合は、「1」を入力します。

このワークファイルに対して請求レコードを作成しない場合は、「2」を入力します。

請求処理レコードをワークファイルに追加し、最高限度 (NTE) を無視する場合は、「3」を入力します。

注意: このフィールドは、最高限度フィールドに対して機能します。このフィールドの値によって、最高限度金額を超えた場合の処理方法が決まります。

請求AAI制御

請求行の勘定科目情報で収益勘定科目を識別するように指定するには、「0」を入力します。請求行の勘定科目情報で原価勘定科目を識別するように指定するには、「1」を入力します。AAI(自動仕訳)から、勘定科目情報(ビジネスユニット、主科目、補助科目、補助元帳、および補助元帳タイプ)が自動的に入力されます(システム52、コードBC)。特定の勘定科目を入力することもできます。T&Mを除くすべての請求行で勘定科目情報が使用されます。

注意: このオプションを「1」に設定すると、仕訳の生成時に請求AAI情報テーブル(F48S95)に対して請求行が処理されます。これはT&M請求行の処理方法と類似しています。

請求固定情報プログラムの「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効な場合に、このフィールドを空白にすると、この請求行に関連付けられた勘定科目が原価勘定科目であることを示す「1」が割り当てられます。請求固定情報プログラムの「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効でない場合に、このフィールドを空白にすると、この請求行に関連付けられた勘定科目が収益勘定科目であることを示す「0」が割り当てられます。

この請求行に関連付けられた勘定科目が収益勘定科目であることを示すために「請求AAI制御」フィールドが0に設定されていると、契約に税が設定されている場合に収益金額に税が含まれます。

請求行

所有者によって定義されている支払項目番号を入力します。このフィールドは15文字までの英数字で入力できます。この支払項目番号には数値情報を使用することをお勧めします。

請求行タイプ(画面上では「価格」)

契約で請求行によって定義されている請求条件を指定するコードを入力します。事前定義された請求行タイプのコードを使用して、計算式など、請求行の請求金額および収益金額の計算に関連した情報へのアクセスが行われます。

「価格」フィールドを空白にすると、総額を表す「L」が自動的に入力されます。「価格」フィールドに入力された値によって、どのフィールドが使用可能かが制御されます。

ビジネスユニット

原価のトラッキング対象となるビジネスの個別の組織を表すビジネスユニットを入力します。たとえば、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットにセキュリティを設定すると、権限のないユーザーがビジネスユニットを検索することを防止できます。

変更日付

変更オーダーの最終変更日付を入力します。この日付によって、変更オーダーに関する一般会計処理が制御されます。

「変更日付」フィールドを空白にすると、現在の日付が入力されます。

注意: 多通貨契約では、変更日を使用して契約の為替レートが取得されません。

変更オーダー	<p>契約の変更番号を入力します。このフィールドをブランクにすると、自動採番が行われます。これが契約の基本オーダーである場合は、000が自動的に割り当てられます。</p> <p>たとえば、基本契約の変更オーダー番号は000で、最初の変更オーダーが001、2つ目が002のようになります。</p>
変更状況	<p>契約の変更オーダー状況を示すユーザー定義コード(UDC)52/CHのコードを入力します。</p>
契約No.	<p>この契約をシステム上で一意に識別する番号を入力します。契約の入力時にこのフィールドをブランクにすると、自動採番機能(システム52、インデックス01)により番号が割り当てられます。</p>
適格性一時変更	<p>請求処理時に請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)にレコードが作成されたときに、サービス請求固定情報の適格性コードを一時変更する値を入力します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0: 請求および収益 1: 請求のみ 2: 収益のみ 3: 請求不可 4: 原価のみ <p>適格性コードを一時変更しない場合は、このフィールドをブランクにします。</p> <p>請求固定情報プログラム(P48091)の「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効でない場合に、このフィールドをブランクにすると、1(請求のみ)が割り当てられます。請求固定情報プログラムの「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効な場合に、このフィールドをブランクにすると、ブランク(一時変更なし)が割り当てられます。請求行は請求および収益の対象です。</p>
相手勘定	<p>請求行または支払項目の相手勘定科目を入力します。所有者(顧客)住所録に対する売掛金の相手科目から、自動的にデフォルト値が入力されます。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、顧客の相手勘定が使用されます。</p>
主科目	<p>勘定科目コードの主科目の部分を指定します。主科目は、原価コード(労務費、材料費、設備費など)のサブカテゴリへの分割を表します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。</p> <hr/> <p>注意: 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用するようにしてください。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。</p> <hr/>
完了予定日付	<p>契約に基づき作業を完了する予定の日付を入力します。</p>
計画開始	<p>契約に基づき作業を開始する予定の日付を入力します。</p>
プロジェクト/作業	<p>この契約に関連付けられたプロジェクトまたは作業を識別する番号を入力します。作業原価システムでプロジェクトまたは作業を設定できます。「契約の検索」フォームでは、プロジェクトまたは作業の番号を検索条件として使用できます。</p>

	このフィールドをブランクにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。
参照番号	作業原価システムで基本契約または変更オーダーを予算変更に関連付ける場合に使用する番号を入力します。所有者の変更オーダーに基づく可能性のある作業予算の変更は、予算変更仕訳詳細レコードの「R2(参照2)」フィールドに対応しています。
留保規則	<p>契約で留保金の計算に使用する規則を入力します。次に例を示します。</p> <p>留保率 - 10.00、完了率 - 50.00</p> <p>留保率 - 5.00、完了率 - 95.00</p> <p>この規則は、作業の50%が完了するまで10%の留保金が発生することを示します。続いて、作業の95%が完了するまで残りの45%に対して5%の留保金が計算されます。作業の95%が完了すると、留保金はリリースされます。</p>
予定値	<p>契約の特定の行項目に対する予定金額または予算金額を入力します。この金額と完了率を併用して請求額および留保金が計算されます。</p> <p>直接分割融資請求行および率による分割融資請求行により、請求金額が減額されます。これらの行タイプでは、「予定値」フィールドに「-10,000」のようなマイナスの金額を入力する必要があります。</p>
補助科目	<p>主科目の補助科目区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。</p> <hr/> <p>注意: 任意勘定科目表を使用し、主科目コードが6桁に設定されている場合、6桁すべてを使用する必要があります。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。</p> <hr/>
補助元帳タイプ	補助元帳のカテゴリを識別する場合は、「補助元帳」フィールドで使用するUDC 00/STからコードを入力します。
補助元帳	勘定科目コードの補助元帳区分を入力します。補助元帳では、総勘定元帳の勘定科目を細分化して補助的に使用する科目を識別します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
税率	税率と税配賦が共通している税域または地域を示すコードを入力します。税率または税域には、納税先(たとえば、都道府県や市町村)とその税率を含むように設定してください。税率/税域テーブル(F4008)にある値を設定する必要があります。
金額以外の変更	この変更が価格ではなく期間の延長やスケジュールの変更のような契約期間に影響することを示すには、「Y」と入力します。この変更が期間に影響しない場合は、「N」と入力します。
税目コード	税の課税方法と、収益勘定および費用勘定への計上方法を制御するUDC 00/EXのコードを入力します。
Vertex製品カテゴリ	非課税または標準とは異なるレートの製品またはサービスのVertex Tax Decision Makerで使用されるUDCを入力します。
Vertex取引タイプ	Vertexの売上および使用の取引タイプを入力します。

独立契約請求行

契約マスター情報を定義した後、顧客に対する請求書を生成するために契約請求行を定義する必要があります。契約請求行には、契約の請求条件を指定します。独立契約請求行および従属契約請求行を設定できます。請求行のタイプによってその請求行が独立か従属かが判別されます。

独立契約請求行には、請求金額の計算に必要な情報がすべて含まれています。契約に独立請求行を定義する場合は、次の請求行タイプを使用します。

- 総額
- 単価
- マイルストーン請求
- 進捗請求
- T&Mおよび原価加算

総額の契約請求行の定義

この項では、総額請求行、総額での請求金額の算出方法、および定期請求金額の各概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 契約請求行詳細 (P5202) の処理オプションの設定
- 手動計算の総額の定義
- 請求金額を計算するための総額の定義
- 定期請求金額の定義

総額請求行について

総額の契約請求行には、固定請求金額が定義されます。総額の契約請求行を設定すると、作業完了までに発生する実際原価に関係なく、顧客に対して固定金額を請求することになります。

請求金額を手動で計算する必要がある総額請求行を定義したり、請求金額が自動的に計算される場合に使用できる総額請求行を定義できます。請求金額を自動的に計算する場合は、総額請求行を請求不可勘定科目、複数勘定科目、またはある範囲の勘定科目にリンクする相互参照を定義する必要があります。相互参照する勘定科目には、総額の請求金額を計算する場合に使用される実際原価および最終予測原価に関する情報が含まれています。

手動計算の総額を定義すると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告 – 相互参照が設定されていません

手動計算の総額請求行を使用するときには相互参照情報を使用しないため、このメッセージは無視しても問題ありません。

総額の契約請求行を定義するとき、次の情報が自動的に入力されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金の会社
- 所有者の住所情報に基づく売掛金の相手科目
- 総額のAAI BC01に基づく収益勘定科目

重要: 相互参照テーブルの原価勘定科目が請求不可ではなく請求対象である場合は、ワークファイル生成処理中に請求ワークファイル・レコードが作成されます。また、T&M請求行の取引と、単価または総額の請求行の取引が処理されることにより、顧客は同一の原価取引に対して2回請求されることになります。

総額での請求金額の計算方法について

固定予定金額に基づく請求を行う場合は、総額請求行を使用します。契約に総額請求行を定義すると、作業完了までに発生する実際原価に関係なく、顧客に対して算出金額を請求することになります。

請求金額が自動的に計算される場合に使用される総額請求行を定義できます。請求金額は、請求書生成処理中に計算されます。

自動的に請求金額を計算するには、次の表で説明するように、請求書生成プログラム(R52121)の処理オプションを設定する必要があります。

総額計算方法	説明
原価計算方法の完了率またはパーセント	契約請求行と1つ以上の原価勘定科目との間に相互参照を設定できます。このような勘定科目相互参照は、実際原価および最終予測原価の算出に使用されます。
定義元帳	1つの請求不可の原価勘定科目に対してのみ、相互参照を設定できます。このような勘定科目相互参照は、指定した元帳タイプの勘定科目に割り当てられるパーセントの決定に使用されます。計算方法を制御する場合は、Fパーセント(最終予測原価)以外の元帳タイプを指定します。

総額請求行の請求書を作成する場合は、請求金額の計算方法として、次のいずれかを指定できます。

- 完了率
- 原価率
- 定義元帳タイプ
- 完了率と原価率のうち、大きい方または小さい方

完了率方式

完了率方式を指定すると、次のように請求金額が計算されます。

- 完了率 = 実際原価の累計 ÷ 最終予測原価(開始日以降累計)
- 請求金額 = 完了率 × 予定値
- 現在の請求金額 = 請求金額 - 前請求金額

予定値は契約の請求行詳細区分に保管されます。実際原価の累計はAA元帳にあります。最終予測原価はHA元帳に配置されます。

原価計算方法のパーセント

原価計算方法のパーセントを指定すると、次のように請求金額が計算されます。

- 割増金額 = 予定値 - 最終予測原価(開始日以降累計)

- 割増原価率 = 割増金額 ÷ 最終予測原価(開始日以降累計)
- 現在の請求金額 = 割増原価率 × 現行期間の実際原価

現行期間の実際原価は、契約請求書生成プログラム(R52121)の処理オプションの開始日付を使用して計算されます。

最終予測原価は開始日以降累計として計算されますが、年度締めがまだ完了していない場合は、勘定残高テーブル(F0902)に年累計情報のみが含まれます。

予定値は契約の請求行詳細区分に保管されます。現行期間の実際原価はAA元帳にあります。最終予測原価はHA元帳に配置されます。

定義元帳

定義元帳を指定すると、次のように請求金額が計算されます。

請求金額 = 予定値 × 定義元帳に割り当てられるパーセント

予定値は契約の請求行詳細区分に保管されます。パーセントは、指定した定義元帳タイプにあります。

定期請求金額について

週次や月次などの定期頻度で増分値を小さくして固定合計金額を請求する場合は、定期金額を使用します。たとえば、会社が作業現場のトレーラをレンタルするとします。合計原価は3,600 USDです。作業の所有者は、月300 USDのレートで会社に払い戻すことに同意します。

事前設定

定期請求コード(UDC 52/RB)を定義します。

総額の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 「契約請求行明細の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	手動計算の総額を定義します。 定期請求金額を定義します。
タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂	W5212A	「契約請求行詳細の改訂」フォームで総額請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	請求金額を計算するために総額を定義します。

契約請求行詳細(P5202)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

編集

この処理オプションでは、契約に特定の変更が加えられた場合に警告またはエラー・メッセージを発行するかどうかを指定できます。

1. 基本契約への変更
基本契約に対する変更を防ぐには、「1」を入力します。基本契約に対する変更を許可するには、この処理オプションを空白にします。変更はすべて、変更オーダーとして入力する必要があります。
2. 予定値と予算の照合
作業原価システムを使用し、契約の予定値が作業の予算と常に一致するようにする場合は、この処理オプションを使用します。
予定値に変更を加えるたびに、予定値が対応する作業の予算と比較されます。作業原価システムで予算を変更した場合は、JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理システムからその変更が通知されません。契約の予定値を更新するまで、この2つの金額は一致しなくなります。
契約変更オーダーを追加または変更するたびに、勘定科目マスター(F0901)の予算金額が累計予定値金額と比較されます。
予定値金額が予算金額と等しくない場合に警告を発行するには、「1」を入力します。
予定値金額が予算金額と等しくない場合にエラーを発行するには、「2」を入力します。
予定値金額を予算金額と比較しない場合は、この処理オプションを空白にします。
3. 予算元帳タイプ
予算編集に使用する予算元帳タイプを指定します。この処理オプションを空白にすると、UDC 51/RBから改訂予算元帳タイプが使用されます。
4. 相互参照警告の表示
相互参照情報が存在しない請求行を追加すると警告が発行されるようにする場合は、この処理オプションを空白にします。警告が発行されないようにする場合は、「1」を入力します。
5. マイルストーン請求行の予定値の変更
マイルストーン請求行を請求した後でそのマイルストーン請求行の予定値に変更を加えるとエラー・メッセージが発行されるようにする場合は、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、この状況が発生した場合に警告が発行されます。
6. NTE規則/金額の変更時に警告を表示する
最高限度規則を変更したか、または最高限度金額を変更した場合、あるいはその両方の場合に警告が発行されるようにするには、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、最高限度規則または最高限度金額を変更しても、警告が発行されません。

表示オプション

この処理オプションでは、税情報を表示するかどうかを設定できます。

1. 税情報の表示
税情報を非表示にする場合は、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、税情報が表示されます。

デフォルト値

この処理オプションでは、既存の変更オーダーから新しい変更オーダーを追加した場合、新しい契約の会社と、プロジェクトまたは作業に基づいて、収益/原価勘定科目を一時変更するかどうかを指定できます。

1. 勘定科目の決定方法
既存の変更オーダーから新しい変更オーダーを追加した場合、新しい契約の会社と、プロジェクトまたは作業に基づいて、収益/原価勘定科目を一時変更する場合は、「1」を入力します。この処理オプションを空白にすると、新しい変更オーダー用に入力した実際の勘定科目が使用されます。

印刷オプション

この処理オプションでは、使用する契約の印刷プログラム (R5201) のバージョンを指定できます。

1. 契約の印刷 (R5201) のバージョン
- 使用する契約の印刷プログラム (R5201) のバージョンを指定します。この処理オプションをblankにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

手動計算の総額の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5350 R2 00050 Wet and Willy Wilderness Ride

変更オーダー 001 - 003 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2005/07/15 記述 Change 留保規則

変更状況

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

	相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	100,000.00				

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

- 請求行タイプ (画面上では「価格」)
- このフィールドをblankにすると、総額を表す「L」が自動的に入力されます。

注意: 「価格」フィールドに入力された値によって、どのフィールドが使用可能かが制御されます。

注意: 「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをblankにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

勘定科目コード (ビジネスユニット、主科目および補助科目) を省略すると、品目BC01用に設定されているAAIから勘定科目コード (ビジネスユニット、主科目および補助科目) が自動的に割り当てられます。

請求金額を計算するための総額の定義

「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

[illegible]

「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂」フォーム

相互参照を作成して請求金額を計算する前に、手動計算用に定義する場合と同様に、総額請求行を定義します。

1つ以上の勘定科目の「ビジネスユニット」、「補助科目」、「主科目」、「補助元帳」、「補助元帳タイプ」の各フィールドに値を入力します。

「補助元帳」フィールドをblankにすると、blankの補助元帳が使用され、どの補助元帳も使用されません。

重要: 総額請求行と単価請求行との相互参照に指定する勘定科目コードは、勘定科目マスター(F0901)で請求不可となっている必要があります。請求対象勘定科目を指定すると、請求行を重複請求する危険性があります。結果は予測できません。

定期請求金額の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

定期請求金額を定義する処理は、手動計算の総額を定義する処理に非常に類似しています。

定期金額およびコードが含まれている請求行には、相互参照情報は必要ありません。

定期請求金額 定期的に請求を行う場合の固定金額を入力します。

定期請求コード 月次の場合は「M」、「MO」、「MON」というように、請求行で定期請求金額の頻度を表すコードを入力します。定期請求金額を記載した請求書を作成するには、請求書生成プログラム(R52121)の処理オプションまたは請求書の作成プログラム(P52121)の「請求書の作成」フォームで定期請求コードを指定します。値はUDC 52/RBに保存されます。

単価の契約請求行の定義

この項では、単価請求行の概要と次の方法について説明します。

- 手動計算の単価の定義
- 請求金額を計算するための単価の定義

単価請求行について

単価の契約請求行には、単位数量および単価に基づく請求条件が定義されます。単価の契約請求行を設定すると、顧客に対して既存数量を所定の単価で請求することになります。

単価の契約請求行を定義するとき、次の情報が自動的に入力されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金の会社
- 所有者の住所情報に基づく売掛金の相手科目
- 単価のAAI BC02に基づく収益勘定科目

請求書を生成するときに請求金額を手動で計算する必要がある単価請求行を定義したり、自動的に請求金額が計算されるときに使用できる単価請求行を定義できます。

手動計算の単価を定義すると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告 - 相互参照が設定されていません

手動計算の単価請求行を使用するときには相互参照情報を使用しないため、このメッセージは無視しても問題ありません。

単価請求行の請求金額を自動的に計算するには、請求行と既存数量が含まれている勘定科目との間に相互参照を設定する必要があります。この勘定科目は、AU(実績数量)元帳から実際数量累計を算出する場合に使用されます。

単価請求行の相互参照を設定する場合は、次のことに注意してください。

- 請求の計算には、相互参照テーブルの先頭行にある勘定科目のみが使用されます。
- 勘定科目を入力するときに、位置を表すワイルドカードは使用できません。
ただし、「補助元帳」フィールドにアスタリスク(*)を入力すると、指定したビジネスユニット、主科目および補助科目に添付されているすべての補助元帳の単価を計算できます。
- 給与計算および設備情報は適用できません。

次の計算式に基づいて請求金額が計算されます。

- 発生数量累計 = 実際数量累計
- 現行数量 = 発生数量累計 - すでに請求した数量
- 単価 = 予定値 ÷ スケジュール単位
- 現在の請求金額 = 現行数量 × 単価

注意: 発生数量累計は開始日以降累計として計算されますが、年度締めがまだ完了していない場合は、勘定残高テーブル(F0902)に年累計情報のみが含まれます。

作業勘定科目および予算の確認

「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂」フォームでは、「フォーム」メニューから「当初予算の入力」を選択して、作業の予算情報を確認し、既存数量との相互参照に適した勘定科目を特定できます。作業原価システムから「作業マスターの処理」フォームが表示されます。このフォームでは、「ロー」メニューから「作業予算」を選択して、予算情報を検討できます。

勘定科目情報の検索

「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂」フォームでは、契約請求行の相互参照に含める勘定科目コードがわからない場合、これまでシステムに設定した勘定科目を検索し、その一覧から勘定科目を選択できます。このことを行うには、「ロー」メニューから「勘定科目No.の選択」を選択します。「勘定科目マスター検索」フォームが表示されます。

重要: 相互参照テーブルの原価勘定科目が請求不可ではなく請求対象である場合は、ワークファイル生成時に請求ワークファイル・レコードが作成されます。また、T&M請求行の取引と、単価または総額の請求行の取引が処理されることにより、顧客は同一の原価取引に対して2回請求されることになります。

単価の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	手動計算の単価を定義します。
タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂	W5212A	「契約請求行詳細の改訂」フォームで単価請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	請求金額を計算するために単価を定義します。

手動計算の単価の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

請求行タイプ(画面上では「価格」) 単価行には請求行タイプとして「U」または「2」を入力します。

単位 金額または数量の単位を指定するUDC (00/UM) のコードを入力します。バレル、箱、立方メートル、リットル、時間などがあります。

数量 単位で識別される数量を入力します。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などの数値にすることができます。

単価 この品目を請求する基本価格または価格設定単位をリストまたは基本価格で入力します。

このフィールドまたは「予定値」フィールドに値を入力します。

注意: 「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)を省略すると、品目BC02用に設定されているAAIから勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)が自動的に割り当てられます。

請求金額を計算するための単価の定義

「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

相互参照を作成して請求金額を計算する前に、手動計算用に定義する場合と同様に、単価請求行を定義します。

唯一の原価勘定科目の「ビジネスユニット」、「補助科目」、「主科目」、「補助元帳」、「補助元帳タイプ」の各フィールドに値を入力します。

「補助元帳」フィールドにアスタリスク(*)を入力すると、指定したビジネスユニット、主科目および補助科目に添付されているすべての補助元帳の単価を計算できます。

重要: 総額請求行と単価請求行との相互参照に指定する勘定科目コードは、勘定科目マスター(F0901)で請求不可となっている必要があります。請求対象勘定科目を指定すると、請求行を重複請求する危険性があります。結果は予測できません。

マイルストーン請求の契約請求行の定義

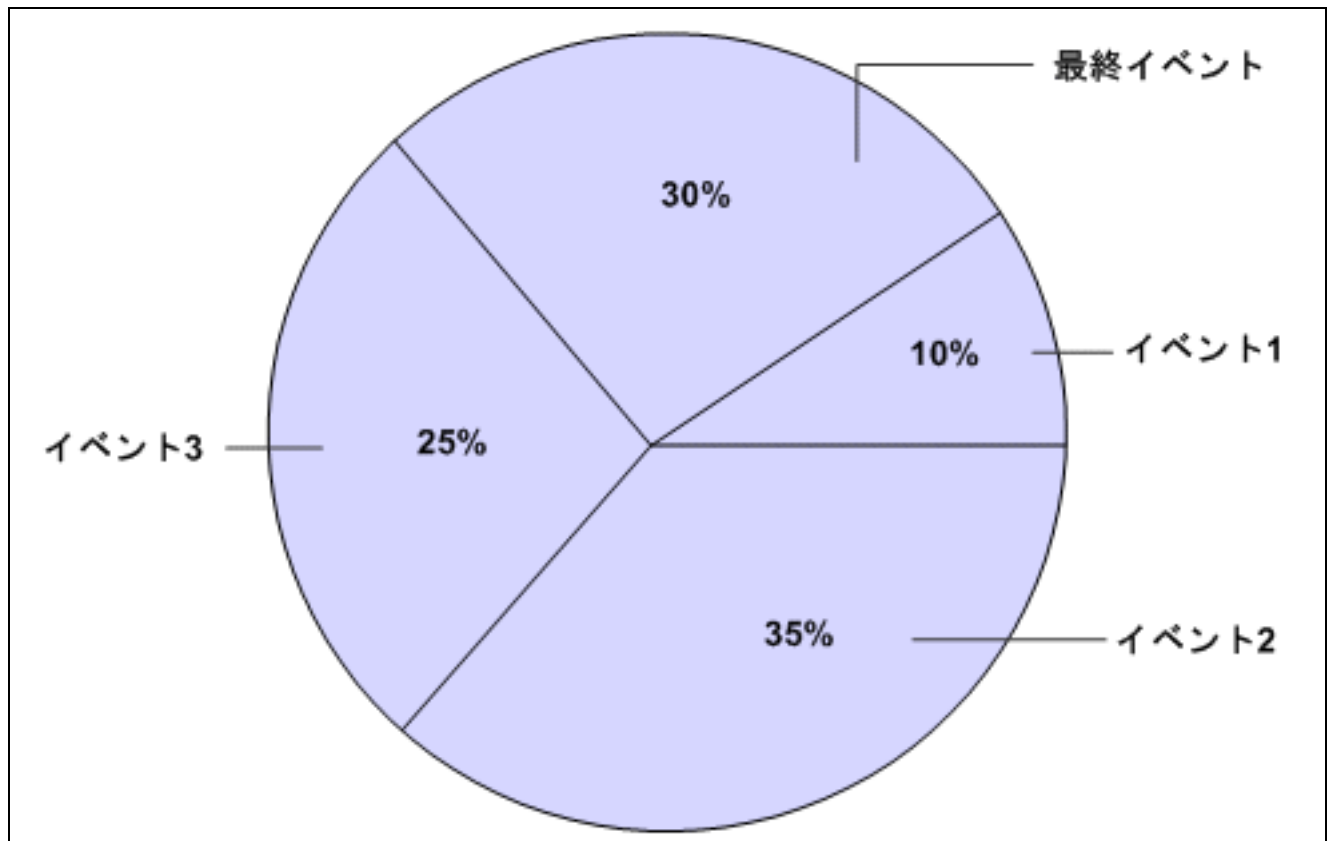
この項では、マイルストーン請求行の概要と次の方法について説明します。

- マイルストーン請求の請求行の定義
- マイルストーン請求の請求イベントの定義

マイルストーン請求行について

マイルストーン請求の契約請求行を定義すると、作業の過程で特定のマイルストーンに達するか、または請求イベントを完了した後にのみ顧客に対して請求することになります。

次の円グラフに、マイルストーン請求行の設定を示します。



マイルストーン請求行

マイルストーン請求の契約請求行を設定するとき、次の情報が自動的に入力されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金の会社
- 所有者の住所情報に基づく売掛金の相手科目
- マイルストーン請求のAAI BC04からの収益勘定科目

マイルストーン請求の請求イベント

請求イベントを特定の作業フェーズの完了または特定の請求日付として定義できます。このためには、マイルストーン請求の請求行を構成する各請求イベントと、特定の日付およびそのイベントに対して請求するマイルストーン金額またはパーセントとの間に相互参照を設定します。請求行のすべての請求イベントの合計パーセントは100%である必要があります。また、すべての請求イベントの金額は予定値と等しくなる必要があります。

パーセントに基づくマイルストーンの場合、完了した請求イベントの請求金額は次の計算式に基づいて計算されます。

予定値 × マイルストーンのパーセント

金額に基づく請求イベントには、完了した請求イベントのマイルストーン金額が使用されます。マイルストーン請求の予定値は契約の請求全体の金額です。

また、マイルストーン請求に対する差引と請求行との間での相互参照も可能です。

参照: 第 11 章、「従属契約請求行の定義」、「契約の前払について」、229ページ

マイルストーン請求行を定義すると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告 - 相互参照が設定されていません

また、請求行の相互参照情報を入力して請求イベントを定義するまで、「相互参照」フィールドが強調表示されます。

マイルストーン請求の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 「契約請求行明細の処理」フォームで、「追加」をクリックします。	マイルストーン請求の請求行を定義します。
マイルストーン請求行の改訂	W5216A	「契約請求行詳細の改訂」フォームでマイルストーン請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	マイルストーン請求の請求イベントを定義します。

マイルストーン請求の請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction

変更オーダー 000 - 000 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2004/10/14 記述 Original 留保規則

変更状況

レコード 1 - 6

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	X	STEEL	Steel Work	M	75,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	TRACK	Lay Track	M	100,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	FINISH	Finishing	P	40,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	GROUND	Ground Work	M	50,000,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	CONCRETE	Concrete Work	P	100,000,000.00				
<input type="checkbox"/>									

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

請求行タイプ(画面上では マイルストーン請求行には請求行タイプとして「M」または「6」を入力します。「価格」)

注意:「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)を省略すると、品目BC04用に設定されているAAIから勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目および補助科目)が自動的に割り当てられます。

マイルストーン請求の請求イベントの定義

「マイルストーン請求行の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - マイルストーン請求行の改訂

OK(O) 検索(S) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction

変更オーダーNo. 000

請求行 STEEL Steel Work

予定値 75,000,000.00 残り配賦% .0000

請求書バッチ 収益バッチ

マイルストーン基準
☒ パーセント
☐ 金額

レコード 1-5 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	イベント名 *	イベント記述 1	2次記述	予定値 %	マイルストーン金額	予定完了日
<input type="checkbox"/>	Mobil	Mobilization		20.0000	15,000,000.00	
<input type="checkbox"/>	Material	Materials		30.0000	22,500,000.00	
<input type="checkbox"/>	Labor	Materials/Labor		30.0000	22,500,000.00	
<input type="checkbox"/>	Completion	Completion		20.0000	15,000,000.00	
<input type="checkbox"/>						

「マイルストーン請求行の改訂」フォーム

- イベント名** マイルストーン/進捗請求率のイベント名や番号などのIDを入力します。
- 予定値%** 予定値に関連している契約請求行の完了率を示す値を入力します。
記入したすべてのローの「予定値%」フィールドの合計が100%になる必要があります。
- マイルストーン金額** 関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。
- 予定完了日付** このマイルストーンまたは進捗状況イベントの予定完了日付を入力します。
- 順序No.** 情報の順序を指定する番号を入力します。

注意:「パーセント」オプションを選択した場合は、「予定値%」フィールドに値を入力します。「金額」オプションを選択した場合は、「マイルストーン金額」フィールドに値を入力します。

進捗請求の契約請求行の定義

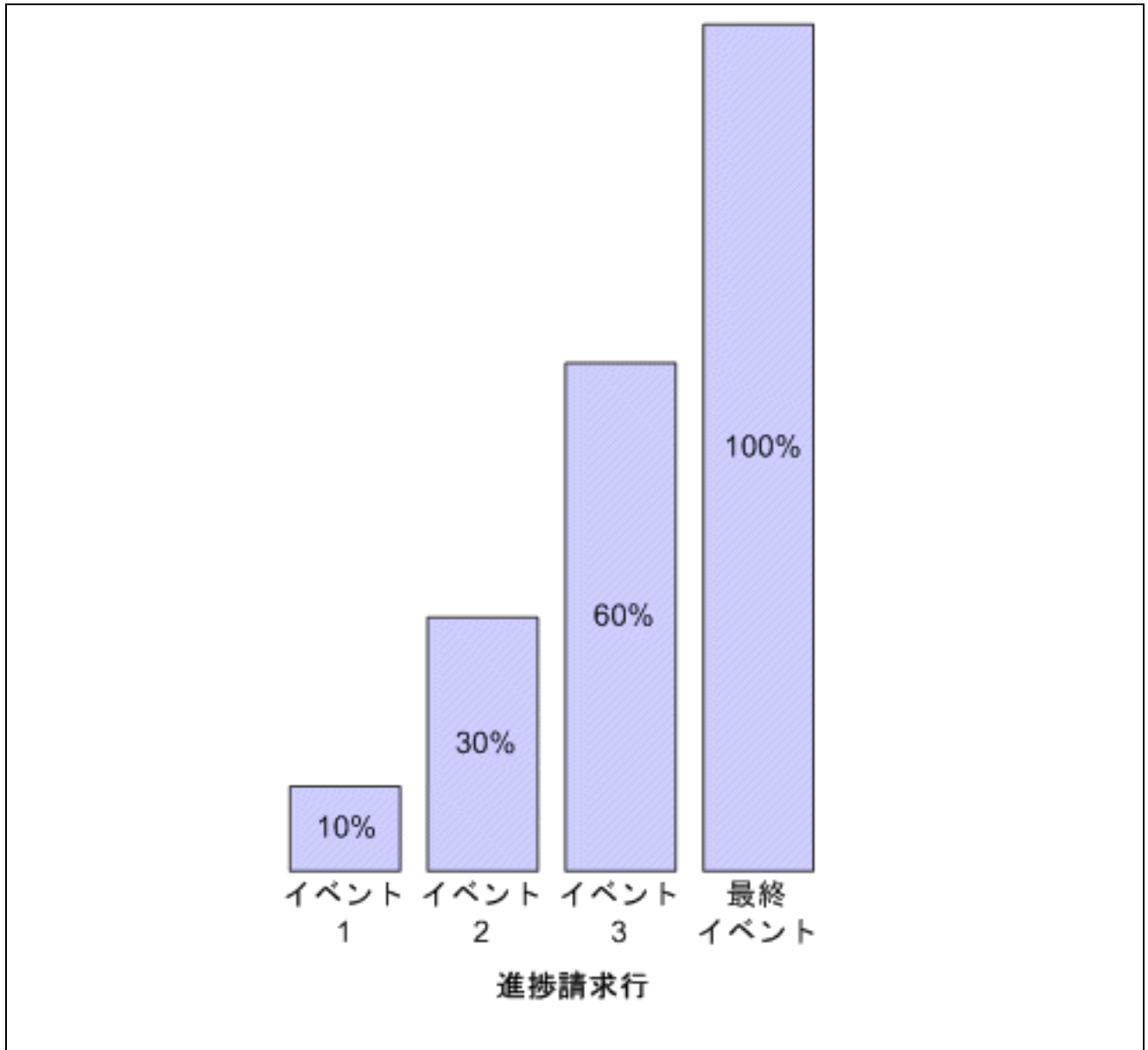
この項では、進捗請求行の概要と次の方法について説明します。

- 進捗請求の請求行の定義
- 進捗請求の請求イベントの定義

進捗請求行について

進捗請求の契約請求行を定義すると、作業の過程で特定の作業完了率に達した後にのみ顧客に対して請求することになります。

次の棒グラフに、進捗請求行の設定を示します。



進捗請求行

進捗請求の契約請求行を設定するとき、次の情報が自動的に入力されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金の会社
- 所有者の住所情報に基づく売掛金の相手科目
- 進捗請求のAAI BC05からの収益勘定科目

進捗請求の請求イベント

請求イベントを予定日付による累計作業完了率として定義できます。このためには、進捗請求の請求行を構成する各請求イベントと完了率との間に相互参照を設定します。

進捗請求の請求イベントを定義する場合は、次のことに注意してください。

- 各請求イベントは、作業の累計作業完了率を表します。
- 請求行の予定金額全体を請求するには、最終の請求イベントが100%である必要があります。

次の計算式に基づいて、完了したイベントの請求金額が計算されます。

予定値 × 累計完了率 – 以前に請求した金額の合計

進捗請求の予定値は契約の請求全体の金額です。

また、前払の請求行を設定するために、進捗請求に対する差引と請求行との間での相互参照も可能です。

参照: 第 11 章、「従属契約請求行の定義」、「契約の前払について」、229ページ

進捗請求行を定義すると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告 – 相互参照が設定されていません

また、請求行の相互参照情報を入力して請求イベントを定義するまで、「相互参照」フィールドが強調表示されます。

進捗請求の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	進捗請求の請求行を定義します。
進捗請求行の改訂	W5216B	「契約請求行詳細の改訂」フォームで進捗請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	進捗請求の請求イベントを定義します。

進捗請求の請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂																																																																																						
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> OK(O) 検索(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T) ? </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> </div>																																																																																						
契約No.		5352		R2	00050	Light Rail Construction																																																																																
変更オーダー		000 -		000	請求書バッチ			収益バッチ																																																																														
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 一般 追加明細 上限 通貨 </div>																																																																																						
変更日付		2004/10/14		記述		Original		留保規則																																																																														
変更状況																																																																																						
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> レコード 1 - 6 グリッドのカスタマイズ </div> <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th><input type="checkbox"/></th> <th></th> <th>相互参照</th> <th>請求行 *</th> <th>記述</th> <th>価格</th> <th>予定値</th> <th>収益完了率</th> <th>収益適格性状況</th> <th>単位</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td>X</td> <td>STEEL</td> <td>Steel Work</td> <td>M</td> <td>75,000,000.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td>X</td> <td>TRACK</td> <td>Lay Track</td> <td>M</td> <td>100,000,000.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td>X</td> <td>FINISH</td> <td>Finishing</td> <td>P</td> <td>40,000,000.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td>X</td> <td>GROUND</td> <td>Ground Work</td> <td>M</td> <td>50,000,000.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td>X</td> <td>CONCRETE</td> <td>Concrete Work</td> <td>P</td> <td>100,000,000.00</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										<input type="checkbox"/>		相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量	<input type="checkbox"/>		X	STEEL	Steel Work	M	75,000,000.00					<input type="checkbox"/>		X	TRACK	Lay Track	M	100,000,000.00					<input type="checkbox"/>		X	FINISH	Finishing	P	40,000,000.00					<input type="checkbox"/>		X	GROUND	Ground Work	M	50,000,000.00					<input type="checkbox"/>		X	CONCRETE	Concrete Work	P	100,000,000.00					<input type="checkbox"/>										
<input type="checkbox"/>		相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量																																																																												
<input type="checkbox"/>		X	STEEL	Steel Work	M	75,000,000.00																																																																																
<input type="checkbox"/>		X	TRACK	Lay Track	M	100,000,000.00																																																																																
<input type="checkbox"/>		X	FINISH	Finishing	P	40,000,000.00																																																																																
<input type="checkbox"/>		X	GROUND	Ground Work	M	50,000,000.00																																																																																
<input type="checkbox"/>		X	CONCRETE	Concrete Work	P	100,000,000.00																																																																																
<input type="checkbox"/>																																																																																						

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

請求行タイプ(画面上では「価格」) 進捗請求行には請求行タイプとして「P」または「7」を入力します。

注意: 「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使
用されます。

勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)を省略すると、品目BC05用に設定されているAAIから勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)が自動的に割り当てられます。

進捗請求の請求イベントの定義

「進捗請求行の改訂」フォームにアクセスします。

OK(O)

検索(F)

削除(D)

取消(L)

完了マークをつける/外す

ロー(R)

ツール(T)

契約No.

5352

R2

00050

Light Rail Construction

変更オーダーNo.

000

請求書パッチ

請求行

FINISH

Finishing

収益パッチ

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

	イベント名 *	イベント記述 1	2次記述	予%
<input type="checkbox"/>	10 miles	10 Miles completed		3
<input type="checkbox"/>	30 miles	30 Miles completed		
<input type="checkbox"/>	50 miles	50 Miles completed		1
<input type="checkbox"/>				

「進捗請求行の改訂」フォーム

イベント名 マイルストーン/進捗請求率のイベント名や番号などのIDを入力します。

予定値%

予定値に関連している契約請求行の完了率を示す値を入力します。

記入したすべてのローの「予定値%」フィールドの合計が100%になる必要があります。

マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了

この項では、マイルストーンまたは進捗請求イベントの完了の概要と、マイルストーンまたは進捗請求イベントの完了日付を指定する方法について説明します。

マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了について

契約のマイルストーンを完了したときにマイルストーンまたは進捗請求行の請求書を生成したり、指定された契約完了率の請求書を生成する場合は、マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの実際の完了日付を指定する必要があります。

請求書を生成すると、生成した請求書の締切日が実際の完了日付と比較されます。生成日付が同一かそれ以降の場合は、マイルストーン請求行の請求イベントが処理されます。請求処理のこの時点で、請求金額を変更することはできません。

イベントに対する請求書を生成すると、「マイルストーン請求行の改訂」フォームまたは「進捗請求行の改訂」フォームの「請求済みフラグ」フィールドがYに更新されます。請求イベントは保護され、そのイベントの情報は今後変更できなくなります。

マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了に使用するフォーム





フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
マイルストーン/進捗状況イベント完了	W5216C	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 「契約請求行明細の処理」 フォームで「フォーム」メニューから「請求イベント完了」を選択します。	マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了日付を指定します。

マイルストーンまたは進捗状況請求イベントの完了日付の指定

「マイルストーン/進捗状況イベント完了」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - マイルストーン/進捗状況イベント完了

OK(O) 検索(I) 取消(L) ロー(R) ツール(T)



契約No. 5352 R2 00050 Light Rail Construction

完了日付 請求書バッチ 収益バッチ

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 変更 オーダー	請求行	請求行 記述	価格 設定	イベント名	イベント 記述 1	実際 完了日付	完了 フラグ
<input type="checkbox"/>		000	STEEL	Steel Work	M	Mobil	Mobilization	
<input type="checkbox"/>		000	STEEL	Steel Work	M	Material	Materials	
<input type="checkbox"/>		000	STEEL	Steel Work	M	Labor	Materials/Labor	
<input type="checkbox"/>		000	STEEL	Steel Work	M	Completion	Completion	
<input type="checkbox"/>		000	TRACK	Lay Track	M	10 miles	10 Miles completed	
<input type="checkbox"/>		000	TRACK	Lay Track	M	30 miles	30 Miles completed	
<input type="checkbox"/>		000	TRACK	Lay Track	M	50 miles	50 Miles completed	
<input type="checkbox"/>		000	FINISH	Finishing	P	10 miles	10 Miles completed	
<input type="checkbox"/>		000	FINISH	Finishing	P	30 miles	30 Miles completed	
<input type="checkbox"/>		000	FINISH	Finishing	P	50 miles	50 Miles completed	

「マイルストーン/進捗状況イベント完了」フォーム

マイルストーンが現在のシステム日付で完了したことを指定するには、請求行を選択し、「ロー」メニューから「完了マークをつける/外す」を選択して、その行に完了のマークを付けます。「実際完了日付」フィールドがシステム日付で更新され、「完了フラグ」フィールドに「1」が入力されます。

マイルストーンが現在のシステム日付以外の日付で完了したことを指定するには、「実際完了日付」フィールドに日付を入力し、「完了フラグ」フィールドに「1」または「Y」を入力します。

- 完了フラグ
- イベントがすでに完了しており、そのため請求可能であることを示す場合は、このフィールドに「1」または「Y」を入力します。

イベントがまだ完了していないことを示す場合は、このフィールドを空白にします。

マイルストーンが現在のシステム日付以外の日付で完了したことを指定する場合にのみ、このフィールドに値を入力します。

以前に請求した進捗請求行の変更

この項では、以前に請求した進捗請求行に対する変更の概要と、以前に請求した進捗請求行を置換する方法について説明します。

以前に請求した進捗請求行の変更について

進捗請求行を請求した後で、請求行に変更を加えることはできません。請求行を変更するには、新たに請求行を作成する必要があります。この新しい請求行では、変更オーダーを新しくすることも、元の進捗請求行と同じにすることもできます。

進捗請求行を新規に作成する場合、完了率のスケジュールを使用すると、同じ契約の以前に定義した進捗請求行を一時変更できます。このためには、次の作業を行う必要があります。

- 契約の後続の変更オーダーまたは元の進捗請求行と同じ変更オーダーで進捗請求行を定義します。
- 新しい請求行の請求の完了率を定義します。
- 進捗請求の新しい請求行と以前に定義した進捗請求行との間に相互参照を設定します。

相互参照請求行に未請求パーセントが残っているため、「進捗請求行の改訂」フォームの「請求済みフラグ」フィールドに自動的にI(非アクティブ)が割り当てられます。また、相互参照進捗請求行を使用して、請求金額が作成されます。

以前に請求した進捗請求行の変更に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 変更オーダーを新規に作成するか、または既存の変更オーダーを選択し、「契約請求行明細の処理」フォームで「選択」をクリックします。	以前に請求した進捗請求行を置換します。
分割融資の実行相互参照改訂	W52161A	「契約請求行詳細の改訂」フォームですでに請求した進捗請求行を選択し、「ロー」メニューから「進捗状況相互参照」を選択します。	請求行を無効化するには、その請求行と別の請求行との間に相互参照を設定します。
進捗請求行の改訂	W5216B	「契約請求行詳細の改訂」フォームで進捗請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	進捗請求行の請求状況を検討します。

以前に請求した進捗請求行の置換

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

進捗請求行を請求した後で、その請求行を変更するには、次の処理を実行します。

1. 進捗請求行を新規に作成し、その請求行の完了率を指定するための請求イベントを定義します。
2. すでに請求した進捗請求行を選択し、「ロー」メニューから「進捗状況相互参照」を選択して「分割融資の実行相互参照改訂」フォームにアクセスします。
選択した進捗請求行以外のすべての請求行および変更オーダーの進捗請求行が表示されます。
3. 請求処理に使用する新しい行を選択し、「選択/削除」をクリックします。
新しい請求行の「相互参照」フィールドに「X」が設定されます。
4. 「分割融資の実行相互参照改訂」フォームを閉じます。
5. 「契約請求行詳細の改訂」フォームで「OK」をクリックします。
6. (省略可)進捗請求に相互参照が設定されたことを確認するには、すでに請求された進捗請求行の「進捗請求行の改訂」フォームにアクセスします。

「進捗請求行の改訂」フォームでは、「請求済みフラグ」フィールドがIとなっています。これは、この請求行が別の請求行との間に相互参照が設定され、非アクティブであることを示します。

T&Mまたは原価加算の契約請求行の定義

この項では、T&Mおよび原価加算の請求行の概要と、次の方法について説明します。

- T&Mおよび原価加算の請求行の定義
- T&Mまたは原価加算の請求行の相互参照の定義

T&Mおよび原価加算の請求行について

T&Mの契約請求行には、作業の完了に使用する商品やサービスの実際原価に基づく請求条件が定義されます。契約の実際原価には、労務費や間接費など給与計算に基づく原価や、設備使用状況や資材など給与計算に基づかない原価などを含めることができます。

タイム・アンド・マテリアルの契約に対する請求行を設定すると、その契約に関連する商品やサービスの原価以外に、該当する割増金額および該当する手数料を顧客に対して請求することになります。

給与計算に基づく原価を入力するには、給与計算および時間会計を使用します。給与計算に基づかない原価を入力するには、キャピタル・アセット・マネジメント、在庫管理、買掛管理のいずれかのJD Edwards EnterpriseOneシステムを使用します。これらの原価の取引を勘定科目元帳テーブル(F0911)に転記するには、JD Edwards EnterpriseOne一般会計を使用します。JD Edwards契約請求管理では、タイム・アンド・マテリアルに関連する原価のソースとして取引が使用されます。

原価加算行は、T&M行と同じように設定します。ただし、原価加算行では、基準原価に割増金額を加えた額を請求するのではなく、基準原価に適用済間接費および指定の手数料を加えた額を請求します。原価加算行のワークファイルを作成すると、F0911レコードからのソース取引と、間接費明細実績テーブル(F52G11)内でそのソース取引に関連付けられている既存の間接費取引の両方がコピーされます。

T&Mと原価加算の相互参照

タイム・アンド・マテリアルの各契約請求行と、関連原価が含まれている総勘定元帳の勘定科目との間に相互参照を設定する必要があります。相互参照勘定科目の情報に基づいて、T&Mおよび原価加算の請求行の請求金額が計算されます。

T&Mおよび原価加算の請求行と、1つ以上の請求対象の原価勘定科目との間に相互参照を定義できます。この勘定科目相互参照は、次の目的に使用されます。

- JD Edwards契約請求管理用に原価を累計するときの、タイム・アンド・マテリアルに関連する原価のワークファイル取引の作成
- 請求および収益認識の仕訳を作成するための請求AAIの取得

T&Mまたは原価加算の請求行を定義すると、次のメッセージが表示されることがあります。

警告 - 相互参照が設定されていません

また、請求行の相互参照情報を入力して請求イベントを定義するまで、「相互参照」フィールドが強調表示されます。

請求対象の各原価勘定科目とその関連した相互参照情報は、特定の契約および変更オーダーに関連するT&Mまたは原価加算の請求行で固有である必要があります。

同じ契約の様々な変更オーダーに同じ勘定科目コードを使用できます。使用すると、以前に定義したT&Mまたは原価加算の請求行に関連するすべての将来原価が、最近定義したT&Mまたは原価加算の請求行に関する同じ相互参照情報で請求されます。

T&Mおよび原価加算の請求行を定義するとき、次の情報が自動的に入力されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金の会社
- 顧客の住所情報に基づく売掛金の相手科目

T&Mまたは原価加算の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	T&Mおよび原価加算の請求行を定義します。
タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂	W5212A	「契約請求行詳細の改訂」フォームでT&Mまたは原価加算の請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	T&Mまたは原価加算の請求行の相互参照を定義します。

T&Mおよび原価加算の請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5350 R2 00050 Wet and Willy Wilderness Ride
 変更オーダー 000 - 003 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2005/04/01 記述 Original 留保規則

変更状況

レコード 1-7 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	900,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	MODEL 001	Model Development - Labor	T					
<input type="checkbox"/>	X	MODEL 002	Model Development - Materials	T					
<input type="checkbox"/>	X	ENGIN	Engineering	T					
<input type="checkbox"/>	X	PROJ	Project Management	U	150,000.00			DY	50.00
<input type="checkbox"/>	X	PROJTRAV	Project Management - Travel	T					
<input type="checkbox"/>									

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

注意: 米国公共事業契約の作成/編集プログラム(P52G01M)で入力した契約の請求行を入力する場合、その契約の資金調達レベルで請求方式が一致していないと、警告が表示されます。

請求行タイプ(画面上では「価格」) T&M請求行には請求行タイプとして「T」または「1」を入力します。
 原価加算請求行には請求行タイプとして「S」を入力します。

注意:「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

T&Mまたは原価加算の請求行の相互参照の定義

「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂

OK(O) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5350 R2 Wet and Willy Wilderness Ric 請求書バッチ
 変更No. 000 収益バッチ
 請求行 MODEL 001 Model Development - Labor
 通貨コード USD U.S. Dollar

レコード 1 - 4

ビジネス ユニット	補助 科目	主 科目	補助 元帳 タイプ	補助 元帳	職務 タイプ	職階	支払 タイプ	従業員 No.	使用 設備	所属 ビジ
5350	02000	8482								
5350	02000	8483								
5350	02000	8488								

「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、単価、合計相互参照の改訂」フォーム

職務タイプ

UDC 07/Gからコードを入力します。職務タイプに給与および福利厚生情報を関連付けて、その情報をその職務タイプにリンクされている従業員に適用できます。

職階

特定の職務タイプ内の特定のレベルを指定するUDC 07/GSのコードを入力します。賃率テーブルの職務によって賃率を決定できるよう、職務タイプとともにこのコードが使用されます。

支払タイプ

支払、控除、福利厚生または有給のタイプを定義するコードを入力します。支払タイプには、1から999のコードが付けられています。控除および福利厚生には、1000から9999のコードが付けられています。

従業員No.

給与計算情報を定義する場合は、従業員の住所録番号を入力します。

所属ビジネスユニット

従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。

原価プール

ビジネスユニット・マスター・ファイル(F0006)と関連付けられているカテゴリ・コード12の値を入力します。このコードはユーザー定義コード(00/12)であり、任意勘定科目のマッピングおよび選択したデータのレポートへの印刷に使用します。

使用設備

従業員が作業を実行するために使用した設備のID番号を入力します。たとえば、従業員は社用トラックを運転したり、印刷機を操作することがあります。設備使用の原価を総勘定元帳の該当する勘定科目に配賦する場合は、このフィールドを使用します。

料金グループ

類似した請求品目をグループ化するUDC 12/COのコードを入力します。JD Edwardsキャピタル・アセット・マネジメントを使用している場合は、このカテゴリ・コードを料金グループ用にのみ使用する必要があります。

注意: ある範囲の値を示すには、「補助科目」フィールドおよび「主科目」フィールドでワイルドカードを使用します。たとえば、1300から1399までの主科目をすべて指定する場合は、「主科目」フィールドに「13**」と入力できます。入力した値は、勘定科目の重複がないことを確認するために検証されます。「主科目」フィールドをブランクにすると、ブランクの主科目が検索されます。すべての主科目を検索するように指定するには、「*ALL」または「****」と入力します。また、「補助科目」フィールドでも、これらのワイルドカードを使用できます。

給与計算情報を定義するには、次のフィールドを使用します。

職務タイプ

職階

支払タイプ

従業員 No.

所属ビジネスユニット

原価プール

設備情報を定義するには、次のフィールドを使用します。

使用設備

所属ビジネスユニット

原価プール

料金グループ

第 11 章

従属契約請求行の定義

この章では、従属契約請求行および契約の前払の概要、事前設定、および次の契約請求行の定義方法について説明します。

- 直接分割融資および率による分割融資
- 手数料
- 追加料金
- 適用済間接費
- 間接労務費
- 収益

従属契約請求行について

この項では、共通フィールドと従属契約請求行について説明します。

この章で使用する共通フィールド

代替順序コード	順序番号を入力し、契約情報をデフォルトの行番号順ではなく順番に表示します。
請求一時停止	<p>請求書集計ワークファイル(F4822)に請求レコードを追加して該当金額を請求するには、このフィールドをブランクにします。</p> <p>請求レコードをワークファイルに追加するものの、金額を請求しない場合は、「1」を入力します。</p> <p>このワークファイルに対して請求レコードを作成しない場合は、「2」を入力します。</p> <p>請求レコードをワークファイルに追加して超過禁止限度を無視する場合は、「3」を入力します。</p> <hr/> <p>注意: このフィールドは、最高限度フィールドと連携します。このフィールドの値によって、最高限度金額を超えた場合の処理方法が決定されます。</p>
請求AAI制御	請求行の勘定科目情報で収益勘定科目を識別するように指定するには、「0」を入力します。請求行の勘定科目情報で原価勘定科目を識別するように指定するには、「1」を入力します。勘定科目情報(ビジネスユニット、主科目、補助科目、補助元帳および補助元帳タイプ)はAAI(システム52、コー

ドBC)から自動的に入力されます。特定の勘定科目を入力することもできます。T&Mを除くすべての請求行で勘定科目情報が使用されます。

注意: このオプションを「1」に設定すると、仕訳の生成中に請求行は請求AAI情報テーブル(F48S95)に対して処理されます。これはT&M請求行の処理方法と類似しています。

請求固定情報プログラムの「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効な場合に、このフィールドをblankにすると、この請求行に関連付けられた勘定科目が原価勘定科目であることを示す「1」が割り当てられます。請求固定情報プログラムの「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効ではない場合に、このフィールドをblankにすると、この請求行に関連付けられた勘定科目が収益勘定科目であることを示す「0」が割り当てられます。

この請求行に関連付けられた勘定科目が収益勘定科目であることを示すために「請求AAI制御」フィールドが0に設定されていると、契約に税が設定されている場合に収益金額に税が含まれます。

請求行 所有者によって定義されている支払項目番号を入力します。このフィールドは15文字までの英数字で入力できます。この支払項目番号には数値情報を使用することをお勧めします。

請求行タイプ(画面上では「価格」) 契約で請求行によって定義されている請求条件を指定するコードを入力します。事前定義された請求行タイプのコードを使用して、計算式など、請求行の請求金額および収益金額の計算に関連した情報へのアクセスが行われます。

「価格」フィールドをblankにすると、総額を表す「L」が自動的に入力されます。「価格」フィールドに入力された値によって、どのフィールドが使用可能かが制御されます。

ビジネスユニット 原価のトラッキング対象となるビジネスの個別の組織を表すビジネスユニットを入力します。たとえば、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。

ビジネスユニットにセキュリティを設定すると、権限のないユーザーがビジネスユニットを検索することを防止できます。

変更日付 変更オーダーの最終変更の日付を入力します。この日付によって、変更オーダーに関する一般会計処理が制御されます。

「変更日付」フィールドをblankにすると、現在の日付が入力されます。

注意: 多通貨契約では、変更日を使用して契約の為替レートが取得されません。

変更オーダー 契約の変更番号を入力します。このフィールドをblankにすると、自動採番が行われます。これが契約の基本オーダーである場合、「000」が割り当てられます。

たとえば、基本契約の変更オーダー番号は000で、最初の変更オーダーが001、2つ目が002のようになります。

変更状況 契約の変更オーダー状況を示すUDC 52/CHのコードを入力します。

契約No.	この契約をシステム上で一意に識別する番号を入力します。契約の入力時にこの番号をblankにすると、自動採番機能(システム52、インデックス01)により番号が割り当てられます。
適格性一時変更	<p>請求処理時に請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)にレコードが作成されたときに、サービス請求固定情報の適格性コードを一時変更する値を入力します。値は次のとおりです。</p> <p>0: 請求および収益 1: 請求のみ 2: 収益のみ 3: 請求不可 4: 原価のみ</p> <p>適格性コードを一時変更しない場合は、このオプションをblankにします。</p> <p>請求固定情報プログラム(P48091)の「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効でない場合に、このフィールドをblankにすると、1(請求のみ)が割り当てられます。請求固定情報プログラムの「仕訳作成の制御」オプションで収益認識が有効な場合に、このフィールドをblankにすると、blank(一時変更なし)が割り当てられます。請求行は請求および収益の対象です。</p>
相手勘定	<p>請求行または支払項目の相手勘定科目を入力します。所有者(顧客)住所録に対する売掛金の相手科目から、自動的にデフォルト値が入力されます。</p> <p>このフィールドをblankにすると、顧客の相手勘定が使用されます。</p>
主科目	<p>勘定科目コードの主科目の部分を指定します。主科目は、原価コード(労務費、材料費、設備費など)のサブカテゴリへの分割を表します。たとえば、労務費の原価コードは通常時間、割増時間、間接費に分割できます。</p> <hr/> <p>注意: 任意勘定科目表を使用して主科目コードを6桁に設定した場合は、6桁のすべてを使用することをお勧めします。たとえば、「000456」と入力することと「456」と入力することは同じではありません。「456」と入力した場合は、6桁を埋めるために自動的にスペースが3つ追加されます。</p> <hr/>
完了予定日	契約に基づき作業を完了する予定の日付を入力します。
計画開始	契約に基づき作業を開始する予定の日付を入力します。
プロジェクト/作業	<p>この契約に関連付けられたプロジェクトまたは作業を識別する番号を入力します。作業原価でプロジェクトまたは作業を設定できます。「契約の検索」フォームでは、プロジェクトまたは作業の番号を検索条件として使用できます。</p> <p>このフィールドをblankにすると、契約マスターからプロジェクトが割り当てられます。</p>
参照番号	作業原価で基本契約または変更オーダーを予算変更に関連付ける場合に使用する番号を入力します。所有者の変更オーダーに基づく可能性のある作業予算の変更は、予算変更仕訳詳細レコードの「R2(参照2)」フィールドに対応しています。

留保規則	<p>契約の留保金を計算するために使用する規則を入力します。次に例を示します。</p> <p>留保率 - 10.00、完了率 - 50.00</p> <p>留保率 - 5.00、完了率 - 95.00</p> <p>この規則は、作業の50%が完了するまで10%の留保金が発生することを示します。続いて、作業の95%が完了するまで残りの45%に対して5%の留保金が計算されます。作業の95%が完了すると、留保金はリリースされます。</p>
予定値	<p>契約の特定の行項目に対する予定金額または予算金額を入力します。この金額と完了率を併用して請求額および留保金が計算されます。</p> <p>直接分割融資請求行および率による分割融資請求行により、請求金額が減額されます。これらの行タイプでは、「予定値」フィールドに「-10,000」のようなマイナスの金額を入力する必要があります。</p>
補助科目	<p>主科目の補助科目区分を入力します。補助科目には、主科目に関する会計処理の詳細レコードが含まれます。</p>
補助元帳タイプ	<p>「補助元帳」フィールドで使用するUDC (00/ST) のコードを入力し、補助元帳のカテゴリを指定します。</p>
補助元帳	<p>勘定科目コードの補助元帳区分を入力します。補助元帳では、総勘定元帳の勘定科目を細分化して補助的に使用する科目を識別します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。</p>
税率	<p>税率と税配賦が共通している税域または地域を示すコードを入力します。税率または税域には、納税先（たとえば、都道府県や市町村）とその税率を含むように設定してください。税率/税域テーブル (F4008) にある値を設定する必要があります。</p>
金額以外の変更	<p>この変更が価格ではなく期間の延長やスケジュールの変更のような契約期間に影響することを示すには、「Y」と入力します。この変更が期間に影響しない場合は、「N」と入力します。</p>
税目コード	<p>税の課税方法と、収益勘定および費用勘定への計上方法を制御するUDC 00/EXのコードを入力します。</p>
Vertex製品カテゴリ	<p>非課税または標準とは異なるレートの商品またはサービスのVertex Tax Decision Makerで使用するユーザー定義コードを入力します。</p>
Vertex取引タイプ	<p>Vertexの売上および使用の取引タイプを入力します。</p>

従属契約請求行

契約マスター情報を定義した後で、顧客に対する請求書を生成するために契約請求行を定義する必要があります。契約請求行によって、契約の請求条件が定義されます。契約には独立請求行と従属請求行を設定できます。請求行のタイプによってその請求行が独立か従属かが判別されます。

従属契約請求行には、請求金額の計算に必要な情報の一部のみが含まれています。従属契約請求行の請求金額を計算するには、各従属請求行を独立請求行と関連付ける必要があります。通常は、個別の請求金額に含まれる要素を表す請求書を生成するときに従属請求行を設定します。

契約の前払について

前払(差引)は、契約の署名時に会社が顧客に要求することがある事前振込です。契約に前払の契約請求行を設定する場合、会社は契約の合計請求金額に対して前払の金額を適用することに合意します。

前払の契約請求行を定義して、直接分割融資および率による分割融資の請求条件を指定できます。

直接分割融資

直接分割融資とは、契約の請求金額に適用する固定金額での減額のことです。

請求金額に対する直接分割融資の適用は、最初の請求で始まり、前払の全額が契約に完全に適用されるまで行われます。

率による分割融資

率による分割融資とは、契約の請求書を作成するたびに契約の請求金額に適用するパーセントでの減額のことです。パーセントでの減額は、完了した作業のパーセントに基づきます。

率による分割融資金額の適用は、契約期間全体にわたります。前払の全額が契約に完全に適用されるには、契約の作業が完了するまでかかります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 契約の契約マスターを作成します。

参照: 第 9 章、「契約の設定」、「契約マスター情報の設定」、182 ページ

- 契約請求行詳細 (P5202) の処理オプションを設定します。
- 別の請求行への相互参照を設定する契約請求行を入力します。
- 手数料行への相互参照を作成している場合は、手数料行の有効なレート・コードを定義します。

直接分割融資および率による分割融資の契約請求行の定義

この項では、直接分割融資請求行および率による分割融資請求行の概要と、次の方法について説明します。

- 直接分割融資または率による分割融資の請求行の定義
- 直接分割融資または率による分割融資の相互参照の定義

直接分割融資請求行および率による分割融資請求行について

契約の署名時に会社が顧客に要求することがある前払または事前振込を表すには、直接分割融資または率による分割融資の契約請求行を定義します。

直接分割融資請求行または率による分割融資請求行を定義すると、次の項目が指定されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金の会社
- 契約の顧客に基づく売掛金の相手科目
- 直接分割融資の場合のAAI BC06または率による分割融資の場合のBC07に基づく収益勘定科目

直接分割融資請求行を初めて定義すると、次のメッセージが表示されますが、このメッセージは無視できます。

警告 - 相互参照が設定されていません

注意: 直接分割融資請求行の相互参照情報を定義するまで、「相互参照」フィールドが強調表示されます。

直接分割融資請求行

直接分割融資は、契約に適用する固定金額での減額を表します。直接分割融資を使用するには、従属契約請求行を定義します。従属請求行により、契約の別の請求行の請求金額が減額されます。請求金額に直接分割融資請求行を適用するには、2つの請求行間に相互参照を定義する必要があります。

直接分割融資請求行と次の契約請求行との間に相互参照を定義します。

- 単価 (独立)
- 総額 (独立)
- タイム・アンド・マテリアル (独立)
- マイルストーン (独立)
- 進捗 (独立)
- 手数料 (従属)
- 追加料金 (従属)

減額は、最初の請求で始まり、差引の予定値全体が契約に完全に適用されるまで行われます。直接分割融資の予定値は、前払の金額です。たとえば、直接分割融資が22,000 USDであり、最初の3つの請求がそれぞれ10,000 USDであるとしします。請求の計算は次の順序で行われます。

請求10,000 - 直接分割融資減額10,000 = 請求金額0

請求10,000 - 直接分割融資減額10,000 = 請求金額0

請求10,000 - 直接分割融資減額2,000 = 請求金額8,000

率による分割融資請求行

率による分割融資は、契約の請求書を作成するたびに契約の請求金額に適用するパーセントでの減額を表します。パーセントでの減額は、完了した作業のパーセントに基づきます。率による分割融資金額の適用は、契約期間全体にわたります。前払の全額が契約に完全に適用されるには、契約の作業が完了するまでかかります。率による分割融資の予定値額は、マイナスの金額です。この金額は、契約の合計請求値に対する減額を表します。

率による分割融資を使用するには、従属契約請求行を定義します。従属請求行により、契約の別の請求行の請求金額が減額されます。率による分割融資請求行を適用するには、率による分割融資請求行と2つ以上の請求行との間に相互参照を設定する必要があります。

率による分割融資請求行と次の契約請求行との間に相互参照を設定します。

- 単価 (独立)
- 総額 (独立)
- マイルストーン (独立)
- 進捗 (独立)

率による分割融資は、通常、進捗請求に関連します。会社が作業またはプロジェクトの特定のパーセントを完了した後、現在の減額が次の式で計算されます。

予定値 × 相互参照請求行の完了率 = 初期請求金額

前払金額 × 完了率 = 前払減額

初期請求金額 - 前払減額 = 請求金額

減額は、最初の請求で始まり、差引の予定値全体が契約に完全に適用されるまで行われます。率による分割融資の予定値は、前払の金額です。

たとえば、率による分割融資が5,000 USDであり、関連する進捗請求が100,000 USDであるとしてします。最初の請求イベントを10%の完了率として定義します。最初の請求イベントを完了すると、進捗請求および率による分割融資の予定値に完了率が適用されます。

請求金額は次のように計算されます。

100,000 × 0.10 = 10,000 (初期請求金額)

5,000 × 0.10 = 500 (前払減額)

10,000 - 500 = 9,500 (減額後の請求金額)

直接分割融資または率による分割融資の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」メニュー (G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	直接分割融資の請求行を定義します。
分割融資実行相互参照の改訂	W52161A	「契約請求行詳細の改訂」フォームで直接分割融資請求行または率による分割融資請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	直接分割融資または率による分割融資の相互参照を定義します。

直接分割融資または率による分割融資の請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(S) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

保存

印刷

削除

取消

フォーム

ロー

ツール

契約No.5351R200050Baseball Ballpark Build

変更オーダー000 - 000請求書バッチ7274収益バッチ

一般追加明細上限通貨

変更日付2005/06/01記述Original留保規則

変更状況

レコード 1 - 11

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	X	134X	Labor	T					
<input type="checkbox"/>	X	1350-GENERAL	Materials	T					
<input type="checkbox"/>	X	1350-SEATING	Seating	U	2,000,000.00			PC	4,000
<input type="checkbox"/>	X	1355	Equipment	T					
<input type="checkbox"/>	X	1360	Subcontract	L	2,500,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	ADMIN	Administrative	F					
<input type="checkbox"/>	X	001	Draw	D	25,000.00-				
<input type="checkbox"/>	X	002	Progress	P	100,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	003	Rated Draw	R	1,000.00-				
<input type="checkbox"/>	X	004	Milestone	M	92,000.00				

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

請求行タイプ(画面上では「価格」) 直接分割融資請求行の場合は、「D」または「8」を入力します。率による分割融資請求行の場合は、「R」または「9」を入力します。

注意: 「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドを空白にすると、契約マスターの税情報が使用されます。

勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)を空白にした場合は、勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)は、直接分割融資請求行の場合は項目BC06、率による分割融資請求行の場合は項目BC07に対して設定されているAAIから割り当てられます。

直接分割融資または率による分割融資の相互参照の定義

「分割融資実行相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 分割融資の実行相互参照改訂

取消(L) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build

変更オーダーNo. 000

請求行 001 Draw 請求書バッチ 7274

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 相互参照	変更オーダー	請求行	記述	請求タイプ	予定値
<input type="checkbox"/>		000	134X	Labor	T	
<input type="checkbox"/>		000	1350-GENERAL	Materials	T	
<input type="checkbox"/>		000	1350-SEATING	Seating	U	2,000,000.00
<input type="checkbox"/>		000	1355	Equipment	T	
<input type="checkbox"/>		000	1360	Subcontract	L	2,500,000.00
<input type="checkbox"/>		000	ADMIN	Administrative	F	
<input type="checkbox"/>		000	002	Progress	P	100,000.00
<input type="checkbox"/>	X	000	004	Milestone	M	92,000.00

「分割融資実行相互参照の改訂」フォーム

「分割融資実行相互参照の改訂」フォームで、この直接分割融資または率による分割融資行を相互参照する契約請求行を選択し、「ロー」メニューから「選択/削除」を選択します。「相互参照」カラムに「X」が入力されます。

手数料の契約請求行の定義

この項では、手数料請求行の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 手数料の契約請求行の定義
- 手数料の相互参照の定義

手数料請求行について

手数料は、別の請求金額に加えて顧客に請求する金額を表します。手数料は、契約内の別の請求行の請求金額に基づいて定義できます。そのためには、手数料の従属契約請求行を定義します。

手数料の契約請求行は、他の請求行に従属して計算されます。手数料請求行の請求金額を計算するには、手数料請求行と契約内の他の請求行との間に相互参照を設定する必要があります。手数料の請求行には、レート・コードまたは手数料パーセントを割り当てる必要もあります。レート・コードによって、手数料請求行に対して使用する手数料パーセントのテーブルが指定されます。レート・コードは有効な日付レートに基づいています。

契約に手数料を適用するには、従属手数料請求行と手数料を適用する契約内の他の請求行との間に相互参照を設定する必要があります。他の手数料請求行への相互参照を設定して、複合手数料計算を作成することもできます。

請求書を作成する場合は、手数料金額の計算に請求金額または原価金額が使用されます。次に例を示します。

手数料金額 = 手数料パーセント × 請求行の合計請求金額

請求金額の手数料の定義

手数料を使用するには、従属契約請求行を定義します。手数料は、1つ以上の契約請求行の請求金額に加えて顧客に請求する金額を表します。手数料の契約請求行は、発生した原価または契約の請求金額のパーセントを基準にすることができます。

手数料請求行を定義すると、次の項目が指定されます。

- 契約マスターに基づく税目、税域または地域、作業、および売掛金の会社
- 契約の顧客に基づく売掛金の相手科目
- 手数料のAAI BC03に基づく収益勘定科目

事前設定

手数料テーブルを設定します。

参照: [第 3 章、「テーブル情報の設定」、「手数料の設定」、81ページ](#)

手数料の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」(G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	手数料の契約請求行を定義します。
手数料相互参照詳細	W5213A	「契約請求行詳細の改訂」フォームで手数料請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	手数料の相互参照を定義します。
相互参照行の選択	W5213B	「手数料相互参照詳細」フォームで、「フォーム」メニューから「行の選択」を選択します。	手数料を相互参照する契約請求行を選択します。

手数料の契約請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build

変更オーダー 000 - 000 請求書バッチ 7274 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2005/06/01 記述 Original 留保規則

変更状況

レコード 1 - 11

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	134X	Labor	T					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	1350-GENERAL	Materials	T					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	1350-SEATING	Seating	U	2,000,000.00			PC	4,000
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	1355	Equipment	T					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	1360	Subcontract	L	2,500,000.00				
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	ADMIN	Administrative	F					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	001	Draw	D	25,000.00-				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	002	Progress	P	100,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	003	Rated Draw	R	1,000.00-				
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	X	004	Milestone	M	92,000.00				

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

請求行タイプ(画面上では 手数料請求行の場合は、「F」、「4」または「A」を入力します。「価格」)

注意: 「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)をブランクにした場合は、勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)は、項目BC03に対して設定されているAAIから割り当てられます。

手数料の相互参照の定義

「手数料相互参照詳細」フォームにアクセスします。

[「手数料相互参照詳細」フォーム](#)

手数料の相互参照を定義するには、次の手順に従います。

- 所有者支払項目の手数料率の請求金額を計算する場合に使用される割増のパーセントを指定します。このフィールドにパーセントを入力するか、または「レート・コード」フィールドにレート・コードを入力します。パーセンテージは整数で入力してください。たとえば、10%の場合は「10」と入力します。

レート・コード	手数料ベースの行である所有者支払項目に対して契約請求管理で使用されるレート・コードを入力します。特定のレート・コードを定義することによって、日付の変化に対応した手数料のパーセントを設定できます。
請求書/収益	手数料基準として請求書金額を使用して手数料行の請求金額を算出する場合は、このオプションを選択します。
原価	手数料基準として原価金額を使用して手数料行の請求金額を算出する場合は、このオプションを選択します。

追加料金の契約請求行の定義

この項では、追加料金請求行の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 追加料金の請求行の定義
- 追加料金の相互参照の定義

追加料金請求行について

追加料金は、タイム・アンド・マテリアルの独立請求行または間接費の従属請求行にリンクする割増金額です。追加料金の請求金額は、タイム・アンド・マテリアルに対して設定する請求行に関連付けられます。

契約の請求書で個別の行としてタイム・アンド・マテリアルの請求行に関連付けられた追加料金の金額を表示するには、追加料金の請求行を設定する必要があります。追加料金の個別の請求行を設定すると、基本レコードとは異なる追加料金請求行の特性を設定できます。

たとえば、タイム・アンド・マテリアルの請求行を設定して給与計算原価の請求金額を計算すると、金額には間接費の10%の追加料金割増が含まれます。間接費について給与計算原価とは別に顧客に請求することを合意しているため、追加料金の請求行を入力して給与計算と間接費の金額を分離します。

追加料金の請求行を定義すると、作業および売掛金の会社の情報が契約マスターに基づいて自動的に指定されます。また、追加料金請求行をタイム・アンド・マテリアル請求行とは別に表示する必要がない場合、追加料金の金額が計算されるようにすることによって、追加料金の金額をタイム・アンド・マテリアル請求行に含めることができます。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「既存の割増規則への追加料金規則の追加」、81 ページ

追加料金の契約請求行を初めて定義すると、次のメッセージが表示されますが、このメッセージは無視できます。

警告 - 相互参照が設定されていません

注意: 追加料金請求行の相互参照情報を定義するまで、「相互参照」フィールドが強調表示されます。

追加料金の相互参照

追加料金の契約請求行を設定した後、次のタスクを実行する必要があります。

- 請求行から追加料金コードへの相互参照を設定します。
追加料金コードによって、割増計算の規則が指定されます。
- 追加料金請求行から、同じ契約に対して以前に定義したタイム・アンド・マテリアルの独立請求行または間接費の従属請求行への相互参照を設定します。

請求を作成するか収益認識を生成すると、相互参照情報が使用され、追加料金割増はタイム・アンド・マテリアル請求行から分離されます。

重要: タイム・アンド・マテリアルの以前に定義した請求行について正しい相互参照を設定しないと、請求書を生成するときに追加料金とタイム・アンド・マテリアルの金額は分離されません。

ワークファイルの生成後に相互参照を変更する場合は、ワークファイルの再計算プログラム (R481202) を実行してワークファイル取引に変更を適用する必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 契約のタイム・アンド・マテリアルの請求行を定義します。

参照: 第 10 章、「独立契約請求行の定義」、「T&Mまたは原価加算の契約請求行の定義」、221ページ

- 追加料金コードの追加料金割増規則を設定します。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「追加料金規則の設定」、76ページ

追加料金の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」メニュー (G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	追加料金の請求行を定義します。
追加料金請求行相互参照の改訂	W5214A	「契約請求行詳細の改訂」フォームで追加料金請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	追加料金の相互参照を定義します。
追加料金請求行相互参照の選択	W5214B	「追加料金請求行相互参照の改訂」フォームの詳細グリッドで追加料金コードを含む行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	追加料金の相互参照先のタイム・アンド・マテリアル請求行を選択します。

追加料金の請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

請求行タイプ (画面上では 追加料金請求行の場合は、「C」または「5」を入力します。「価格」)

注意: 「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

追加料金の相互参照の定義

「追加料金請求行相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 追加料金請求行相互参照の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

連絡先No. 3 R2 00050 請求書バッチ

変更オーダー 000 行ID 300 Components 収益バッチ

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ

相互参照	追加料金コード	追加料金コード記述
<input checked="" type="checkbox"/>	SUR	追加料金
<input type="checkbox"/>		

「追加料金請求行相互参照の改訂」フォーム

追加料金の相互参照を定義するには、次の手順に従います。

1. 「追加料金コード」フィールドに入力して、請求行から追加料金コードへの相互参照を設定し、「OK」をクリックします。
「契約請求行詳細の改訂」フォームの追加料金行の「相互参照」カラムに「X」が入力されます。
2. 「追加料金請求行相互参照の改訂」フォームに再度アクセスし、追加料金請求行からタイム・アンド・マテリアルの独立請求行への相互参照を設定します。
3. 詳細グリッドで追加料金コードを含むローを選択し、「追加料金請求行相互参照の選択」フォームにアクセスします。
4. 追加料金の相互参照先のタイム・アンド・マテリアル請求行を選択し、「ロー」メニューから「請求行の選択」を選択します。
選択した請求行の「相互参照」カラムに「X」が入力されます。

適用済間接費の契約請求行の定義

この項では、適用済間接費の請求行の概要および次の方法について説明します。

- 適用済間接費の請求行の定義
- 適用済間接費の相互参照の定義
- 適用済間接費行の相互参照行の選択

適用済間接費の請求行について

適用済間接費の請求行は、追加料金の請求行と類似しています。T&Mまたは原価加算の請求行に関連付けられた適用済間接費金額を、契約の請求および収益認識の基本レコードから分離できます。また、適用済間接費請求行を使用して、T&Mまたは原価加算の請求行とは別に、間接費金額に基づいて手数料などの他の請求行を計算することもできます。

適用済間接費の請求行を設定するには、次の手順に従います。

1. 行タイプGを使用して請求行を設定します。
2. 基本レコードから分離する適用済間接費金額の間接費カテゴリを入力します。
3. 既存のT&Mまたは原価加算の請求行を選択し、適用済間接費請求行への相互参照を設定します。

適用済間接費の請求行を定義すると、作業および売掛金の会社の情報が契約マスターに基づいて自動的に指定されます。

適用済間接費の契約請求行を初めて設定すると、次のメッセージが表示されますが、このメッセージは無視できます。

警告-相互参照が設定されていません

注意: 適用済間接費請求行の相互参照情報を定義するまで、「相互参照」フィールドが強調表示されます。

注意: 以前に定義したT&Mおよび原価加算の行について正しい相互参照を設定しないと、請求書生成するときに適用済間接費とT&Mまたは原価加算の金額は分離されません。

ワークファイルの生成後に相互参照を変更する場合は、ワークファイルの再計算プログラム(R481202)を実行してワークファイル取引に変更を適用する必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 契約のT&Mおよび原価加算の請求行を定義します。

参照: 第 10 章、「独立契約請求行の定義」、「T&Mまたは原価加算の契約請求行の定義」、221ページ

- 間接費カテゴリを設定します。

適用済間接費の請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」メニュー (G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	適用済間接費の請求行を定義します。
適用済間接費請求行相互参照の改訂	W5214A	「契約請求行詳細の改訂」フォームでT&Mまたは原価加算の請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	適用済間接費の相互参照を定義します。
適用済間接費請求行相互参照の選択	W5214B	「適用済間接費請求行相互参照の改訂」フォームで既存の間接費カテゴリを選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	T&Mまたは原価加算の行を選択し、適用済間接費請求行への相互参照を設定します。 注意: 「ロー」メニューから「相互参照」を選択する前に、「適用済間接費請求行相互参照の改訂」フォームで「OK」をクリックしてから「取消」をクリックする必要があります。

適用済間接費の請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5350 R2 00050 Wet and Willy Wilderness Ride
 変更オーダー 000 - 003 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2005/04/01 記述 Original 留保規則

変更状況

レコード 1-7 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	900,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	MODEL 001	Model Development - Labor	T					
<input type="checkbox"/>	X	MODEL 002	Model Development - Materials	T					
<input type="checkbox"/>	X	ENGIN	Engineering	T					
<input type="checkbox"/>	X	PROJ	Project Management	U	150,000.00			DY	50.00
<input type="checkbox"/>	X	PROJTRAV	Project Management - Travel	T					

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

請求行タイプ(画面上では 適用済間接費請求行の場合は、「G」を入力します。
「価格」)

適用済間接費の相互参照の定義

「適用済間接費請求行相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 適用済間接費請求行相互参照の改訂

検索(I) 取消(L) ロール(R) ツール(T)

連絡先No.

500

C3

00050

請求書バッチ

7778

変更オーダー

000

行ID

.600

Applied Burdens

収益バッチ

レコード 1 - 1

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	相互参照	間接費カテゴリ	間接費カテゴリ記述
<input type="checkbox"/>			

「適用済間接費請求行相互参照の改訂」フォーム

- 1. 請求または収益認識の金額を分離する間接費カテゴリを入力します。
- 2. 「OK」をクリックします。
- 3. 「取消」をクリックします。

適用済間接費行の相互参照行の選択

「適用済間接費請求行相互参照の選択」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 適用済間接費請求行相互参照の選択 i ?

検索(I) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

連絡先No.

変更オーダー 行ID *Applied Burdens*

間接費カテゴリ 諸手当 請求書バッチ

収益バッチ

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ + - □

<input type="checkbox"/>	相互参照	契約変更番号	価格設定	所有者支払項目	記述	行番号
<input type="checkbox"/>		000	T	MODEL 001	Model Development - Labor	.200
<input type="checkbox"/>		000	T	MODEL 002	Model Development - Materials	.300
<input type="checkbox"/>		000	T	ENGIN	Engineering	.400
<input type="checkbox"/>		000	T	PROJTRAV	Project Management - Travel	.600
<input type="checkbox"/>						

「適用済間接費請求行相互参照の選択」フォーム

1. 間接費カテゴリの相互参照先の行を選択し、「ロー」メニューから「請求行の選択」を選択します。
「相互参照」フィールドに「X」が表示され、T&Mまたは原価加算の行が適用済請求行に相互参照されたことが示されます。
2. 「取消」をクリックします。

間接労務費の契約請求行の定義

この項では、間接労務費請求行の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 間接労務費の請求行の定義
- 間接労務費の相互参照の定義

間接労務費請求行について

間接労務費は、会社で人材を雇用したことによって発生する原価です。間接労務費取引を労務の請求行にリンクさせると、間接労務費の請求金額は、労務に対して設定する請求行に含まれます。

契約の請求書で個別の行として労務の請求行に含まれている間接労務費金額を表示するには、間接労務費の請求行を設定する必要があります。間接労務費の個別の請求行を設定すると、基本レコードとは異なる間接労務費請求行の特性を指定できます。

たとえば、労務の請求行を設定して給与計算原価の請求金額を計算すると、金額には会社負担の給与税の間接労務費取引が含まれます。税について給与計算原価とは別に顧客に請求することを合意しているため、間接労務費の請求行を入力して給与計算と間接費の金額を分離します。

注意: 従業員ごとに間接労務費のPDBAまたは税タイプを設定する必要があります。

間接労務費の請求行を定義すると、作業および売掛金の会社の情報が契約マスターに基づいて自動的に指定されます。

請求書で間接労務費請求行を労務請求行とは別に出力する必要がない場合は、給与計算仕訳を作成するときに間接労務費を計算することによって、間接労務費金額を労務請求行に含めることができます。

間接労務費の契約請求行を初めて定義すると、次のメッセージが表示されます。

警告 - 相互参照が設定されていません

注意: 間接労務費請求行の相互参照情報を定義するまで、「相互参照」フィールドが強調表示されます。

間接労務費の相互参照

間接労務費の契約請求行を設定した後、次の設定を行う必要があります。

- 請求行からDBAまたは税タイプへの相互参照
DBAまたは税タイプは、間接費金額を計算するために使用されます。
- 間接労務費請求行から、同じ契約に対して以前に定義した労務の独立請求行への相互参照

請求を作成するか収益認識を生成すると、相互参照情報が使用され、間接労務費は労務請求行から分離されます。

重要: 労務の以前に定義した請求行について正しい相互参照を設定しないと、請求書を生成するときに間接労務費と労務の金額は分離されません。

ワークファイルの生成後に相互参照を変更する場合は、ワークファイルの再計算プログラム(R481202)を実行してワークファイル取引に変更を適用する必要があります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 契約のタイム・アンド・マテリアルの請求行を定義します。
参照: 第 10 章、「独立契約請求行の定義」、「T&Mまたは原価加算の契約請求行の定義」、221ページ
- 間接費のDBAまたは税タイプを設定します。

間接労務費の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「日次処理」メニュー (G5210)、「契約請求行の詳細」 契約番号を入力し、「契約請求行明細の処理」フォームで「追加」をクリックします。	間接労務費の請求行を定義します。
間接労務費請求行相互参照の改訂	W5214A	「契約請求行詳細の改訂」フォームで間接費請求行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	間接労務費の相互参照を定義します。
間接労務費請求行相互参照の選択	W5214B	「間接労務費請求行相互参照の改訂」フォームの詳細グリッドで間接費のDBAまたは税タイプを含む行を選択し、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	間接労務費の相互参照先の労務請求行を選択します。

間接労務費の請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No. 5350 R2 00050 Wet and Willy Wilderness Ride
 変更オーダー 000 - 003 請求書バッチ 収益バッチ

一般 追加明細 上限 通貨

変更日付 2005/04/01 記述 Original 留保規則
 変更状況

レコード 1 - 8 グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/> 相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	900,000.00				
<input type="checkbox"/>	X	MODEL 001	Model Development - Labor	T					
<input type="checkbox"/>	X	MODEL 002	Model Development - Materials	T					
<input type="checkbox"/>	X	ENGIN	Engineering	T					
<input type="checkbox"/>	X	PROJ	Project Management	U	150,000.00			DY	50.00
<input type="checkbox"/>	X	PROJTRAV	Project Management - Travel	T					
<input type="checkbox"/>		LABOR	Labor Burden	B					
<input type="checkbox"/>									

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

請求行タイプ(画面上では 間接費請求行の場合は、「B」または「0」を入力します。「価格」)

注意: 「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

間接労務費の相互参照の定義

「間接労務費請求行相互参照の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 間接労務費請求行相互参照の改訂 i ?

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

連絡先No.	3	R2	00050	請求書バッチ	
変更オーダー	000	行ID	200	Burdens	収益バッチ

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ   

<input type="checkbox"/>	相互参照	DBAコード	税タイプ	間接費記述
<input type="checkbox"/>	X	7220		ErFlexCredit
<input type="checkbox"/>				

「間接労務費請求行相互参照の改訂」フォーム

間接労務費の相互参照を定義するには、次の手順に従います。

1. 「DBAコード」または「税タイプ」フィールドに入力して、請求行からDBAまたは税タイプへの相互参照を設定し、「OK」をクリックします。
「契約請求行詳細の改訂」フォームの間接労務費請求行の「相互参照」カラムに「X」が入力されます。
2. 「間接労務費請求行相互参照の改訂」フォームに再度アクセスし、間接労務費請求行から労務の独立請求行への相互参照を設定します。
3. 詳細グリッドで間接費のDBAまたは税タイプを含むローを選択し、「間接労務費請求行相互参照の選択」フォームにアクセスします。
4. 間接労務費の相互参照先の労務請求行を選択し、「ロー」メニューから「請求行の選択」を選択します。
選択した請求行の「相互参照」カラムに「X」が入力されます。

DBAコード

支払、控除、福利厚生または有給のタイプを定義するコードを入力します。

支払タイプには、1から999のコードが付けられています。控除および福利厚生には、1000から9999のコードが付けられています。

税タイプ

処理される給与税のタイプを指定するUDC 07/TXのコードを入力します。州最小賃金額を設定するには、このフィールドに「MW」と入力する必要があります。そのためには、最初に「MW」をUDC 07/TXに追加する必要があります。ただし、ソフトウェアで提供されているコードおよび定義は変更しないでください。

収益のみ契約請求行の定義

この項では、収益のみ契約請求行の概要、事前設定、および次の定義方法について説明します。

- 完了率の収益請求行
- 請求割合の収益請求行
- 収益請求行の相互参照

収益のみ契約請求行について

既存の請求行から収益を計算する以外に、収益のみ請求行を設定することもできます。これは、契約の収益の計算のみに使用される追加請求行です。次の2つのタイプの収益のみ請求行を定義できます。

- 完了率（請求行タイプE）
- 請求割合（請求行タイプH）

完了率請求行を使用すると、契約の予定値のパーセントで収益を認識できます。完了率行を設定する場合は、パーセントを指定し、「予定値」フィールドに金額を入力します。仕訳の生成プログラム(R48132)を実行すると、このパーセントに予定値金額が乗算されて、収益金額が計算されます。

請求割合行を使用すると、累積請求金額のパーセントで収益を認識できます。請求割合行を設定するには、パーセントを指定します。R48132プログラムを実行すると、このパーセントに累積請求金額(原価 + 手数料 + 報酬金額)が乗算されて、収益金額が計算されます。

収益のみ請求行の設定後、行の相互参照を定義する必要があります。相互参照によって、契約の収益をすでに認識している請求行が定義されるため、収益金額が増加することはありません。

収益請求行相互参照プログラム(P5217)を使用して、収益計算に含める行を指定します。これらの相互参照は、収益請求行相互参照テーブル(F5217)に格納されます。契約収益ワークファイルの生成プログラム(R52120)を実行すると、収益請求行の請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に一時レコード取引が作成されます。仕訳の生成プログラム(R48132)を実行すると、次の処理が実行されて、収益金額が計算されます。

1. 相互参照情報をF5217テーブルから取得します。
2. 収益率、予定値、収益状況と、超過行を含めるかどうかについての情報をF5202テーブルから取得します。

完了率収益行の場合、次の処理が実行されます。

1. 収益行に相互参照されている請求行の以前の収益金額をF4812およびF4812Hテーブルから取得します。
2. 超過行を含めるかどうかを判別し、適宜、超過行を含めます。
3. 完了率に予定値を乗算し、以前の収益金額を減算して、収益金額を計算します。

請求割合収益行の場合、次の処理が実行されます。

1. 収益行に相互参照されている請求行の以前に請求された金額をF4822テーブルから取得し、収益行に相互参照されている請求行の以前の収益金額をF4812およびF4812Hテーブルから取得します。
2. 超過行を含めるかどうかを判別し、適宜、超過行を含めます。
3. 完了率に請求金額を乗算し、以前の収益金額を減算して、収益金額を計算します。

関連項目:

第 13 章、「収益の認識」、293ページ

事前設定

収益請求行を定義する前に、有効な収益勘定科目を使用して次のAAIを設定する必要があります。

- BC08: 完了率行の収益勘定科目
- BC09: 請求割合の収益勘定科目

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「契約の請求AAIについて」、62ページ

収益の契約請求行の定義に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
契約請求行明細の処理	W5202A	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G5210)、 「契約請求行の詳細」 「Daily Processing-Project and Government Contract Accounting」(G5215)、 「契約請求行詳細」 	契約の既存の請求行を確認するか、「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。
契約請求行詳細の改訂	W5202B	「契約請求行明細の処理」フォームで契約番号を入力し、「検索」をクリックして、「選択」をクリックします。	収益のみ契約請求行を定義します。
収益請求行相互参照	W5217A	「契約請求行詳細の改訂」フォームで、収益請求行を入力し、「OK」をクリックして、「ロー」メニューから「相互参照」を選択します。	収益請求行の相互参照を設定します。

完了率の収益請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No.

5350

R2

00050

Wet and Willy Wilderness Ride

変更オーダー

000

-

003

請求書バッチ

収益バッチ

一般

追加明細

上限

通貨

変更日付

2005/04/01

記述

Original

留保規則

変更状況

レコード 1 - 8

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	900,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	MODEL 001	Model Development - Labor	T					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	MODEL 002	Model Development - Materials	T					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	ENGIN	Engineering	T					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	PROJ	Project Management	U	150,000.00			DY	50.00
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	PROJTRAV	Project Management - Travel	T					
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		PERCENT	Percent Complete Revenue	E	10,000.00	20.00			
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>									

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

請求行タイプ(画面上では「価格」)

請求割合収益行を定義するには「E」を入力します。
米国公共事業契約の作成/編集プログラム (P52G01M) で入力した契約の請求行を定義する場合、資金調達レベル契約で収益方式が一致していないと、警告が表示されます。

予定値

請求する予定の金額を入力します。通常は、資金調達レベル契約の資金調達金額です。

収益完了率

収益計算に使用するパーセントを入力します。収益は、このパーセントに予定値を乗算し、以前に認識されている収益を減算して計算されます。

収益適格性状況

ユーザー定義コード・テーブル52/REから値を選択し、収益生成の適格性状況を指定します。収益請求行でのみ、このフィールドに値を入力します。値は次のとおりです。

- ブランク: 収益請求行は定義行です。
 - O: 収益請求行は1回のみ発生します。
 - S: 収益請求行は保留されます。
- これらの値はハードコード化されています。

超過行を含める

超過請求行(契約限度を超える金額用に作成される行)を収益計算に含めるように指定するには、「Y」または「1」を入力します。このフラグを使用するか、収益請求行相互参照プログラム (P5217) で超過請求行を選択して、超過請求行を収益計算に含めることができます。「N」または「0」を入力した場合は、超過行は収益計算に含まれません。

注意:「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)をブランクにした場合は、勘定科目コードは項目BC08に対して設定されているAAIを使用して割り当てられます。

請求割合の収益請求行の定義

「契約請求行詳細の改訂」フォームにアクセスします。

契約請求行の詳細 - 契約請求行詳細の改訂

OK(O) 検索(I) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No.

5350

R2

00050

Wet and Willy Wilderness Ride

変更オーダー

000

-

003

請求書バッチ

収益バッチ

一般

追加明細

上限

通貨

変更日付

2005/04/01

記述

Original

留保規則

変更状況

レコード 1 - 8

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	相互参照	請求行 *	記述	価格	予定値	収益完了率	収益適格性状況	単位	数量
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	DESIGN	Design of Wilderness Ride	L	900,000.00				
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	MODEL 001	Model Development - Labor	T					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	MODEL 002	Model Development - Materials	T					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	ENGIN	Engineering	T					
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	PROJ	Project Management	U	150,000.00			DY	50.00
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	X	PROJTRAV	Project Management - Travel	T					
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		PERCENTB	Percent of Billing	H		30.00			

「契約請求行詳細の改訂」フォーム

- 請求行タイプ(画面上では「価格」)

請求割合収益行を定義するには「H」を入力します。

米国公共事業契約の作成/編集プログラム(P52G01M)で入力した契約の請求行を定義する場合、資金調達レベル契約で収益方式が一致していないと、警告が表示されます。
- 収益完了率

収益計算に使用するパーセントを入力します。収益は、このパーセントに累積請求金額を乗算し、留保金を減算して計算されます。
- 収益適格性状況

ユーザー定義コード・テーブル52/REから値を選択し、収益生成の適格性状況を指定します。収益請求行でのみ、このフィールドに値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 収益請求行は定義行です。

O: 収益請求行は1回のみ発生します。

S: 収益請求行は保留されます。

これらの値はハードコード化されています。

超過行を含める

超過請求行(契約限度を超える金額用に作成される行)を収益計算に含めるように指定するには、「Y」または「1」を入力します。このフラグを使用するか、収益請求行相互参照プログラム(P5217)で超過請求行(行タイプ X)を選択して、超過請求行を収益計算に含めることができます。「N」または「0」を入力した場合は、超過行は収益計算に含まれません。超過行を将来の収益計算に含める場合は、超過請求行を手動で相互参照する必要があります。

注意:「税率」フィールドおよび「税目コード」フィールドをブランクにすると、契約マスターの税情報が使用されます。

勘定科目コード(「ビジネスユニット」、「主科目」および「補助科目」)をブランクにした場合は、勘定科目コードは項目 BC09 に対して設定されている AAI を使用して割り当てられます。

収益のみ請求行の相互参照の定義

「収益請求行相互参照」フォームにアクセスします。

収益請求行相互参照

相互参照行追加 相互参照行削除 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

契約番号

5350

R2

00050

Wet and Willy Wilderness Ride

変更オーダー番号

000

請求行

PERCENTB

Percent of Billing

収益バッチ

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

	相互参照	変更オーダー	請求行	記述	価格設定	予定値
<input checked="" type="radio"/>		000	001	Time and Materials	T	
<input type="radio"/>		000	001	Time and Materials	T	
<input type="radio"/>		000	002	Burdens	B	
<input type="radio"/>		000	003	Components	C	
<input type="radio"/>		000	004	Fees	F	
<input type="radio"/>		000	LABOR	Internal Labor	1	
<input type="radio"/>		000	SUBC	Subcontract Labor	1	
<input type="radio"/>		000	TRAVEL	Project Travel	1	
<input type="radio"/>		000	MATERIALS	Project Materials	1	
<input type="radio"/>		000	FREIGHT	Postage and Freight	1	

「収益請求行相互参照」フォーム

適用可能なすべての請求行が表示されます。収益の計算に使用する行(既存の収益行を含む)を選択し、「相互参照行追加」ボタンをクリックします。選択した各行のレコードがF5217テーブルに追加されます。行を選択して「相互参照行削除」をクリックすると、行はF5217テーブルから削除されます。

第 12 章

ワークファイルの管理

この章では、ワークファイルの概要と次の方法について説明します。

- ワークファイルの生成
- ワークファイル取引の確認
- ワークファイル取引の改訂
- ワークファイル履歴の改訂

ワークファイルについて

請求処理では、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)、つまりワークファイルを効率的に管理することが非常に重要になります。一般的な請求処理では、ワークファイルを生成し、請求書を作成および印刷して、収益と売掛金の仕訳を記録します。

請求管理システムでは、顧客への請求、収益の認識および原価の割当を行うためにワークファイル取引を作成します。

ワークファイル取引の状況をトラッキングして請求サイクルを正確に計画するために、ワークファイル情報を確認および分析します。

この項では、次の項目について概要を説明します。

- ワークファイル取引
- ワークファイル内の親/子関係
- 適格性コード
- 順序番号
- ワークファイル履歴

ワークファイル取引

ワークファイルは、システムで顧客への請求、収益の認識および原価の割当を行うために使用される取引のリポジトリです。

ワークファイルの情報は、次のテーブルから取得されます。

- 請求管理システム固定情報(F48091)
- 請求料金/割増テーブル(F48096)
- 取引明細(F0911)
- 税決定情報(F48127)

- 従業員トランザクション履歴 (F0618)
- 従業員トランザクション明細ファイル (F06116)

注意: F48127テーブルは、契約請求処理では使用されません。

- 契約マスター (F5201)
- 契約請求行詳細 (F5202)
- T&M、単価、合計相互参照勘定科目 (F5212)

注意: F5201、F5202およびF5212テーブルは、契約請求処理でのみ使用されます。

- 間接費明細履歴 (F52G11)

注意: このテーブルは、請求固定情報プログラム (P48091) で「間接費使用」チェックボックスを選択している場合にのみ使用されます。

次の3つの方法を使用してワークファイル取引を作成できます。

テーブル作成方法	用途
ワークファイルの生成プログラム (R48120)	このバッチ・プログラムを使用して、取引明細テーブル (F0911) に保存されている請求対象仕訳レコードに基づくワークファイル取引を作成します。ワークファイルの生成プログラムを実行すると、ワークファイル取引を作成するためにF0911テーブル内のソース取引がコピーされ、正しい割増、相手勘定および税情報が適用されます。「ワークファイルの処理」フォームを使用してこれらの取引を表示します。
会計取引の選択プログラム (P48124)	この対話型プログラムを使用して、取引明細テーブル (F0911) に保存されている請求対象仕訳レコードに基づくワークファイル取引を作成します。会計取引の選択プログラムを使用すると、ワークファイル取引を作成するためにF0911テーブル内の選択したソース取引がコピーされ、正しい割増、相手勘定および税情報が適用されます。「ワークファイルの処理」フォームを使用してこれらの取引を表示します。
アドホック・ワークファイル取引	この方法を使用して、取引明細テーブル (F0911) 内に格納されないワークファイル取引を作成します。

元のソース取引の整合性を維持するために、これらの請求対象取引のコピーが作成されます。コピーされた取引がワークファイル取引として参照され、請求明細ワークファイル (F4812) に保存されます。

ワークファイル取引には、原価、その原価に該当する割増、税などのキー情報が含まれます。残りの請求処理は、ワークファイル取引に保存されている情報に基づきます。

適格性コードが0 (請求、収益、原価計算) または1 (請求のみ) のすべてのワークファイル取引には、顧客番号が含まれている必要があります。システムでは、顧客番号に基づいて取引の請求書が作成されます。取引に関連付けられている個々の作業 (ビジネスユニット)、作業オーダーまたは契約書について、顧客番号を特定する必要があります。

適格性コードが4(原価計算)または2(収益のみ)のすべてのワークファイル取引では、処理に顧客番号は不要です。

注意: サービス請求管理の取引の場合、「作業マスターの改訂」フォーム(W51006S)の「作業現場住所」フィールドではなく、「所有者住所」フィールドに顧客番号を入力します。「ビジネスユニットの改訂」フォーム(W0006A)の住所録番号は顧客番号ではありません。

給与計算トランザクション

取引明細テーブル(F0911)内の取引は、JD Edwards EnterpriseOne買掛管理、JD Edwards EnterpriseOne設備/工場管理およびJD Edwards EnterpriseOne Payrollなどの複数のソースに基づきます。ワークファイルの生成プログラム(R48120)を実行して、これらのソースの原価情報を請求管理システムに集約します。

システムで給与計算トランザクションからワークファイル取引を作成するには、給与計算トランザクションが取引明細テーブル(F0911)に存在する必要があります。取引明細テーブル内の給与計算トランザクション・レコードには、請求に必要な明細情報がすべて含まれているわけではありません。このため、請求管理システムでワークファイル取引を作成するには、JD Edwards EnterpriseOne Payrollシステムから明細情報を取得する必要があります。システムでは、取引明細テーブルの次のフィールドを使用して従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)または従業員トランザクション明細ファイル・テーブル(F06116)から追加情報を取得し、その情報に基づいてワークファイル取引を作成します。

- バッチ番号
- 勘定科目番号
- 元帳日付
- 補助元帳情報

重要: 給与計算を処理した後は、取引明細テーブルのこれらのフィールドの値を変更または削除しないでください。

間接労務費取引

間接労務費は、会社で人材を雇用したことによって発生する原価です。間接労務費には次のものがあります。

- 会社負担の給与税
- 保険料
- 賃金外給付金(組合年金など)
- 直接労務費(小型工具の費用など)

システムでワークファイル内に間接労務費取引を自動的に作成するには、システムが次の条件を満たす必要があります。

- 間接費配賦テーブル(F0724)に間接費入力を作成するには、JD Edwards EnterpriseOne Payrollのビジネスユニット間接費のフラグが設定されている必要があります。
- 間接労務費に対して損金を設定されている必要があります。
- 会社の間接費配賦規則が設定されている必要があります。
- 取引明細テーブル(F0911)の請求対象勘定科目に労務入力が転記されている必要があります。
- 取引明細テーブルの請求対象勘定科目に間接労務費仕訳レコードが転記されている必要があります。
- 請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の間接費請求フィールドが間接労務費を処理するように設定されている必要があります。

または、JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理にかぎり、間接労務費の請求行を手動で設定できます。この方法で間接労務費取引を作成すると、間接労務費の請求行と関連する労務費の請求行を別々に表示できます。

請求固定情報を使用すると、JD Edwards EnterpriseOne Payroll の間接費入力をワークファイル向けに処理するかどうかを制御できます。給与計算仕訳が作成されると、間接労務費取引が計算されます。間接労務費は、関連する労務費ワークファイル取引と組み合わせてのみ請求管理システム内で処理できます。

間接労務費取引の適格性コードは、関連する労務費ワークファイル取引の適格性コードと互換性を持つ必要があります。労務費ワークファイル取引の適格性コードは、その間接労務費ワークファイル取引の適格性コードより限定的にならないよう、システムによって制限されます。

たとえば、労務費ワークファイル取引の間接労務費取引が収益と請求の対象であっても、労務費ワークファイル取引が請求のみの対象である場合、間接費取引の適格性コードが労務費ワークファイル取引の適格性コードで一時変更されます。

給与計算では、次のタイプの間接労務費が計算されます。

間接労務費のタイプ	説明
実際間接費	給与税、保険料および賃金外給付金の実際原価です。システムでは、各従業員のタイムカードに関連付けられている実際原価に対する間接費が計算されます。
固定間接費	直接労務費から導出される間接費の見積金額です。システムでは、タイムカードごとの間接費が労務費のパーセントとして計算されます。

間接労務費取引が労務費ワークファイル取引に関連付けられている場合、「ワークファイルの処理」フォーム (W4812C) の該当するワークファイル取引の「間接労務費」フィールドに「X」と表示されます。これらのワークファイル取引を表示するには、「ロー」メニューの「間接労務費情報」オプションを使用します。

注意: 日次タイムカードの入力プログラム (P051141) を使用する場合、労務費ワークファイル取引に関連付けることができる間接労務費のタイプは固定間接費のみです。日次給与計算トランザクションを処理してワークファイルでそれぞれの原価を累計すると、元の給与計算トランザクションは請求済としてマークされます。

元の給与計算トランザクションが処理された後にそれらのトランザクションに対して新しい間接労務費取引を計算しても、その取引は取得されません。たとえば、固定間接費を逆仕訳し、元の給与計算トランザクションに対して実際間接費を計算した場合、新しい間接労務費取引は取得されません。

追加料金取引

追加料金とは、割増のタイプです。追加料金取引は、ソース取引の金額または単位に基づいて計算されます。たとえば、借入金の費用を相殺する場合に追加料金取引を作成します。

ワークファイル取引の割増金額に加えて、請求金額に基づく追加料金取引を使用して料金を適用できます。複合追加料金により、追加の割増が作成されます。その計算は、既存の追加料金の金額に基づきます。

追加料金テーブル・マスター (F4860) で追加料金計算の規則を設定します。その後、この追加料金規則を割増規則に割り当てて、システムに対して追加料金取引を作成するように指示する必要があります。

追加料金取引がワークファイル取引に関連付けられている場合、「ワークファイルの処理」フォーム (W4812C) の該当するワークファイル取引の「追加料金」フィールドに「X」と表示されます。追加料金ワークファイル取引を表示するには、「ロー」メニューの「追加料金情報」オプションを使用します。

間接費取引および遡及調整取引

間接費取引とは、賃金外給付金、一般管理費などの間接費を直接費に適用して、間接費を請求できるようにするプロセスです。間接費取引は、間接費取引の作成プログラム (R52G11) を実行して作成します。このプログラムでは、取引明細テーブルのレコードを使用して、間接費明細履歴テーブル (F52G11) にレコードを作成します。

ワークファイルの生成プログラムでは、F52G11テーブルのレコードを使用してワークファイルにデータを入力し、間接費を請求できるようにします。ワークファイルへの間接費取引の保存方法は、追加料金取引の保存方法と類似しています。「追加料金」フィールドに間接費カテゴリが入力され、追加料金連結が割り当てられ、「TC」(取引クラス) フィールドに値「0」が入力されます。間接費取引がワークファイル取引に関連付けられている場合、「ワークファイルの処理」フォームの該当するワークファイル取引の「間接費」フィールドに「X」と表示されます。間接費ワークファイル取引を表示するには、「ロー」メニューの「間接費取引の照会」オプションを使用します。

注意: 「間接費」フィールドは、「サービス請求固定情報」フォームの「間接費使用」チェックボックスが選択されている場合にのみ表示されます。

遡及調整取引は、遡及調整取引の作成プログラム (R52G31) を実行して作成します。間接費の設定を変更した後、このプログラムを実行して変更を適用し、遡及調整取引を作成します。ワークファイルに遡及調整取引を入力するには、遡及調整ワークファイルの生成プログラム (R52G41) を実行します。「取引分類」フィールドには、遡及調整取引を表す値「H」が入力されます。

ワークファイル内の親/子関係

ワークファイル取引では、次の条件下で親/子関係を共有できます。

関係	条件
ワークファイル取引と追加料金ワークファイル取引	この親/子関係は、ワークファイル取引に対して追加料金取引が作成された場合に存在します。
ワークファイル取引と間接費ワークファイル取引	この親/子関係は、ワークファイル取引に対して間接費取引が作成された場合に存在します。
労務費と間接労務費	この親/子関係は、労務費に関連付けられている間接労務費がワークファイルに保存されている場合に存在します。
間接労務費と追加料金	この親/子関係は、間接労務費取引に対して追加料金取引が作成された場合に存在します。

適格性コード

ワークファイル取引で参照される勘定科目の“請求対象”状況と、請求固定情報プログラム (P48091) で設定した「仕訳作成の制御」オプションに基づいて、ワークファイル取引に適格性コードが割り当てられます。

適格性コードでは、表示される金額およびワークファイル取引に対して行われる請求処理が指定されます。ワークファイル取引には、次の適格性コードが割り当てられます。

適格性コード	説明
0	ワークファイル取引は、請求、収益認識および原価計算処理の対象となります。
1	ワークファイル取引は、請求および原価計算処理の対象となります。
2	ワークファイル取引は、収益認識および原価計算処理の対象となります。
3	ワークファイル取引は請求対象外です。
4	ワークファイル取引は、原価計算処理のみの対象となります。
5	ワークファイル取引は、AP伝票処理のみの対象となります（サービス管理ワークファイル取引のみ）。

たとえば、勘定科目の「請求対象」フィールドが「Y」（はい：請求必要）に設定され、選択されている「仕訳作成の制御」オプションが「請求/収益 - 調整なし」の場合、適格性コードは「0」に設定されます。これは、ワークファイル取引が請求、収益認識および原価計算の対象となることを示します。「請求対象」フィールドが「Y」に設定された同じ勘定科目が請求管理システムで処理され、「仕訳作成の制御」オプションが「請求のみ」に設定されている場合、適格性コードは「1」に設定されます。これは、ワークファイル取引が請求のみを対象としていることを示します。

次の表は、適格性コードを割り当てるために使用されるシステム・ロジックを示しています。

勘定科目の検討と改訂 (P0901) - 「請求対象」フィールド	請求固定情報 (P48091) - 「仕訳作成の制御」オプション	ワークファイルの改訂 (P4812) - 「適格性コード」フィールド
N: いいえ (請求すべきではない)	該当なし	ワークファイル取引は作成されない
Y: はい (請求必要)	請求のみ	1: 請求書のみを使用可能
Y: はい (請求必要)	収益のみ	2: 収益のみを使用可能
Y: はい (請求必要)	請求/収益 - 調整なし	0: 請求/収益用に使用可能
Y: はい (請求必要)	請求/収益 - 調整なし	0: 請求/収益用に使用可能
1: 請求書作成のみ適格	請求のみ	1: 請求書のみを使用可能
1: 請求書作成のみ適格	収益のみ	ワークファイル取引は作成されない
1: 請求書作成のみ適格	請求/収益 - 調整なし	1: 請求書のみを使用可能
1: 請求書作成のみ適格	請求/収益 - 調整あり	1: 請求書のみを使用可能
2: 収益認識のみ適格	請求のみ	ワークファイル取引は作成されない
2: 収益認識のみ適格	収益のみ	2: 収益のみを使用可能

勘定科目の検討と改訂 (P0901) - 「請求対象」フィールド	請求固定情報 (P48091) - 「仕訳作成の制御」オプション	ワークファイルの改訂 (P4812) - 「適格性コード」フィールド
2: 収益認識のみ適格	請求/収益 - 調整なし	2: 収益のみに使用可能
2: 収益認識のみ適格	請求/収益 - 調整あり	2: 収益のみに使用可能
4: 原価のみ適格	請求のみ	4: 原価のみに使用可能
4: 原価のみ適格	収益のみ	4: 原価のみに使用可能
4: 原価のみ適格	請求/収益 - 調整なし	4: 原価のみに使用可能
4: 原価のみ適格	請求/収益 - 調整あり	4: 原価のみに使用可能

関連項目:

第 15 章、「JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の伝票処理」、403 ページ

順序番号

ワークファイル取引を改訂すると、監査用にワークファイル取引と新しい各改訂に順序番号が付けられます。

請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) で割増と分割の変更などの改訂を入力すると、まず請求明細ワークファイル・テーブルの元の取引が請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) にコピーされます。その後、請求明細ワークファイル・テーブルの改訂後の取引に次の順序番号が割り当てられます。

これらの順序番号を使用して、元のワークファイル取引の改訂の進行をトラッキングできます。システムでは、次の番号を使用して、ワークファイル取引が相互に関連付けられます。

番号	用途
請求制御ID (BCI)	BCI番号は、ワークファイル取引が最初に請求明細ワークファイル・テーブルに作成されたときに割り当てられます。番号は、自動採番のシステム48、インデックス2(請求制御)を使用して導出されます。ワークファイル取引のBCI番号は、ワークファイル取引を改訂しても変わりません。ワークファイル取引を分割した場合、分割後のワークファイル取引では同じBCIが共有されます。
順序No. (SBSQ)	元のワークファイル取引の順序番号は常に1です。順序番号は、ワークファイル取引を分割した場合にのみ変わります。分割後のワークファイル取引には、その連続するBCI内で次に使用可能な順序番号が割り当てられます。たとえば、ワークファイル取引を初めて分割した場合、分割後のワークファイル取引に割り当てられる順序番号は2と3です。これらのワークファイル取引の1つを分割すると、分割後のワークファイル取引に割り当てられる順序番号は4と5です。

番号	用途
親順序No.(PRSQ)	元のワークファイル取引の親順序番号は常に0です。親順序番号は、ワークファイル取引を分割した場合にのみ変わります。分割後のワークファイル取引には、親順序番号が割り当てられます。この親順序番号は常に分割対象のワークファイル取引の順序番号になります。たとえば、順序番号が1、親順序番号が0のワークファイル取引を分割すると、分割後のワークファイル取引には親順序番号1が割り当てられます。
2次順序No.(SCSQ)	元のワークファイル取引の2次順序番号は常に1です。2次順序番号では、ワークファイル取引の改訂回数がトラッキングされます。この番号を使用して、元のワークファイル取引の改訂の進行をトラッキングできます。たとえば、ワークファイル取引を3回改訂するとします。改訂対象のワークファイル取引の2次順序番号は1です。そのワークファイル取引を改訂すると、2次順序番号は2になります。さらにその取引を改訂すると、2次順序番号は3になります。ワークファイル取引を分割すると、分割後のワークファイル取引の2次順序番号は1になります。
追加料金連結番号(CLNK)	ワークファイル取引の追加料金連結番号では、親ワークファイル取引が子追加料金取引に連結されます。この番号が0の場合、該当するワークファイル取引には追加料金または間接費は存在しません。追加料金または間接費が存在するワークファイル取引を分割すると、追加料金連結番号が変わります。分割後の各親ワークファイル取引に新しい追加料金連結番号が割り当てられます。その後、この新しい追加料金連結番号がそれぞれの追加料金および間接費ワークファイル取引に割り当てられます。

ワークファイル履歴

ワークファイル取引の処理中に作成した取引の改訂すべてについて、改訂前の取引のコピーが保管されます。この監査証跡を確認して取引に対するすべての変更を調べることができます。

ワークファイル履歴を確認しながら、適格な取引を再有効化できます。取引を再有効化する場合は、その取引を履歴からアクティブなワークファイルに戻します。たとえば、間違っ取引を履歴に移動した場合は、その取引をワークファイルに戻すことができます。取引をワークファイルに戻した後、適格性コードを変更する必要があります。これで、その取引を請求書に含めることができるようになります。

ワークファイルの整合性を維持するために、請求制御ID番号および他の要素の組合せに基づいて、取引を再有効化できるかどうか判断されます。

次の取引は再有効化できません。

- 請求済の取引
- 無効になった取引
- 履歴にコピーされた最新の取引以外の取引

ワークファイルから履歴に移動されたレコードの保存には、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)が使用されます。

ワークファイルの生成

この項では、ワークファイルの生成の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- ワークファイルの生成の実行
- ワークファイルの生成 (R48120) の処理オプションの設定

ワークファイルの生成について

請求書は請求原価に基づいています。請求処理の最初のステップは、ワークファイルの生成です。請求原価は、取引明細テーブル (F0911) に保存されるソース取引によって表されます。

ワークファイルの生成プログラム (R48120) を実行してワークファイル取引を作成すると、システムで次の処理が実行されます。

- 取引明細テーブル (F0911) 内の未処理のすべてのソース取引が識別されます。
- 勘定科目マスター (F0901) の請求可能 (Y/N) フィールドの値に基づいて、各ソース取引の勘定科目が請求対象かどうか判断されます。
- 間接労務費が給与計算トランザクションに関連付けられている場合や間接費が有効化されている場合など、固定情報およびソース取引が追加情報の必要性を示している場合は、関連するテーブルが使用されます。
- 取引明細テーブル内のソース取引が処理済または請求対象外として更新されます (請求コード・フィールドが「Z」または「N」になります)。
- コメントのチェック・コード・フィールド (CMMT) にある、給与計算関連のすべてのソース取引について、従業員トランザクション履歴テーブル (F0618) および従業員トランザクション明細ファイル・テーブル (F06116) が更新されます。
- 割増金額および税額が計算されます。
- 請求明細ワークファイル (F4812) にソース取引のコピーが作成されます。
- 請求固定情報の「仕訳作成の制御」オプションおよび勘定科目マスターの請求可能 (Y/N) フィールドに基づいて、コピーされた取引に適切な適格性コードが割り当てられます。
- 契約情報が割り当てられます (契約請求管理のみ)。
- ワークファイルに作成されなかった請求対象取引の一覧を示すレポートが作成されます。

ソース取引が請求ワークファイルに作成されたことを示すために、取引明細テーブル内のソース取引が「N」(勘定科目が請求対象外の場合) または「Z」(勘定科目が請求対象で、請求管理システムによって処理された場合) でマークされます。ワークファイルの生成プログラムを次回実行したときには、以前に含まれていないソース取引についてのみワークファイル取引が作成されます。

ワークファイルの生成の多通貨処理

「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションが選択されている場合、ワークファイルの生成プログラム (R48120) では多通貨が処理されます。ワークファイルの改訂プログラム (P4812) で「元帳取引の選択」を選択した場合は、多通貨処理の設定またはデータ選択を変更する必要はありません。多通貨処理の変更は、請求固定情報プログラム (P48091)、請求料金/割増テーブルおよび相手勘定/留保金テーブル (サービス請求管理の場合) または契約マスターの改訂プログラム (P5201) (契約請求管理の場合) によって決まります。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求料金/割増規則の設定」、49ページ

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求料金/割増規則の検索について」、44ページ

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ワークファイルの生成プログラム (R48120) を実行する前に、次の情報が設定されていることを確認します。
 - 住所録マスター (F0101) 内の各顧客の住所情報
 - 顧客マスター (F0301) 内の各顧客のマスター情報
 - 多通貨 (請求書を複数の通貨を使用して処理する場合)
 - 参照: JD Edwards EnterpriseOne 多通貨処理 9.0 製品ガイド、「多通貨処理の一般会計の設定」
 - ビジネスユニット・マスター (F0006) 内の各作業 (ビジネスユニット) のマスター情報
- サービス請求管理の取引の場合、請求対象の作業オーダーまたは作業 (ビジネスユニット) の顧客番号が定義済であることを確認します。
- 契約請求処理の場合、顧客番号がプロジェクトに割当済であることを確認します (契約の顧客を自動的に取得する場合)。
- 勘定科目表にすべての請求対象勘定科目を定義します。
- 請求固定情報が設定されていることを確認します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16ページ

- 請求料金/割増テーブル (F48096) で規則を定義します。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求料金/割増規則の設定」、49ページ

- サービス請求管理の取引の場合、相手勘定/留保金情報テーブル (F48128) で規則を定義します。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の相手勘定/留保金規則の設定」、57ページ

- サービス請求管理の取引の場合、税決定情報テーブル (F48127) で規則を定義します。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「税決定規則の設定」、55ページ

- 契約請求処理の場合、契約に T&M 請求行の相互参照が設定されていることを確認します。

ワークファイルの生成の実行

サービス請求管理の場合、「日次処理」(G48S11) の「ワークファイルの生成」を選択します。

契約請求管理の場合、「ワークファイルの処理」(G5211) の「ワークファイルの生成」を選択します。

ワークファイルの生成 (R48120) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、給与計算設備レコードの所属ビジネスユニットのソースを指定できます。処理オプションを空白にして資産マスターを指定しても資産IDが見つからない場合は、給与計算レコードの所属ビジネスユニットがシステムによって選択されます。

- | | |
|--------------------------|--|
| 1. 給与計算所属ビジネスユニット | 給与計算設備レコードの所属ビジネスユニットのソースとして、給与計算マスターを使用する場合は「1」を入力し、資産マスターを使用する場合は空白にします。 |
|--------------------------|--|

処理

この処理オプションでは、総額請求行および単価請求行の収益を生成するために使用する収益ワークファイルの生成プログラム (R52120) のバージョンを指定できます。

この処理オプションは契約請求管理にのみ適用されます。

- | | |
|---|--|
| 1. 契約収益生成のバージョン - (R52120) | 契約の非タイム・アンド・マテリアル請求行の収益を生成するために実行する契約収益ワークファイルの生成プログラム (R52120) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、非タイム・アンド・マテリアル請求行のワークファイル収益取引は作成されません。 |
| 2. 遡及調整ワークファイルの生成 (R52G41) バージョン | 実行する遡及調整ワークファイル生成プログラム (R52G41) のバージョンを指定します。このプログラムでは、遡及調整取引が生成されます。この処理オプションを空白にすると、遡及調整取引は作成されません。 |

ワークファイル取引の確認

この項では、潜在的なワークファイル・エラーの概要および次の方法について説明します。

- 取引合計の確認
- 間接労務費取引の確認
- 追加料金取引の確認
- 間接費取引および遡及調整取引の確認

潜在的なワークファイル・エラーについて

ワークファイルを生成した後で、関連するワークファイル取引を確認して、ソース取引から取得された情報が正しいことを検証できます。ソース取引とは、取引明細テーブル (F0911) に保存されている取引です。システムでは、一部のソース取引を処理するために、入力元システムからの他の情報が必要になることもあります。

請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) で取引を確認するときには、次のような潜在的な問題を探してください。

- 不適切な作業オーダーまたは作業に対して請求される給与計算トランザクション
- 不適切な割増金額 (ワークファイル取引を作成してから割増テーブルが変更された場合)
- 不適切な契約情報 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のみ)

ワークファイルの生成(R48120)またはワークファイルの再計算(R481202)バッチ・プログラムを実行したときにシステムでこれらのエラーが検出されると、ワークファイル取引が更新され、「保留コード」フィールドが「E」になります。

ワークファイルの生成レポート(R48120)に次のメッセージが出力されます。

エラー	原因	解決方法
顧客が見つかりません	ワークファイル取引に割り当てられているビジネスユニットまたは作業オーダーの顧客番号が見つかりませんでした。	次のいずれかの処理を実行します。 1)ビジネスユニットまたは作業オーダーに顧客番号を追加します。顧客番号を再適用するために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。 2)ビジネスユニットまたは作業オーダーを顧客番号が割り当てられているものに変更します。顧客番号を再適用するために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。 3)請求固定情報プログラム(P48091)の「顧客番号基準」オプションを変更して、ビジネスユニットまたは作業オーダーから顧客番号が正しく取得されるようにします。顧客番号をワークファイル取引に再適用するために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。
顧客マスターに情報がありません	ワークファイル取引に割り当てられている顧客番号が顧客マスター(F0301)に設定されていません。	顧客マスター(F0301)に顧客番号を追加します。この変更を有効にするために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。
作業オーダー番号が無効です	ワークファイル取引に割り当てられている作業オーダー番号が作業オーダー・マスター・ファイル・テーブル(F4801)に現在、存在しません。	作業オーダー・マスター・ファイル・テーブルに作業オーダー番号を入力するか、またはワークファイル取引に割り当てられている作業オーダーを変更します。これらの変更を有効にするために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。

エラー	原因	解決方法
請求不可の作業オーダー	ワークファイル取引に割り当てられている作業オーダー番号が請求対象外として識別されています。ユーザー定義コード(UDC)テーブル00/SSの2番目の説明の値を使用して、作業オーダーが請求対象かどうか判断されます。作業オーダーを請求対象外として識別するには、作業オーダー状況値の2番目の説明の2番目の位置に値「X」を入力します。	次のいずれかの処理を実行します。 1) 作業オーダー・マスター・ファイル・テーブル(F4801)で作業オーダーの状況を変更します。この変更を有効にするために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。 2) UDC 00/SSの対象の作業オーダー状況コードの2番目の説明から「X」を削除します。この変更を有効にするために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。他の部門では作業オーダー・マスター・ファイル・テーブルを使用している可能性があるため、この変更を行う前にシステム管理者に確認してください。 3) ワークファイル取引に割り当てられている作業オーダー番号を変更します。この変更を有効にするために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。
補助元帳無効	ワークファイル取引に割り当てられている作業オーダー番号が現在無効として識別されています。このエラーは、作業オーダー・マスター・ファイル・テーブルの補助元帳無効フィールド(WASBLI)の値に基づいて割り当てられます。UDCテーブル00/SIIにこれらの値を設定しています。	ワークファイル取引に割り当てられている作業オーダーについて作業オーダー・マスター・ファイル・テーブルの補助元帳無効フィールドの値を変更するか、またはワークファイル取引に割り当てられている作業オーダー番号を変更します。これらの変更を有効にするために、ワークファイル取引を再計算する必要があります。

多通貨環境で作業している場合は、国内通貨または外貨でワークファイルを確認できます。

ワークファイル取引を確認するときには、次のフォームにアクセスできます。

- 間接費情報
- 間接費取引の照会
- 追加料金取引照会
- ソース伝票情報
- 作業/金額の改訂
- 内部統制情報
- テーブル情報

ワークファイル取引の確認に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ワークファイルの処理	W4812C	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G48S11)、「ワークファイルの改訂」 「ワークファイルの処理」(G5211)、「ワークファイルの改訂」 	請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の取引を確認します。特定のワークファイル取引を確認して会計および請求情報を検証し、ワークファイル取引が課税対象かどうかを判断できます。
ワークファイル履歴の照会	W48208A	「ワークファイルの処理」フォームでワークファイル取引を選択し、「ロー」メニューから「取引照会」を選択します。	ワークファイル取引の処理中に作成した取引の改訂すべてについて、改訂前の取引のコピーが保管されます。この監査証跡を確認することによって、取引に対して加えたすべての変更を調べることができます。ワークファイル取引の改訂履歴は、元のワークファイル取引に対する最新の改訂を先頭として表示されます。
間接費情報	W4824B	「ワークファイルの処理」フォームで間接費を含む取引を選択し、「ロー」メニューから「間接労務費情報」を選択します。「ワークファイルの処理」フォームでは、間接労務費取引は「間接労務費」フィールドに「X」付きで示されます。	間接労務費情報を確認します。
追加料金取引照会	W4812H	「ワークファイルの処理」フォームで追加料金を含む取引を選択し、「ロー」メニューから「追加料金情報」を選択します。「ワークファイルの処理」フォームでは、追加料金取引は「追加料金」フィールドに「X」付きで示されます。	追加料金情報を確認します。
間接費取引の照会	W48S14A	「ワークファイルの処理」フォームで間接費取引を選択し、「ロー」メニューから「間接費取引の照会」を選択します。「ワークファイルの処理」フォームでは、間接費取引は「間接費」フィールドに「X」付きで示されます。	間接費取引および遡及調整取引を確認します。

取引合計の確認

「ワークファイルの処理」フォームにアクセスします。

取引合計を確認するには、次の手順に従います。

1. 見出し領域の任意のフィールドに値を入力し、「検索」をクリックしてワークファイル取引を検索します。

注意: 例示照会プログラム (QBE) ローを使用してワークファイル取引を検索すると、合計情報を正確に出力できません。

2. 「フォーム」メニューから「合計」を選択してレポートを実行します。
「レポート出力先」フォームが表示されます。
3. 適切な出力先オプションを選択し、「OK」をクリックします。
4. レポートで次の国内通貨金額と外貨金額を確認します。

- 収益
- 請求
- 原価

金額は、適格性コードの設定に基づいて出力されます。

間接労務費取引の確認

「間接費情報」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - 間接費情報

OK(O) 検索(I) 取消(L) ロー(R) ツール(T)

従業員No. 5651 Rothchild, Abigail E.

トランザクション番号 1628

レコード 1 - 6

グリッドのカスタマイズ

	追加料金	Burdening	適格性 コード	PDCA コード	税 タイプ	備考	基本 通貨	原価 金額	原価 (含追加料金)	請求書 金額
<input checked="" type="radio"/>	X		0		C	FUI Paid	USD	.09	.11	
<input type="radio"/>	X		0		E	FICA Paid	USD	69.16	82.99	
<input type="radio"/>	X		0		H	SUI Paid	USD	.14	.17	
<input type="radio"/>	X		0		Q	Medicare Paid	USD	16.17	19.40	
<input type="radio"/>	X		0		Y	General Liab.	USD	2.12	2.54	
<input type="radio"/>	X		0	7220		ErFlexCredit	USD	16.00	19.20	

「間接費情報」フォーム

従業員No. 住所録システムで、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、ロケーションなどの項目を識別する番号が表示されます。

トランザクション番号 給与計算トランザクションを一意に識別するためにこの番号が割り当てられます。このフィールドに基づいて、実際間接費仕訳処理時に作成される実際間接費の各監査レコードに給与計算トランザクションが関連付けられます。

PDBAコード（支払タイプ、控除、福利厚生および有給コード）

支払、控除、福利厚生または有給のタイプを定義するコードが表示されます。

支払タイプには、1から999のコードが付けられています。控除および福利厚生には、1000から9999のコードが付けられています。

税タイプ

対象のワークファイル取引に関連付けられている給与税のタイプを識別するUDC (07/TT) の値が表示されます。

追加料金取引の確認

「追加料金取引照会」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - 追加料金取引照会

取消(L) ツール(D)

☒ 外貨

追加料金連結: 3085

原価テーブル: SUR

請求書テーブル: SUR

収益テーブル: SUR

ベース原価: 1,727.49

ベース数量: 40.00

ベース課税請求額: 1,727.49

ベース請求額合計: 1,853.60

ベース収益合計: 1,727.49

レコード 1-1

追加料金コード	備考	基本通貨	原価金額	請求書金額	収益金額	請求通貨	外貨建原価金額
SUR	Surcharge	USD	223.08	239.36	223.08	CAD	

「追加料金取引照会」フォーム

追加料金連結

追加料金レコードを基本ワークファイル・レコードに添付するコードが表示されます。

原価テーブル

請求料金/割増テーブル (F48096) の対象の項目に使用される追加料金原価レート・テーブルを識別するコードが表示されます。追加料金テーブルによって、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金の金額は、取得価額への間接費として適用されます。「追加料金テーブルの改訂」フォームで追加料金テーブルを設定します。

請求書テーブル

請求料金/割増テーブルの対象の項目に使用される追加料金テーブルを指定するコードが表示されます。追加料金テーブルによって、追加料金とその計算規則が識別されます。これらの追加料金の金額は、請求割増に加えて請求されます。追加料金テーブルは、追加料金テーブル・プログラム (P4860) を使用して設定します。

ベース原価

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額が表示されます。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。

ベース数量

単位により識別されるものの数量が表示されます。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などの数値にすることができます。

ベース課税請求額

請求金額のうち、課税対象となる金額を示します。

追加料金コード

請求明細取引レベルで計上される暫定間接費が識別されます。

原価金額

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を指定します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて示されます。

請求書金額

請求明細取引の請求金額を表示します。

間接費取引および遡及調整取引の確認

「間接費取引の照会」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - 間接費取引の照会

取消 ツール

外貨

追加料金連結

3100

課税対象基本請求書

165.00

基準原価

150.00

基本合計請求書

165.00

基本単位

基本収益

165.00

レコード 1 - 4

グリッドのカスタマイズ

間接費カテゴリ	間接費カテゴリ記述	基本通貨	原価金額	代替原価	請求書金額	収益金額	請求通貨	外貨建て原価金額
<input checked="" type="radio"/> FR	諸手当	USD	15.00	15.75	16.50	17.33	USD	
<input type="radio"/> OV	間接費	USD	182.33	182.33	200.56	200.56	USD	
<input type="radio"/> MH	材料取換	USD	6.00	6.75	6.60	7.43	USD	
<input type="radio"/> GA	一般管理費	USD	.42	.49	.46	.54	USD	

「間接費取引の照会」フォーム

- 追加料金連結

間接費レコードを基本ワークファイル・レコードに添付するコードが表示されます。
- 基準原価

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を指定します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。
- 基本単位

単位により識別されるものの数量を示します。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などの数値にすることができます。
- 課税対象基本請求書

請求金額のうち、課税対象となる金額が表示されます。
- 原価金額

関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を指定します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて示されます。
間接費取引の原価は、請求固定情報の原価に対して指定する間接費レート・タイプに関連付けられているレートに、対応するソース取引の原価金額を乗算することで計算されます。
- 代替原価

請求固定情報の代替原価に対して指定する間接費レート・タイプに関連付けられているレートに、対応するソース取引の原価金額を乗算することで計算される間接費取引の代替原価が表示されます。
- 請求書金額

請求明細取引の請求金額を表示します。
- 収益金額

請求明細取引の収益金額が表示されます。

注意: 間接費取引が適用される基本取引に割増テーブルを適用している場合、請求および収益金額はゼロです。割増テーブルを適用していない場合、これらのフィールドに間接費明細履歴テーブル (F52G11) の金額が入力されます。

ワークファイル取引の改訂

この項では、ワークファイル取引の改訂、および間接費取引と遡及調整取引のワークファイルの改訂の概要と、次の方法について説明します。

- 既存の総勘定元帳取引のワークファイルへの追加
- ワークファイル取引の割増の変更
- アドホック・ワークファイル取引の入力
- ワークファイル取引への保留状態の割当
- 非T&M収益ワークファイル取引の改訂
- ワークファイル取引の分割
- ワークファイルの再計算プログラムの実行
- ワークファイルの再計算(R481202)の処理オプションの設定

ワークファイル取引の改訂について

請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)内の取引は、請求処理の基準として使用されます。請求処理を続行する前に、ワークファイル取引に対して必要な追加と改訂を行う必要があります。ワークファイル取引に加えた変更は、ワークファイル内の情報にのみ影響します。変更は、取引明細テーブル(F0911)のソース取引には影響しません。

注意: サービス請求管理の場合、ワークファイル内のサービス管理取引は変更または削除できません。サービス管理取引は、JD Edwards EnterpriseOne 売掛管理システムを使用して処理し、サービス管理システムで調整する必要があります。

ワークファイルの改訂内容としては、次のものがあります。

- 請求書に出力する情報テキストを追加します。
- ワークファイルの生成プログラム(R48120)を再度実行することなく、ワークファイルから除外された総勘定元帳取引を追加します。
- 勘定科目コードや作業オーダー番号などの情報を修正します。
- 取引明細テーブル(F0911)に最初取引を入力することなく、直接ワークファイルに取引を追加します。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne 買掛管理システムで処理されなかった経費精算書用の取引を追加できます。
- アクティブなワークファイルのワークファイル取引を請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)に移動して、そのワークファイル取引が請求書に含まれないようにします。

注意: 請求固定情報プログラム(P48091)の「収益額と請求額の不一致可」および「収益額と請求額が不一致の場合に使用する会社例外」チェックボックスの設定内容に応じて、取引の「収益合計」フィールドが無効化または有効化されます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「収益額と請求額の不一致可について」、17 ページ

改訂後のワークファイル取引はF4812テーブルに残ります。監査用として、F4812Hテーブルを変更する前に取引のコピーが保持されます。

ワークファイルの改訂の多通貨処理

ワークファイルの改訂プログラム(P4812)では、「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」フィールドの値が「Y」または「Z」の場合、初期明細表示で国内通貨金額と外貨金額の両方を使用した検査が可能です。

「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」フィールドの値が「N」の場合、国内通貨金額のみが表示されます。

注意: 作業および顧客で同じ通貨コードを使用している場合、請求固定情報のモードの設定内容にかかわらず、モードは請求処理全体で国内通貨とみなされます。「ワークファイルの処理」フォームの詳細グリッドには国内通貨金額のみが表示されます。外貨金額はブランクです。

「ワークファイルの処理」フォームで取引を選択すると、「作業/金額の改訂」フォームは、請求固定情報に基づいて、更新されたレコードのモード、つまりサービス請求管理の場合は相手勘定/留保金テーブルのモード、契約請求管理の場合は契約マスターの改訂プログラム(P5201)のモードになります。その後、「外貨」オプションを選択して、代替モード(外貨または国内通貨)を表示できます。なお、「請求書割増%」フィールドには、固定通貨の割増金額のみが表示されます。金額フィールドは、取引のモードでのみ変更可能です。原価フィールドは、どちらの通貨でも更新できません。

非固定モードでは、割増金額は表示されません。また、金額フィールドもすべて変更できません。

ワークファイルへの総勘定元帳取引の追加

ワークファイルの生成プログラム(R48120)を実行しなくても、取引明細テーブル(F0911)内の取引を請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に追加できます。たとえば、ワークファイルの生成プログラムに含まれていなかった仕訳レコードを処理できます。また、ワークファイルの生成プログラムを実行した後で取引明細テーブルに入力された仕訳レコードを処理することもできます。

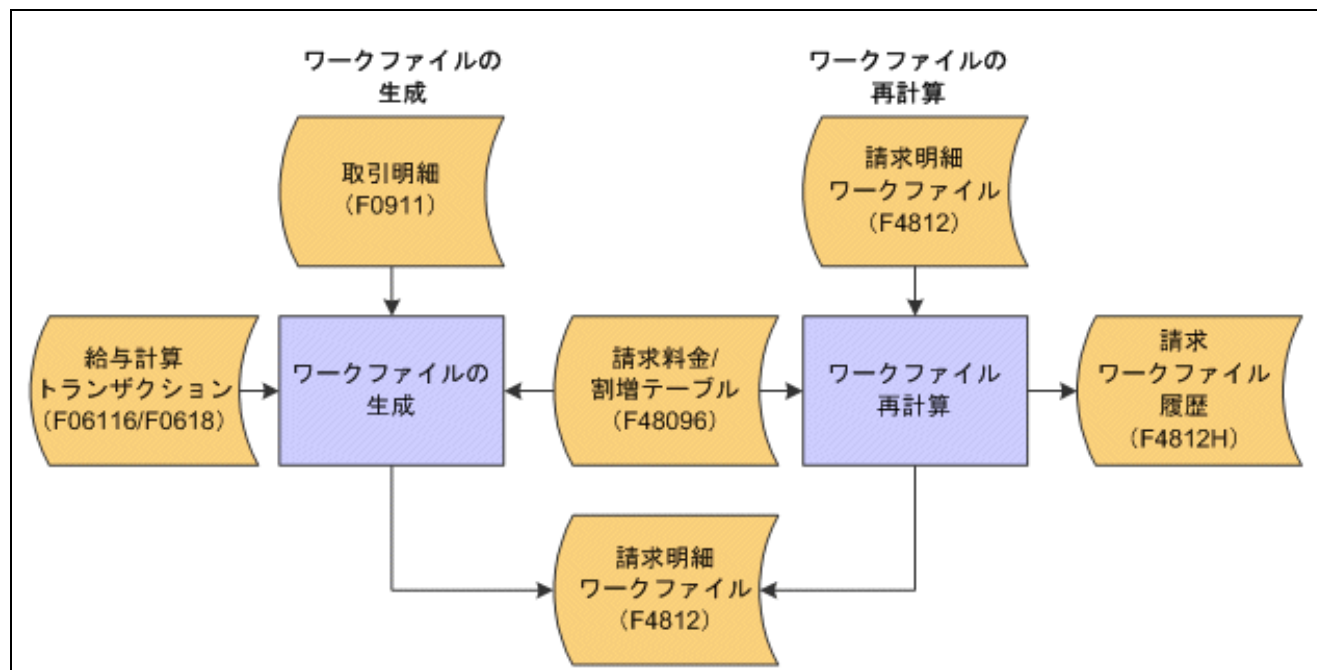
ワークファイルに取引を追加すると、選択した仕訳レコードに対してワークファイルの生成プログラムが対話形式で実行されます。これにより、取引明細テーブルが更新され、取引が処理済として示されます。請求対象の仕訳レコードがJD Edwards EnterpriseOne Payrollシステムで作成されたものである場合は、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)または従業員トランザクション明細ファイル・テーブル(F06116)が更新されます。また、割増、税が適用される以外に、サービス請求管理の場合は請求テーブルから取得された相手勘定情報も適用されます。

ワークファイル取引の割増の変更

ワークファイル取引の割増は、間接費と利益を計上するための、原価に対する増加分です。請求料金/割増テーブル(F48096)で割増規則を定義します。ワークファイルの生成を実行すると、割増規則に基づいてワークファイル取引に割増が適用されます。ワークファイルを生成した後で割増情報を変更することもできます。

請求料金/割増テーブルを変更した後で、改訂した割増情報をワークファイル取引に適用したり、請求料金/割増テーブルでシステムに対して初めに定義した割増規則を再適用できます。改訂した割増情報を適用するには、取引を再計算する必要があります。

次の図は、ワークファイルの生成時とワークファイルの再計算時に割増規則がどのように適用されるかを示しています。



ワークファイルの生成とワークファイルの再計算

アドホック・ワークファイル取引

会計サイクルの間に原価情報を入力しないと、ワークファイルの生成プログラム（R48120）の実行時に取引は使用できません。会計サイクルの間に処理されない原価については、必要に応じてワークファイルに取引を手動で追加できます。ワークファイルに手動で入力する取引は、アドホック取引と呼ばれます。

たとえば、会計部門では、毎月15日に経費清算書进行处理します。監督者の経費には、月の5日までにワークファイルに含める必要がある請求原価が含まれます。この場合、ワークファイルにアドホック取引として原価を入力します。アドホック取引は、取引明細テーブル（F0911）に存在しない原価情報を表すために作成され、通常の会計サイクルとは無関係です。ワークファイルにアドホック取引を入力した後で、原価を割増、備考を入力して、請求処理を完了できます。

ワークファイルにアドホック取引を入力すると、次の状況が発生します。

- 取引を裏付けるソース伝票は存在しません。
- 取引明細とワークファイルの原価の明細情報に矛盾が生じます。

重要: アドホック取引を入力し、通常の会計および請求サイクルに関連するソース取引を処理すると、ワークファイルに重複する取引が作成されます。これを回避するために、重複するワークファイル取引の適格性コードを「請求不可」に手動で変更し、それをワークファイルから削除する必要があります。

ワークファイルから重複するワークファイル取引を削除しないと、その取引は「ワークファイルの処理」フォームに引き続き表示されます。取引の適格性コードが「請求対象」に戻ると、その取引を間違って請求することがあります。

ワークファイル取引の保留

ワークファイル取引を処理する準備が整っていない場合は、その取引を保留にできます。取引を無期限に保留することも、リリース日付を指定することもできます。ワークファイル取引を保留にすると、その取引は請求明細ワークファイル・テーブル（F4812）に残りますが、リリース日付まで処理されなくなります。システムでは、リリース日付とシステム日付を比較することによって、その取引を通常の請求処理に含めることができるタイミングが決定されます。

「ワークファイルの処理」フォームで複数のローを選択することで、複数のワークファイル取引を保留にできます。「保留コード/リリース日付の改訂」フォームが表示され、選択したワークファイル取引の保留コードとリリース日付を入力できます。選択したすべてのワークファイル取引が、指定した保留コードとリリース日付で更新されます。

非T&M収益ワークファイル取引の改訂

収益ワークファイルの生成プログラム(R52120)を単独で実行するか、ワークファイルの生成プログラム(R48120)と組み合わせて実行して、契約請求処理の収益を生成すると、ワークファイルに総額と単価のレコードが追加されます。これらの非T&M収益ワークファイル取引の適格性コード、保留コードおよびリリース日付を改訂できます。また、適格性コードが3(請求不可)の非T&M収益ワークファイル取引を削除することもできます。

収益仕訳作成バッチに含まれている非T&M収益ワークファイル取引は、「ワークファイルの処理」フォームで「R」(収益バッチが存在)フィールドに「X」付きで表示されます。収益レコードが請求書バッチに含まれている場合、「ワークファイルの処理」フォームにそのレコードは表示されません。

次の表は、非T&M収益ワークファイル取引に対して許容されている適格性コードの変更を示しています。

適格性コード	仕訳作成の固定情報	許容されている適格性コードの変更
0: 請求および収益	請求/収益 - 調整あり	3: 請求不可
2: 収益	収益 請求/収益 - 調整なし	3: 請求不可
3: 請求不可	収益 請求/収益 - 調整なし	2: 収益
3: 請求不可	請求/収益 - 調整あり	0: 請求および収益

ワークファイル取引の分割

ワークファイルを生成した後で、ワークファイル取引を2つの新しいワークファイル取引に分割できます。取引は、特定の通貨金額、単価またはパーセントで分割できます。

取引を分割して、新しい取引の1つを請求用に処理し、その他は処理しないようにできます。たとえば、従業員が残業すると、通常の時給の2倍が支払われます。従業員の時間を通常の時給で請求する必要がある場合は、ワークファイル取引を2つの均等の部分に分割できます。一方を請求対象にし、もう一方を請求不可にできます。

分割の基準として単価を使用するか金額を使用するかを指定できます。また、分割計算を実行する場合に、金額を使用するか、またはパーセントを使用するかを指定することもできます。

関連する間接費を含む給与計算トランザクションの分割、および間接費取引の分割はできません。

ワークファイル取引を分割すると、次の処理が実行されます。

- 2つの新しい取引が表示されます。
新しい取引の合計金額と単価は、変更前の取引のものと変わりません。
- 監査用として、変更前のワークファイル取引のコピーが請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)に移動されます。
- 関連するすべてのワークファイル取引の順序番号が更新されます。

「請求制御ID」フィールド(BCI)の値は、変更後のワークファイル取引のものと変わりません。このワークファイル取引の「内部統制情報」フォームで順序番号と請求制御IDを確認できます。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「順序番号」、259ページ

- 関連する追加料金ワークファイル取引が分割されます。

保留コードが設定されたワークファイル取引を分割すると、その保留コードとリリース日付情報が分割後の新しい取引に割り当てられます。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイル取引への保留状態の割当」、283ページ

ワークファイル取引の再計算

特定の一時変更または定義した情報に基づいて、取引に対する割増や他の情報を変更または再適用する場合は、取引を再計算します。

ワークファイル取引に加えた改訂を適用するには、ワークファイルの再計算プログラム(R481202)を使用します。

間接費取引と遡及調整取引のワークファイルの改訂について

間接費取引と遡及調整取引を改訂する場合は、次の規則が適用されます。

- システムには追加料金などの間接費取引が保存されるため、ワークファイルで間接費取引を直接変更することはできません。
- 間接費取引は分割できますが、遡及調整取引は分割できません。
遡及調整取引の基本レコードには金額は含まれないため、分割できる金額はありません。
- 間接費取引を分割する場合は、丸めの問題を回避するために、最初の分割の基本レコードのパーセントを基準として間接費レコードが分割され、2番目の間接費レコードに対しては残りの金額が使用されます。
- 間接費取引と遡及調整取引の両方を再計算できます。たとえば、契約マスター、請求行、割増テーブル情報などの基本レコードの情報を変更した場合は、間接費取引と遡及調整取引を再計算できます。また、これらの変更はワークファイルに反映されます。
- 再計算を実行することによって、間接費取引と遡及調整取引を更新して間接費の設定を変更することはできません。間接費の設定(間接費レートなど)を変更する場合は、遡及調整を実行してから、遡及調整ワークファイルの生成プログラム(R52G41)を実行してワークファイルに遡及調整取引を入力する必要があります。

ワークファイル取引の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
ワークファイルの処理	W4812C	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G48S11)、「ワークファイルの改訂」 「ワークファイルの処理」(G5211)、「ワークファイルの改訂」 	既存のワークファイル取引の確認や、選択を行います。
会計取引の選択	W48124A	「ワークファイルの処理」フォームで「フォーム」メニューから「元帳取引の選択」を選択します。	既存の総勘定元帳取引をワークファイルに追加します。
作業/金額の改訂	W4812D	「ワークファイルの処理」フォームでワークファイル取引を選択して「選択」をクリックします。	請求金額または収益金額の割増を変更し、非T&M収益取引の適格性コードを変更し、保留コードとリリース日付を変更します。
テーブル情報	W4812F	「作業/金額の改訂」フォームで「フォーム」メニューから「テーブル情報」を選択します。	ワークファイル取引の割増および税情報の情報源を確認します。
ワークファイルの入力	W4812A	「ワークファイルの処理」フォームで、「追加」をクリックします。	アドホック・ワークファイル取引を入力します。
取引の再適用	W4812B	「ワークファイルの処理」フォームでワークファイル取引を選択し、「ロー」メニューから「取引の再計算」を選択します。	選択した1つ以上のワークファイル取引を再計算します。
保留コード/リリース日付の改訂	W48S13A	「ワークファイルの処理」フォームで1つ以上の取引を選択し、「ロー」メニューから「保留/リリース取引」を選択します。	ワークファイル取引に保留状態を割り当てるか、ワークファイル取引の保留をリリースします。
ワークファイル分割基準	W48125B	「ワークファイルの処理」フォームでワークファイル取引を選択し、「ロー」メニューから「取引の分割」を選択します。	ワークファイル取引を2つの新しいワークファイル取引に分割します。
ワークファイル分割金額	W48125C	「ワークファイル分割基準」フォームで「計算プレビュー/分割実行」ボタンをクリックします。	分割計算の結果を確認します。

ワークファイルへの既存の総勘定元帳取引の追加

「会計取引の選択」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - 会計取引の選択

検索① 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

取引の選択

勘定科目コード 6100 * * 開始元帳日付 * *

補助元帳タイプ * * 終了元帳日付 * *

給与計算マスター設備レコード用所属ビジネスユニット

☒ 固定資産マスター(デフォルト) ☐ 給与計算

レコード 1 - 10 > <

グリッドのカスタマイズ

	勘定科目No.	元帳日付	摘要名称	配賦値	通貨コード	伝票No.	伝票タイプ	補助元帳タイプ	補助元帳	補助元
<input type="checkbox"/>	6100.1341	2005/04/30	Payroll Labor Distribution	54.00	USD	11	T2			
<input type="checkbox"/>	6100.1341	2005/06/25	Payroll Labor Distribution	4,073.67	USD	98	T2	W	00065023	
<input type="checkbox"/>	6100.1341	2005/07/09	Payroll Labor Distribution	3,971.40	USD	92	T2	W	00065042	
<input type="checkbox"/>	6100.1342	2005/07/09	Payroll Labor Distribution	196.88	USD	92	T2	W	00065042	
<input type="checkbox"/>	6100.8115	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	514.00	USD	5	T2	W	00065023	
<input type="checkbox"/>	6100.8115	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	173.08	USD	5	T2	W	00065040	
<input type="checkbox"/>	6100.8116	2005/04/30	Payroll Labor Distribution	301.88	USD	7	T2	W	00065017	
<input type="checkbox"/>	6100.8116	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	153.75	USD	5	T2	W	00065023	
<input type="checkbox"/>	6100.8116	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	97.36	USD	5	T2	W	00065040	
<input type="checkbox"/>	6100.8455	2005/05/31	Dinner Incorporated	300.00	USD	3106	PV	W	00065017	

「会計取引の選択」フォーム

ワークファイルに既存の総勘定元帳取引を追加するには、次の手順に従います。

1. 「取引の選択」グループ・ボックスの1つ以上のフィールドに値を入力して、取引の一覧を制限します。
「ワークファイルの処理」フォームでこれらのフィールドに値を入力している場合は、その情報が自動的に入力されます。
2. 給与計算設備レコードに使用する所属ビジネスユニットを指定するには、「固定資産マスター(デフォルト)」オプションまたは「給与計算」オプションを選択します。
3. ワークファイルに追加する各取引を選択し、「ロー」メニューから「選択」を選択します。

サービス請求固定情報プログラム(P48091)で「間接費使用」チェックボックスを選択している場合は、グリッドに次の追加フィールドが表示されます。

- 代替所属ビジネスユニット
- 従業員プール・グループ・コード
- 職務プール・グループ・コード
- BP(間接費転記コード)

ワークファイル取引の割増の変更

「作業/金額の改訂」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - 作業/金額の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

元帳日付 2005/06/15 計算プレビュー

適格性コード 0 再計算オプション ☐

☐ 外貨 再計算調整理由 ☐

請求書金額 収益額 作業/顧客 契約 補足 通貨

原価情報

数量/単位

単価

原価 6,150.00

請求書金額

課税金額 6,150.00

税額

請求書合計 6,150.00

割増情報

請求一時変更/上限 ☐

請求書割増%

割増金額

税金/割引情報

税(Y/N) N

税域/税目

割引%/金額

「作業/金額の改訂」フォーム

ワークファイル取引の割増を変更するには、次の手順に従います。

1. 請求金額の割増を変更するには(該当する場合)、「請求書金額」タブを選択し、「請求一時変更/上限」、「請求書割増%」および「割増金額」フィールドの任意の組合せに値を入力します。
2. 収益金額の割増を変更するには(該当する場合)、「収益額」タブを選択し、「収益一時変更/上限」、「請求書割増%」および「割増金額」フィールドの任意の組合せに値を入力します。
3. 「計算プレビュー」ボタンをクリックします。
割増が計算され、変更が表示されます。
4. 「再計算オプション」および「再計算調整理由」フィールドに値を入力します。

注意:「再計算オプション」および「再計算調整理由」フィールドを変更することもできます。その場合、「ワークファイルの処理」フォームで特定の取引について、「ロー」メニューから「取引の再計算」を選択します。

5. 「OK」をクリックします。

「ワークファイルの処理」フォームが表示され、直前に加えた変更が反映されたレコードが自動的に表示されます。

重要:「作業/金額の改訂」で割増情報を変更し、「OK」をクリックする前に「再計算オプション」フィールドに「3」と入力しなかった場合、請求料金/割増テーブル(F48096)に基づくデフォルトの割増情報が使用されます。このことを回避するには、「再計算オプション」フィールドに「3」と入力してください。

請求一時変更/上限

製図技師、技術者またはコンサルタントなど、専門サービス労働者の請求に反映される請求金額を割増するために使用されるレートを入力します。

このレートは従業員への給与に影響を及ぼしません。一時変更レートまたは上限レートとして割増レートを使用できます。

請求割増の合計に対する一時変更レートの計算は、次のとおりです。

$(\text{一時変更レート} \times \text{単位}) \times (1 + \text{割増レート}) + \text{割増金額}$

上限レートが指定されている場合は、レート一時変更が原価取引のレートと比較されます。比較後、より低いレートが一時変更レートとして使用されます。

請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して、一時変更または上限の単位レートを設定します。

契約/サービス請求管理では、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。生成タイプ1を使用して請求、収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定し、生成タイプ2を使用して収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定します。

請求固定情報で収益金額と請求金額の不一致が許容されるように設定されている場合にのみ請求および収益の割増レートを指定するには、生成タイプ1を使用します。

請求書割増%

製図技師、技術者およびコンサルタントに対する費用など、専門サービスの請求に反映される、収益金額を割増するために使用されるパーセントを指定する数値を入力します。パーセンテージは整数で入力してください。たとえば、50.275%の場合は、「50.275」と入力します。このパーセントは従業員への給与に影響を及ぼしません。

このパーセントは請求料金/割増テーブル・プログラム(P48096)で設定します。請求、収益および追加料金割増レートのテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。

契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求固定情報プログラム(P48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。収益および追加料金割増レートのテーブルを指定する場合は、「請求レート/割増の改訂」フォームで生成タイプ2を使用してください。

割増金額

製図技師、技術者またはコンサルタントのサービスなど、専門サービスに対する請求用として請求金額を割増するために使用される金額を入力します。この金額は従業員への支払に影響を及ぼしません。

この金額は、請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して設定できます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。

契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なる金額を使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ2を使用してください。

再計算オプション

システムで取引を再計算する方法を指定するコードを入力します。特定の一時変更または割増テーブルに定義した情報に基づいて取引に対する割増を変更または再適用する場合は、取引を再計算します。値は次のとおりです。

1: 請求料金/割増テーブル (F48096) から、設定済の請求割増レートを再適用します。収益金額は変更されません。

2: F48096テーブルから、設定済の収益割増レートを再適用します。請求金額は変更されません。

3: 金額/数量情報ウィンドウまたは「請求レート/割増の改訂」フォームで入力されたレートまたは金額を使用します。F48096テーブルに設定済の請求または収益割増レートは適用しません。

ブランク: F48096テーブルの設定済のレートを使用して、請求および収益割増レートの両方を再適用します。

注意: システム固定情報の「収益額と請求額の不一致可」オプションで請求金額と収益金額が一致する必要があると指定されている場合、コード1および2を使用することはできません。

再計算調整理由

請求ワークファイル (F4812) の請求明細取引の1つまたはグループの改訂の理由を指定するUDC 48/ARのコードを入力します。監査用として、この理由を使用して請求明細取引の履歴が更新されます。

アドホック・ワークファイル取引の入力

「ワークファイルの入力」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - ワークファイルの入力			
ワークファイルの処理		ワークファイルの入力	
OK(O)	取消(L)	フォーム(F)	ツール(T)
元帳日付	2008/06/06		
勘定科目コード	1.1110.AUTOBKST		Auto Bank Statement Bank
補助元帳タイプ	<input type="text"/>	適格性コード	<input type="text"/>
通貨コード	USD	再計算オプション	<input type="text"/>
数量	<input type="text"/>		
原価金額	150.00		
請求一時変更/上限	<input type="text"/>	収益一時変更/上限	<input type="text"/>
請求書割増%	<input type="text"/>	収益割増%	<input type="text"/>
割増金額	<input type="text"/>	収益割増金額	<input type="text"/>
課税対象額	<input type="text"/>	収益金額	<input type="text"/>
請求額合計	<input type="text"/>		
割引%	<input type="text"/>		
所属BU	<input type="text"/>	職務タイプ	<input type="text"/>
従業員/仕入先	<input type="text"/>	職階	<input type="text"/>
説明	<input type="text"/>	備考	<input type="text"/>

「ワークファイルの入力」フォーム

アドホック・ワークファイル取引を入力するには、次の手順に従います。

1. 必要なフィールドに値を入力して、新しいワークファイル取引を作成します。

注意: 請求固定情報プログラム (P48091) の「仕訳作成の制御」オプションの設定内容に応じて、請求のフィールドまたは収益のフィールド、あるいはその両方が表示されます。

2. レコードを追加してフォームをクリアするには、「OK」をクリックします。
3. レコードを追加して再表示するには、「フォーム」メニューから「追加/再表示」を選択します。
「追加/再表示」を選択すると、レコードの追加時に実行された計算の結果が表示されます。

注意: 「フォーム」メニューから「フォームのクリア」を選択することで、現在のレコードを追加しなくても「ワークファイルの入力」フォームをクリアできます。

元帳日付	ソース取引を転記する会計期間を決める日付を入力します。会社の会計年度および現在の会計期間に基づき、PBCO (過去期間)、PYEB (前年度以前)、PACO (未来期間)、WACO (次年度以降) のこのフィールドが検証されます。
勘定科目コード	総勘定元帳の勘定科目を識別する値を入力します。
補助元帳/タイプ	総勘定元帳の勘定科目をさらに細かく分類する補助的なコードを入力します。設備品目番号や住所録番号も補助元帳として使用できます。補助元帳を入力する場合は、同時に補助元帳タイプも指定する必要があります。
適格性コード	<p>単一取引レベルで取引の行を処理する方法を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>0: 請求/収益用に使用可能 1: 請求処理のみに使用可能 2: 収益のみに使用可能 3: 請求不可 4: 原価のみに使用可能 5: A/Pのみに使用可能</p> <p>勘定科目マスター (F0901) の請求可能 (Y/N) フィールドおよびシステム固定情報で設定した「仕訳作成の制御」フィールドに基づいて、適格性コードがワークファイル取引に割り当てられます。たとえば、請求可能 (Y/N) フィールドに Y が設定されている勘定科目が請求管理システムで処理され、かつ「仕訳作成の制御」フィールドが請求のみとして設定されている場合、その取引の適格性コードは 1 となります。適格性コードが 1 である場合は、その取引を請求処理にのみ使用できることを示します。</p>
通貨コード	基本通貨コードを指定します。デフォルトでは、ビジネスユニットの会社の通貨コードが使用されます。
再計算オプション	<p>システムで取引を再計算する方法を指定するコードを入力します。特定の一時変更または割増テーブルに定義した情報に基づいて取引に対する割増を変更または再適用する場合は、取引を再計算します。値は次のとおりです。</p> <p>1: 請求料金/割増テーブル (F48096) から、設定済の請求割増レートを再適用します。収益金額は変更されません。 2: F48096 テーブルから、設定済の収益割増レートを再適用します。請求金額は変更されません。</p>

3: 金額/数量情報ウィンドウまたは「請求レート/割増の改訂」フォームで入力されたレートまたは金額を使用します。F48096テーブルに設定済の請求または収益割増レートは適用しません。

ブランク: F48096テーブルの設定済のレートを使用して、請求および収益割増レートの両方を再適用します。

注意: システム固定情報の「収益額と請求額の不一致可」オプションで請求金額と収益金額が一致する必要があると指定されている場合、コード1および2を使用することはできません。

数量	単位により識別されるものの数量を入力します。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などの数値にすることができます。
原価金額	関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。
割引%	割引期日までに支払われた場合に、請求書または伝票の総額から割引率を入力します。たとえば、2%の割引の場合は「.02」と、小数点以下の数値で入力します。
請求一時変更/上限 (請求料金の一時変更/上限)	<p>製図技師、技術者またはコンサルタントなど、専門サービス労働者の請求に反映される請求金額を割増するために使用されるレートを入力します。このレートは従業員への給与に影響を及ぼしません。一時変更レートまたは上限レートとして割増レートを使用できます。</p> <p>請求割増の合計に対する一時変更レートの計算は、次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{単位}) \times (1 + \text{割増レート}) + \text{割増金額}$ <p>上限レートが指定されている場合は、レート一時変更が原価取引のレートと比較されます。比較後、より低いレートが一時変更レートとして使用されます。</p> <p>請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して、一時変更または上限の単位レートを設定します。</p> <p>契約/サービス請求管理では、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。生成タイプ1を使用して請求、収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定し、生成タイプ2を使用して収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定します。</p> <p>請求固定情報で収益金額と請求金額の不一致が許容されるように設定されている場合にのみ請求および収益の割増レートを指定するには、生成タイプ1を使用します。</p>
請求書割増%	<p>製図技師、技術者およびコンサルタントに対する費用など、専門サービスの請求に反映される、収益金額を割増するために使用されるパーセントを指定する数値を入力します。パーセンテージは整数で入力してください。たとえば、50.275%の場合は、「50.275」と入力します。このパーセントは従業員への給与に影響を及ぼしません。</p> <p>このパーセントは請求料金/割増テーブル・プログラム(P48096)で設定します。請求、収益および追加料金割増レートのテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。</p>

契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求固定情報プログラム(P48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。収益および追加料金割増レートのテーブルを指定する場合は、「請求レート/割増の改訂」フォームで生成タイプ2を使用してください。

割増金額

製図技師、技術者またはコンサルタントのサービスなど、専門サービスに対する請求用として請求金額を割増するために使用される金額を入力します。この金額は従業員への支払に影響を及ぼしません。

この金額は、請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して設定できます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。

契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なる金額を使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ2を使用してください。

課税対象額

請求金額のうち、課税対象となる金額を入力します。

請求額合計

請求明細取引の請求金額を入力します。

収益一時変更/上限（収益レートの一時変更/上限）

製図技師、技術者またはコンサルタントなど、専門サービスの請求に反映される、収益金額を割増するために使用されるレートを入力します。このレートは従業員への給与に影響を及ぼしません。一時変更レートまたは上限レートとして割増レートを使用できます。

収益割増の合計に対するレート一時変更の計算は、次のとおりです。

$(\text{レート一時変更} \times \text{単位}) \times (1 + \text{割増レート}) + \text{割増金額}$

上限レートが指定されている場合は、レート一時変更が原価取引のレートと比較されます。比較後、より低いレートが一時変更レートとして使用されます。

請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して、一時変更または上限の単位レートを設定します。

契約/サービス請求管理では、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。生成タイプ1を使用して請求、収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定し、生成タイプ2を使用して収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定します。

請求固定情報で収益金額と請求金額の不一致が許容されるように設定されている場合にのみ請求、収益および追加料金割増レートを指定するには、生成タイプ1を使用します。

収益割増%

製図技師、技術者またはコンサルタントに対する費用など、専門サービス労働者の請求に反映される、収益金額を割増するために使用されるパーセントを入力します。このパーセントは従業員への給与に影響を及ぼしません。この年率は請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)で設定されます。設定には、生成タイプ1を使用して、収益と請求の割増年率のテーブルを指定します。

パーセントは整数で入力してください。たとえば、50.275%の場合は、「50.275」と入力します。

収益割増金額

製図技師、技術者またはコンサルタントのサービスなど、専門サービスに対する請求用として収益金額を割増するために使用される金額を入力します。この金額は従業員への支払に影響を及ぼしません。

この金額は、請求料金/割増テーブルのプログラム (P48096) を使用して設定できます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ2を使用してください。

契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なる金額を使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル (F48091) の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ2を使用してください。

収益金額

請求明細取引の収益金額を入力します。

所属BU (所属ビジネスユニット)

従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。

職務タイプ

組織内の職務を識別するUDC 07/Gのコードを入力します。職務タイプに給与および福利厚生情報を関連付けて、その情報をその職務タイプにリンクされている従業員に適用できます。

従業員/仕入先

従業員、応募者、関連会社、顧客、仕入先、テナント、所在地などの、住所録システムの項目を識別する番号を入力します。

職階

特定の職務タイプ内の特定のレベルを指定するUDC 07/GSのコードを入力します。賃率テーブルの職務によって賃率を決定できるよう、職務タイプとともにこのコードが使用されます。

関連項目:

第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイル履歴テーブルへのワークファイル取引の移動」、290 ページ




第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ

ワークファイル取引への保留状態の割当

「保留コード/リリース日付の改訂」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - 保留コード/リリース日付の改訂

OK(O) 取消(C) ツール(T)

保留リリース取引

保留コード

リリース日付

保留コードとリリース日付を入力してください。
保留レコードをリリースするには空白のままにしてください。

「保留コード/リリース日付の改訂」フォーム

間接費取引または追加料金取引、あるいはその両方が関連付けられているワークファイル取引に保留状態を割り当てると、関連するすべての取引に保留状態が自動的に割り当てられます。

保留コード

請求明細取引に適用される、保留状況のタイプを識別するコードを入力します。指定できる英数字の値は次のとおりです。

空白: 保留中ではありません。

A: 請求処理、収益認識および原価振替のために保留中です。

B: 請求処理および収益認識のために保留中です。原価振替は許可されません。

I: 請求処理のみのために保留中です。収益認識および減価振替は許可されません。

R: 収益認識のために保留中です。この値は、システム固定情報の「仕訳作成の制御」オプションが収益のみを処理するように設定されている場合にのみ適用されます。

指定できる数値は次のとおりです。

空白: 保留中ではありません。

1: 請求処理、収益認識および原価振替のために保留中です。

2: 請求処理および収益認識のために保留中です。原価振替は許可されません。

3: 請求処理のみのために保留中です。収益認識および減価振替は許可されません。

4: 収益認識のために保留中です。この値は、システム固定情報の「仕訳作成の制御」オプションが収益のみを処理するように設定されている場合にのみ適用されます。

リリース日付

保留オーダーがリリースされた日付を入力します。

注意:「作業/金額の改訂」フォームの「補足」タブで、個々の取引の保留コードとリリース日付を変更できます。

取引の保留をリリースするには、「保留コード/リリース日付の改訂」フォームのフィールドを空白にして、「OK」をクリックします。

非T&M収益ワークファイル取引の改訂

「ワークファイルの処理」フォームにアクセスします。

非T&M収益ワークファイル取引を改訂するには、次の手順に従います。

1. 「取引分類」フィールドのQBEローに「A」(契約収益 - 非T&Mレコード)を入力し、「検索」をクリックして非T&M収益ワークファイル取引を検索します。
2. 取引を選択して、「作業/金額の改訂」フォームにアクセスします。
3. 取引の適格性コードを変更するには、「適格性コード」フィールドの値を変更します。
4. 「補足」タブを選択し、必要に応じて「保留コード」フィールドまたは「リリース日付」フィールド、あるいはその両方の値を変更します。

取引分類

請求取引の分類を識別するコードを入力します。コードは次のとおりです。

空白: アクティブな請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) のアドホック入力

A: 契約収益 - 非タイム・アンド・マテリアル・レコード

B: NTEプレース・ホルダー

C: サービス契約 (SWM)

D: サービス・オーダー (SWM)

E: 支払要求 (SWM)

F: 呼出し (SWM)

G: 遡及逆仕訳レコード

H: 遡及調整レコード

R: 未収金額

O: 部品

1: 労務入力

2: 間接費入力

3: 設備入力

4: 予約済

5: 購買買掛金入力

6: 仕訳入力

7: 手作業入力

8: システム生成制御レコード

9: 予約済

適格性コード

単一取引レベルで取引の行を処理する方法を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

- 0: 請求/収益用に使用可能
- 1: 請求処理のみに使用可能
- 2: 収益のみに使用可能
- 3: 請求不可
- 4: 原価のみに使用可能
- 5: A/Pのみに使用可能

勘定科目マスター(F0901)の請求可能(Y/N)フィールドおよびシステム固定情報で設定した「仕訳作成の制御」フィールドに基づいて、適格性コードがワークファイル取引に割り当てられます。たとえば、請求可能(Y/N)フィールドにYが設定されている勘定科目が請求管理システムで処理され、かつ「仕訳作成の制御」フィールドが請求のみとして設定されている場合は、その取引の適格性コードは1となります。適格性コードが1である場合は、その取引を請求処理にのみ使用できることを示します。

保留コード

請求明細取引に適用される、保留状況のタイプを識別するコードを入力します。指定できる英数字の値は次のとおりです。

ブランク: 保留中ではありません。

A: 請求処理、収益認識および原価振替のために保留中です。

B: 請求処理および収益認識のために保留中です。原価振替は許可されません。

I: 請求処理のみのために保留中です。収益認識および減価振替は許可されません。

R: 収益認識のために保留中です。この値は、システム固定情報の「仕訳作成の制御」フラグが収益のみを処理するように設定されている場合にのみ適用されます。

指定できる数値は次のとおりです。

ブランク: 保留中ではありません。

1: 請求処理、収益認識および原価振替のために保留中です。

2: 請求処理および収益認識のために保留中です。原価振替は許可されません。

3: 請求処理のみのために保留中です。収益認識および減価振替は許可されません。

4: 収益認識のために保留中です。この値は、システム固定情報の「仕訳作成の制御」フラグが収益のみを処理するように設定されている場合にのみ適用されます。

注意: 非T&M収益ワークファイル取引を保留にしても、収益取引と請求取引は別々のレコードであるため、請求書処理からの取引は保留になりません。

リリース日付

保留オーダーがリリースされた日付を入力します。

ワークファイル取引の分割

「ワークファイル分割基準」フォームにアクセスします。

ワークファイルの改訂 - ワークファイル分割基準

取消(C) ツール(T)

基準金額 ■ 外貨 通貨コード CAD

<input checked="" type="radio"/> 数量	<input type="text" value="1.00"/>
<input type="radio"/> 原価金額	<input type="text" value="850.00"/>
<input type="radio"/> 請求書の課税額	<input type="text" value="935.00"/>
<input type="radio"/> 収益金額	<input type="text" value="935.00"/>

レコード1の金額パーセント

<input type="radio"/> 分割%	<input type="text"/>
<input type="radio"/> 分割金額	<input type="text"/>

計算プレビュー/分割実行

「ワークファイル分割基準」フォーム

ワークファイル取引を分割するには、次の手順に従います。

1. 「数量」、「原価金額」、「請求書の課税額」または「収益金額」を選択します。
2. 「分割%」オプションまたは「分割金額」オプションを選択して、対応するフィールドに値を入力します。
3. 「計算プレビュー/分割実行」をクリックして、分割計算の結果を確認します。
「取消」をクリックして、目的の分割結果が得られるまで何度でも「ワークファイル分割基準」に戻ることができます。
4. 目的の分割結果が得られたら、「ワークファイル分割金額」フォームで「OK」をクリックします。
「OK」をクリックすると、ワークファイル取引の実際の分割が行われます。
5. 「ワークファイル分割基準」フォームで、「取消」をクリックします。
「ワークファイルの処理」フォームが表示され、取引の分割結果が自動的に表示されます。

ワークファイルの再計算プログラムの実行

ワークファイルの再計算プログラムは、次の方法で実行できます。

- 「上級/技術的操作」メニュー (G48S31 または G5231) から「ワークファイルの再作成」を選択します。
- 「ワークファイルの処理」フォームの「ロー」メニューから「取引の再計算」を選択します。
- ワークファイルの改訂プログラム (P4812) を使用してワークファイル情報を改訂します。

この場合、ワークファイルの再計算プログラムが自動的に実行されます。

ワークファイルの再計算 (R481202) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

再計算オプション

この処理オプションでは、請求金額と収益金額を再適用するかどうか、および調整理由コードを指定するかどうかを指定できます。

1. 金額の再適用

特定の一時変更または割増テーブルに定義した情報に基づいて取引に対する割増を変更または再適用する場合は、この処理オプションを使用して取引を再計算します。値は次のとおりです。

1: 請求料金/割増テーブル (F48096) から、設定済の請求割増レートを再適用します。収益金額は変更されません。

2: 請求料金/割増テーブル (F48096) から、設定済の収益割増レートを再適用します。請求金額は変更されません。

3: 「請求レート/割増の改訂」フォームに入力されたレートまたは金額を使用します。請求料金/割増テーブル (F48096) に設定済の請求または収益割増レートは適用しません。

ブランク: 請求料金/割増テーブル (F48096) から設定済のレートを使用して、請求および収益割増レートの両方を再適用します。

注意: システム固定情報の「収益額と請求額の不一致可」オプションで請求金額と収益金額が一致する必要があると指定されている場合、オプション1または2を使用することはできません。

2. 調整理由コード

請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) のレコードで更新される調整理由コードを指定します。値はUDC 48/ARに保存されます。

印刷オプション

この処理オプションでは、レポートを印刷するかどうかを指定できます。

1. レポートの印刷

取得された情報を印刷する場合は、この処理オプションをブランクにします。取得された情報を印刷しない場合は、「1」を入力します。

ワークファイル履歴の改訂

この項では、ワークファイル履歴、およびワークファイル履歴の除去プログラムの概要と、次の方法について説明します。

- ワークファイル取引のワークファイル履歴テーブルへの移動
- ワークファイル履歴の照会 (P4812H) の処理オプションの設定
- 履歴からの取引の移動
- ワークファイル履歴の除去プログラムの実行
- ワークファイル履歴の除去 (R48S999) の処理オプションの設定

ワークファイル履歴について

取引がワークファイルに属さない場合は、アクティブな請求ワークファイルから取引を移動できます。ワークファイルから取引を移動するには、取引の状況が請求不可である必要があります。ワークファイル取引を請求不可にするには、適格性コードを3に更新します。

取引をワークファイル履歴に移動すると、次の処理が実行されます。

- ・ 監査用として、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)に取引がコピーされます。
- ・ アクティブな請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)から取引が削除されます。

履歴に移動したワークファイル取引は、ワークファイルの改訂プログラム(P4812)には表示されません。請求明細ワークファイル・テーブルから削除し、請求ワークファイル履歴テーブルに追加したワークファイル取引を確認するには、ワークファイル履歴の照会プログラム(P4812H)を使用する必要があります。また、ワークファイル履歴の照会プログラムを使用して、履歴に移動したワークファイル取引を再有効化します。

注意: 取引明細テーブル(F0911)から元の取引は削除されません。

ワークファイル履歴を確認しながら、以前に請求不可として割り当てた取引を履歴から移動できます。履歴から取引を移動する場合は、取引を再有効化します。取引を再有効化すると、次の処理が実行されます。

- ・ 履歴取引が再有効化済としてマークされます。
- ・ 履歴取引のコピーが請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)から請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に移動されます。

ワークファイル履歴の除去プログラムについて

ワークファイル履歴の除去プログラム(R48S999)を使用して、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)から非アクティブなレコードを除去します。請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)にアクティブな関連レコードのないレコードが非アクティブとみなされます。アクティブな関連レコードとは、F4812HテーブルとF4812テーブルの両方で同じ元帳日付と請求制御IDが設定されたレコードのことです。

F4812Hテーブルを除去すると、ディスクの空き容量が増加するだけでなく、他の請求/サービス請求処理の処理時間が短縮されることもあります。F4812Hテーブルは定期的に除去してください。

注意: F4812Hテーブルを除去するときは業務のピーク時を避けてください。

選択したレコードを除去するか、選択したレコードのレポートを印刷するか、両方の処理を実行するかを指定できます。このレポートには、除去された各レコードに関する情報および除去されたレコードの合計数が示されます。また、レコードを除去せずにレポートを実行して、レコードを実際に除去する前に適切なレコードが選択されているかどうかを確認することもできます。

また、F4812Hテーブルから除去されたレコードを請求ワークファイル履歴の除去レコード保存テーブル(F4812HS)に書き込むかどうか、および最初にF4812HSテーブルから保存済のレコードをクリアするかどうかを指定することもできます。

ワークファイル履歴の除去プログラムでは、除去されたレコードの一覧を示すレポートが生成されます。

ワークファイル履歴の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
作業/金額の改訂	W4812D	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G48S11)、「ワークファイルの改訂」 「ワークファイルの処理」フォームでワークファイル取引を選択して「選択」をクリックします。 「ワークファイルの処理」(G5211)、「ワークファイルの改訂」 「ワークファイルの処理」フォームでワークファイル取引を選択して「選択」をクリックします。 	ワークファイル取引の適格性コードを変更して、レコードをワークファイル履歴テーブルに移動します。
明細履歴の処理	W4812HA	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G48S11)、「ワークファイル履歴の照会」 「ワークファイルの処理」メニュー(G5211)、「ワークファイル履歴の照会」 	ワークファイル履歴を確認して、ワークファイル取引を履歴から移動します。

ワークファイル履歴テーブルへのワークファイル取引の移動

「作業/金額の改訂」フォームにアクセスします。

取引をワークファイル履歴に移動するには、次の手順に従います。

1. 「適格性コード」フィールドの値を変更して請求不可にし、「OK」をクリックします。

「ワークファイルの処理」フォームに戻ります。

2. 特定のワークファイル取引を選択し、「削除」をクリックします。

ワークファイル取引は、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)から削除され、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)に追加されます。

適格性コード

単一取引レベルで取引の行を処理する方法を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

- 0: 請求/収益用に使用可能
- 1: 請求処理のみに使用可能
- 2: 収益のみに使用可能
- 3: 請求不可
- 4: 原価のみに使用可能
- 5: A/Pのみに使用可能

勘定科目マスター(F0901)の請求可能(Y/N)フィールドおよびシステム固定情報で設定した「仕訳作成の制御」フィールドに基づいて、適格性コードがワークファイル取引に割り当てられます。たとえば、請求可能(Y/N)フィールドにYが設定されている勘定科目が請求管理システムで処理され、

かつ「仕訳作成の制御」フィールドが請求のみとして設定されている場合、その取引の適格性コードは1となります。適格性コードが1である場合は、その取引を請求処理にのみ使用できることを示します。

ワークファイル履歴の照会 (P4812H) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示オプション

この処理オプションでは、表示する明細履歴レコードを指定できます。

1. 表示するレコード
- すべての明細履歴レコードを表示するには、「1」を入力します。再有効化対象のレコードのみを表示するには、「2」を入力します。

履歴からの取引の移動

「明細履歴の処理」フォームにアクセスします。

ワークファイル履歴の照会 - 明細履歴の処理

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

タブを選択: 1-一般

顧客

作業No.

元帳日付の範囲

補助元帳タイプ

レコード 1 - 10

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	取引 分類	元帳 日付	間接 労務費	追加料金 コード	間接費	収益 パッチ	顧客	契約 番号	契約 タイプ	契約 会社	変更 番号	請求行
<input type="checkbox"/>			2005/06/15					50					
<input type="checkbox"/>		6	2005/07/01					50					
<input type="checkbox"/>		6	2005/07/01					50					
<input type="checkbox"/>		5	2005/06/18					50					
<input type="checkbox"/>		5	2005/06/18					50					
<input type="checkbox"/>		1	2005/06/11		X			150					
<input type="checkbox"/>		1	2005/06/11		X			150					
<input type="checkbox"/>		1	2005/06/11		X			150					
<input type="checkbox"/>		1	2005/06/11		X			150					
<input type="checkbox"/>		1	2005/06/11		X			150					

「明細履歴の処理」フォーム

履歴から移動する取引を選択し、「ロー」メニューから「再有効化」を選択します。

取引を再有効化すると、「検索」をクリックするまで、「明細履歴の処理」にその取引が表示されます。

注意: アクティブなワークファイルに戻ると、再有効化した取引が請求不可になります。取引の請求処理を完了するには、適格性コードを手動で更新する必要があります。

ワークファイル履歴の除去プログラムの実行

サービス請求管理の場合、「上級/技術的操作」(G48S31)、「ワークファイル履歴の除去」を選択します。

契約請求管理の場合、「上級/技術的操作」(G5231)、「ワークファイル履歴の除去」を選択します。

ワークファイル履歴の除去(R48S999)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト値

この処理オプションでは、レコードの除去、レポートの印刷およびバックアップ・レコードの保存を実行するかどうかを指定します。

1. 除去とレポート印刷

請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)からレコードを除去するかどうか、および除去されたレコードの一覧を示すレポートを印刷するかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: レポートの印刷のみを実行します。

1: レコードを除去し、レポートを印刷します。

2: レコードの除去のみを実行します。

2. 除去したレコードを保存テーブルに保存する

除去されたレコードを請求ワークファイル履歴の除去レコード保存テーブル(F4812HS)に保存するかどうか、および以前のレコードをクリアするかどうかを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: 除去されたレコードをF4812HSテーブルに保存します。

1: 除去されたレコードをF4812HSテーブルに保存し、以前のレコードをクリアします。

2: 除去されたレコードを保存しません。

第 13 章

収益の認識

この項では、収益認識の概要と次の方法について説明します。

- 収益ワークファイルの生成
- 仮の総勘定元帳仕訳の生成
- 仮の総勘定元帳仕訳の確認および改訂
- 最終の総勘定元帳仕訳の作成
- 総勘定元帳バッチの転記
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の契約収益集計テーブルの再作成

収益認識について

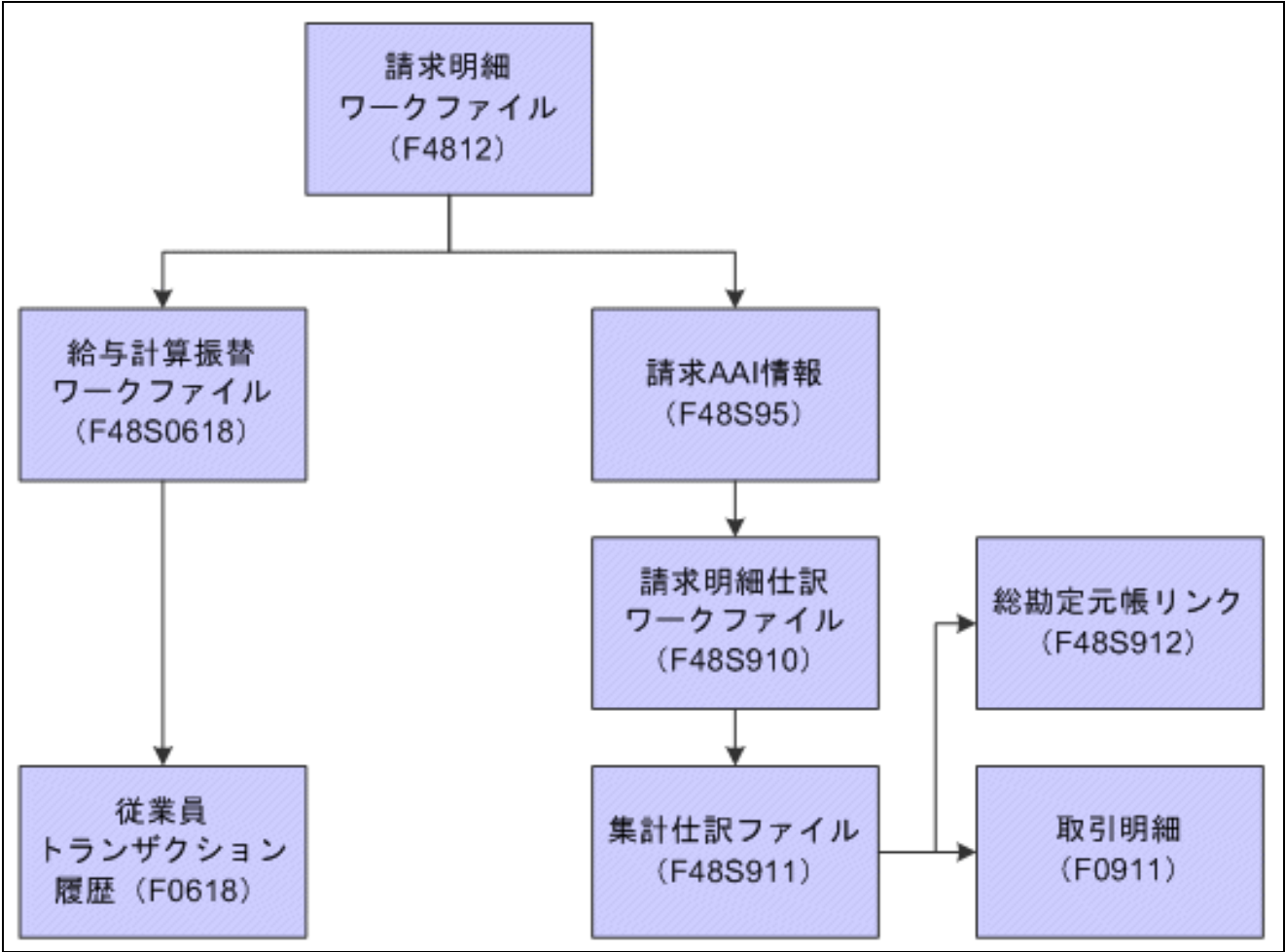
収益認識は、商品またはサービスに対する資産（現金である必要はありません）流入として収益を定義するための勘定規則です。収益は、入金前でなく、入金時に認識される必要があります。収益認識を使用すると、請求書を作成せずに収入の総勘定元帳仕訳を作成できます。

通常、収益認識は次の場合に使用します。

- 作業を完了し収入を受け取ったが、まだ顧客に請求する必要がある場合
- 会社の実際の財務状態を知るために、損益計算書と貸借対照表に受領した金額を反映させる場合
- 内部原価の再配賦を実行する必要がある場合

現行期間の収益（実績または見越）を計算するには、総勘定元帳仕訳を作成する必要があります。この仕訳に関連付けられている金額は、収益認識処理を完了すると、損益計算書および貸借対照表に表示されます。認識された収益は、見積に使用したり、組織の特定の部門の収益性や負債の確認に使用できます。

次の図は、収益認識の基本テーブル間の関係を示しています。



収益認識テーブル

収益認識を処理すると、総勘定元帳仕訳が作成され、取引明細テーブル (F0911) が収益で更新されます。また、請求固定情報プログラム (P48091) で「仕訳振替の制御」チェックボックスを選択したかどうかに応じて、振替総勘定元帳の修正仕訳を作成することもできます。

請求管理システムには、組織の会計ニーズに最適なモードを選択できる様々な仕訳処理が用意されています。次の表では、請求固定情報プログラム (P48091) で選択した「仕訳作成の制御」オプションによって制御されるモードについて説明します。

仕訳作成の制御モード	用途
請求のみ	組織で、収益を請求サイクルとは別に認識する必要がない場合は、このモードを選択します。 最終の請求書仕訳がテーブルF0911に書き込まれるとき、実績収益が貸方に計上されます。仕訳の転記プログラム (R09801) を使用して、この仕訳を転記できます。

仕訳作成の制御モード	用途
収益のみ	<p>組織で、部門間でのみ請求が発生し、売掛金元帳テーブル(F03B11)の顧客の売掛金を更新する必要がない場合は、このモードを選択します。</p> <p>最終の総勘定元帳仕訳がテーブルF03B11に書き込まれるとき、実績収益勘定と部門間相手科目が貸方に計上されます。仕訳の転記プログラムを使用して、この仕訳を転記できます。</p>
請求/収益 - 調整なし	<p>収益を請求サイクルとは別に認識するようにする場合は、このモードを選択します。</p> <p>最終の総勘定元帳仕訳がテーブルF03B11に書き込まれるとき、実績収益が貸方に計上され、見越し売掛金(未請求売掛金)が借方に計上されます。仕訳の転記プログラムを使用して、この仕訳を転記できます。</p> <p>最終の請求書仕訳がテーブルF03B11に書き込まれるとき、見越し売掛金勘定が貸方に計上され、売掛金勘定が借方に計上されます。仕訳の転記プログラムを使用して、この仕訳を転記できます。</p>
請求/収益 - 調整あり	<p>見越し収益を請求サイクルとは別に認識するようにする場合、または請求書金額とは別に収益金額を割り増し、請求サイクルの最後に見越し売掛金の差異をクリアする場合に、このモードを選択します。</p> <p>最終の総勘定元帳仕訳がテーブルF03B11に書き込まれるとき、見越し収益(未請求)勘定が貸方に計上され、見越し売掛金(未請求)勘定が借方に計上されます。仕訳の転記プログラムを使用して、この仕訳を転記できます。</p> <p>最終の請求書仕訳がテーブルF03B11に書き込まれるとき、実績収益勘定が貸方に計上され、見越し収益勘定および売掛金勘定が借方に計上されます。総勘定元帳への転記プログラムを使用して、この仕訳を転記できます。</p>

元帳仕訳の生成に使用するバージョンおよびモード

総勘定元帳仕訳の生成プログラム(R48132)を実行すると、仮の総勘定元帳仕訳が作成されます。総勘定元帳仕訳の生成プログラムの処理オプションで総勘定元帳仕訳の作成プログラム(R48198)のバージョンを指定すると、取引明細テーブル(F0911)にも最終の総勘定元帳仕訳が作成されます。この処理オプションを空白にすると、F0911テーブルには最終の総勘定元帳仕訳が作成されません。

総勘定元帳仕訳の作成プログラムのバージョンを指定せずに総勘定元帳仕訳の生成プログラムを実行すると、F0911テーブルに仕訳が作成されないため、テスト・モードでの実行とみなされます。同様に、処理オプションで指定されている総勘定元帳仕訳の作成プログラムのバージョンを指定して総勘定元帳仕訳の生成プログラムを実行すると、最終モードでの実行とみなされます。

総勘定元帳仕訳の生成プログラムをテスト・モードで実行して、テーブルF0911に最終の仕訳を書き込む前に会計エラーがないかどうかを確認します。会計エラーを確認する必要がない場合は、総勘定元帳仕訳の生成プログラムを最終モードで実行します。

注意: 最終モードでプログラムを実行してエラーが検出された場合は、バッチ状況がエラー状況に設定され、F0911テーブルに最終の仕訳が作成されません。

元帳仕訳の生成の対話型バージョン

仕訳の生成プログラム(R48132)は、仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)を呼び出します。仕訳編集レジスタ・プログラムは、すべての検証を実行し、請求管理システムの総勘定元帳仕訳を更新します。仕訳の生成プログラムの処理オプションで、使用する仕訳編集レジスタのバージョンを指定します。

仕訳の生成プログラムを実行して仕訳を処理すると、仕訳編集レジスタ・プログラムの処理オプションで指定した仕訳入力マスター・ビジネス関数のバージョンが使用されます。仕訳編集レジスタ・プログラムのこの処理オプションをブランクにすると、マスター・ビジネス関数のZJDE0001バージョンが使用されます。

仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションを検討するには、「システム・アドミニストレーション・ツール」メニュー(GH9011)から「対話型バージョン」を選択し、対話型アプリケーションの仕訳入力MBF処理オプション(P0900049)を検討します。

仕訳の種類について

請求管理システムでは次の処理が実行されます。

- 確認レベルの仕訳であり、次のテーブルに格納される仮仕訳
 - 請求明細仕訳ワークファイル(F48S910)
 - 集計仕訳ワークファイル(F48S911)
 - 給与計算振替ワークファイル(F48S0618)
- 請求管理システムで取引明細テーブル(F0911)に書き込まれる最終仕訳

この仕訳を転記するには、仕訳の転記プログラム(R09801)を実行する必要があります。

収益認識の伝票タイプ

収益認識処理を完了すると、様々な伝票タイプを使用して総勘定元帳仕訳が作成されます。次の伝票タイプを使用して、仕訳の発生元を識別できます。

伝票タイプ	仕訳の発生元
EU - 総勘定元帳仕訳	仕訳の生成プログラム(R48132)を実行すると作成される仕訳
AJ - 総勘定元帳仕訳の調整	以前処理された仕訳に対して仕訳の生成プログラムを実行すると作成される調整仕訳
BA - 請求調整	一般会計から発生したソース取引の振替仕訳
T2 - 給与労務費配賦	給与労務費から発生した振替仕訳
T4 - 労務費請求配賦	労務費請求から発生した振替仕訳
T5 - 設備配賦	JD Edwards EnterpriseOne Payrollシステムの設備請求から発生した振替仕訳

仕訳の振替

請求固定情報で仕訳の振替を有効に設定しているかどうか、およびワークファイルの改訂プログラム (P4812) の処理オプションの設定に応じて、ワークファイル取引の勘定情報を振替、つまり変更できます。

請求管理システム内の仕訳の振替を使用すると、当初の原価仕訳を別の勘定に振り替えて、取引明細テーブル (F0911) に修正仕訳を自動的に作成できます。

仕訳の振替が有効となるように請求固定情報を設定すると、仕訳作成中に、修正仕訳が F0911 テーブルに作成されます。

たとえば、1つの支払期間内に、1人の従業員が2つの異なる作業オーダーに対して時間を請求すると想定します。その従業員が、支払期間に対する時間の入力を間違えたとします。経理部門で給与計算トランザクションが処理された後に原価を確認したところ、従業員のデータ入力ミスが見つかったとします。

このエラーを修正するために、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) のワークファイル取引内の作業オーダー番号を変更します。仕訳の振替が有効の場合に仕訳の生成プログラム (R48132) を実行すると、収益と原価について、修正仕訳と仮の仕訳が作成されます。調整仕訳が F0911 テーブルに作成されて、当初の勘定が逆仕訳され、新しい勘定が更新されます。

修正仕訳は、伝票タイプ (AJ) で識別できます。また、仕訳の振替には、ワークファイル取引と同じ支払タイプ (PDBAコード) が使用されます。たとえば、定期給与に対して 101 が使用されます。ただし、請求固定情報で PDBAコードの一時変更を使用する場合を除きます。

JD Edwards EnterpriseOne Payrollで発生したワークファイル取引を修正する場合は、取引明細に調整仕訳が作成される以外に、総勘定元帳仕訳の作成プログラム (R48198) の実行時に従業員トランザクション履歴テーブル (F0618) に調整仕訳が作成されます。これらの仮の修正仕訳は、総勘定元帳仕訳の作成プログラムが終了するまで給与計算振替ワークファイル・テーブル (F48S0618) に保存されます。

収益認識の総勘定元帳バッチについて

バッチ検討プログラム (P48221) を使用すると、請求管理システムのすべてのバッチにアクセスできます。取引のバッチを選択して、処理の続行用に準備します。処理オプションにより、デフォルトのバッチ処理を指定できます。

注意: バッチを削除すると、バッチ番号の監査証跡は残されません。この監査証跡は、JD Edwards EnterpriseOne基本設定システム (システム00) で行われます。

請求管理システムでのバッチ処理の整合性を維持するために、バッチの処理中にバッチ見出しレコードの現在の活動が更新されます。たとえば、バッチを選択して仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を実行すると、そのバッチが現在処理中であることを示すように、現在の活動が更新されます。これにより、仕訳編集レジスタ・プログラムの処理が終了するまで、このバッチには他のユーザーがアクセスできなくなります。この間に、現在の活動が 0 にリセットされます。その後、後続の処理にこのバッチを使用できます。

収益認識と請求書処理の組合せ

収益認識処理と請求書処理は別々に実行することも、結合処理として一緒に実行することもできます。これらの処理を組み合わせると、請求書バッチに関連する総勘定元帳バッチが割り当てられて、T&M請求行を含む請求書仕訳に関連付けられている総勘定元帳仕訳が含まれます。非T&M請求行の場合は、収益ワークファイルの生成プログラム (R52120) を実行する必要があります。

売掛仕訳の作成プログラム (R48199) を実行すると、売掛金元帳テーブル (F03B11) と取引明細テーブル (F0911) に関連する総勘定元帳バッチおよび請求書仕訳が書き込まれます。

収益調整

収益認識と請求書処理は、収益調整ありまたはなしで管理できます。収益調整を使用すると、認識収益金額と請求書金額の間に差異が生じないようにできます。認識収益金額と請求書金額の間の差異は、次のような場合に発生します。

- 収益の認識と請求書の作成を別の時期に行った場合
- 収益金額と請求書金額を別々に割り増した場合

タイミングの違いの調整

収益の認識と請求書の作成を同時に行わない場合、タイミングの違いによって、見越し売掛金に差異が発生します。

たとえば、完了したプロジェクトが顧客に承認された後にのみ、プロジェクトの請求書を作成しようとしているとします。プロジェクトの完了には3か月かかり、プロジェクトの収益を毎月認識します。収益の認識（毎月）と請求書の作成（完了後）の時期に違いがあるため、見越し売掛金に未調整の残高が生じます。

3か月後、プロジェクトの請求をするとき、次のような状態になります。

- プロジェクトの売掛金と収益金額合計が同じ
- 見越し（未請求）売掛金の正味差異がゼロ

タイミングに違いがある場合、時間の経過とともに、見越し売掛金についてすべての差異が調整され、ゼロと等しくなります。

収益額と請求額の不一致可の調整

収益と請求に同じ割増規則を使用している場合は、通常、認識収益金額と請求書金額の間に差異はありません。ただし、収益金額と請求書金額を別々に割り増した場合は、認識収益金額と請求金額の間に永続的な差異があることがあります。

収益金額と請求書金額を別々に割り増す場合に差異残高がないようにするには、収益調整を使用して次のようにします。

- 認識収益金額と請求金額の間に差異がない
- 見越し売掛金と見越し収益の残高がゼロ

たとえば、会社が賃貸設備の時間当たりのレートを再度協議するとします。新しい時間当たりのレートは75.00 USDですが、協議が完了するまでは引き続き70.00 USDで請求します。

2時間の設備使用に対して、請求金額は140.00 USDになります。新しいレートで収益が認識されると、収益金額は150.00 USDになります。調整しない場合、差異の10.00 USDが見越し（未請求）売掛金に残ります。

収益調整しない場合は、仕訳の借方および貸方が作成されます。

請求ステップ	仕訳
収益認識	見越し売掛金と見越し収益の150.00 USD
請求	実績売掛金と見越し売掛金の140.00 USD

収益調整すると、認識収益金額と実績収益金額がトラッキング、逆仕訳、および調整されます。この例では、次の仕訳の借方および貸方が個別に作成されます。

請求ステップ	仕訳
収益認識	売掛金と見越し収益の 140.00 USD
収益調整	見越し収益と見越し売掛金の 140.00 USD 見越し売掛金と実績収益の 150.00 USD
請求	実績売掛金と見越し売掛金の 150.00 USD

契約請求行の収益と請求書作成

収益認識および請求書作成の処理は、契約請求行が、タイム・アンド・マテリアルに関連する原価用であるかどうかによって異なります。

T&Mまたは原価加算の契約請求行の場合、商品やサービスの実際原価および作業に対する特定の割増金額を請求する契約の一部について、収益認識と請求書作成を処理します。実際原価には、労務費と間接費などの給与計算ベースの原価、契約完了に必要な設備や資材などの非給与計算ベースの原価などがあります。

非T&M契約請求行の場合、固定料金、前払、作業量など、タイム・アンド・マテリアルに関連しない契約の一部について、収益認識と請求書作成を処理します。次の契約請求行は、タイム・アンド・マテリアルに関連しない(非T&M)原価用です。

- 総額
- マイルストーン/進捗請求
- 直接および率による分割融資
- 単価
- 手数料

会社の契約にタイム・アンド・マテリアルの請求行が含まれている場合は、請求書処理の始めに原価を累計します。原価を累計すると、ワークファイル取引が作成されます。このワークファイル取引を使用して、請求書を自動的に作成できます。

会社がタイム・アンド・マテリアルの請求を行わない場合、原価を累計する必要はありません。この場合は、請求書処理の始めに、請求書を自動的に作成します。請求書を自動的に作成する場合は、契約用に設定した非T&M契約請求行に基づいて請求金額が自動的に計算されます。

契約にタイム・アンド・マテリアルの原価が含まれているかどうかにかかわらず、請求書はいつでも手動で作成できます。

収益は、次の請求行タイプについてのみ計算されます。

- T&Mまたは原価加算
- 総額
- 単位価格
- 手数料
- 完了率

参照: 第 11 章、「従属契約請求行の定義」、「収益のみ契約請求行の定義」、247ページ

- 請求割合

参照: 第 11 章、「従属契約請求行の定義」、「収益のみ契約請求行の定義」、247ページ

収益の戻し(逆仕訳)

収益の仕訳の戻し(逆仕訳)を行うことがあります。たとえば、取引が原価に対するもののみであるにもかかわらず、収益を認識した場合などです。

請求固定情報の「仕訳作成の制御」オプションが「請求/収益 - 調整なし」に設定され、ワークファイル取引の適格性コードが0(請求/収益用に使用可能)の場合に、当初の収益の仕訳を戻す(逆仕訳する)ことができます。

当初の収益の仕訳を戻す(逆仕訳する)には、次の手順に従います。

1. ワークファイルの改訂プログラム(P4812)を使用して、適格性コードを0(請求/収益用に使用可能)から4(原価のみに使用可能)に変更します。
2. 仕訳の生成プログラム(R48132)を実行して、テスト・モードまたは最終モードで総勘定元帳仕訳を処理し、変更されたワークファイル取引を含む新しい収益バッチを作成します。

その取引用に以前作成された総勘定元帳仕訳を戻す(逆仕訳する)AJ(請求調整)伝票が作成されます。この仕訳は、仕訳編集レジスタ・レポート(R48300)で確認できます。

例: 逆仕訳

次の例では、当初の勘定元帳仕訳および調整仕訳を示します。

当初の勘定元帳仕訳(伝票タイプEU)は、次のとおりです。

伝票タイプ	勘定科目	金額
EU	収益	2,222.00–
EU	未請求売掛金	2,222.00
EU	仕掛品	2,222.00–
EU	売上原価	2,222.00

ワークファイルの適格性コードが変更された(伝票タイプAJ)後に作成される逆仕訳は、次のとおりです。

伝票タイプ	勘定科目	金額
AJ	収益	2,222.00
AJ	未請求売掛金	2,222.00–
AJ	仕掛品	2,222.00
AJ	売上原価	2,222.00–

重要: 仕訳の生成プログラム (R48132) を最初に実行したとき、原価のAAI (自動仕訳) 4841 (仕掛品-貸方) および4842 (売上原価-借方) が設定されると、仕掛品勘定と売上原価勘定のEU仕訳が作成されます。ワークファイル取引が最初に総勘定元帳に対して処理された後に原価のAAIが設定された場合、勘定科目4841および4842にEU仕訳が当初作成されていなくても、修正AJ仕訳が勘定科目4841および4842に対して作成されます。

収益ワークファイルの生成

この項では、収益ワークファイルの生成プログラム (R52120) の概要と次の方法について説明します。

- 収益ワークファイルの生成プログラムの実行
- 収益ワークファイルの生成 (R52120) の処理オプションの設定

収益ワークファイルの生成プログラムについて

ワークファイルの生成時に総額、単価、収益のみ、および手数料請求行のワークファイル取引を作成しなかった場合は、収益ワークファイルの生成プログラム (R52120) を使用して、これらの非T&M収益レコードをワークファイルに追加してから、収益認識用の仮の総勘定元帳仕訳を生成します。

注意: 収益ワークファイルの生成プログラムを独立して実行するかわりに、ワークファイルの生成プログラム (R48120) の処理オプションを設定して、収益ワークファイルの生成プログラムを実行することもできます。

次の表に、収益ワークファイルの生成プログラムで、請求行タイプに基づいて請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) にどのようにレコードが作成されるかを示します。

請求行タイプ	F4812テーブルに作成されるレコード
単価および総額	1つの請求行当たり1件のレコード
完了率、請求割合、手数料、および報酬	1つの金額ゼロの請求行当たり1件のレコード

計算される金額は、総額請求行の相互参照勘定から取得された実際原価および最終予測原価に基づきます。発生した実際原価にかかわらず、総額収益金額の固定金額も計算されます。総額請求行の収益金額は、完了率計算方法を使用して計算されます。数量については、計算される金額は、請求行の相互参照勘定から取得される勘定残高テーブル (F0902) のAU (実績数量) 元帳に基づきます。日付範囲は、収益ワークファイルの生成プログラムの処理オプションで指定します。

収益ワークファイルの生成プログラムでは、処理中に発生したすべてのエラーが一覧表示されたレポートが作成されます。

収益ワークファイルの生成プログラムの実行

「収益計上」(G5222) の「収益ワークファイルの生成」を選択します。

収益ワークファイルの生成 (R52120) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションでは、システムで非T&M収益取引を作成してワークファイルに含めるときに使用する、日付範囲および定期請求コードを指定します。

1. 収益計算する範囲日付の開始日 非T&M収益取引を生成する開始日付を指定します。この処理オプションをブランクにすると、非T&M収益取引は生成されません。
2. 収益計算する範囲日付の終了日 非T&M収益取引を生成する終了日付を指定します。この処理オプションをブランクにするか、または非T&M収益取引を生成する開始日付より前の日付を指定すると、非T&M収益取引は生成されません。
3. 一括定期請求コード1 から 7. 一括定期請求コード5 収益生成の定期請求コードを指定します。値は、ユーザー定義コード(UDC)テーブル52/RBに保存されます。

プロジェクトおよび公共事業契約

この処理オプションでは、Project and Government Contract Accounting (PGCA) 契約の公共事業費および報酬が生成される頻度コードを指定します。

1. プロジェクトおよび公共事業費/報酬頻度コード1から5. プロジェクトおよび公共事業費/報酬頻度コード5 PGCA契約の手数料の生成に頻度コードを指定します。値はUDCテーブル52G/FFに保存されます。

仮の総勘定元帳仕訳の生成

この項では、仮の総勘定元帳仕訳、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仕訳の生成プログラムの実行
- 仕訳の生成(R48132)のデータ選択の設定
- 仕訳の生成(R48132)の処理オプションの設定

仮の総勘定元帳仕訳について

仕訳の生成プログラム(R48132)を実行して仕訳を作成すると、次の処理が行われます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)にレコードを作成します。
現在の活動フィールドは、請求書の生成が進行中であることを示す「1」に設定されます。
- データ選択および処理オプションを使用して、処理するワークファイル取引を選択します。
- 請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に収益手数料レコードを作成し、手数料レコードの仮の総勘定元帳仕訳を生成します。
- 請求固定情報プログラム(P48091)の「仕訳振替の制御」チェックボックスが選択されている場合は、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)の元のレコードやF4812テーブルおよび請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)の情報を使用して、給与計算振替ワークファイル・テーブル(F48S0618)に振替仕訳を作成します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ

注意: 仕訳の生成プログラム (R48132) では、多通貨勘定管理がサポートされています。

- 請求AAIを使用してワークファイル取引を処理し、勘定規則を取得します。
- 請求AAIからの勘定規則を使用して、請求明細仕訳ワークファイル・テーブル (F48S910) に保存される明細仕訳を作成します。
- F48S910テーブルに保存されている仕訳を集計し、集計レコードを集計仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) に保存します。
- 仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を実行します。このプログラムでも、集計された仮の仕訳を編集します。
- 処理中に発生したすべてのエラーが一覧表示されたレポートを作成します。

契約請求管理については、次の処理も行われます。

- 最高限度 (NTE) 処理について、収益金額がNTE限度額を超過しているかどうかを判別します。

NTE限度額を超過している場合は、契約収益集計ワークファイル・テーブル (F5280W) と請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) にNTE相殺レコードを作成し、F4812テーブルのNTE相殺レコードに追加料金コード*NTE (最高限度相殺コード) を割り当て、NTE相殺レコードが一覧表示されたNTE相殺レポート (R521331) を生成します。

元の取引とNTE取引に追加料金行番号を割り当てます。NTE取引には、理由コードHL (契約見出し限度超過) が指定されます。

- F5280Wテーブルにレコードを書き込みます。

バッチ見出し内の現在の活動フィールドは、0にリセットされます。これにより、このバッチに対して追加処理を実行できるようになります。

注意: 必要に応じて何度でも、仮の仕訳のバッチを削除して仕訳の生成プログラムに戻ることができます。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 請求AAIを定義します。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求のAAIの設定」、61ページ

- 仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) の処理オプションで、総勘定元帳処理に使用するマスター・ビジネス関数の適切なバージョンを指定します。

参照: 第 13 章、「収益の認識」、「元帳仕訳の生成の対話型バージョン」、296ページ

- 契約請求管理の場合のみ、T&M請求行および非T&M請求行のワークファイル取引を生成します。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイルの生成」、261ページ

仕訳の生成プログラムの実行

「収益計上」 (G48S22またはG5222) の「仕訳の生成」を選択します。

仕訳の生成(R48132)のデータ選択の設定

BC「請求制御ID(F4812)(BCI)」フィールドを使用して、間接費を含む請求取引を選択しても、間接費取引はバッチに含まれません。これは、間接費の各レコードは請求制御IDが異なるためです。この問題を回避するには、データ選択をバッチ番号ごと、会社番号ごと、ジョブ番号ごとなどに設定します。

仕訳の生成(R48132)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、収益仕訳作成の元帳日付および仕訳に割り当てる摘要を指定できます。

- 1. 元帳日付**

収益仕訳の生成用の総勘定元帳日付を指定します。この日付は、収益仕訳の生成中に割り当てられ、仕訳を総勘定元帳ファイルに転記するときに使用されます。この処理オプションを空白にすると、ソース取引の元帳日付が使用されます。この日付は、会社固定情報に指定されている、現在の会計期間と照合されます。
- 2. 元帳日付の一時変更**

収益仕訳生成に、システム日付を元帳日付として使用するには、1を入力します。この日付は、収益仕訳の生成中に割り当てられ、仕訳を総勘定元帳ファイルに転記するときに使用されます。この日付は、会社固定情報に指定されている、現在の会計期間と照合されます。

この処理オプションを空白にすると、「元帳日付」処理オプションの元帳日付が使用されます。
- 3. 仕訳摘要**

仕訳に割り当てる摘要を指定します。値は次のとおりです。

 - 1: AAIテーブルの摘要を使用する。
 - 2: 補助元帳の値に関連する摘要を使用する。
 - 空白: 勘定科目マスター(F0901)の摘要を使用する。

選択

この処理オプションでは、収益仕訳の生成用の請求明細取引の選択に使用する締切り日付を指定できます。

- 1. 締切り日付**

収益仕訳の生成用の請求明細取引を選択するための締切り日付を指定します。テーブル比較基準日がこの締切り日付以前の場合は、請求明細取引が選択されます。この処理オプションを空白にすると、システム日付が使用されます。

バージョン

この処理オプションでは、使用する仕訳照合レジスタ(R48300)のバージョンを指定できます。

- 1. 仕訳照合レジスタ(R48300)のバージョン**

仕訳のバッチ処理に使用する仕訳照合レジスタ(R48300)のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

処理

この処理オプションでは、仕訳を生成するかどうかを指定できます。

**仕訳作成バージョン
(R48198)**

仕訳を最終モードで生成するには、総勘定元帳仕訳の作成プログラム (R48198) のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、総勘定元帳仕訳の作成プログラムは実行されません。

プロジェクトおよび公共事業契約

この処理オプションでは、収益処理に含める取引を指定できます。

1. 含める収益状況

収益処理に含める取引の収益状況を示すコードを入力します。このフィールドをブランクにしてすべての情報を含めるか、またはUDCテーブル52G/RSの値を入力します。次の値があります。

E: 収益の対象

C: 収益完了

H: 保留中

N: 収益の対象外

収益処理に含める契約を判別するために、このフィールドに指定した値と契約マスター (F5201) の収益状況フィールドの値が比較されます。この処理オプションは、米国公共事業契約の作成/編集プログラム (P52G01M) に入力した契約にのみ適用されます。

仮の総勘定元帳仕訳の確認および改訂

この項では、仕訳編集レジスタ・レポート、仮の総勘定元帳仕訳のエラー、および収益情報の削除の概要、事前設定、総勘定元帳仕訳の仕訳編集レジスタの印刷方法について説明します。

仕訳編集レジスタ・レポートについて

仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を実行すると、仮の集計仕訳の確認に使用できるレポートが印刷されます。また、このレポートを使用して、仕訳レコードを確認することもできます。従業員ワーク・センター・プログラム (P012501) を使用して、レポートに表示されているエラー・メッセージを確認します。

仮の総勘定元帳仕訳のエラーについて

バッチの仮の仕訳は複雑でボリュームがあるため、仮の明細仕訳を改訂することはできません。ただし、エラーを修正し、バッチのエラー状況をリセットすることはできます。エラーがあるバッチの修正方法を理解するには、検出されたエラーのタイプを理解する必要があります。

仮の仕訳のバッチを作成すると、その仕訳が検証されます。検出されるエラーは、一般会計セットアップ・エラーまたは請求管理システム・セットアップ・エラーとなります。

一般会計セットアップ・エラー

このエラーの原因は、JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムでの誤ったセットアップ情報です。通常、このエラーは、仮の仕訳を削除せずに修正できます。一般会計で必要な修正を行い、仕訳編集レジスタ・レポート (R48300) に戻ります。仮の仕訳が再度編集され、エラーが検出されなければバッチ状況が更新され、エラーがないことを示します。その後、最終仕訳を作成できます。

請求管理システム・セットアップ・エラー

請求管理システム・セットアップ・エラーの原因は、請求管理システムでの誤ったセットアップ情報です。このエラーの場合、仮の仕訳のバッチを削除し、必要に応じて請求管理システムのセットアップ情報を修正する必要があります。その後、仕訳の生成プログラム(R48132)に戻り、仮の仕訳を作成します。

注意: 仕訳の生成プログラムを実行するたびに、新しいバッチ番号が割り当てられます。システムによりエラーが検出されない場合、バッチ状況はエラーがないことを示し、引き続き最終仕訳を処理できます。

収益情報の削除について

収益情報を確認するとき、この情報の削除が必要になることがあります。収益情報は、バッチ・レベルでのみ削除できます。たとえば、仕訳生成時に誤ったデータ選択を使用した場合に、収益バッチを削除する必要があります。

注意: 最終の総勘定元帳仕訳の作成後は、バッチを削除することはできません。

収益バッチを削除する場合、次の処理が行われます。

- ・ サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)のレコードを削除します。
- ・ 請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の取引から収益情報を削除し、手数料取引を削除します。
- ・ 収益バッチの請求明細仕訳ワークファイル・テーブル(F48S910)および集計仕訳ワークファイル・テーブル(F48S911)のレコードを削除します。
- ・ 給与計算振替ワークファイル・テーブル(F48S0618)の振替取引を削除します。

また、契約請求管理については、次の処理も行われます。

- ・ 契約マスター(F5201)から収益バッチ番号を削除します。
- ・ 契約収益集計ワークファイル・テーブル(F5280W)の手数料取引を削除します。

注意: 1つ以上のNTE取引を含む収益バッチが削除された場合は、元のワークファイル取引を再計算して、将来の処理のために修正NTE仕訳を作成する必要があります。

収益バッチの削除に関する考慮事項

収益バッチを対話形式で削除するか、またはサーバーにジョブを送信できます。Webでシステムを実行している場合は、サーバーにジョブを送信する方法をお勧めします。

サーバーに送信する方式を使用すると、バッチの削除プログラム(R48S900)が呼び出されます。削除が成功した場合は、バッチの削除プログラムによって、バッチが正常に削除されたことを示すレポートが生成されます。バッチが正常に削除されなかった場合は、バッチの削除が失敗したか、または削除対象のレコードが別のユーザーによって予約されていることがレポートに示されます。

事前設定

仕訳編集レジスタ(R48300)の処理オプションをXJDE0001バージョンに設定します。

参照: 第 14 章、「請求書の処理」、「仕訳編集レジスタ(R48300)の処理オプションの設定」、368ページ

仮の総勘定元帳仕訳の確認および改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	<ul style="list-style-type: none"> 「収益計上」(G48S22)、「バッチの検討」 「収益計上」(G5222)、「バッチの検討」 	仕訳編集レジスタ・レポートを実行して、仮の総勘定元帳仕訳を確認します。このレポートを実行する前に、仕訳編集レジスタ(R48300)の処理オプションをXJDE0001バージョンに設定します。 収益バッチを削除します。

総勘定元帳仕訳の仕訳編集レジスタの印刷

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択して「ロー」メニューの「仕訳編集レジスタ」を選択します。

選択したバッチの仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)が実行されます。

最終の総勘定元帳仕訳の作成

この項では、最終の総勘定元帳仕訳および次の方法について説明します。

- ・ 総勘定元帳仕訳の作成(R48198)の処理オプションの設定
- ・ 最終の総勘定元帳仕訳の作成

最終の総勘定元帳仕訳について

取引明細テーブル(F0911)で最終の総勘定元帳仕訳を作成して、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムでの収益認識処理を完了します。総勘定元帳仕訳の作成プログラム(R48198)を使用して、最終の仕訳が作成されます。最終の総勘定元帳仕訳の作成後に、仕訳の転記プログラム(R09801)を使用して仕訳を転記する必要があります。仕訳の転記は、総勘定元帳仕訳の作成プログラムの処理オプションで仕訳の転記プログラムのバージョンを指定して自動的に実行されるか、または手動で行います。

最終の総勘定元帳仕訳を作成すると、次の処理が実行されます。

- ・ サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)の情報をを使用して、一般会計のバッチ制御テーブル(F0011)にバッチ見出しレコードを作成します。
- ・ 集計仕訳ワークファイル・テーブル(F48S911)の仕訳を使用して、最終の仕訳をテーブルF0911に書き込みます。
- ・ 請求明細仕訳ワークファイル・テーブル(F48S910)の仕訳を使用して、総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)に書き込みます。
- ・ 関連するワークファイル取引の仕訳状況を更新して、総勘定元帳仕訳用に処理されていることを示します。

- 適格性コードが2(収益のみに使用可能)または4(原価のみに使用可能)の場合は、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)のワークファイル取引を請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)に移動します。

注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、仕訳作成の制御モードに「請求/収益 - 調整なし」を選択すると、F4812テーブルの非T&Mの収益レコードがF4812Hテーブルに移動されます。一方、仕訳作成の制御モードに「請求/収益 - 調整あり」を選択すると、F4812テーブルの非T&Mの収益ワークファイル・レコードが更新され、F4812Hテーブルには移動されません。

- 請求固定情報プログラムで「仕訳振替の制御」チェックボックスが選択されており、仕訳生成時に給与計算振替が検出された場合、給与計算振替ワークファイル・テーブル(F48S0618)を使用して、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に取引を書き込みます。

注意: 総勘定元帳仕訳の作成プログラム(R48198)では、多通貨勤怠管理がサポートされています。

- テーブルF48S910、F48S911、およびF48S0618から取引を削除します。
- F48011テーブルからバッチ見出しレコードを削除します。
- 見出しのみが含まれるレポートを作成します。

レポートにはエラーは表示されません。詳細情報は、仕訳編集レジスタ・レポート(R48300)または従業員ワーク・センター・プログラム(P012501)を参照してください。

また、契約請求管理については、次の処理も行われます。

- 契約収益集計ワークファイル・テーブル(F5280W)を使用して、契約収益集計テーブル(F5280)の収益レコードを更新します。

注意: NTE限度額を超過している場合は、F5280WテーブルのNTE相殺レコードがクリアされ、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の対応するレコードが取引分類フィールド(TCLS)の値B(NTEプレース・ホルダー)および適格性コードフィールド(ELGC)の値2(収益のみに使用可能)で更新されます。

- F5280Wテーブルのレコードを削除します。

最終の総勘定元帳仕訳の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	<ul style="list-style-type: none"> 「収益計上」(G48S22)、 「バッチの検討」 「収益計上」(G5222)、 「バッチの検討」 	最終の総勘定元帳仕訳を作成します。

総勘定元帳仕訳の作成(R48198)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン

この処理オプションでは、総勘定元帳仕訳の作成プログラム(R48198)によって呼び出されるプログラムのバージョンを指定できます。

- 仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョン** 仕訳処理用の仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

2. 仕訳の転記プログラム (R09801) のバージョン

総勘定元帳バッチの自動転記に使用する総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、この総勘定元帳バッチは自動的に総勘定元帳に転記されません。標準の総勘定元帳転記レポート・プログラム (R09801) を使用して後で転記できます。

バッチ承認

この処理オプションでは、総勘定元帳仕訳の作成プログラム (R48198) で総勘定元帳仕訳が自動的に承認および転記されるように、一般会計固定情報の「管理者承認」設定を一時変更できます。

1. バッチ承認

このバッチ処理で作成された総勘定元帳バッチに適用するバッチ状況を指定します。値は次のとおりです。

空白: 一般会計固定情報に従ってバッチを更新します。

1: 一般会計固定情報に関係なく、バッチ状況を承認済に更新します。

最終の総勘定元帳仕訳の作成

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択して、「ロー」メニューから「仕訳の作成」を選択します。

総勘定元帳バッチの転記

この項では、総勘定元帳バッチの転記の概要および総勘定元帳バッチの転記プログラムの実行方法について説明します。

総勘定元帳バッチの転記について

最終の総勘定元帳仕訳を作成した後に、最終の仕訳を確認および承認し、取引明細テーブル (F0911) に転記して、収益認識処理全体を完了させます。

仕訳バッチを転記すると、相手勘定の自動仕訳が作成され、転記済として F0911 テーブルの仕訳が更新されます。

仕訳の確認および転記プログラムは、一般会計で使用したものと同一プログラムです。

総勘定元帳バッチの転記プログラムの実行

仕訳の転記プログラム (R09801) を実行するには、次のいずれかの方法を使用します。

- サービス請求管理の「収益計上」(G48S22) メニューまたは契約請求管理の「収益計上」(G5222) メニューから、直接「仕訳の転記」を選択します。
- 「収益計上」メニューから「仕訳の検討」を選択し、「バッチの処理」フォームの「ロー」メニューから「バッチ別の転記」を選択します。この方式を使用すると、転記する前にバッチを検討できます。

選択するナビゲーションは使用する転記の方式によって異なります。「仕訳の転記」メニュー・オプションから転記すると、次の処理を実行できます。

- すべての承認済のバッチの転記

- 手動のデータ選択を使用した転記

仕訳の検討プログラムから転記すると、自動データ選択およびサブシステムを使用して転記できます。

契約請求管理の契約収益集計テーブルの再作成

この項では、契約収益集計テーブルの概要と契約収益集計テーブルの再作成プログラムの実行方法について説明します。

契約収益集計テーブルについて

契約収益集計テーブル (F5280) のデータが削除されたり、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) や請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) の取引と同期していない場合は、契約請求行詳細テーブル (F5202) の契約請求行のテーブル F4812 および F4812H の情報を使用して、集計テーブルを再作成できます。

契約収益集計テーブルには、単価、タイム・アンド・マテリアル、総額、追加料金、間接労務費、および手数料請求行のみが生成されます。タイム・アンド・マテリアル請求行には、累計額に対して 1 行が作成されます。元帳日付、期間、西暦、および会計年度はブランクになります。

重要: 契約収益集計テーブルの再作成プログラム (R52809) は、通常とは異なる状況でデータを復元するように設計されています。このプログラムは、必要な場合にのみ、システム管理者が実行します。

このプログラムの実行時に請求管理システムにアクティブな収益バッチがある場合、予期しない結果が生じる可能性があります。また、このプログラムは、夜間か、または業務のピーク時を避けて実行してください。

契約収益集計テーブルの再作成プログラムは、見出しのみが含まれるレポートを作成します。このレポートでは、プロセスが正常に終了したことを確認できます。ただし、レポートには情報は印刷されません。

契約収益集計テーブルの再作成プログラムの実行

「上級/技術的操作」(G5231) の「契約収入集計テーブルの再作成」を選択します。

第 14 章

請求書の処理

この章では、請求書処理の概要と、次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の自動生成
- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の自動生成
- 請求書バッチの検討
- 請求書情報の改訂
- 請求書情報の削除
- 請求書情報の追加
- クレジット・メモの作成
- 請求書仕訳の作成
- 請求書バッチの転記
- 請求書の印刷
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金の処理
- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金の処理
- 請求書履歴の処理

請求書処理について

この項では、共通フィールドと次の項目について説明します。

- 請求書の生成
- 請求書の維持管理と処理
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の取引の順序/集計規則
- 仕訳の振替
- 関連元帳バッチ処理
- 請求書の処理の伝票タイプ
- 請求書の生成の多通貨処理

この章で使用する共通フィールド

伝票会社

請求書伝票の会社を指定します。

調整No.	この番号は、完了した契約請求書に対する変更を制御するために、自動的に割り当てられます。完了した契約請求書とは、送信済の請求書のことです。この番号は、以前の契約請求書を再度開かないかぎり、常にゼロとなります。
契約請求書No.	指定した契約の最後または現在の契約請求書番号を入力します。(その契約に対して請求書が発行されるたびに、新しい契約請求書番号が割り当てられます。)
請求開始日	取引が請求されるかどうか判別するために使用する開始日付を入力します。総勘定元帳の日付が開始日から終了日までの範囲内であれば、取引は請求されます。
請求終了日	締め日付を入力します。この日付以降に入力した取引は、この請求サイクル内では請求されません。 このフィールドをブランクした場合は、元帳日付に基づいてデフォルトの締め日付が指定されます。請求書の生成処理では、締め日付を、ワークファイル取引に格納されているテーブル比較基準日(WDTBDT)と比較します。テーブル比較基準日が締め日付より後である場合、ワークファイル取引は請求書バッチに含められません。
契約/タイプ/会社	この契約をシステム上で一意に識別する番号を入力します。契約の入力時にこのフィールドをブランクにすると、自動採番機能(システム52、インデックス01)により番号が割り当てられます。
顧客	請求取引や売掛金取引の転記先となる住所録番号を入力します。
伝票タイプ	請求書入力の伝票タイプを示すユーザー定義コード(UDC)テーブル00/DIの伝票タイプを指定します。請求書のみの入力に対して設定するすべての伝票タイプは、R(売掛金)で始まる必要があります。デフォルトは、RI、RR、RMです。伝票、請求書、入荷確認書およびタイムシートに対して、予約済の伝票タイプが定義されています。 予約済の伝票タイプは次のとおりです。 P_ 買掛伝票 R_ 売掛伝票 T_ 給与計算伝票 I_ 在庫伝票 O_ オーダー処理伝票 <hr/> 注意: 請求書のデフォルト伝票タイプがUDC 00/DTおよびUDC 00/DIの両方で設定されていることを確認します。 <hr/>
為替レート基準日	請求書日付を使用して、請求書の為替レートを取得するには、「1」を入力します。 請求書の元帳日付を使用して、請求書の為替レートを取得するには、「2」を入力します。
元帳日付	ソース取引を転記する会計期間を決める日付を入力します。会社の会計年度および現在の会計期間に基づき、PBCO(過去期間)、PYEB(前年度以前)、PACO(未来期間)、WACO(次年度以降)のこのフィールドが検証されます。

請求日付	請求書の印刷日を指定します。JD Edwards EnterpriseOne受注管理システムで請求書印刷プログラムを実行すると、この日付が更新されます。
請求書タイプ	請求書の伝票タイプを入力します。このフィールドをブランクにすると、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理および契約請求管理のシステム固定情報に基づいて、デフォルトの請求書の伝票タイプが指定されます。
一括行計算方法/元帳タイプ	<p>1つ目のフィールドには、総額行の計算方法を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。</p> <p>ブランク: 方式1と2で結果が大きい方を使用します。デフォルトはブランクです。</p> <p>1: 完了率方式で計算します。この方式では次のように計算します。$((\text{実際原価} \div \text{最終予想原価}) \times \text{予定値}) - \text{前の請求額}$。</p> <p>2: 原価割増率方式を使用して計算します。この方式では次のように計算します。$((\text{予定値} - \text{最終予想原価}) \div \text{最終予想原価}) \times \text{今期の実際原価} - \text{今期の前の請求額}$。</p> <p>3: 定義元帳方式で計算します。この方式では次のように計算します。$(\text{定義元帳の完了率} \times \text{予定値}) - \text{前の請求額}$。</p> <p>定義元帳方式では、最初の相互参照勘定のみが考慮されます。勘定にワイルドカードが含まれている場合、計算は実行されません。元帳が入力されていない場合は、F%元帳が使用されます。</p> <p>9: 方式1と2の結果のうち、小さい方を使用します。</p> <p>2つ目のフィールドには、AA(実績金額)、BA(予算金額)、AU(実績数量)など、元帳のタイプを指定するUDC(09/LT)のコードを入力します。総勘定元帳内で同時に複数の元帳を設定して、すべての取引の監査証跡を設定できます。</p>
支払条件	<p>請求書が割引期日内に支払われた場合に適用される割引率など、支払条件を指定するコードを入力します。ブランクのコードは、最も使用頻度の高い支払条件を示します。各支払条件タイプは「支払条件の改訂」フォームで定義します。支払条件には次のようなものがあります。</p> <p>ブランク: 15日以内支払</p> <p>001: 30日(10日以内1%割引)</p> <p>002: 30日(10日以内2%割引)</p> <p>003: 各月10日支払</p> <p>006: 受取時払い</p> <p>このコードは、顧客請求書に印刷されます。</p>
税域/税目	<p>1つ目のフィールドには、共通の税率と税配賦が割り当てられる税域または地域を示す税域コードを入力します。税域は、納税先(たとえば、都道府県や市町村)とその税率が含まれるように定義してください。税率/税域テーブル(F4008)にある値を設定する必要があります。</p> <p>2つ目のフィールドには、税額や総勘定元帳の配賦金額の計算に使用されるアルゴリズムを制御するための、UDC 00/EXの税目コードを入力します。この税目コードと税率/税域、税規則を組み合わせで税計算の方法が決まります。取引支払項目ごとに異なる税目コードを指定できます。</p>

金額ゼロ請求書の処理

このフィールドをblankにすると、請求アクティビティが存在する契約についてのみ請求書が作成されます。これにより、金額がすべてゼロの請求書が作成されなくなります。

「1」を入力すると、請求アクティビティの有無に関係なく、請求書が作成されます。金額がすべてゼロの請求書が作成されます。

「2」を入力すると、請求アクティビティの有無に関係なく、すべての金額がゼロに初期化された請求書が作成されます。

請求書の生成

システムによって最初に作成される、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) のワークファイル取引は、区別されない汎用的な取引です。これらの取引には、請求書を作成する場合に必要なキー情報が含まれていますが、これらの取引は区別されておらず、特定の請求書番号は割り当てられていません。

ユーザーが請求書を作成できるのは、請求書の作成に必要な情報を含むワークファイル取引がシステムによって作成された後です。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理システムおよび JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理システムでは、請求書を自動または手動で作成できます。請求書を自動で作成するには、「請求書の処理」メニューから請求書の生成プログラム (R48121) を実行します。請求書を手動で作成するには、「バッチの処理」フォーム (W48221B) の「フォーム」メニューから「バッチの作成」を選択し、「請求書の処理」フォーム (W48222B) の「フォーム」メニューから「請求書の作成」を選択します。

「請求書の処理」メニューから請求書の生成プログラムを実行すると、F4812 テーブルから選択されたワークファイル取引が自動的に集計され、集計レコードが請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) に保存されます。JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の取引の場合は、ユーザーがワークファイル取引の集計方法を制御するために定義した順序/集計規則が使用されます。JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の取引の場合は、ユーザーがワークファイル取引の集計方法を制御するために定義した請求行が使用されます。売掛仕訳の作成プログラム (R48199) を実行すると、請求書の集計仕訳を使用して、売掛金元帳テーブル (F03B11) に取引が作成されます。

手動では、請求書バッチの作成、バッチ内の請求書の作成および支払項目の管理を実行できます。これらの処理は、既存のワークファイル取引をマージするか、またはアドホック・ワークファイル取引を請求書に直接追加することによって行います。

請求書情報を手動で作成する場合は、請求書バッチを作成するとき、仕訳の生成プログラムおよび売掛仕訳の作成プログラムを自動実行できません。これらのプログラムは、バッチの検討プログラム (P48221) から呼び出す必要があります。

注意: JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の取引では、請求書情報を手動で作成する場合、ユーザーが請求書支払項目のレベル区切りロジックとして定義した順序/集計規則が遵守されません。順序と集計のロジックは、支払項目を手動で作成する場合と同様の方法を使用して、手動で制御します。また、請求書バッチを手動で作成する場合は、仕訳の生成プログラムおよび売掛仕訳の作成プログラムを自動実行することもできません。これらの処理は、バッチの検討プログラム(P48221)から呼び出す必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の取引では、請求書を自動または手動のどちらで作成する場合も、請求書の作成に次のすべての方法を使用できます。

請求アクティビティが存在する契約についてのみ請求書を作成する。このように設定すると、金額がすべてゼロの請求書が作成されなくなります。

請求アクティビティの有無に関係なく、請求書を作成する。金額がすべてゼロの請求書が作成されます。

請求アクティビティの有無に関係なく、すべての金額がゼロに初期化された請求書を作成する。

請求書を自動または手動で作成すると、請求管理システム内のすべての請求書バッチが検討可能になります。

注意: 用語「請求書」は、まず、F4812テーブルのワークファイル取引と請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)の請求書の集計情報から生成された請求書情報、という意味場合があります。また、顧客のために印刷した請求書、という意味の場合もあります。印刷される請求書は、請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド・プログラム(R48507)を使用して定義した請求書レイアウトに基づいて印刷されます。

請求書の維持管理と処理

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムでは、4つのレベルで請求書情報を維持管理できます。次の表は、その概要を示しています。

タスク・レベル	可能なアクション
バッチ	<ul style="list-style-type: none"> バッチを自動または手動で作成する。 バッチ見出しと関連するすべての請求書情報を削除することによって、バッチを削除する。
請求書	<ul style="list-style-type: none"> 請求書を自動で作成する。 既存のバッチに請求書を手動で追加する。 バッチから請求書を削除する。

タスク・レベル	可能なアクション
支払項目（サービス請求管理のみ）	<ul style="list-style-type: none"> 請求書支払項目を自動で作成する。 支払項目を請求書に手動で追加する。 支払項目を請求書から削除する。 請求書の既存の支払項目を改訂する。 <p>注意: 契約請求管理の請求書に対する支払項目の追加や削除はできません。</p>
ワークファイル取引	<ul style="list-style-type: none"> 支払項目のワークファイル取引を自動で集計する。 支払項目のアドホック・ワークファイル取引を作成する。 1つの支払項目について既存のワークファイル取引をマージする。 支払項目からワークファイル取引を削除する。

たとえば、請求書が200ある請求書バッチについて、請求額が1箇所間違っており、顧客に対して間違った請求が行われたことにプロジェクト管理者が気づいたとします。この状況を解消するには、「バッチの処理」フォームから請求書バッチを選択し、間違いのある請求書を選択し、変更が必要な支払項目を選択し、その支払項目に関して問題となっているワークファイル取引を削除します。請求書に新しい額が反映され、問題となったワークファイル取引は引き続き請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に存在します。したがって、後日それを修正して新しい請求書を作成できます。

一般的な請求管理の請求書処理は、次の処理で構成されます。

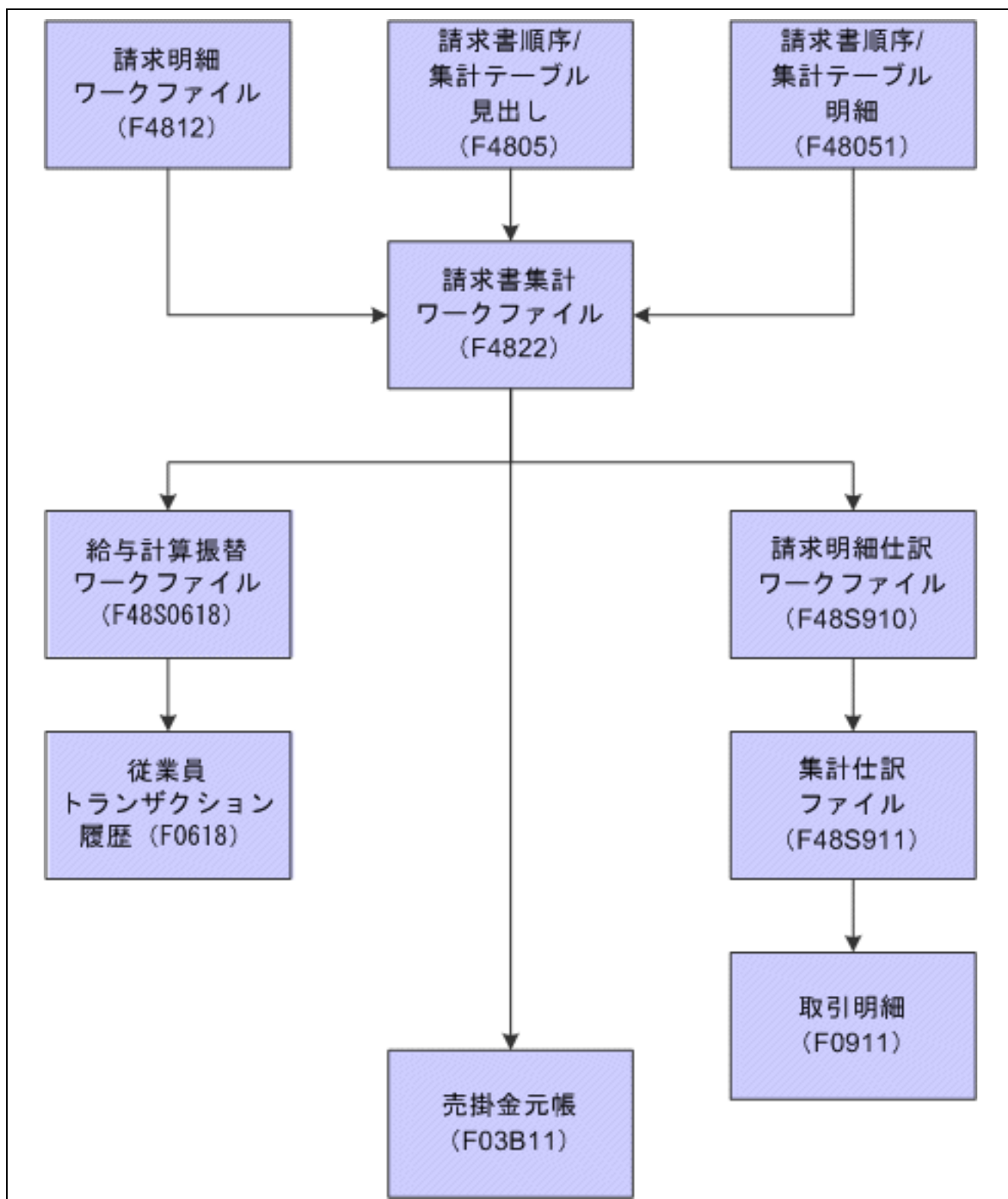
- 請求書の生成
- 手形請求書の印刷
- 請求書の情報の維持管理
- 仮の仕訳の生成
- 最終仕訳の作成
- 総勘定元帳への請求書の転記
- 最終請求書の印刷

最終の請求書仕訳を作成した後に、最終の請求書仕訳を確認、承認、転記して請求処理全体を完了させます。その後、請求書印刷プログラム(R48507)を使用して、顧客向けの請求書を印刷できます。

請求の売掛仕訳と元帳仕訳を作成すると、請求処理を完了したワークファイル取引が請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)に移動されます。

注意: 請求書順序/集計テーブル見出しテーブル(F4805)と請求書順序/集計テーブル明細テーブル(F48051)は、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の取引に対してのみ使用されます。

次のフローチャートは、請求書の処理で使用される主なテーブルの関係を示しています。



請求書の処理で使用するテーブル

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の取引の順序/集計規則

請求書バッチを請求明細ワークファイル(F4812)から生成する場合、新しい請求書が顧客ごとに作成されます。請求書が作成されたら、請求書に記載される取引情報の順序設定と集計の方法を定義する必要があります。そのためには、順序/集計キーを定義します。

順序/集計キーはユーザーが定義し、生成される請求書のバッチ内の区切りおよびバッチ内での個々の請求書の区切りを示します。次のレベルの区切りを定義する必要があります。

- 請求書レベル(I)

定義した順序/集計キーが請求書レベルで変わる場合は、固有の請求書番号を持つ新しい請求書が作成されます。

- 支払項目レベル(P)

定義した順序/集計キーが支払項目レベルで変わる場合は、請求書の請求明細に新しい行が作成されます。請求明細の新しい行には、固有の支払項目番号が割り当てられます。

定義した順序/集計キーは、次の用途に使用されます。

- 請求書番号を割り当てます。
- 請求書および支払項目別取引を集計します。
- 売掛仕訳の作成時の、売掛金元帳テーブル(F03B11)での取引の表示を制御します。
- 該当キー請求書情報でワークファイル取引を更新します。

たとえば、請求書レベルではジョブ(ビジネスユニット)を使用し、支払項目レベルでは作業オーダー(補助元帳)を使用する順序/集計キーを定義できます。請求書の生成時に、このキーを使用して次の処理が実行されます。

- ジョブ(ビジネスユニット)が変わったときに新しい請求書番号を作成します。
- ジョブ(ビジネスユニット)の作業オーダー(補助元帳)が変わったときに新しい支払項目番号を作成します。

1つの請求書に使用できる顧客番号は1つのみです。顧客番号が変わった場合は、順序/集計キーの設定に関係なく、新しい請求書番号が作成されます。

仕訳の振替

請求固定情報で仕訳の振替を有効に設定しているかどうか、およびワークファイルの改訂プログラム(P4812)の処理オプションの設定に応じて、ワークファイル取引の勘定情報を振替、つまり変更できます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムでは、仕訳の振替を使用して、当初の原価仕訳を別の勘定に移動し、修正仕訳を取引明細テーブル(F0911)に自動で作成できます。

仕訳の振替が有効となるように請求固定情報を設定すると、仕訳作成中に、修正仕訳がF0911テーブルに作成されます。

たとえば、1つの支払期間内に、1人の従業員が2つの異なる作業オーダーに対して時間を請求すると想定します。その従業員が、支払期間に対する時間の入力を間違えたとします。経理部門で給与計算ランザクションが処理された後に原価を確認したところ、従業員のデータ入力ミスが見つかったとします。

このエラーを修正するために、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)のワークファイル取引内の作業オーダー番号を変更します。仕訳の振替が有効の場合に仕訳の生成プログラム(R48131)を実行すると、収益と原価について、修正仕訳と仮の仕訳が作成されます。調整仕訳がF0911テーブルに作成されて、当初の勘定が逆仕訳され、新しい勘定が更新されます。

修正仕訳は、伝票タイプ(AJ)で識別できます。また、仕訳の振替には、ワークファイル取引と同じ支払タイプ、控除、福利厚生および有休(PDBA)コードが使用されます。たとえば、定期給与に対して101が使用されます。ただし、請求固定情報でPDBAコードの一時変更を使用する場合を除きます。

給与計算で発生したワークファイル取引を修正する場合は、F0911テーブルに調整仕訳が作成される以外に、売掛仕訳の作成(R48199)プログラムまたは振替仕訳の作成(R48198)プログラムの実行時に、従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に調整仕訳が作成されます。これらの仮の修正仕訳は、売掛仕訳の作成プログラムまたは振替仕訳の作成プログラムが終了するまで、給与計算振替ワークファイル・テーブル(F48S0618)に保存されます。

関連元帳バッチ処理

請求書バッチの処理中に、振替仕訳を作成して原価の再配賦仕訳および振替仕訳をサポートする必要がある場合は、関連元帳バッチが作成されます。作成された関連元帳バッチは請求書バッチに割り当てられます。関連元帳バッチには、請求書仕訳に関連する総勘定元帳仕訳が含まれます。

売掛仕訳の作成プログラム(R48199)を実行すると、請求書仕訳がF0911テーブルと売掛金元帳(F03B11)テーブルに書き込まれるときに、関連する元帳バッチが取引明細テーブル(F0911)に書き込まれます。

注意: 請求書を無効にしても、関連する元帳バッチの仕訳は無効にされません。

請求書の処理の伝票タイプ

請求書処理を完了すると、元帳仕訳が作成されます。次の伝票タイプを使用して仕訳の発生元を識別できます。

伝票タイプ	説明
RI - 請求書入力	請求書の生成中に割り当てられる伝票タイプ。このコードはハードコード化されていません。別の伝票タイプを指定できます。
RM - クレジット・メモ	クレジット・メモを作成すると割り当てられる伝票タイプ。
EU - 総勘定元帳仕訳	請求書情報に関連する収益共有または原価振替について、総勘定元帳の関連仕訳の処理中に作成される仕訳。
AJ - 総勘定元帳仕訳の調整	以前に処理した仕訳のための調整仕訳。収益認識が使用される場合にのみ使用されます。この仕訳は関連する総勘定元帳の処理中に作成されます。
BA - 請求調整	JD Edwards EnterpriseOne 一般会計システムから発生した振替仕訳。この仕訳は関連する総勘定元帳の処理中に作成されます。
T2 - 給与労務費配賦	給与労務費から発生した振替仕訳。この仕訳は関連する総勘定元帳の処理中に作成されます。

伝票タイプ	説明
T4 - 労務費請求配賦	労務費請求から発生した振替仕訳。この仕訳は関連する総勘定元帳の処理中に作成されます。
T5 - 設備配賦	JD Edwards EnterpriseOne Payrollシステムの設備請求から発生した振替仕訳。この仕訳は関連する総勘定元帳の処理中に作成されます。

請求書の生成の多通貨処理

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の生成プログラム(R48121)およびJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の生成プログラム(R52121)にはそれぞれ、為替レートの基準にする日付を指定するための処理オプションが用意されています。

この処理オプションでは、為替レート・テーブルの検索に請求書日付と元帳日付のどちらを使用するかを指定します。すべての取引を月末に転記するが、為替レート・テーブルを毎日変更することを選択した場合は、為替レート・テーブルを請求書日付に基づいて検索するよう指定します。

一方、転記した日付に基づいてすべての通貨取引を計算する場合は、元帳日付に基づいて為替レートを取得するよう指定します。請求書の作成にバッチ方式または対話方式のどちらを使用する場合でも、「為替レート基準日」処理オプションが必要です。初期選択を行わなかった場合は、デフォルトで1、つまり請求書日付になります。請求書の生成プログラムで使用される為替レートは、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の請求書為替レート・フィールドで更新されます。

請求書の生成プログラムが印刷するレポートの請求額は、会社の通貨または国内通貨で示されます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の自動生成

この項では、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の生成の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の生成プログラムの実行
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の生成のデータ選択の設定
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の生成(R48121)の処理オプションの設定

関連項目:

第 14 章、「請求書の処理」、「請求書の自動印刷」、385ページ

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の生成について

請求書の生成プログラム(R48121)を実行すると、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の選択された取引が自動的に集計され、請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)に保存されます。ワークファイル取引の集計方法の制御には、ユーザーが定義した順序/集計規則が使用されます。売掛仕訳の作成プログラム(R48199)を実行すると、請求書の集計仕訳を使用して、売掛金元帳テーブル(F03B11)に取引が作成されます。

請求書の生成中、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)にレコードが作成されます。

現在の活動フィールドは、請求書の生成が進行中であることを示す「1」に設定されます。

- 処理オプションとデータ選択基準を使用してF4812テーブルの取引が選択され、F4822テーブルに集計および保存されます。

ワークファイル取引が請求書情報(バッチ番号、請求書番号、支払項目、伝票タイプ、請求書日付)で更新され、請求書にこれらの取引が含まれていることが示されます。

- 請求書と支払項目の集計ロジックを制御するためにユーザーによって定義された、請求書順序/集計テーブル見出しテーブル(F4805)および請求書順序/集計テーブル明細テーブル(F48051)の規則が使用されます。
- 該当する場合に、請求書の留保金情報を計算するためにユーザーによって定義された、相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)の規則が使用されます。
- 請求書が印刷されます(オプション)。
- 仮の仕訳が作成されます。または、「売掛仕訳の作成バージョン(R48199)」処理オプションにバージョンが入力されている場合は、最終の仕訳が作成されます。
- 請求書の生成プログラムの完了時に、テーブルF48011の、バッチに含まれる伝票の金額と数が更新されます。

バッチ見出し内の現在の活動フィールドは、0にリセットされます。これにより、このバッチに対して追加処理を実行できるようになります。

注意: 請求書の生成プログラムから売掛仕訳の作成プログラムが自動で実行されるバージョンが指定されており、エラーが検出されなかった場合、このアクションは実行されません。かわりに、F48011テーブルからレコードが削除されます。

- 作成された請求書の一覧レポートが生成されます。

注意: 請求書の生成プログラム(R48121)の実行時に生成されるレポート(「請求書レジスタ」を含む)は、通貨モードに関係なく、国内通貨建てで印刷されます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書生成のバージョンおよびモード

請求書の作成と、任意で請求書の印刷および仕訳の作成を行うには、請求書の生成プログラム(R48121)の適切なバージョンを選択する必要があります。用途に応じて次のいずれかのバージョンを選択します。

バージョン	用途
請求書の生成 - 仕訳作成なし(XJDE0001)	このバージョンは、手形請求書を作成する必要がある場合にのみ使用します。このバージョンでは、売掛仕訳も振替仕訳も作成されません。
請求書の生成 - テスト・モードの仕訳(XJDE0002)	このバージョンは、請求書を作成し、売掛仕訳と振替仕訳をテスト・モードで作成する場合に使用します。
請求書の生成 - 最終モードの仕訳(XJDE0003)	このバージョンは、請求書を作成し、売掛仕訳と振替仕訳を最終モードで作成する場合に使用します。

請求書の正確性の検討中に仕訳に間違いがないかどうかを確認するには、仕訳をテスト・モードで実行します。仕訳や請求書を検討する必要がない場合は、仕訳を最終モードで実行します。

請求書を生成すると、請求管理システムの売掛仕訳および振替仕訳に対するすべての検証と更新が、仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を使用して実行されます。仕訳の生成プログラム (R48131) の処理オプションを使用して、実行する仕訳編集レジスタ・プログラムのバージョンを指定します。

請求書の生成プログラム (R48121) または売掛仕訳の作成 (R48199) プログラムを実行して仕訳を処理すると、仕訳編集レジスタ・プログラムの処理オプションで指定したバージョンの請求書入力マスター・ビジネス関数および仕訳入力マスター・ビジネス関数が使用されます。仕訳編集レジスタ・プログラムのこの処理オプションをブランクにすると、マスター・ビジネス関数の ZJDE0001 バージョンが使用されます。

請求書入力マスター・ビジネス関数と仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションを検討するには、「システム・アドミニストレーション・ツール」メニュー (GH9011) の「対話型バージョン」を選択し、次の対話型アプリケーションを検討します。

- 請求書入力 MBF 処理オプション (P03B0011)
- 仕訳入力 MBF の処理オプション (P0900049)

注意: プログラムを最終モードで実行中にエラーが検出された場合は、売掛仕訳も振替仕訳も更新されません。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 請求固定情報を定義します。
- ワークファイル取引を生成します。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイルの生成」、261 ページ

- 請求書情報の順序と集計を定義します。

参照: 第 4 章、「請求書処理の設定」、「順序/集計規則の設定」、83 ページ

- 相手勘定/留保金規則を定義します。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の相手勘定/留保金規則の設定」、57 ページ

- 請求書の生成中に請求書を印刷する場合、バージョンを修正します。

参照: 第 4 章、「請求書処理の設定」、「請求書フォーマットの設定」、91 ページ

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の生成プログラムの実行

「請求書の処理」(G48S21) の「請求書の生成」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の生成のデータ選択の設定

BC「請求制御 ID (F4812) (BCI)」フィールドを使用して、間接費を含む請求取引を選択しても、間接費取引はバッチに含まれません。これは、間接費の各レコードは請求制御 ID が異なるためです。この問題を回避するには、データ選択をバッチ番号ごと、会社番号ごと、ジョブ番号ごとなどに設定します。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の生成(R48121)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、請求書の生成におけるデフォルトの伝票タイプ、元帳日付および請求書日付を指定します。

1. **伝票タイプ** 請求書の生成のデフォルトの伝票タイプとして使用する伝票タイプをUDC 00/DIから入力します。この処理オプションをブランクにした場合、請求固定情報に指定されているデフォルトの伝票タイプが使用されます。
2. **元帳日付** 請求書の生成用の総勘定元帳日付を入力します。この日付は、請求書の生成中に割り当てられ、請求書を総勘定元帳ファイルに転記するときに使用されます。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。この日付は、会社固定情報に指定されている、現在の会計期間と照合されます。
3. **請求書日付** 請求書の生成用の請求書日付を入力します。この日付は、請求書の生成中に、請求書に割り当てられます。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。この日付は総勘定元帳日付と照合されません。請求書日付が元帳日付より後である場合は、警告が表示されます。

選択

この処理オプションでは、請求書を生成する際の請求明細取引の選択に使用する、請求の開始日と終了日を指定します。

1. **請求開始日** 請求書の生成用の請求開始日付を入力します。この日付は、請求明細取引の選択に使用されます。この処理オプションをブランクにすると、「テーブル比較基準日」フィールドに請求終了日付より前の日付が指定されている、すべての請求明細取引が請求書の生成用に選択されます。
2. **請求期間終了日** 請求書の生成用の請求終了日付を入力します。この日付は、請求明細取引の選択に使用されます。この処理オプションをブランクにすると、「テーブル比較基準日」フィールドにシステム日付以前の日付が指定されている、すべての請求明細取引が請求書の生成用に選択されます。

処理

この処理オプションでは、レベル区切りと順序の指定および仕訳をテスト・モードと最終モードのどちらで生成するかを指定に使用する、請求書/支払項目構造キーを指定します。

1. **請求書/支払項目構造キー(必須)** 請求書/支払項目構造キーを入力します。請求書/支払項目情報を請求明細取引に割り当てる際にレベル区切りと順序を指定するには、このキーを使用する必要があります。
2. **請求書仕訳の生成バージョン(R48131)** 仕訳をテスト・モードで生成するには、請求書仕訳作成プログラム(R48131)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、請求書仕訳作成プログラムは実行されません。

注意: バージョンを入力すると、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)に対して入力されたバージョンは無視されます。

3. 売掛仕訳の作成バージョン(R48199)

仕訳を最終モードで生成するには、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、売掛仕訳の作成プログラムは実行されません。

注意: 請求書仕訳の作成プログラム(R48131)のバージョンを入力すると、ここで入力されたすべてのバージョンは無視されます。

印刷

この処理オプションでは、使用する請求書印刷プログラム(R48504)のバージョンを指定できます。

1. 請求書印刷バージョン(R48504)

使用する請求書の印刷プログラム(R48504)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、請求書の生成中に請求書は印刷されません。

通貨

この処理オプションでは、請求書の生成で為替レートの取得に使用される日付を指定します。

1. 為替レート基準日

請求書日付を使用して、請求書の生成用の為替レートを取得するには、「1」を入力します。元帳日付を使用するには、「2」を入力します。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の自動生成

この項では、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の生成の概要、事前設定および次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の生成プログラムの実行
- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の生成のデータ選択の設定
- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の生成(R52121)の処理オプションの設定

関連項目:

第 14 章、「請求書の処理」、「請求書の自動印刷」、385ページ

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書の生成について

「請求書の処理」メニューから請求書の生成プログラム(R52121)を実行すると、ワークファイル取引が自動的に集計され、集計レコードが請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)に保存されます。請求書と支払項目の集計ロジックの制御には、ユーザーが定義した契約請求行が使用されます。請求書の生成プログラムの処理オプションで、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)のバージョンを指定し、仕訳の生成プログラム(R48131)のバージョンを指定しなかった場合は、売掛金元帳テーブル(F03B11)の取引の作成に請求書集計仕訳が使用されます。

注意: ワークファイルの生成中に、T&M請求をサポートするワークファイル取引が作成されます。相互参照情報が設定されている場合、非T&M請求(総額、単価、マイルストーン、進捗、分割融資、手数料)をサポートするワークファイル取引は、請求書の生成時に自動で計算および作成されます。

総額請求行には定期請求書を定義できます。処理オプションに1から5までの定期請求コードを指定し、かつ請求額をゼロに初期化していない場合は、請求書を生成するとき、定期請求額が計算されます。

請求書の生成中、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)に請求バッチ見出しレコードが作成されます。
現在の活動フィールドは、請求書の生成が進行中であることを示す「1」に設定されます。
- 処理オプションとデータ選択基準を使用して、選択したワークファイル取引が集計され、T&M請求行についてF4822テーブルに集計レコードが保存されます。
ワークファイル取引が請求書情報(バッチ番号、請求書番号、支払項目、伝票タイプ、請求書日付)で更新され、これらの取引が請求書に含まれていることが示されます。
- 非T&M請求行をサポートするワークファイル取引が相互参照情報を使用して作成され、請求金額が計算され、テーブルF4822が更新されます。
- 請求書に割り当てるため、顧客レコードが契約から取得され、相手勘定が請求行から取得されます。
- 契約マスターの請求書バッチ番号が更新されます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理は処理が累積的に行われるため、1つの契約を一度に複数の請求書バッチの対象にすることはできません。

- 処理オプションの設定に応じて、仕訳の生成プログラム(R48131)が実行されて仮の仕訳が作成されるか、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)が実行されて最終仕訳が作成されます。
- 請求書の生成プログラム(R52121)の完了時に、バッチに含まれる伝票の金額と数についてF48011テーブルの請求書バッチ見出しが更新されます。

バッチ見出し内の現在の活動フィールドは、0にリセットされます。これにより、このバッチに対して追加処理を実行できるようになります。

注意: 売掛仕訳の作成プログラムを請求書の生成プログラムから自動で実行するためのバージョンを入力した場合は、請求書バッチ見出しが削除されるため、このステップは実行されず、エラーは検出されません。

- 処理された契約と処理中に発生したエラーの一覧レポートが生成されます。

請求書を生成すると、請求書番号が割り当てられ、アクティブなワークファイル取引が集計されて、支払項目が作成されます。支払項目は、1つ以上のワークファイル取引を集計した請求行です。特定の請求書の支払項目は、その請求書の合計金額を示します。支払項目情報はF4822テーブルに保存されます。

請求書の生成プログラムの実行後、次の内容を含むレポートが生成されます。

- 契約書番号、請求書番号、関連支払項目
- 請求書ごとの合計
- バッチ番号
- 最高限度金額に達したかどうか
- 支払時請求規則が満たされているかどうか
- 税情報(該当する情報がある場合)

総額、単価、手数料、追加料金または間接労務費の請求書金額の計算

請求書を自動で作成すると、関連する追加料金、間接労務費および手数料を含む、タイム・アンド・マテリアルに関連するワークファイル取引が処理されます。また、対応する請求行の相互参照情報を定義している場合は、総額や単価などの非T&M請求行について請求書金額が計算されます。

マイルストーンまたは進捗の請求書金額の計算

契約のマイルストーンが完了したら、請求イベントの「実際完了日付」フィールドに日付を入力する必要があります。このとき、「完了」フィールドがYに更新されます。これにより、指定したパーセンテージのマイルストーンの請求書を作成できます。

請求書の生成時、請求書の生成の締め日付が実際完了日付と比較されます。生成日付が同一かそれ以降の場合は、マイルストーン請求行の請求イベントが処理されます。請求処理のこの時点で、請求金額を変更することはできません。

事象の請求書が作成されると、「請求済」フィールドがYに更新されます。この時点で、請求イベントは保護され、その事象の情報は変更できなくなります。

最高限度金額の計算

請求書を自動で作成すると、該当する契約の請求済総額と現行取引の合計とが計算され、契約、変更オーダーまたは請求行が最高限度金額を上回っていないかどうか判断されます。最高限度金額を上回っていると、請求書の生成レポートにメッセージが出力されます。該当する請求行に対するいずれかのワークファイル取引によって請求額が最高限度金額を超えた場合、そのワークファイル取引は請求書に含められません。

定期請求書

総額請求行には定期請求書を定義できます。処理オプションに1から5までの定期請求コードを指定し、請求書金額をゼロに初期化していない場合は、請求書金額の計算時に定期請求額が計算されます。

支払時請求

「支払後に請求」フィールドの値が1（支払済買掛金伝票のみ請求可）に設定されている請求行に添付されているT&M取引は、ワークファイル・レコードの関連伝票が支払済の場合にのみ、請求書に含められます。関連伝票が未払のT&M取引は請求書に含められず、エラー・レポートに記載されます。

注意: T&Mワークファイル取引は、請求行に定義されている支払時請求規則を一時変更することがあります。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 請求固定情報プログラム (P48091) の請求固定情報を定義します。
- 契約、請求行および相互参照情報を定義します。

参照: [第 9 章、「契約の設定」、173 ページ](#)

- T&M 請求行についてのみのワークファイル取引を生成します。

参照: [第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイルの生成」、261 ページ](#)

- 請求書の生成中に請求書を印刷する場合、バージョンを修正します。

参照: [第 4 章、「請求書処理の設定」、「請求書フォーマットの設定」、91 ページ](#)

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成プログラムの実行

「請求書の処理」(G5221) の「請求書の生成」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成のデータ選択の設定

BC「請求制御ID (F4812) (BCI)」フィールドを使用して、間接費を含む請求取引を選択しても、間接費取引はバッチに含まれません。これは、間接費の各レコードは請求制御IDが異なるためです。この問題を回避するには、データ選択をバッチ番号ごと、会社番号ごと、ジョブ番号ごとなどに設定します。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成 (R52121) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションでは、請求書を生成する際の請求明細取引の選択に使用する、請求日付および定期請求コードを指定します。

- 1. 請求期間開始日** 請求書の生成用の請求開始日付を入力します。この日付は、請求明細取引の選択に使用されます。この処理オプションをブランクにすると、「テーブル比較基準日」フィールドに請求終了日付より前の日付が指定されている、すべての請求明細取引が請求書の生成用に選択されます。
- 2. 請求期間終了日** 請求書の生成用の請求終了日付を入力します。この日付は、請求明細取引の選択に使用されます。この処理オプションをブランクにすると、「テーブル比較基準日」フィールドにシステム日付以前の日付が指定されている、すべての請求明細取引が請求書の生成用に選択されます。
- 3. 一括定期請求コード1** 請求書の生成用の定期請求コードを選択するには、UDC 52/RBのコードを入力します。
- 4. 一括定期請求コード2** 請求書の生成用の定期請求コードを選択するには、UDC 52/RBのコードを入力します。
- 5. 一括定期請求コード3** 請求書の生成用の定期請求コードを選択するには、UDC 52/RBのコードを入力します。
- 6. 一括定期請求コード4** 請求書の生成用の定期請求コードを選択するには、UDC 52/RBのコードを入力します。
- 7. 一括定期請求コード5** 請求書の生成用の定期請求コードを選択するには、UDC 52/RBのコードを入力します。

デフォルト一時変更情報

この処理オプションでは、生成される請求書のデフォルトの元帳日付、請求書日付および伝票タイプを指定します。

- 1. 元帳日付** 請求書の生成用の総勘定元帳日付を入力します。この日付は、請求書の生成中に割り当てられ、請求書を総勘定元帳ファイルに転記するときに使用されます。この処理オプションをブランクにすると、システム日付が使用されます。この日付は、会社固定情報に指定されている、現在の会計期間と照合されます。
- 2. アプリケーション/請求書日付** 請求書の生成用の請求書日付を入力します。この日付は、請求書の生成中に、請求書に割り当てられます。この処理オプションをブランクにすると、

システム日付が使用されます。この日付は総勘定元帳日付と照合されます。請求書日付が元帳日付より後である場合は、警告が表示されます。

3. 請求書伝票タイプ

請求書の生成のデフォルトの伝票タイプとして使用する伝票タイプをUDC 00/DIから入力します。この処理オプションをブランクにした場合、請求固定情報に指定されているデフォルトの伝票タイプが使用されます。

処理

この処理オプションでは、仕訳を自動作成するかどうかなど、請求書の計算および処理方法を指定します。

1. ゼロ請求書の処理

請求書をいつ作成するかを指定する値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 請求アクティビティが発生した場合にのみ請求書を作成します。この値を指定すると、金額がゼロの請求書は作成されません。

1: 請求アクティビティの有無に関係なく、請求書が作成されます。この値を指定すると、金額がゼロの請求書が作成されます。

2: 請求アクティビティの有無に関係なく、すべての金額がゼロに初期化された請求書が作成されます。

2. 一括支払額の計算方法

総額行の計算方法を指定する値を入力します。値は次のとおりです。

ブランク: 完了率方式と原価率方式のうち、大きい方を使用します。

1: 完了率方式で計算します。 $((\text{実際原価} \div \text{最終予想原価}) \times \text{予定値}) - \text{前の請求額}$ 。

2: 原価率方式で計算します。 $((\text{予定値} - \text{最終予想原価}) \div \text{最終予想原価}) \times \text{今期の実際原価} - \text{今期の前の請求額}$ 。

3: 定義元帳方式で計算します。 $(\text{定義元帳の完了率} \times \text{予定値}) - \text{前の請求額}$ 。定義元帳方式では、最初に参照される勘定のみが考慮されます。勘定にワイルドカードが含まれている場合、計算は実行されません。元帳が入力されていない場合は、F%元帳が使用されます。

9: 完了率方式と原価率方式で結果が小さい方を使用します。

3. 一括支払元帳タイプ

請求書の生成で総額請求行を定義元帳方式で計算する場合に使用される元帳タイプを指定するUDC 09/LTのコードを入力します。ブランクにした場合は、F%が使用されます。

4. 仕訳作成(R48131)

仕訳をテスト・モードで生成するには、請求書仕訳作成プログラム(R48131)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、請求書仕訳作成プログラムは実行されません。

注意: バージョンを入力すると、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)に対して入力されたバージョンは無視されます。

5. 売掛仕訳の作成(R48199)

仕訳を最終モードで生成するには、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)のバージョンを入力します。この処理オプションをブランクにすると、売掛仕訳の作成プログラムは実行されません。

注意: 請求書仕訳の作成プログラム(R48131)のバージョンを入力すると、ここで入力されたすべてのバージョンは無視されます。

印刷

この処理オプションでは、請求書を印刷するかどうかを指定します。

- | | |
|-------------------------------|---|
| 1. 請求書印刷バージョン (R48504) | 使用する請求書の印刷プログラム (R48504) のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、請求書の生成中に請求書は印刷されません。 |
|-------------------------------|---|

一時変更

この処理オプションでは、生成される請求書の税率/税域、税目コードおよび支払条件コードを一時変更できます。

- | | |
|-----------------|---|
| 1. 税率/税域 | 生成中の請求書の税率/税域を一時変更する場合は、請求書の生成に使用する有効な税率/税域を入力します。この処理オプションをブランクにすると、一時変更は行われません。 |
|-----------------|---|

注意: このフィールドに値を入力する場合は、「税目コード」にも有効な一時変更値を入力する必要があります。

- | | |
|-----------------|---|
| 2. 税目コード | 生成中の請求書の税目コードを一時変更する場合は、請求書の生成に使用する有効な税目コードを入力します。この処理オプションをブランクにすると、一時変更は行われません。 |
|-----------------|---|

契約請求管理で税目コードとして使用できるのは、C、E、S、VおよびV+のみです。

注意: 税目コードに一時変更値を入力する場合は、「税率/税域」にも有効な一時変更値を入力する必要があります。

- | | |
|-------------------|---|
| 3. 支払条件コード | 生成中の請求書の支払条件コードを一時変更する場合は、請求書の生成に使用する有効な支払条件コードを入力します。この処理オプションをブランクにすると、一時変更は行われません。 |
|-------------------|---|

通貨オプション

この処理オプションでは、為替レートを取り込む日付を指定します。

- | | |
|--------------------|--|
| 1. 為替レート基準日 | 請求書日付を使用して、請求書の生成用の為替レートを取得するには、「1」を入力します。元帳日付を使用するには、「2」を入力します。 |
|--------------------|--|

請求書バッチの検討

この項では、請求書バッチの概要と次の方法について説明します。

- バッチの検討 (P48221) の処理オプションの設定
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書バッチの検討
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の検討
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書明細の検討

- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書バッチの検討
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書明細の検討
- タイム・アンド・マテリアル契約請求行の請求書の集計情報の検討
- 単価契約請求行の請求書の集計情報の検討
- 総額契約請求行の請求書の集計情報の検討
- 手数料契約請求行の請求書の集計情報の検討
- マイルストーン契約請求行の請求書の集計情報の検討
- 進捗契約請求行の請求書の集計情報の検討
- 直接分割融資契約請求行の請求書の集計情報の検討
- 率による分割融資契約請求行の請求書の集計情報の検討

請求書バッチについて

請求書を生成すると、請求書取引のバッチが作成されます。また、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の取引がこの情報で更新されます。

- バッチ番号
- 請求書番号
- 支払項目番号
- 請求書日付

バッチとは1単位として処理および残高計算される、取引のグループのことです。バッチ情報は、サービス請求バッチ制御テーブル (F48011) に格納されます。

バッチの検討プログラム (P48221) を使用して、後続の処理に備えて取引のバッチを選択します。たとえば、請求書を印刷してプロジェクト管理者ごとに検討する場合は、バッチの検討プログラムを使用して請求書を修正できます。

特定のバッチに対する処理の制御には、F48011テーブルの「現在の処理状況」フィールドが使用されます。「現在の処理状況」フィールドは、バッチの処理中に更新されます。たとえば、バッチを選択し、仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) を実行したとします。この場合、「現在の処理状況」フィールドは3(仕訳作成中)に更新され、バッチの処理中であることが示されます。現在の処理状況がこの値になると、仕訳編集レジスタ・プログラムが終了するまでこのバッチにはアクセスできなくなります。終了すると、「現在の処理状況」フィールドは0(処理に使用可)にリセットされます。これで、このバッチを後続の処理で使えるようになります。

場合によっては、バッチの現在の処理状況を改訂する必要が生じます。たとえば、請求書の生成プログラム (R48121) が停電のために正常終了しなかった場合に、この操作が必要になることがあります。この場合は、現在の処理状況によって、このバッチにアクセスして後続の処理を行うことができなくなります。バッチ見出しテーブル (F48011) のバッチの現在の処理状況をリセットする場合は、データベース管理者に連絡してください。

請求書バッチの検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理 (JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の場合)	W48221B	「請求書の処理」 (G48S21)、「バッチの検討」	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理のバッチを検討します。
請求書の処理 (サービス請求管理の場合)	W48222B	(サービス請求管理の)「バッチの処理」フォームでバッチを選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書を検討します。
サービス請求書の入力	W4822B	「請求書の処理」フォームで請求書を選択して、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書ごとに明細を検討および改訂します。
請求書明細の改訂 (JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の場合)	W4812C	「サービス請求書の入力」フォームで支払項目を選択し、「ロー」メニューから「請求明細」を選択します。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書明細を検討します。
バッチの処理 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合)	W48221B	「請求書の処理」メニュー (G5221)、「バッチの検討」	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書バッチを検討します。
請求書の処理 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合)	W48222B	(JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の)「バッチの処理」フォームでバッチを選択し、「選択」をクリックします。	契約請求管理の特定の請求書バッチの請求書を検討します。
契約請求行の照会	W5222B	(JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の)「請求書の処理」フォームで請求書を選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書明細を検討します。
請求書明細の改訂 (契約請求管理の場合)	W4812C	「契約請求行の照会」フォームでT&M請求行を選択し、「ロー」メニューから「請求書詳細」を選択します。	特定の支払項目のワークファイル取引を検討および改訂します。
タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂	W52221C	「契約請求行の照会」フォームでT&M請求行を選択し、「選択」をクリックします。	タイム・アンド・マテリアル契約請求行の請求書の集計情報を検討します。
単価請求行の改訂	W52221B	「契約請求行の照会」フォームで単価請求行を選択し、「選択」をクリックします。	単価契約請求行の請求書の集計情報を検討します。
一括請求行の改訂	W52221A	「契約請求行の照会」フォームで総額請求行を選択し、「選択」をクリックします。	総額契約請求行の請求書の集計情報を検討します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
手数料行の改訂, 直接分割融資行の改訂, 率による分割融資行の改訂	W52221E	「契約請求行の照会」フォームで手数料、直接分割融資、率による分割融資のいずれかの請求行を選択し、「選択」をクリックします。	手数料契約請求行の請求書の集計情報を検討します。 直接分割融資契約請求行の請求書の集計情報を検討します。 率による分割融資契約請求行の請求書の集計情報を検討します。
マイルストーン詳細の改訂, 進捗詳細の改訂	W52221D	「契約請求行の照会」フォームでマイルストーン請求行または進捗請求行を選択し、「選択」をクリックします。	マイルストーン契約請求行の請求書の集計情報を検討します。 進捗契約請求行の請求書の集計情報を検討します。

バッチの検討 (P48221) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、バッチの検討で使用するデフォルトのバッチ・タイプおよび生成タイプを指定します。

1. 請求書処理のバッチ・タイプ

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書バッチであることを指定するには、「3」を入力します。JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書バッチであることを指定するには、「4」を入力します。

契約請求管理の収益処理の場合、バッチ・タイプは常に3です。

2. 作成タイプ

バッチの検討で使用するデフォルトの生成タイプを入力します。空のバッチを作成するとこの生成タイプが割り当てられ、バッチ内での入力タイプを制御します。値は次のとおりです。

ブランクまたは1: 請求書処理

2: 収益処理

3: 伝票処理

バージョン

この処理オプションでは、バッチの検討プログラムから実行できる各種プログラムについて、使用するバージョンを指定します。次の処理オプションの1つでもブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

1. 請求書印刷 - R48504 (XJDE0001)

使用する請求書印刷プログラムのバージョンを指定します。

2. 仕訳作成 - R48131 (XJDE0001)

使用する仕訳の生成プログラムのバージョンを指定します。

3. 仕訳編集レジスタ - R48300 (XJDE0001)

使用する仕訳編集レジスタ・プログラムのバージョンを指定します。

4. 売掛仕訳の作成 - R48199 (XJDE0001) 使用する売掛仕訳の作成プログラムのバージョンを指定します。
5. 振替仕訳の作成 - R48198 (XJDE0001) 使用する総勘定元帳仕訳の作成プログラムのバージョンを指定します。
6. 買掛仕訳の作成 - R48197 (XJDE0001) 使用する買掛仕訳の作成プログラムのバージョンを指定します。

処理

この処理オプションでは、削除された請求書で削除済請求書の監査テーブル(F48229)を更新するかどうかを指定します。

1. 請求書の削除 - 監査証跡オプション 削除済請求書の監査テーブル(F48229)を更新するには、「1」を入力します。このテーブルを更新しない場合は、この処理オプションをブランクのままにします。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書バッチの検討

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - バッチの処理

選択(S) 検索(O) 削除(D) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(E) ツール(T)

バッチNo./タイプ *

☒ 売掛金バッチ ☐ 買掛金バッチ ☐ 元帳バッチ ☐ 全バッチ

レコード 1-6 グリッドのカスタマイズ

	バッチ タイプ	作成 タイプ	バッチ 番号	バッチ 日付	合計金額	合計 伝票数	処理 状況	バッチ状況 記述	仕訳 バッチNo.	仕訳 金額
<input checked="" type="radio"/>	4	1	7274	2004/10/15	734,055.85	1	0	請求書生成 - エラーなし		
<input type="radio"/>	4	1	7778	2008/07/01	62,645.01	1	2	バッチ変更 - 仕訳再実行		
<input type="radio"/>	4	1	7800	2008/08/07			0	請求書生成 - エラーなし		
<input type="radio"/>	4	1	7801	2008/08/07			0	請求書生成 - エラーなし		
<input type="radio"/>	4	1	7960	2009/04/01			0	手動調整 - 契約請求書		
<input type="radio"/>	4	1	7961	2009/04/01			0	請求書生成 - エラーなし		

「バッチの処理」フォーム

バッチNo./タイプ

1単位として処理および残高計算される取引のグループを識別する番号を入力します。バッチ生成では、バッチ番号を手作業で割り当てすることも、自動採番プログラムを使用して割り当てすることもできます。

バッチタイプ

このフィールドの値が3の場合は、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムのバッチです。このフィールドの値が4の場合は、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムのバッチです。

作成タイプ

請求書、収益および追加料金のバッチ・タイプおよび割増規則を示します。バッチ・タイプは、バッチが作成されると割り当てられます。請求固定情報の定義に応じて、各種金額に様々な割増規則が適用されます。値は次のとおりです。

- 1: 請求書、収益および追加料金の金額に割増規則を適用します。請求固定情報によって、請求書金額と収益金額が常に同じになるよう指定されて

- いる場合は、収益、請求書および追加料金の金額に対して割増規則が適用されます。請求固定情報によって、請求書金額と収益金額が異なるよう指定されている場合でも、タイプ2の規則が存在しないときには、収益、請求書および追加料金の金額に対して割増規則が適用されます。
- 2: 収益および追加料金の金額に割増規則を適用します。請求固定情報によって、請求書金額と収益金額が異なるよう指定されている場合は、収益および追加料金の金額にのみ割増規則が適用されます。
- 3: 追加料金の金額にのみ割増規則を適用します。この規則は、請求固定情報の設定には左右されません。

処理状況

現在アクティブな処理サイクル・ステップを示します。サービス請求管理および契約請求管理の全体を通じてバッチ・メンバーの整合性を維持する場合に役立ちます。「バッチの検討」フォームでは、このフィールドを使用して、選択された番号のバッチに特定の機能を適用できるかどうかを確認します。値は次のとおりです。

- 0: 処理可能数量
- 1: 生成実行中
- 2: 保守実行中
- 3: 仕訳生成中
- 4: バッチ削除実行中
- 5: 請求書印刷実行中
- 6: バッチ転記中
- 7: 選択処理中

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書の検討

「請求書の処理」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - 請求書の処理

バッチの処理

請求書の処理

選択(S)

検索(I)

削除(D)

開じる(L)

フォーム(F)

ロー(R)

ツール(T)

バッチNo.

5960

新しいバッチNo.

バッチ日付

2002/04/02

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

	請求書 番号	伝票 タイプ	顧客	顧客名	元帳 日付	総額	基本 通貨	外貨建て 金額	請求 通貨	請求書印刷開始 (請求書レベル)
<input type="checkbox"/>	3069	RI	150	Property Management Co...	2005/06/30		USD		USD	
<input type="checkbox"/>	Σ			合計						

「請求書の処理」フォーム

注意: 「請求書印刷開始 (請求書レベル)」フィールドと「請求書印刷終了 (請求書レベル)」フィールドは、Project and Government Contract Accounting (PGCA) 契約の場合にのみ自動入力されます。PGCA 契約は、プロジェクト/米国公共事業契約の作成/編集プログラム (P42G01M) で入力します。

総額 請求書の現在の請求総額が表示されます。

このフォームに表示される合計のローには、このバッチに含まれるすべての請求書の総額が表示されます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書明細の検討

「サービス請求書の入力」フォームにアクセスします。

- 支払項目

請求書の支払項目を識別する番号が表示されます。支払項目番号は、自動で割り当てられます。請求書の支払項目が複数にわたる場合は、連番が割り当てられます。
- 課税対象額

課税対象となる金額です。
- 税額

納税先に納める税額です。この額は、付加価値税（VAT）、使用税、売上税（PST）などの合計です。
- 非課税額

課税対象にならない金額です。商品が免税または税率ゼロであるため、取引のこの部分は売上税、使用税、付加価値税などの対象になりません。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書バッチの検討

「請求書の処理」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - 請求書の処理

バッチの処理

請求書の処理

選択(S)

検索(F)

削除(D)

閉じる(L)

フォーム(F)

ロー(R)

ツール(T)

バッチNo.

7274

バッチ日付

2004/10/15

新しいバッチNo.

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

	契約番号	契約タイプ	請求書番号	伝票タイプ	顧客	顧客名	元帳日付	総額	基本通貨	外貨建て金額	請求通貨
<input type="checkbox"/>	5351	R2	3146	RI	3334	Lewis Enterprises	2005/06/30	734,055.85	USD		USD
<input type="checkbox"/>	Σ					合計		734,055.85			

「請求書の処理」フォーム

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の請求書明細の検討

「契約請求行の照会」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - 契約請求行の照会

選択(S) 検索(O) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約No.

5351

R2

顧客

3334

送付先住所

請求日付

2005/07/13

請求書修正

1

Baseball Ballpark Build

Lewis Enterprises

バッチNo.

7274

請求書No.

3146

開始

2005/06/01

終了

2005/06/30

元帳日付

2005/06/30

レコード 1 - 12

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	請求行	請求行 記述	変更 No.	数量	単位	価格 設定 タイプ	基本 通貨	予定額	現行 正味金額
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	134X	Labor	000			T	USD		7,569.00
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1350-GENERAL	Materials	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1350-SEATING	Seating	000	11.00	PC	U	USD	2,000,000.00	5,500.00
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1355	Equipment	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	1360	Subcontract	000			L	USD	2,500,000.00	595,238.10
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ADMIN	Administrative	000			F	USD		90,421.06
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	001	Draw	000			D	USD	25,000.00-	2,300.00-
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	002	Progress	000			P	USD	100,000.00	10,000.00
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	003	Rated Draw	000			R	USD	1,000.00-	100.00-
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	004	Milestone	000			M	USD	92,000.00	2,300.00
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		変更オーダー合計	000					4,666,000.00	708,628.16
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	Σ	契約合計						4,666,000.00	708,628.16

「契約請求行の照会」フォーム

タイム・アンド・マテリアル契約請求行の請求書の集計情報の検計

「タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No.

3146

RI

修正No.

1

外貨

USD

契約No.

5351

R2

00050

Baseball Ballpark Build

為替レート

変更No.

000

Original

相手勘定

請求行

134X

Labor

予定値

未完了残高

7,569.00-

金額

パーセント

留保額

割引摘要

給与計算

	現期間	前期間	累計		
原価	7,569.00		7,569.00	税率/税域	CO
割増				税目コード	S
小計	7,569.00		7,569.00		
税額	287.62		287.62		
請求合計	7,856.62		7,856.62		

「タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂」フォーム

税率/税域

税率と税配賦が共通している税域または地域を示すコードを入力します。税率/税域は、納税先(たとえば、都道府県や市町村)とその税率が含まれるよう定義してください。税率/税域テーブル(F4008)にある値を設定する必要があります。

税目コード

税の課税方法と、収益勘定および費用勘定への計上方法を制御するUDC 00/EXのコードを入力します。

留保金額

契約行の留保金額が表示されます。

注意: 他の請求行が依存しているT&M請求行を変更すると、手数料、分割融資および留保金の再計算が必要となる可能性がある旨の警告が表示されます。

単価契約請求行の請求書の集計情報の検討

「単価請求行の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - 単価請求行の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No.	3146	RI	請求書修正	1	<input type="checkbox"/> 外貨	USD
契約No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	
変更No.	000		Original		相手勘定	
請求行	1350-SEATING		Seating			
予定値/予定額	4,000.00	500.0000	2,000,000.00	未完了残高		1,994,500.00

金額 パーセント 留保額 摘要

	現期間	前期間	累計	単位	
数量	11.00		11.00	PC	
単価	500.0000	.0000	500.00	税率/税域	CO
小計	5,500.00		5,500.00	税目コード	S
税額	209.00		209.00		
請求合計	5,709.00		5,709.00		

「単価請求行の改訂」フォーム

割引可能額

取引に対して支払が行われるときに総額から差し引かれる、請求書または伝票の支払項目の割引金額を入力します。割引額が、取引時に入力した支払条件に基づいて計算されます。

注意: 割引額の自動計算が、指定した支払項目に正しく適用されていることを確認してください。通常、総額に含まれる運賃、売上税、労務費は割引の対象にはなりません。

注意: 単価請求行を変更した結果、請求書が最高限度金額を超えた場合は、エラー・メッセージが表示されます。成功限度規則が収益にのみ設定されている場合は、収益が超過したレベルの「契約請求行の照会」フォームの「限界外」フィールドに0と表示されます。

総額契約請求行の請求書の集計情報の検討

「一括請求行の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - 一括請求行の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No. 3146 RI 契約請求書No. 1 外貨 USD

契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート

変更オーダー 000 Original 相手勘定

請求行 1360 Subcontract

予定値 2,500,000.00 未完了残高 1,904,761.90

金額 パーセント 留保額 摘要

	現期間	前期間	累計		
正味金額	595,238.10		595,238.10	税率/税域	CO
保管資材				税目	S
小計	595,238.10		595,238.10		
税額	22,619.05		22,619.05		
請求合計	617,857.15		617,857.15		

「一括請求行の改訂」フォーム

正味金額 課税対象となる金額が表示されます。

注意: 総額請求行を変更した結果、請求書が最高限度金額を超えた場合は、エラー・メッセージが表示されます。成功限度規則が収益にのみ設定されている場合は、収益が超過したレベルの「契約請求行の照会」フォームにOと表示されます。

手数料契約請求行の請求書の集計情報の検討

「手数料行の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - 手数料行の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No.	3146	RI	修正No.	1	<input type="checkbox"/> 外貨	USD
契約No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	<input type="text"/>
変更No.	000		Original		相手勘定	<input type="text"/>
請求行	ADMIN		Administrative			
予定値	<input type="text"/>		未請求残高	90,421.06-		

金額 パーセント 留保 摘要

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
小計	90,421.06		90,421.06	CO	
税額	3,436.00		3,436.00		S
請求合計	93,857.06		93,857.06		

「手数料行の改訂」フォーム

マイルストーン契約請求行の請求書の集計情報の検計

「マイルストーン詳細の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - マイルストーン詳細の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

請求書No.	3146	RI	修正No.	1	<input type="checkbox"/> 外貨	USD
契約No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	<input type="text"/>
変更オーダーNo.	000		Original		相手勘定	<input type="text"/>
請求行	004		Milestone			
予定値	92,000.00		残高	89,700.00		

金額 パーセント 留保額 摘要

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
小計	2,300.00		2,300.00	CO	
税額	87.40		87.40		S
請求合計	2,387.40		2,387.40		

レコード 1 - 1 グリッドのカスタマイズ

イベント名	記述	2次 記述	予定値 %	国内通貨額	通貨 コード
1	Contract Work - Mobilization		2.5000	2,300.00	USD

「マイルストーン詳細の改訂」フォーム

進捗契約請求行の請求書の集計情報の検計

「進捗詳細の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの 検計 - 進捗詳細の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

請求書No.3146RI修正No.1

契約No.5351R200050Baseball Ballpark Build

変更オーダーNo.000Original

請求行002Progress

予定値100,000.00残高90,000.00

☐ 外貨USD

為替レート

相手勘定

金額パーセント留保額害別摘要

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
小計	10,000.00		10,000.00	CO	
税額	380.00		380.00		S
請求合計	10,380.00		10,380.00		

レコード 1-1 グリッドのカスタマイズ

イベント名	記述	2次記述	予定値%	国内通貨額	通貨コード
First		Mobilization	10.0000	10,000.00	USD

「進捗詳細の改訂」フォーム

直接分割融資契約請求行の請求書の集計情報の検計

「直接分割融資行の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの 検計 - 直接分割融資行の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No.3146RI修正No.1

契約No.5351R200050Baseball Ballpark Build

変更No.000Original

請求行001Draw

予定値25,000.00-未請求残高22,700.00-

☐ 外貨USD

為替レート

相手勘定

金額パーセント留保摘要

	現期間	前期間	累計	税率/税域	税目コード
小計	2,300.00-		2,300.00-	CO	
税額	87.40-		87.40-		S
請求合計	2,387.40-		2,387.40-		

「直接分割融資行の改訂」フォーム

率による分割融資契約請求行の請求書の集計情報の検計

「率による分割融資行の改訂」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - 率による分割融資行の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No.	3146	RI	修正No.	1	<input type="checkbox"/> 外貨	USD
契約No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	<input type="text"/>
変更No.	000		Original		相手勘定	<input type="text"/>
請求行	003		Rated Draw			
予定値	1,000.00-		未請求残高	900.00-		

	金額	パーセント	留保	摘要
	現期間	前期間	累計	
小計	100.00-		100.00-	税率/税域 <input type="text" value="CO"/>
税額	3.80-		3.80-	税目コード <input type="text" value="S"/>
請求合計	103.80-		103.80-	

「率による分割融資行の改訂」フォーム

請求書情報の改訂

この項では、請求書の改訂での多通貨処理の概要、非T&M契約請求行の請求書金額の改訂の概要、および非T&M契約請求行の請求額の改訂方法について説明します。

請求書の改訂での多通貨処理について

請求書情報へのアクセスには、バッチの検討プログラム(P48221)を使用します。「バッチの処理」フォーム上の合計金額は、常に国内通貨で表示されます。「バッチの処理」フォームのバッチを選択すると、「請求書の処理」フォームが表示されます。「請求書の処理」フォームには、両方の金額がそれぞれの通貨単位で表示されます。通貨が異なる請求書がバッチに複数ある場合は、フォームに合計は表示されません。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の場合の例

「請求書の処理」フォームで請求書を選択すると、「サービス請求書の入力」フォームが表示されます。「サービス請求書の入力」フォームのデフォルト・モードは、ユーザーが現在実行しているモードです。「外貨」オプションを選択すると、外貨建てで表示されます。請求書で請求対象金額の計算に使用される為替レートも表示されます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合の例

「契約請求行の照会」フォームの詳細グリッドに国内通貨建てと外貨建ての金額が両方表示されます。

「作業/金額の改訂」フォーム

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の場合、「サービス請求書の入力」フォームの「ロー」メニューで「請求明細」を選択すると、「請求書明細の改訂」フォームにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合、「契約請求行の照会」フォームで「請求書詳細」を選択すると、「請求書明細の改訂」フォームにアクセスできます。

「請求書明細の改訂」フォームには、請求書に含まれている取引の請求明細が表示されます。「請求書明細の改訂」フォームで取引を選択すると、「作業/金額の改訂」フォームが表示されます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合は、タイム・アンド・マテリアル取引についてのみ「作業/金額の改訂」フォームで請求明細を検討できます。

「作業/金額の改訂」フォームの通貨タブに表示される次のフィールドを検討します。

- 当初為替レート

このレートは、ワークファイルの生成プログラム (R48120) またはワークファイルの再計算プログラム (R481202) (該当する場合) の実行で使用します。

- 請求書為替レート

このレートは、請求書の生成時に使用されます。

- 為替レート基準日
- 為替レート日付

これらのフィールドは、ワークファイルの生成プログラムまたはワークファイルの再計算プログラムの実行時に更新され、「当初為替レート」フィールドの基準になります。

請求書の生成プログラム (R48121 または R52121) を実行すると、請求書に最初に含められるレコードの非固定額が実績額のフィールドにコピーされます。次に、請求書の生成プログラムの実行時に指定した新しい為替レートを使用して、非固定額が再計算されます。再計算された非固定額は、「請求書の処理」フォームに表示されます。個々の取引を監査するために請求書にアクセスすると、請求書為替レートに基づいて再計算された金額が表示されます。元の金額はそのワークファイルの実績額のフィールドに保存されており、請求書が削除された場合は、実績額のフィールドにコピーされている金額で現在の非固定額が更新されます。

金額または割増は、取引が作成されたときのモードでのみ変更できます。非固定モードにアクセスするために「外貨」オプションを選択した場合、金額のフィールドには入力できません。

削除処理中、非固定額は実績額のフィールドで更新されます。この動作により、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の取引の金額は、請求書が生成される前と同じになります。

非T&M契約請求行の請求書金額の改訂について

支払項目がすでに含まれている既存の請求書に金額を追加できます。この場合は、次の処理を実行できます。

- 非T&M請求額の追加
- 関連留保金額の改訂
- 関連手数料額の改訂

更新できるフィールドは、契約請求行の価格設定タイプに応じて限定されます。価格設定タイプが直接分割融資または率による分割融資であるフィールドは更新できません。情報を入力すると、請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) が更新されます。

請求書情報の改訂に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合)	W48221B	「請求書の処理」メニュー (G5221)、「バッチの検討」	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書バッチを検索します。バッチ状況記述や現在の処理状況などのバッチ情報を検討します。
請求書の処理 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合)	W48222B	(JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の)「バッチの処理」フォームでバッチを選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の特定の請求書バッチの請求書を検討します。
契約請求行の照会	W5222B	(JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の)「請求書の処理」フォームで請求書を選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書ごとに明細を検討および改訂します。
単価請求行の改訂	W52221B	改訂する単価請求行を「契約請求行の照会」フォームで選択し、「選択」をクリックします。	単価について非T&M契約請求行の請求書金額を改訂します。
一括請求行の改訂	W52221A	改訂する総額請求行を「契約請求行の照会」フォームで選択し、「選択」をクリックします。	総額について非T&M契約請求行の請求書金額を改訂します。 「契約請求行の照会」フォームの「選択」をクリックすると表示されるフォームは、選択した請求行のタイプによって異なります。
手数料/分割融資の改訂, 直接分割融資行の改訂, 率による分割融資行の改訂	W52221E	改訂する手数料、直接分割融資、率による分割融資のいずれかの請求行を「契約請求行の照会」フォームで選択し、「選択」をクリックします。	手数料、直接分割融資、率による分割融資について非T&M契約請求行の請求書金額を改訂します。 「契約請求行の照会」フォームの「選択」をクリックすると表示されるフォームは、選択した請求行のタイプによって異なります。
マイルストーン詳細の改訂, 進捗詳細の改訂	W52221D	改訂するマイルストーン請求行または進捗請求行を「契約請求行の照会」フォームで選択し、「選択」をクリックします。	マイルストーンまたは進捗について非T&M契約請求行の請求書金額を改訂します。 「契約請求行の照会」フォームの「選択」をクリックすると表示されるフォームは、選択した請求行のタイプによって異なります。

非T&M契約請求行の請求書金額の改訂

請求行の改訂フォーム(「単価請求行の改訂」フォームなど)にアクセスします。

バッチの検計 - 単価請求行の改訂 i ?

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No.	3146	RI	請求書修正	1	<input type="checkbox"/> 外貨	USD
契約No.	5351	R2	00050	Baseball Ballpark Build	為替レート	
変更No.	000		Original		相手勘定	
請求行	1350-SEATING		Seating			
予定値/予定額	4,000.00	500.0000	2,000,000.00	未完了残高	1,994,500.00	

金額 パーセント 留保額 摘要

	現期間	前期間	累計		
数量	11.00		11.00	単位	PC
単価	500.0000	.0000	500.00	税率/税域	CO
小計	5,500.00		5,500.00	税目コード	S
税額	209.00		209.00		
請求合計	5,709.00		5,709.00		

「単価請求行の改訂」フォーム

「単価請求行の改訂」フォームは一例です。表示されるフォームは、選択した請求行タイプによって異なります。

金額を改訂するには、現期間カラムまたは累計カラムのフィールドに入力します。指定しなかった金額は、自動で計算されます。

重要: 留保金額を改訂する場合は、「契約請求行の照会」フォームに戻った後に留保金を再計算しないでください。再計算すると、入力した留保金額が一時変更されます。

請求書情報の削除

この項では、請求書情報の削除、新しいバッチへの請求書の移動、および請求書支払項目からのワークファイル取引の削除の概要と、次の方法について説明します。

- 新しいバッチへの請求書の移動
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書支払項目からのワークファイル取引の削除
- T&M請求書支払項目からのワークファイル取引の削除

請求書情報の削除について

請求書情報の検討中に、請求書情報を削減および削除する必要が生じることが考えられます。請求書情報は、バッチ・レベル、請求書レベルおよびワークファイル取引レベルで削除できます。JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の取引の場合にのみ、請求書情報を支払項目レベルでも削除できます。たとえば、請求書の生成時に間違った伝票タイプが割り当てられていた場合は、請求書バッチ全体を削除する必要が生じることがあります。

請求書バッチを削除すると、次の処理が行われます。

- ・ サービス請求バッチ制御テーブル (F48011) からレコードが削除されます。
- ・ 請求書バッチの請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) から取引が削除されます。
- ・ 請求書バッチの請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の取引から請求書情報が削除されます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、T&M支払項目についてF4812テーブルから請求書情報が削除され、非T&M支払項目のワークファイル取引が削除されます。

- ・ 請求書仕訳が作成されている場合は、この請求書バッチの請求明細仕訳ワークファイル・テーブル (F48S910) および集計仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) からレコードが削除されます。
- ・ JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合にのみ、契約マスター (F5201) から請求書バッチ番号が削除され、マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216) の請求済フラグがリセットされます。

請求書バッチから請求書を削除すると、次の処理が行われます。

- ・ F48011テーブルに保存されているバッチ合計額から、該当する請求書の合計額が差し引かれます。
- ・ 該当する請求書の取引がF4822テーブルから削除されます。
- ・ 該当する請求書のF4812テーブルの取引から請求書情報が削除されます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、T&M支払項目についてF4812テーブルから請求書情報が削除され、非T&M支払項目のワークファイル取引が削除されます。

- ・ 請求書仕訳が作成されている場合は、F48011テーブルのレコードのバッチ状況がリセットされます。このバッチ状況によって、請求書仕訳が再実行されます。
- ・ バッチに含まれている最後の請求書を削除した場合は、F48011レコードが削除されます。
- ・ JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の取引についてのみ、請求書バッチ番号がF5201テーブルから削除され、F5216テーブルの請求済フラグがリセットされます。

請求書から請求書支払項目を削除すると、次の処理が行われます。

- ・ F48011テーブルのレコードに保存されているバッチ合計額から、該当する請求書支払項目の合計額が差し引かれます。
- ・ 該当する支払項目についてF4822取引が削除されます。
- ・ 該当する支払項目について請求書情報がF4812取引から削除されます。
- ・ 請求書仕訳が作成されている場合は、F48011テーブルのレコードのバッチ状況がリセットされます。このバッチ状況によって、請求書仕訳が再実行されます。
- ・ 請求書の最後の支払項目を削除した場合は、該当する請求書が削除されます。

注意: 請求書支払項目は、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の請求書からのみ削除できません。

請求書バッチの削除に関する考慮事項

請求書バッチの削除は、対話的に行うか、ジョブをサーバーに送信して行うことができます。システムを Web 上で実行している場合は、サーバーに送信する方式をお勧めします。

サーバーに送信する方式を使用すると、バッチの削除プログラム (R48S900) が呼び出されます。削除が成功した場合は、バッチの削除プログラムによって、バッチが正常に削除されたことを示すレポートが生成されます。バッチが正常に削除されなかった場合は、バッチの削除が失敗したか、または削除対象のレコードが別のユーザーによって予約されていることがレポートに示されます。

新しいバッチへの請求書の移動について

場合によっては、同じバッチ内で、1つ以上の請求書が承認されず、残りの請求書が承認されることがあります。このような場合、すべての請求書が承認されるまで待機すると、バッチが遅延することがあります。遅延を回避し、承認された請求書が転記されるようにするには、未承認の請求書をそのバッチから削除し、未承認請求書のみを含む新しいバッチに追加します。

請求書を新しいバッチに移動すると、新しいバッチがサービス請求バッチ制御テーブル (F48011) に作成され、元のバッチと新しいバッチの両方の金額、伝票数およびバッチ状況が更新されます。

ワークファイル取引の請求書支払項目からの削除について

請求書支払項目に添付されているワークファイル取引を削除すると、次の処理が行われます。

- サービス請求バッチ制御テーブル (F48011) のレコードに保存されているバッチ合計金額から、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の取引の合計金額が差し引かれます。
- 該当する支払項目について請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) の取引に保存されている請求額から、F4812 テーブルの取引の合計金額が差し引かれます。
- F4812 テーブルの取引から請求書情報が削除されます。
- 請求書仕訳が作成されている場合は、F48011 テーブルのレコードのバッチ状況がリセットされます。このバッチ状況によって、請求書仕訳が再実行されます。
- 該当する支払項目について F4812 テーブルの取引をすべて削除する場合、その支払項目は削除されません。そのかわりに、請求書金額がゼロにリセットされます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合、T&M 請求書支払項目に添付されているワークファイル取引のみ削除できます。

請求書情報の削除に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	<ul style="list-style-type: none"> 「請求書の処理」(G48S21)、「バッチの検討」 「請求書の処理」(G5221)、「バッチの検討」 	<p>請求書バッチを検索し、検討します。</p> <p>請求書バッチを削除します。</p>
請求書の処理	W48222B	「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。	<p>請求書を新しいバッチに移動します。</p> <p>請求書バッチから請求書を削除します。</p>
サービス請求書の入力	W4822B	<p>「請求書の処理」(G48S21)、「バッチの検討」</p> <p>「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。</p> <p>「請求書の処理」フォームで請求書を選択して、「選択」をクリックします。</p>	<p>サービス請求管理の請求書支払項目からワークファイル取引を削除します。</p> <p>請求書から請求書支払項目を削除します。</p>
請求書明細の改訂 (JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の場合)	W4812C	「サービス請求書の入力」フォームで請求書支払項目を選択し、「ロー」メニューから「請求明細」を選択します。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の特定の請求書支払項目についてワークファイル取引を検討し、支払項目からワークファイル取引を削除します。
契約請求行の照会	W5222B	<p>「請求書の処理」(G5221)、「バッチの検討」</p> <p>「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。</p> <p>「請求書の処理」フォームで請求書を選択して、「選択」をクリックします。</p>	<p>T&M請求書支払項目からワークファイル取引を削除します。</p> <p>契約請求管理の個々の請求書の支払項目を検討します。</p>
請求書明細の改訂 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合)	W4812C	「契約請求行の照会」フォームでT&M請求書支払項目を選択し、「ロー」メニューから「請求書詳細」を選択します。	特定のT&M支払項目についてワークファイル取引を検討し、支払項目からワークファイル取引を削除します。

新しいバッチへの請求書の移動

「請求書の処理」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - 請求書の処理

バッチの処理

請求書の処理

選択(S)

検索(I)

削除(D)

閉じる(L)

フォーム(F)

ロー(R)

ツール(T)

バッチNo.

7274

バッチ日付

2004/10/15

新しいバッチNo.

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	契約 番号	契約 タイプ	請求書 番号	伝票 タイプ	顧客	顧客名	元帳 日付	総額	基本 通貨	外貨建て 金額	請求 通貨
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	5351	R2	3146	RI	3334	Lewis Enterprises	2005/06/30	734,055.85	USD		USD
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Σ					合計		734,055.85			

「請求書の処理」フォーム

移動する請求書を1つ以上選択し、「ロー」メニューから「請求書の移動」を選択します。

既存のバッチについて残りの請求書が表示され、移動された請求書は表示されません。見出し領域の「新しいバッチNo.」フィールドに、移動された請求書が含まれる新しいバッチの番号が表示されます。

サービス請求管理の請求書支払項目からのワークファイル取引の削除

「サービス請求書の入力」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - サービス請求書の入力

OK(O)

検索(I)

削除(D)

取消(L)

フォーム(F)

ロー(R)

ツール(T)

バッチNo.

5455

顧客

150

Property Management Company

請求書No.

3044

RI

請求書日付

2005/06/30

元帳日付

2005/06/30

代替受取人

150

請求書フォーマット・バージョン

伝票会社

00050

会社

00050

USD

☐ 外貨

課税額

税額

非課税額

4,748.84

留保額

請求金額合計

4,748.84

請求書為替レート

レコード 1-2

グリッドのカスタマイズ

<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	支払 項目	総額	課税 対象額	税額	非課税額	留保 パーセント	留保 金額	提示 割引額	税率/ 税域
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	001	4,748.84			4,748.84				

「サービス請求書の入力」フォーム

1. ワークファイル取引の削除対象となる請求書支払項目を選択し、「ロー」メニューから「請求明細」を選択して「請求書明細の改訂」フォームにアクセスします。
2. 削除するワークファイル取引を選択し、「ロー」メニューから「請求書から削除」を選択します。

T&M請求書支払項目からのワークファイル取引の削除

「契約請求行の照会」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - 契約請求行の照会									
<div style="float: right; text-align: right;"> <input type="button" value="F1"/> <input type="button" value="F7"/> </div> <div style="clear: both;"></div>									
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> 選択(S) 検索(D) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T) </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> </div>									
契約No.		<input type="text" value="5351"/> <input type="text" value="R2"/>		Baseball Ballpark Build			バッチNo.		<input type="text" value="7274"/>
顧客		<input type="text" value="3334"/>		Lewis Enterprises			請求書No.		<input type="text" value="3146"/>
送付先住所		<input type="text"/>					開始		<input type="text" value="2005/06/01"/>
請求日付		<input type="text" value="2005/07/13"/>					終了		<input type="text" value="2005/06/30"/>
請求書修正		<input type="text" value="1"/> <input type="text"/>					元帳日付		<input type="text" value="2005/06/30"/>

レコード 1 - 12										
グリッドのカスタマイズ										
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	請求行	請求行記述	変更No.	数量	単位	価格設定タイプ	基本通貨	予定額	現行正味金額
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	134X	Labor	000			T	USD		7,569.00
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1350-GENERAL	Materials	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1350-SEATING	Seating	000	11.00	PC	U	USD	2,000,000.00	5,500.00
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1355	Equipment	000			T	USD		
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	1360	Subcontract	000			L	USD	2,500,000.00	595,238.10
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ADMIN	Administrative	000			F	USD		90,421.06
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	001	Draw	000			D	USD	25,000.00-	2,300.00-
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	002	Progress	000			P	USD	100,000.00	10,000.00
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	003	Rated Draw	000			R	USD	1,000.00-	100.00-
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	004	Milestone	000			M	USD	92,000.00	2,300.00
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>		変更オーダー合計	000					4,666,000.00	708,628.16
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	Σ	契約合計						4,666,000.00	708,628.16

「契約請求行の照会」フォーム

1. T&M請求書支払項目を選択し、「ロー」メニューから「請求明細」を選択して「請求書明細の改訂」フォームにアクセスします。
2. 削除するワークファイル取引を選択し、「ロー」メニューから「請求書から削除」を選択します。

注意: 他の請求行が依存しているT&M請求行のワークファイル取引を削除すると、手数料、分割融資および留保金の再計算が必要となる可能性がある旨の警告が表示されます。

請求書情報の追加

この項では、請求書情報の手動作成および請求書への取引の追加の概要と、次の方法について説明します。

- ・ 請求書バッチの手動作成
- ・ JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理のバッチへの新しい請求書の作成
- ・ JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のバッチへの新しい請求書の作成
- ・ 既存のワークファイル取引の請求書への追加
- ・ 既存の総勘定元帳取引の請求書への追加
- ・ アドホック・ワークファイル取引の請求書への追加

請求書情報の手動作成について

請求書の作成は、サービス請求管理の請求書の生成プログラム(R48121)または契約請求管理の請求書の生成プログラム(R52121)を使用せずに、手動で行うことができます。請求書を手動作成する場合は、次の処理を実行できます。

- 新しいバッチの作成
- バッチに含める請求書の作成
- バッチに含まれる個々の請求書への、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の取引の追加

注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合、バッチに含まれる個々の請求書に追加できるのはT&M取引のみです。

たとえば、すでに検討および改訂した請求書を含む既存のバッチがあるとします。このバッチ全体を削除して再作成しなくても、別の請求書をバッチに手動で追加できます。

請求済の請求書を改訂する必要がある場合があります。たとえば、請求書に対する入金が消し込まれた後、請求済の請求書を改訂することが必要となる場合があります。この場合は、現金入金や請求書を無効化するかわりに、以前の契約請求書に対する調整を作成できます。作成するには、調整が必要な請求書の契約請求書番号を、「請求書の作成」フォームの「契約請求書No.」フィールドに入力します。調整される契約請求書に対し、新しい契約請求書番号が割り当てられ、新しい請求書番号が作成されます。

注意: JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理では、請求書情報を手動で作成する場合、ユーザーが請求書支払項目のレベル区切りロジックとして定義した順序/集計規則が遵守されません。順序と集計のロジックは、支払項目を手動で作成する場合と同様の方法を使用して、手動で制御します。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、請求書情報を手動で作成する場合、ユーザーが請求書支払項目の構造を制御するために定義した請求行が使用されます。

請求書バッチを手動で作成した場合は、請求書仕訳の生成プログラムや売掛仕訳の作成プログラム(R48199)を自動実行できません。これらの処理は、バッチの検討プログラム(P48221)から呼び出す必要があります。

請求書への取引の追加について

請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)に、会計サイクル中に入力した請求対象金額が一部含まれていないことがあります。この場合、次の対応が必要です。

- 請求書バッチに現在含まれていない、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の既存の取引を検討します。
- F4812テーブルに存在する取引を手動で追加します。
- 取引明細テーブル(F0911)に存在する原価および(必要に応じて)F4812テーブルに現在存在しない原価を手動で追加します。
- 必要に応じて、アドホック原価またはアドホック・クレジットを請求書に手動で追加します。

注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合、請求書に追加できるのはT&M取引のみです。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の場合は、新しい請求書、請求書の既存の支払項目、新しい支払項目にワークファイル取引を追加できます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合は、既存の支払項目上または請求書上のタイム・アンド・マテリアル請求行についてワークファイル取引を追加できます。

取引を必要に応じて請求書に追加することもできます。たとえば、F0911テーブルにないサービスに対する請求書にワークファイル取引を追加できます。

重要: ワークファイル取引をワークファイルに直接追加する場合は、元の請求対象ソース取引を通常の会計サイクルで処理してからワークファイルの生成を実行してください。これにより、重複するワークファイル取引が作成されます。

請求書情報の追加に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	<ul style="list-style-type: none"> 「請求書の処理」(G48S21)、「バッチの検討」 「請求書の処理」(G5221)、「バッチの検討」 	請求書バッチを手動で作成します。 既存のバッチにアクセスします。
請求書の作成 (JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理)	W48121A	「請求書の処理」(G48S21)、「バッチの検討」 「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。 「請求書の処理」フォームの「フォーム」メニューから「請求書の作成」を選択します。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理のバッチ内に新しい請求書を作成します。
請求書の作成 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理)	W52121A	「請求書の処理」(G5221)、「バッチの検討」 「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。 「請求書の処理」フォームの「フォーム」メニューから「請求書の作成」を選択します。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のバッチ内に新しい請求書を作成します。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
請求明細取引の選択	W4812C	<p>「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。</p> <p>「請求書の処理」フォームで改訂する請求書を選択して、「選択」をクリックします。</p> <p>ワークファイル取引の添付先となる支払項目を「サービス請求書の入力」フォームで選択し、「ロー」メニューから「ワークファイル選択」を選択します。</p> <p>ワークファイル取引の添付先となるT&M請求行を「契約請求行の照会」フォームで選択し、「ロー」メニューから「ワークファイル選択」を選択します。</p>	既存のワークファイル取引を請求書に追加します。
会計取引の選択	W48124A	「請求明細取引の選択」フォームで「フォーム」メニューから「元帳取引の選択」を選択します。	既存の総勘定元帳取引を請求書に追加します。
ワークファイルの入力	W4812A	<p>「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。</p> <p>「請求書の処理」フォームで改訂する請求書を選択して、「選択」をクリックします。</p> <p>ワークファイル取引の追加先となる支払項目を「サービス請求書の入力」フォームで選択し、「ロー」メニューから「請求明細」を選択します。または、ワークファイル取引の追加先となるT&M請求行を「契約請求行の照会」フォームで選択し、「ロー」メニューから「請求書詳細」を選択します。</p> <p>「請求書明細の改訂」フォームで、「追加」をクリックします。</p>	<p>アドホック・ワークファイル取引を請求書に追加します。</p> <p>取引は、必要に応じて請求書に追加できます。たとえば、取引明細テーブル (F0911) にないサービスに対する請求書にワークファイル取引を追加できます。</p> <p>ワークファイル取引をワークファイルに直接追加する場合は、元の請求対象ソース取引を通常の会計サイクルで処理してからワークファイルの生成プログラム (R48120) を実行してください。これにより、重複するワークファイル取引が作成されます。</p>

請求書バッチの手動作成

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチの 検討 - バッチの 処理

選択(S) 検索(I) 削除(D) 閉じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

バッチNo./タイプ *

☒ 売掛金バッチ ☐ 買掛金バッチ ☐ 元帳バッチ ☐ 全バッチ

レコード 1-4

	バッチ タイプ	作成 タイプ	バッチ 番号	バッチ 日付	合計金額	合計 伝票数	処理 状況	バッチ状況 記述	仕訳 バッチNo.	仕訳 金額
<input checked="" type="radio"/>	4	1	7274	2004/10/15	734,055.85		1 0	請求書生成 - エラーなし		
<input type="radio"/>	4	1	7778	2008/07/01	62,645.01		1 0	バッチ変更 - 仕訳再実行		
<input type="radio"/>	4	1	7800	2008/08/07			0	請求書生成 - エラーなし		
<input type="radio"/>	4	1	7801	2008/08/07			0	請求書生成 - エラーなし		

「バッチの処理」フォーム

「フォーム」メニューから「バッチ作成」を選択します。

空のバッチ見出しが作成されます。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理のバッチ への新しい請求書の作成

「請求書の作成」フォームにアクセスします。

バッチの 検討 - 請求書の 作成

OK(O) 取消(L) ツール(T)

請求書の生成

顧客 * 3333 Continental Incorporated

伝票会社 * 00001 Financial Distribution Company

請求開始日

請求終了日 2009/03/31

元帳日付 2009/03/31

請求書日付 2009/03/31

伝票タイプ RI 請求書

為替レート基準日 1 請求書日付

「請求書の作成」フォーム

必要に応じてフィールドに値を入力して「OK」をクリックします。

新しい請求書が、総額のない状態で「請求書の処理」フォームに表示されます。表示されたら、請求明細ワークファイル取引を請求書に追加するか、留保金をリリースします。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理のバッチへの新しい請求書の作成

「請求書の作成」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - 請求書の作成

取消(L) 送信(S) フォーム(F) ツール(T)

契約タイプ/会社 * 2 R2 00077 Sky Dome Maintenance
 契約請求書No. 調整 No.

一般 追加資金調達レベル

日付

請求開始日付 元帳日付 2009/03/31
 請求終了日付 2009/03/31 請求書日付 2009/03/31

一括定期処理

請求コード

一時変更オプション

請求書タイプ RI
 税域/税目
 支払条件
 サービス日付基準

計算

金額ゼロ請求書の処理
 一括行計算方法/元帳タイプ
 為替レート基準日付 1

「請求書の作成」フォーム

注意: 追加資金調達レベル・タブは、プロジェクト/米国公共事業契約の作成/編集プログラム (P52G01M) で入力する、資金調達レベル契約 (伝票タイプ C3) を入力した場合にのみ有効になります。

1. 契約番号を「契約/タイプ/会社」フィールドに入力します。
2. 「契約請求書No.」、「調整No.」、「請求開始日付」、「請求終了日付」、「元帳日付」、「請求書日付」、「請求コード」の各フィールドに入力します。
これらのフィールドは任意です。「契約請求書No.」フィールドをblankにすると、次の順序番号が割り当てられます。
3. 請求固定情報、契約マスターおよび処理オプションからの情報を一時変更するには、「請求書タイプ」、「税域/税目」、「支払条件」、「金額ゼロ請求書の処理」、「一括行計算方法/元帳タイプ」および「為替レート基準日付」の各フィールドに入力します。
4. 「送信」をクリックします。
5. 「請求書の生成」フォームで「OK」をクリックします。
新しい請求書が「請求書の処理」フォームに表示されます。

既存のワークファイル取引の請求書への追加

「請求明細取引の選択」フォームにアクセスします。

「請求明細取引の選択」フォーム

- 1つ以上のワークファイル取引を選択します。
- 「ロー」メニューの「請求書のマージ/更新」を選択します。

ワークファイル取引情報が請求書の支払項目にマージされます。

課税対象のワークファイル取引と非課税のワークファイル取引を同じ請求書支払項目にマージすることはできません。複数のワークファイル取引を1つの支払項目にマージする場合、これらのワークファイル取引は税目コードおよび税率/税域が同じである必要があります。Vertex税情報を使用する場合、これらのワークファイル取引は地域コード、製品カテゴリ・コードおよび取引タイプが同じである必要があります。

「税域」フィールドのブランクは、支払項目が非課税であることを示す有効な税コードです。

注意: JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合、最高限度処理の使用中に、請求書支払項目にマージしているワークファイル取引によって請求書が最高限度金額を超えると、エラー・メッセージが表示され、ワークファイル取引はマージされません。

また、「契約請求行詳細の改訂」フォームの請求行について「支払後請求額」フィールドの値が1（支払済買掛金伝票のみ請求可）に設定されている取引は、ワークファイル・レコードに関連付けられている伝票が支払済の場合にのみ、請求書にマージされます。未払の伝票を選択した場合は、支払時請求の要件が満たされていない旨のエラーが表示されます。

他の請求行が依存しているT&M請求行にワークファイル取引を追加すると、手数料、分割融資および留保金の再計算が必要となる可能性がある旨の警告が表示されます。

3. 請求書の支払項目にマージしたワークファイル取引を検討するには、その請求書支払項目を選択し、「サービス請求書の入力」フォームの「ロー」メニューの「請求明細」を選択するか、または「契約請求行の照会」フォームの「ロー」メニューの「請求書詳細」を選択します。

既存の総勘定元帳取引の請求書への追加

「会計取引の選択」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - 会計取引の選択

検索① 閉じる(L) ロー(R) ツール(T)

取引の選択

勘定科目コード 6100 * * 開始元帳日付 2005/06/01

補助元帳タイプ * * 終了元帳日付 2005/06/30

給与計算マスター設備レコード用所属ビジネスユニット

☒ 固定資産マスター(デフォルト) ☐ 給与計算

レコード 1 - 5 グリッドのカスタマイズ

	勘定科目No.	元帳日付	摘要名称	配賦値	通貨コード	伝票No.	伝票タイプ	補助元帳タイプ	補助元帳	補助元帳
<input type="checkbox"/>	6100.1341	2005/06/25	Payroll Labor Distribution	4,073.67	USD	98	T2	W	00065023	
<input type="checkbox"/>	6100.8115	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	514.00	USD	5	T2	W	00065023	
<input type="checkbox"/>	6100.8115	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	173.08	USD	5	T2	W	00065040	
<input type="checkbox"/>	6100.8116	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	153.75	USD	5	T2	W	00065023	
<input type="checkbox"/>	6100.8116	2005/06/30	Payroll Labor Distribution	97.36	USD	5	T2	W	00065040	

「会計取引の選択」フォーム

1. 給与計算設備ワークファイル取引の所属ビジネスユニットの選択方法を指定するには、「固定資産マスター(デフォルト)」オプションまたは「給与計算」オプションを選択します。
2. 取引を選択し、「ロー」メニューから「選択」を選択します。
選択した元帳取引の「請求明細ワークファイル」レコードが作成されます。
3. 「会計取引の選択」フォームで「閉じる」をクリックし、「請求明細取引の選択」フォームに戻ります。
4. 作成したワークファイル取引の詳細情報を検討する場合は、目的のワークファイル取引を選択し、「選択」をクリックします。
5. 「請求明細取引の選択」フォームで、「検索」をクリックし、1つ以上のワークファイル取引を選択します。
6. 「ロー」メニューの「請求書のマージ/更新」を選択します。

ワークファイル取引情報が請求書の支払項目にマージされます。

課税対象のワークファイル取引と非課税のワークファイル取引を同じ請求書支払項目にマージすることはできません。複数のワークファイル取引を1つの支払項目にマージする場合、これらのワークファイル取引は税目コードおよび税率/税域が同じである必要があります。Vertex税情報を使用する場合、これらのワークファイル取引は地域コード、製品カテゴリ・コードおよび取引タイプが同じである必要があります。

「税域」フィールドのブランクは、支払項目が非課税であることを示す有効な税コードです。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合、最高限度処理の使用中に、請求書支払項目にマージしているワークファイル取引によって請求書が最高限度金額を超えると、エラー・メッセージが表示され、ワークファイル取引はマージされません。

また、「契約請求行詳細の改訂」フォームの「支払後請求額」フィールドの値が1(支払済買掛金伝票のみ請求可)に設定されている取引は、ワークファイル・レコードに関連付けられている伝票が支払済の場合にのみ、請求書にマージされます。伝票が未払の取引を選択した場合は、支払時請求の要件が満たされていない旨のエラーが表示されます。

7. 「閉じる」をクリックして、「サービス請求書の入力」フォームまたは「契約請求行の照会」フォームに戻ります。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理では、他の請求行が依存しているT&M請求行に元帳取引を追加すると、手数料、分割融資および留保金の再計算が必要となる可能性がある旨の警告が表示されます。

8. 請求書の支払項目にマージしたワークファイル取引を検討するには、その請求書支払項目を選択し、「サービス請求書の入力」フォームの「ロー」メニューの「請求明細」を選択するか、または「契約請求行の照会」フォームの「ロー」メニューの「請求書詳細」を選択します。

アドホック・ワークファイル取引の請求書への追加

「ワークファイルの入力」フォームにアクセスします。

バッチの検討 - ワークファイルの入力			
OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)			
元帳日付	2005/06/06		
勘定科目コード	6100.8115	Regular Pay	
補助元帳タイプ		適格性コード	0
通貨コード	USD	再計算オプション	
数量			
原価金額	1,500.00		
請求一時変更/上限		収益一時変更/上限	
請求書割増%		収益割増%	
割増金額		収益割増金額	
課税対象額		収益金額	
請求額合計			
割引%			
所属BU		職務タイプ	
従業員/仕入先		職階	
説明		備考	

「ワークファイルの入力」フォーム

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理では、最高限度処理の使用中に、T&M請求書支払項目に追加しているアドホック・ワークファイル取引によって請求書が最高限度金額を超えると、エラー・メッセージが表示され、ワークファイル取引は追加されません。

他の請求行が依存しているT&M請求行にアドホック・ワークファイル取引を追加する場合は、手数料、分割融資および留保金の再計算する必要があります。

勘定科目コード

勘定科目を指定します。

適格性コード

単一取引レベルで取引の行を処理する方法を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。

- 0: 請求/収益用に使用可能
- 1: 請求処理のみに使用可能
- 2: 収益のみに使用可能
- 3: 請求不可
- 4: 原価のみに使用可能
- 5: A/Pのみに使用可能

勘定科目マスター(F0901)の請求可能(Y/N)フィールドおよびシステム固定情報で設定した「仕訳作成の制御」フィールドに基づいて、適格性コードがワークファイル取引に割り当てられます。たとえば、請求可能(Y/N)フィールドにYが設定されている勘定科目が請求管理システムで処理され、かつ「仕訳作成の制御」フィールドが請求のみとして設定されている場合は、その取引の適格性コードは1となります。適格性コードが1である場合は、その取引を請求処理にのみ使用できることを示します。

通貨コード

基本通貨コードを入力します。ビジネスユニットの会社の通貨コードが使用されます。

再計算オプション

取引の再計算方法を指定するコードを入力します。特定の一時変更または割増テーブルに定義した情報に基づいて取引に対する割増を変更または再適用する場合は、取引を再計算します。値は次のとおりです。

- 1: 請求料金/割増テーブル(F48096)から、設定済の請求書割増レートを再適用します。収益金額は変更されません。
- 2: F48096テーブルから、設定済の収益割増レートを再適用します。請求書金額は変更されません。
- 3: 金額/数量情報ウィンドウまたは「請求レート/割増の改訂」フォームで入力されたレートまたは金額を使用します。F48096テーブルの設定済の請求または収益割増レートは適用しません。

ブランク: F48096テーブルの設定済のレートを使用して、請求および収益割増レートの両方を再適用します。

注意: システム固定情報の「収益額と請求額の不一致可」オプションで請求金額と収益金額が一致する必要があると指定されている場合、コード1または2を使用することはできません。

数量

単位により識別されるものの数量を入力します。たとえば、バレル、箱、立方ヤード、ガロン、時間などの数値にすることができます。

原価金額	関連する勘定科目コードの勘定残高に追加される金額を入力します。貸方の金額は、金額の前か後にマイナス(-)の符号を付けて入力します。
割引%	割引期日までに支払われた場合に、請求書または伝票の総額から割引率を入力します。たとえば、2%の割引の場合は「.02」と、小数点以下の数値で入力します。
請求一時変更/上限（請求料金の一時変更/上限）	<p>1つ目のフィールドには、製図者、技術者、コンサルタントなどの専門職に関する請求に反映される、請求書金額の割増計算に使用されるレートを入力します。このレートは従業員への給与に影響を及ぼしません。一時変更レートまたは上限レートとして割増レートを使用できます。</p> <p>請求割増の合計に対する一時変更レートの計算は、次のとおりです。</p> $(\text{一時変更レート} \times \text{単位}) \times (1 + \text{割増レート}) + \text{割増金額}$ <p>上限レートが指定されている場合は、レート一時変更が原価取引のレートと比較されます。比較後、より低いレートが一時変更レートとして使用されます。</p> <p>請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して、一時変更または上限の単位レートを設定します。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理システムでは、収益金額の割増に請求書金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。生成タイプ1を使用して請求、収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定し、生成タイプ2を使用して収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定します。</p> <p>請求および収益割増レートの指定での生成タイプ1の使用は、請求固定情報で「収益額と請求額の不一致可」が可に設定されている場合に限定してください。</p>
請求書割増%	<p>製図者、技術者およびコンサルタントの手数料などの専門サービスの請求に反映される、収益金額の割増計算に使用されるパーセンテージを表す数を入力します。パーセンテージは整数で入力してください。たとえば、50.275%の場合は、「50.275」と入力します。このパーセントは従業員への給与に影響を及ぼしません。</p> <p>このパーセントは請求料金/割増テーブル・プログラム(P48096)で設定します。請求、収益および追加料金割増レートのテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。</p> <p>契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求固定情報プログラム(P48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。収益および追加料金割増レートのテーブルを指定する場合は、「請求レート/割増の改訂」フォームで生成タイプ2を使用してください。</p>
割増金額	<p>製図者、技術者、コンサルタントによる作業などの専門サービスの請求に反映される、請求書金額の割増計算に使用する金額を入力します。この金額は従業員への支払に影響を及ぼしません。</p> <p>この金額は、請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して設定できます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。</p>

契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なる金額を使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ2を使用してください。

課税対象額

請求金額のうち、課税対象となる金額を入力します。

請求額合計

請求明細取引の請求金額を入力します。

**収益一時変更/上限（収益レート
の一時変更/上限）**

製図者、技術者、コンサルタントなどによる専門サービスの請求に反映される、収益金額の割増計算に使用されるレートを入力します。このレートは従業員への給与に影響を及ぼしません。一時変更レートまたは上限レートとして割増レートを使用できます。

収益割増の合計に対するレート一時変更の計算は、次のとおりです。

$(\text{レート一時変更} \times \text{単位}) \times (1 + \text{割増レート}) + \text{割増金額}$

上限レートが指定されている場合は、レート一時変更が原価取引のレートと比較されます。比較後、より低いレートが一時変更レートとして使用されます。

請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して、一時変更または上限の単位レートを設定します。

契約/サービス請求管理では、収益金額の割増に請求金額と異なるレートを使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル(F48091)の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。生成タイプ1を使用して請求、収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定し、生成タイプ2を使用して収益および追加料金の割増レートのテーブルを指定します。

請求、収益および追加料金割増レートの指定での生成タイプ1の使用は、請求固定情報で「収益額と請求額の不一致可」オプションが可に設定されている場合に限定してください。

1つ目のフィールドのレートが一時変更レートの場合は、2つ目のフィールドを空白のままにします。1つ目のフィールドのレートが上限レートの場合は、2つ目のフィールドに「1」を入力します。

収益割増%

製図者、技術者またはコンサルタントの手数料などの専門職に関する請求に反映される、収益金額の割増計算に使用されるパーセンテージを入力します。このパーセントは従業員への給与に影響を及ぼしません。割増率は請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)で設定されます。設定では、生成タイプ1を使用して、収益と請求の割増率のテーブルを指定します。

パーセントは整数で入力してください。たとえば、50.275%の場合は、「50.275」と入力します。

収益割増金額

製図者、技術者、コンサルタントによる作業などの専門サービスの請求に反映される、収益金額の割増計算に使用する金額を入力します。この金額は従業員への支払に影響を及ぼしません。

この金額は、請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)を使用して設定できます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ1を使用してください。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ2を使用してください。

契約/サービス請求管理を使用すると、収益金額の割増に請求金額と異なる金額を使用できます。この機能は、請求管理システム固定情報テーブル (F48091) の「収益額と請求額の不一致可」オプションによって制御されます。請求、収益および追加料金割増金額のテーブルを指定する場合は、生成タイプ2を使用してください。

収益金額	請求明細取引の収益金額を入力します。
所属BU（所属ビジネスユニット）	従業員が通常所属するビジネスユニット番号を入力します。
職務タイプ	組織内の職務を定義するUDC 07/Gのコードを入力します。職務タイプに給与および福利厚生情報を関連付けて、その情報をその職務タイプにリンクされている従業員に適用できます。
従業員/仕入先	JD Edwards EnterpriseOne住所録で、従業員、応募者、加入者、顧客、仕入先、テナント、ロケーションなどの項目を識別する番号を入力します。
職階	特定の職務タイプ内の特定のレベルを指定するUDC 07/GSのコードを入力します。賃率テーブルの職務によって賃率を決定できるよう、職務タイプとともにこのコードが使用されます。

注意: 「サービス請求固定情報」フォーム (W48091A) の「仕訳作成の制御」の設定に応じて、請求書のフィールド、収益のフィールドまたは両方のフィールドが表示されます。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16 ページ

クレジット・メモの作成

この項では、クレジット・メモの概要と次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理用のクレジット・メモの作成
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理用のクレジット・メモの作成

クレジット・メモについて

顧客への超過請求分を売掛金勘定に反映させるには、クレジット・メモを作成します。通常、クレジット・メモには伝票タイプ RM が割り当てられます。クレジット・メモの手動作成手順は、請求書の手動作成手順と同じです。

取引明細テーブル (F0911) からマイナスの取引が処理されると、クレジット・メモが自動で作成されます。

クレジット・メモは、既存のバッチまたは新しいバッチに追加できます。クレジット・メモには、既存のワークファイル取引の追加、およびアドホック・ワークファイル取引の入力も可能です。顧客の売掛金残高を修正するには、ワークファイル取引にマイナスの金額が指定されている必要があります。

クレジット・メモの作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求書の作成 (JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理)	W48121A	「請求書の処理」 (G48S21)、「バッチの検討」 「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。 「請求書の処理」フォームの「フォーム」メニューから「請求書の作成」を選択します。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理用のクレジット・メモを作成します。
請求書の作成 (JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理)	W52121A	「請求書の処理」メニュー (G5221)、「バッチの検討」 「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。 「請求書の処理」フォームの「フォーム」メニューから「請求書の作成」を選択します。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理用のクレジット・メモを作成します。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理用のクレジット・メモの作成

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の「請求書の作成」フォームにアクセスします。

必要に応じてフィールドに値を入力して「OK」をクリックします。

新しいクレジット・メモが、総額のない状態で「請求書の処理」フォームに表示されます。表示されると、既存のワークファイル取引の追加およびアドホック・ワークファイル取引の入力が可能になります。マイナスの金額が指定されたワークファイル取引を処理してください。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理用のクレジット・メモの作成

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の「請求書の作成」フォームにアクセスします。

1. 「請求書の作成」フォームの「契約/タイプ/会社」フィールドに入力します。
2. 「契約請求書No.」、「調整No.」、「請求開始日付」、「請求終了日付」、「元帳日付」、「請求書日付」、「請求コード」の各フィールドに入力します。

注意: これらのフィールドは任意です。

3. 請求固定情報、契約マスターおよび処理オプションからの情報を一時変更するには、「請求書タイプ」、「税域/税目」、「支払条件」、「金額ゼロ請求書の処理」、「一括行計算方法/元帳タイプ」および「為替レート基準日付」の各フィールドに入力します。
4. 「送信」をクリックします。
5. 「請求書の生成」フォームで「OK」をクリックします。

請求書を作成するバッチ処理が完了すると、新しいクレジット・メモが「請求書の処理」フォームに表示されます。支払項目を改訂するには、クレジット・メモを選択し、「選択」をクリックします。マイナスの金額が指定されたこの取引を処理します。

関連項目:

第 14 章、「請求書の処理」、「アドホック・ワークファイル取引の請求書への追加」、357ページ

請求書仕訳の作成

この項では、仮の請求書仕訳、仕訳編集レジスタ、日付、最終の請求書仕訳の概要と、次の方法について説明します。

- 仕訳の生成(R48131)の処理オプションの設定
- 仕訳編集レジスタ(R48300)の処理オプションの設定
- 仮の請求書仕訳の作成
- 請求書仕訳の仕訳編集レジスタの印刷
- 一時変更日付の改訂
- 売掛仕訳の作成(R48199)の処理オプションの設定
- 最終の請求書仕訳の作成

仮の請求書仕訳について

請求処理を完了するには仕訳を作成します。まず、仕訳の生成プログラム(R48131)を実行して、仮の請求書仕訳を作成します。仮の仕訳を作成すると、仕訳編集レジスタ(R48300)が生成されます。このレポートを入念に検討し、取引明細テーブル(F0911)に貸借不一致レコードができるような最終の請求書仕訳が作成されないようにします。

選択した請求書バッチに対して請求書仕訳がテスト・モードで作成され、仕訳が集計されます。売掛仕訳の作成プログラム(R48199)を実行すると、集計された仕訳を使用して、請求書仕訳のF0911テーブルに取引が作成されます。

集計された仕訳の編集には、売掛機能サーバーおよび元帳機能サーバーが使用されます。請求書集計取引が集計仕訳ワークファイル・テーブル(F48S911)の集計仕訳に一時的に追加され、会計仕訳に不一致がないようにされます。

重要: 仕訳の生成プログラムはバッチ・プログラムです。請求書バッチは1単位として処理されます。エラーが1つでも検出されると、請求書バッチにエラー状況が設定されます。エラー条件を修正し、仕訳の生成プログラムを再実行する必要があります。仕訳の生成プログラムは、すべてのエラーが修正されるまで何度でも実行できます。

請求書に仕訳を作成すると、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)が更新されます。
「現在の処理状況」フィールドが、仕訳の生成が進行中であることを示す「3」に設定されます。
- この請求書バッチの請求明細仕訳ワークファイル・テーブル(F48S910)および集計仕訳ワークファイル・テーブル(F48S911)から、以前に作成された収益取引を含めて、仕訳が削除されます。
このステップにより、バッチの削除を実行しなくても、仕訳の生成プログラムを何度でも実行できます。
- 請求書バッチ番号を使用してデータが選択されます。

請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)のワークファイル取引が、AAI(自動仕訳)を使用して処理され、明細仕訳がF48S910テーブルに作成されます。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「請求のAAIの設定」、61ページ

- F48S910テーブルの仕訳が集計され、F48S911テーブルに保存されます。

売掛仕訳の作成プログラムを実行すると、この仕訳を使用してF0911テーブルに仕訳が作成されます。

- 請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)の請求書情報でF48S911テーブルが更新されます。

この仕訳は一時的であり、F48S911テーブルに存在するのは、編集して仕訳編集レジスタ上の不一致のない会計仕訳を印刷するのに十分な間のみです。売掛仕訳の作成プログラムを実行すると、F4822テーブルの仕訳を使用して、売掛金元帳テーブル(F03B11)に仕訳が作成されます。

- 関連元帳バッチが作成され、請求書仕訳に関連付けられる可能性がある収益または原価再配賦の汎用仕訳が保存されます。
- F48S911テーブルに保存されている会計仕訳が、売掛および仕訳入力マスター・ビジネス関数の対話型バージョンを使用して編集されます。
- このバッチの会計仕訳の検討用に仕訳編集レジスタが印刷されます。

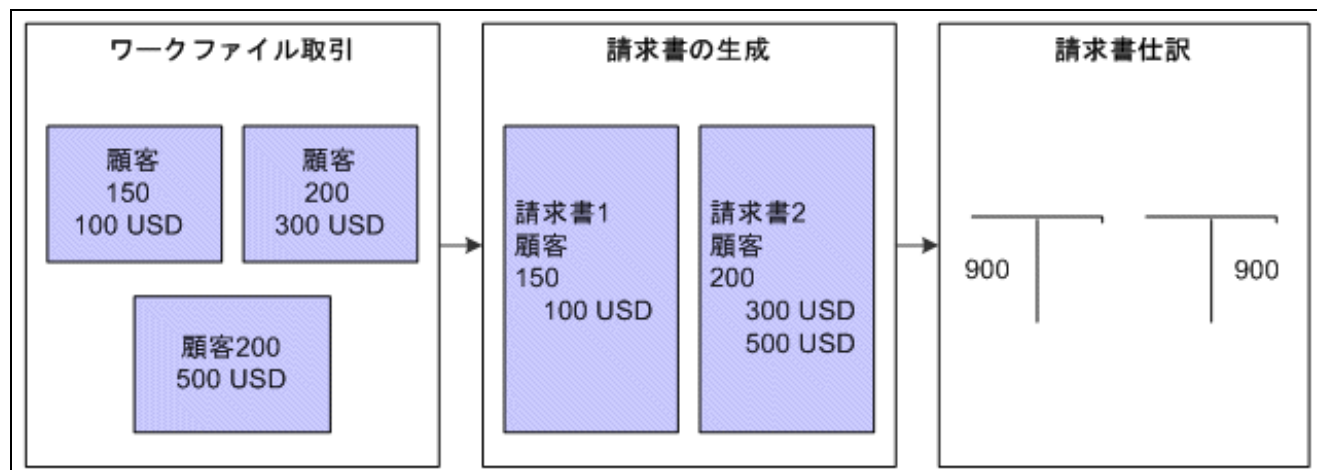
注意: 手形請求書番号および最終請求書番号を使用している場合は、手形伝票タイプと手形請求書番号を使用して仮の請求書仕訳が作成されます。この手形伝票タイプと手形請求書番号は、仕訳編集レジスタに表示されます。

- 一時的な請求書仕訳がF48S911テーブルから削除されます。
- F48011テーブルが、伝票の金額と番号で更新されます。

バッチ状況も更新され、「現在の処理状況」は0に設定されます。これにより、このバッチに対して追加処理を実行できるようになります。

- 処理中に発生したエラーが記載されたレポートが印刷されます。

次の図は、ワークファイル取引、請求書の生成および請求書仕訳の関係を示しています。



請求書仕訳処理

仕訳編集レジスタについて

仮の売掛仕訳と元帳仕訳が作成されると、バッチ状況を確認して仕訳にエラーがないかどうかを検討できます。最終の売掛仕訳および元帳仕訳を作成する前に元帳仕訳の情報を検証するには、仕訳編集レジスタ・レポート(R48300)を検討します。このレポートには、元帳日付、伝票タイプ、伝票番号、ビジネスユニット、主科目、補助科目および補助元帳ごとに集計された仕訳が表示されます。

また、仕訳編集レジスタ・レポートを実行して、仮の元帳仕訳を作成した後に仕訳レジスタの追加コピーを印刷できます。

レポートにエラーを発見した場合でも、バッチの削除と請求書を再作成は必須ではありません。エラーを発見した場合は、エラーを修正して仕訳の生成プログラム(R48131)を再度実行できます。一般的なエラーには次のようなものがあります。

- 総勘定元帳関連の不正な日付または無効な勘定
- 請求AAIの定義規則関連の不正な主要キー/補助キーまたは無効な勘定

注意: 仕訳編集レジスタ・レポート(R48300)で会社番号が省略されている場合は、勘定科目マスター(F0901)に勘定が設定されません。勘定番号の前に#記号が付いている場合、その勘定番号はモデル勘定科目表に設定されていません。

日付について

請求書は、最終の仕訳の作成とは別個に生成できます。請求書日付と元帳日付は、請求書を生成した時点で割り当てることができます。最終の仕訳を作成する前であれば、元帳日付、請求書日付または両方とも改訂できます。

この機能は、請求書の生成中に割り当てられた当初日付と最終の仕訳の作成日付との間の時間の長さが原因で、売掛金元帳の年齢調べ情報に間違いが発生した場合に使用します。

注意: 一時変更日付は請求書バッチに対してのみ改訂可能で、収益バッチに対してはできません。

請求固定情報を使用すると、仕訳の生成プログラム(R48131)を実行したときに「日付の一時変更」フォームがいつ表示されるかを指定できます。固定情報では、次のような動作を設定できます。

- ウィンドウを常に表示する。
- 「バッチの処理」フォームで「ロー」メニューから「日付一時変更」を選択した場合にのみ、ウィンドウを表示する。
- ウィンドウを表示しない。

「日付の一時変更」ウィンドウに表示される日付は、常に現在のシステム日付です。

最終の請求書仕訳について

最終の請求書仕訳が作成されるのは、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)を実行して請求書情報を処理し、それをJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理からJD Edwards EnterpriseOne売掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計に転送した場合です。この場合、売掛金元帳テーブル(F03B11)の取引および取引明細テーブル(F0911)の取引が、それぞれ請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)および集計仕訳ワークファイル・テーブル(F48S911)から作成されます。JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムでは、売掛機能サーバーおよび元帳機能サーバーを使用して、すべての勘定情報が検証されます。

重要: 売掛仕訳の作成はバッチ・プログラムです。請求書バッチは1単位として処理されます。エラーが1つでも検出されると、JD Edwards EnterpriseOne売掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計に請求書は作成されず、請求管理システムにより該当する請求書バッチにエラー状況が設定されます。この場合は、エラー条件を修正し、売掛仕訳の作成プログラムを再実行する必要があります。エラーによっては、仕訳の生成プログラム(R48131)を実行してから売掛仕訳の作成を再実行することが必要です。すべてのエラーを修正し、請求書情報がJD Edwards EnterpriseOne売掛管理および一般会計に転送されるようにするために、売掛仕訳の作成は何度でも必要なだけ実行できます。

売掛仕訳の作成により、請求書情報はJD Edwards EnterpriseOne売掛管理およびJD Edwards EnterpriseOne一般会計に書き込まれます。取引を転記し、相手勘定の自動仕訳を作成し、転記されたコードとバッチ状況を更新するには、請求書の転記プログラム(R09801)を実行する必要があります。取引の転記は、売掛仕訳の作成プログラムの処理オプションで請求書の転記プログラムのバージョンを指定して自動で行うか、手動で行います。

請求書バッチ、元帳バッチまたは両方を転記できます。転記するには、売掛仕訳の作成プログラムの処理オプションで、請求書の転記プログラムのバージョンおよび各タイプのバッチのバッチ状況を指定します。

売掛仕訳の作成中、バッチがエラー状況の場合またはテスト・モードの仕訳が作成されていない場合は、仕訳の生成プログラムが実行されます。

エラーがない場合、次の処理が実行されます。

- 一般会計のバッチ制御レコード・テーブル(F0011)にレコードが作成されます。その際、請求管理システムに割り当てられたバッチ番号が使用されます。

バッチの金額と伝票の数もF0011テーブルの新しいレコードに渡されます。

- F48S911テーブルの仕訳を使用して、F0911テーブルに取引が書き込まれます。
- F4822テーブルの仕訳を使用して、F03B11テーブルに取引が書き込まれます。

注意: 手形請求書番号および最終請求書番号を使用している場合は、F0911テーブルとF03B11テーブルの請求書と仕訳に、最終伝票タイプと最終請求書番号が割り当てられます。

- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の場合は、収益レコードが契約収益集計テーブル(F5280)に契約収益集計ワークファイル・テーブル(F5280W)を使用して更新されます。
- この請求書バッチの請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の取引を使用して、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)にレコードが書き込まれます。
- この請求書バッチのF4812テーブルから取引が削除されます。
- F4822テーブルが更新され、請求書がJD Edwards EnterpriseOne売掛管理に転送されたことが示されます。
- 請求固定情報の「請求書集計アクセス・テーブルの制御」オプションが選択されている場合は、請求書情報が請求書集計アクセス・テーブル(F48520)に書き込まれます。
- 請求固定情報の「仕訳振替の制御」オプションが選択されており、請求書仕訳の生成中に給与計算振替が検出されている場合は、給与計算振替ワークファイル・テーブル(F48S0618)を使用して従業員トランザクション履歴テーブル(F0618)に取引が書き込まれます。

注意: 売掛仕訳の作成プログラムは多通貨勤怠管理をサポートしています。

- 請求明細仕訳ワークファイル・テーブル(F48S910)の仕訳を使用して、総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)にレコードが書き込まれます。
- この請求書バッチの取引がF48S910テーブルから削除されます。

- この請求書バッチの取引が集計仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) から削除されます。
- この請求書バッチの取引が F48S0618 テーブルから削除されます。
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合にのみ、この請求書バッチの収益集計情報が契約収益集計ワークファイル・テーブル (F5280W) から削除されます。
- サービス請求バッチ制御テーブル (F48011) から請求書バッチが削除されます。
エラーが検出された場合、バッチ制御レコード・テーブル (F0011) に作成されたレコードが削除され、F48011 テーブルのバッチ見出しレコードがエラー状況に設定されます。
- 見出しのみが含まれるレポートを作成します。
レポートにはエラーは表示されません。詳細は、仕訳編集レジスタ (R48300) またはワーク・センターを参照してください。

最終の請求書仕訳の多通貨処理について

最終の請求書仕訳処理では、請求書の生成プログラム (R48121) を実行したときと同じレポートが生成されます。このレポートは、通貨処理の設定とは関係なく、国内通貨建てで作成されます。

請求書仕訳の検討プログラム (P0011) にアクセスすると、総額は請求書の国内通貨建てで、通貨金額は外貨建てで、それぞれ表示されます。

請求書仕訳の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	<ul style="list-style-type: none"> • 「請求書の処理」 (G48S21)、「バッチの検討」の選択 • 「請求書の処理」 (G5221)、「バッチの検討」の選択 	仮の請求書仕訳を作成します。
日付の一時変更	W48221A	「バッチの処理」フォームで、バッチを選択し、「ロー」メニューから「日付一時変更」を選択します。	一時変更日付を改訂します。

仕訳の生成 (R48131) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、仕訳に割り当てられた説明のソースを指定します。

1. 仕訳摘要

この処理オプションをブランクにすると、勘定科目マスターの説明が仕訳に割り当てられます。

「1」を入力すると、AAI テーブルの説明が仕訳に割り当てられます。

「2」を入力すると、補助元帳値に関連付けられている説明が仕訳に割り当てられます。

バージョン

この処理オプションでは、仕訳の生成プログラム (R48131) から呼び出される各種プログラムのバージョンを指定します。次の処理オプションの片方でも空白にすると、バージョン XJDE0001 が使用されます。

- | | |
|-----------------------|------------------------------------|
| 1. 仕訳編集レジスタ (R48300) | 仕訳バッチ処理に使用する仕訳編集レジスタのバージョンを指定します。 |
| 2. 仕訳作成バージョン (R48132) | 汎用仕訳バッチ処理に使用する収益仕訳の生成のバージョンを指定します。 |

仕訳編集レジスタ (R48300) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン

この処理オプションでは、使用するマスター・ビジネス関数のバージョンを指定します。空白にした場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------------|
| 1. 売掛管理マスター・ビジネス関数 (P03B0011) | 売掛処理に使用する売掛管理マスター・ビジネス関数のバージョンを指定します。 |
| 2. 一般会計マスター・ビジネス関数 (P0900049) | 元帳処理に使用する一般会計マスター・ビジネス関数のバージョンを指定します。 |
| 3. 買掛管理マスター・ビジネス関数 (P0400047) | 買掛処理に使用する買掛管理マスター・ビジネス関数のバージョンを指定します。 |

集計

この処理オプションでは、売掛レコードを集計するかどうかを指定します。

- | | |
|-----------------|--|
| 1. 請求書別売掛金仕訳の集計 | 「ビジネスユニット」、「会社」、「相手勘定」、「税率/税域」、「税目コード」、「支払期日」、「支払条件」、「支払状況」、「銀行勘定科目」および「割引期日」フィールドが同じだった場合、売掛金元帳テーブル (F03B11) にレコードを作成する前に、請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) のレコードを伝票支払項目 (SFX) ごとに集計するかどうかを指定します。 |
|-----------------|--|

仮の請求書仕訳の作成

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択し、「ロー」メニューから「仕訳の作成」を選択します。

「日付の一時変更」が自動で表示されるよう請求固定情報を設定してある場合は、一時変更の元帳日付と請求書日付を入力して、請求書と請求書仕訳に割り当てます。

請求書仕訳の仕訳編集レジスタの印刷

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択し、「ロー」メニューから「仕訳編集レジスタ」を選択します。

一時変更日付の改訂

「日付の一時変更」フォームにアクセスします。

請求書/伝票日付一時変更 新しい請求書日付を入力します。

元帳日付の一時変更 取引を転記する会計期間を特定する日付を入力します。会計期間は、会社レコードに割り当てられる会計期間パターン・コードで定義します。取引で入力した日付と会社で割り当てられた会計期間パターンが比較されて、適切な会計期間番号が取得されると同時に、日付検証が実行されます。

売掛仕訳の作成(R48199)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

デフォルト

この処理オプションでは、留保金レコードの支払状況と支払期日を指定します。

1. 留保金支払状況 UDC 00/PSのコードを入力し、支払状況を留保金レコードに割り当てます。この処理オプションをブランクにすると、状況H(支払承認保留中)を使用して留保金が保留されます。
2. 留保金期日 留保金レコードの期日を入力します。この処理オプションをブランクにすると、期日には今世紀の末日が使用されます。世紀年は、データ項目「世紀境界年」(DCYR)の許容値として認識されます。

レポート印刷

この処理オプションでは、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)から呼び出されるプログラムのバージョンを指定します。

1. 請求書仕訳作成(R48131)のバージョン 仕訳バッチ処理に使用する仕訳の生成プログラム(R48131)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。
2. 受取手形バッチ(R03B671)のバージョン 前払処理で使用するバッチ手形の作成プログラム(R03B671)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0007が使用されます。
3. 仕訳編集レジスタ(R48300)のバージョン 実行する仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、バージョンXJDE0001が使用されます。
4. 元帳自動転記のバージョン-請求バッチ(R09801) 請求書バッチの自動転記に使用する総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、この請求書バッチは総勘定元帳に自動転記されません。総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)を使用して後で転記できます。
5. 自動実行する仕訳の転記プログラム(R09801)のバージョン 総勘定元帳バッチの自動転記に使用する総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)のバージョンを指定します。この処理オプションをブランクにすると、この総勘定元帳バッチは自動的に総勘定元帳に転記されません。総勘定元帳転記レポート・プログラム(R09801)を使用して後で転記できます。

バッチ承認

この処理オプションでは、売掛仕訳の作成プログラム(R48199)で売掛仕訳が自動的に承認および転記されるように、売掛管理固定情報および一般会計固定情報の「管理者承認」設定を一時変更できます。

1. 請求書バッチに割り当てるバッチ状況

バッチ状況を指定する値を入力します。このバッチ状況は、このバッチ処理で作成される請求書バッチに適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 売掛管理固定情報に従ってバッチ状況を設定します。

1: 売掛管理固定情報に関係なく、バッチ状況を承認済に設定します。

2. 元帳バッチ承認

バッチ状況を指定する値を入力します。このバッチ状況は、このバッチ処理で作成される元帳バッチに適用されます。値は次のとおりです。

ブランク: 一般会計固定情報に従ってバッチを更新します。

1: 一般会計固定情報に関係なく、バッチ状況を承認済に更新します。

最終の請求書仕訳の作成

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択し、「ロー」メニューから「A/Rの作成」を選択します。

「日付の一時変更」が自動で表示されるように請求固定情報を設定してある場合は、一時変更の元帳日付と請求書日付を入力して、請求書と請求書仕訳に割り当てます。

請求書バッチの転記

この項では、請求書と元帳バッチの転記の概要と、請求書バッチの転記プログラムの実行方法について説明します。

請求書および元帳バッチの転記について

最終の請求書仕訳を作成した後に、最終の請求書仕訳を確認および承認し、取引明細テーブル(F0911)に転記して、請求処理全体を完了させます。

転記処理中は、次の処理が実行されます。

- 転記するデータが選択されます。
- 情報を検証して、エラーが処理されます。
- 相手勘定の自動仕訳が作成されます。
- 取引が転記されます。
- 転記コードおよびバッチ状況が更新されます。

請求書バッチを転記すると、売掛金勘定の元帳に相手勘定となる仕訳が自動作成されます。通常、売掛金勘定が借方になり、収益勘定が貸方になります。

最終の請求書仕訳が作成されたときに関連元帳バッチが作成されている場合は、関連元帳バッチも転記する必要があります。

関連仕訳バッチを転記すると、相手勘定の自動仕訳が作成され、F0911テーブルの仕訳が更新されて転記済仕訳としてマークされます。

請求書仕訳の検討と転記には、請求書仕訳の検討プログラム(P0011)および請求書の転記プログラム(R09801)を使用します。これらは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計で使用するプログラムと同じです。

取引を転記すると、国内通貨額がAA元帳に転記され、外貨額が作成されてCA元帳に転記されます。両方の元帳の貸借が一致していないと、バッチは転記されません。

請求書バッチの転記プログラムの実行

転記プログラムを実行するには、「請求書の処理」メニュー(G48S21)から請求書の転記プログラムを選択するか、「請求書の処理」メニューから請求書仕訳の検討プログラムを選択し、「バッチの処理」フォームの「ロー」メニューから「バッチ別の転記」を選択します。

選択する方式は、使用する転記の方式によって異なります。転記に請求書の転記プログラムを使用する場合は、次の処理を実行できます。

- すべての承認済のバッチの転記
- 手動のデータ選択を使用した転記

請求書仕訳の検討プログラムを使用する場合は、次の処理を実行できます。

- 自動のデータ選択を使用した転記
- 自動のデータ選択とサブシステムを使用した転記

これらの機能は、請求書仕訳の検討プログラムからのみ使用できます。

請求書の印刷

この項では、請求書の印刷、請求書印刷のバージョンおよび請求書のデザインの概要、事前設定および次の方法について説明します。

- 請求書印刷プログラム(R48504)の処理オプションの設定
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の一時変更請求書印刷バージョンの割当
- JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の一時変更請求書印刷バージョンの割当
- 請求書の自動印刷
- 請求書バッチの手動印刷

請求書の印刷について

顧客向けの請求書を印刷するには、請求書印刷プログラム(R48504)を使用します。このプログラムは、手形請求書または最終請求書の印刷に使用します。状況が手形と最終のどちらであるかは、請求書がいつ印刷されたかで決まります。売掛仕訳の作成プログラム(R48199)の実行前に印刷された請求書は手形請求書とみなされます。売掛仕訳の作成プログラムの実行後に印刷された請求書は最終請求書とみなされます。

手形請求書を印刷すると、プロジェクトや会計の管理者が請求書情報の正確性を検証してから、請求書を顧客に送付できるようになります。仮の請求書情報は、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)から取得されます。エラーが検出された場合は、請求書を修正できます。通常、請求書バッチ全体を削除する必要はありません。

最終請求書は、サービスや商品を提供した顧客に送付するために印刷します。最終の請求書の印刷時の請求書情報は、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)から取得されます。必要に応じて、この処理を使用して請求書を再印刷することもできます。

最終請求書の印刷は、売掛仕訳を作成し、請求書バッチを総勘定元帳に転記した後に実行することをお勧めします。売掛情報の処理後に請求書を印刷することで、請求書に記載される情報が売掛金元帳に表示される請求書情報と一致します。

重要: 売掛仕訳を作成し、請求書バッチを総勘定元帳に転記する前に最終請求書を印刷すると、請求書を印刷して顧客に送付した後に、請求書情報を誤って修正してしまう可能性があります。

請求書の生成時に請求書を自動印刷できます。たとえば、プロジェクト管理者による検討のために手形請求書を印刷する場合が考えられます。この方法は、請求書の生成中にバッチ内の請求書を印刷する場合に使用します。

請求書の生成後に請求を手動で印刷することもできます。この方法では、次の処理を実行できます。

- 既存のバッチからの請求書の印刷
- 改訂された請求書を含むバッチの再印刷
- 請求処理が完了してワークファイル取引が履歴に存在している請求書の印刷

請求書の印刷の多通貨処理

顧客向けに印刷する請求書の通貨について請求書印刷バージョンを設定できます。次の3つの方法から選択できます。

- 「契約請求行の照会」フォームで、目的の請求書の印刷に使用するバージョンと伝票タイプを一時変更します。
- 請求書印刷プログラムの処理オプションを使用して、請求書印刷プログラム・バージョンのデータ選択に基づいて、請求書に印刷する金額を一時変更します。
- 特定のキー・タイプとテーブル・キーに対して設定した請求書印刷バージョン相互参照テーブルでバージョンと伝票タイプを選択します。

印刷処理中、まず請求書タイプが請求書レコード上に存在するかどうかを確認されます。請求書タイプが存在しない場合は、実行中のプログラムのバージョンの処理オプションが参照され、次に相互参照テーブルが参照されます。印刷用として指定された請求書タイプが見つからなかった場合は、請求書は請求取引のモードに基づいて印刷されます。タイプがDに設定されている場合は、国内通貨建てで印刷されます。タイプがFに設定されている場合は、外貨建てで印刷されます。

請求書印刷バージョンについて

請求書の印刷に使用される請求書バージョンは、次の処理オプションまたはフィールドを使用して制御できます。

- 請求書印刷プログラム(R48504)の処理オプション
- 「サービス請求書の入力」フォームの「請求書フォーマット・バージョン」または「契約マスターの改訂」フォームの「請求書フォーマット・コード」フィールド

- 「請求書印刷バージョン相互参照の改訂」フォームの「キー・タイプ」フィールドと「テーブル・キー」フィールド

請求書印刷プログラムについては、「請求書フォーマット名」処理オプションに入力するか、または次の3つの処理オプションに入力します。

- 請求書印刷プログラム
- 請求書印刷バージョン
- 請求書ワークファイル明細フォーマット選択

処理オプションのいずれかの組合せを入力した場合、F48S58テーブルからのフォーマットとフォーマット・コードの取得には、処理オプションに入力した値が使用されます。

処理オプションの組合せを入力しなかった場合、F48S58テーブルからのフォーマットとフォーマット・コードの取得には、「サービス請求書の入力」フォームまたは「契約マスターの改訂」フォームの「請求書フォーマット・コード」フィールド (INVF) の値が使用されます。

処理オプションの組合せを入力せず、かつ「請求書フォーマット・コード」フィールドをブランクにした場合、請求書印刷バージョン相互参照プログラム (P48S58) を使用して設定したキー・タイプとテーブル・キーの組合せが使用されます。バージョンの検索には、請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) の次のフィールド階層が使用されます。

1. 作業オーダー番号
2. 作業オーダー・クラス
3. 契約番号
4. 親契約No.
5. 顧客
6. 職務またはビジネスユニット
7. 作業クラス
8. 会社番号
9. デフォルト値

バッチ全体ではなく選択した請求書を印刷できます。そのためには、指定した請求書印刷プログラム・バージョンのデータ選択を印刷処理中に使用します。たとえば、印刷の選択をビジネスユニットや請求書番号に限定できます。

請求書のデザインについて

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理システムや JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理システムで請求書をデザインまたは変更する場合は、あらかじめスマート・フィールドの用途、配置および名前と、セクション・サイズとフォント・サイズのフォーマットについて理解しておきます。

請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) のビジネス・ビュー・フィールドは見出しセクションや詳細セクションに直接 (SF4812*スマート・フィールドを使用せずに) 挿入できますが、フッター・セクションでは SF4812*スマート・フィールドを使用する必要があります。請求書のデザイン処理を簡略化するには、スマート・フィールドを使用し、ビジネス・ビュー・フィールドを使用しないでください。

スマート・フィールドを挿入する場合は、変数名をより具体的な名前に変更することをお勧めします。デフォルトの変数名は、データ辞書に定義されているスマート・フィールド名です。名前を変更しないと、特に同じスマート・フィールドを複数の請求書フィールドで使用する場合に、後で混乱を招く可能性があります。また、同じフィールドを複数のセクション（見出しセクション、フッター・セクション、詳細セクションなど）に配置する場合は、変数名にセクション名を含めることをお勧めします。

選択した変数名は、変数とともに印刷される関連テキストになります。そのため、関連テキストを変数とともに請求書に記載する場合は、記載するテキストをそのまま変数名にします。テキストを記載するが、同じ名前の変数と間違えないようにするには、後で関連テキストのプロパティでテキストの名前を変更します。関連テキストが変数とともに表示されることがないようにするには、スマート・フィールドを請求書に配置した後で、目的のテキストの関連付けを解除して削除します。ただし、関連テキストを削除するとスマート・フィールド・パラメータを変更できなくなるため、この方法はお勧めしません。関連テキストなしでスマート・フィールドを表示するには、関連テキスト名を空白文字1文字に設定することをお勧めします。

文字フィールドはすべて、40文字フィールドとして挿入されます。文字数は後で変更できます。変更するには、スマート・フィールドのプロパティで表示長を変更します。数字スマート・フィールドはすべて、小数点以下が2桁の15桁フィールドとして挿入されます。通貨ではない数字フィールドの場合、長さ和小数の設定は後で変更できます。変更するには、スマート・フィールドのプロパティで表示長と小数点以下桁数を変更します。通貨の数字フィールドは変更する必要がなく、印刷するとき、適切な通貨プロパティが使用されます。

詳細行のセクション・サイズまたはフォント・サイズを変更する場合は、Invoice HeaderセクションのInitializeセクションで次の3つの変数を変更します。

```
// Set the number of detail lines that can print on a page that DOES NOT have the
// Total Section print
VA rpt_MaxDetailLines_MATH01 = 45
// Set the number of detail lines that can print on a page that DOES have the
// Total Section print
VA rpt_MaxDetLinesWithTots_MATH01 = 25
// Set the number of lines (detail and blank lines) that are between the Detail
// Heading and the Total Section
VA rpt_LinesBeforeTotals_MATH01 = 30
```

行カウントの変更をテストするには、BlankLine変数を設定する代入行を有効にし、一目でわかるような式を指定します。Blank LineセクションのDo Sectionには、次のコード・セクションに示されているような代入行が無効化された状態で用意されています。

```
// This value to be set to <blank>, but can be set to something visible (for
// example blankline) for testing purposes.
! RV Blank Line = BlankLineeeeeeeeeeeeeeeeeeeee
```

スマート・フィールド

次の表は、請求書のデザイン時に請求書に挿入できるスマート・フィールドを示しています。また、スマート・フィールドの挿入時に請求書デザイン担当者が指定する必要のあるパラメータ・プロンプトも示しています。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF0006x(xはA(英文字)、C(文字)、D(日付)またはN(数字))	ビジネスユニット・マスター (F0006)	1	R01PCC。このパラメータを使用して、ビジネスユニット・マスター(F0006)から情報を取得する。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF0014x(xはA、C、DまたはN)	支払条件 (F0014)	1	R01PPT。このパラメータを使用して、支払条件テーブル (F0014) から情報を取得する。
SF0101x(xはA、C、DまたはN)	住所録マスター (F0101)	1	R01PAB。このパラメータを使用して、住所録マスター (F0101) から情報を取得する。
SF0111x(xはA、C、DまたはN)	住所録 - 人名録 (F0111)	1	R01PWW。このパラメータを使用して、住所録 - 人名録テーブル (F0111) から情報を取得する。
SF0115x(xはA、C、DまたはN)	住所録 - 連絡先電話番号 (F0115)	1	R01PPN。このパラメータを使用して、住所録 - 連絡先電話番号テーブル (F0115) から情報を取得する。
		5	R22P。このパラメータを使用して、請求先電話番号の表示方法を指定する。
SF0116x(xはA、C、DまたはN)	日付別住所 (F0116)	1	R01PAD。このパラメータを使用して、日付別住所テーブル (F0116) から情報を取得する。
		5	R23P。このパラメータを使用して、以前入力したデータ項目を一時変更し、住所全体を指定フォーマットで表示するかどうかを指定する。
SF03012x(xはA、C、DまたはN)	業種別顧客マスター (F03012)	1	R01PCM。このパラメータを使用して、業種別顧客マスター (F03012) から情報を取得する。
SF0401x(xはA、C、DまたはN)	仕入先マスター (F0401)	1	R01PSP。このパラメータを使用して、仕入先マスター (F0401) から情報を取得する。
SF0692x(xはA、C、DまたはN)	原価センター補足データ・コード (F00692)	1	R01PSC。このパラメータを使用して、原価センター補足データ・コード・テーブル (F00692) から情報を取得する。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		5 (SF0692Nのみ)	R25P。このパラメータを使用して、取得コード情報の保存先レジスタを指定する。
SF0901x (xはA、C、DまたはN)	勘定科目マスター (F0901)	1	R01PAM。このパラメータを使用して、勘定科目マスター (F0901) から情報を取得する。
SF0693A	原価センター補足データ・テキスト (F00693)	1	R05P。このパラメータを使用して、ジョブ・マスターに入力されているジョブ、所属ビジネスユニットまたはプロジェクトに関連付けられているビジネスユニット情報を印刷するかどうかを指定する。
		2	R26P。このパラメータを使用して、取得する補足データ項目の先頭カラムに関連付けられているデータ・タイプを入力する。
		3	R18P。このパラメータを使用して、取得する補足データ項目の先頭カラムに関連付けられている値を指定する。
		4	R27P。このパラメータを使用して、請求書のその行で先頭の文字となる、テキスト内の位置に関連する数を指定する。このパラメータはR28Pと連動する。
		5	R28P。このパラメータを使用して、請求書内のテキストの印刷を制御する。このパラメータはR27Pと連動する。
SF1201x (xはA、C、DまたはN)	固定資産マスター・ファイル (F1201)	1	R01PEQ。このパラメータを使用して、固定資産マスター・ファイル・テーブル (F1201) から情報を取得する。
SF1721x (xはA、C、DまたはN)	契約明細 (F1721)	1	R01PCD。このパラメータを使用して、契約明細テーブル (F1721) から情報を取得する。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SF4201N	前払取引テーブル (F004201)	1	R29P。このパラメータを使用して、特定の行番号または請求書全体について、CSMSサービス契約の前払金額を印刷するかどうかを指定する。
		2	R25P。このパラメータを使用して、取得コード情報の保存先レジスタを指定する。
SF4801x(xはA、C、DまたはN)	作業オーダー・マスター (F4801)	1	R01PWO。このパラメータを使用して、作業オーダー・マスター・ファイル・テーブル(F4801)から情報を取得する。
SF4802A	作業オーダー指示ファイル (F4802)	1	R06P。このパラメータを使用して、作業オーダー記述を作業オーダー・レコード・タイプに関連付ける。
		2	R27P。このパラメータを使用して、請求書のその行で先頭の文字となる、テキスト内の位置に関連する数を指定する。このパラメータはR28Pと連動する。
		3	R28P。このパラメータを使用して、請求書内のテキストの印刷を制御する。このパラメータはR27Pと連動する。
SF4812x(xはA、C、DまたはN)	請求明細ワークファイル (F4812) 請求ワークファイル履歴 (F4812H)	1	R01PBD。このパラメータを使用して、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)から情報を取得する。
SF4822x(xはA、C、DまたはN)	請求書集計ワークファイル (F4822)	1	R01PIS。このパラメータを使用して、請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)から情報を取得する。
SF48520N	請求集計アクセス(F48520)	1	R01PSA。このパラメータを使用して、請求書集計アクセス・テーブル(F48520)から情報を取得する。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		2	R12P。このパラメータを使用して、累計請求総額を集計するかどうかを指定する。金額を集計することを指定した場合は、契約番号別、変更オーダー別または所有者支払項目別に集計することも指定できる。
		3	R13P。このパラメータを使用して、累計請求総額を集計する、勘定科目コード別の集計レベルを指定する。
		4	R14P。このパラメータを使用して、累計請求総額の集計に使用する基準に従業員番号または仕入先番号のいずれかを指定する。
		5	R16P。このパラメータを使用して、特定の追加料金コードに関連付けられている金額の印刷を制御する。
		6	R25P。このパラメータを使用して、取得コード情報の保存先レジスタを指定する。
SF5201x(xはA、C、DまたはN)	契約マスター(F5201)	1	R01PCBM。このパラメータを使用して、契約マスター(F5201)から情報を取得する。
SF5202x(xはA、C、DまたはN)	契約請求行詳細(F5202)	1	R01PCBD。このパラメータを使用して、契約請求行詳細テーブル(F5202)から情報を取得する。
SF5216x(xはA、C、DまたはN)	マイルストーン/進捗請求情報(F5216) マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細(F52161)	1	R01PMP。このパラメータを使用して、マイルストーン/進捗請求情報テーブル(F5216)から情報を取得する。
SFAMT	ソース・テーブルなし	1	R04P。このパラメータを使用して、単価、収益総額、課税対象額、割引可能額など、請求書に含める各種金額を指定する。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
金額		2	R08P。印刷する金額が明細行の集計である場合は、このパラメータを使用して、総額に含まれる労務費または間接費の追加料金を印刷するかどうかを指定する。
		3	R16P。このパラメータを使用して、特定の追加料金コードに関連付けられている金額を印刷するかどうかを指定する。
		4	R25P。このパラメータを使用して、取得コード情報の保存先レジスタを指定する。
SFABTXT	メディア・オブジェクト・ストレージ (F00165)	1	R02P。このパラメータを使用して、住所録情報の取得に使用される住所録番号を指定する。
		2	R03P。このパラメータを使用して、代替住所録番号を使用するかどうかを指定する。代替番号を使用できる場合は、どれを代替とするかを指定できる。
		3	R27P。このパラメータを使用して、請求書のその行で先頭の文字となる、テキスト内の位置に関連する数を指定する。このパラメータはR28Pと連動する。
		4	R28P。このパラメータを使用して、請求書内のテキストの印刷を制御する。このパラメータはR27Pと連動する。
SFCNTTXT	メディア・オブジェクト・ストレージ (F00165)	1	R30P。このパラメータを使用して、印刷するテキストのレベルを指定する。(このパラメータは契約請求管理専用)

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
		2	R27P。このパラメータを使用して、請求書のその行で先頭の文字となる、テキスト内の位置に関連する数を指定する。このパラメータはR28Pと連動する。
		3	R28P。このパラメータを使用して、請求書内のテキストの印刷を制御する。このパラメータはR27Pと連動する。
SFINVTEXT	メディア・オブジェクト・ストレージ (F00165)	1	R15P。このパラメータを使用して、印刷する請求書バッチ内のテキストのレベルを指定する。
		2	R27P。このパラメータを使用して、請求書のその行で先頭の文字となる、テキスト内の位置に関連する数を指定する。このパラメータはR28Pと連動する。
		3	R28P。このパラメータを使用して、請求書内のテキストの印刷を制御する。このパラメータはR27Pと連動する。
SFADD	ソース・テーブルなし	1から4	R24P。このパラメータを使用して、以前に定義されたレポート変数を指定する。
SFSUB			
SFMUL			
SFDIV			
加算/減算/乗算/除算			
計算			
SFTOTAL	ソース・テーブルなし	1	R10P。このパラメータを使用して、99個のレジスタ(1年分の総額)のどれを印刷するかを指定する。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
登録合計		2	R11P。このパラメータを使用して、選択したレジスタがクリアされてゼロにされるかどうかを制御する。
		3	R25P。このパラメータを使用して、取得コード情報の保存先レジスタを指定する。
SF005A	ユーザー定義コード (F0005)	1	R31P。このパラメータを、ユーザー定義コード「テーブル・タイプ」プロンプトに関連付けられているパラメータと組み合わせて使用して、宛先ユーザー定義コード・テーブルを指定する。
		2	R32P。このパラメータを、ユーザー定義コード「製品コード」プロンプトに関連付けられているパラメータと組み合わせて使用して、宛先ユーザー定義コード・テーブルを指定する。
		3	R33P。このパラメータを使用して、以前に定義されたレポート変数をドロップダウン・リスト・ボックスを使用して選択する。選択するレポート変数には、定義済UDCテーブルに関連付けられている値が含まれている必要がある。
		4	R35P。このパラメータを使用して、関連付けられているユーザー定義製品コードおよびレコード・タイプを使用した宛先ユーザー定義コード・テーブルの取得に使用されるデータ辞書項目を指定する。

スマート・フィールド	ソース・テーブル	パラメータ	説明
SFCALC	ソース・テーブルなし	1	R34P。このパラメータを使用して、複数のレジスタに保存されている値の演算による値の計算と表示に使用される式を入力する。
レジスタ計算		2	R25P。このパラメータを使用して、取得コード情報の保存先レジスタを指定する。

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- ワークファイル取引を生成します。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイルの生成」、261ページ

- 請求書の生成中に請求書を印刷する場合の請求書バージョンを指定します。

参照: 第 4 章、「請求書処理の設定」、「請求書印刷バージョン相互参照の設定」、86ページ

- サービス請求管理の請求書の生成プログラム (R48121) または契約請求管理の請求書の生成プログラム (R52121) の「請求書印刷バージョン (R48504)」処理オプションを指定します。

参照: 第 14 章、「請求書の処理」、「JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の生成 (R48121) の処理オプションの設定」、323ページ

参照: 第 14 章、「請求書の処理」、「JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の生成 (R52121) の処理オプションの設定」、327ページ

サービス請求管理の場合は、次も設定します。

- 相手勘定/留保金情報を定義します。

参照: 第 3 章、「テーブル情報の設定」、「JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の相手勘定/留保金規則の設定」、57ページ

- 請求書情報の順序と集計を定義します。

参照: 第 4 章、「請求書処理の設定」、「順序/集計規則の設定」、83ページ

請求書の印刷に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
サービス請求書の入力	W4822B	「請求書の処理」 (G48S21)、「バッチの検討」 「請求書の処理」フォーム でバッチを選択して、「選 択」をクリックします。 「請求書の処理」フォームで 改訂する請求書を選択し、 「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の一時 変更請求書印刷バージョ ンを割り当てます。
契約マスターの改訂	W5201D	「日次処理」(G5210)、「契 約マスターの改訂」 「契約マスターの処理」 フォームで契約を選択し、 「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の一時変更 請求書印刷バージョンを 割り当てます。
バッチの処理	W48221B	<ul style="list-style-type: none"> 「請求書の処理」 (G48S21)、「バッチの 検討」 「請求書の処理」 (G5221)、「バッチの 検討」 	請求書のバッチを手動で 印刷します。

請求書印刷(R48504)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

選択

この処理オプションでは、請求書を手形と最終のどちらの形式で印刷するか、および特定のタイプの請求行項目を含めるかどうかを指定します。

- 1. 請求書のフォーマット・タイプ(必須)**

請求書バージョンUBEと請求書バージョンの取得に使用する請求書フォーマット・タイプを指定します。
- 2. 金額ゼロの請求行項目を含める**

この処理オプションをブランクにするか、または「0」を入力すると、印刷される請求書に金額ゼロの請求行項目が含まれます。
「1」を入力すると、印刷される請求書から金額ゼロの請求行項目が除外されます。
- 3. 留保金リリース行項目を含める**

この処理オプションをブランクにすると、留保金リリース済の請求行項目が印刷される請求書に含まれます。
「1」を入力すると、留保金リリース済の請求行項目が印刷される請求書から除外されます。

印刷

この処理オプションでは、使用する請求書印刷プログラムのプログラム番号とバージョンを指定します。請求書フォーマット名は、一時変更もできます。

「請求書印刷プログラム」、「請求書印刷バージョン」、「請求書ワークファイル明細フォーマット選択」の各処理オプションは、互いに組み合わせて使用します。この処理オプションのいずれかに値を入力した場合は、残りの処理オプションにも入力が必要です。値を入力しない場合は、「請求書フォーマット名」処理オプションのみ指定します。

1. **請求書印刷プログラム** 請求書印刷相互参照テーブル(F48S58)に設定されている請求書バージョンのかわりに使用する請求書印刷UBEを指定します。値は次のとおりです。
R48506: 請求書印刷UBE
R48507: 請求書印刷(スマートフィールドあり)

注意: この処理オプションで請求書印刷UBEを指定した場合は、そのUBEに対して有効なバージョンを「請求書印刷バージョン」処理オプションに入力する必要があります。
2. **請求書印刷バージョン** 「請求書印刷プログラム」処理オプションに指定されている請求書印刷UBEのバージョンを指定します。このバージョンが、請求書印刷相互参照テーブル(P4858)に設定されているバージョンのかわりに使用されます。この処理オプションは、「請求書印刷プログラム」処理オプションも指定する場合にのみ入力します。
3. **請求書ワークファイル明細フォーマット選択** 請求書の印刷時に個別の行項目として処理されるワークファイル・レコードまたはワークファイル履歴レコードを指定するコードを入力します。値は次のとおりです。
ブランク: 基本レコード、間接費レコードおよび追加料金レコードを含めません。
1: 基本レコードのみを含めます。
2: 基本レコードと間接費レコードのみを含めます。
3: 基本レコードと追加料金レコードのみを含めます。
4. **請求書フォーマット名** 請求書フォーマット名を入力して、請求書印刷バージョン相互参照テーブル(F48S58)に設定されている請求書フォーマット名または契約マスター(F5201)から取得された請求書フォーマット名を一時変更します。

通貨

この処理オプションでは、請求書の金額の印刷に使用される通貨を指定します。

1. **通貨** 請求書の金額の印刷に使用される通貨を指定するコードを入力します。値は次のとおりです。
ブランク: 金額の印刷に使用する通貨の判断に請求書の通貨を使用する。
0: 金額を国内通貨で印刷する。
1: 金額を外貨で印刷する。

注意: この値は、金額の取得スマート・フィールドを使用して印刷される金額にのみ影響します。

プロジェクトおよび公共事業契約の印刷

この処理オプションを使用して、Project and Government Contract Accounting(PGCA)契約の印刷プログラム、バージョンおよび請求書スタイルを指定します。

1. 請求書印刷UBEの一時変更 (請求書印刷ユニバーサル・バッチ・エンジンの一時変更)

請求書印刷プログラムを指定して、PGCA契約の請求書印刷相互参照テーブル (F48S58) に設定されている請求書印刷プログラムを一時変更します。「R52G507」と入力すると、米国公共事業1035請求書印刷プログラムで印刷されます。

この処理オプションに「R52G507」と入力した場合は、R52G507プログラムの有効なバージョンを「請求書印刷バージョンの一時変更」処理オプションに入力する必要があります。

2. 請求書印刷バージョンの一時変更

「請求書印刷UBEの一時変更」処理オプションに指定されている請求書印刷プログラムのバージョンを指定して、PGCA契約向けの請求書印刷相互参照プログラム (P48S58) に設定されているバージョンを一時変更します。この処理オプションは、「請求書印刷UBEの一時変更」処理オプションを指定した場合にのみ入力します。

3. 請求書印刷スタイルの一時変更

この処理オプションを使用して、請求書レベル・スタイル・テーブル (F52G84) に設定されている請求書印刷スタイルを一時変更します。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の一時変更 請求書印刷バージョンの割当

「サービス請求書の入力」フォームにアクセスします。

請求書フォーマット・バージョン

請求書のレイアウトを識別するコードを入力します。このレイアウトで、請求書またはバッチに対して以前に定義された、他の請求書のレイアウトを一時変更します。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の一時変更 請求書印刷バージョンの割当

「契約マスターの改訂」フォームにアクセスします。

請求書フォーマット・コード

請求書のレイアウトを識別するコードを入力します。このレイアウトで、請求書またはバッチに対して以前に定義された、他の請求書のレイアウトを一時変更します。

請求書の自動印刷

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の場合は、「請求書の処理」(G48S21) の「請求書の生成」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合は、「請求書の処理」(G5221) の「請求書の生成」を選択します。

これにより、処理オプションで指定した請求書印刷プログラム (R48504) のバージョンを使用して、バッチに含まれるすべての請求書が印刷されます。

請求書バッチの手動印刷

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択し、「ロー」メニューから「請求書印刷」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金の処理

この項では、JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金と留保金のリリースの概要および次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金の再計算
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金のリリース

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金について

留保金は、作業の完了後に会社に対して支払われる請求書金額部分です。たとえば、顧客に対する請求書で10%の金額が留保されます。作業が完了し、留保されている請求書金額の支払を顧客が承認したら、留保金をリリースします。

留保金の計算と勘定規則は、相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)で定義します。請求書の生成プログラム(R48121)を実行すると、この規則を使用して留保金が生成され、留保金の相手勘定が割り当てられます。自動計算された留保金と留保金の相手勘定は、「サービス請求書の入力」フォームで検討および改訂できます。

留保金の金額やパーセントは、「サービス請求書の入力」フォーム(W4822B)で請求書ごとに変更できます。たとえば、システムの留保金規則を変更したが、変更前に請求書を生成した場合は、留保金額を変更する必要性が考えられます。

請求書金額の留保金の金額またはパーセントを入力すると、留保金が計算され、その留保金額で支払項目が更新されます。次の理由で留保金の再計算が必要になることがあります。

- 請求書の留保金の金額またはパーセントの手動による変更
- 請求書にレコードの追加
- 留保金が存在する請求書を生成した後でシステムの留保金規則の変更

留保金の計算規則は、相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)に設定されます。請求書の生成中には留保金額の計算と相手勘定の割当にこの規則が使用されます。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金のリリースについて

作業が完了し、留保されている請求書金額の支払を顧客が承認した場合は、留保金をリリースします。留保金をリリースする場合は、留保されていた金額に対する支払項目を手動で作成します。既存の請求書に留保金の支払項目を追加するか、追加請求書を作成することができます。この留保金リリース請求書には、顧客に対する以前の請求から留保された金額を表すマイナスの金額が記載されます。留保されている金額の一部をリリースすることはできません。

請求書と留保金リリース請求書との間には、1対1の関係を維持することをお勧めします。複数の請求書の留保金をまとめて単一の留保金リリース請求書を作成した場合、いずれかの請求書とその留保金を破棄する必要が生じると、すべての請求書について留保金リリースを無効化することが必要になります。さらに、残りの請求書の留保金を再リリースすることが必要になります。

留保金をリリースするために作成された請求書を含む請求書バッチを生成する場合は、バッチの総額からリリース済留保金の総額分が差し引かれます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求書の処理	W48222B	「請求書の処理」(G48S21)、「バッチの検討」 「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。	留保金の再計算またはリリース対象となるサービス契約管理の請求書を指定します。
サービス請求書の入力	W4822B	「請求書の処理」フォームで請求書を選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金を再計算します。
請求書の作成	W48121A	「請求書の処理」(G48S21)、「バッチの検討」 「バッチの処理」フォームの「フォーム」メニューから「バッチ作成」を選択します。 「バッチの処理」フォームで新しいバッチを選択し、「選択」をクリックします。 「請求書の処理」フォームの「フォーム」メニューから「請求書の作成」を選択します。	JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金をリリースします。
請求書履歴照会	W48250A	「請求書の処理」フォームで新しい請求書を選択し、「ロー」メニューから「留保金のリリース」を選択します。	留保金をリリースする請求書を選択します。
留保金のリリース	W48250B	「請求書履歴照会」フォームで留保金のリリース対象となる請求書を選択し、「ロー」メニューから「留保金のリリース」を選択します。	請求書全体に対して留保金の一部をリリースするか、特定の支払項目の留保金をリリースします。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金の再計算

「サービス請求書の入力」フォームにアクセスします。

バッチの検計 - サービス請求書の入力

OK(O) 検索(D) 削除(D) 取消(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

バッチNo.

5455

会社

00050

USD

顧客

150

Property Management Company

☐ 外貨

請求書No.

3044

RI

課税額

請求書日付

2005/06/30

税額

元帳日付

2005/06/30

非課税額

4,748.84

代替受取人

150

留保額

請求書フォーマット・バージョン

請求金額合計

4,748.84

伝票会社

00050

請求書為替レート

レコード 1 - 2

グリッドのカスタマイズ

	支払項目	総額	課税対象額	税額	非課税額	留保パーセント	留保金額	提示割引額	税率/税域
<input checked="" type="radio"/>	001	4,748.84			4,748.84				
<input type="radio"/>									

「サービス請求書の入力」フォーム

留保パーセント

請求書支払項目の留保率を入力します。留保率は整数で指定します。たとえば、留保率が10.5%の場合は、「10.5」と入力します。99.99よりも大きい留保率またはゼロよりも小さい留保率を入力しないでください。

留保金額

請求書支払項目に対する留保金額を入力します。

留保金元帳クラス

留保金の仕訳関連の勘定規則を変更するには、留保金の相手勘定を示すコードを「RETN」や「1225」のように入力します。AAIとしてコードを設定します。

注意: コード9999は使用しないでください。このコードは、仕訳を作成しないように設定されている転記プログラムの予約コードです。

「留保金元帳クラス」フィールドを入力せず、特定の留保金勘定を指定しなかった場合は、売掛金勘定のAAIが使用されます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の留保金のリリース

「請求書の作成」フォームにアクセスします。

次の例は、手順4でアクセスする「留保金のリリース」フォームを示しています。

バッチの検討 - 留保金のリリース i ?

OK(O) 取消(L) ツール(T)   

請求書No./タイプ/会社 3066 RI 00050 ☐ 外貨

留保金総額 168.12 留保金残高 168.12

リリース予定留保金額

レコード 1-2 グリッドのカスタマイズ   

	支払項目	留保金額	リリース済み	留保金残高	リリース予定金額	リリース予定パーセント
<input checked="" type="radio"/>	001	168.12		168.12	<input type="text"/>	<input type="text"/>
<input type="radio"/>						

「留保金のリリース」フォーム

- 「顧客」、「伝票会社」、「請求開始日付」、「請求終了日付」、「元帳日付」、「請求書日付」の各フィールドに入力します。
「伝票タイプ」フィールドと「為替レート基準日」フィールドの入力は任意です。
- 「OK」をクリックします。
表示が「請求書の処理」フォームに戻ります。新しい請求書が総額なしで作成されます。表示されたら、留保金をリリースするための情報を入力します。
- 新しい請求書を選択し、「ロー」メニューから「留保金のリリース」を選択して、「請求書履歴照会」フォームにアクセスします。
- 留保金のリリース対象となる請求書を選択し、「ロー」メニューから「留保金のリリース」を選択して、「留保金のリリース」フォームにアクセスします。
- 請求書全体の留保金の一部をリリースするには、見出し領域の「リリース予定パーセント」フィールドに入力します。
- 特定の支払項目の留保金をリリースするには、グリッドの「リリース予定金額」フィールドまたは「リリース予定パーセント」フィールドに入力します。
- 「OK」をクリックします。

「請求書履歴照会」フォームで各請求書の「留保金のリリース」フィールドがIとマークされます。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金の処理

この項では、契約請求管理の留保金と留保金のリリースの概要および次の方法について説明します。

- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金の改訂
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金の再計算
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の契約または変更オーダーの留保金のリリース
- 契約請求行の留保金のリリース

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金について

留保金は、契約された作業の指定部分の完了後に会社に対して支払われる請求書金額部分です。たとえば、作業の50%が完了するまで10%の留保金が発生し、その後、作業の95%が完了するまで5%の留保金が発生するとします。作業が完了し、留保されている請求額の支払を顧客が承認したら、留保金をリリースします。

留保金は、契約マスターの契約、変更要求または請求行に対し、定義した留保金規則を使用して設定します。留保金規則の定義には、留保金規則テーブルの改訂プログラム (P5204) を使用します。契約に対して請求書を生成する際、留保金額の計算には留保金規則が使用されます。留保金の相手勘定は、契約マスターの情報に基づいて割り当てられます。自動計算された留保金額は、請求行の改訂フォームで検討および改訂できます。具体的なフォームには、バッチの検討プログラム (P48221) からアクセスします。

留保金額は、留保金規則が割り当てられている契約に対して請求書が生成されるときに計算されます。自動計算された留保金額は、検討および改訂できます。金額を改訂した場合は、留保金を再計算して元の留保金額に戻ることができます。

留保金を改訂するのは、契約請求行の請求額を手動で変更した場合または総額または単価のいずれかの請求書金額を手動で入力した場合です。このいずれかの変更を請求書の生成プログラムの実行後に行った場合、留保金は自動計算されません。

手数料行の請求書金額が存在しないか、または不完全である場合は、請求額を手動で入力したとき、手数料が自動計算されません。この場合は、手数料行と留保金の支払項目金額の両方を手動で改訂するか、または手数料と留保金を再計算する必要があります。

次の理由によって、留保金の再計算が必要となることがあります。

- 留保金の金額またはパーセントの手動による変更
- 請求書にレコードの追加
- 留保金が存在する請求書を生成した後でのシステムの留保金規則の変更

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金のリリースについて

作業が完了し、留保されている請求書金額の支払を顧客が承認した場合は、留保金をリリースします。JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理では、契約請求行ごとに留保金額が減額されます。留保額は、契約全体、変更オーダーまたは請求行を対象にリリースできます。また、変更オーダーを除いた契約か、特定の変更オーダーまたは請求行を対象に、留保されている金額の一部をリリースすることもできます。

留保金をリリースするには、まず「バッチの処理」フォームの「ロー」メニューから「A/Rの作成」を選択して、留保金を含む請求書バッチを処理します。

注意: 留保金が部分的にリリースされ、リリース後に別の請求書が処理されると、その請求書金額に対して留保金が計算されます。部分的にリリースされた金額は計算に使用されず、留保金の再計算には使用されません。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金の 処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求書の処理	W48222B	「請求書の処理」(G5221)、 「バッチの検討」 「請求書の処理」フォーム でバッチを選択して、「選 択」をクリックします。	留保金の再計算またはリ リース対象となる契約請 求管理の請求書を指定 します。
契約請求行の照会	W5222B	「請求書の処理」フォームで 改訂する請求書を選択し、 「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金を 再計算します。
タイム・アンド・マテリアル 請求行の改訂、追加料金 請求行の改訂	W52221C	「契約請求行の照会」フォー ムで、改訂するタイム・アン ド・マテリアル請求行または 追加料金請求行を選択し、 「選択」をクリックします。	取得したタイム・アンド・マ テリアル請求行または追 加料金請求行について、 留保金額を改訂するか、 留保金をリリースします。 表示されるフォームの名前 は、選択した請求行のタイ プによって異なります。
単価請求行の改訂	W52221B	「契約請求行の照会」 フォームで、改訂する単価 請求行を選択し、「選択」を クリックします。	取得した単価請求行に ついて、留保金額を改 訂するか、留保金をリ リースします。
一括請求行の改訂	W52221A	「契約請求行の照会」 フォームで、改訂する総額 請求行を選択し、「選択」を クリックします。	取得した総額請求行に ついて、留保金額を改 訂するか、留保金をリ リースします。
手数料行の改訂、直接分 割融資行の改訂、率による 分割融資行の改訂	W52221E	「契約請求行の照会」 フォームで、改訂する手数 料請求行、直接分割融資 請求行または率による分 割融資請求行を選択し、 「選択」をクリックします。	取得した手数料請求行、 直接分割融資請求行また は率による分割融資請 求行について、留保金額を改 訂するか、留保金をリ リースします。 表示されるフォームの名前 は、選択した請求行のタイ プによって異なります。
マイルストーン請求行の改 訂、進捗請求行の改訂	W52221D	「契約請求行の照会」 フォームで、改訂するマイ ルストーン請求行または進 捗請求行を選択し、「選択」 をクリックします。	取得したマイルストーン請 求行または進捗請求行に ついて、留保金額を改 訂するか、留保金をリ リースします。 表示されるフォームの名前 は、選択した請求行のタイ プによって異なります。

ページ名	オブジェクト名	ナビゲーション	用途
請求書の作成	W52121A	「請求書の処理」(G5221)、 「バッチの検討」 「バッチの処理」フォーム の「フォーム」メニューから 「バッチ作成」を選択 します。 「バッチの処理」フォームで 新しいバッチを選択し、「選 択」をクリックします。 「請求書の処理」フォーム の「フォーム」メニューから 「請求書の作成」を選択 します。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の契約また は変更オーダーの留保金 をリリースします。
留保金のリリース	W52RRA	「契約請求行の照会」 フォームの「フォーム」メ ニューから「留保金リリ ース」フォームを選択します。	契約請求行の留保金をリ リースします。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の留保金の改訂

請求行の改訂フォーム(「タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂」フォームなど)にアクセスします。

バッチの検討 - タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂

OK(O) 取消(L) フォーム(F) ツール(T)

請求書No. 3146 RI 修正No. 1 外貨 USD
契約No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build 為替レート
変更No. 000 Original 相手勘定
請求行 134X Labor
予定値 未完了残高 7,569.00-

金額 パーセント 留保額 割引摘要 給与計算

	現期間	%	前期間	%	累計	%
留保	1,500.18	19.82			1,500.18	19.82
繰延税						
			リリース前金額			

留保金タイプ選択

☒ 調整 ☐ リリース

「タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂」フォーム

「タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂」フォームは一例です。表示されるフォームは、選択した請求行タイプによって異なります。

「留保額」タブを選択します。

重要: 支払項目の留保金額を更新して「契約請求行の照会」フォームに戻った後に、「フォーム」メニューから「留保金再計算」を選択しないでください。選択すると、請求行の改訂フォームに入力した留保金額が一時変更されます。

バッチの作成後に留保パーセントが変更された場合は、「契約請求行の照会」フォームの「フォーム」メニューから「留保金再計算」を選択できます。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の留保金の再計算

「契約請求行の照会」フォームにアクセスします。

「フォーム」メニューの「留保金再計算」を選択します。

新たな留保金計算に影響される次のフィールドが更新されます。

- 現行税額
- 現行合計額
- 現行留保額
- 留保金累計額
- 累計税額
- 累計合計額

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の契約または変更オーダーの留保金のリリース

「請求書の作成」フォームにアクセスします。

次の例は、手順6でアクセスする「留保金のリリース」フォームを示しています。

バッチの検討 - 留保金のリリース

取消(L) ツール(T)

連絡先No. 5351 R2 00050 Baseball Ballpark Build

リリース・レベル

☐ すべて
☒ 連絡先
☐ 変更オーダー

保証金の留保規則

契約金額 4,692,000.00

請求累計額 711,028.16

留保可能金額

リリース留保金額 1,500.18

留保率累計

リリース留保率

留保金のリリース/調整

留保金タイプ選択

☒ 調整
☐ リリース

「留保金のリリース」フォーム

1. 「契約/タイプ/会社」フィールドと「請求開始日付」フィールドに入力します。
2. 「金額ゼロ請求書の処理」フィールドに「2」（ゼロに初期化）を入力します。
3. 「送信」をクリックします。
4. 請求書の生成を確定するプロンプトが表示されたら、「OK」をクリックして請求書を作成します。
請求書を作成するバッチ・ジョブが完了すると、「請求書の処理」フォームが表示されます。
5. 検討または改訂する請求書を選択し、「選択」をクリックして、「契約請求行の照会」フォームにアクセスします。
6. 「フォーム」メニューの「留保金リリース」を選択します。
「留保金のリリース」フォームの初期状態では「リリース留保金額」フィールドと「リリース留保率」フィールドに値が表示されます。この状態では、契約のすべての留保金がリリースされます。ただし、独自の留保金規則が存在する請求行に関連付けられている留保金は除きます。
7. 「留保金のリリース」フォームで、次を選択します。
 - ・「すべて」を選択すると、契約に関連付けられているすべての留保金と、独自の留保金規則が定義されている全請求行を含むすべての関連変更オーダーがリリースされます。
 - ・「連絡先」を選択すると、契約の留保金がリリースされ、関連変更オーダーは、独自の留保金規則が定義されている請求行を含めて除外されます。
 - ・「変更オーダー」を選択すると、独自の留保金規則が定義されている全請求行を除いて、特定の変更オーダーの留保金がリリースされます。
8. 「連絡先」オプションまたは「変更オーダー」オプションをクリックした場合は、「リリース留保金額」フィールドまたは「リリース留保率」フィールドに入力します。
リリース留保率は、リリース留保金額を留保可能金額で除算して計算されます。

留保金額は増減できます。新しい留保金額は、次の計算式を使用して、契約のすべての請求行に配賦されます。

$$((\text{請求書の支払項目の額}) \div (\text{請求書の合計金額})) \times (\text{留保金額})$$

実際の留保金額を超える額の留保金をリリースすることはできません。

9. 「留保金のリリース/調整」をクリックします。

留保金のリリース情報は、「契約請求行の照会」フォームで検討できます。

注意: 留保金のリリース金額を調整するには、「留保金のリリース」オプションを再度選択します。この場合は、以前に入力したリリース情報が表示されます。

リリース留保金額	この請求書でリリースする留保可能金額の一部を入力します。この値を変更すると、リリース留保率の値が自動で再計算されます。マイナスの金額を入力してください。
リリース留保率	この請求書でリリースする留保可能金額のパーセントを入力します。この値を変更すると、リリース留保金額が自動で再計算されます。マイナスのパーセントを入力してください。

契約請求行の留保金のリリース

請求行の改訂フォーム（「タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂」フォームなど）にアクセスします。

「留保額」タブを選択し、「留保額」タブに表示される4つの留保金フィールドのいずれかを更新します。

フォームの留保金額と留保率は、留保する金額またはパーセントを表しており、リリースする金額またはパーセントではありません。留保金をリリースするには、金額またはパーセントを削減します。請求行の留保金を全額リリースするには、留保金額または留保率として「0」を入力します。

請求書履歴の処理

この項では、請求書履歴および最終請求書の無効化の概要と次の方法について説明します。

- 履歴からの請求書の印刷
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の請求書履歴の検討
- JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の詳細な請求書履歴の検討
- 契約の状況の改訂
- 最終請求書の無効化
- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金リリース請求書の無効化

請求書履歴について

請求の売掛仕訳と元帳仕訳を作成すると、請求処理を完了したワークファイル取引が請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) に移動されます。これらの取引にアクセスするには、最終請求書を使用します。

最終請求書に対する作業では、必要に応じて請求書を検討できます。請求書を再印刷するには、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の取引を使用します。最終請求書は、無効化することもできます。最終請求書が無効化すると、請求書に含まれていた請求取引は、状況が未請求に指定され、アクティブな F4812 テーブルに戻されます。戻された未請求の取引は、再処理するか、収益が未認識の場合は状況を請求不可に変更します。

請求書履歴にアクセスするとまず請求書番号が表示され、特定の顧客に関する請求情報を検討する必要があります。関連請求書が無効化されていない場合は、取引の請求明細履歴も検討できます。

履歴から取引にアクセスし、請求書印刷レポート (R48504) を使用して請求書を再印刷できます。たとえば、郵送中に請求書が紛失したが、請求処理は完了している場合は、該当する請求書を履歴から再印刷できます。

重要: 印刷済請求書のコピーは保存されません。請求書に関連付けられているバージョンを変更すると、再印刷した請求書は以前に印刷した請求書と異なる外観になります。

最終請求書の無効化について

最終請求書仕訳の作成後、請求書が無効にすることができます。請求書が無効化すると、請求書に含まれていたワークファイル取引は、状況が未請求に指定され、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) に戻されます。また取引には、最後の再計算と最初のワークファイル生成のいずれか後に行われた方の為替レートを使用して計算された金額が含まれます。戻された取引は、再処理するか、状況を請求不可に変更できます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理では、非 T&M ワークファイル取引をリセットできません。

未転記の現金入金を転記済請求書と照合済の場合は、該当する入金を無効化または逆仕訳してから転記済請求書が無効化する必要があります。転記済の現金入金を転記済請求書と照合済の場合は、該当する現金入金を無効化し、無効を総勘定元帳に転記してから転記済請求書が無効化する必要があります。

請求書が無効化すると、次の処理が行われます。

- 売掛金元帳テーブル (F03B11) に与信情報が作成されます。
- 取引明細テーブル (F0911) に与信情報が作成されます。
- バッチ制御レコード・テーブル (F0011) のバッチ見出しレコードが更新されます。
- 請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) の無効請求書情報が更新されます。
- 請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) の無効請求書情報が更新されます。
- F4812H テーブルの無効化されたワークファイル取引が、今後の処理に備えて F4812 テーブルにコピーされます。

注意: JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合にのみ、請求固定情報の「仕訳作成の制御」オプションが「請求/収益-調整あり」に設定されていると、タイム・アンド・マテリアル収益レコード以外に、非タイム・アンド・マテリアル収益レコードが F4812 テーブルにコピーされます。

- JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の場合にのみ、請求書に留保されていた留保金額がリセットされます。

重要: 請求書をJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムまたはJD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムで作成した場合は、作成時と同じシステムの無効化処理を使用する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne売掛管理で請求書を無効化すると、該当する請求テーブルが更新されません。

未転記の請求書を無効化すると、売掛レコードと総勘定元帳レコードが削除されます。売掛取引、元帳取引および請求書番号に関する監査証跡は作成されません。

転記済請求書を無効化すると、元の仕訳を逆仕訳するための調整売掛仕訳および調整元帳仕訳が作成され、売掛バッチ状況が保留または承認済に変わります。「請求書を無効にする」に表示されるバッチ番号の調整仕訳は、転記が必要です。

請求書履歴の処理に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
請求書履歴照会	W48250A	「請求書の処理」(G48S21)、「請求書履歴照会」	最終請求書を無効化します。 JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金リリース請求書を無効化します。 「請求書履歴照会」フォームの「未収金額のリリースのみ」フィールドにRと表示される請求書には、金額または請求明細履歴がありません。
明細履歴の処理	W4812HA	「請求書履歴照会」フォームで請求書を選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の請求書の詳細な履歴を検討します。
契約履歴の処理	W52250A	「請求書の処理」(G5221)、「契約請求書の履歴照会」	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の請求書履歴を検討します。 JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の最終請求書を無効化します。
契約請求行の照会	W5222B	「契約履歴の処理」フォームで請求書を選択し、「選択」をクリックします。	JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の詳細履歴を検討します。
契約状況照会の処理	W52200A	「契約請求行の照会」フォームまたは「契約履歴の処理」フォームの「フォーム」メニューから「状況照会」を選択します。	契約の状況を改訂します。
請求書を無効にする	W48250C	「請求書履歴照会」フォームまたは「契約履歴の処理」フォームで、無効化する請求書を選択し、「ロー」メニューから「無効にする」を選択します。	無効化する請求書の元帳日付を入力し(省略可)、最終請求書を無効化します。

履歴からの請求書の印刷

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の場合は、「請求書の処理」(G48S21)の「請求書の印刷」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の場合は、「請求書の処理」(G5221)の「請求書の印刷」を選択します。

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の請求書履歴の検討

「契約履歴の処理」フォームにアクセスします。

契約請求書の履歴照会 - 契約履歴の処理

選択(S) 検索(I) 開じる(L) フォーム(F) ロー(R) ツール(T)

契約番号: 5031 R2 00050 Access Road
 契約通貨モード: D 国内通貨
 予定金額: 565,000.00 USD

無効レコード
☐ 無効レコードの表示

レコード 1 - 1 グリッドのカスタマイズ

申請 番号	調整 番号	請求書 番号	無 効	請求書 日付	基本 通貨	現行 正味金額	累計 正味金額	未請求 残高
1		3074		2005/07/11	USD	16,475.00	16,475.00	548,525.00

「契約履歴の処理」フォーム

JD Edwards EnterpriseOne 契約請求管理の請求書の詳細な請求書履歴の検討

「契約請求行の照会」フォームにアクセスします。

JD Edwards EnterpriseOne Project and Government Contract Accounting (PGCA) システムで作成された契約を照会した場合は、資金調達レベルの総額と次の追加フィールドが表示されます。

- 請求書レベル
- 資金調達レベル

契約の状況の検討

「契約状況照会の処理」フォームにアクセスします。

契約請求書の履歴照会 - 契約状況照会の処理

検索① 開じる(L) ロウ(R) ツール(D)

契約番号 5351 R2 Baseball Ballpark Build 終了日付 2009/06/29

顧客番号 3334 Lewis En ☐ 数量/単価の表示

基本通貨 USD 請求通貨 USD

レコード 1 - 12 グリッドのカスタマイズ

	変更 オーダー	請求 行	価格 設定	記述	単位	収益 完了率	予定額	請求済 課税対象額	請求済 税額
<input checked="" type="radio"/>	000	134X	T	Labor					
<input type="radio"/>	000	1350-GENERAL	T	Materials					
<input type="radio"/>	000	1350-SEATING	U	Seating	PC		2,000,000.00		
<input type="radio"/>	000	1355	T	Equipment					
<input type="radio"/>	000	1360	L	Subcontract			2,500,000.00		
<input type="radio"/>	000	ADMIN	F	Administrative					
<input type="radio"/>	000	001	D	Draw			25,000.00-		
<input type="radio"/>	000	002	P	Progress			100,000.00		
<input type="radio"/>	000	003	R	Rated Draw			1,000.00-		
<input type="radio"/>	000	004	M	Milestone			92,000.00		
<input type="radio"/>				小計			4,666,000.00		
<input type="radio"/>				合計			4,666,000.00		

「契約状況照会の処理」フォーム

最終請求書の無効化

「請求書履歴照会」フォームにアクセスしてサービス請求管理の請求書を無効化するか、「契約履歴の処理」フォームにアクセスして契約請求管理の請求書を無効化します。

1. 無効化する請求書を選択し、「ロー」メニューから「無効にする」を選択して、「請求書を無効にする」フォームにアクセスします。
2. (省略可)「元帳日付を入力」フィールドに値を入力します。
3. 「無効にする」ボタンをクリックします。

「請求書履歴照会」フォームまたは「契約履歴の処理」フォームで、請求書の「無効」フィールドにVが指定されます。

注意: リリース済留保金が存在するサービス請求管理の最終請求書を無効化した後には、留保金をリリースするために作成した留保金リリース請求書も無効化する必要があります。

JD Edwards EnterpriseOne サービス請求管理の留保金 リリース請求書の無効化

「請求書履歴照会」フォームにアクセスします。

1. 無効化する留保金リリース請求書を選択し、「ロー」メニューから「無効にする」を選択して、「請求書を無効にする」フォームにアクセスします。

該当する留保金リリース請求書の「請求書履歴照会」フォームで「留保金リリース」フィールドがRと表示されます。

2. (省略可)「元帳日付を入力」フィールドに値を入力します。
3. 「無効にする」ボタンをクリックします。

該当する留保金リリース請求書の「請求書履歴照会」フォームで「無効」フィールドがVと指定されます。

注意:「請求書履歴照会」フォームの「未収金額のリリースのみ」フィールドにRと表示される請求書には、金額または請求明細履歴がありません。

複数の請求書の留保金をリリースする留保金リリース請求書を1つのみ作成し、その後、それらの複数の請求書のうち1つのみを無効にした場合は、この留保金リリース請求書も無効化する必要があります。さらに、無効化しなかった請求書の留保金を再度リリースする必要があります。

第 15 章

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の伝票処理

この章では、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の伝票処理と伝票バッチの概要、および次の方法について説明します。

- 伝票の自動生成
- 伝票情報の検討
- 伝票情報の削除
- 伝票仕訳の作成
- 伝票バッチの転記

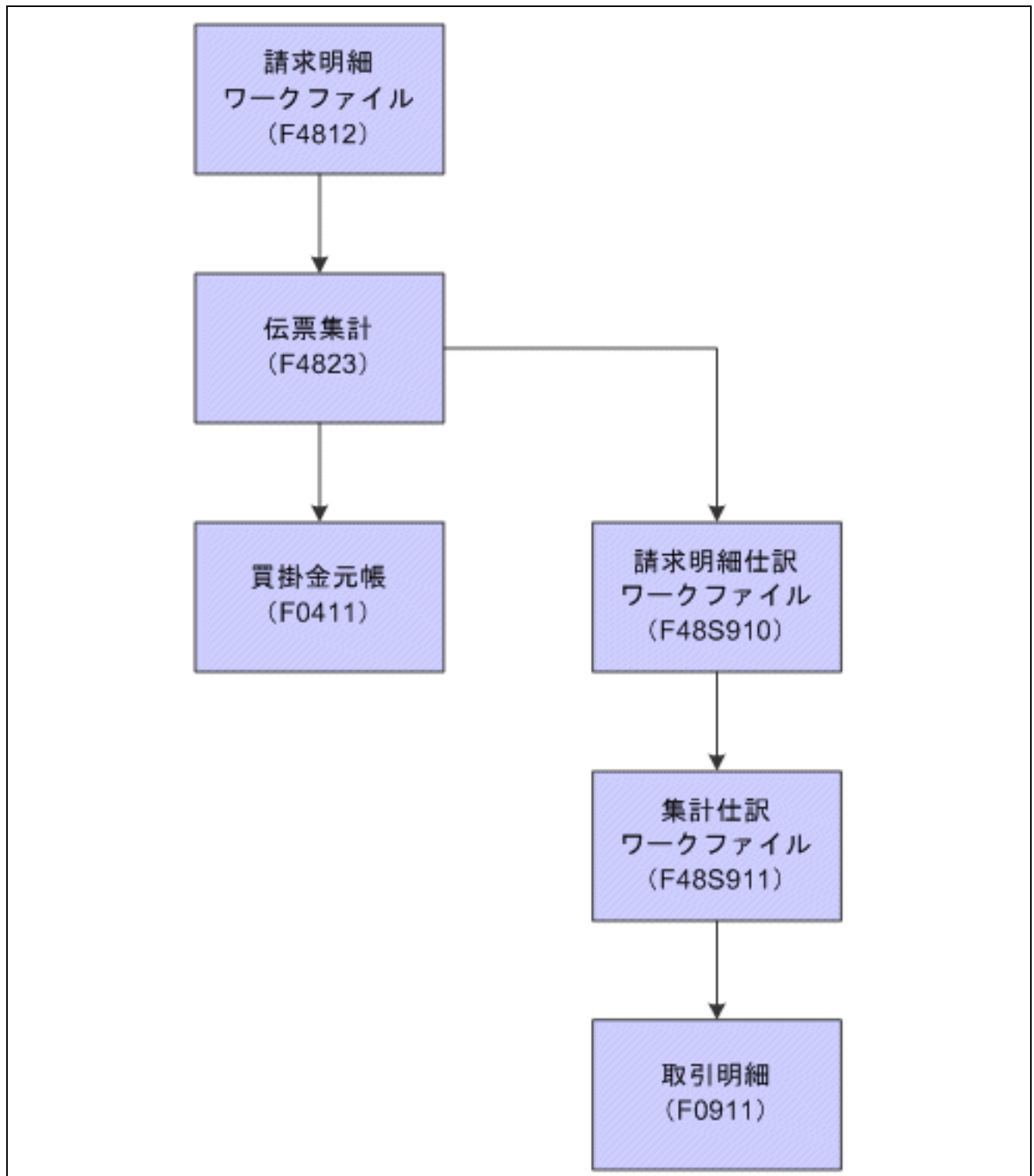
JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理の伝票処理について

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムによって最初に作成される、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) のワークファイル取引は、区別されない汎用的な取引です。これらの取引には、伝票を作成する場合に必要な重要な情報が含まれていますが、これらの取引は区別されておらず、特定の伝票番号は割り当てられていません。

JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理を使用すると、JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムの伝票を自動的に作成できます。「伝票の処理 (S/WMのみ)」メニューから伝票の生成プログラム (R48122) を実行すると、伝票が自動的に作成されます。

JD Edwards EnterpriseOneサービス管理システムによって、伝票を作成するための情報を含むワークファイル取引が作成されたら、次は伝票を生成します。

次のフローチャートは、伝票処理に使用される基本テーブル間の関係を示しています。



伝票処理テーブルのワークフロー

一般的なサービス請求伝票処理は、次の処理から構成されます。

1. 伝票の生成
2. 伝票仕訳の生成

3. 最終の仕訳の生成
4. 伝票の転記

伝票バッチについて

サービス請求管理のすべてのバッチには、バッチの検討プログラム(P48221)を使用してアクセスします。バッチとは1単位として処理および残高計算される、取引のグループのことです。「伝票処理」メニューの「伝票の生成」を選択すると、伝票のバッチが自動的に作成されます。バッチ情報は、サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)に保存されます。

取引のバッチを選択して、後続の処理に向けて準備できます。たとえば、プロジェクト管理者による検討に備えて伝票を印刷する場合は、バッチを検討して修正を加えることができます。

バッチに含まれる現在の活動インディケータを使用して、特定のバッチの処理が制御されます。バッチが処理されている間、現在の活動は更新されます。たとえば、バッチを選択して仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)を実行すると、そのバッチが現在処理中であることを示すように、現在の活動が更新されます。この設定により、仕訳編集レジスタ・プログラムが完了し、現在の活動が0にリセットされるまで、他のプログラムはこのバッチにアクセスできなくなります。これで、このバッチを後続の処理で使用するようになります。

次の場合は、現在の活動の設定を手動でリセットする必要があります。

- バッチ処理が正常に完了しなかったため、現在の活動がリセットされない場合
 - 処理するバッチを選択した後、「レポート出力先」フォームからバッチ処理アクションを取り消した場合
- 「上級/技術的操作」メニュー(G48S31)のバッチ見出し改訂プログラム(P480011)または「伝票の処理(S/WMのみ)」メニュー(G48S23)のバッチの検討プログラム(P480011)を使用すると、現在の活動をリセットできます。

注意: バッチを削除した場合、そのバッチ番号の監査証跡は保持されません。このバッチ番号は、基本環境設定(システム00)の自動採番プログラム(P0002)によって割り当てられます。

伝票の自動生成

この項では、伝票の生成の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 伝票の生成(R48122)の処理オプションの設定
- 伝票の生成の実行

伝票の生成について

「伝票の処理(S/WMのみ)」メニューから伝票の生成プログラム(R48122)を実行すると、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)から選択された取引が自動的に集計され、集計レコードが伝票集計テーブル(F4823)に書き込まれます。買掛仕訳の作成プログラム(R48197)を実行すると、伝票集計テーブルの仕訳を使用して、買掛金元帳テーブル(F0411)に取引が作成されます。

伝票の生成中、次の処理が実行されます。

- サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)にレコードを作成し、「現在の処理状況」フィールドを1に設定して、伝票の生成中であることを示します。

- 処理オプションとデータ選択基準を使用してF4812テーブルから取引を選択して集計し、テーブルF4823に書き込みます。

ワークファイル取引は伝票情報(バッチ番号、伝票番号、支払項目、伝票タイプ、伝票日付)を更新し、それらのワークファイル取引が伝票に含まれていることを示します。

- 伝票の生成が完了したとき、通貨金額とバッチ内の伝票数で、サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)を更新します。

バッチの「現在の処理状況」フィールドは、0にリセットされます。これにより、このバッチに対して追加処理を実行できるようになります。

- 作成された伝票の一覧を示すレポートを生成します。

伝票の生成処理における対話型バージョンの使用

仕訳の生成プログラム(R48131)によって、仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)が呼び出されます。JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムでは、総勘定元帳仕訳に対するすべての検証および更新処理が、この仕訳編集レジスタ・プログラムによって実行されます。使用する仕訳編集レジスタ・プログラムのバージョンは、仕訳の生成プログラムの処理オプションで指定します。

仕訳の生成プログラムを実行して仕訳を処理すると、仕訳編集レジスタ・プログラムの処理オプションに指定した伝票入力および仕訳入力マスター・ビジネス関数のバージョンが使用されます。仕訳編集レジスタ・プログラムのこの処理オプションをブランクにすると、マスター・ビジネス関数のZJDE0001バージョンが使用されます。

伝票入力および仕訳入力マスター・ビジネス関数の処理オプションを検討するには、「システム・アドミニストレーション・ツール」メニュー(GH9011)の「対話型バージョン」を選択し、次の対話型アプリケーションを検討します。

- 伝票入力MBF処理オプション(P0400047)
- 仕訳入力MBFの処理オプション(P0900049)

事前設定

ここで説明されているタスクの事前要件を、次に示します。

- 請求固定情報を定義します。

参照: 第 2 章、「JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理およびサービス請求管理の設定」、「請求固定情報の設定」、16ページ

- JD Edwardsサービス管理のワークファイル取引を生成します。

参照: 第 12 章、「ワークファイルの管理」、「ワークファイルの生成」、261ページ

伝票の生成(R48122)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

処理

この処理オプションでは、様々な日付や、データの選択と処理に使用する会社を指定できます。

1. **支払開始日付(必須)** 支払開始日付を指定します。この日付はデータ選択に使用され、指定する必要があります。

- | | |
|---------------|---|
| 2. 支払終了日付(必須) | 支払完了日付を指定します。この日付はデータ選択に使用され、指定する必要があります。 |
| 3. 元帳日付 | このアプリケーションで使用する元帳日付を指定します。 |
| 4. 伝票日付 | このアプリケーションで使用する請求書日付を指定します。 |
| 5. 会社 | このアプリケーションで使用する会社を指定します。 |

通貨

この処理オプションでは、為替レート取引の基準として使用する日付を指定できます。

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 為替レート基準日(通貨処理のみ) | 為替レート取引の基準として使用する日付を指定します。この処理オプションは通貨処理でのみ使用されます。値は次のとおりです。 |
| | 1: 請求書日付を使用します。 |
| | 2: 請求書の元帳日付を使用します。 |

伝票の生成の実行

「伝票の処理(S/WMのみ)」(G48S23)の「伝票の生成」を選択します。

伝票情報の検討

この項では、伝票情報の概要と、伝票情報の検討に使用するフォームについて説明します。

伝票情報について

伝票を生成すると、伝票取引のバッチが作成されます。また、ワークファイル取引が次の情報で更新されます。

- バッチ番号
- 伝票番号
- 支払項目番号
- 伝票日付

伝票情報を確認するには、次の情報を検討します。

- バッチの情報。バッチ状況の説明と現在の活動が含まれます。
- 選択したバッチの伝票。
- 選択した伝票の支払項目。
- 選択した支払項目のワークファイル取引。

伝票情報の検討に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	「伝票の処理(S/WMのみ)」「G48S23」、「バッチの検討」	伝票バッチを検索します。
伝票の処理	W4823B	「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。	特定のバッチの伝票を検討します。
サービス請求伝票の改訂	W4823A	「伝票の処理」フォームで改訂または検討する伝票を選択して、「選択」をクリックします。	個々の伝票の明細を検討します。
Voucher Detail Revisions	W4812I	「サービス請求伝票の改訂」フォームで支払項目を選択し、次に、「ロー」メニューの「請求明細」を選択します。	特定の支払項目のワークファイル取引を検討します。

伝票情報の削除

この項では、伝票情報の削除の概要、伝票支払項目からのワークファイル取引の削除の概要、および伝票支払項目からワークファイル取引を削除する方法について説明します。

伝票情報の削除について

伝票情報を検討すると、伝票情報を削減するか、または削除することが必要になる場合があります。伝票情報は、バッチ、伝票、支払項目、およびワークファイル取引の4つのうち、いずれかのレベルで削除できます。たとえば、伝票の生成中に誤った伝票タイプが割り当てられ、伝票バッチ全体を削除することが必要になる場合があります。また、特定の伝票支払項目からワークファイル取引を削除することが必要になる場合もあります。

伝票バッチを削除すると、次の処理が実行されます。

- ・ サービス請求バッチ制御テーブル(F48011)のレコードを削除します。
- ・ 伝票バッチの取引を伝票集計テーブル(F4823)から削除します。
- ・ 伝票バッチの伝票情報を請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の取引から削除します。
- ・ 仮の伝票仕訳が作成されている場合は、削除する伝票バッチのレコードを請求明細仕訳ワークファイル・テーブル(F48S910)と集計仕訳ワークファイル・テーブル(F48S911)から削除します。

伝票バッチから伝票を削除すると、次の処理が実行されます。

- ・ F48011レコードに格納されているバッチの合計金額から、伝票の合計金額を差し引きます。
- ・ 伝票の取引をF4823テーブルから削除します。
- ・ 伝票の伝票情報をF4812テーブルの取引から削除します。
- ・ 伝票仕訳が作成されている場合は、バッチのバッチ状況をリセットします。

このバッチ状況によって、伝票仕訳が再実行されます。

- バッチの最後の伝票を削除する場合は、バッチを削除します。

伝票から伝票支払項目を削除すると、次の処理が実行されます。

- バッチ・レコードに格納されているバッチの合計金額から、伝票支払項目の合計金額を差し引きます。
- 伝票支払項目の取引をF4823テーブルから削除します。
- 伝票支払項目の伝票情報をF4812テーブルの取引から削除します。
- 伝票仕訳が作成されている場合は、バッチのバッチ状況をリセットします。

このバッチ状況によって、伝票仕訳が再実行されます。

伝票バッチの削除に関する考慮事項

伝票バッチを削除するには、伝票バッチを対話形式で削除するか、またはサーバーにジョブを送信します。Webでソフトウェアを実行している場合は、サーバーに送信する方式を使用することをお勧めします。

サーバーに送信する方式を使用すると、バッチの削除プログラム(R48S900)が呼び出されます。削除が成功した場合は、バッチの削除プログラムによって、バッチが正常に削除されたことを示すレポートが生成されます。バッチが正常に削除されなかった場合は、バッチの削除が失敗したか、または削除対象のレコードが別のユーザーによって予約されていることがレポートに示されます。

伝票支払項目からのワークファイル取引の削除について

伝票支払項目に添付されているワークファイル取引を削除すると、次の処理が実行されます。

- バッチ・レコードに格納されているバッチの合計金額から、ワークファイル取引の合計金額を差し引きます。
- 伝票集計テーブル(F4823)に格納されている、伝票支払項目に対応する伝票の金額から、ワークファイル取引の合計金額を差し引きます。
- 伝票情報を請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の取引から削除します。
- 伝票仕訳が作成されている場合は、バッチのバッチ状況をリセットします。

このバッチ状況によって、伝票仕訳が再実行されます。

伝票情報の削除に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	「伝票の処理 (S/WMのみ)」「G48S23」、「バッチの検討」	伝票バッチを削除します。
伝票の処理	W4823B	「請求書の処理」フォームでバッチを選択して、「選択」をクリックします。	伝票を伝票バッチから削除します。
サービス請求伝票の改訂	W4823A	「伝票の処理」フォームで改訂または検討する伝票を選択して、「選択」をクリックします。	伝票支払項目を伝票から削除します。
Voucher Detail Revisions	W4812I	「サービス請求伝票の改訂」フォームで支払項目を選択し、次に、「ロー」メニューの「請求明細」を選択します。	伝票支払項目からワークファイル取引を削除します。

伝票支払項目からのワークファイル取引の削除

「Voucher Detail Revisions」フォームにアクセスします。

削除するワークファイル取引を選択し、「ロー」メニューの「伝票から削除」を選択します。

伝票仕訳の作成

この項では、仮の伝票仕訳と最終の伝票仕訳の概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- 仮の伝票仕訳の生成
- 伝票仕訳の仕訳編集レジスタの印刷
- 買掛仕訳の作成 (R48197) の処理オプションの設定
- 最終の伝票仕訳の生成

仮の伝票仕訳について

伝票処理は、仕訳を作成することによって完了します。まず、仮の伝票仕訳を作成します。仮の伝票仕訳を作成すると、仕訳編集レジスタ・レポート (R48300) が印刷されます。最終の伝票仕訳を作成したときに、取引明細テーブル (F0911) に貸借不一致のレコードが作成されないように、このレポートを慎重に検討する必要があります。

選択した伝票バッチに対応するテスト伝票仕訳が作成されます。ワークファイル取引では、サービス契約ワークファイルの生成プログラム (R1732) を実行して、請求明細仕訳ワークファイル・テーブル (F48S910) に明細仕訳を作成したときに割り当てられる会計情報が使用されます。作成された明細仕訳は、集計仕訳として集計仕訳ワークファイル・テーブル (F48S911) に保存されます。買掛仕訳の作成プログラム (R48197) を実行すると、これらの集計仕訳を使用して伝票仕訳の取引が F0911 テーブルに作成され、買掛金元帳テーブル (F0411) が更新されます。

集計仕訳の編集には、買掛機能サーバーと元帳機能サーバーが使用されます。仕訳の貸借が一致するように、伝票集計取引が一時的にF48S911テーブルの集計仕訳に追加されます。

注意: サービス契約ワークファイルの生成プログラムによって作成される、伝票処理のワークファイル取引では、勘定規則の取得時に請求AAI(自動仕訳)が使用されません。勘定規則は、サービス契約ワークファイルの生成プログラム内で割り当てられます。

仕訳の生成プログラム(R48131)はバッチ・プログラムです。伝票バッチは1単位として処理されます。1つ以上のエラーが検出された場合、伝票バッチはエラー状況に設定されます。エラー条件を修正し、仕訳の生成プログラムを再実行する必要があります。すべてのエラーが修正されるまで、仕訳の生成プログラムを必要な回数だけ実行できます。

仕訳の生成プログラムを実行すると、次の処理が実行されます。

- ・「現在の処理状況」フィールドを3に設定してバッチを更新し、仕訳の生成中であることを示します。
- ・ 伝票バッチに対応する、テーブルF48S910とテーブルF48S911の仕訳を削除します。
このステップでは、バッチを削除することなく、仕訳の生成プログラムを必要な回数だけ実行できます。
- ・ 伝票バッチ番号を使用してデータを選択します。
サービス契約ワークファイルの生成の実行中に、取引に割り当てられる会計情報は、明細仕訳をF48S910テーブルに作成するために使用されます。
- ・ テーブルF48S910の取引を集計し、集計仕訳をテーブルF48S911に書き込みます。
買掛仕訳の作成プログラムを実行すると、これらの集計仕訳を使用して、F0911テーブルに仕訳が作成されます。
- ・ テーブルF48S911を伝票集計テーブル(F4823)の情報で更新します。
更新された仕訳は一時的なものであり、編集され、貸借が一致する仕訳が仕訳編集レジスタ・レポートに印刷されるまでの間のみ、F48S911テーブルに格納されます。買掛仕訳の作成プログラムを実行すると、F4823テーブルの仕訳を使用して、買掛金元帳テーブル(F0411)に仕訳が作成されます。
- ・ 買掛および元帳マスター・ビジネス関数の対話型バージョンを使用して、F48S911テーブルに格納されている仕訳を編集します。
- ・ 仕訳編集レジスタ・レポートを印刷して、このバッチの仕訳を検討できるようにします。
- ・ 一時的な伝票仕訳をF48S911テーブルから削除します。
- ・ バッチを伝票の金額と数で更新します。
- ・ バッチ状況を更新し、現在の活動を0に設定して、このバッチの追加処理を可能にします。

仕訳の生成に関するエラー

仮の買掛仕訳と元帳仕訳が作成されたら、バッチ状況を検討して、仕訳の生成時にエラーが発生したかどうかを確認できます。最終の買掛仕訳と元帳仕訳を作成する前に、総勘定元帳の仕訳に関する情報を確認するには、仕訳編集レジスタ・レポート(R48300)を検討します。このレポートでは、元帳日付、伝票タイプ、伝票番号、ビジネスユニット、主科目、補助科目および補助元帳別に集計された仕訳が示されます。

仮の伝票仕訳を作成した後に、仕訳編集レジスタを実行して、仕訳レジスタのコピーを追加で印刷することもできます。

レポートでエラーが報告された場合、常にバッチを削除して伝票を再生成する必要はありません。エラーを発見した場合は、エラーを修正して仕訳の生成プログラム(R48131)を再度実行できます。よく検出されるエラーを次に示します。

- ・ 総勘定元帳に正しくない日付または無効なアカウントが関連付けられている。

- AAIで定義した規則に無効なアカウントが関連付けられている。

最終の伝票仕訳について

買掛仕訳の作成プログラム(R48197)を実行して、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムからJD Edwards EnterpriseOne買掛管理および一般会計システムに伝票情報を転送すると、最終の伝票仕訳が作成されます。また、伝票集計テーブル(F4823)と集計仕訳ワークファイル・テーブル(F48S911)の取引を使用して、買掛金元帳テーブル(F0411)と取引明細テーブル(F0911)の取引がそれぞれ更新されます。すべての会計情報の検証には、買掛機能サーバーと元帳機能サーバーが使用されます。

買掛仕訳の作成プログラムはバッチ・プログラムです。伝票バッチは1単位として処理されます。1つ以上のエラーが検出された場合、伝票は買掛システムと元帳システムに転送されず、伝票バッチはエラー状況に設定されます。エラー条件を修正し、買掛仕訳の作成プログラムを再実行する必要があります。すべてのエラーが修正され、伝票情報がJD Edwards EnterpriseOne買掛管理および一般会計システムに転送されるまで、買掛仕訳の作成プログラムを必要な回数だけ実行できます。

注意: 買掛仕訳の作成プログラムでは、伝票情報がJD Edwards EnterpriseOne買掛管理および一般会計システムに書き込まれます。元帳への伝票の転記プログラム(R09801)を実行して、取引の転記、相手勘定の自動仕訳の作成、および転記コードとバッチ状況の更新を行う必要があります。

買掛仕訳の作成プログラムを実行したときに、バッチがエラーになるか、テスト仕訳が作成されていない場合、仕訳の生成プログラム(R48131)が実行されます。

エラーが検出されなかった場合は、次の処理が実行されます。

- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムで割り当てたものと同じバッチ番号を使用して、JD Edwards EnterpriseOne一般会計システムのバッチ制御テーブル(F0011)にバッチを作成します。
この新しい会計バッチには、バッチの金額と伝票数も渡されます。
- F48S911テーブルの仕訳を使用して、取引をF0911テーブルに書き込みます。
- F4823テーブルの仕訳を使用して、取引をF0411テーブルに書き込みます。
- F4812テーブルに格納されている、この伝票バッチの取引で、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)を更新します。
- この伝票バッチの取引をF4812テーブルから削除します。
- F4823テーブルを更新して、伝票がJD Edwards EnterpriseOne買掛管理に転送されたことを示します。
- この伝票バッチのレコードを請求明細仕訳ワークファイル・テーブル(F48S910)から削除します。
- この伝票バッチのレコードをF48S911テーブルから削除します。
- この伝票バッチのレコードをサービス請求バッチ制御テーブル(F48011)から削除します。
- 見出しのみが含まれるレポートを作成します。

エラーが検出された場合は、次の処理が実行されます。

- F0011テーブルからバッチを削除し、F48011テーブルのレコードをエラー状況に設定します。
- JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理のテーブルに、これ以上の変更を加えません。
- 見出しのみが含まれるレポートを作成します。

レポートにはエラーは表示されません。エラーの詳細は、仕訳編集レジスタ・レポート(R48300)または従業員ワーク・センター・プログラム(P012501)を参照してください。

事前設定

仕訳編集レジスタ (R48300) の処理オプションをXJDE0001バージョンに設定します。

伝票仕訳の作成に使用するフォーム

フォーム名	フォームID	ナビゲーション	用途
バッチの処理	W48221B	「伝票の処理 (S/WMのみ)」(G48S23)、「バッチの検討」	特定の伝票バッチの仮の仕訳を生成します。 伝票仕訳の特定のバッチに対応する仕訳編集レジスタを印刷します。 特定のバッチの最終の伝票仕訳を生成します。

仮の伝票仕訳の生成

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択し、「ロー」メニューの「売掛仕訳」を選択します。

伝票仕訳の仕訳編集レジスタの印刷

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択し、「ロー」メニューの「仕訳編集レジスタ」を選択します。

買掛仕訳の作成 (R48197) の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

バージョン

この処理オプションでは、送信する仕訳の生成プログラム (R48131) と仕訳編集レジスタ・レポート (R48300) のバージョンを指定できます。

1. 仕訳の生成 (R48131) のバージョン 送信する仕訳の生成レポートのバージョンを指定します。

2. 仕訳編集レジスタ (R48300) のバージョン 実行する仕訳編集レジスタ・プログラム (R48300) のバージョンを指定します。この処理オプションを空白にすると、バージョンXJDE0001が使用されます。

最終の伝票仕訳の生成

「バッチの処理」フォームにアクセスします。

バッチを選択し、「ロー」メニューの「A/Pの作成」を選択します。

伝票バッチの転記

この項では、伝票バッチの転記の概要と伝票バッチの転記プログラムの実行方法について説明します。

伝票バッチの転記について

最終の伝票仕訳を作成した後、最終の伝票仕訳の検討、承認、および取引明細テーブル(F0911)への転記を実行して伝票処理全体を完了します。

伝票バッチを転記すると、次の処理が実行されます。

- 転記するデータを選択します。
- 情報を検証し、エラーを処理します。
- 総勘定元帳の買掛金勘定を相殺する自動仕訳を作成します。
- 取引を転記します。
- 転記コードおよびバッチ状況を更新します。

仕訳の検討および転記プログラムは、JD Edwards EnterpriseOne一般会計で使用するものと同じプログラムです。

伝票バッチの転記プログラムの実行

元帳への伝票の転記プログラム(R09801)を実行するには、次の操作を行います。

- 「伝票の処理(S/WMのみ)」(G48S23)の「伝票の転記」を選択して、メニューから直接転記を開始します。
- 「伝票の処理(S/WMのみ)」(G48S23)の「伝票仕訳の検討」を選択した後、「バッチの処理」フォームの「ロー」メニューから「バッチ別の転記」を選択します。

この方式を使用すると、転記する前にバッチを検討できます。

選択するナビゲーションは使用する転記の方式によって異なります。元帳への伝票の転記プログラムから転記するには、次の操作を実行します。

- すべての承認済のバッチの転記
- 手動のデータ選択を使用した転記

伝票仕訳の検討プログラムから転記する場合、自動データ選択とサブシステムを使用して転記できます。これらの機能は、伝票仕訳の検討プログラムでのみ使用できます。

第 16 章

制御レポートの確認

この章では、制御レポートの概要と次の方法について説明します。

- 制御ファイル・レポートの実行
- 請求書集計からワークファイルへの制御レポート(R48S751)の処理オプションの設定

制御レポートについて

ここでは、次の事項について説明します。

- 制御レポート
- ワークファイル制御レポート
- ワークファイル履歴制御レポート
- 元帳リンクから取引明細への制御レポート
- 取引明細から元帳リンクへの制御レポート
- ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート
- 元帳リンクからワークファイルへの制御レポート
- 請求書集計からワークファイルへの制御レポート
- 請求書集計から売掛金元帳への制御レポート
- 売掛金元帳から請求書集計への制御レポート

制御レポート

制御レポートを使用すると、会計データの信頼性を向上できます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムおよびサービス請求管理システムでは、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)および請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)で請求されている金額が、取引明細テーブル(F0911)の対応する金額と一致していることが重要です。

注意: 制御レポートを実行する前にワークファイル履歴の除去プログラム(R48S999)を実行した場合、結果が不正確になることがあります。制御レポートのデータ選択で日付範囲を指定して、除去済のレコードを除外してください。

ワークファイル制御レポート

ワークファイル制御レポート(R48S710)を使用して、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の不正なレコードをF4812テーブルの他の情報を基に識別します。

評価対象のレコードを指定するには、このレポートのデータ選択を使用します。

整合性の問題があると判断されたレコードは、該当するエラー・メッセージとともにレポートに示されます。

ワークファイル制御レポートでは、次の3つの整合性の問題を検査します。

整合性の問題	原因
処理完了フラグが設定されているレコード	取引の最後のレコードが請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)に移動すると、処理完了フィールド(LSSQ)が1に設定されます。処理完了フィールドの値が1のレコードがテーブルF4812に含まれていると、レポートにエラーが表示されます。
無効フラグが設定されているレコード	請求書を無効にすると、請求書に含まれていたワークファイル取引は、状況が未請求に指定され、テーブルF4812に戻されます。「無効」フィールド(VOID)にVを含むワークファイル取引はテーブルF4812に格納できません。無効フィールドの値がVのレコードがテーブルF4812に含まれていると、レポートにエラーが表示されます。
収益バッチ番号のない収益認識済レコード	仕訳の生成プログラム(R48132)を実行して収益認識の仕訳を作成すると、「収益計上フラグ」フィールド(LSPM)に「1」が入力され、「収益バッチ番号」フィールド(ICUJ)にバッチ番号が入力されます。「収益計上フラグ」フィールド(LSPM)の値は1であるが「収益バッチ番号」フィールド(ICUJ)の値が0である場合、レポートにエラーが表示されます。
アクティブなバッチ番号なしで仕訳が生成されているレコード	仕訳の生成プログラムを実行して収益認識の仕訳を作成すると、「仕訳状況コード」フィールド(JRST)に「1」が入力され、「活動中バッチNo.」フィールド(ICUA)にバッチ番号が入力されます。「活動中バッチNo.」フィールドには、仕訳が生成済でまだ転記されていない場合にのみバッチ番号が含まれます。 「仕訳状況コード」フィールド(JRST)の値は1であるが「活動中バッチNo.」フィールド(ICUA)の値が0である場合、レポートにエラーが表示されます。
通貨エラー	「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションがY(多通貨勘定乗数を使用)またはZ(多通貨勘定除数を使用)に設定されている場合、次のフィールドのいずれかがブランクになっているとレポートにエラーが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 通貨コード(開始)(CRCD) 通貨コード(当初)(CRCF) 通貨モード(CRRM) 「一般会計固定情報」フォームの「多通貨換算」オプションがN(多通貨勘定を使用しない)に設定されている場合、これらのフィールドのいずれかがブランク以外になっているとレポートにエラーが表示されます。

整合性の問題	原因
実績金額がゼロ	<p>請求書を生成すると、請求書の生成にのみ使用される為替レートを使用して「為替レート(除数)」フィールド(CRRD)が更新されます(この為替レートがワークファイルの生成中に使用された為替レートと異なる場合)。この場合は、為替レートが異なると金額が変わることがあるため、次のフィールドの値が保存されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 収益金額-実績(HBTL) • 合計請求書金額-実績(HITL) • 請求書課税額-実績(HITX) <p>2つの為替レートが等しい場合、これらの実績金額フィールドの値は0にリセットされます。</p> <p>請求書の生成時に使用される為替レートがワークファイルの生成時に使用される為替レートと異なり、いずれかの実績金額フィールドの値が0の場合、レポートにエラーが表示されます。</p>
基本レコードの追加料金が存在しない	<p>通常環境では、追加料金レコードおよび対応する基本レコードの「追加料金連結」フィールド(CLNK)を同じ番号で更新することによって、追加料金レコードが基本レコードに添付されます。「追加料金コード」フィールド(CCOD)は、基本レコードではブランクになり、追加料金レコードでは更新されます。</p> <p>基本レコードは存在するが対応する追加料金レコードが存在しない場合、または1つ以上の追加料金レコードが存在するが対応する基本レコードが存在しない場合、レポートにエラーが表示されます。</p>
追加料金レコードの値が基本レコードと一致しない	<p>次のフィールドには基本レコードおよび対応する追加料金レコードで同じ値が含まれている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適格性コード(ELGC) • 職務タイプ(技能)コード(JBCD) • 職階(JBST) • 所属ビジネスユニット(HMCU) • 担当ビジネスユニット(JMCU) • 経過計算の停止(AGS) • 経過一時変更日付(ブランク=変更なし)(DAGO) • 保留コード(サービス請求処理)(HLD) • リリース日付(ユリウス暦)(RDJ) <p>これらのフィールドに、基本レコードと対応する追加料金レコードとで異なる値が含まれている場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>

整合性の問題	原因
追加料金レコードの請求書情報の不一致	<p>次の場合は、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本レコードと追加料金レコードで、「オーダーNo.」フィールド(DOCZ)に異なる請求書番号が含まれている。 基本レコードのDOCZフィールドの値は0(基本レコードが請求書に含まれていない)だが、関連付けられている1つ以上の追加料金レコードのDOCZフィールドに請求書番号が含まれている。 基本レコードのDOCZフィールドに請求書番号が含まれている、つまりこの基本レコードは請求書に含まれているが、関連付けられている1つ以上の追加料金レコードのDOCZフィールドの値が0である。
間接費レコードの請求書情報の不一致	<p>次の場合は、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本レコードと間接費レコードで、「オーダーNo.」フィールド(DOCZ)に異なる請求書番号が含まれている。 基本レコードのDOCZフィールドの値は0(基本レコードが請求書に含まれていない)だが、関連付けられている1つ以上の間接費レコードのDOCZフィールドに請求書番号が含まれている。 基本レコードのDOCZフィールドに請求書番号が含まれている、つまりこの基本レコードは請求書に含まれているが、関連付けられている1つ以上の間接費レコードのDOCZフィールドの値が0である。
税コード・エラー	<p>次のいずれかの状況が発生すると、レポートにエラーが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「税目コード1」フィールド(EXR1)はブランクではないが、「税率/税域」フィールド(TXA1)はブランクである。 「税率/税域」フィールド(TXA1)はブランクではないが、「税目コード1」フィールド(EXR1)はブランクである。 「税目コード1」フィールド(EXR1)がS(売上税または付加価値税(顧客から徴収した分))、C(付加価値税+売上税)、V(付加価値税(仕入先への支払分))またはV+(付加価値税、税込金額への課税)に等しく、かつ「請求書税額」フィールド(ITAM)がブランクである。

整合性の問題	原因
重複レコードが存在する	請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) と請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) に同一のレコードがある場合は、このレポートにエラー・メッセージが表示されます。
請求書集計 (F4822) のレコードがない	「オーダーNo.」フィールド (DOCZ) に請求書番号が含まれている、つまり請求書にワークファイル・レコードが含まれているが、対応する請求書レコードが請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) にない場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。

ワークファイル履歴制御レポート

ワークファイル履歴制御レポート (R48S711) を使用して、請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) の不正なレコードを F4812H テーブルの他の情報を基に識別します。

評価対象のレコードを指定するにはデータ選択を使用します。

整合性の問題があると判断されたレコードは、該当するエラー・メッセージとともにレポートに示されます。

ワークファイル履歴制御レポートでは、次の3つの整合性の問題を検査します。

整合性の問題	原因
仕訳状況が生成済で未転記	仮の仕訳を生成すると、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の仕訳状況コード・フィールド (JRST) の値が1 (仕訳済) に変更されます。最終的な仕訳を生成すると、レコードが請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) に移動され、F4812H テーブルの「仕訳状況コード」フィールドが1以外の値に更新されます。したがって、テーブル F4812H には、「仕訳状況コード」フィールドの値が1のレコードは含まれないことになります。「仕訳状況コード」フィールドの値が1のレコードがテーブル F4812H に含まれている場合、レポートにエラーが表示されます。
仕訳状況コードの不一致	<p>「仕訳状況コード」フィールド (JRST) の値が0 (仕訳がまだ生成されていない) で、仕訳の生成時または後半の処理で発生する次の状況のいずれかが存在している場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕訳状況コード - 前の」フィールド (JRSP) に NULL または0以外の値が含まれている。 ・「収益計上フラグ」フィールド (LSPM) の値が1である。 ・「収益バッチ番号」フィールド (ICUJ) に0以外の値が含まれている。 ・「活動中バッチNo.」フィールド (ICUA) に0以外の値が含まれている。

整合性の問題	原因
収益バッチ番号のない収益認識済レコード	<p>総勘定元帳仕訳の作成プログラム (R48198) を実行して収益認識の仕訳を作成すると、「収益計上フラグ」フィールド (LSPM) に「1」が入力され、「収益バッチ番号」フィールド (ICUJ) にバッチ番号が入力されます。「収益計上フラグ」フィールド (LSPM) の値は1であるが「収益バッチ番号」フィールド (ICUJ) の値は0である場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>
収益は未処理だが、収益バッチが存在する	<p>「収益計上フラグ」フィールド (LSPM) の値が0 (収益認識処理がまだ完了していない) で、「仕訳状況コード」フィールド (JRST) の値が3 (請求明細取引が変更されている) の場合、次のいずれかの状況が存在するとレポートにエラーが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕訳状況コード - 前の」フィールドの値が0以外である。つまり、仕訳がバッチ用に作成されている。 ・「収益バッチ番号」フィールド (ICUJ) の値が0以外である。つまり、収益バッチが存在する。
収益は処理済で、収益バッチはゼロ	<p>「処理完了」フィールド (LSSQ) の値が1 (そのレコードが一連の最後のレコードである) で、「仕訳状況コード」フィールド (JRST) の値が4 (請求サイクルが完了している) の場合、「収益バッチ番号」フィールド (ICUJ) の値がゼロであるとレポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>
アクティブなバッチがゼロ	<p>「活動中バッチNo.」フィールド (ICUA) がゼロで、次の状況に当てはまる場合、レポートにエラーが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「適格性コード」(ELGC) フィールドが1に等しくない。つまり、レコードが請求処理専用設定されていない。 ・「処理完了」フィールド (LSSQ) の値が0である。 ・「2次順序No.」フィールド (SCSQ) の値が1である。つまり、これがレコードの最初の順序である。 ・「仕訳状況コード」フィールド (JRST) の値が4である。つまり、請求サイクルが完了している。
収益バッチがゼロ	<p>「収益バッチ番号」フィールド (ICUJ) がゼロで、次の状況に当てはまる場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「適格性コード」(ELGC) フィールドが1に等しくない。つまり、レコードが請求処理専用設定されていない。 ・「処理完了」フィールド (LSSQ) の値が1である。 ・「2次順序No.」フィールド (SCSQ) の値が1より大きい。つまり、レコードが修正されている。 ・「仕訳状況コード」フィールド (JRST) の値が4である。つまり、請求サイクルが完了している。

整合性の問題	原因
通貨エラー	<p>「通貨モード」フィールド(CRRM)の値がD(国内通貨)またはF(外貨)の場合、次のフィールドのいずれかがブランクであるとエラーが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通貨コード(開始)(CRCD) • 通貨コード(当初)(CROF) <p>「通貨モード」フィールド(CRRM)がブランクの場合、これらのフィールドのいずれかがブランク以外であると、エラー・メッセージが表示されます。</p>
実績金額がゼロ	<p>請求書を生成すると、請求書の生成にのみ使用される為替レートを使用して「為替レート(除数)」フィールド(CRRD)が更新されます(この為替レートがワークファイルの生成中に使用された為替レートと異なる場合)。この場合は、為替レートが異なると金額が変わることがあるため、次のフィールドの値が保存されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 収益金額-実績(HBTL) • 合計請求書金額-実績(HITL) • 請求書課税額-実績(HITX) <p>請求書の生成時に使用される為替レートがワークファイルの生成時に使用される為替レートと異なり、いずれかの実績金額フィールドの値が0の場合、レポートにエラーが表示されます。</p>
基本レコードの追加料金が存在しない	<p>通常的环境では、追加料金レコードおよび対応する基本レコードの「追加料金連結」フィールド(CLNK)を同じ番号で更新することによって、追加料金レコードが基本レコードに添付されます。「追加料金コード」フィールド(CCOD)は、基本レコードではブランクになり、追加料金レコードでは更新されます。</p> <p>基本レコードは存在するが対応する追加料金レコードが存在しない場合、または1つ以上の追加料金レコードが存在するが対応する基本レコードが存在しない場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>

整合性の問題	原因
追加料金レコードの値が基本レコードと一致しない	<p>次のフィールドには基本レコードおよび対応する追加料金レコードで同じ値が含まれている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 適格性コード (ELGC) • 職務タイプ (技能) コード (JB CD) • 職階 (JBST) • 所属ビジネスユニット (HMCU) • 担当ビジネスユニット (JMCU) • 経過計算の停止 (AGS) • 経過一時変更日付 (ブランク=変更なし) (DAGO) • 保留コード (サービス請求処理) (HLD) • リリース日付 (ユリウス暦) (RDJ) <p>これらのフィールドに、基本レコードと対応する追加料金レコードとで異なる値が含まれている場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>
追加料金レコードの請求書情報の不一致	<p>次のいずれか状況が発生すると、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本レコードと追加料金レコードで、「オーダーNo.」フィールド (DOCZ) に異なる請求書番号が含まれている。 • 基本レコードの DOCZ フィールドの値は 0 (基本レコードが請求書に含まれていない) だが、関連付けられている 1 つ以上の追加料金レコードの DOCZ フィールドに請求書番号が含まれている。 • 基本レコードの DOCZ フィールドに請求書番号が含まれている、つまりこの基本レコードは請求書に含まれているが、関連付けられている 1 つ以上の追加料金レコードの DOCZ フィールドの値が 0 である。
税コード・エラー	<p>次のいずれかの状況が存在すると、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「税目コード1」フィールド (EXR1) はブランクではないが、「税率/税域」フィールド (TXA1) はブランクである。 • 「税率/税域」フィールド (TXA1) はブランクではないが、「税目コード1」フィールド (EXR1) はブランクである。 • 「税目コード1」フィールド (EXR1) が S (売上税または付加価値税 (顧客から徴収した分))、C (付加価値税 + 売上税)、V (付加価値税 (仕入先への支払分)) または V+ (付加価値税、税込金額への課税) に等しく、かつ「請求書税額」フィールド (ITAM) がブランクである。

整合性の問題	原因
順序外のレコード	<p>請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) のレコードが順序外の場合、次の主キー・フィールドの情報に基づいて、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 請求制御ID (BCI) ・ 元帳日付 (DGL) ・ 順序No. (SBSQ) ・ 親順序No. (PRSQ) ・ 2次順序No. (SCSQ) ・ 分割連結 (SLNK) ・ 追加料金連結 (CLNK) ・ 追加料金コード (CCOD)
順序外の分割レコード	<p>プログラムによってすべてのレコードがチェックされ、「親順序No.」フィールド (PRSQ) に0より大きい値が含まれているかどうかを確認されます。最初のレコードと同じ基本フィールド値を持つレコードが存在せず、「順序No.」フィールド (SBSQ) の値が最初のレコードの「親順序No.」フィールドの値と等しい場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>
重複レコードが存在する	<p>請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) と請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) に同一のレコードがある場合は、このレポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>
請求書集計 (F4822) のレコードがない	<p>「オーダーNo.」フィールド (DOCZ) に請求書番号が含まれている、つまり請求書にワークファイル・レコードが含まれているが、対応する請求書レコードが請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822) にない場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p>
間接費レコードの請求書情報の不一致	<p>次のいずれか状況が発生すると、レポートにエラー・メッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本レコードと間接費レコードで、「オーダーNo.」フィールド (DOCZ) に異なる請求書番号が含まれている。 ・ 基本レコードのDOCZフィールドの値は0 (基本レコードが請求書に含まれていない) だが、関連付けられている1つ以上の間接費レコードのDOCZフィールドに請求書番号が含まれている。 ・ 基本レコードのDOCZフィールドに請求書番号が含まれている、つまりこの基本レコードは請求書に含まれているが、関連付けられている1つ以上の間接費レコードのDOCZフィールドの値が0である。

元帳リンクから取引明細への制御レポート

元帳リンクから取引明細への制御レポート(R48S720)を使用して、総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)に含まれている情報が取引明細テーブル(F0911)に書き込まれている情報を正確に示していることを確認します。

このレポートでは、請求制御IDでグループ化されているF48S912テーブルのレコードが分析されます。グループ内のすべてのレコードがグループ内の最初のレコードと比較され、グループ内のレコードの会計情報がグループ内の最初のレコードの会計情報と一致しない場合にはエラー・メッセージが出力されます。会計情報は次のフィールドに格納されています。

- 略式ID (AID)
- ビジネスユニット (MCU)
- 主科目 (OBJ)
- 補助科目 (SUB)
- 補助元帳 (SBL)
- 補助元帳タイプ (SBLT)
- バッチ番号 (ICU)

レポートで各F48S912レコードを分析すると、「配賦値」フィールド(AA)および「数量」フィールド(U)に値が追加され、グループの合計金額および数量が計算されます。

レポートによって、F48S912テーブルの各レコードに対応するレコードがF0911テーブルにあることが確認され、各F48S912グループの合計金額および数量が対応するF0911レコードの「配賦値」フィールド(AA)および「数量」フィールド(U)に格納されている値と等しいことが確認されます。合計金額および数量が等しくない場合、レポートにエラー・メッセージが表示され、F48S912テーブルの合計金額および数量とF0911テーブルの金額および数量との差が表示されます。

また、F48S912グループの会計情報がF0911レコードの会計情報と一致しない場合にも、レポートにエラーが表示されます。

評価対象のレコードを指定するにはデータ選択を使用します。ただし、特定のバッチ番号の一部のレコードは含め同じバッチの他のレコードは除外すると、レポートに誤ったエラー・メッセージが表示される場合があります。データ選択をバッチ番号またはバッチ日付に制限することをお勧めします。

注意: 元帳リンクから取引明細への制御レポートのデータ順序はハードコード化されています。変更しないでください。

取引明細から元帳リンクへの制御レポート

取引明細から元帳リンクへの制御レポート(R48S721)を使用して、JD Edwards EnterpriseOneサービス請求管理システムまたはJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムの収益処理によって作成された取引明細テーブル(F0911)の各レコードに対応するレコードが総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)に1つ以上存在することを確認します。

レポートによって次のいずれかの伝票タイプを含むF0911テーブルのローのみが選択されます。

- EU (サービス請求収益)
- AJ (サービス請求の調整)
- BA (請求調整)

これらの伝票タイプのいずれかを持つが対応するレコードがF48S912テーブルに1つもないF0911レコードが、レポートに示されます。

注意: 取引明細から元帳リンクへの制御レポートのデータ選択によって、F48S912テーブルのカラムを指定できます。ただし、レポートでは対応するレコードがF48S912テーブルにないF0911テーブルのレコードのみ選択されるため、データ選択でF48S912テーブルのカラムを使用しても効果はありません。

ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート

ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート(R48S730)を使用して、請求明細ワークファイル・テーブルおよび請求ワークファイル履歴テーブル(F4812およびF4812H)と総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)との間の整合性の問題を識別します。

注意: テーブルF48S912には、ワークファイル取引、およびその結果取引明細テーブル(F0911)内に作成された仕訳のキー情報が格納されます。このテーブルはレポートおよび監査用として使用されます。

評価対象のレコードを指定するにはデータ選択を使用します。

このレポートを実行する前に、総勘定元帳仕訳の作成プログラム(R48198)を実行する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムまたはサービス請求管理システムで総勘定元帳の作成処理を使用しないで作成されている総勘定元帳バッチは、レポートの不整合を引き起こす場合があります。

ワークファイルから元帳リンクへの制御レポートでは、テーブルF4812およびテーブルF4812Hは単一のテーブルであるかのように表示されます。

収益関連の取引のみが処理されます。

レポートによって、F4812およびF4812Hテーブルのレコードが請求制御ID(BCI)別にグループ化されます。同じ請求制御IDを持つF48S912テーブルのすべての取引が選択され、F48S912レコードの金額が累計されます。

レポートによって整合性の問題があると判断されたレコードは、該当するエラー・メッセージとともにレポートに示されます。

1行目のエラー

状況によっては、F48S912テーブルの累計金額はF4812およびF4812Hテーブルの金額と等しくなります。また別の状況では、F48S912テーブルの累計金額はゼロになります。いずれの状況においても、F48S912テーブルの金額が正しくない場合には、エラー・レポートの1行目にエラー・メッセージが印刷されます。

選択されたF4812またはF4812Hレコードの「適格性コード」(ELGC)フィールドの値が4(原価のみ)または1(請求のみ)であるか、これらのレコードが前の分割取引または前の追加料金取引である場合、およびF48S912テーブルの累計額がゼロ以外の場合、レポートに次のいずれかのエラー・メッセージが表示されます。

- 元帳リンク額の累計はゼロになる必要があります(Elg Code=1)。
- 元帳リンク額の累計はゼロになる必要があります(Elg Code=4)。
- 元帳リンク額の累計はゼロになる必要があります(以前に分割あり)。
- 元帳リンク額の累計はゼロになる必要があります(以前に追加料金あり)。

注意: 請求制御IDグループとは、同じ取引に属するF4812およびF4812Hテーブルのレコードのグループです。グループ内の各レコードの次のフィールドには同じ値が含まれます。

元帳日付 (WDDGL)

請求制御ID (WDBCI)

親順序No. (WDPRSQ)

順序No. (WDSBSQ)

追加料金コード (WDCCOD)

前の分割取引は、新しい取引に分割されている請求制御IDグループです。以前の分割グループと関連付けられている総勘定元帳リンクの収益取引は差引きゼロである必要があります。

前の追加料金取引とは、追加料金コードがあっても、取引の再計算によって追加料金が削除された請求制御IDグループです。以前の追加料金グループと関連付けられている総勘定元帳リンクの収益取引は差引きゼロである必要があります。

選択されたF4812またはF4812Hレコードが原価のみまたは請求のみとして指定されておらず、前の分割取引または前の追加料金取引ではない場合、選択されたF4812またはF4812Hレコードの「収益金額」フィールド (BTOL) の値がF48S912テーブルの累計額と等しくなければ次のいずれかのエラー・メッセージがレポートに示されます。

- 元帳リンク累計額が正しくありません。元帳リンク・トランザクションがありません。
- 元帳リンク累計額が正しくありません。元帳リンク・トランザクションの数違います。
- 元帳リンク累計額が正しくありません。元帳リンク・トランザクション数は正しいです。

2行目のエラー

1行目のエラーのいずれかが発生すると、レポートによってそのBCIグループに属するF4812およびF4812Hレコードがチェックされます。伝票タイプAJ (サービス請求の調整) および伝票タイプEU (サービス請求収益) の仕訳の数とともに、F48S912レコードの金額とF4812およびF4812Hレコードの「収益金額」フィールドの金額が比較され、次のいずれかのエラー・メッセージが2行目に表示されます。

- EUトランザクションがありません
- AJトランザクションがありません
- その他のEUトランザクション
- その他のAJトランザクション
- EU仕訳の金額が誤っています。
- AJ仕訳の金額が誤っています。

レポートには、F4812およびF4812Hテーブルの主キー・フィールド、収益金額、総勘定元帳リンクの金額、これらの値の相違および問題を説明する2つのエラー・メッセージが表示されます。

元帳リンクからワークファイルへの制御レポート

元帳リンクからワークファイルへの制御レポート (R48S731) を使用して、総勘定元帳リンク・テーブル (F48S912) に保存されているデータを基に請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) および請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) から失われたレコードを識別します。

注意: テーブルF48S912には、ワークファイル取引、およびその結果取引明細テーブル(F0911)内に作成された仕訳のキー情報が格納されます。このテーブルはレポートおよび監査用として使用されます。

評価対象のレコードを指定するにはデータ選択を使用します。

このレポートを実行する前に、総勘定元帳仕訳の作成プログラム(R48198)を実行する必要があります。JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムまたはサービス請求管理システムで総勘定元帳仕訳の作成プログラムによって処理されずに作成されている総勘定元帳バッチは、レポートの不整合を引き起こす場合があります。

元帳リンクからワークファイルへの制御レポートでは、テーブルF4812およびテーブルF4812Hは単一のテーブルであるかのように表示されます。

収益関連の取引のみが処理されます。

レポートによってF48S912テーブルのレコードが読み込まれ、対応するF4812またはF4812Hレコードの検索が試行されます。対応するレコードがなかった場合、レポートにエラー・メッセージが表示されます。

請求書集計からワークファイルへの制御レポート

請求書集計からワークファイルへの制御レポート(R48S751)を使用して、請求明細ワークファイル・テーブルおよび請求ワークファイル履歴テーブル(F4812およびF4812H)の金額が請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)の金額と一致しているかどうかを確認します。

F4822テーブルの請求書の現在の状況に応じて、テーブルF4812またはテーブルF4812Hのいずれかが使用されます。売掛仕訳の作成プログラム(R48199)で処理されていない請求書の場合、テーブルF4812が使用されます。売掛仕訳の作成プログラムで処理されている請求書の場合、テーブルF4812Hが使用されます。

レポートによってF4822テーブルのレコードごとに対応するF4812またはF4812Hレコードが選択され、金額が総計されます。F4812またはF4812Hレコードの合計とF4822レコードの相違がエラー・レポートに示されます。

レポートでは、次のフィールドの金額が比較されます。

F4812テーブルまたはF4812Hテーブルのフィールド	比較	F4822テーブルのフィールド
請求書金額(ITOL)	一致する必要がある	現行期間(THPD)
外貨請求書金額(CITL)	一致する必要がある	現行期間-外貨(FHPD)
請求書税額(ITAM)	一致する必要がある	税額(STAM)
外貨請求書税額(CITX)	一致する必要がある	税額(外貨)(CTAM)

また、F4822レコードの税目コードがE(付加価値税免除)またはブランクの場合、レポートによって次のフィールドの金額が比較されます。

F4812テーブルまたはF4812Hテーブルのフィールド	比較	F4822テーブルのフィールド
請求金額課税分(ITXA)	一致する必要がある	非課税額(ATXN) または 課税対象額(ATXA)
外貨請求金額税額(CITA)	一致する必要がある	非課税額(外貨)(CTXN) または 課税対象額(外貨)(CTXA)

このレポートを集計モードまたは明細モードで印刷できます。集計レポートにはF4822テーブルの請求書情報が含まれます。明細レポートには、F4822テーブルの請求書情報とF4812またはF4812Hテーブルの対応する情報の両方が含まれます。処理オプションを使用して、集計または明細レポートのいずれを印刷するかを指定します。

請求書集計から売掛金元帳への制御レポート

請求書集計から売掛金元帳への制御レポート(R48S761)を使用して、請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)の金額が売掛金元帳テーブル(F03B11)の金額と一致しているかどうかを確認します。

次の表は、F4822テーブルの各請求書の金額とF03B11テーブルの同じ請求書の金額の比較方法を示しています。

F4822のフィールド	F03B11のフィールド
現行期間(THPD)	総額(AG)
現行期間-外貨(FHPD)	外貨建て金額(ACR)
課税対象額(ATXA)	課税対象額(ATXA)
課税対象額(外貨)(CTXA)	課税対象額(外貨)(CTXA)
税額(STAM)	税額(STAM)
税額(外貨)(CTAM)	税額(外貨)(CTAM)
非課税額(ATXN)	非課税額(ATXN)
非課税額(外貨)(CTXN)	非課税額(外貨)(CTXN)

金額が一致しない場合、レポートにエラーが印刷されます。

注意: 転記済のレコードのみ処理されます。

売掛金元帳から請求書集計への制御レポート

売掛金元帳から請求書集計への制御レポート(R48S771)を使用して、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムまたはサービス請求管理システムで作成された売掛金元帳テーブル(F03B11)の各請求書取引に対応する1つ以上のソース取引が請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)に存在することを確認します。

テーブルF4822に対応するソース取引が含まれていない場合、レポートにエラーが印刷されます。

制御レポートの実行

制御レポートはすべて「請求制御レポート」メニュー(G48S33)から実行できます。

請求書集計からワークファイルへの制御レポート(R48S751)の処理オプションの設定

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷

この処理オプションでは、集計または明細レポートのいずれを印刷するかを指定できます。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. エラー・レポートの種類 | この処理オプションをブランクのままにすると、集計モードでエラー・レポートが印刷されます。明細形式でエラー・レポートを印刷するには、「1」を入力します。集計形式では、請求書情報のみがエラー・レポートに表示されます。明細形式では、ワークファイル情報と集計情報が印刷されます。 |
|-----------------------|---|

付録 A

請求明細ワークファイル(F4812)のフィールドの取得

この付録には、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)で取引を作成するための情報の取得に使用されるテーブルと、請求明細ワークファイル・テーブルにある各フィールドの特定のソースの一覧を示します。

請求明細ワークファイルによって使用されるテーブル

次のテーブルIDおよびテーブル名の一覧は、この後の表に示すソースを示しています。

テーブルID	テーブル名
F0005	ユーザー定義コード
F0006	ビジネスユニット・マスター
F0014	支払条件
F0101	住所録マスター
F0411	買掛金元帳
F06116	従業員トランザクション明細テーブル
F0618	従業員トランザクション履歴
F0724	間接費配賦
F069116	給与計算トランザクション固定情報
F0901	勘定科目マスター
F0911	取引明細
F1201	固定資産マスター
F4111	品目元帳
F4311	購買オーダー明細
F4801	作業オーダー・マスター

テーブルID	テーブル名
F48091	請求管理システム固定情報
F48096	請求料金/割増テーブル
F4812	請求明細ワークファイル
F48127	税決定情報
F48S80	セグメント定義
F48S81	間接費計算方法
F48S82	間接費基本規則
F48S84	プール・グループ・コード
F48S85	間接費レート
F5201	契約マスター
F5202	契約請求の明細行
F5212	T&M、単価、合計相互参照勘定科目

請求明細ワークファイルのフィールド・ソース

この表は、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の各フィールドの情報ソースの一覧です。多くのフィールドでは、特定の条件や取り込まれる他の情報によってソースが異なります。

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDAA(金額)	デフォルト値。	GLAA/F0911
	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドに、T2が含まれる。	YTGPA(支払総額)/F0618またはF06116
	F0911レコードのGLDCTフィールドに、T2が含まれる。取引は、間接労務費に関連する。	YSBDA(間接費)/F0724
	F0911レコードのGLDCTフィールドに、T4が含まれる。	YTRCPY(振替請求額)/F0618またはF06116
	F0911レコードのGLDCTフィールドに、T5が含まれる。	YTEQGR(支払総額)/F0618またはF06116
WDAA2(原価金額-外貨)	通貨がオンになっている。	計算

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDAA3(金額)	間接費取引。	計算
WDACL0(料金グループ)	F0911レコードのGLASID(シリアル番号)フィールドがブランクではない。	FAACL0/F1201
WDACR(外貨建て金額)	間接費取引。	計算
WDADCI(請求書割増金額)	F48096レコードのWQGTYP(生成タイプ)フィールドに1が含まれる。	WQAA(金額)/F48096
WDADCR(収益割増)	F48096レコードのWQGTYP(生成タイプ)フィールドに2が含まれる。	WQAA(金額)/F48096
WDAGS(経過計算の停止)		不使用
WDAID(勘定科目ID)	デフォルト値。	GLAID/F0911
WDAID5(勘定科目ID)	契約請求管理。	G6MCU、G6OBJおよびG6SUB(ビジネスユニット、主科目および補助科目)/F5202
	F5202レコードのG6ACCO(勘定科目一時変更フラグ)フィールドがブランクである。	
WDAID6(勘定科目ID)		不使用
WDAN8(住所番号)	デフォルト。	GLAN8/F0911
	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	YTAN8/F0618またはF06116
WDAN8O(顧客/受取住所番号)	デフォルト値。	関連するビジネスユニットのMCAN80/F0006
	F0911レコードのGLMCU(ビジネスユニット)フィールド。	
	F0911レコードのGLSBL(補助元帳)フィールドがブランクではない。	関連する補助元帳のWAAN8(住所番号)/F4801
	F0911レコードのGLSBLT(補助元帳タイプ)フィールドにWが含まれる。	
	F48091レコードのWZCNBS(顧客No.基準)フィールドに1が含まれる。	
	契約請求管理。	G4AN80/F5201
WDAREX(支払後請求の免除)	契約請求管理。	WDAREX/F4812

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDBBF(請求基準フラグ)	データ辞書からデフォルト値が1に設定される。	不使用
WDBCI(請求制御ID)		自動採番機能(システム48、インデックス02)を使用した自動割当
WDBCTK(バッチ制御キー)		不使用
WBDPN(間接費保留)		自動割当
WDBLKK(構成キーのブロック)		不使用
WDBPTX(基本給トランザクション番号)	基本給レコードと追加給レコードの間のリンクが保存される。追加給トランザクションでのみ有効。	給与計算トランザクションから取得(F06116またはF0618テーブル)
WDBRT(収益レート)	F48096レコードのWQGTYP(生成タイプ)フィールドに2が含まれる。	WQBRT(請求料金)/F48096
WDBRTI(請求レート)	F48096レコードのWQGTYPフィールドに1が含まれる。	WQBRT/F48096
WDBTOL(合計請求金額)		自動計算
WDBUF(間接費使用済フラグ)	基本レコードに間接費取引が関連付けられているか、またはそのレコードが間接費取引である。	自動割当
WDCAP(キャップまたは一時変更レート)	F48096レコードのWQGTYP(生成タイプ)フィールドに2が含まれる。	WQCAP/F48096
WDCAP1(キャップまたは一時変更レート)	F48096レコードのWQGTYP(生成タイプ)フィールドに1が含まれる。	WQCAP/F48096
WDCBLC(コード化区画の変更)		自動割当
WDCCOD(追加料金コード)		AFCCOD/F4860 間接費取引の場合、F48S80テーブルのセグメントの間接費カテゴリ
WDCCR(追加料金原価レート・テーブル)	F48096レコードのWQCCRフィールドがブランクではない。	WQCCR/F48096
WDCIDS(外貨請求金額割引)		計算
WDCINR(追加料金請求レート・テーブル)	F48096レコードのWQCINRフィールドがブランクではない。	WQCINR/F48096
WDCITA(外貨請求金額税額)		計算

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDCITL(外貨請求金額)		計算
WDCITX(外貨請求金額税額)		計算
WDCLNK(追加料金連結)	追加料金、間接費またはその両方が添付されている。	自動割当
WDCO(会社)		GLCO/F0911
WDCOCH(外注変更オーダー番号)	契約請求管理。	G6COCH/F5202
WDCPGP(顧客価格グループ)		不使用
WDCRCD(通貨コード)	F0911レコードのGLCO(会社)フィールド。通貨がオンになっている。	CCCRCD(基本通貨)/F0010(ビジネスユニットの会社から取得)
WDCROE(通貨コード)	通貨がオンになっている。	CCCRCD(基本通貨)/F0010(ビジネスユニットの会社から取得)
WDCRCF(通貨コード)	通貨がオンになっている。	サービス請求管理の場合は AICRCD/F03012 契約請求管理の場合は G4CRCD/F5201
WDCRR(為替レート)	通貨がオンになっている。	自動割当
WDCRRD(為替レート(除数))	通貨がオンになっている。	自動割当
WDCRRM(モードF)	通貨がオンになっている。	サービス請求管理の場合は WZCRRM/F48091 契約請求管理の場合は G4CRRM/F5201
WDCRVR(追加料金収益レート)	F48096レコードのWQGTYP(生成タイプ)フィールドに2が含まれる。	WQCRVR/F48096
WDCTRY(西暦上2桁)		GLCTRY/F0911
WDDAGO(経過一時変更日付-B)		WDDAGO
WDDC(短縮記述)	F0618またはF06116レコードのいずれかのYTAN8(住所番号)フィールド。	ABDC/F0101
WDDCP(割引率)	WDAN80。	PNDGP/F0014
	F4812レコードの(顧客/受取住所番号)フィールド。	

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
	F0101のABATR(売掛金Y/N)フィールドにYが含まれる。	
WDDCT(伝票タイプ)		GLDCT/F0911
WDDCTI(伝票タイプ)	契約請求管理。 請求書が作成された場合。	請求書の生成プログラム(R52121)の処理オプション
	サービス請求管理。 請求書が作成された場合。	請求書の生成プログラム(R48121)の処理オプション
WDDCTO(オーダー・タイプ)	契約請求管理。	G6DCTO/F5202
WDDEJ(入力日付)		自動割当
WDDGJ(元帳日付)	契約請求管理。 請求書が作成された場合。	請求書の生成プログラム(R52121)の処理オプション
	サービス請求管理。 請求書が作成された場合。	請求書の生成プログラム(R48121)の処理オプション
WDDGL(元帳日付)		GLDGJ(元帳日付)/F0911
WDDI(請求書日付)	F0911レコードのGLICUT(バッチ・タイプ)フィールドにVまたはWが含まれる。	RPDGJ(元帳日付)/F0411
WDDOC(伝票番号)		GLDOC/F0911
WDDOCM(支払/項目番号)		不使用
WDDOCO(オーダー番号)	契約請求管理。	G6DOCO/F5202
WDDOCZ(オーダー番号)	請求書が作成された場合。	自動採番機能(システム03、インデックス01)を使用した自動割当
WDDSVJ(サービス/税日付)	デフォルト。	GLDSVJ/F0911
	GLICUTフィールドにVが含まれる。	RPDSVJ/F0411
	GLDSVJフィールドとRPDSVJフィールドがブランク。	ILTRDJ(オーダー日付)/F4111
WDDWNL(ダウンロード・フラグ)		自動割当
WDELGC(適格性コード)	デフォルト。	GMBILL(請求対象-Y/N)/F0901

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
	F0911レコードのGLMCU、GLOBJおよびGLSUB(ビジネスユニット、主科目および補助科目)フィールド。	
	間接費。	GMBILL/F0901
	F0724レコードのYSMCU、YSOBJおよびYSSUB(ビジネスユニット、主科目および補助科目)フィールド。	
	F48091レコードのWZPRRR(仕訳作成の制御)フィールドに3または4が含まれる。F0901レコードのGMBILLフィールドに1、2、3または4が含まれる。	GMBILL/F0901
	WZPRRRフィールドに3または4が含まれる。	GMBILL/F0901
	F48091レコードのWZPRRRフィールドに3または4が含まれていない。	WZPRRR/F48091
WDEQCG(使用設備)	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドにTEが含まれる。	GLASID(シリアル番号)/F0911
	GLDCTフィールドにT5が含まれる。	YTEQCG/F0618またはF06116
	GLDCTフィールドにTE、T2、T4またはT5が含まれていない。	ブランク
WDEQWO(作業対象設備)	GLDCTフィールドにTEが含まれる。	ブランク
	GLDCTフィールドにT5が含まれる。	YTEQWO/F0618またはF06116
	GLDCTフィールドにTE、T2、T4またはT5が含まれていない。	GLASID(シリアル番号)/F0911
WDERC(設備料金コード)	GLDCTフィールドにTEが含まれる。	GLALTY(IDタイプ)/F0911
	GLDCTフィールドにT5が含まれる。	YTERC/F0618またはF06116
	GLDCTフィールドにTE、T2、T4またはT5が含まれていない。	ブランク
WDERDB(為替レート基準日)	通貨がオンになっている。	WZERDB / F48091
WDERDT(為替レート日付)	通貨がオンになっている。	為替レート基準日に基づいて割当
WDEXA(摘要 - 名称)	デフォルト。	GLEXA/F0911

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	ABALPH(名称)/F0101
	F0618またはF06116レコードのいずれかのYTAN8(住所番号)フィールド。	
WDEXR(摘要 - 備考)	F48096レコードのWQEXRフィールドはブランク。	GLEXR/F0911
	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれていない。	
	F48096レコードのWQEXRフィールドはブランク。	YTEXR/F0618またはF06116
	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	
	F48096レコードのWQEXRフィールドはブランクではない。	WQEXR/F48096
	間接費。これらの状況では、最初に検出されたものが使用される。	
	A) F0724レコードのYSFRTY(付加タイプ)フィールドにFBが含まれる。	付加タイプに関連するDRDL01(記述)/F0005
	B) F0724レコードのYSPTAX(税タイプ)フィールドがブランクではない。	税タイプに関連するDRDL01/F0005
	C) F0724レコードのYSPDBA(PDBAコード)フィールドがゼロより大きくなっている。	YCDL01/F069116
	F069116レコードのYCDL01フィールドがブランクではない。	YCEXA(摘要 - 名称)/F069116
	F069116レコードのYCDL01フィールドがブランク。	
WDEXR1(税目コード)	契約請求管理。	G6EXR1/F5202または請求書作成(R52121)の処理オプションの一時変更
	サービス請求管理。	WOEXR1/F48127
WDFBAS(料金基準)		不使用
WDFEA(外貨合計価格)		不使用

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDFRTN(外貨留保金)	通貨がオンになっている。	計算
WDFTOL(外貨合計請求)	通貨がオンになっている。	計算
WDFY(会計年度)		GLFY/F0911
WDGLC(相手勘定)	サービス請求管理: F48127。 契約請求管理: F5202。	F48127/F5202
WDHBIN(実績間接請求金額)	間接費レコードにのみ入力する。	F52G11テーブルの請求金額
WDHBRV(実績間接収益金額)	間接費レコードにのみ入力する。	F52G11テーブルの収益金額
WDHBTL(収益金額 - 実績)	請求コードと基本通貨コード、およびワークファイル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新しい為替レートを使用して請求書を計算する前に、ワークファイルの金額がHBTL、HITL、HITXおよびHTAMに自動的に入力される。	計算
WDHITL(合計請求金額 - 実績)	請求コードと基本通貨コード、およびワークファイル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新しい為替レートを使用して請求書を計算する前に、ワークファイルの金額がHBTL、HITL、HITXおよびHTAMに自動的に入力される。	計算
WDHITX(請求書課税額 - 実績)	請求コードと基本通貨コード、およびワークファイル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新しい為替レートを使用して請求書を計算する前に、ワークファイルの金額がHBTL、HITL、HITXおよびHTAMに自動的に入力される。	計算
WDHLD(保留コード)		ユーザー割当
WDHMCU(所属ビジネスユニット)	デフォルト値。	GLHMCU/F0911
	GLHMCUはblank。	シリアル番号に関連するFAMCU(ビジネスユニット)/F1201
	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドにT2、T4またはT5が含まれていない。	
	GLMCUフィールドはblank。	

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
	F0911レコードのGLASID(シリアル番号)フィールド。	
	GLHMCUはblank。	RPMCU/F0411
	GLICUTフィールドにVまたはWが含まれる。	
	GLDOC、GLDCTおよびGLKCOフィールド。	
	GLHMCUはblank。	MCMCUS(プロジェクト番号)/F0006
	GLICUTフィールドにGが含まれる。	
	F0911レコードのGLMCU。	
	GLDCTに、T2、T4またはT5が含まれる。	YTHMCU/F0618またはF06116
WDHTAM(実績税情報)	請求コードと基本通貨コード、およびワークファイル為替レートと請求書為替レートが異なる場合は、新しい為替レートを使用して請求書を計算する前に、ワークファイルの金額がHBTL、HITL、HITXおよびHTAMに自動的に入力される。	計算
WDICU(バッチ番号)	請求が作成されるとき、割り当てられる。	自動採番機能(システム00、インデックス01)を使用した自動割当
WDICUA(活動中バッチ番号)	請求または収益が作成されるとき、割り当てられる。	自動採番機能(システム00、インデックス01)を使用した自動割当
WDICUJ(収益バッチ番号)	収益が作成されるとき、割り当てられる。	自動採番機能(システム00、インデックス01)を使用した自動割当
WDIDGJ(請求書元帳日付)	請求の作成時に割り当てられた請求書元帳日付。	
WDIDSC(請求書割引額)		自動計算
WDIJST(請求書仕訳状況)		自動計算
WDITAM(請求書税額)		自動計算
WDITM(略式品目番号)		不使用
WDITOL(合計請求金額)		自動計算
WDITXA(請求書課税額)		自動計算

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDIVD (請求書日付)		自動計算
WDJBCD (職務タイプ)	F0911レコードのGLDCT (伝票タイプ) フィールドにT2、T4またはT5が含まれていない。	GLJBCD/F0911
	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	YTJBCD/F0618またはF06116
WDJBST (職階)	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれていない。	GLJST/F0911
	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれていない。	YTJBST/F0618またはF06116
WDJELN (仕訳行番号)		GLJELN/F0911
WDJMCU (担当ビジネスユニット)	デフォルト値。	MCMCUS (プロジェクト番号)/F0006
	契約請求管理。	
	F0911レコードのGLDCT (伝票タイプ) フィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	
	契約のF5201レコードのG4JMCU フィールドがブランクではない。	G4JMCU/F5201
	契約が存在しない。	MCMCUS/F0006
WDJOB (ワークステーションID)		自動割当
WDJPGC (職務プール・グループ・コード)	F4812レコードのWDMCU (ビジネスユニット) フィールド。	MCRP12/F0006
WDJRSP (仕訳状況コード)		自動割当
WDJRST (仕訳状況コード)		自動割当
WDJTAX (仕訳税額)	F4812レコードのWDEXR1 (税目コード) フィールドにC、EまたはVが含まれる。	自動割当
	WDEXR1フィールドにC、EまたはVが含まれていない。	自動割当
WDJTXF (外貨仕訳税額)	通貨がオンになっている。	不使用
WDKCO (伝票会社)		GLKCO/F0911
WDKCOI (伝票会社)	契約請求管理。	G6KCOO/F5202

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
	サービス請求管理。	請求書の伝票GLCO/F0911
WDKCOO(オーダー番号伝票会社)	契約請求管理。	G6KCOO/F5202
	サービス請求管理。	GLCO/F0911
WDLNID(行番号)	契約請求管理。	G6LNID/F5202
WDLSPM(支払完了)	収益が認識されている。	自動割当
WDLSSQ(最終順序)	売掛仕訳の作成が実行されている。	自動割当
WDLT(元帳タイプ)		GLLT/F0911/AA(非T&M - CB)
WDMCU(ビジネスユニット)	デフォルト。	GLMCU/F0911
	間接費。	YSMCU/F0724
WDMKRP(手数料レート)		不使用
WDNCTL(NTE制御フラグ)		不使用
WDOBJ(主科目)	デフォルト値。	GLOBJ/F0911
	間接費。	YSOBJ/F0724
WDODCT(当初伝票タイプ)		GLODCT/F0911
WDODOC(当初伝票番号)		GLODOC/F0911
WDOGNO(当初行番号)		GLLNID(行番号)/F0911
WDOKCO(当初オーダー伝票)		GLOKCO/F0911
WDOPIIM(契約請求行)	契約請求管理。	G6OPIM/F5202
WDOPSQ(作業順序)		GLOPSQ/F0911
WDOSFX(当初支払項目)		GLOSFX/F0911
WDPAID(合計原価/価格)		不使用
WDPARS(親WO番号)	補助元帳の入力時に作業オーダー・マスターから取得する。	WAPARS / F4801
WDPCFG(間接費フラグ)	デフォルト値。	ブランク
	F0724テーブルに間接費レコードが存在する。	1を自動割当

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDPCIM(パーセント)	生成タイプは1。	WQPERT(パーセント)/F48096
WDPCKO(伝票会社)		GLPKCO(購買オーダー伝票会社)/F0911
WDPCTN(親契約番号)	契約請求管理。	G4PCTN/F5201
WDPCTT(親契約タイプ)	契約請求管理。	G4PCTT/F5201
WDPDBA(PDBAコード)	デフォルト値。	ブランク
	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	YTPDBA/F0618またはF06116
	間接費。	YSPDBA/F0724
WDPDCT(購買オーダー伝票)		GLPDCT/F0911
WDPERT(パーセント)	生成タイプは2。	WQPERT(パーセント)/F48096
WDPID(プログラムID)		プログラム名
WDPKCO(購買オーダー伝票会社)		GLPKCO/F0911
WDPSMQ(支払順序番号)		不使用
WDPN(会計期間)		GLPN/F0911
WDPO(購買オーダー番号)		GLPO/F0911
WDPRET(留保パーセント)	サービス請求管理。	WIPRET/F48127
WDPRGR(品目価格グループ)		不使用
WDPRIC(単位価格)		自動計算
WDPRIF(単位価格-外貨)	通貨がオンになっており、通貨コードが異なる。	計算
WDPRSQ(親順序番号)		自動割当
WDPRTF(印刷フラグ)		自動割当
WDP RTP(価格設定タイプ)	ワークファイル生成時の契約に関連付けられたすべてのワークファイル取引で入力される。	契約の請求行から取得(F5202テーブルのPRTP)

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDPRTTR(トランザクション番号)	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	YTPRTTR/F0618またはF06116
WDPSFX(購買オーダー・サフィックス)		GLPSFX/F0911
WDPTAX(税タイプ)	デフォルト。	ブランク
	間接費。	YSPTAX/F0724
WDPTFG(パススルー請求)		不使用
WDR001(請求品目コード)		ソース取引の勘定科目の GMR001/F0901
WDR002(カテゴリ・コード002)		ソース取引の勘定科目の GMR002/F0901
WDR003(場所)		ソース取引の勘定科目の GMR003/F0901
WDRAG(遡及調整グループ)	遡及調整取引。	自動割当
WDRAS(遡及調整状況)	遡及調整取引。	自動割当
WDRDJ(リリース日付)		WDRDJ
WDRFBS(収益金額基準)		自動割当
WDRGLC(留保金相手勘定)		WIRGLC/F48128
WDRP11(カテゴリ・コード011)	F4812レコードのWDMCU(ビジネスユニット)フィールド。	MCRP11/F0006
WDRP12(カテゴリ・コード012)	F4812レコードのWDHMCU(所属ビジネスユニット)フィールド。	MCRP12/F0006
WDRTNG(留保金)		自動計算
WDRTPS(留保金-前回)		自動計算
WDSBAR(理由コード)	UDC 48/AR(再計算およびNTE理由コード)。	WDSBAR
WDSBL(補助元帳)	サービス請求管理。	GLSBL/F0911
WDSBL5(補助元帳)	契約請求管理。	G6SBL/F5202
WDSBL6(補助元帳)		不使用

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDSBLT(補助元帳タイプ)	サービス請求管理。	GLSBLT/F0911
WDSBSK(集計キー)		自動割当
WDSBSQ(順序番号)		自動割当
WDSBT5(補助元帳タイプ)	契約請求管理。	G6SBLT/F5202
WDSBT6(補助元帳タイプ)		不使用
WDSCSQ(2次順序番号)		自動割当
WDSFX(支払項目)		自動割当
WDSLNK(分割連結)		自動割当
WDSUB(補助科目)	デフォルト値。	GLSUB/F0911
	間接費。	YSSUB/F0724
WDSUBA(代替補助科目)	MCU、OBJ、SUBを使用して勘定科目マスターから取得。	GMSUBA / F0901
WDTBDT(テーブル比較基準日)	F48091レコードのWZEBAS(有効基準日付)フィールドに1が含まれる。	GLDGJ(元帳日付)/F0911
	WZEBASフィールドに2が含まれる。	GLDSVJ(サービス/税日付)/F0911
WDTCLS(分類)	追加料金(暫定間接費)。	0
	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドにT2またはT4が含まれる。	1
	間接費。	2
	GLDCTフィールドにTEが含まれる。	3
	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれていない。	
	A) F0911テーブルとF1202テーブルの両方に関連レコードが存在する。どちらのレコードもシリアル番号が同じ(それぞれGLASIDとFAASID)。	3
	B) F0911レコードのGLICUT(バッチタイプ)フィールドにNが含まれる。	4

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
	F0911レコードのGLD0C、GLDCT、GLKCO、GLDGL(伝票番号、タイプ、会社および元帳日付)フィールド。	
	C) GLICUTフィールドにVまたはWのいずれかが含まれる。F0911レコードのGLD0C、GLDCTおよびGLKCOフィールド。	5
	D) GLICUTフィールドにGが含まれる。F0006テーブルに関連レコードが存在する。	6
	前述条件がいずれも満たされておらず、F0911レコードのGLPO(購買オーダーNo.)フィールドがブランクではない。	5
	SWMS。 C サービス契約 D サービス・オーダー E 請求 F 呼出し	
WDTKA1(キー・タイプ - 勘定科目基準決定テーブル1)		不使用
WDTKA2(キー・タイプ - 勘定科目基準決定テーブル2)		不使用
WDTKA3(キー・タイプ - 勘定科目基準決定テーブル3)		不使用
WDTKG1(相手勘定テーブル・キー・タイプ)	使用されている相手勘定テーブルから。	WITYKY / F48128
WDTKM1(キー・タイプ - 割増テーブル・タイプ1)	使用されている割増テーブルから。	WQTYKY / F48096
WDTKM2(キー・タイプ - 割増テーブル・タイプ2)	使用されている割増テーブルから。	WQTYKY / F48096
WDTKM3(キー・タイプ - 割増テーブル・タイプ3)	使用されている割増テーブルから。	WQTYKY / F48096
WDTKT1(キー・タイプ - 税決定基準テーブル)	使用されている税決定基準テーブルから。	WOTYKY / F48127
WDTOG(課税額または総額)		値は1

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
	F4812レコードに、税率/税域と税目コードが含まれる。	
	前の条件のいずれも該当しない。	ブランク
WDTX(購買時課税対象)		値はY
	F4812レコードに、税率/税域と税目コードが含まれる。	
	前の条件のいずれも該当しない。	値はN
WDTXA1(税率/税域)	契約請求管理。	G6TXA1/F5202
	サービス請求管理。	WOTXA1/F48127
WDTYKY(キー・タイプ)		不使用
WDU(区画)	デフォルト値。	GLU/F0911
	F0911レコードのGLDCT(伝票タイプ)フィールドにT2またはT4が含まれる。	YTPHRW(作業時間数)/F0618またはF06116
	GLDCTフィールドにT5が含まれる。	YTEQHR(稼働時間数)/F0618またはF06116
WDUM(単位)	デフォルト。	GLUM/F0911
	GLDCTフィールドにT2、T4またはT5が含まれる。	HR
WDUPMJ(更新日付)		自動割当
WDUPMT(最終更新時刻)		自動割当
WDUSER(ユーザーID)		自動割当
WDVGCOA(オーダー承認地理コード)	Vertexが有効。	VGCSFの値
WDVGCSF(出荷元地理コード)	Vertexが有効。	MCUの地理コード(ブランク)
		MCUのAN8の地理コード(ブランク)
		MCUの会社の住所録番号の地理コード(ブランク)
WDVINV(請求書番号)	伝票タイプがPVの場合。	GLVINV/F0911

F4812テーブルのデータ項目	条件および取り込まれる情報	データ項目/ソース・テーブル
WDVOID(無効-V)		自動割当
WDVVTC(Vertex製品カテゴリ)	サービス請求管理。 Vertexが有効。	VVTC/F48127
	契約請求管理。 Vertexが有効。	VVTC/F5202
WDVVTY(Vertexトランザクション・タイプ)	サービス請求管理。 Vertexが有効。	VVTY/F48127
	契約請求管理。 Vertexが有効。	VVTY/F5202
WDWR01(フェーズ)		GLWR01/F0911
WDWR07(サービス・タイプ)	F0911レコードのGLSBL(補助元帳)フィールドがブランク。	WAWR07/F4801
	GLSBLT(補助元帳タイプ)フィールドにWが含まれる。	

付録 B

JD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneへの契約/サービス請求管理のアップグレード

この章では、アップグレード・パスの概要、事前設定、および次の方法について説明します。

- JD Edwards WorldバージョンA7.3からの契約/サービス請求管理テーブルのアップグレード
- JD Edwards WorldバージョンA7.3からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード
- JD Edwards WorldバージョンA7.3からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード
- A7.3テーブル変換プログラムの実行
- JD Edwards WorldバージョンA8.1からの契約/サービス請求管理テーブルのアップグレード
- JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード
- JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード
- A8.1テーブル変換プログラムの実行

注意: この章は任意です。JD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理にアップグレードしない場合は、この章で説明するタスクを実行する必要がありません。導入の次のステップに進むことができます。

関連項目:

JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Data Access Tools

アップグレード・パスについて

JD Edwards World A7.3またはA8.1からJD Edwards EnterpriseOneに請求管理システムをアップグレードするためのアップグレード・パスが用意されています。

JD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneにアップグレードするには、テーブル変換ツールを使用して請求テーブルを変換する必要があります。JD Edwards EnterpriseOneシステムには、請求テーブルを変換するためのテーブル変換プログラムが用意されています。

ほとんどの場合、JD Edwards WorldテーブルからJD Edwards EnterpriseOneテーブルにデータを直接コピーできます。

ここでは、次の事項について説明します。

- 日付フィールド
- 数値データ・フィールド
- 変換されないフィールド

- 変換されない契約請求管理テーブル
- 必要な追加の変換

日付フィールド

テーブル変換プログラムは、JD Edwards Worldテーブルに格納されているすべての日付をユリウス暦の日付形式からJDEDATE形式に変換した後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込みます。

数値データ・フィールド

JD Edwards Worldでは、すべての数値データが小数点以下の桁数なしで格納されます。たとえば、数値12.34は1234として格納されます。この同じ数値が、JD Edwards EnterpriseOneでは12.34として格納されます。次の表に、テーブル変換プログラムが数値データ・フィールドの小数点以下の桁数の管理に使用するシナリオを示します。

シナリオ	A7.3	A8.1
データ・クラス <> CURRENCY 表示小数点以下桁数 = 0	換算は不要です。JD Edwards WorldデータをJD Edwards EnterpriseOneに変更なしでコピーします。	換算は不要です。JD Edwards WorldデータをJD Edwards EnterpriseOneに変更なしでコピーします。
データ・クラス <> CURRENCY 表示小数点以下桁数 > 0	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用してJD Edwards Worldデータを変換します。	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用してJD Edwards Worldデータを変換します。
データ・クラス = CURRENCY JD Edwards World通貨オフ	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用してJD Edwards Worldデータを変換します。	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用してJD Edwards Worldデータを変換します。
データ・クラス = CURRENCY JD Edwards World通貨オン	データ辞書の表示小数点以下桁数を使用してJD Edwards Worldデータを変換します。	通貨コードの表示小数点以下桁数を使用してJD Edwards Worldデータを変換します。国内通貨ではCRCD通貨コードが使用され、外貨ではCRCF通貨コードが使用されます。

変換されないフィールド

JD Edwards EnterpriseOneテーブルの中には、対応するJD Edwards Worldテーブルよりも多くのフィールドが含まれているものがあります。たとえば、VertexはJD Edwards Worldでは使用できないため、JD Edwards EnterpriseOneテーブルの中には、JD Edwards Worldテーブルに含まれていないVertex情報用のフィールドが含まれているものがあります。この場合、テーブル変換プログラムはJD Edwards EnterpriseOneテーブルのこれらのフィールドをブランクにします。

これ以外のフィールド例外は、個々のテーブル変換プログラムで述べられています。

変換されない契約請求管理テーブル

次の契約請求管理テーブルは、JD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneに変換されません。

テーブル	説明
所有者支払項目テキスト (F52024)	このテーブルは、JD Edwards EnterpriseOneに存在しません。所有者支払項目に関連付ける必要があるどのテキストも、メディア・オブジェクトとして手動で入力する必要があります。テーブルF52024をメディア・オブジェクト添付文書に変換する予定はありません。
契約ログ・テキスト (F52034)	契約ログ・アプリケーションはJD Edwards EnterpriseOneで繰り返されないため、契約ログに関連付けられているテーブルを変換する必要はありません。テーブルF52034をJD Edwards EnterpriseOneに変換する予定はありません。
契約収益集計 (F5280)	このテーブルは、契約収益集計テーブルの再作成プログラム (R52809) を実行することによって、JD Edwards EnterpriseOneで再作成できます。

必要な追加の変換

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムをアップグレードする場合は、選択したサービス請求管理テーブルも変換する必要があります。

- 請求書順序/集計テーブル見出し (F4805)
- 請求書順序/集計テーブル明細 (F48051)
- 請求管理システム固定情報 (F48091)
- 請求料金/割増テーブル (F48096)
- 請求明細ワークファイル (F4812)
- 請求ワークファイル履歴 (F4812H)
- 請求書集計ワークファイル (F4822)
- 請求集計アクセス (F48520)
- 追加料金テーブル・マスター (F4860)
- 追加料金テーブル明細 (F4861)
- 追加料金相互参照 (F4862)

事前設定

JD Edwards World環境を有効なJD Edwards EnterpriseOne環境として設定し、テーブル変換プログラムごとに入出力環境をマッピングします。

参照: JD Edwards EnterpriseOne Tools 8.98 Development Tools: Data Access Tools

JD Edwards WorldバージョンA7.3からの契約/サービス 請求管理テーブルのアップグレード

この項では、JD Edwards WorldバージョンA7.3の契約請求管理とサービス請求管理の両方のシステムで必要なテーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4805の変換について

ここでは、請求書順序/集計テーブル見出し(F4805)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894805
- JD Edwards Worldでのカラム数: 7
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 7

次の表は、F4805の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	集計キー	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DESC	DESC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
7	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48051の変換について

ここでは、請求書順序/集計テーブル明細(F48051)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948051
- JD Edwards Worldでのカラム数: 10

- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F48051の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	集計キー - サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	データ項目	DTAI	DTAI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	データ項目サイズ	DTAS	DTAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
5	集計コード - サービス請求	SBSC	SBSC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48091の変換について

ここでは、請求管理システム固定情報(F48091)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948091
- JD Edwards Worldでのカラム数: 27
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 35

次の表は、F48091の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	制御フラグ3	BCT3	BCT3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルを1で更新する。
2	間接費請求フラグ	BBDR	BBDR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	有効日付基準	EBAS	EBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	作業有効日基準	LBAS	LBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	顧客No.基準	CNBS	CNBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	個別請求フラグ	INDI	INDI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	未転記請求フラグ	BUNP	BUNP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	仕訳作成の制御	PRRR	PRRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	請求書集計アクセス・テーブルの制御	ISAC	ISAC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	契約収益フラグ	CNTM	CNTM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	請求日の一時変更許可	INDO	INDO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	仕訳振替の制御	JRNL	JRNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	PDBAコード一時変更	PDBO	PDBO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	請求書番号の制御	ICTL	ICTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	サービス日付基準	DSVB	DSVB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
17	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	複数のバッチ生成制御フラグ	MBGC	MBGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	データ項目	DTAI	DTAI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	多通貨モード-外貨/国内通貨エントリ		CRRM	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
22	超過禁止処理フラグ	BCT1	BCT1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	制御フラグ2	BCT2	BCT2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
25	間接費ソース		BSOU	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
26	間接費有効日基準		BEDB	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
27	間接レート・タイプ - 原価		BURTC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
28	間接費レート・タイプ - 請求書		BURTI	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
29	間接費レート・タイプ - 収益		BURTR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
30	間接費レート・タイプ - 代替原価		BURTAC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
31	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
34	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
35	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48096の変換について

ここでは、請求料金/割増テーブル(F48096)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948096
- JD Edwards Worldでのカラム数: 33
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 37

次の表は、F48096の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	終了主科目	OBJT	OBJT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	終了補助科目	SUBT	SUBT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
10	生成タイプ	GTYP	GTYP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	レート-収益一時変更割増レート	BRT	BRT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
14	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	パーセント値-収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
16	金額	AA	AA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
17	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	カテゴリ・コード-ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	資産番号	NUMB	NUMB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	カテゴリ・コード-F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	品目価格グループ		PRGR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
23	顧客価格グループ		CPGP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
24	請求基準フラグ		BBF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
25	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	制御フラグ1	CTF1	CTF1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	固有キーID(内部)		UKID	固有キー・ファイル - 次の使用可能な固有キー・テーブル (F00022) から次番号をロードする。
33	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
37	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812の変換について

ここでは、請求明細ワークファイル(F4812)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894812
- JD Edwards Worldでのカラム数: 168
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 199

次の表は、F4812の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	仕訳行番号	JELN	JELN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	勘定科目ID	AID	AID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット11	RP11	RP11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
15	JD Edwards EnterpriseOneコンサルティング-サービス・タイプ	WR07	WR07	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	元帳タイプ	LT	LT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	西暦上2桁	CTRY	CTRY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	会計年度	FY	FY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	期間-総勘定元帳	PN	PN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	当初の伝票タイプ	ODCT	ODCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	購買オーダー	PO	PO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	伝票タイプ-購買オーダー	PDCT	PDCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
30	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	カテゴリ・コード - 総勘定元帳2	R002	R002	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	カテゴリ・コード - 総勘定元帳3	R003	R003	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	職務タイプ (技能) コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	作業対象設備	EQWO	EQWO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	カテゴリ・コード - F/A 10 (料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	担当BU (ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
48	経過一時変更日付 (ブランク=変更なし)	DAGO	DAGO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
49	経過計算の停止	AGS	AGS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	備考、摘要、名称	EXA	EXA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	間接費フラグ	PCFG	PCFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	基本単位当たり単価	PRIC	PRIC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
54	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
55	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
56	金額	AA	AA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
57	伝票 - 照合 (支払または項目)	DOCM	DOCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
58	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
62	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
63	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	順序No.	SBSQ	SBSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	2次順序No.	SCSQ	SCSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	請求制御ID	BCI	BCI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	支払順序No.	PMSQ	PMSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	取引分類	TCLS	TCLS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
78	日付 - 請求書	IVD	IVD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
79	保留コード(サービス請求処理)	HLD	HLD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
81	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	バッチ番号 - 活動状態	ICUA	ICUA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
83	仕訳状況コード - 前の	JRSP	JRSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	間接費保留	BDPN	BDPN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
85	分割連結	SLNK	SLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
86	追加料金連結	CLNK	CLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	追加料金請求レート・テーブル	CINR	CINR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	テーブル比較基準日	TBDT	TBDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
93	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
95	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
96	金額 - 収益割増	ADCR	ADCR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
97	キャップまたは一時変更レート - 請求書	CAPI	CAPI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	請求一時変更割増レート	BRTI	BRTI	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
99	パーセント値 - 請求書割増	PCIM	PCIM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
100	金額 - 請求書割増	ADCI	ADCI	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
101	課税対象	TX	TX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
102	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
103	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
105	割引率(%) - 支払条件	DCP	DCP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
106	金額-仕訳税額	JTAX	JTAX	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
107	金額-仕訳税額-外貨	JTXF	JTXF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
108	金額-収益	BTOL	BTOL	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
109	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
110	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
111	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
112	金額-外貨合計請求	FTOL	FTOL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
114	金額-請求金額課税 分	ITXA	ITXA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
115	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
116	金額-請求書の割引 可能額	IDSC	IDSC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
117	金額-外貨請求書	CITL	CITL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
118	金額-外貨請求金額 税額	CITA	CITA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
119	金額-外貨建て請求書税	CITX	CITX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
120	金額-外貨請求金額 割引きあり	CIDS	CIDS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
121	請求書仕訳状況コード	IJUST	IJUST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
122	印刷フラグ	PRTF	PRTF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
123	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
124	住所番号-作業売掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
126	日付-請求書	DI	DI	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
127	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
131	集計キー-サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
132	複合キー-ブロック	BLKK	BLKK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
133	勘定科目ID	AID5	AID5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
136	勘定科目ID	AID6	AID6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
139	入金時請求規則を一時変更	AREX	AREX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
140	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
141	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
142	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
144	留保-前回-保管資料	RTPS	RTPS	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
145	外貨建て留保金額	FRTN	FRTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
146	ダウンロード・フラグ-サービス請求	DWNL	DWNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
147	コード化区画の変更	CBLC	CBLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
148	日付-取引入力	DEJ	DEJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
149	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
150	通貨コード(ソース)	CRCE	CRCE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
151	通貨コード - 当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
152	金額	AA2	AA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
154	元帳日付 - ユリウス暦	DGJ	DGJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
155	日付 - 請求書仕訳日付 - ユリウス暦	IDGJ	IDGJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
156	入金後支払フラグ	PTFG	PTFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	再計算基準フラグ	RSBF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
157	略式品目番号	ITM	ITM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
161	為替レート日付		ERDT	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
164	親WO(作業オーダー)番号		PARS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
165	品目価格グループ		PRGR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
166	顧客価格グループ		CPGP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
167	請求基準フラグ		BBF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
168	料金%		MKRP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
169	料金基準		FBAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
170	収益金額基準		RFBS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
171	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ1		TKM1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
172	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ2		TKM2	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
173	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ3		TKM3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
174	キー・タイプ - 勘定科目 基準決定テーブル 1		TKA1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
175	キー・タイプ - 勘定科目 基準決定テーブル 2		TKA2	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
176	キー・タイプ - 勘定科目 基準決定テーブル 3		TKA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
177	相手勘定テーブル・ キー・タイプ		TKG1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
178	キー・タイプ - 税決定 基準テーブル		TKT1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
179	金額-収益-実績		HBTL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
180	金額-請求書-実績		HITL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
181	金額-請求書課税額-実績		HITX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
182	金額-請求書課税額-実績		HTAM	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
183	一次単位当たり価格-外貨		PRIF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
184	NTE制御フラグ		NCTL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
185	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
186	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
187	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
190	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
191	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
192	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
193	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
194	遡及調整状況		RAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
195	遡及調整グループ		RAG	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
196	職務プール・グループ・コード		JPGC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
197	金額		AA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
198	外貨建て金額		ACR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
199	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812Hの変換について

ここでは、請求ワークファイル履歴 (F4812H) を JD Edwards World A7.3 から JD Edwards EnterpriseOne に変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894812H
- JD Edwards Worldでのカラム数: 168
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 199

次の表は、F48012Hの変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	伝票番号 (伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	元帳 (および伝票) 日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	仕訳行番号	JELN	JELN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	勘定科目ID	AID	AID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット11	RP11	RP11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
10	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
14	カテゴリー - 作業オーダー01	WR01	WR01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	JD Edwards EnterpriseOneコンサルティング - サービス・タイプ	WR07	WR07	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	元帳タイプ	LT	LT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	西暦上2桁	CTRY	CTRY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	会計年度	FY	FY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	期間 - 総勘定元帳	PN	PN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	当初の伝票タイプ	ODCT	ODCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
25	購買オーダー	PO	PO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	カテゴリ・コード - 総勘定元帳2	R002	R002	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	カテゴリ・コード - 総勘定元帳3	R003	R003	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	作業対象設備	EQWO	EQWO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
41	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	担当BU(ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
48	経過一時変更日付 (ブランク=変更なし)	DAGO	DAGO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
49	経過計算の停止	AGS	AGS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	備考、摘要、名称	EXA	EXA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	間接費フラグ	PCFG	PCFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	基本単位当たり単価	PRIC	PRIC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
54	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
55	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
56	金額	AA	AA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
57	伝票 - 照合 (支払または項目)	DOCM	DOCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
58	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
63	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	順序No.	SBSQ	SBSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	2次順序No.	SCSQ	SCSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	請求制御ID	BCI	BCI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	支払順序No.	PMSQ	PMSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	取引分類	TCLS	TCLS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
78	日付 - 請求書	IVD	IVD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
79	保留コード(サービス請求処理)	HLD	HLD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
81	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	バッチ番号 - 活動状態	ICUA	ICUA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
83	仕訳状況コード - 前の	JRSP	JRSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	間接費保留	BDPN	BDPN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
85	分割連結	SLNK	SLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
86	追加料金連結	CLNK	CLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
88	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	追加料金請求レート・テーブル	CINR	CINR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	テーブル比較基準日	TBDT	TBDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
93	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
95	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
96	金額 - 収益割増	ADCR	ADCR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
97	キャップまたは一時変更レート - 請求書	CAPI	CAPI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	請求一時変更割増レート	BRTI	BRTI	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
99	パーセント値 - 請求書割増	PCIM	PCIM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
100	金額 - 請求書割増	ADCI	ADCI	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
101	課税対象	TX	TX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
102	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
103	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
105	割引率(%) - 支払条件	DCP	DCP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
106	金額 - 仕訳税額	JTAX	JTAX	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
107	金額 - 仕訳税額 - 外貨	JTXF	JTXF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
108	金額 - 収益	BTOL	BTOL	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
109	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
110	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
111	多通貨モード - 外貨 / 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
112	金額 - 外貨合計請求	FTOL	FTOL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
114	金額 - 請求金額課税分	ITXA	ITXA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
115	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
116	金額-請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
117	金額-外貨請求書	CITL	CITL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
118	金額-外貨請求金額税額	CITA	CITA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
119	金額-外貨建て請求書税	CITX	CITX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
120	金額-外貨請求金額割引きあり	CIDS	CIDS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
122	印刷フラグ	PRTF	PRTF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
123	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
124	住所番号-作業売掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
126	日付-請求書	DI	DI	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
127	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
128	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
130	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
131	集計キー-サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
132	複合キー-ブロック	BLKK	BLKK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
133	勘定科目ID	AID5	AID5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
136	勘定科目ID	AID6	AID6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
139	入金時請求規則を一時変更	AREX	AREX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
140	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
141	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
142	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
144	留保-前回-保管資料	RTPS	RTPS	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
145	外貨建て留保金額	FRTN	FRTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
146	ダウンロード・フラグ -サービス請求	DWNL	DWNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
147	コード化区画の変更	CBLC	CBLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
148	日付-取引入力	DEJ	DEJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
149	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
150	通貨コード(ソース)	CRCE	CRCE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
151	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
152	金額	AA2	AA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
154	元帳日付-ユリウス暦	DGJ	DGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
155	日付-請求書仕訳日付-ユリウス暦	IDGJ	IDGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
156	入金後支払フラグ	PTFG	PTFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
157	略式品目番号	ITM	ITM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
158	合計原価/価格	PAID	PAID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
161	為替レート日付		ERDT	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
164	親WO(作業オーダー)番号		PARS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
165	品目価格グループ		PRGR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
166	顧客価格グループ		CPGP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
167	請求基準フラグ		BBF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
168	料金%		MKRP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
169	料金基準		FBAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
170	収益金額基準		RFBS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
171	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ1		TKM1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
172	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ2		TKM2	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
173	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ3		TKM3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
174	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル1		TKA1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
175	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル2		TKA2	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
176	キー・タイプ - 勘定科目基準決定テーブル3		TKA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
177	相手勘定テーブル・キー・タイプ		TKG1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
178	キー・タイプ - 税決定基準テーブル		TKT1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
179	金額-収益-実績		HBTL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
180	金額-請求書-実績		HITL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
181	金額-請求書課税額-実績		HITX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
182	金額-請求書課税額-実績		HTAM	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
183	一次単位当たり価格-外貨		PRIF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
184	NTE制御フラグ		NCTL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
185	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
186	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
187	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
190	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
191	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
192	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
193	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
194	遡及調整状況		RAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
195	遡及調整グループ		RAG	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
196	職務プール・グループ・コード		JPGC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
197	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
198	金額		AA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
199	外貨建て金額		ACR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4822の変換について

ここでは、請求書集計ワークファイル (F4822) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894822
- JD Edwards Worldでのカラム数: 95
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 104

次の表は、F4822の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	契約申込No.	APPL	APPL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	調整番号	ADJN	ADJN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
11	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	価格設定タイプ-契約	PRTP	PRTP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	請求一時停止	BLSP	BLSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	住所番号 - 作業売掛金	AN8O	AN8O	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	代替受取人住所番号	AN8J	AN8J	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	支払条件コード	PTC	PTC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
20	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	請求期間開始日		BTFR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
23	最新請求日付		BTDT	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
24	日付 - 元帳(および伝票)	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
25	日付 - 期日	DDJ	DDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
26	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
27	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	申請日付	APDT	APDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
33	アプリケーション転記コード	APPO	APPO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	請求書タイプ	INTY	INTY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
37	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
38	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	金額-単価	UP	UP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
40	単価(外貨)	FUP	FUP	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
41	前回請求数量-当期	PUHP	PUHP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
42	金額	AA	AA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
43	金額通貨	ACR	ACR	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
44	現行期間	THPD	THPD	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
45	現行期間-外貨	FHPD	FHPD	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
46	現行期間-再計算	RTHP	RTHP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
47	以前請求済期間	PTHP	PTHP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
48	当期の前の請求額-外貨	FTHP	FTHP	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
49	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	税額	STAM	STAM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
52	税額(外貨)	CTAM	CTAM	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
53	金額-税-前回	PTAM	PTAM	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
54	金額-税-前回-外貨	FPTA	FPTA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
55	課税対象額	ATXA	ATXA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
56	課税対象額(外貨)	CTXA	CTXA	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
57	金額-課税対象-以前	PATX	PATX	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
58	金額-課税対象-以前の外国税	FATX	FATX	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
59	非課税金額	ATXN	ATXN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
60	非課税額(外貨)	CTXN	CTXN	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
61	未収金額のリリースのみ	RTRE	RTRE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
64	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	留保金税計算	RCTL	RCTL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
66	留保金	RTNG	RTNG	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
67	留保-外貨	FTNG	FTNG	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
68	留保-前回	RTNP	RTNP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
69	留保-前回-外貨	FTNP	FTNP	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
70	繰延税金-国内		DDTR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
71	繰延税金-外貨		FDTR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
72	未払/繰延(保管資材)	STML	STML	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
73	未払/繰延(保管資材)-外国	FTML	FTML	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
74	事前請求済保管資材	PSMA	PSMA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
75	事前請求済保管資材-外貨	FSMA	FSMA	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
76	留保金規則-保管された資材	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	保管資材留保	SMRT	SMRT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
78	保管資材留保-外貨	SMRF	SMRF	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
79	保管資材留保-前回金額	SMRP	SMRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
80	保管資材留保-前回	SMPF	SMPF	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
81	合計労務金額	TLAB	TLAB	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
82	外貨合計労務金額	FLAB	FLAB	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
83	金額-合計間接費	TBUR	TBUR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
84	金額-外貨合計間接費	FBUR	FBUR	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
85	割引可能額	ADSC	ADSC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
86	割引可能額(外貨)	CDS	CDS	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
	再計算基準フラグ	RSBF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
87	多通貨モード-外貨/ 国内通貨		CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	換算元通貨コード	CRCD	CROD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	通貨コード-当初	CRCF	CROF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	備考	RMK	RMK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
93	入力モード-値	MIVL	MIVL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
94	入力モード-SM	MISM	MISM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
95	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
96	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
97	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
99	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
100	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
101	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
102	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
103	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
104	入金後支払		PYWP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48520の変換について

ここでは、請求集計アクセス (F48520) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948520
- JD Edwards Worldでのカラム数: 21
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 23

次の表は、F48520の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
2	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
7	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	オーダー会社	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
11	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	通貨コード(開始)		CRCD	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
13	通貨コード-当初		CRCF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
14	請求書金額	ITOL	ITOL	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
15	金額-請求金額課税分	ITXA	ITXA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
16	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
17	金額-請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
18	金額-外貨請求書	CITL	CITL	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
19	金額-外貨請求金額税額	CITA	CITA	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
20	金額-外貨建て請求書税	CITX	CITX	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
21	金額-外貨請求金額 割引あり	CIDS	CIDS	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
22	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
23	金額	AA	AA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4860の変換について

ここでは、追加料金テーブル・マスター (F4860) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894860
- JD Edwards Worldでのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F4860の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4861の変換について

ここでは、追加料金テーブル明細 (F4861) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894861
- JD Edwards Worldでのカラム数: 12
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 13

次の表は、F4861の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
3	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	順序No.	SEQ	SEQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	追加料金パーセント	CRTP	CRTP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	追加料金レート基準	UORC	UORC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	固有キーID		UKID	CTBL、CRCDおよびEFTBの固有の組合せごとに、UKIDを1に設定する。同じキー値を持つ追加レコードごとに、UKIDに1を追加する。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4862の変換について

ここでは、追加料金相互参照 (F4862) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894862
- JD Edwards Worldでのカラム数: 5
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 5

次の表は、F4862の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	基準追加料金	CBSS	CBSS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

JD Edwards WorldバージョンA7.3からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード

この項では、サービス請求管理システムでのみ必要なJD Edwards WorldバージョンA7.3テーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48127の変換について

ここでは、税決定情報(F48127)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948127
- JD Edwards Worldでのカラム数: 17
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 20

次の表は、F48127の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	生成タイプ	GTYP	GTYP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	終了主科目	OBJT	OBJT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	終了補助科目	SUBT	SUBT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	固有キーID (内部)		UKID	固有キー・ファイル - 次の使用可能な固有キー・テーブル (F00022) から次番号をロードする。
14	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
15	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
20	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48128の変換について

ここでは、相手勘定/留保金情報 (F48128) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948128
- JD Edwards Worldでのカラム数: 11
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 13

次の表は、F48128の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	支払条件	TRAR	TRAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	留保金税計算		RCTL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
8	モード(F)		CRRM	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48221の変換について

ここでは、サービス請求管理留保金のリリース相互参照ファイル(F48221)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948221

重要: 請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)を変換してから、サービス請求管理留保金のリリース相互参照ファイル・テーブル(F48221)を変換する必要があります。

- JD Edwards Worldでのカラム数: 17
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 19

次の表は、F48221の変換 - JD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	住所番号 - 作業売掛金	AN8O	AN8O	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	伝票支払項目-照合(支払/項目)	SFXM	SFXM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	留保-前回	RTNP	RTNP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
12	留保-前回-外貨	FTNP	FTNP	リリースA7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
13	繰延税金-国内		DDTR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
14	繰延税金-外貨		FDTR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
15	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
19	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

JD Edwards WorldバージョンA7.3からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード

この項では、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムでのみ必要なJD Edwards WorldバージョンA7.3テーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5201の変換について

この項では、契約マスター (F5201) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895201A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 76
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 80

次の表は、F5201のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	収益バッチ番号		ICUJ	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
6	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	記述02	DL02	DL02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	記述03	DL03	DL03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	所有者契約No.	ODCM	ODCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	所有者契約No.(短縮)	OCNC	OCNC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	住所番号 - 作業売掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	契約請求書最小金額-外貨		MCIF	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
14	金額超過禁止-外国		NTEF	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
15	留保金税計算		RCTL	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
16	請求書送付先住所番号	ANOB	ANOB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
17	建築士の契約No.	ADCM	ADCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	住所番号 - 建築士	AN8K	AN8K	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	住所番号3 - ユーザー	USA3	USA3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	住所番号 - 送金先	USA4	USA4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	住所番号1 - ユーザー	USA1	USA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	住所番号2 - ユーザー	USA2	USA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	住所番号 - 送付先	USA5	USA5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	契約状況	DS	DS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	契約タイプ	CT	CT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	担当BU(ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
34	留保金規則-保管された資材	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	税率/税域	TAX1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	AIA請求書フォーム (Y/N)	AIAB	AIAB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	契約一時変更規則	CTOV	CTOV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	支払条件コード	PTC	PTC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	支払後に請求	BLWP	BLWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	入金後支払	PYWP	PYWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	間接費一時変更規則	BROV	BROV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	報酬集計レベル	FSLV	FSLV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
46	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
47	多通貨モード-外貨/国内通貨エントリ		CRRM	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
	再計算基準フラグ	RSBF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
48	超過禁止金額	NTEX	NTEX	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
49	超過禁止金額-再計算	RNTE	RNTE	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
50	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	限界外フラグ	LMEX	LMEX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	最低契約請求書金額	MCIA	MCIA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
53	契約開始日付	CSDT	CSDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
54	契約完了日付	CDTE	CDTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
55	ユーザー日付1	USD1	USD1	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
56	ユーザー日付2	USD2	USD2	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
57	ユーザー日付3	USD3	USD3	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
58	ユーザー日付4	USD4	USD4	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
59	契約カテゴリ・コード1	AI01	AI01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	契約カテゴリ・コード2	AI02	AI02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約カテゴリ・コード3	AI03	AI03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	契約カテゴリ・コード4	AI04	AI04	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
63	契約カテゴリ・コード5	AI05	AI05	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	契約カテゴリ・コード11	AI11	AI11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	契約カテゴリ・コード12	AI12	AI12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	契約カテゴリ・コード13	AI13	AI13	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	契約カテゴリ・コード14	AI14	AI14	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	契約カテゴリ・コード15	AI15	AI15	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	為替レート	CRR	CRR	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
70	通貨換算レート - 除数	CRRD	CRRD	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
71	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	出来高請求相互参照フラグ	CTF3	CTF3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	制御フラグ4	CTF4	CTF4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	制御フラグ5	CTF5	CTF5	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 ブランク = ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
75	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
76	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
78	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
79	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
80	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5202の変換について

この項では、契約請求行詳細テーブル(F5202)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895202A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 82
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 85

次の表は、F5202のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	日付 - 計画開始	SD1	SD1	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
9	日付 - 完了予定	SD3	SD3	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	変更日付	CHD	CHD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
11	金額以外の変更	TRMO	TRMO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	変更状況	CHST	CHST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	留保金規則-保管された資材	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	留保金規則-変更オーダー	RTNC	RTNC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
23	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	価格設定タイプ-契約	P RTP	P RTP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	予定値	SCOF	SCOF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
26	予定金額(外貨)	FSOF	FSOF	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
27	予定値-再計算	RSOF	RSOF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
28	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
29	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	金額-単価	UP	UP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
31	単価(外貨)	FUP	FUP	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
32	金額-再計算単価	RUP	RUP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
33	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
35	税額	STAM	STAM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
36	非課税金額	ATXN	ATXN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
37	課税対象額	ATXA	ATXA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
38	超過禁止金額	NTEX	NTEX	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
39	金額超過禁止-外国	FNTE	FNTE	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
40	超過禁止金額-再計算	RNTE	RNTE	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
41	超過禁止金額-変更オーダー	NTEC	NTEC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
42	超過禁止-変更オーダー金額-外貨	FNTO	FNTO	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
43	超過禁止-変更オーダー金額-再計算	RNTO	RNTO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
44	超過禁止単位数	NTEU	NTEU	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
45	定期請求コード	RRBC	RRBC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
46	定期請求金額	RRBA	RRBA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
47	定期請求金額-外国	FRBA	FRBA	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
48	定期請求金額-再計算	RRRA	RRRA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
49	超過禁止規則からの免除	EXMP	EXMP	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。値は次のとおり。 ブランク=ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
50	代替順序コード	ALSQ	ALSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	請求一時停止	BLSP	BLSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	支払後に請求	BLWP	BLWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	入金後支払	PYWP	PYWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
54	現行請求方式	MCBL	MCBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
55	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
56	料金基準	FBAS	FBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
57	収益金額基準		RFBS	JD Edwards Worldにこのフィールドが存在しない。デフォルト値1を使用してJD Edwards EnterpriseOneテーブルをロードする。
58	レート・コード	RACD	RACD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	積上げ数量	ROLU	ROLU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	勘定科目一時変更フラグ	ACCO	ACCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	変更オーダー・カテゴリ・コード1	AD01	AD01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	変更オーダー・カテゴリ・コード2	AD02	AD02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	契約カテゴリ・コード3	AD03	AD03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	契約カテゴリ・コード4	AD04	AD04	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	契約カテゴリ・コード5	AD05	AD05	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	制御フラグ1	CTF1	CTF1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	出来高請求相互参照フラグ	CTF3	CTF3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	制御フラグ4	CTF4	CTF4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
71	制御フラグ5	CTF5	CTF5	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。値は次のとおり。 ブランク=ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
72	備考	RMK	RMK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	参照タグ	TAG	TAG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	為替レート	CRR	CRR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
75	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
78	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ		CRRM	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
	再計算基準フラグ	RSBF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
79	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
80	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
81	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
82	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
83	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexを使用できなかった。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
85	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexを使用できなかった。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5204の変換について

この項では、留保金規則情報テーブル(F5204)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895204A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F5204のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
4	完了率	PC	PC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5212の変換について

この項では、T&M、単価、合計相互参照勘定科目テーブル (F5212) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895212A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 25
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 29

次の表は、F5212のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	請求基準フラグ		BBF	データ辞書のデフォルト値1を使用してロードする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
22	略式品目番号		ITM	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
23	品目価格グループ		PRGR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
24	顧客価格グループ		CPGP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
25	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
29	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5213の変換について

この項では、手数料請求行相互参照詳細テーブル(F5213)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895213A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 11
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 14

重要: テーブルF5213を変換する前に、契約請求行詳細テーブル(F5202)を変換する必要があります。

次の表は、F5213のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	記述	DL01		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
	価格設定タイプ	PRTP		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
	予定値	SCOF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
8	相互参照契約変更番号	RCOC	RCOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	行No.-相互参照		LNIX	関連するF5202レコードの行番号(LNID)。この情報はJD Edwards Worldに保存されていない。このリファレンス表の後の「注意」を参照。
10	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R895213A」と入力する。
11	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数(B9800100)のUserName。
12	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数(B9800100)のWorkstation_UserID。
13	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数(B9800100)のDate。
14	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数(B9800100)のTime。

注意: JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルのLNIX値には、関連するF5202レコードの行番号(LNID)を含める必要があります。この行番号はJD Edwards Worldファイルに保存されていませんが、JD Edwards Worldファイルには十分なキー情報が存在するため、行番号をJD Edwards World F5202ファイルから取得できます。JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルの次のフィールドを使用して、固有のJD Edwards World F5202レコードがアクセスされます。

DOCO

DCTO

KCOO

COCH

OPIM

JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルのLNIXフィールドは、これらのキー・フィールドで検索されるJD Edwards World F5202レコードのLNIDフィールドを使用して自動入力されます。

F5213を変換する前に、F5202テーブルをJD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneに変換すると、LNIXはF5202テーブルのJD Edwards EnterpriseOneバージョンから取り込まれます。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52131の変換について

この項では、レート・コード定義情報テーブル(F52131)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8952131A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 6
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 11

次の表は、F52131のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	レート・コード	RACD	RACD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始日付	DTFR	DTFR	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	終了日付	DTTO	DTTO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R8952131A」と入力する。
8	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のUserName。
9	ワークステーションID		JOBIN	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のWorkstation_UserID。
10	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
11	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5214の変換について

この項では、追加料金コード/間接費相互参照テーブル (F5214) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895214A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 7
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 14

次の表は、F5214のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	DBAコード		PDBA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
9	税タイプ		PTAX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
10	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のUserName。
11	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のWorkstation_UserID。
12	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R895214A」と入力する。
13	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
14	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5215の変換について

この項では、追加料金/間接費請求行相互参照詳細テーブル(F5215)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895215A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 13
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 16

次の表は、F5215のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	行番号	LIN		データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルのLINXフィールドに書き込む。
7	相互参照契約変更		RCOC	このフィールドにはJD Edwards WorldのCOCH値が自動入力される。
8	行No.相互参照		LNIX	このフィールドにはJD Edwards WorldのLIN値が自動入力される。JD Edwards WorldのLIN値にデータ辞書小数点以下桁数換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
9	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	DBAコード		PDBA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
11	税タイプ		PTAX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
12	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
14	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
16	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5216の変換について

この項では、マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895216A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 25
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 33

重要: テーブルF5216を変換する前に、契約請求行詳細テーブル (F5202) を変換する必要があります。

次の表は、F5216のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	請求イベント	EVNT	EVNT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
7	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	完了率	PC		データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、その結果をJD Edwards EnterpriseOneテーブルのPERSフィールドに挿入する。
8	2次記述	SDSC	SDSC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	パーセント/金額		APER	JD Edwards Worldではパーセントのみがサポートされていた。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」（パーセント）と入力する。
10	パーセント-予定値		PERS	JD Edwards WorldファイルのPC値を使用してこのフィールドをロードする。JD Edwards WorldのPCフィールドは、データ辞書の表示小数点以下桁数に基づいて調整されている必要がある。
11	金額(マイルストーン金額)		AA	マイルストーン請求行の場合、このフィールドはパーセント-予定値(PERS)にF5202テーブルの予定値(SCOF)金額を掛けて算出される。進捗請求行の場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。「注意」を参照。
12	金額(外貨建てマイルストーン金額)		AA2	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
13	通貨コード(開始)		CRCD	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
14	通貨コード-当初		CRCF	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
15	通貨換算レート-除数		CRRD	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
16	多通貨モード-外貨/国内通貨エントリ		CRRM	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
17	フラグ-事象完了	CMFL	CMFL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	フラグ-請求済事象	BILF	BILF	JD Edwards WorldのYをJD Edwards EnterpriseOneの1に変更して、JD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	日付-完了予定(ユリウス暦)	DECO	DECO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
20	完了日付(ユリウス暦)	DTCO	DTCO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
21	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	収益バッチ番号		ICUJ	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
27	順序No.	SEQ	SEQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
28	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
32	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

注意: 進捗行相互参照レコードとマイルストーン行相互参照レコードの両方が、F5216テーブルに保存されています。ただし、AAフィールドはマイルストーン・レコードに関してのみ自動入力されます。関連するF5202レコードが取得され、F5216レコードが進捗またはマイルストーン請求行のいずれであるかが判別されます。関連するF5202レコードへのアクセスには、F5216テーブルの次のフィールドが使用されます。

DOCO

DCTO

KCOO

COCH

LNID

関連するF5202レコードにMまたは6の請求行タイプ(P RTP)がある場合、請求行はマイルストーン行であり、F5216テーブルのAAフィールドには値が必ず入力されます。AA金額は、パーセント-予定値(PERS)にF5202テーブル内の関連するレコードからの予定値(SCOF)を掛けて算出されます。

関連するF5202レコードにMまたは6以外の請求行タイプがある場合、請求行は進捗行であり、AAフィールドおよびAA2フィールドに0(ゼロ)が入力されます。

F5216を変換する前に、F5202テーブルをJD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneに変換する必要があります。これにより、JD Edwards EnterpriseOneのバージョンのF5202テーブルから予定値(SCOF)を取り込むことができるようになります。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52161の変換について

この項では、マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細テーブル(F52161)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8952161A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 17
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 17

F52161テーブルへの情報の格納方法は、JD Edwards WorldとJD Edwards EnterpriseOneでは異なります。次の表に示すように、JD Edwards Worldの特定のデータ項目は、JD Edwards EnterpriseOneの対応するデータ項目に変換されます。

JD Edwards Worldのデータ項目	対応するJD Edwards EnterpriseOneのデータ項目
COCH	COCX
LNID	LNIX

JD Edwards Worldのデータ項目	対応するJD Edwards EnterpriseOneのデータ項目
COCX	COCH
LNIX	LNID

次の表は、F52161のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCX	COCH	JD Edwards EnterpriseOneのCOCHに、JD Edwards WorldのCOCX値をロードする。
5	行番号	LNIX	LNID	JD Edwards EnterpriseOneのLNIDに、JD Edwards WorldのLNIX値をロードする。LNIXの表示小数点以下桁数を取り込み、JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	契約変更番号 - 相互参照	COCH	COCX	JD Edwards EnterpriseOneのCOCXに、JD Edwards WorldのCOCH値をロードする。
7	行No.-相互参照	LNID	LNIX	JD Edwards EnterpriseOneのLNIXに、JD Edwards WorldのLNID値をロードする。LNIDの表示小数点以下桁数を取り込み、JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
8	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
12	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
17	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3テーブル変換プログラムの実行

契約請求管理とサービス請求管理の両方のシステムで使用されるテーブルのA7.3テーブル変換プログラム、およびサービス請求管理システムのみで使用されるA7.3テーブル変換プログラムは、「World A7.3からEnterpriseOneへの変換」メニュー（G48S321）から実行できます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムのみで使用されるテーブルのA7.3テーブル変換プログラムは、「World A7.3からEnterpriseOneへの変換」メニュー（G52321）から実行できます。

JD Edwards Worldバージョン8.1からの契約/サービス請求管理テーブルのアップグレード

この項では、JD Edwards WorldバージョンA8.1の契約請求管理とサービス請求管理の両方のシステムで必要なテーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4805の変換について

ここでは、請求書順序/集計テーブル見出し（F4805）をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894805B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 7
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 7

次の表は、F4805の変換 – JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	集計キー	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DESC	DESC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 – ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
7	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48051の変換について

ここでは、請求書順序/集計テーブル明細(F48051)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948051B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F48051の変換 – JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	集計キー – サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	データ項目	DTAI	DTAI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	データ項目サイズ	DTAS	DTAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
5	集計コード - サービス請求	SBSC	SBSC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48091の変換について

ここでは、請求管理システム固定情報(F48091)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948091B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 28
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 35

次の表は、F48091の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	制御フラグ3	BCT3	BCT3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	間接費請求フラグ	BBDR	BBDR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	有効日付基準	EBAS	EBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	作業有効日基準	LBAS	LBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	顧客No.基準	CNBS	CNBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	個別請求フラグ	INDI	INDI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	未転記請求フラグ	BUNP	BUNP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	仕訳作成の制御	PRRR	PRRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	請求書集計アクセス・テーブルの制御	ISAC	ISAC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	契約収益フラグ	CNTM	CNTM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	請求日の一時変更許可	INDO	INDO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	仕訳振替の制御	JRNL	JRNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	PDBAコードー時変更	PDBO	PDBO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	請求書番号の制御	ICTL	ICTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	サービス日付基準	DSVB	DSVB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	複数のバッチ生成制御フラグ	MBGC	MBGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
20	データ項目	DTAI	DTAI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	超過禁止処理フラグ	BCT1	BCT1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	制御フラグ2	BCT2	BCT2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
25	間接費ソース		BSOU	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
26	間接費有効日基準		BEDB	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
27	間接レート・タイプ - 原価		BURTC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
28	間接費レート・タイプ - 請求書		BURTI	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
29	間接費レート・タイプ - 収益		BURTR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
30	間接費レート・タイプ - 代替原価		BURTAC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
31	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
35	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48096の変換について

ここでは、請求料金/割増テーブル(F48096)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948096B9
- JD Edwards Worldでのカラム数: 37
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 37

次の表は、F48096の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	終了主科目	OBJT	OBJT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	終了補助科目	SUBT	SUBT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	生成タイプ	GTYP	GTYP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
13	レート-収益一時変更割増レート	BRT	BRT	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
14	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	パーセント値-収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
16	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
17	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	カテゴリ・コード-ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	資産番号	NUMB	NUMB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	カテゴリ・コード-F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	品目価格グループ	PRGR	PRGR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	請求基準フラグ	BBF	BBF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
27	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	制御フラグ1	CTF1	CTF1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	固有キーID(内部)	UKID	UKID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
37	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812の変換について

ここでは、請求明細ワークファイル(F4812)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894812B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 189
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 199

次の表は、F4812の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	仕訳行番号	JELN	JELN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	勘定科目ID	AID	AID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット11	RP11	RP11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	JD Edwards EnterpriseOneコンサルティング - サービス・タイプ	WR07	WR07	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
16	元帳タイプ	LT	LT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	西暦上2桁	CTRY	CTRY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	会計年度	FY	FY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	期間 - 総勘定元帳	PN	PN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	当初の伝票タイプ	ODCT	ODCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	購買オーダー	PO	PO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	カテゴリ・コード - 総勘定元帳2	R002	R002	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
32	カテゴリ・コード - 総勘定元帳3	R003	R003	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	職務タイプ (技能) コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	作業対象設備	EQWO	EQWO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	カテゴリ・コード - F/A 10 (料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	担当BU (ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
48	経過一時変更日付 (ブランク=変更なし)	DAGO	DAGO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
49	経過計算の停止	AGS	AGS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	備考、摘要、名称	EXA	EXA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	間接費フラグ	PCFG	PCFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	基本単位当たり単価	PRIC	PRIC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
54	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
55	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
56	金額	AA	AA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
57	伝票 - 照合 (支払または項目)	DOCM	DOCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
58	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
63	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	順序No.	SBSQ	SBSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	2次順序No.	SCSQ	SCSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	請求制御ID	BCI	BCI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	支払順序No.	PMSQ	PMSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	取引分類	TCLS	TCLS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
78	日付 - 請求書	IVD	IVD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
79	保留コード(サービス請求処理)	HLD	HLD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
81	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	バッチ番号 - 活動状態	ICUA	ICUA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
83	仕訳状況コード - 前の	JRSP	JRSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	間接費保留	BDPN	BDPN	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> Y = 1 変更なしでY以外のすべての値をコピー
85	分割連結	SLNK	SLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
86	追加料金連結	CLNK	CLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	追加料金請求レート・テーブル	CINR	CINR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	テーブル比較基準日	TBDT	TBDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
93	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
95	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
96	金額 - 収益割増	ADCR	ADCR	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
97	キャップまたは一時変更レート - 請求書	CAPI	CAPI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	請求一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
99	パーセント値 - 請求書割増	PCIM	PCIM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
100	金額 - 請求書割増	ADCI	ADCI	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCDFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
101	課税対象	TX	TX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
102	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
103	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
105	割引率(%) - 支払条件	DCP	DCP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
106	金額 - 仕訳税額	JTAX	JTAX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
107	金額 - 仕訳税額 - 外貨	JTXF	JTXF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
108	金額 - 収益	BTOL	BTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
109	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
110	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
111	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
112	金額-外貨合計請求	FTOL	FTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
114	金額-請求金額課税 分	ITXA	ITXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
115	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
116	金額-請求書の割引 可能額	IDSC	IDSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
117	金額-外貨請求書	CITL	CITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
118	金額-外貨請求金額 税額	CITA	CITA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
119	金額-外貨建て請求 書税	CITX	CITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
120	金額-外貨請求金額 割引きあり	CIDS	CIDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
121	請求書仕訳状況コード	IJUST	IJUST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
122	印刷フラグ	PRTF	PRTF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
123	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
124	住所番号-作業売 掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
126	日付-請求書	DI	DI	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
127	伝票(オーダーNo.、 請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
128	伝票タイプ(請求書 のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
131	集計キー-サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
132	複合キー-ブロック	BLKK	BLKK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
133	勘定科目ID	AID5	AID5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
136	勘定科目ID	AID6	AID6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
139	入金時請求規則を一時変更	AREX	AREX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
140	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
141	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
142	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
144	留保-前回-保管資料	RTPS	RTPS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
145	外貨建て留保金額	FRTN	FRTN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
146	ダウンロード・フラグ -サービス請求	DWNL	DWNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
147	コード化区画の変更	CBLC	CBLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
148	日付-取引入力	DEJ	DEJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
149	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
150	通貨コード(ソース)	CRCE	CRCE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
151	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
152	金額	AA2	AA2	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
154	元帳日付-ユリウス暦	DGJ	DGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
155	日付-請求書仕訳日付-ユリウス暦	IDGJ	IDGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
156	入金後支払フラグ	PTFG	PTFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
157	略式品目番号	ITM	ITM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
158	合計原価/価格	PAID	PAID	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
164	親WO(作業オーダー)番号	PARS	PARS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
167	請求基準フラグ	BFF	BBF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
168	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
169	料金基準	FBAS	FBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
171	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ1	TKM1	TKM1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
172	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ2	TKM2	TKM2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
173	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ3	TLM3	TKM3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
174	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル1	TKA1	TKA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
175	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル2	TKA2	TKA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
176	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル3	TKA3	TKA3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
177	相手勘定テーブル・ キー・タイプ	TKG1	TKG1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
178	キー・タイプ - 税決定 基準テーブル	TKT1	TKT1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
179	金額-収益-実績	HBTL	HBTL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
180	金額-請求書-実績	HITL	HITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
181	金額-請求書課税額-実績	HITX	HITX	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFCに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
182	金額-請求書課税額-実績	HTAM	HTAM	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFCに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
183	一次単位当たり価格-外貨	PRIF	PRIF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
184	NTE制御フラグ	NCTL	NCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
185	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
186	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
187	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
190	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
191	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
192	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
193	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
194	遡及調整状況		RAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
195	遡及調整グループ		RAG	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
196	職務プール・グループ・コード		JPGC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
197	金額		AA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
198	外貨建て金額		ACR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
199	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812Hの変換について

ここでは、請求ワークファイル履歴 (F4812H) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894812HB
- JD Edwards Worldでのカラム数: 189
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 199

次の表は、F4812Hの変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	仕訳行番号	JELN	JELN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	勘定科目ID	AID	AID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット11	RP11	RP11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	JD Edwards EnterpriseOneコンサルティング - サービス・タイプ	WR07	WR07	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
16	元帳タイプ	LT	LT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	西暦上2桁	CTRY	CTRY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	会計年度	FY	FY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	期間 - 総勘定元帳	PN	PN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	当初の伝票タイプ	ODCT	ODCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	購買オーダー	PO	PO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	カテゴリ・コード - 総勘定元帳2	R002	R002	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
32	カテゴリ・コード - 総勘定元帳3	R003	R003	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	職務タイプ (技能) コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	作業対象設備	EQWO	EQWO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	カテゴリ・コード - F/A 10 (料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	担当BU (ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
48	経過一時変更日付 (ブランク=変更なし)	DAGO	DAGO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
49	経過計算の停止	AGS	AGS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	備考、摘要、名称	EXA	EXA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	間接費フラグ	PCFG	PCFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	基本単位当たり単価	PRIC	PRIC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
54	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
55	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
56	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
57	伝票 - 照合 (支払または項目)	DOCM	DOCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
58	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
63	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	順序No.	SBSQ	SBSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	2次順序No.	SCSQ	SCSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	請求制御ID	BCI	BCI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	支払順序No.	PMSQ	PMSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	取引分類	TCLS	TCLS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
78	日付 - 請求書	IVD	IVD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
79	保留コード(サービス請求処理)	HLD	HLD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
81	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	バッチ番号 - 活動状態	ICUA	ICUA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
83	仕訳状況コード - 前の	JRSP	JRSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	間接費保留	BDPN	BDPN	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> Y = 1 変更なしでY以外のすべての値をコピー
85	分割連結	SLNK	SLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
86	追加料金連結	CLNK	CLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	追加料金請求レート・テーブル	CINR	CINR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	テーブル比較基準日	TBDT	TBDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
93	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
95	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
96	金額 - 収益割増	ADCR	ADCR	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
97	キャップまたは一時変更レート - 請求書	CAPI	CAPI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	請求一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
99	パーセント値 - 請求書割増	PCIM	PCIM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
100	金額 - 請求書割増	ADCI	ADCI	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
101	課税対象	TX	TX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
102	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
103	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
105	割引率(%) - 支払条件	DCP	DCP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
106	金額 - 仕訳税額	JTAX	JTAX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
107	金額 - 仕訳税額 - 外貨	JTXF	JTXF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
108	金額 - 収益	BTOL	BTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
109	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
110	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
111	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
112	金額-外貨合計請求	FTOL	FTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
114	金額-請求金額課税 分	ITXA	ITXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
115	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
116	金額-請求書の割引 可能額	IDSC	IDSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
117	金額-外貨請求書	CITL	CITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
118	金額-外貨請求金額 税額	CITA	CITA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
119	金額-外貨建て請求 書税	CITX	CITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
120	金額-外貨請求金額 割引きあり	CIDS	CIDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
121	請求書仕訳状況コード	IJST	IJST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
122	印刷フラグ	PRTF	PRTF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
123	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
124	住所番号-作業売 掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
126	日付-請求書	DI	DI	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
127	伝票(オーダーNo.、 請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
128	伝票タイプ(請求書 のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
131	集計キー-サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
132	複合キー-ブロック	BLKK	BLKK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
133	勘定科目ID	AID5	AID5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
136	勘定科目ID	AID6	AID6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
139	入金時請求規則を一時変更	AREX	AREX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
140	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
141	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
142	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
144	留保-前回-保管資料	RTPS	RTPS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
145	外貨建て留保金額	FRTN	FRTN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
146	ダウンロード・フラグ -サービス請求	DWNL	DWNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
147	コード化区画の変更	CBLC	CBLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
148	日付-取引入力	DEJ	DEJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
149	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
150	通貨コード(ソース)	CRCE	CRCE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
151	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
152	金額	AA2	AA2	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
154	元帳日付-ユリウス暦	DGJ	DGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
155	日付-請求書仕訳日付-ユリウス暦	IDGJ	IDGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
156	入金後支払フラグ	PTFG	PTFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
157	略式品目番号	ITM	ITM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
158	合計原価/価格	PAID	PAID	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
164	親WO(作業オーダー)番号	PARS	PARS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
167	請求基準フラグ	BBF	BBF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
168	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
169	料金基準	FBAS	FBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
171	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ1	TKM1	TKM1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
172	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ2	TKM2	TKM2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
173	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ3	TKM3	TKM3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
174	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル1	TKA1	TKA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
175	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル2	TKA2	TKA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
176	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル3	TKA3	TKA3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
177	相手勘定テーブル・ キー・タイプ	TKG1	TKG1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
178	キー・タイプ - 税決定 基準テーブル	TKT1	TKT1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
179	金額-収益-実績	HBTL	HBTL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
180	金額-請求書-実績	HITL	HITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
181	金額-請求書課税額-実績	HITX	HITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
182	金額-請求書課税額-実績	HTAM	HTAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
183	一次単位当たり価格-外貨	PRIF	PRIF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
184	NTE制御フラグ	NCTL	NCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
185	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
186	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
187	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
190	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
191	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
192	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
193	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
194	遡及調整状況		RAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
195	遡及調整グループ		RAG	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
196	職務プール・グループ・コード		JPGC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
197	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
198	金額		AA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
199	外貨建て金額		ACR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4822の変換について

ここでは、請求書集計ワークファイル(F4822)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894822B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 99
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 104

次の表は、F4822の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	契約申込No.	APPL	APPL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	調整番号	ADJN	ADJN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
11	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	価格設定タイプ-契約	PRTP	PRTP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	請求一時停止	BLSP	BLSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	住所番号 - 作業売掛金	AN8O	AN8O	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	代替受取人住所番号	AN8J	AN8J	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	支払条件コード	PTC	PTC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
17	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	請求期間開始日	BTFR	BTFR	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
23	最新請求日付	BTDT	BTDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
24	日付 - 元帳(および伝票)	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
25	日付 - 期日	DDJ	DDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
26	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
27	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	申請日付	APDT	APDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
33	アプリケーション転記コード	APPO	APPO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
34	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	請求書タイプ	INTY	INTY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
38	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	金額-単価	UP	UP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
40	単価(外貨)	FUP	FUP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
41	前回請求数量-当期	PUHP	PUHP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
42	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
43	金額通貨	ACR	ACR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
44	現行期間	THPD	THPD	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
45	現行期間-外貨	FHPD	FHPD	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
46	現行期間-再計算	RTHP	RTHP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
47	以前請求済期間	PTHP	PTHP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
48	当期の前の請求額-外貨	FTHP	FTHP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
49	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	税額	STAM	STAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
52	税額(外貨)	CTAM	CTAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
53	金額-税-前回	PTAM	PTAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
54	金額-税-前回-外貨	FPTA	FPTA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
55	課税対象額	ATXA	ATXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
56	課税対象額(外貨)	CTXA	CTXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
57	金額-課税対象-以前	PATX	PATX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
58	金額-課税対象-以前の外国税	FATX	FATX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
59	非課税金額	ATXN	ATXN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
60	非課税額(外貨)	CTXN	CTXN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
61	未収金額のリリースのみ	RTRE	RTRE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
64	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	留保金税計算	RCTL	RCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	留保金	RTNG	RTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
67	留保-外貨	FTNG	FTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
68	留保-前回	RTNP	RTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
69	留保-前回-外貨	FTNP	FTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
70	繰延税金-国内	DDTR	DDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
71	繰延税金-外貨	FDTR	FDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
72	未払/繰延(保管資材)	STML	STML	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
73	未払/繰延(保管資材)-外国	FTML	FTML	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
74	事前請求済保管資材	PSMA	PSMA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
75	事前請求済保管資材-外貨	FSMA	FSMA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
76	留保金規則-保管された資材	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
77	保管資材留保	SMRT	SMRT	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
78	保管資材留保-外貨	SMRF	SMRF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
79	保管資材留保-前回金額	SMRP	SMRP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
80	保管資材留保-前回	SMPF	SMPF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
81	合計労務金額	TLAB	TLAB	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
82	外貨合計労務金額	FLAB	FLAB	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
83	金額-合計間接費	TBUR	TBUR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
84	金額-外貨合計間接費	FBUR	FBUR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
85	割引可能額	ADSC	ADSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
86	割引可能額(外貨)	CDS	CDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
87	多通貨モード-外貨/国内通貨	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	備考	RMK	RMK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
93	入力モード-値	MIVL	MIVL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
94	入力モード-SM	MISM	MISM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
95	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
96	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
97	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
99	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
100	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
101	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
102	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
103	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
104	入金後支払		PYWP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48520の変換について

ここでは、請求集計アクセス (F48520) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948520B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 23
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 23

次の表は、F48520の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
2	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
3	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	オーダー会社	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	行番号	LNID	LNID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	請求書金額	ITOL	ITOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
15	金額-請求金額課税分	ITXA	ITXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
16	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
17	金額-請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
18	金額-外貨請求書	CITL	CITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
19	金額-外貨請求金額税額	CITA	CITA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
20	金額-外貨建て請求書税	CITX	CITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
21	金額-外貨請求金額割引あり	CIDS	CIDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
22	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
23	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4860の変換について

ここでは、追加料金テーブル・マスター (F4860) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894860B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F4860の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4861の変換について

ここでは、追加料金テーブル明細 (F4861) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894861B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 13
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 13

次の表は、F4861の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
3	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	順序No.	SEQ	SEQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	追加料金パーセント	CRTP	CRTP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	追加料金レート基準	UORC	UORC	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 • C = 1 • U = 2
12	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	固有キーID	UKD	UKID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4862の変換について

ここでは、追加料金相互参照(F4862)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894862B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 5
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 5

次の表は、F4862の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	基準追加料金	CBSS	CBSS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード

この項では、サービス請求管理システムでのみ必要なJD Edwards WorldバージョンA8.1テーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48127の変換について

ここでは、税決定情報(F48127)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948127B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 18
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 20

次の表は、F48127の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	生成タイプ	GTYP	GTYP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
6	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
7	終了主科目	OBJT	OBJT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	終了補助科目	SUBT	SUBT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	固有キーID (内部)	UKID	UKID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
15	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
20	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48128の変換について

ここでは、相手勘定/留保金情報 (F48128) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948128B

- JD Edwards Worldでのカラム数: 13
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 13

次の表は、F48128の変換 – JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	支払条件	TRAR	TRAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	留保金税計算	RCTL	RCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	モード(F)	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 – ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48221の変換について

ここでは、サービス請求管理留保金のリリース相互参照ファイル(F48221)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948221B

重要: 請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)を変換してから、サービス請求管理留保金のリリース相互参照ファイル・テーブル(F48221)を変換する必要があります。

- JD Edwards Worldでのカラム数: 19
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 19

次の表は、F48221の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	住所番号 - 作業売掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	伝票支払項目-照合(支払/項目)	SFXM	SFXM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
11	留保-前回	RTNP	RTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
12	留保-前回-外貨	FTNP	FTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
13	繰延税金-国内	DDTR	DDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
14	繰延税金-外貨	FDTR	FDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
15	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	ワークステーションID	JOB	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
18	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
19	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

注意: 通貨がオンになっている場合、RTNP、FTNP、DDTRおよびFDTRのフィールドは、国内通貨または外貨のいずれかに関連付けられている表示小数点以下桁数を使用して変換します。CRCDおよびCRCFがこのテーブルに格納されていないため、この情報は、F4822テーブル内の関連するレコードから取り込む必要があります。F4822テーブル内の固有のレコードには、F4821テーブルの次のフィールドを使用してアクセスします。

DOCZ

DCTI

KCOI

SFX

JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード

この項では、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムでのみ必要なJD Edwards WorldバージョンA8.1テーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5201の変換について

この項では、契約マスター(F5201)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5201のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換(R895201B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 80
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 80

次の表は、F5201のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	記述02	DL02	DL02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	記述03	DL03	DL03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	所有者契約No.	ODCM	ODCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	所有者契約No.(短縮)	OCNC	OCNC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	住所番号-作業売掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	契約請求書最小金額-外貨	MCIF	MCIF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
14	金額超過禁止-外国	NTEF	NTEF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
15	留保金税計算	RCTL	RCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	請求書送付先住所番号	ANOB	ANOB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	建築士の契約No.	ADCM	ADCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
18	住所番号 - 建築士	AN8K	AN8K	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	住所番号3 - ユーザー	USA3	USA3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	住所番号 - 送金先	USA4	USA4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	住所番号1 - ユーザー	USA1	USA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	住所番号2 - ユーザー	USA2	USA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	住所番号 - 送付先	USA5	USA5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	契約状況	DS	DS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	契約タイプ	CT	CT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	担当BU(ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	留保金規則-保管された資材	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
35	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	税率/税域	TAX1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	AIA請求書フォーム (Y/N)	AIAB	AIAB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	契約一時変更規則	CTOV	CTOV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	支払条件コード	PTC	PTC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	支払後に請求	BLWP	BLWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	入金後支払	PYWP	PYWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	間接費一時変更規則	BROV	BROV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	報酬集計レベル	FSLV	FSLV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	通貨コード-当初	CRCF	CROF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
47	多通貨モード-外貨/国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
48	超過禁止金額	NTEX	NTEX	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
49	超過禁止金額-再計算	RNTE	RNTE	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
50	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	限界外フラグ	LMEX	LMEX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	最低契約請求書金額	MCIA	MCIA	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
53	契約開始日付	CSDT	CSDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
54	契約完了日付	CDTE	CDTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
55	ユーザー日付1	USD1	USD1	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
56	ユーザー日付2	USD2	USD2	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
57	ユーザー日付3	USD3	USD3	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
58	ユーザー日付4	USD4	USD4	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
59	契約カテゴリ・コード1	AI01	AI01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	契約カテゴリ・コード2	AI02	AI02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約カテゴリ・コード3	AI03	AI03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	契約カテゴリ・コード4	AI04	AI04	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	契約カテゴリ・コード5	AI05	AI05	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	契約カテゴリ・コード11	AI11	AI11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	契約カテゴリ・コード12	AI12	AI12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
66	契約カテゴリ・コード13	AI13	AI13	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	契約カテゴリ・コード14	AI14	AI14	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	契約カテゴリ・コード15	AI15	AI15	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	為替レート	CRR	CRR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
70	通貨換算レート - 除数	CRRD	CRRD	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
71	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	出来高請求相互参照フラグ	CTF3	CTF3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	制御フラグ4	CTF4	CTF4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	制御フラグ5	CTF5	CTF5	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 ブランク=ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
75	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
78	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
79	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
80	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5202の変換について

この項では、契約請求行詳細テーブル (F5202) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5202のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R895202B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 83
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 85

次の表は、F5202のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
8	日付 - 計画開始	SD1	SD1	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
9	日付 - 完了予定	SD3	SD3	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	変更日付	CHD	CHD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
11	金額以外の変更	TRMO	TRMO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	変更状況	CHST	CHST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	留保金規則-保管された資料	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	留保金規則-変更オーダー	RTNC	RTNC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	価格設定タイプ-契約	PRTP	PRTP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
25	予定値	SCOF	SCOF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
26	予定金額(外貨)	FSOF	FSOF	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
27	予定値-再計算	RSOF	RSOF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
28	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
29	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	金額-単価	UP	UP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
31	単価(外貨)	FUP	FUP	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
32	金額-再計算単価	RUP	RUP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
33	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	税額	STAM	STAM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
36	非課税金額	ATXN	ATXN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
37	課税対象額	ATXA	ATXA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
38	超過禁止金額	NTEX	NTEX	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
39	金額超過禁止-外国	FNTE	FNTE	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
40	超過禁止金額-再計算	RNTE	RNTE	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
41	超過禁止金額-変更オーダー	NTEC	NTEC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
42	超過禁止-変更オーダー金額-外貨	FNTO	FNTO	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
43	超過禁止-変更オーダー金額-再計算	RNTO	RNTO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
44	超過禁止単位数	NTEU	NTEU	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
45	定期請求コード	RRBC	RRBC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	定期請求金額	RRBA	RRBA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
47	定期請求金額-外国	FRBA	FRBA	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
48	定期請求金額-再計算	RRRA	RRRA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
49	超過禁止規則からの免除	EXMP	EXMP	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。値は次のとおり。 ブランク=ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
50	代替順序コード	ALSQ	ALSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	請求一時停止	BLSP	BLSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	支払後に請求	BLWP	BLWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	入金後支払	PYWP	PYWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
54	現行請求方式	MCBL	MCBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
55	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
56	料金基準	FBAS	FBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
57	収益金額基準		RFBS	JD Edwards Worldにこのフィールドが存在しない。デフォルト値1を使用してJD Edwards EnterpriseOneテーブルをロードする。
58	レート・コード	RACD	RACD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	積上げ数量	ROLU	ROLU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
60	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	勘定科目一時変更フラグ	ACCO	ACCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	変更オーダー・カテゴリ・コード1	AD01	AD01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	変更オーダー・カテゴリ・コード2	AD02	AD02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	契約カテゴリ・コード3	AD03	AD03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	契約カテゴリ・コード4	AD04	AD04	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	契約カテゴリ・コード5	AD05	AD05	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	制御フラグ1	CTF1	CTF1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	出来高請求相互参照フラグ	CTF3	CTF3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	制御フラグ4	CTF4	CTF4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
71	制御フラグ5	CTF5	CTF5	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。値は次のとおり。 ブランク=ブランク Y=1 N=2 L=3 M=4 O=5
72	備考	RMK	RMK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
73	参照タグ	TAG	TAG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	為替レート	CRR	CRR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
75	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
78	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ		CRRM	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
	再計算基準フラグ	RSBF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
79	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
80	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
81	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
83	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexを使用できなかった。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
85	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexを使用できなかった。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5204の変換について

この項では、留保金規則情報テーブル (F5204) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895204A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F5204のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
4	完了率	PC	PC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5212の変換について

この項では、T&M、単価、合計相互参照勘定科目テーブル(F5212)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895212A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 25
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 29

次の表は、F5212のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	請求基準フラグ		BBF	データ辞書のデフォルト値1を使用してロードする。
22	略式品目番号		ITM	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
23	品目価格グループ		PRGR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
24	顧客価格グループ		CPGP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
25	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
28	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
29	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5213の変換について

この項では、手数料請求行相互参照詳細テーブル (F5213) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895213A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 11
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 14

重要: テーブルF5213を変換する前に、契約請求行詳細テーブル (F5202) を変換する必要があります。

次の表は、F5213のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
	記述	DL01		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
	価格設定タイプ	PRTP		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
	予定値	SCOF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
8	相互参照契約変更番号	RCOC	RCOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	行No.-相互参照		LNIX	関連するF5202レコードの行番号 (LNID)。この情報はJD Edwards Worldに保存されていない。このリファレンス表の後の「注意」を参照。
10	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R895213A」と入力する。
11	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のUserName。
12	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のWorkstation_UserID。
13	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
14	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

注意: JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルのLNIX値には、関連するF5202レコードの行番号(LNID)を含める必要があります。この行番号はJD Edwards Worldファイルに保存されていませんが、JD Edwards Worldファイルには十分なキー情報が存在するため、行番号をJD Edwards World F5202ファイルから取得できます。JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルの次のフィールドを使用して、固有のJD Edwards World F5202レコードがアクセスされます。

DOCO

DCTO

KCOO

COCH

OPIM

JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルのLNIXフィールドは、これらのキー・フィールドで検索されるJD Edwards World F5202レコードのLNIDフィールドを使用して自動入力されます。

F5213を変換する前に、F5202テーブルをJD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneに変換すると、LNIXはF5202テーブルのJD Edwards EnterpriseOneバージョンから取り込まれます。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52131の変換について

この項では、レート・コード定義情報テーブル(F52131)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8952131A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 6
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 11

次の表は、F52131のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	レート・コード	RACD	RACD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始日付	DTFR	DTFR	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	終了日付	DTTO	DTTO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
6	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R8952131A」と入力する。
8	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のUserName。
9	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のWorkstation_UserID。
10	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
11	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5214の変換について

この項では、追加料金コード/間接費相互参照テーブル(F5214)をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895214A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 7
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 14

次の表は、F5214のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	DBAコード		PDBA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
9	税タイプ		PTAX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
10	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のUserName。
11	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のWorkstation_UserID。
12	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R895214A」と入力する。
13	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
14	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5215の変換について

この項では、追加料金/間接費請求行相互参照詳細テーブル (F5215) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895215A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 13
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 16

次の表は、F5215のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	行番号	LIN		データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルのLINXフィールドに書き込む。
7	相互参照契約変更		RCOC	このフィールドにはJD Edwards WorldのCOCH値が自動入力される。
8	行No.相互参照		LNIX	このフィールドにはJD Edwards WorldのLIN値が自動入力される。JD Edwards WorldのLIN値にデータ辞書小数点以下桁数換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
9	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	DBAコード		PDBA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
11	税タイプ		PTAX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
12	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
14	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
16	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5216の変換について

この項では、マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R895216A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 25
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 33

重要: テーブルF5216を変換する前に、契約請求行詳細テーブル (F5202) を変換する必要があります。

次の表は、F5216のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	請求イベント	EVNT	EVNT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
7	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	完了率	PC		データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、その結果をJD Edwards EnterpriseOneテーブルのPERSフィールドに挿入する。
8	2次記述	SDSC	SDSC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	パーセント/金額		APER	JD Edwards Worldではパーセントのみがサポートされていた。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」（パーセント）と入力する。
10	パーセント-予定値		PERS	JD Edwards WorldファイルのPC値を使用してこのフィールドをロードする。JD Edwards WorldのPCフィールドは、データ辞書の表示小数点以下桁数に基づいて調整されている必要がある。
11	金額(マイルストーン金額)		AA	マイルストーン請求行の場合、このフィールドはパーセント-予定値(PERS)にF5202テーブルの予定値(SCOF)金額を掛けて算出される。進捗請求行の場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。「注意」を参照。
12	金額(外貨建てマイルストーン金額)		AA2	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
13	通貨コード(開始)		CRCD	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
14	通貨コード-当初		CRCF	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。
15	通貨換算レート-除数		CRRD	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
16	多通貨モード-外貨/国内通貨エントリ		CRRM	A7.3では、外貨金額はサポートされない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをblankにする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
17	フラグ-事象完了	CMFL	CMFL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	フラグ-請求済事象	BILF	BILF	JD Edwards WorldのYをJD Edwards EnterpriseOneの1に変更して、JD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	日付-完了予定(ユリウス暦)	DECO	DECO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
20	完了日付(ユリウス暦)	DTCO	DTCO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
21	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	収益バッチ番号		ICUJ	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
27	順序No.	SEQ	SEQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
28	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
32	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

注意: 進捗行相互参照レコードとマイルストーン行相互参照レコードの両方が、F5216テーブルに保存されています。ただし、AAフィールドはマイルストーン・レコードに関してのみ自動入力されます。関連するF5202レコードが取得され、F5216レコードが進捗またはマイルストーン請求行のいずれであるかが判別されます。関連するF5202レコードへのアクセスには、F5216テーブルの次のフィールドが使用されます。

DOCO

DCTO

KCOO

COCH

LNID

関連するF5202レコードにMまたは6の請求行タイプ (PRTP) がある場合、請求行はマイルストーン行であり、F5216テーブルのAAフィールドには値が必ず入力されます。AA金額は、パーセント-予定値 (PERS) にF5202テーブル内の関連するレコードからの予定値 (SCOF) を掛けて算出されます。

関連するF5202レコードにMまたは6以外の請求行タイプがある場合、請求行は進捗行であり、AAフィールドおよびAA2フィールドに0 (ゼロ) が入力されます。

F5216を変換する前に、F5202テーブルをJD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneに変換する必要があります。これにより、JD Edwards EnterpriseOneのバージョンのF5202テーブルから予定値 (SCOF) を取り込むことができるようになります。

A7.3からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52161の変換について

この項では、マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細テーブル (F52161) をJD Edwards World A7.3からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8952161A
- JD Edwards World A7.3でのカラム数: 17
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 17

F52161テーブルへの情報の格納方法は、JD Edwards WorldとJD Edwards EnterpriseOneでは異なります。次の表に示すように、JD Edwards Worldの特定のデータ項目は、JD Edwards EnterpriseOneの対応するデータ項目に変換されます。

JD Edwards Worldのデータ項目	対応するJD Edwards EnterpriseOneのデータ項目
COCH	COCX
LNID	LNIX

JD Edwards Worldのデータ項目	対応するJD Edwards EnterpriseOneのデータ項目
COCX	COCH
LNIX	LNID

次の表は、F52161のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCX	COCH	JD Edwards EnterpriseOneのCOCHに、JD Edwards WorldのCOCX値をロードする。
5	行番号	LNIX	LNID	JD Edwards EnterpriseOneのLNIDに、JD Edwards WorldのLNIX値をロードする。LNIXの表示小数点以下桁数を取り込み、JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	契約変更番号 - 相互参照	COCH	COCX	JD Edwards EnterpriseOneのCOCXに、JD Edwards WorldのCOCH値をロードする。
7	行No.-相互参照	LNID	LNIX	JD Edwards EnterpriseOneのLNIXに、JD Edwards WorldのLNID値をロードする。LNIDの表示小数点以下桁数を取り込み、JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
8	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
12	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
17	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A7.3テーブル変換プログラムの実行

契約請求管理とサービス請求管理の両方のシステムで使用されるテーブルのA7.3テーブル変換プログラム、およびサービス請求管理システムのみで使用されるA7.3テーブル変換プログラムは、「World A7.3からEnterpriseOneへの変換」メニュー（G48S321）から実行できます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムのみで使用されるテーブルのA7.3テーブル変換プログラムは、「World A7.3からEnterpriseOneへの変換」メニュー（G52321）から実行できます。

JD Edwards Worldバージョン8.1からの契約/サービス請求管理テーブルのアップグレード

この項では、JD Edwards WorldバージョンA8.1の契約請求管理とサービス請求管理の両方のシステムで必要なテーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4805の変換について

ここでは、請求書順序/集計テーブル見出し（F4805）をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894805B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 7
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 7

次の表は、F4805の変換 – JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	集計キー	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DESC	DESC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 – ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
7	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48051の変換について

ここでは、請求書順序/集計テーブル明細(F48051)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948051B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F48051の変換 – JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	集計キー – サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	データ項目	DTAI	DTAI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	データ項目サイズ	DTAS	DTAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
5	集計コード - サービス請求	SBSC	SBSC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48091の変換について

ここでは、請求管理システム固定情報(F48091)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948091B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 28
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 35

次の表は、F48091の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	制御フラグ3	BCT3	BCT3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	間接費請求フラグ	BBDR	BBDR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	有効日付基準	EBAS	EBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	作業有効日基準	LBAS	LBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	顧客No.基準	CNBS	CNBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	個別請求フラグ	INDI	INDI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	未転記請求フラグ	BUNP	BUNP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	仕訳作成の制御	PRRR	PRRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	請求書集計アクセス・テーブルの制御	ISAC	ISAC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	契約収益フラグ	CNTM	CNTM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	請求日の一時変更許可	INDO	INDO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	仕訳振替の制御	JRNL	JRNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	PDBAコード一時変更	PDBO	PDBO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	請求書番号の制御	ICTL	ICTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	サービス日付基準	DSVB	DSVB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	複数のバッチ生成制御フラグ	MBGC	MBGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
20	データ項目	DTAI	DTAI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	超過禁止処理フラグ	BCT1	BCT1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	制御フラグ2	BCT2	BCT2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
25	間接費ソース		BSOU	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
26	間接費有効日基準		BEDB	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
27	間接レート・タイプ - 原価		BURTC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
28	間接費レート・タイプ - 請求書		BURTI	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
29	間接費レート・タイプ - 収益		BURTR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
30	間接費レート・タイプ - 代替原価		BURTAC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
31	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
35	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48096の変換について

ここでは、請求料金/割増テーブル(F48096)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948096B9
- JD Edwards Worldでのカラム数: 37
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 37

次の表は、F48096の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	終了主科目	OBJT	OBJT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	終了補助科目	SUBT	SUBT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	生成タイプ	GTYP	GTYP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
13	レート - 収益一時変更割増レート	BRT	BRT	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
14	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
16	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
17	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	資産番号	NUMB	NUMB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	品目価格グループ	PRGR	PRGR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	請求基準フラグ	BBF	BBF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
27	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	制御フラグ1	CTF1	CTF1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	固有キーID(内部)	UKID	UKID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
37	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812の変換について

ここでは、請求明細ワークファイル(F4812)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894812B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 189
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 199

次の表は、F4812の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	仕訳行番号	JELN	JELN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	勘定科目ID	AID	AID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット11	RP11	RP11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	JD Edwards EnterpriseOneコンサルティング - サービス・タイプ	WR07	WR07	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
16	元帳タイプ	LT	LT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	西暦上2桁	CTRY	CTRY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	会計年度	FY	FY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	期間 - 総勘定元帳	PN	PN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	当初の伝票タイプ	ODCT	ODCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	購買オーダー	PO	PO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	カテゴリ・コード - 総勘定元帳2	R002	R002	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
32	カテゴリ・コード - 総勘定元帳3	R003	R003	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	職務タイプ (技能) コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	作業対象設備	EQWO	EQWO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	カテゴリ・コード - F/A 10 (料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	担当BU (ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
48	経過一時変更日付 (ブランク=変更なし)	DAGO	DAGO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
49	経過計算の停止	AGS	AGS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	備考、摘要、名称	EXA	EXA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	間接費フラグ	PCFG	PCFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	基本単位当たり単価	PRIC	PRIC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
54	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
55	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
56	金額	AA	AA	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
57	伝票 - 照合 (支払または項目)	DOCM	DOCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
58	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
63	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	順序No.	SBSQ	SBSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	2次順序No.	SCSQ	SCSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	請求制御ID	BCI	BCI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	支払順序No.	PMSQ	PMSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	取引分類	TCLS	TCLS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
78	日付 - 請求書	IVD	IVD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
79	保留コード(サービス請求処理)	HLD	HLD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
81	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	バッチ番号 - 活動状態	ICUA	ICUA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
83	仕訳状況コード - 前の	JRSP	JRSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	間接費保留	BDPN	BDPN	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> Y = 1 変更なしでY以外のすべての値をコピー
85	分割連結	SLNK	SLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
86	追加料金連結	CLNK	CLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	追加料金請求レート・テーブル	CINR	CINR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	テーブル比較基準日	TBDT	TBDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
93	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
95	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
96	金額 - 収益割増	ADCR	ADCR	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
97	キャップまたは一時変更レート - 請求書	CAPI	CAPI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	請求一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
99	パーセント値 - 請求書割増	PCIM	PCIM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
100	金額 - 請求書割増	ADCI	ADCI	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
101	課税対象	TX	TX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
102	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
103	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
105	割引率(%) - 支払条件	DCP	DCP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
106	金額 - 仕訳税額	JTAX	JTAX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
107	金額 - 仕訳税額 - 外貨	JTXF	JTXF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
108	金額 - 収益	BTOL	BTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
109	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
110	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
111	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
112	金額-外貨合計請求	FTOL	FTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
114	金額-請求金額課税 分	ITXA	ITXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
115	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
116	金額-請求書の割引 可能額	IDSC	IDSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
117	金額-外貨請求書	CITL	CITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
118	金額-外貨請求金額 税額	CITA	CITA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
119	金額-外貨建て請求 書税	CITX	CITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
120	金額-外貨請求金額 割引あり	CIDS	CIDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
121	請求書仕訳状況コード	IJUST	IJUST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
122	印刷フラグ	PRTF	PRTF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
123	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
124	住所番号-作業売 掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
126	日付-請求書	DI	DI	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
127	伝票(オーダーNo.、 請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
128	伝票タイプ(請求書 のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
131	集計キー-サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
132	複合キー-ブロック	BLKK	BLKK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
133	勘定科目ID	AID5	AID5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
136	勘定科目ID	AID6	AID6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
139	入金時請求規則を一時変更	AREX	AREX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
140	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
141	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
142	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
144	留保-前回-保管資料	RTPS	RTPS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
145	外貨建て留保金額	FRTN	FRTN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
146	ダウンロード・フラグ -サービス請求	DWNL	DWNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
147	コード化区画の変更	CBLC	CBLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
148	日付-取引入力	DEJ	DEJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
149	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
150	通貨コード(ソース)	CRCE	CRCE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
151	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
152	金額	AA2	AA2	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
154	元帳日付-ユリウス暦	DGJ	DGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
155	日付-請求書仕訳日付-ユリウス暦	IDGJ	IDGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
156	入金後支払フラグ	PTFG	PTFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
157	略式品目番号	ITM	ITM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
158	合計原価/価格	PAID	PAID	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
164	親WO(作業オーダー)番号	PARS	PARS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
167	請求基準フラグ	BFF	BBF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
168	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
169	料金基準	FBAS	FBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
171	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ1	TKM1	TKM1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
172	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ2	TKM2	TKM2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
173	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ3	TLM3	TKM3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
174	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル1	TKA1	TKA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
175	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル2	TKA2	TKA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
176	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル3	TKA3	TKA3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
177	相手勘定テーブル・ キー・タイプ	TKG1	TKG1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
178	キー・タイプ - 税決定 基準テーブル	TKT1	TKT1	JD Edwards EnterpriseOneテーブルではカラムにデータが取り込まれない。
179	金額-収益-実績	HBTL	HBTL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDIに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFIに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
180	金額-請求書-実績	HITL	HITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDIに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFIに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
181	金額-請求書課税額-実績	HITX	HITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
182	金額-請求書課税額-実績	HTAM	HTAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
183	一次単位当たり価格-外貨	PRIF	PRIF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
184	NTE制御フラグ	NCTL	NCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
185	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
186	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
187	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A7.3のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
190	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
191	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
192	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
193	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
194	遡及調整状況		RAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
195	遡及調整グループ		RAG	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
196	職務プール・グループ・コード		JPGC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
197	金額		AA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
198	外貨建て金額		ACR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
199	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4812Hの変換について

ここでは、請求ワークファイル履歴 (F4812H) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894812HB
- JD Edwards Worldでのカラム数: 189
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 199

次の表は、F4812Hの変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	仕訳行番号	JELN	JELN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	勘定科目ID	AID	AID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	カテゴリ・コード - ビジネスユニット11	RP11	RP11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	作業順序番号	OPSQ	OPSQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
14	カテゴリ - 作業オーダー01	WR01	WR01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	JD Edwards EnterpriseOneコンサルティング - サービス・タイプ	WR07	WR07	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
16	元帳タイプ	LT	LT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	西暦上2桁	CTRY	CTRY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	会計年度	FY	FY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	期間 - 総勘定元帳	PN	PN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	当初の伝票タイプ	ODCT	ODCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	当初伝票支払項目	OSFX	OSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	当初伝票	ODOC	ODOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	伝票会社(当初オーダー)	OKCO	OKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	購買オーダー	PO	PO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	伝票タイプ - 購買オーダー	PDCT	PDCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	伝票会社(購買オーダー)	PKCO	PKCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	購買オーダー・サフィックス	PSFX	PSFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	当初行番号	OGNO	OGNO	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
30	カテゴリ・コード - 総勘定元帳1	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	カテゴリ・コード - 総勘定元帳2	R002	R002	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
32	カテゴリ・コード - 総勘定元帳3	R003	R003	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	トランザクション番号 - 給与計算	PRTR	PRTR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	職務タイプ (技能) コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	税タイプ	PTAX	PTAX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	作業対象設備	EQWO	EQWO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	カテゴリ・コード - F/A 10 (料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	設備料金コード	ERC	ERC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	担当BU (ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
47	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
48	経過一時変更日付 (ブランク=変更なし)	DAGO	DAGO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
49	経過計算の停止	AGS	AGS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	備考、摘要、名称	EXA	EXA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	摘要	EXR	EXR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	間接費フラグ	PCFG	PCFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	基本単位当たり単価	PRIC	PRIC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
54	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
55	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
56	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
57	伝票 - 照合 (支払または項目)	DOCM	DOCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
58	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
63	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	親順序番号	PRSQ	PRSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	順序No.	SBSQ	SBSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	2次順序No.	SCSQ	SCSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	請求制御ID	BCI	BCI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
71	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	支払順序No.	PMSQ	PMSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	収益計上フラグ	LSPM	LSPM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	取引分類	TCLS	TCLS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
75	適格性コード	ELGC	ELGC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	仕訳状況コード	JRST	JRST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
78	日付 - 請求書	IVD	IVD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
79	保留コード(サービス請求処理)	HLD	HLD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
80	リリース日付(ユリウス暦)	RDJ	RDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
81	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	バッチ番号 - 活動状態	ICUA	ICUA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
83	仕訳状況コード - 前の	JRSP	JRSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	間接費保留	BDPN	BDPN	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> Y = 1 変更なしでY以外のすべての値をコピー
85	分割連結	SLNK	SLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
86	追加料金連結	CLNK	CLNK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
87	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	追加料金原価レート	CCR	CCR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	追加料金請求レート・テーブル	CINR	CINR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	追加料金収益レート	CRVR	CRVR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	調整理由コード	SBAR	SBAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	テーブル比較基準日	TBDT	TBDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
93	キャップまたは一時変更レート	CAP	CAP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
94	収益一時変更割増レート	BRT	BRT	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
95	パーセント値 - 収益割増	PERT	PERT	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
96	金額 - 収益割増	ADCR	ADCR	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
97	キャップまたは一時変更レート - 請求書	CAPI	CAPI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	請求一時変更割増レート	BRTI	BRTI	<p>リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。</p> <p>CRRMの値がDの場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p> <p>CRRMの値がFの場合は、CRCFFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。</p>
99	パーセント値 - 請求書割増	PCIM	PCIM	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
100	金額 - 請求書割増	ADCI	ADCI	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCDFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
101	課税対象	TX	TX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
102	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
103	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
104	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
105	割引率(%) - 支払条件	DCP	DCP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
106	金額 - 仕訳税額	JTAX	JTAX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
107	金額 - 仕訳税額 - 外貨	JTXF	JTXF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
108	金額 - 収益	BTOL	BTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDCに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
109	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
110	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
111	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
112	金額-外貨合計請求	FTOL	FTOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
113	請求書金額	ITOL	ITOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
114	金額-請求金額課税 分	ITXA	ITXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
115	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
116	金額-請求書の割引 可能額	IDSC	IDSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
117	金額-外貨請求書	CITL	CITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
118	金額-外貨請求金額 税額	CITA	CITA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
119	金額-外貨建て請求 書税	CITX	CITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
120	金額-外貨請求金額 割引あり	CIDS	CIDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
121	請求書仕訳状況コード	IJUST	IJUST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
122	印刷フラグ	PRTF	PRTF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
123	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
124	住所番号-作業売 掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
125	仕入先請求書番号	VINV	VINV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
126	日付-請求書	DI	DI	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
127	伝票(オーダーNo.、 請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
128	伝票タイプ(請求書 のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
129	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
130	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
131	集計キー-サービス請求	SBSK	SBSK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
132	複合キー-ブロック	BLKK	BLKK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
133	勘定科目ID	AID5	AID5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
134	補助元帳	SBL5	SBL5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
135	補助元帳タイプ	SBT5	SBT5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
136	勘定科目ID	AID6	AID6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
137	補助元帳	SBL6	SBL6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
138	補助元帳タイプ	SBT6	SBT6	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
139	入金時請求規則を一時変更	AREX	AREX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
140	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
141	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
142	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
143	留保金	RTNG	RTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
144	留保-前回-保管資料	RTPS	RTPS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
145	外貨建て留保金額	FRTN	FRTN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
146	ダウンロード・フラグ -サービス請求	DWNL	DWNL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
147	コード化区画の変更	CBLC	CBLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
148	日付-取引入力	DEJ	DEJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
149	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
150	通貨コード(ソース)	CRCE	CRCE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
151	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
152	金額	AA2	AA2	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
153	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
154	元帳日付-ユリウス暦	DGJ	DGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
155	日付-請求書仕訳日付-ユリウス暦	IDGJ	IDGJ	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
156	入金後支払フラグ	PTFG	PTFG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
157	略式品目番号	ITM	ITM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
158	合計原価/価格	PAID	PAID	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
159	合計価格(外貨)	FEA	FEA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
160	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
161	為替レート日付	ERDT	ERDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
162	代替補助科目	SUBA	SUBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
163	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
164	親WO(作業オーダー)番号	PARS	PARS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
165	品目価格グループ	PRGR	PRGR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
166	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
167	請求基準フラグ	BBF	BBF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
168	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
169	料金基準	FBAS	FBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
170	収益金額基準	RFBS	RFBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
171	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ1	TKM1	TKM1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
172	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ2	TKM2	TKM2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
173	キー・タイプ - 割増 テーブル・タイプ3	TKM3	TKM3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
174	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル1	TKA1	TKA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
175	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル2	TKA2	TKA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
176	キー・タイプ - 勘定 科目基準決定テーブル3	TKA3	TKA3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
177	相手勘定テーブル・ キー・タイプ	TKG1	TKG1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
178	キー・タイプ - 税決定 基準テーブル	TKT1	TKT1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
179	金額-収益-実績	HBTL	HBTL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDIに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
180	金額-請求書-実績	HITL	HITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDIに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
181	金額-請求書課税額-実績	HITX	HITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
182	金額-請求書課税額-実績	HTAM	HTAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、通貨モードを確認して使用する表示小数点以下桁数を決定する。 CRRMの値がDの場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。 CRRMの値がFの場合は、CRCFに格納されている外貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
183	一次単位当たり価格-外貨	PRIF	PRIF	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
184	NTE制御フラグ	NCTL	NCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
185	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
186	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
187	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
188	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
189	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
190	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
191	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
192	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
193	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
194	遡及調整状況		RAS	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
195	遡及調整グループ		RAG	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
196	職務プール・グループ・コード		JPGC	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
197	間接費使用済フラグ		BUF	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
198	金額		AA3	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
199	外貨建て金額		ACR	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4822の変換について

ここでは、請求書集計ワークファイル(F4822)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894822B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 99
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 104

次の表は、F4822の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	契約申込No.	APPL	APPL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	調整番号	ADJN	ADJN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
11	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	価格設定タイプ-契約	PRTP	PRTP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	請求一時停止	BLSP	BLSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	住所番号 - 作業売掛金	AN8O	AN8O	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	代替受取人住所番号	AN8J	AN8J	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	支払条件コード	PTC	PTC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
17	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	請求期間開始日	BTFR	BTFR	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
23	最新請求日付	BTDT	BTDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
24	日付 - 元帳(および伝票)	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
25	日付 - 期日	DDJ	DDJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
26	サービス/税日付	DSVJ	DSVJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
27	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	申請日付	APDT	APDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
33	アプリケーション転記コード	APPO	APPO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
34	無効(V)	VOID	VOID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	請求書タイプ	INTY	INTY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
38	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	金額-単価	UP	UP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
40	単価(外貨)	FUP	FUP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
41	前回請求数量-当期	PUHP	PUHP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
42	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
43	金額通貨	ACR	ACR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
44	現行期間	THPD	THPD	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
45	現行期間-外貨	FHPD	FHPD	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
46	現行期間-再計算	RTHP	RTHP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
47	以前請求済期間	PTHP	PTHP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
48	当期の前の請求額-外貨	FTHP	FTHP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
49	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
50	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	税額	STAM	STAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
52	税額(外貨)	CTAM	CTAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
53	金額-税-前回	PTAM	PTAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
54	金額-税-前回-外貨	FPTA	FPTA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
55	課税対象額	ATXA	ATXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
56	課税対象額(外貨)	CTXA	CTXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
57	金額-課税対象-以前	PATX	PATX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
58	金額-課税対象-以前の外国税	FATX	FATX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
59	非課税金額	ATXN	ATXN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
60	非課税額(外貨)	CTXN	CTXN	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
61	未収金額のリリースのみ	RTRE	RTRE	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
64	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	留保金税計算	RCTL	RCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	留保金	RTNG	RTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
67	留保-外貨	FTNG	FTNG	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
68	留保-前回	RTNP	RTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
69	留保-前回-外貨	FTNP	FTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
70	繰延税金-国内	DDTR	DDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
71	繰延税金-外貨	FDTR	FDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
72	未払/繰延(保管資材)	STML	STML	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
73	未払/繰延(保管資材)-外国	FTML	FTML	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
74	事前請求済保管資材	PSMA	PSMA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
75	事前請求済保管資材-外貨	FSMA	FSMA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
76	留保金規則-保管された資材	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
77	保管資材留保	SMRT	SMRT	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
78	保管資材留保-外貨	SMRF	SMRF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
79	保管資材留保-前回金額	SMRP	SMRP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
80	保管資材留保-前回	SMPF	SMPF	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
81	合計労務金額	TLAB	TLAB	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
82	外貨合計労務金額	FLAB	FLAB	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
83	金額-合計間接費	TBUR	TBUR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
84	金額-外貨合計間接費	FBUR	FBUR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
85	割引可能額	ADSC	ADSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
86	割引可能額(外貨)	CDS	CDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
87	多通貨モード-外貨/国内通貨	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
88	換算元通貨コード	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
89	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
90	為替レート	CRR	CRR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
91	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
92	備考	RMK	RMK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
93	入力モード-値	MIVL	MIVL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
94	入力モード-SM	MISM	MISM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
95	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
96	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
97	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
98	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
99	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
100	地理コード出荷元		VGCSF	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
101	GeoCodeオーダー承認		VGCOA	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
102	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
103	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
104	入金後支払		PYWP	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48520の変換について

ここでは、請求集計アクセス (F48520) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948520B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 23
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 23

次の表は、F48520の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	元帳(および伝票)日付	DGL	DGL	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
2	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
3	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	オーダー会社	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	行番号	LNID	LNID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	請求書金額	ITOL	ITOL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
15	金額-請求金額課税分	ITXA	ITXA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
16	金額-請求書税額	ITAM	ITAM	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
17	金額-請求書の割引可能額	IDSC	IDSC	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
18	金額-外貨請求書	CITL	CITL	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
19	金額-外貨請求金額税額	CITA	CITA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
20	金額-外貨建て請求書税	CITX	CITX	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
21	金額-外貨請求金額割引あり	CIDS	CIDS	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCFに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
22	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
23	金額	AA	AA	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、CRCDに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4860の変換について

ここでは、追加料金テーブル・マスター(F4860)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894860B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F4860の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
4	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
5	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4861の変換について

ここでは、追加料金テーブル明細 (F4861) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894861B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 13
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 13

次の表は、F4861の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
3	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	順序No.	SEQ	SEQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	追加料金パーセント	CRTP	CRTP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	追加料金レート基準	UORC	UORC	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> • C = 1 • U = 2
12	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	固有キーID	UKD	UKID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF4862の変換について

ここでは、追加料金相互参照(F4862)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R894862B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 5
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 5

次の表は、F4862の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	基準追加料金	CBSS	CBSS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	追加料金テーブル	CTBL	CTBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加サービス請求管理テーブルのアップグレード

この項では、サービス請求管理システムでのみ必要なJD Edwards WorldバージョンA8.1テーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48127の変換について

ここでは、税決定情報(F48127)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948127B
- JD Edwards Worldでのカラム数: 18
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 20

次の表は、F48127の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	生成タイプ	GTYP	GTYP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	開始有効日	EFTB	EFTB	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	有効期限日付	EFTE	EFTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
6	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
7	終了主科目	OBJT	OBJT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	終了補助科目	SUBT	SUBT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	課税額または総額	TOG	TOG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	固有キーID (内部)	UKID	UKID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
15	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
20	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexは使用できない。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48128の変換について

ここでは、相手勘定/留保金情報 (F48128) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948128B

- JD Edwards Worldでのカラム数: 13
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 13

次の表は、F48128の変換 – JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	キー・タイプ	TYKY	TYKY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	テーブル・キー	TKEY	TKEY	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	支払条件	TRAR	TRAR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	留保金税計算	RCTL	RCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	モード(F)	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 – ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF48221の変換について

ここでは、サービス請求管理留保金のリリース相互参照ファイル(F48221)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: R8948221B

重要: 請求書集計ワークファイル・テーブル(F4822)を変換してから、サービス請求管理留保金のリリース相互参照ファイル・テーブル(F48221)を変換する必要があります。

- JD Edwards Worldでのカラム数: 19
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 19

次の表は、F48221の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneプログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	住所番号 - 作業売掛金	AN80	AN80	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	伝票支払項目	SFX	SFX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	伝票会社	KCO	KCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	伝票番号(伝票、請求書など)	DOC	DOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	伝票タイプ	DCT	DCT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	伝票支払項目-照合(支払/項目)	SFXM	SFXM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
11	留保-前回	RTNP	RTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
12	留保-前回-外貨	FTNP	FTNP	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
13	繰延税金-国内	DDTR	DDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
14	繰延税金-外貨	FDTR	FDTR	リリースA8.1で通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。 リリースA8.1で通貨がオンになっている場合は、F4822テーブル内の関連するレコードのCRCDフィールドに格納されている国内通貨コードの表示小数点以下桁数を使用して変換する。
15	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	ワークステーションID	JOB	JOB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
18	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
19	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

注意: 通貨がオンになっている場合、RTNP、FTNP、DDTRおよびFDTRのフィールドは、国内通貨または外貨のいずれかに関連付けられている表示小数点以下桁数を使用して変換します。CRCDおよびCRCFがこのテーブルに格納されていないため、この情報は、F4822テーブル内の関連するレコードから取り込む必要があります。F4822テーブル内の固有のレコードには、F4821テーブルの次のフィールドを使用してアクセスします。

DOCZ

DCTI

KCOI

SFX

JD Edwards WorldバージョンA8.1からの追加契約請求管理テーブルのアップグレード

この項では、JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムでのみ必要なJD Edwards WorldバージョンA8.1テーブルを変換する場合に使用するテーブル変換プログラムの概要について説明します。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5201の変換について

この項では、契約マスター(F5201)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5201のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換(R895201B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 80
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 80

次の表は、F5201のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	収益バッチ番号	ICUJ	ICUJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
6	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	圧縮記述	DC	DC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	記述02	DL02	DL02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	記述03	DL03	DL03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	所有者契約No.	ODCM	ODCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	所有者契約No.(短縮)	OCNC	OCNC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	住所番号-作業売掛金	AN8O	AN8O	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	契約請求書最小金額-外貨	MCIF	MCIF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
14	金額超過禁止-外国	NTEF	NTEF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
15	留保金税計算	RCTL	RCTL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	請求書送付先住所番号	ANOB	ANOB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	建築士の契約No.	ADCM	ADCM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
18	住所番号 - 建築士	AN8K	AN8K	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	住所番号3 - ユーザー	USA3	USA3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	住所番号 - 送金先	USA4	USA4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	住所番号1 - ユーザー	USA1	USA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	住所番号2 - ユーザー	USA2	USA2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	住所番号 - 送付先	USA5	USA5	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	契約状況	DS	DS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	契約タイプ	CT	CT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	担当BU(ビジネスユニット)	JMCU	JMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	親契約No.	PCTN	PCTN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	親契約タイプ	PCTT	PCTT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	親契約伝票会社	PCKO	PCKO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
32	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
33	留保金相手勘定	RGLC	RGLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
34	留保金規則-保管された資料	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
35	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
36	税率/税域	TAX1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
37	請求書フォーマット・コード	INVF	INVF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
38	AIA請求書フォーム (Y/N)	AIAB	AIAB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
39	契約一時変更規則	CTOV	CTOV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
40	支払条件コード	PTC	PTC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
41	支払後に請求	BLWP	BLWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
42	入金後支払	PYWP	PYWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
43	間接費一時変更規則	BROV	BROV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
44	報酬集計レベル	FSLV	FSLV	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
45	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
47	多通貨モード-外貨/国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
48	超過禁止金額	NTEX	NTEX	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
49	超過禁止金額-再計算	RNTE	RNTE	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
50	為替レート基準日	ERDB	ERDB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	限界外フラグ	LMEX	LMEX	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
52	最低契約請求書金額	MCIA	MCIA	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
53	契約開始日付	CSDT	CSDT	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
54	契約完了日付	CDTE	CDTE	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
55	ユーザー日付1	USD1	USD1	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
56	ユーザー日付2	USD2	USD2	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
57	ユーザー日付3	USD3	USD3	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
58	ユーザー日付4	USD4	USD4	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
59	契約カテゴリ・コード1	AI01	AI01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	契約カテゴリ・コード2	AI02	AI02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	契約カテゴリ・コード3	AI03	AI03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	契約カテゴリ・コード4	AI04	AI04	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	契約カテゴリ・コード5	AI05	AI05	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	契約カテゴリ・コード11	AI11	AI11	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	契約カテゴリ・コード12	AI12	AI12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
66	契約カテゴリ・コード13	AI13	AI13	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	契約カテゴリ・コード14	AI14	AI14	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
68	契約カテゴリ・コード15	AI15	AI15	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	為替レート	CRR	CRR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
70	通貨換算レート - 除数	CRRD	CRRD	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
71	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
72	出来高請求相互参照フラグ	CTF3	CTF3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	制御フラグ4	CTF4	CTF4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	制御フラグ5	CTF5	CTF5	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 ブランク=ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
75	バッチ制御キー	BCTK	BCTK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
78	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
79	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
80	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5202の変換について

この項では、契約請求行詳細テーブル (F5202) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5202のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R895202B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 83
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 85

次の表は、F5202のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票 (オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社 (オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
8	日付 - 計画開始	SD1	SD1	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
9	日付 - 完了予定	SD3	SD3	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	変更日付	CHD	CHD	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
11	金額以外の変更	TRMO	TRMO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	変更状況	CHST	CHST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	留保金規則-保管された資材	RTN1	RTN1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	留保金規則-変更オーダー	RTNC	RTNC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	代替ビジネスユニット	MCUS	MCUS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	会社	CO	CO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	相手勘定	GLC	GLC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	価格設定タイプ-契約	P RTP	P RTP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
25	予定値	SCOF	SCOF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
26	予定金額(外貨)	FSOF	FSOF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
27	予定値-再計算	RSOF	RSOF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
28	数量	U	U	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
29	単位	UM	UM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	金額-単価	UP	UP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。 注意: このデータ項目は、通貨データ・クラスには属しません。
31	単価(外貨)	FUP	FUP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。 注意: このデータ項目は、通貨データ・クラスには属しません。
32	金額-再計算単価	RUP	RUP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。 注意: このデータ項目は、通貨データ・クラスには属しません。
33	税目コード1	EXR1	EXR1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
34	税率/税域	TXA1	TXA1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
35	税額	STAM	STAM	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
36	非課税金額	ATXN	ATXN	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
37	課税対象額	ATXA	ATXA	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
38	超過禁止金額	NTEX	NTEX	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
39	金額超過禁止-外国	FNTE	FNTE	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
40	超過禁止金額-再計算	RNTE	RNTE	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
41	超過禁止金額-変更オーダー	NTEC	NTEC	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
42	超過禁止-変更オーダー金額-外貨	FNTO	FNTO	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
43	超過禁止-変更オーダー金額-再計算	RNT0	RNT0	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
44	超過禁止単位数	NTEU	NTEU	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
45	定期請求コード	RRBC	RRBC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
46	定期請求金額	RRBA	RRBA	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
47	定期請求金額-外国	FRBA	FRBA	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、外貨(CRCF1)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
48	定期請求金額-再計算	RRRA	RRRA	A8.1の通貨がオフになっている場合は、データ辞書の表示小数点以下桁数を使用して変換する。A8.1の通貨がオンになっている場合は、国内通貨(CRCD)の表示小数点以下桁数を使用して変換する。
49	超過禁止規則からの免除	EXMP	EXMP	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 ブランク=ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
50	代替順序コード	ALSQ	ALSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
51	請求一時停止	BLSP	BLSP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
52	支払後に請求	BLWP	BLWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
53	入金後支払	PYWP	PYWP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
54	現行請求方式	MCBL	MCBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
55	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
56	料金基準	FBAS	FBAS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
57	収益金額基準	RFBS	RFBS	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
58	レート・コード	RACD	RACD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
59	積上げ数量	ROLU	ROLU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
60	カテゴリ・コード - 総勘定元帳 ¹	R001	R001	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
61	勘定科目一時変更フラグ	ACCO	ACCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
62	変更オーダー・カテゴリ・コード ¹	AD01	AD01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
63	変更オーダー・カテゴリ・コード ²	AD02	AD02	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
64	契約カテゴリ・コード ³	AD03	AD03	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
65	契約カテゴリ・コード ⁴	AD04	AD04	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
66	契約カテゴリ・コード ⁵	AD05	AD05	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
67	制御フラグ ¹	CTF1	CTF1	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
68	制御フラグ2	CTF2	CTF2	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
69	出来高請求相互参照フラグ	CTF3	CTF3	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
70	制御フラグ4	CTF4	CTF4	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
71	制御フラグ5	CTF5	CTF5	JD Edwards Worldの英文字をJD Edwards EnterpriseOneの数値に変換する。 ブランク=ブランク Y = 1 N = 2 L = 3 M = 4 O = 5
72	備考	RMK	RMK	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
73	参照タグ	TAG	TAG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
74	為替レート	CRR	CRR	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
75	通貨コード(開始)	CRCD	CRCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
76	通貨コード-当初	CRCF	CRCF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
77	通貨換算レート-除数	CRRD	CRRD	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
78	多通貨モード-外貨/国内通貨エントリ	CRRM	CRRM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
79	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
80	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
81	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
82	更新日付	MUPM	MUPM	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
83	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
84	Vertex取引タイプ		VVTY	JD Edwards WorldではVertexを使用できなかった。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
85	Vertex製品カテゴリ		VVTC	JD Edwards WorldではVertexを使用できなかった。JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5204の変換について

この項では、留保金規則情報テーブル (F5204) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5204のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R895204B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 10
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 10

次の表は、F5204のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	留保金規則	RTNR	RTNR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	留保パーセント	PRET	PRET	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	完了率	PC	PC	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
10	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5212の変換について

この項では、T&M、単価、合計相互参照勘定科目テーブル (F5212) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5212のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R895212B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 29
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 29

次の表は、F5212のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	ビジネスユニット	MCU	MCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	補助科目	SUB	SUB	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	主科目	OBJ	OBJ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	補助元帳	SBL	SBL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	補助元帳タイプ	SBLT	SBLT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	職務タイプ(技能)コード	JBCD	JBCD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	職階	JBST	JBST	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	DBAコード	PDBA	PDBA	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	住所番号	AN8	AN8	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
17	カテゴリ・コード - F/A 10(料金グループ)	ACL0	ACL0	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	使用設備	EQCG	EQCG	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
19	所属ビジネスユニット	HMCU	HMCU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
20	カテゴリ・コード - ビジネスユニット12	RP12	RP12	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
21	請求基準フラグ	BBF	BBF	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	略式品目番号	ITM	ITM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	品目価格グループ	PRGR	PRGR	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
24	顧客価格グループ	CPGP	CPGP	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
27	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
28	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
29	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5213の変換について

この項では、手数料請求行相互参照詳細テーブル (F5213) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5213のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R895213B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 11
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 14

重要: テーブルF5213を変換する前に、契約請求行詳細テーブル (F5202) を変換する必要があります。

次の表は、F5213のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	行番号 - 一般	LIN	LIN	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	記述	DL01		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
	価格設定タイプ	P RTP		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
	予定値	SCOF		JD Edwards EnterpriseOneにはコピーしない。
8	相互参照契約変更番号	RCOC	RCOC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	行No.-相互参照		LNIX	これは、関連するF5202レコードの行番号(LNID)である必要がある。この情報はJD Edwards Worldに保存されていない。このリファレンス表の後の「注意」を参照。
10	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R895213B」と入力する。
11	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数(B9800100)のUserName。
12	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数(B9800100)のWorkstation_UserID。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
13	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
14	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

注意: JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルのLNIX値には、関連するF5202レコードの行番号 (LNID) を含める必要があります。この行番号はJD Edwards Worldファイルに保存されていませんが、JD Edwards Worldファイルには十分なキー情報が存在するため、行番号をJD Edwards World F5202ファイルから取得できます。JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルの次のフィールドを使用して、固有のJD Edwards World F5202レコードがアクセスされます。

DOCO

DCTO

KCOO

COCH

OPIM

JD Edwards EnterpriseOne F5213テーブルのLNIXフィールドは、これらのキー・フィールドに基づいて検索されるJD Edwards World F5202テーブルのLNIDフィールドを使用して自動入力されます。

F5213を変換する前に、F5202テーブルをJD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneに変換すると、LNIXはF5202テーブルのJD Edwards EnterpriseOneバージョンから取り込まれます。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52131の変換について

この項では、レート・コード定義情報テーブル (F52131) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F52131のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R8952131B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 6
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 11

次の表は、F52131のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	レート・コード	RACD	RACD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
3	開始日付	DTFR	DTFR	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
4	終了日付	DTTO	DTTO	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
5	料金%	MKRP	MKRP	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
7	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R8952131B」と入力する。
8	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のUserName。
9	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のWorkstation_UserID。
10	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
11	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5214の変換について

この項では、追加料金コード/間接費相互参照テーブル(F5214)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5214のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R895214B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 7
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 14

次の表は、F5214のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
8	DBAコード		PDBA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
9	税タイプ		PTAX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。
10	ユーザーID		USER	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のUserName。
11	ワークステーションID		JOBN	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のWorkstation_UserID。
12	プログラムID		PID	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「R895214B」と入力する。
13	更新日付		UPMJ	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のDate。
14	最終更新時刻		UPMT	Get Audit Informationビジネス関数 (B9800100) のTime。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5215の変換について

この項では、追加料金/間接費請求行相互参照詳細テーブル(F5215)をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5215のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換(R895215B)

- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 13
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 16

次の表は、F5215のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	所有者支払項目	OPIM	OPIM	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	行番号	LIN		データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルのLINXフィールドに書き込む。
8	相互参照契約変更		RCOC	このフィールドにはJD Edwards WorldのCOCH値が自動入力される。
9	行No.相互参照		LNIX	このフィールドにはJD Edwards WorldのLIN値が自動入力される。JD Edwards WorldのLIN値にデータ辞書小数点以下桁数換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
10	追加料金コード	CCOD	CCOD	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	DBAコード		PDBA	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
12	税タイプ		PTAX	JD Edwards EnterpriseOneテーブルをブランクにする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
13	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
15	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
17	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF5216の変換について

この項では、マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F5216のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R895216B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 25
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 33

重要: マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216) を変換する前に、契約請求行詳細テーブル (F5202) を変換する必要があります。

次の表は、F5216のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCH	COCH	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
5	行番号	LNID	LNID	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	請求イベント	EVNT	EVNT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
7	記述	DL01	DL01	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
	完了率	PC		データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、その結果をJD Edwards EnterpriseOneテーブルのPERSフィールドに挿入する。
8	2次記述	SDSC	SDSC	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	パーセント/金額		APER	JD Edwards Worldではパーセントのみがサポートされていた。JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」（パーセント）と入力する。
10	パーセント-予定値		PERS	JD Edwards WorldファイルのPC値を使用してこのフィールドをロードする。JD Edwards WorldのPCフィールドは、データ辞書の表示小数点以下桁数に基づいて調整されている必要がある。
11	金額(マイルストーン金額)		AA	マイルストーン請求行の場合、このフィールドはパーセント-予定値(PERS)にF5202テーブルの予定値(SCOF)金額を掛けて算出される。進捗請求行の場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。「注意」を参照。
12	金額(外貨建てマイルストーン金額)		AA2	進捗請求行の場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。 マイルストーン請求行の場合、次のように処理する。 A8.1の通貨がオフになっている場合は、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。A8.1の通貨がオンになっている場合、このフィールドにはパーセント-予定値(PERS)にF5202テーブルの予定金額(外貨)(FSOF)を掛けて算出された外貨建てマイルストーン金額が自動入力される。「注意」を参照。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
13	通貨コード(開始)		CRCD	A8.1の通貨がオフになっている場合は、JD Edwards EnterpriseOneテーブルにブランクを入力する。A8.1の通貨がオンになっている場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルには関連するF5202レコードのCRCD値が自動入力される。
14	通貨コード-当初		CRCF	A8.1の通貨がオフになっている場合は、JD Edwards EnterpriseOneテーブルにブランクを入力する。A8.1の通貨がオンになっている場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルには関連するF5202レコードのCRCF値が自動入力される。
15	通貨換算レート-除数		CRRD	A8.1の通貨がオフになっている場合は、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。A8.1の通貨がオンになっている場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルには関連するF5202レコードのCRRD値が自動入力される。
16	多通貨モード-外貨/ 国内通貨エントリ		CRRM	A8.1の通貨がオフになっている場合は、JD Edwards EnterpriseOneテーブルにブランクを入力する。A8.1の通貨がオンになっている場合、JD Edwards EnterpriseOneテーブルには関連するF5202レコードのCRRM値が自動入力される。
17	フラグ-事象完了	CMFL	CMFL	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
18	フラグ-請求済事象	BILF	BILF	JD Edwards WorldのYをJD Edwards EnterpriseOneの1に変更して、JD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
19	日付-完了予定(ユリウス暦)	DECO	DECO	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
20	完了日付(ユリウス暦)	DTCO	DTCO	B9100001を使用した日付の変換-ユリウス暦の日付をJEDATEに変換する。
21	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
22	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
23	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
24	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
25	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
26	収益バッチ番号		ICUJ	JD Edwards EnterpriseOneテーブルに「0」と入力する。
27	順序No.	SEQ	SEQ	データ辞書から表示小数点以下桁数を取り込む。JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
28	処理完了	LSSQ	LSSQ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
29	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
30	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
31	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
32	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
Tha	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

注意: 進捗行相互参照レコードとマイルストーン行相互参照レコードの両方が、F5216テーブルに保存されています。ただし、AAフィールドはマイルストーン・レコードに関してのみ自動入力されます。関連するF5202レコードが取得され、F5216レコードが進捗またはマイルストーン請求行のいずれであるかが判別されます。関連するF5202レコードへのアクセスには、F5216テーブルの次のフィールドが使用されます。

DOCO

DCTO

KCOO

COCH

LNID

関連するF5202レコードにMまたは6の請求行タイプ (PRTP) がある場合、請求行はマイルストーン行であり、F5216テーブルのAAフィールドには値が必ず入力されます。AA金額は、パーセント-予定値 (PERS) にF5202テーブル内の関連するレコードからの予定値 (SCOF) を掛けて算出されます。

関連するF5202レコードにMまたは6以外の請求行タイプがある場合、請求行は進捗行であり、AAフィールドおよびAA2フィールドに0 (ゼロ) が入力されます。

F5216を変換する前に、F5202テーブルをJD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneに変換する必要があります。これにより、JD Edwards EnterpriseOneのバージョンのF5202テーブルから予定値 (SCOF) を取り込むことができるようになります。

A8.1からJD Edwards EnterpriseOneへのテーブルF52161の変換について

この項では、マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細テーブル (F52161) をJD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneに変換する場合に使用するテーブル変換プログラムについて説明します。

- 変換プログラム: F52161のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換 (R8952161B)
- JD Edwards World A8.1でのカラム数: 17
- JD Edwards EnterpriseOneでのカラム数: 17

F52161テーブルへの情報の格納方法は、このテーブルのJD Edwards WorldバージョンとJD Edwards EnterpriseOneバージョンでは異なります。次の表に示すように、JD Edwards Worldの特定のデータ項目は、JD Edwards EnterpriseOneの対応するデータ項目に変換されます。

JD Edwards Worldのデータ項目	対応するJD Edwards EnterpriseOneのデータ項目
COCH	COCX
LNID	LNIX
COCX	COCH
LNIX	LNID

次の表は、F52161のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラムによって変換されるフィールドの一覧です。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
1	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCO	DOCO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
2	オーダー・タイプ	DCTO	DCTO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
3	オーダー会社(オーダー番号)	KCOO	KCOO	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
4	契約変更番号	COCX	COCH	JD Edwards EnterpriseOneのCOCHに、JD Edwards WorldのCOCX値をロードする。
5	行番号	LNIX	LNID	JD Edwards EnterpriseOneのLNIDに、JD Edwards WorldのLNIX値をロードする。LNIXの表示小数点以下桁数を取り込み、JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
6	契約変更番号 - 相互参照	COCH	COCX	JD Edwards EnterpriseOneのCOCXに、JD Edwards WorldのCOCH値をロードする。
7	行No.-相互参照	LNID	LNIX	JD Edwards EnterpriseOneのLNIXに、JD Edwards WorldのLNID値をロードする。LNIDの表示小数点以下桁数を取り込み、JD Edwards Worldの値に換算係数を掛けた後、JD Edwards EnterpriseOneテーブルに書き込む。
8	伝票会社(請求書)	KCOI	KCOI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
9	伝票タイプ(請求書のみ)	DCTI	DCTI	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
10	伝票(オーダーNo.、請求書など)	DOCZ	DOCZ	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
11	バッチ番号	ICU	ICU	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
12	バッチ・タイプ	ICUT	ICUT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
13	ユーザーID	USER	USER	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
14	ワークステーションID	JOBN	JOBN	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

カラム	フィールド記述	A8.1のデータ項目	JD Edwards EnterpriseOneのデータ項目	変換論理
15	プログラムID	PID	PID	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。
16	更新日付	UPMJ	UPMJ	B9100001を使用した日付の変換 - ユリウス暦の日付をJDEDATEに変換する。
17	最終更新時刻	UPMT	UPMT	変更なしでJD Edwards EnterpriseOneにコピーする。

A8.1テーブル変換プログラムの実行

契約請求管理とサービス請求管理の両方のシステムによって使用されるテーブルのA8.1テーブル変換プログラム、およびサービス請求管理システムのみで使用されるA8.1テーブル変換プログラムは、「World A8.1からEnterpriseOneへの変換」メニュー（G48S322）から実行できます。

JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムのみで使用されるテーブルのA8.1テーブル変換プログラムは、「World A8.1からEnterpriseOneへの変換」メニュー（G52322）から実行できます。

付録 C

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス 請求管理レポート

この付録では、次の情報を提供します。

- 全レポートの一覧表
- 主なレポートの詳細

JD Edwards EnterpriseOne 契約/サービス請求管理 のすべてのレポート

次の表に、契約/サービス請求管理のレポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R48096B 請求料金/割増テーブル一覧	このレポートでは、キー・タイプおよびテーブル・キー別にグループ化された割増規則の一覧が作成されます。	<ul style="list-style-type: none">• 「テーブル情報」(G48S41)、「請求料金/割増テーブル一覧」• 「テーブル情報」(G5241)、「請求料金/割増テーブル一覧」
R48127 税決定基準テーブル一覧	このレポートには、データ選択基準に一致する税決定規則の情報が含まれます。	「テーブル情報」(G48S41)、「税決定基準テーブル一覧」
R48128 相手勘定/留保金テーブル一覧	このレポートでは、データ選択基準に一致するすべての相手勘定/留保金規則の一覧が作成されます。	「テーブル情報」(G48S41)、「相手勘定/留保金テーブル一覧」
R48300 仕訳編集レジスタ	このレポートには、請求書、総勘定元帳または伝票仕訳が元帳日付、伝票タイプ、伝票番号、ビジネスユニット、主科目、補助科目および補助元帳別にまとめられます。	<ul style="list-style-type: none">• 「請求書の処理」(G48S21)、「バッチの検討」• 「請求書の処理」(G5221)、「バッチの検討」• 「伝票の処理 (S/WMのみ)」(G48S23)、「バッチの検討」 <p>「バッチの処理」で、バッチを選択し、「ロー」メニューから「仕訳編集レジスタ」を選択します。</p>

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R48405 ワークファイルの印刷	このレポートには、選択した取引の一覧が出力されます。	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G48S11)、「ワークファイルの印刷」 「ワークファイルの処理」(G5211)、「ワークファイルの印刷」
R4860 追加料金テーブル一覧	<p>このレポートには、データ選択基準を満たす各追加料金テーブルの有効日付と通貨コードが一覧表示されます。</p> <p>レポートに一覧表示される情報は、「追加料金テーブルの改訂」フォームに表示される情報と同じです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「テーブル情報」(G48S41)、「追加料金テーブル一覧」 「テーブル情報」(G5241)、「追加料金テーブル一覧」
R48S412 ワークファイル取引例外レポート	このレポートには、実行中のレポート・バージョンのデータ選択基準を満たすすべてのワークファイル取引が一覧表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G48S11)、「ワークファイル取引例外レポート」 「ワークファイルの処理」(G5211)、「ワークファイル取引例外レポート」
R48S496 失効予定の請求料金/割増テーブル	このレポートでは、失効予定の請求料金/割増テーブル・レポートの処理オプションで指定した日付間に終了日付があるすべての請求料金/割増テーブルの一覧が作成されます。	<ul style="list-style-type: none"> 「テーブル情報」(G48S41)、「失効予定の請求料金/割増テーブル」 「テーブル情報」(G5241)、「失効予定の請求料金/割増テーブル」
R48S95 請求AAIテーブル一覧	このレポートには、サービス請求管理システムおよびJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システム用に設定した請求AAIが一覧表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> 「テーブル情報」(G48S41)、「請求AAIテーブル一覧」 「テーブル情報」(G5241)、「請求AAIテーブル一覧」
R48TW ワークファイル合計レポート	このレポートには、国内と海外の両方のワークファイル取引について、収益、請求書および原価の合計が一覧表示されます。また、基準額の合計および追加料金を含む合計金額が一覧表示されます。	<ul style="list-style-type: none"> 「日次処理」(G48S11)、「ワークファイル合計レポート」 「ワークファイルの処理」(G5211)、「ワークファイル合計レポート」
R5201 契約の印刷	契約の詳細な一覧が出力されます。このレポートには、各契約の契約マスター情報および契約の各請求行の詳細情報(相互参照情報など)が含まれます。また、添付も印刷できます。	「日次処理」(G5210)、「契約の印刷」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R52412 契約別ワークファイル取引	このレポートには、契約請求管理システムで入力されたワークファイル取引が契約番号別にグループ化されて一覧表示されます。	「ワークファイルの処理」(G5211)、 「契約別ワークファイル取引」
R52425 契約履歴レポート	各契約に関連付けられている予定値と請求書情報が一覧表示されます。	「請求書の処理」(G5221)、 「契約履歴レポート」

制御レポート

次の表に、制御レポートをレポートID順に示します。

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R48S710 ワークファイル制御レポート	このレポートでは、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)内の不正確なレコードがF4812テーブル内の他の情報に基づいて識別されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、 「ワークファイル制御レポート」
R48S711 ワークファイル履歴制御レポート	このレポートでは、請求ワークファイル履歴テーブル(F4812H)内の不正確なレコードがF4812Hテーブル内の他の情報に基づいて識別されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、 「ワークファイル履歴制御レポート」
R48S720 元帳リンクから取引明細への制御レポート	このレポートでは、総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)内の情報が取引明細テーブル(F0911)に書き込まれている情報を正確に表しているかどうかを検証されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、 「元帳リンクから取引明細への制御レポート」
R48S721 取引明細から元帳リンクへの制御レポート	このレポートでは、サービス請求管理システムまたはJD Edwards EnterpriseOne契約請求管理システムの収益処理で作成された取引明細テーブル(F0911)内の各レコードが、総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)内の1つ以上のレコードに対応しているかどうかを検証されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、 「取引明細から元帳リンクへの制御レポート」
R48S730 ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート	このレポートでは、請求明細ワークファイル・テーブルおよび請求ワークファイル履歴テーブル(F4812およびF4812H)と、総勘定元帳リンク・テーブル(F48S912)との間の整合性の問題が識別されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、 「ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート」

レポートID/レポート名	説明	ナビゲーション
R48S731 元帳リンクからワークファイルへの 制御レポート	このレポートでは、請求明細ワーク ファイル・テーブル (F4812) および 請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H) で不足しているレコード が、総勘定元帳リンク・テーブル (F48S912) 内のデータに基づいて識 別されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、「元 帳リンクからワークファイルへの制 御レポート」
R48S751 請求書集計からワークファイルへの 制御レポート	このレポートでは、請求明細ワーク ファイル・テーブルおよび請求ワー クファイル履歴テーブル (F4812 およ び F4812H) 内の金額が、請求書集 計ワークファイル・テーブル (F4822) 内の金額と一致しているかどうか が検証されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、「請 求書集計からワークファイルへの 制御レポート」
R48S761 請求書集計から売掛金元帳への 制御レポート	このレポートでは、請求書集計 ワークファイル・テーブル (F4822) 内の金額が、売掛金元帳テーブル (F03B11) 内の金額と一致している かどうか検証されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、「請 求書集計から売掛金元帳への制御 レポート」
R48S771 売掛金元帳から請求書集計への 制御レポート	このレポートでは、契約請求管理 システムまたはサービス請求管理 システムで入力された売掛金元帳 テーブル (F03B11) 内の各請求書取 引が、請求書集計ワークファイル・ テーブル (F4822) 内の1つ以上の ソース取引に対応しているかどうか が検証されます。	「請求制御レポート」(G48S33)、「売 掛金元帳から請求書集計への制御 レポート」

関連項目:

第 16 章、「制御レポートの確認」、415ページ

JD Edwards EnterpriseOne契約/サービス請求管理の主なレポート

この項では、個々のレポートについて、アクセスする重要なフィールドやテーブルなどの詳細情報を説明します。また、この製品ガイドでこの付録にのみ記載されているレポートについては、処理オプションの一覧も示します。説明は、レポートID順になっています。

R48096B - 請求料金/割増テーブル一覧

請求料金/割増テーブル一覧レポートの情報は、「請求レート/割増の改訂」フォームに表示される情報と同じです。

請求料金/割増テーブル一覧では、請求料金/割増テーブル (F48096) の情報が取得されます。

R48127 - 税決定基準テーブル一覧

税決定基準テーブル一覧レポートの情報は、「税額計算基準の改訂」フォームに表示される情報と同じです。

税決定基準テーブル一覧では、税決定情報テーブル(F48127)の情報が取得されます。

R48128 - 相手勘定/留保金テーブル一覧

相手勘定/留保金テーブル一覧レポートの情報は、「相手勘定/留保金テーブルの処理」フォームに表示される情報と同じです。

相手勘定/留保金テーブル一覧レポートでは、相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)の情報が取得されます。

R48405 - ワークファイルの印刷

このレポートは次の用途で使用できます。

- 請求されなかったすべての取引を一覧表示するレポートなど、例外レポートを作成します。
- 情報を取引明細テーブル(F0911)内の明細情報と比較します。

取引明細照会プログラム(P09200)を使用して取引明細テーブルをオンラインで確認するか、または総勘定元帳 - 主科目別レポート(R09421)を印刷すると、ワークファイル取引を取引明細テーブル内の明細情報と比較できます。

不整合が見つかった場合は、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)に必要な変更を加えてから、請求処理を続行してください。

ワークファイルの印刷レポートには、次の情報が含まれます。

- 元帳日付
- 原価
- 数量
- レート
- 請求金額
- 勘定科目番号
- 補助元帳
- 契約
- 職務タイプ
- PDBAコード
- 従業員/仕入先
- 設備
- 仕訳バッチ
- 請求書バッチ
- 請求書
- 支払項目

ワークファイルの印刷(R48405)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷オプション

この処理オプションでは、レポートに出力する明細情報の行数を指定できます。

- | | |
|------------------|--|
| 1. 明細行の印刷 | この処理オプションを使用して、請求されない取引を出力するレポートを作成します。値は次のとおりです。
ブランク
取引ごとに5行の情報を表示します。
1
取引ごとに1行の情報を表示します。 |
|------------------|--|

R4860 - 追加料金テーブル一覧

このレポートには、選択した追加料金テーブル内の各追加料金に関する次の情報も一覧表示されます。

- 追加料金コード
- 追加料金の説明
- 追加料金レート
- レート基準
- 追加料金相互参照

追加料金テーブル一覧レポートでは、次のテーブルの情報が取得されます。

- 追加料金テーブル・マスター (F4860)
- 追加料金テーブル明細 (F4861)
- 追加料金相互参照 (F4862)

R48S412 - ワークファイル取引例外レポート

このレポートを使用して、請求処理を続行する前に確認が必要なワークファイル取引(保留中の取引、割増情報のない取引、顧客情報のない取引など)を識別できます。このレポートには、取引ごとに次の情報も一覧表示されます。

- 顧客番号
- 顧客名
- 勘定科目番号
- 補助元帳
- 補助元帳タイプ
- 適格性コード
- 原価金額
- 請求書金額
- 収益金額

- 保留コード
- リリース日付
- 請求ID

ワークファイル取引例外レポートでは、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の情報が取得されます。

R48S496 – 失効予定の請求料金/割増テーブル

このレポートには、失効予定のテーブルごとに次の情報が一覧表示されます。

- 生成タイプ
- キー・タイプ
- テーブル・キー
- 通貨コード
- 開始日付
- 終了日付

失効予定の請求料金/割増テーブル・レポートでは、請求料金/割増テーブル(F48096)の情報が取得されます。

失効予定の請求料金/割増テーブル(R48S496)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

範囲選択

この処理オプションでは、請求料金/割増テーブル(F48096)が失効する期間を指定できます。

1. 有効期限の範囲開始 請求料金/割増テーブル(F48096)が失効する期間の開始日付を指定します。
2. 有効期限の範囲終了 請求料金/割増テーブル(F48096)が失効する期間の終了日付を指定します。

R48S95 – 請求AAIテーブル一覧

このレポートには、各請求AAIに関する次の情報が含まれます。

- キー・タイプ
- テーブル・キー
- 有効日付
- 主科目
- 補助科目
- 補助元帳/タイプ
- 相手勘定
- 追加料金コード
- 結果勘定科目コード

- 結果勘定科目名
- 元帳タイプ
- 配賦パーセント
- 設備/従業員/単位の制御
- 勘定規則
- 貸方または借方

請求AAIテーブル一覧 (R48S95) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

添付

添付を含める レポートに添付を含めるには、「1」を入力します。この処理オプションをブランクにすると、レポートに添付は含められません。

R48TW – ワークファイル合計レポート

ワークファイル合計レポートは、次のいずれかの方法で実行できます。

- メニューから「ワークファイル合計レポート」を選択し、バッチ・プログラムとして実行します。
- 「ワークファイルの処理」フォームで、「フォーム」メニューから「合計」を選択します。
- 「明細履歴の処理」フォームで、「フォーム」メニューから「合計レポート」を選択します。

ワークファイル合計レポートでは、請求明細ワークファイル・テーブル (F4812) の情報が取得されます。

R5201 – 契約の印刷

契約の印刷プログラムでは、次のテーブルの情報が取得されます。

- 契約マスター (F5201)
- 契約請求行詳細 (F5202)
- T&M、単価、合計相互参照勘定科目 (F5212)
- 手数料請求行相互参照詳細 (F5213)
- マイルストーン/進捗請求情報 (F5216)

契約の印刷 (R5201) の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

印刷オプション

この処理オプションでは、相互参照情報および添付を印刷するかどうかを指定できます。

1. **相互参照情報** 相互参照情報を印刷するには、この処理オプションをブランクにします。相互参照情報を印刷しない場合は、「1」を入力します。
2. **添付テキスト** 印刷する添付テキストを指定します。値は次のとおりです。

ブランク: すべての契約レベルの添付を印刷します。

0: 添付をまったく印刷しません。

1: 契約レベルのみの添付を印刷します。

通貨オプション

この処理オプションでは、金額を外貨と国内通貨のどちらで表示するかを指定できます。

- | | |
|-----------------------|---|
| 1. 金額印刷に使用する通貨 | 金額を国内通貨で表示するには、この処理オプションをブランクにします。
金額を外貨で表示するには、「1」を入力します。 |
|-----------------------|---|

R52412 – 契約別ワークファイル取引

このレポートには、各ワークファイル取引に関する次の情報が一覧表示されます。

- 顧客名
- ビジネスユニット
- ワークファイル取引
- 補助科目
- 補助元帳タイプ
- 原価金額
- 請求書金額
- 収益金額
- 保留コード
- リリース日付
- 請求制御ID

このレポートには、各契約の原価金額合計、請求書金額および収益金額も含まれます。

契約別ワークファイル取引レポートでは、請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)の情報が取得されます。

R52425 – 契約履歴レポート

このレポートには、次の情報が含まれます。

- アプリケーション番号
- 調整番号
- 請求書番号
- 請求書日付
- 無効レコード(任意)
- 基本通貨
- 請求書金額
- 累計金額
- 未請求残高

- 完了パーセント(任意)

レポートに無効レコードを含めるかどうか、および国内通貨と外貨のどちら(あるいは両方)を表示するかを指定できます。

契約履歴レポート(R52425)の処理オプション

処理オプションを使用して、プログラムおよびレポートのデフォルト処理を指定できます。

表示

この処理オプションでは、レポートに無効レコードを含めるかどうか、およびレポートに「完了パーセント」カラムを含めるかどうかを指定できます。

- | | |
|------------------------|--|
| 1. 無効にしたレコードの印刷 | レポートに無効レコードを含めるには、この処理オプションを空白にします。無効レコードを含めない場合は、「1」を入力します。 |
| 2. 完了パーセントの印刷 | レポートに完了パーセントを含めるには、この処理オプションを空白にします。完了パーセントを含めない場合は、「1」を入力します。 |

通貨オプション

この処理オプションでは、国内通貨と外貨のどちら(あるいは両方)を印刷するかを指定できます。

- | | |
|---------------------|--|
| 1. 印刷に使用する通貨 | 金額の印刷に使用する通貨を指定します。値は次のとおりです。
D: 国内通貨
F: 外貨
3: 両方 |
|---------------------|--|

JD Edwards EnterpriseOne用語集

アクセサ・メソッド/アクセサ	値オブジェクトまたはその他のソース・ファイルの要素を参照 (get) および設定 (set) するためのJavaメソッドです。
アクティビティ・ルール、処理規則	フロー内で、あるポイントから次のポイントにオブジェクトが進むための条件です。
追加モード	ユーザーによるデータの入力可能なフォームの状態です。
拡張プランニング・エージェント (APAg)	業務データの抽出、加工、読込みに使用するJD Edwards EnterpriseOneのツールです。APAgは、リレーショナル・データベース、フラット・ファイル・フォーマット、およびXMLのような他のデータまたはメッセージ・エンコーディング形式によるデータ・ソースへのアクセスをサポートしています。
代替通貨	<p>取引通貨 (国内のみの取引の場合は国内通貨) として指定した通貨と異なる通貨です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、代替通貨を使用することにより、入金や支払を請求時とは異なる通貨で入力できます。</p>
アプリケーション・サーバー	分散環境内のアプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供するソフトウェアです。アプリケーション・サーバーの例として、Oracle Application Server (OAS) またはWebSphere Application Server (WAS) があげられます。
仮定通貨処理	取引に実際に使用されている通貨とは異なる通貨で、取引の金額を表示できる処理です。
基準日処理	ある時点を指定して、その日付までの取引を集計する処理です。たとえば、基準日を指定してJD Edwards EnterpriseOneの各種のレポートを実行し、その時点での勘定科目やビジネスユニットなどの残高や処理金額を確認できます。
自動コミット・トランザクション	すべてのデータベース操作をすぐにデータベースに書き込むデータベース接続です。
バック・ツーバック・プロセス	JD Edwards EnterpriseOne供給管理で使用されるプロセスで、別のプロセスで使用されるキーと同じキーが含まれます。
バッチ処理	<p>サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneにレコードを転送する処理です。</p> <p>JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、バッチ処理を使用して、JD Edwards EnterpriseOne以外のシステムで入力された請求書や伝票のデータをJD Edwards EnterpriseOne売掛管理やJD Edwards EnterpriseOne買掛管理のシステムに転送できます。また、顧客レコードや仕入先レコードなどの住所録情報も転送できます。</p>
バッチ・サーバー	バッチ処理リクエストの実行用に指定されたサーバーです。通常、バッチ・サーバーにはデータベースは格納されず、対話型アプリケーションが実行されることもありません。
一括バッチ処理	<p>クライアント・ワークステーション上でアプリケーション処理を実行してから、後続の処理を一度にサーバー・アプリケーションに投入するトランザクションの方式です。バッチ処理はサーバー上で実行されるため、クライアント・アプリケーションは引き続き他のタスクを実行できます。</p> <p>“ダイレクト接続”と“オフライン処理”の説明も参照してください。</p>
ベスト・プラクティス	開発者による設計についての意思決定が最適になるように、任意で従うガイドラインです。

BPEL	Business Process Execution Languageの略語です。個別のサービスを組み合わせてエンドツーエンドのプロセス・フローを作成できる、標準Webサービスのオーケストレーション言語です。
BPEL PM	Business Process Execution Language Process Managerの略語です。BPELビジネス・プロセスを作成、デプロイ、管理する包括的インフラストラクチャです。
ビルド構成ファイル	ANTスクリプトを生成するプログラムで 사용되는、構成の設定が記述されたテキスト・ファイルです。ANTは、ビルド・プロセスを自動化するソフトウェア・ツールです。ANTスクリプトによって、公開ビジネス・サービスが生成されます。
ビルド・エンジニア	アーティファクトの生成、マスタリング、パッケージングの担当者です。ビルド・エンジニアには、アプリケーション・アーティファクトの生成担当者と、基盤のアーティファクトの生成担当者がいます。
ビルド・プログラム	ビルド構成ファイルを読み込み、公開ビジネス・サービスの生成を行うANTスクリプトを生成するWIN32実行ファイルです。
ビジネス・アナリスト	EnterpriseOneのビジネス・サービスの開発を必要とする条件と理由を特定する担当者です。
ビジネス関数	ユーザーによって作成された再利用可能なビジネス・ルールとログのセットで、イベント・ルールを通じて呼び出すことができます。ビジネス関数によって、トランザクションまたはそのサブセットが実行されます（在庫照会、作業オーダー発注など）。また、ビジネス関数にはAPIも含まれているため、フォーム、データベース・トリガー、またはJD Edwards EnterpriseOne以外のアプリケーションから呼び出すこともできます。ビジネス関数は、他のビジネス関数、フォーム、イベント・ルール、その他の構成要素と組み合わせてアプリケーションを構成します。ビジネス関数の作成には、イベント・ルール、またはCなどの第3世代言語を使用します。ビジネス関数の例としては、与信チェック（Credit Check）や在庫照会（Item Availability）などがあげられます。
ビジネス関数イベント・ルール	“ネームド・イベント・ルール（NER）”の説明を参照してください。
ビジネス・サービス	Javaで記述されたEnterpriseOneのビジネス・ロジックです。ビジネス・サービスは、1つ以上のアーティファクトのコレクションです。他に指定されていなければ、ビジネス・サービスは公開ビジネス・サービスとビジネス・サービスの両方を意味します。
ビジネス・サービス・アーティファクト	ビジネス・サービスを開発するために管理され、ビジネス・サービスのビルド・プロセスに必要な、ソース・ファイル、ディスクリプタなどです。
ビジネス・サービス・クラス・メソッド	ビジネス・サービスのフレームワークから提供されるリソースにアクセスするメソッドです。
ビジネス・サービス構成ファイル	interop.ini、JDBj.iniおよびjdelog.propertiesなど（他にもある）の構成ファイルです。
ビジネス・サービス相互参照	オーケストレーション中に使用されるキーと値のデータの組合せです。WSG/XPIベースのシステムにおけるコードとキーの相互参照を表します。
ビジネス・サービス相互参照ユーティリティ	JD Edwards EnterpriseOneのオーケストレーション相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
ビジネス・サービス開発環境	統合開発者がビジネス・サービスを開発および管理する際に必要なフレームワークです。
ビジネス・サービス開発ツール	JDeveloperという名前でも知られています。
ビジネス・サービス EnterpriseOneオブジェクト	EnterpriseOne LCMツールによって管理されるアーティファクトのコレクションです。テーブル、ビュー、フォームなどの他のEnterpriseOneオブジェクトと同様に、EnterpriseOne LCM内に名前付きで表示されます。

ビジネス・サービス・フレームワーク	特にビジネス・サービスの開発を支援する、ビジネス・サービスの基盤の一部です。
ビジネス・サービス・ペイロード	エンタープライズ・サーバーとビジネス・サービス・サーバーとの間で受け渡されるオブジェクトです。ビジネス・サービス・ペイロードには、ビジネス・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスに入力される情報が含まれます。ビジネス・サービス・ペイロードには、エンタープライズ・サービス・サーバーに渡されたときにビジネス・サービスから返される結果が含まれます。通知の際、返されたビジネス・サービス・ペイロードには確認応答が含まれます。
ビジネス・サービス・プロパティ	ビジネス・サービスの動作または機能の制御に使用されるキー値データの組合せです。
ビジネス・サービス・プロパティ管理ツール	開発者および管理者がビジネス・サービス・プロパティのレコードの管理に使用するEnterpriseOneアプリケーションです。
ビジネス・サービス・プロパティのビジネス・サービス・グループ	ビジネス・サービス・プロパティをビジネス・サービス・レベルで分類したものです。通常、ビジネス・サービス名として表されます。1つのビジネス・サービス・レベルには、1つ以上のビジネス・サービス・プロパティ・グループが含まれます。各ビジネス・サービス・プロパティ・グループは、0個以上のビジネス・サービス・プロパティ・レコードを含むことができます。
ビジネス・サービス・プロパティのカテゴリ化	ビジネス・サービス・プロパティをカテゴリ化する方法です。これらのプロパティは、ビジネス・サービス別にカテゴリ化されます。
ビジネス・サービス・プロパティ・キー	ビジネス・サービス・プロパティをシステム全体でグローバルに識別する一意の名前です。
ビジネス・サービス・プロパティ・ユーティリティ	EnterpriseOneのビジネス・サービス・プロパティ・データにアクセスするためにビジネス・サービスの開発で使用するユーティリティAPIです。
ビジネス・サービス・プロパティ値	ビジネス・サービス・プロパティの値です。
ビジネス・サービス・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトおよびビルド・ファイルを格納するClearCaseなどのソース管理システムです。または、ネットワーク内の物理ディレクトリのことをいいます。
ビジネス・サービス・サーバー	ビジネス・サービスが置かれる物理マシンです。ビジネス・サービスは、アプリケーション・サーバー・インスタンス上で実行されます。
ビジネス・サービス・ソース・ファイル/ビジネス・サービス・クラス	ビジネス・サービス・アーティファクトの種類の1つです。Javaコンパイラでコンパイルされるように記述された、javaファイル・タイプのテキスト・ファイルです。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート	Cビジネス関数で使用する、ビジネス・サービス値オブジェクトの構造表現です。
ビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレート・ユーティリティ	ビジネス・サービス値オブジェクトからビジネス・サービス値オブジェクト・テンプレートを作成する際に使用されるユーティリティです。
ビジネス・サービス・サーバー・アーティファクト	ビジネス・サービス・サーバーにデプロイされるオブジェクトです。
ビジネス・ビュー	アプリケーションやレポートでデータが使用されているJD Edwards EnterpriseOne テーブル(複数可)から、特定のカラムを選択するために使用されます。ビジネス・ビュー自体には特定のローを選択する機能はありません。また、ビジネス・ビューに実際のデータは含まれていません。ビジネス・ビューは、情報の表示専用の機能であり、このビューを介してデータを操作できます。
セントラル・オブジェクトのマージ	現行のリリースで顧客がオブジェクトに加えた変更を、新規のリリースのオブジェクトに統合する処理です。
セントラル・サーバー	最初にインストールされ、クライアント・マシンに配布されるソフトウェア・バージョン(セントラル・オブジェクト)を格納するために指定されたサーバーです。JD

	Edwards EnterpriseOneの典型的なインストールでは、ソフトウェアは1つのマシン、すなわちセントラル・サーバーにロードされます。次に、セントラル・サーバーにつながっている各種のワークステーションに対して、ソフトウェアのコピーがプッシュ・アウトまたはダウンロードされます。このような構成にすることで、ワークステーション上での使用によってソフトウェアが変更されたり、破損したりした場合でも、常にセントラル・サーバーから変更前のオブジェクトのセット(セントラル・オブジェクト)を入手できます。
チャート	JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアのフォームに表示される表形式の情報です。
チェックイン・リポジトリ	開発者がビジネス・サービス・アーティファクトをチェックインおよびチェックアウトするリポジトリです。チェックイン・リポジトリは複数あります。各リポジトリは、それぞれ別の目的に使用されます(開発、本稼働、テストなど)。
コネクタ	JD Edwards EnterpriseOneとサード・パーティ・アプリケーションの間にロジックとデータの共有を可能にする、コンポーネント・ベースのインタオペラビリティ(相互運用)モデルです。JD Edwards EnterpriseOneコネクタ・アーキテクチャにはJavaコネクタとCOMコネクタが含まれています。
相殺/相手勘定	JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementの一般会計勘定科目であり、仕訳入力の相殺(貸借一致)処理に使用されます。たとえば、相殺/相手勘定を使用して、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでの配賦によって作成された会計入力の貸借一致を行います。
コントロール・テーブル・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、必要なマージを行うためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。このマージにより、データ辞書、ユーザー定義コード、メニュー、ユーザー一時変更テーブルが更新されます。
コントロール・テーブルのマージ	顧客がコントロール・テーブルに加えた変更を、新規リリースのデータに統合する処理です。
関連データ	ビジネス・サービス名およびメソッドで構成されるリクエストとHTTPレスポンスとの関連付けに使用されるデータです。
コスト割当	JD Edwards EnterpriseOne収益性分析のプロセスであり、アクティビティまたはコスト・オブジェクトへのリソースの配賦またはトレースに使用されます。
原価要素	JD Edwards EnterpriseOne製造管理において、特定の品目の原価を構成する要素(資材費、人件費、間接費など)を表します。
資格証明	JD Edwards EnterpriseOneのユーザー名/パスワード/環境/ロール、EnterpriseOneセッションまたはEnterpriseOneトークンの有効なセットです。
相互参照ユーティリティ・サービス	EnterpriseOneの相互参照データへのアクセスに使用される、BPEL/ESB環境にインストールされたユーティリティ・サービスです。
セグメント間編集	コンフィギュレーション可能な品目セグメント間の関係を設定する論理ステートメントです。セグメント間編集を使用して、製造不可能なコンフィギュレーションに基づくオーダーを防ぐことができます。
通貨再換算	通貨を別の通貨に換算するプロセスであり、一般的にレポートで使用されます。たとえば、通貨再換算のプロセスを使用して、様々な通貨を単一の通貨に換算する必要がある連結レポートの作成に対応できます。
cXML	伝票と調達アプリケーションとの通信や、電子商取引ハブと仕入先との通信の簡素化に使用されるプロトコルです。
データベース資格証明	有効なデータベース・ユーザー名/パスワードです。
データベース・サーバー	データベースの管理やクライアント・マシンの検索を実行するローカル・エリア・ネットワーク内のサーバーです。

データ・ソース・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行中に、インストール・プランに定義されたすべてのデータ・ソースを、プランナのデータ・ソースに含まれるテーブル/データ・ソース・サイジング・テーブルおよびデータ・ソース・マスターから、システムのリリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、データ・ソース・プラン詳細レコードも更新されます。
期間パターン	標準会計と52期間会計で、会計年度の開始日とその会計年度内の各期間の終了日を表すカレンダーです。
指定通貨	会社の財務レポートで基準として使用される通貨です。
デプロイメント・アーティファクト	サーバー、ポートなど、デプロイメント・プロセスに必要なアーティファクトです。
デプロイメント・サーバー	エンタープライズ・サーバーとクライアント・マシンへのソフトウェアのインストールや、それらのソフトウェアの管理、配布に使用されるサーバーです。
明細情報	JD Edwards EnterpriseOneの取引における個別の行に関する情報です。伝票支払品目や受注オーダー明細行などがあります。
ダイレクト接続	クライアント・アプリケーションとサーバー・アプリケーションが対話形式で直接通信するトランザクション方式です。 “一括バッチ処理”、“オフライン処理”の説明も参照してください。
DNT (Do Not Translate)	BLOBデータの制約のため、iSeriesサーバーに必要なデータ・ソースのタイプです。
2重価格設定	商品やサービスに対し、2種類の通貨で価格を設定するプロセスです。
重複した公開ビジネス・サービス承認レコード	同じユーザー識別情報と公開ビジネス・サービス識別情報を持つ、2つの公開ビジネス・サービス承認レコードです。
埋込みアプリケーション・サーバー・インスタンス	JDeveloperから起動され、完全にJDeveloper内で実行されるOC4Jインスタンスです。
編集コード	レポートやフォーム上の特定の値が、どのように表示またはフォーマットされるべきかを示すコードです。レポートに属するデフォルトの編集コードは大量の情報に関連しているため、使用時には注意が必要です。
編集モード	ユーザーによるデータの変更が可能なフォームの状態です。
編集ルール	ユーザーが入力したデータを、事前に定義されたルールやルールのセットに照合して、フォーマットや検証を行うための方法です。
電子データ交換 (EDI)	JD Edwards EnterpriseOneシステムとサード・パーティ・システムの間で、コンピュータ間の業務取引データの交換をペーパーレスに行うことを可能にするインタオペラビリティ・モデルです。EDIを使用する場合、EDI標準フォーマットから自社システムで使用されているフォーマットにデータを変換するためのソフトウェアを備えている必要があります。
埋込みイベント・ルール	特定のテーブルやアプリケーション専用のイベント・ルールです。たとえば、フォーム間の呼び出し、処理オプションの値に基づくフィールドの非表示化、ビジネス関数の呼び出しなどが含まれます。汎用的な“ビジネス関数イベント・ルール”とは対照的に使用されます。
従業員ワーク・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。各ユーザーには、アクティブ・メッセージなどのメッセージやワークフローを含むメールボックスが割り当てられます。
エンタープライズ・サーバー	JD Edwards EnterpriseOneのデータベースとロジックを格納するサーバーです。

ESB (Enterprise Service Bus)	イベント駆動型のXMLベースのメッセージング・フレームワーク(バス)を使用してサービス指向アーキテクチャを有効にする、Webサービス標準に準拠したミドルウェア・インフラストラクチャ製品またはテクノロジーです。
EnterpriseOne管理者	EnterpriseOne管理システムの担当者です。
EnterpriseOne資格証明	EnterpriseOneユーザーの検証に使用される、ユーザーID、パスワード、環境およびロールです。
EnterpriseOneオブジェクト	アプリケーションのビルドに使用される再利用可能なコードです。オブジェクトのタイプには、テーブル、フォーム、ビジネス関数、データ辞書項目、バッチ処理、ビジネス・ビュー、イベント・ルール、バージョン、データ構造体、メディア・オブジェクトなどがあります。
EnterpriseOne開発クライアント	以前は“ファット・クライアント”と呼ばれていた、Microsoft Windowsのクライアントおよび設計ツールを含む、EnterpriseOneアーティファクトの開発に必要なインストール済EnterpriseOneコンポーネントのコレクションです。
EnterpriseOne拡張機能	EnterpriseOne固有の、JDeveloperのコンポーネント(プラグイン)です。JDeveloperウィザードは、拡張機能の具体例の1つです。
EnterpriseOneプロセス	JD Edwards EnterpriseOneクライアントおよびサーバーで、プロセス・リクエストの処理とトランザクションの実行を可能にするソフトウェア・プロセスです。クライアントでは1つのプロセスが実行され、サーバーでは1つのプロセスの複数のインスタンスを処理できます。JD Edwards EnterpriseOneプロセスを、ワークフロー・メッセージやデータ・レプリケーションなど特定のタスク専用のプロセスに指定することで、サーバーが大量のタスクを処理している場合でも重要なプロセスの実行を確保できます。
EnterpriseOneリソース	権限を持つユーザーに限定された、EnterpriseOneのテーブル、メタデータ、ビジネス関数、辞書情報またはその他の情報です。
環境ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、環境情報および各環境のオブジェクト構成マネージャ・テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号のデータ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、環境プラン詳細レコードも更新されます。
エスカレーション・モニター	処理待ちのリクエストやアクティビティを監視し、それらが非アクティブの状態のまま指定した時間が経過した場合に、再実行するか、または次のステップやユーザーに処理を進めるバッチ・プロセスです。
イベント・ルール	フォームの入力や、フィールド間の移動など、特定のアプリケーションで実行された操作に基づいて処理(複数可)の実行をシステムに指示する論理ステートメントです。
明示的トランザクション	ビジネス・サービス開発者がビジネス・サービス内のトランザクション境界のタイプ(自動または手動)および範囲を明示的に制御する際に使用されるトランザクションです。
公開されたメソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部である、公開ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。顧客との契約の一部でもあります。
施設、事業所	原価のトラッキングの対象となる業務単位の1つです。たとえば、倉庫所在地、ジョブ、プロジェクト、ワーク・センター、事業所などがあります。“ビジネスユニット”と呼ばれる場合もあります。
略式コマンド	特定のコマンドを使用することで、メニューやアプリケーション間を迅速に移動できるコマンド・プロンプト機能です。
ファイル・サーバー	ネットワーク上で他のコンピュータからアクセスされるファイルを保存するサーバーです。リモート・ディスク・ドライブとしてユーザーに表示されるディスク・サーバーとは異なり、ファイル・サーバーには、単にファイルを保存するだけではなく、ネッ

	トワーク・ユーザーがファイルをリクエストしたりファイルを更新した場合に、それらの要求を整理してファイルを管理するための高度な機能が備えられています。
最終モード	データ・レコードの更新や作成を行うプログラムの処理モードの1つです。
基盤	実行時にビジネス・サービスを実行するためにアクセス可能にする必要のあるフレームワークです。例として、Java ConnectorおよびJDBJがあげられます(この他にもあります)。
FTPサーバー	FTP(ファイル転送プロトコル)を通じてファイルへのリクエストに応答するサーバーです。
見出し情報	テーブルやフォームの先頭に表示される情報です。見出し情報を使用して、付随するレコード・グループの制御情報が識別または提供されます。
HTTPアダプタ	特定のURLを指定したGET、POST、PUT、DELETE、TRACE、HEADおよびOPTIONSなどの基本HTTP操作に使用される、サービスの汎用セットです。
インスタンス化	“作成する”という意味のJava用語です。クラスがインスタンス化されると、新しいインスタンスが作成されます。
統合開発者	EnterpriseOneビジネス・サービスを開発、実行およびデバッグする、システムのユーザーです。統合開発者は、EnterpriseOneビジネス・サービスを使用してそのようなコンポーネントを開発します。
インテグレーション・ポイント(IP)	ドキュメント・レベルのインターフェイスを公開する、EnterpriseOneの以前の実装におけるビジネス・ロジックです。このタイプのロジックは、XBPと呼ばれていました。EnterpriseOne 8.11では、webMethodsのサポートにより、IPがWebサービスゲートウェイに実装されました。
インテグレーション・サーバー	コンピュータが内部および外部のネットワークで接続されたシステム環境で、異なるオペレーティング・システムやアプリケーション間でのデータの交換を行うための機能を提供するサーバーです。
整合性テスト	データの整合性を維持するための社内プロセスを補強するプロセスで、貸借が一致していないデータや矛盾のあるデータの検出と報告を行います。
インターフェイス・テーブル	“Zテーブル”の説明を参照してください。
内部メソッド/値オブジェクト	公開インターフェイスの一部ではない、ビジネス・サービスのソース・ファイルまたはその一部です。privateメソッドまたはprotectedメソッドがこれに相当するといえます。publishedメソッドで使用されない値オブジェクトもこれに相当するといえます。
インタオペラビリティ・モデル	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneへの接続やアクセスを行うための機能です。
エラー表示の有効化	JD Edwards EnterpriseOneにおけるフォーム・レベルのプロパティで、有効にすると、アプリケーション・エラーが発生した場合にエラー・メッセージがフォーム上に表示されます。
IServerサービス	Webサーバーに常駐するインターネット・サーバーサービスで、データベースからクライアントへのJavaクラスのファイル配信を高速化するために使用されます。
代替ラベル	代替的なデータ辞書項目のラベルで、使用されているオブジェクトの製品コードに基づいてJD Edwards EnterpriseOneアプリケーションに表示されます。
Javaアプリケーション・サーバー	サーバー中心のアーキテクチャの中間層に置かれるコンポーネント・ベースのサーバーです。このサーバーは、データのアクセスや永続性ととともに、セキュリティとステータスの管理を行うためのミドルウェア・サービスを提供します。
JDBNET	異種サーバー間でのデータ・アクセスを実現するためのデータベース・ドライバです。

JDEBASEデータベース・ミドルウェア	JD Edwards EnterpriseOne独自のデータベース・ミドルウェア・パッケージで、プラットフォームに依存しないAPIとクライアント/サーバー間のアクセスを提供します。
JDECallObject	ビジネス関数から他のビジネス関数を呼び出すためのAPIです。
jde.ini	JD Edwards EnterpriseOneの初期設定に必要なランタイム設定を提供するJD Edwards EnterpriseOneファイル(またはiSeries用のメンバー)です。JD Edwards EnterpriseOneを実行する各マシンごとに、ファイルまたはメンバーの特定バージョンを常駐させる必要があります。これには、ワークステーションとサーバーも含まれます。
JDEIPC	サーバーコードによって使用される通信プログラミング・ツールであり、マルチプロセス環境における同一データへのアクセス制御、プロセス間の通信と調整、新規プロセスの作成を行います。
jde.log	JD Edwards EnterpriseOneの主要な診断ログ・ファイルです。このファイルは常に主ドライブのルート・ディレクトリに置かれ、JD Edwards EnterpriseOneの起動以降の状況とエラー・メッセージが書き込まれます。
JDENET	JD Edwards EnterpriseOne独自の通信ミドルウェア・パッケージで、ピア・ツーピア、メッセージ・ベース、ソケット・ベースのマルチプロセス通信用のミドルウェア・ソリューションです。JD Edwards EnterpriseOneのすべてのサポート対象プラットフォームでクライアント/サーバー間、サーバー/サーバー間の通信を処理します。
JDeveloperプロジェクト	JDeveloperでソース・ファイルのカテゴリ化およびコンパイルに使用されるアーティファクトです。
JDeveloperワークスペース	JDeveloperでプロジェクト・ファイルの編成に使用されるアーティファクトです。1つ以上のプロジェクト・ファイルがここに配置されます。
JMSキュー	ポイントツーポイントのメッセージングに使用されるJavaメッセージング・サービス・キューです。
リスナー・サービス	HTTP経由でXMLメッセージをリスニングするリスナーです。
ローカル・リポジトリ	ビジネス・サービス・アーティファクトの格納に使用される、開発者のローカル開発環境です。
ローカルのスタンドアロンBPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされていない、スタンドアロンBPEL/ESBサーバーです。
ロケーション・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、インストール・プランに定義されたすべてのロケーションを、プランナ・データ・ソースの保管場所マスターからシステム・データ・ソースにコピーするアプリケーションです。
ロジック・サーバー	アプリケーション・プログラムにビジネス・ロジックを提供する、分散ネットワーク内のサーバーです。典型的なコンフィギュレーションでは、プリスティン・オブジェクトがセントラル・サーバーからロジック・サーバーに複製されます。JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアの実行時に、ロジック・サーバーでは、ワークステーションと連動して、必要な処理が実際に実行されます。
差し込み印刷ワークベンチ	業務文書を自動的に印刷するため、Microsoft Word 6.0またはそれ以上のバージョンの文書とJD Edwards EnterpriseOneのレコードをマージするアプリケーションです。たとえば、雇用の証明に関する文書を印刷する際に、差し込み印刷ワークベンチを使用できます。
手動コミット・トランザクション	コミットがコールされるまで、すべてのデータベース操作によるデータベースへの書き込みが遅延されるデータベース接続です。
マスター・ビジネス関数(MBF)	データベース内の情報の追加、変更、更新を担う中心のロケーションとして機能する対話型のマスター・ファイルです。マスター・ビジネス関数によって、データ入力フォームと該当するテーブル間でのデータの交換が行われます。マスター関数によって、すべての必要なデフォルト値と編集ルールを含む関数の共通セット

	が、関連するプログラムに提供されます。MBFには、データベースの情報を追加、更新、削除する際の整合性を確保するロジックが含まれています。
マスター・テーブル	“パブリッシュ済テーブル”の説明を参照してください。
照合伝票	取引を完了または変更するために、当初伝票と関連付けられる伝票です。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne Financial Managementでは、入金請求書の照合伝票に、支払が支払伝票の照合伝票になります。
メディア・ストレージ・オブジェクト	Gxxx、xxxGT、またはGTxxxのいずれかの命名規則を使用するファイルで、テーブルの形で分類されていないオブジェクトです。
メッセージ・センター	発信側のアプリケーションやユーザーに関係なく、システム生成メッセージとユーザー作成メッセージを含むすべてのJD Edwards EnterpriseOneメッセージの送受信を行うための中心となるロケーションです。
メッセージング・アダプタ	サード・パーティ・システムからJD Edwards EnterpriseOneに接続し、メッセージ・キューを使用してデータの交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
メッセージング・サーバー	メッセージングAPIを使用して、他のプログラムで使用するために送信されたメッセージを処理するサーバーです。メッセージング・サーバーには、通常、関数を実行するためのミドルウェア・プログラムが配備されます。
中間層BPEL/ESBサーバー	アプリケーション・サーバーにインストールされたBPEL/ESBサーバーです。
監視アプリケーション	管理者が各種EnterpriseOneサーバーの統計情報を取得し、統計をリセットしたり通知を設定したりできる、EnterpriseOneのツールです。
ネームド・イベント・ルール (NER)	カプセル化された再利用可能なビジネス・ロジックです。C言語ではなく、イベント・ルールを使用して作成されます。NERは、ビジネス関数イベント・ルールとも呼ばれます。NERは、複数のプログラムによって、複数の場所で繰り返し使用できます。このようなモジュール方式での提供によって、コードの合理性や再利用性が高まり、必要な作業がより少なくなります。
Nota Fiscal	ブラジルでは、税務処理のためにすべての商取引についてこの書式を作成し、税法で指定された情報を含めることが義務付けられています。
Nota Fiscal Factura	ブラジルで使用する書式です。伝票情報を伴う“Nota Fiscal”です。 “Nota Fiscal”の説明も参照してください。
オブジェクト構成マネージャ (OCM)	JD Edwards EnterpriseOneでは、ランタイム環境で使用されるオブジェクトのリクエスト・ブローカーおよび制御センターとして機能します。OCMによって、ビジネス関数、データ、バッチ・アプリケーションのランタイム・ロケーションが追跡されます。これらのオブジェクトのいずれかが呼び出されると、OCMでは、指定された環境/ユーザーのデフォルト値と一時変更情報に基づいて、そのオブジェクトにアクセスするためのロケーションが特定されます。
オブジェクト・ライブラリアン	アプリケーションのビルドに繰り返し使用できるすべてのバージョン、アプリケーション、ビジネス関数のリポジトリです。オブジェクト・ライブラリアンによって、開発者にチェックアウト機能とチェックイン機能が提供されます。また、JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトの作成、変更、使用も管理されます。オブジェクト・ライブラリアンは、稼働環境や開発環境など複数の環境に対応しているため、異なる環境間でオブジェクトを簡単に移動できます。
オブジェクト・ライブラリアンのマージ	これまでのリリースでオブジェクト・ライブラリアンに加えられたすべての変更を、新規リリースのオブジェクト・ライブラリアンに統合する処理です。
オープン・データ・アクセス (ODA)	データの集計とレポート作成のために、SQLステートメントを使用してJD Edwards EnterpriseOneのデータを抽出できるインタオペラビリティ・モデルです。

出力ストリーム・アクセス (OSA)	JD Edwards EnterpriseOneのインターフェイスを設定し、別のソフトウェア・パッケージ (Microsoft Excelなど) にデータを渡して処理を実行するためのインタオペラビリティ・モデルです。
パッケージ	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトは、デプロイメント・サーバーからパッケージとしてワークステーションにインストールされます。パッケージには、部品表やキットなどのように、各ワークステーションに必要なオブジェクトが含まれます。さらに、デプロイメント・サーバー上でのオブジェクトの位置が示されるため、インストール・プログラムがそれらのオブジェクトを検出できるようになっています。パッケージは、ある時点におけるデプロイメント・サーバー上のセントラル・オブジェクトを示すスナップ・ショットでもあります。
パッケージ・ビルド	既存ユーザーに対し、ソフトウェアの変更や新規アプリケーションの反映を容易に行うためのソフトウェア・アプリケーションです。また、JD Edwards EnterpriseOneでは、パッケージ・ビルドとは、ソフトウェアのコンパイル済バージョンを指す場合もあります。たとえば、使用しているERPソフトウェアのバージョンをアップグレードする際に、“パッケージ・ビルド”を使用するという場合があります。 “パッケージ・ビルド”という用語は、たとえば次のようにも使用されます「また、パッケージ・ビルドの間に行われるビジネス関数のグローバル・ビルドには新しい関数が自動的に含まれるため、デプロイの準備ができるまでビジネス関数を本稼働パス・コードに含めないでください」。このように、パッケージ・ビルドを作成するプロセスが“パッケージ・ビルド”と呼ばれる場合もあります。
パッケージ・ロケーション	パッケージとその複製オブジェクトのセットが格納されるディレクトリ構造上の位置です。通常は、“¥¥デプロイメント・サーバー¥リリース¥パス・コード¥パッケージ¥パッケージ名”になります。このパスの下の子ディレクトリに、パッケージの複製オブジェクトが格納されます。パッケージがビルドまたは格納される場所を指す場合もあります。
パッケージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、パッケージ情報テーブルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースに転送するアプリケーションです。処理の結果を反映するため、パッケージ・プラン詳細レコードも更新されます。
パスコード・ディレクトリ	EnterpriseOne開発アーティファクトを格納する、EnterpriseOne開発クライアント上にあるファイル・システムの特定の部分です。
パターン	ソフトウェアの設計でよく発生する問題に対し、繰り返して使用される一般的な解決策です。ビジネス・サービスの開発では、オブジェクトのリレーションシップとやり取りに重点が置かれます。オーケストレーションでは、統合パターン (同期/非同期のリクエスト/レスポンス、パブリッシュ、通知、受信/応答など) に重点が置かれます。
計画ファミリ	設計と製造に類似点があるため、まとめて計画する方が合理的である複数の最終品目をグループ化する手段です。
優先プロファイル	品目、品目グループ、顧客、および顧客グループについて、ユーザー定義の階層 (順序) に基づいて指定したフィールドのデフォルト値を定義する機能です。
プリント・サーバー	ネットワークとプリンタ間のインターフェイスであり、ネットワーク・クライアントはこのインターフェイスを介してプリンタに接続し、印刷ジョブを送信します。コンピュータ、独立したハードウェア・デバイス、またはプリンタ内部のハードウェアのどれでも、プリンタ・サーバーとして使用できます。
プリステイン環境	JD Edwards EnterpriseOneのデモ・データを使用した未変更オブジェクトのテストに使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。研修環境としても使用されます。変更したオブジェクトと変更前のオブジェクトを比較するには、この環境が必要になります。
処理オプション	バッチ・プログラムやレポートの実行を制御するパラメータをユーザーが指定するためのデータ構造です。たとえば、処理オプションを使用して、特定のフィールド

	<p>ドのデフォルト値の指定、情報の表示および印刷の方法、日付範囲の指定、プログラムの実行を制御するランタイム値の入力などを行います。</p>
本稼働用環境	<p>ユーザーがJD Edwards EnterpriseOneソフトウェアを実際に使用するJD Edwards EnterpriseOne環境です。</p>
本稼働レベルのファイル・サーバー	<p>品質が保証され商品化されたファイル・サーバーで、通常はユーザーサポート・サービスとともに提供されます。</p>
本稼働公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>本稼働アプリケーション・サーバーにデプロイされた、公開ビジネス・サービスのWebサービスです。</p>
プログラム一時修正 (PTF)	<p>JD Edwards EnterpriseOneソフトウェアに加えられた変更で、磁気テープやディスクの形式でユーザー企業に提供されます。</p>
プロジェクト	<p>JD Edwards EnterpriseOneでは、オブジェクト管理ワークベンチで開発されたオブジェクトのための仮想コンテナを指します。</p>
プロモーション・パス	<p>ワークフロー内におけるオブジェクトやプロジェクトの進捗状況を示すパスです。標準的なプロモーション・サイクル(パス)は次のとおりです。</p> <p>11>21>26>28>38>01</p> <p>このパスでは、11は検討待ちの新規プロジェクト、21はプログラミング、26は品質管理テスト/検討、28は品質管理テスト/検討の完了、38は本稼働、01はサイクルの完了をそれぞれ表します。たとえば標準的なプロジェクト・プロモーション・サイクルで、開発者は、開発(プログラミング)のパス・コードからチェックアウトしたオブジェクトをチェックインして戻したら、それらのオブジェクトをプロトタイプ(テスト)のパス・コードに進めます。すべての作業が終了したオブジェクトは、完了の前に本稼働のパス・コードに移されます。</p>
プロキシ・サーバー	<p>企業がセキュリティ管理、管理統制、サービスのキャッシュ化を確実に行うことができるように、ワークステーションとインターネットの間で防壁として機能するサーバーです。</p>
公開ビジネス・サービス	<p>EnterpriseOneのサービス・レベルのロジックおよびインターフェイスです。公開ビジネス・サービスに分類されている場合、外部(EnterpriseOne以外)のシステムに公開する意図があることを示しています。</p>
公開ビジネス・サービス識別情報	<p>関係のある承認レコードの特定に使用される、公開ビジネス・サービスに関する情報です。公開ビジネス・サービスとメソッド名、公開ビジネス・サービスのみ、または*ALLが使用されます。</p>
公開ビジネス・サービスのWebサービス	<p>J2EE Webサービスとしてパッケージされた、公開ビジネス・サービスのコンポーネント(つまり、ビジネス・サービス・クラス、ビジネス・サービス基盤、構成ファイルおよびWebサービス・アーティファクトを格納したJ2EE EARファイル)です。</p>
パブリッシュ済テーブル	<p>マスター・テーブルとも呼ばれ、他のマシンにレプリケートされる元のテーブルです。パブリッシュ・マシンに格納されるF98DRPUBテーブルにより、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュが識別されます。</p>
パブリッシュ	<p>パブリッシュされたテーブルを扱うサーバーです。F98DRPUBテーブルでは、企業内のすべてのパブリッシュ済テーブルと関連するパブリッシュの識別が行われます。</p>
プル・レプリケーション	<p>JD Edwards EnterpriseOneでデータを個別のワークステーションにレプリケートする方法の1つです。レプリケート先のマシンは、JD Edwards EnterpriseOneのデータ・レプリケーション・ツールを使用して、プル・サブスクライバとしてセットアップされます。プル・サブスクライバが情報を要求した場合にのみ、変更、更新、削除が通知されます。通常は起動時に、プル・サブスクライバからF98DRPCNテーブルが置かれているサーバーに対し、要求がメッセージ形式で送信されます。</p>

QBE	Query by Example (例示照会) の略語です。JD Edwards EnterpriseOne では、QBE 行は、詳細グリッドの最上段にあり、データのフィルタリングに使用されます。
リアルタイム・イベント	外部システムで使用するために EnterpriseOne のアプリケーション・ロジックからトリガーされるメッセージです。
リフレッシュ	新規リリースや PTF/累積アップデート・リリース (B73.2 や B73.2.1 など) に問題なく対応できるように、JD Edwards EnterpriseOne ソフトウェアまたはそのサブセット (テーブルや業務データなど) を修正する機能です。
レプリケーション・サーバー	クライアント・マシンへのセントラル・オブジェクトのレプリケーションを扱うサーバーです。
Rt-Addressing	ビジネス・サービス呼出しリクエストのホスト/ポート・ユーザー・セッションを開始するブラウザ・セッションを特定する一意のデータです。
規則	ツールによって強制されるのではなく、目的の結果を得るため、および指定された標準に準拠するために従う必須のガイドラインです。
見積オーダー	JD Edwards EnterpriseOne 調達管理および外注管理では、仕入先からの品目情報と価格情報のリクエストを指します。見積オーダーから購買オーダーを作成できます。 JD Edwards EnterpriseOne 受注管理では、まだ発注を行っていない顧客に対する品目情報と価格情報を指します。
Secure by Default	特定のレコードによってユーザーがオブジェクトの実行権限を持つことが示されないかぎり、ユーザーがオブジェクトの実行権限を持たないとみなすセキュリティ・モデルです。
SSL (Secure Socket Layer)	通信の機密性を提供するセキュリティ・プロトコルです。SSL を使用することで、クライアントとサーバー・アプリケーションは、盗聴、改ざん、なりすましを防ぐように設計された方法で通信できます。
SEI 実装	サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI) を宣言するメソッドを実装する Java クラスです。
選択項目	JD Edwards EnterpriseOne メニューに表示される選択項目は、メニューからアクセスできる各機能を表します。選択するには、関連する番号を選択フィールドに入力して [Enter] キーを押します。
シリアルライズ	オブジェクトやデータを、格納用の形式またはネットワーク接続リンク上で送受信できる形式に変換し、必要なときに元のデータやオブジェクトを再作成できるプロセスです。
サーバーワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、サーバー設定ファイルを、プランナ・データ・ソースからシステム・リリース番号データ・ソースにコピーするアプリケーションです。コピーされたデータを反映するため、サーバープラン詳細レコードも更新されます。
サービス・エンドポイント・インターフェイス (SEI)	クライアントからのサービスの呼出しを可能にするメソッドを宣言する Java インターフェイスです。
SOA	Service Oriented Architecture の略語です。
ソフトコーディング	指定されたプロセスの実行に影響するサイト固有の変数を管理者が操作できるコーディング技術です。
ソース・リポジトリ	HTTP アダプタおよびリスナー・サービス開発環境アーティファクト用のリポジトリです。
スポット・レート	取引レベルで入力される為替レートです。このレートは、2 つの通貨の間に設定されている為替レートより優先して使用されます。

スペックのマージ	オブジェクト・ライブラリアン、バージョン・リスト、およびセントラル・オブジェクトの3つのマージで構成されるマージ処理です。この機能を使用して、顧客が変更したデータを新規リリースのデータに統合できます。
スペック	JD Edwards EnterpriseOneオブジェクトを完全に記述したものです。各オブジェクトには、アプリケーションのビルドに使用される固有のスペックまたは名前があります。
スペック・テーブル・マージ・ワークベンチ	インストール・ワークベンチ・プロセスの実行時に、スペック・テーブルを更新するためのバッチ・アプリケーションを実行するアプリケーションです。
SSL証明書	ユーザー名およびそのユーザーの公開鍵が記載された、認証局が署名した特別なメッセージです。メッセージが認証局によって正規に署名されたことを誰もが確認でき、そのためユーザーの公開鍵に対する信用が強化されます。
オフライン処理	サーバーに接続していないユーザーがトランザクションを入力し、後でサーバーに接続して、入力したトランザクションをアップロードできる処理モードです。
サブスクリイバ・テーブル	F98DRSUBテーブルを指します。このテーブルは、F98DRPUBテーブルとともにパブリッシャ・サーバーに置かれ、各パブリッシュ済テーブルに対するすべてのサブスクリイバ・マシンの識別に使用されます。
スーパークラス	クラスは何かのインスタンスであり、それをさらに詳細にしたものであるという、Java言語の継承についての概念です。たとえば、木は樅や榎のスーパークラスであるといえます。
補足データ	<p>マスター・テーブルで管理されないすべての情報を指します。通常、補足データとして、従業員、応募者、購買要求、職務(従業員の技能、取得学位、語学力など)に関する情報があります。補足データを使用することにより、実質的に組織で必要となるすべての情報を追跡管理できます。</p> <p>たとえば、標準のマスター・テーブル(住所録マスター、顧客マスター、仕入先マスター)とは別に、それらのテーブルでは管理されない情報を汎用データベースで管理します。汎用データベースを使用することで、JD Edwards EnterpriseOneシステム全体にわたって、標準的な方法で補足データの入力と管理を行うことができます。</p>
テーブル・アクセス管理(TAM)	ユーザー定義データの保存と取得を行うJD Edwards EnterpriseOneコンポーネントです。TAMには、データ辞書定義、アプリケーション/レポートのスペック、イベント・ルール、テーブル定義、ビジネス関数入力パラメータ、ライブラリ情報などの情報と、アプリケーション、レポート、ビジネス関数を実行するためのデータ構造体の定義が保存されます。
テーブル変換ディレクタ	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル変換	JD Edwards EnterpriseOneと、JD Edwards EnterpriseOne以外のテーブルを使用するサード・パーティ・システムとの間で、データ交換を行うためのインタオペラビリティ・モデルです。
テーブル・イベント・ルール	データベース・トリガーに添付されるロジックで、トリガーに指定されたアクションがテーブルに対して発生した場合に起動します。JD Edwards EnterpriseOneでは、イベント・ルールをアプリケーションのイベントに添付できますが、この機能はアプリケーション固有になります。テーブル・イベント・ルールでは、テーブル・レベルで埋込みロジックを提供します。
ターミナル・サーバー	このサーバーを使用して、端末、マイクロコンピュータ、その他の機器を、ネットワーク/ホスト・コンピュータ、または特定のコンピュータに取り付けられたデバイスに接続できます。
3ステップ処理	JD Edwards EnterpriseOneでのバッチ・トランザクションの入力、検討と承認、転記、という3種類のタスクを指します。

3方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、仕入先からの請求書と入荷情報を比較して伝票を作成するプロセスです。3方向照合では、入荷レコードに基づいて伝票を作成します。
トランザクション処理 (TP) モニター	ローカル端末およびリモート端末と、それらを設定したアプリケーションの間でのデータ交換を制御するモニター機能です。また、分散環境でのデータの整合性も確認します。TPモニターには、通常、データの検証と端末画面のフォーマットを行うプログラムが含まれます。
トランザクション処理方法	手動コミットのトランザクション境界の管理に関する方法です (開始、コミット、ロールバック、取消など)。
トランザクション・セット	複数のセグメントで構成されている電子的業務トランザクション (電子データ交換の標準ドキュメント) です。
トリガー	データ辞書項目ごとに定義される複数のイベントの1つです。イベントの発生時にシステム内で自動的に処理されるロジックをデータ辞書項目に添付できます。
トリガーイベント	特殊なアクションが必須であるか、または結果アクションが定義済の特定のワークフロー・イベントです。
2方向認証	クライアントとサーバーがSSL証明書を互いに提供することで相互に認証しあう認証メカニズムです。
2方向伝票照合	JD Edwards EnterpriseOne調達管理および外注管理で、購買オーダーの明細行と仕入先の請求書を比較して伝票を作成するプロセスです。入荷情報は記録されません。
ユーザー識別情報	ユーザーID、ロールまたは*publicです。
ユーザー一時変更のマージ	新規のユーザー一時変更レコードを、顧客が使用しているユーザー一時変更テーブルに追加する処理です。
値オブジェクト	データ構造がデータを渡すのと同様に入力/出力データを保持するソース・ファイルの特定のタイプです。値オブジェクトは、公開 (公開ビジネス・サービスで使用) か内部か、および入力か出力かを指定できます。値オブジェクトは、単純な要素および複雑な要素と、要素に対する付属情報から構成されます。
差異	JD Edwards EnterpriseOneキャピタル・アセット・マネジメントでは、1つの設備で発生した収益と、その設備に関連して発生した費用の差を意味します。 JD Edwards EnterpriseOneプロジェクト原価管理とJD Edwards EnterpriseOne製造管理では、同じ品目に対する2つの原価計算方式の間に生じる差異を意味します。たとえば、凍結標準原価と現行原価の差として設計差異が生じます。凍結標準原価は原価要素テーブルから取得され、現行原価は資材、工程、間接費の各レートを使用して計算されます。
公開ビジネス・サービスのバージョン	既存の機能/インターフェイスを変更せずに、他の機能/インターフェイスを公開ビジネス・サービスに追加することです。
バージョン・リストのマージ	バージョン・リストのマージを実行すると、新規リリースで有効なオブジェクトについて、非XJDEおよび非ZJDEバージョンのスペックとその処理オプション・データが維持されます。
ビジュアル・アシスト	ユーザーが各コントロールに属する有効なデータを判別できるように、コントロールからトリガーを介して起動できるフォームです。
用語一時変更	特定のJD Edwards EnterpriseOneフォームやレポートに表示される、データ辞書項目の代替的なラベルです。
wchar_t	ワイド文字の内部タイプです。国際市場向けの移植可能プログラムの記述に使用します。

Webアプリケーション・サーバー	Webアプリケーションと、電子商取引に使用されているバックエンド・システムおよびデータベースとの間で、データ交換を可能にするWebサーバーです。
Webサーバー	ブラウザから送信されたリクエストに応じて、TCP/IPプロトコルを使用して情報を送信するサーバーです。Webサーバーでは、ブラウザからのリクエストに応じるだけでなく、アプリケーションやデータの格納など、通常のサーバーが行うあらゆるタスクを処理できます。どのコンピュータでも、サーバーソフトウェアをインストールし、インターネットに接続すれば、Webサーバーとして使用できます。
WSDL (Web Service Description Language)	ネットワーク・サービスを記述するXML形式です。
WSIL (Web Service Inspection Language)	使用可能なサービスのサイトの検出を支援するXML形式、および検出に関連する情報の作成方法を示す一連の規則です。
Webサービス・プロキシ基盤	WAS上でWebサービスを使用するためにビジネス・サービス・サーバー・アーティファクトに含める必要のある、Webサービス・プロキシの基盤となるクラスです。
Webサービス・ソフトコーディング・レコード	Webサービス・プロキシの構成に使用する値が記述されたXMLドキュメントです。このドキュメントは、エンドポイントを特定し、条件付きでセキュリティ情報を含みます。
Webサービス・ソフトコーディング・テンプレート	ソフトコーディングされたレコードの構造を提供するXMLドキュメントです。
WHERE句	データベース操作の対象となるレコードを指定する、データベース操作の一部です。
Windowsターミナル・サーバー	マルチ・ユーザー機能を持つサーバーで、単体ではWindowsソフトウェアを実行できない端末や最小限構成のコンピュータでも、このサーバーに接続することにより、Windowsアプリケーションを使用できます。すべてのクライアント処理は、Windowsターミナル・サーバーで集中的に実行されます。画面表示、キー入力、およびマウス操作のコマンドのみが、ネットワーク経由でクライアントの端末機器とターミナル・サーバー間で転送されます。
ウィザード	JDeveloperの拡張機能の1つで、一連のステップを順を追って説明します。
ワークベンチ	関連のあるプログラムのグループに対して、1つのエントリ・ポイントからアクセスすることを可能にするプログラムです。通常、ワークベンチからアクセスするプログラムは、大規模な業務プロセスに使用されています。たとえば、JD Edwards EnterpriseOne給与計算サイクル・ワークベンチ (P07210) を使用して、給与の計算、支給レポートの印刷、給与レポートの作成、仕訳入力の作成、給与履歴の更新に使用されるすべてのプログラムにアクセスできます。JD Edwards EnterpriseOneには、サービス管理ワークベンチ (P90CD020)、ライン・スケジューリング・ワークベンチ (P3153)、計画ワークベンチ (P13700)、監査人ワークベンチ (P09E115)、給与計算サイクル・ワークベンチなどが用意されています。
作業日カレンダー	JD Edwards EnterpriseOne製造管理で、計画の作成に使用されるカレンダーです。このカレンダーには作業日のみが列挙されるので、実際に稼働可能な日数に基づいて構成と作業オーダーのスケジュールを設定できます。作業日カレンダーは、計画カレンダー、製造カレンダー、または製造現場カレンダーと呼ばれる場合もあります。
ワークフロー	ビジネス・プロセスの一部または全体の自動化を意味します。自動化されたプロセス (ワークフロー) では、ドキュメント、情報、タスクが、指定された手順に従ってユーザーからユーザーへ渡されます。
ワークグループ・サーバー	マスター・ネットワーク・サーバーからレプリケートされたデータのサブセットが通常置かれるサーバーです。ワークグループ・サーバーでは、アプリケーションやバッチ処理は実行されません。
XAPIイベント	システム・コールを使用してJD Edwards EnterpriseOneのトランザクションを発生時に取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求した

	サード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムを呼び出すサービスです。
XML CallObject	ビジネス関数の呼び出しを行うためのインタオペラビリティ機能です。
XMLディスパッチ	JD Edwards EnterpriseOneで応答として受信するすべてのXMLドキュメントに対して、単一のエントリ・ポイントを提供するインタオペラビリティ機能です。
XMLリスト	JD Edwards EnterpriseOneデータベース情報を、チャンク単位でリクエストおよび受信することを可能にするインタオペラビリティ機能です。
XMLサービス	JD Edwards EnterpriseOneシステムからイベントをリクエストし、別のJD Edwards EnterpriseOneシステムから応答を受信するためのインタオペラビリティ機能です。
XMLトランザクション	事前に定義されたトランザクション・タイプを使用して、JD Edwards EnterpriseOneにデータをリクエストしたり、JD Edwards EnterpriseOneからデータを受信するためのインタオペラビリティ機能です。XMLトランザクションでは、インターフェイス・テーブル機能が使用されます。
XMLトランザクション・サービス (XTS)	JD Edwards EnterpriseOneのフォーマットではないXMLドキュメントを、JD Edwards EnterpriseOneで処理可能なフォーマットに変換するサービスです。変換されたドキュメントに対する応答は、発信元(変換前)のXMLフォーマットに変換されます。
Zイベント	インターフェイス・テーブル機能を使用してJD Edwards EnterpriseOneトランザクションを取得し、特定のトランザクションが発生した場合に、通知を要求したサード・パーティ・ソフトウェア、エンドユーザー、およびその他のJD Edwards EnterpriseOneシステムに通知するサービスです。
Zテーブル	JD Edwards EnterpriseOne以外のデータを保存し、JD Edwards EnterpriseOne用に変換できるワークテーブルです。JD Edwards EnterpriseOneデータの取得にもZテーブルを使用できます。Zテーブルはインターフェイス・テーブルとも呼ばれます。
Zトランザクション	JD Edwards EnterpriseOneデータベースで更新できるよう、インターフェイス・テーブルで正しくフォーマットされたサード・パーティのデータです。

索引

数字/記号

「2次順序No.」フィールド(SCSQ) 260

AAI 62

関連項目: 請求AAI

会計 61

請求 62

設定 61

「AAI基本規則の改訂」フォーム 73, 74

「AAI再配賦規則の改訂」フォーム 73, 75

AAI(自動仕訳), 参照: AAI

Customer Connection Webサイト xxvi

DBA(間接労務費の計算) 244

F03B11テーブル(請求書集計テーブル
(F4822)との調整) 429

F06116テーブル 255

F0618テーブル 255

F0724テーブル 255

F0911テーブル

総勘定元帳リンクテーブル(F48S912)
との調整 424

マイナスの取引の処理 361

ワークファイル作成後に取引を追
加 271

ワークファイルの生成時に取引を含
める 254

F48011テーブル 330

F48051テーブル

JD Edwards World A7.3からの変
換 452

JD Edwards World A8.1からの変
換 530, 617

F48051のA7.3からJD Edwards
EnterpriseOneへの変換プログラム
(R8948051) 452

F48051の変換 - JD Edwards World A8.1
からJD Edwards EnterpriseOneのプログ
ラム(R8948051B) 530, 617

F4805テーブル

JD Edwards World A7.3からの変
換 452

JD Edwards World A8.1からの変
換 529, 616

F4805のA7.3からJD Edwards
EnterpriseOneへの変換プログラ
ム(R894805) 452

F4805の変換 - JD Edwards World A8.1か
らJD Edwards EnterpriseOneのプログ
ラム(R894805B) 529, 616

F48091テーブル

JD Edwards World A7.3からの変
換 453

JD Edwards World A8.1からの変
換 531, 618

間接労務費の処理 255

F48091のA7.3からJD Edwards
EnterpriseOneへの変換プログラム
(R8948091) 453

F48091の変換 - JD Edwards World A8.1
からJD Edwards EnterpriseOneのプログ
ラム(R8948091B) 531, 618

F48096テーブル

JD Edwards World A7.3からの変
換 456

JD Edwards World A8.1からの変
換 534, 621

説明 36

F48096のJD Edwards WorldからJD
Edwards EnterpriseOneへの変換プログ
ラム(R8948096) 456

F48096の変換 - JD Edwards World A8.1
からJD Edwards EnterpriseOneのプログ
ラム(R8948096B9) 534, 621

F48127テーブル

JD Edwards World A7.3からの変
換 498

JD Edwards World A8.1からの変
換 584, 671

F48127のA7.3からJD Edwards
EnterpriseOneへの変換プログラム
(R8948127) 498

F48127の変換 - JD Edwards World A8.1
からJD Edwards EnterpriseOneのプログ
ラム(R8948127B) 584, 671

F48128テーブル

JD Edwards World A7.3からの変
換 500

- JD Edwards World A8.1からの変換 585, 672
- 説明 57, 386
- F48128のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R8948128) 500
- F48128の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R8948128B) 585, 672
- F4812Hテーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 472
 - JD Edwards World A8.1からの変換 552, 639
 - 除去 289
 - 整合性 419
 - 説明 395
 - 総勘定元帳リンクテーブル (F48S912)との調整 425
 - 取引の履歴への移動 289
- F4812HのA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R894812H) 472
- F4812Hの変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R894812HB) 552, 639
- F4812テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 458
 - JD Edwards World A8.1からの変換 536, 623
 - 改訂 270
 - 関連テーブル 253
 - 整合性 415
 - 総勘定元帳リンクテーブル (F48S912)との調整 425
 - フィールドの取得 431
 - 元帳取引の追加 271
- F4812のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R894812) 458
- F4812の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R894812D) 536, 623
- F48221テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 501
 - JD Edwards World A8.1からの変換 587, 674
- F48221のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R8948221) 501
- F48221の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R8948221B) 587, 674
- F4822テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 485
 - JD Edwards World A8.1からの変換 568, 655
 - 売掛金元帳テーブル (F03B11)との調整 428
 - 請求明細ワークファイル・テーブル (F4812)との調整 427
 - 請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H)との調整 427
- F4822のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R894822) 485
- F4822の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R894822B) 568, 655
- F48520テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 493
 - JD Edwards World A8.1からの変換 578, 665
- F48520のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R8948520) 493
- F48520の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R8948520B) 578, 665
- F4860テーブル 256
 - JD Edwards World A7.3からの変換 495
 - JD Edwards World A8.1からの変換 581, 668
- F4860のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R894860) 495
- F4860の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R894860B) 581, 668
- F4861テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 496
 - JD Edwards World A8.1からの変換 582, 669

- F4861のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R894861) 496
- F4861の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R894861B) 582, 669
- F4862テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 497
 - JD Edwards World A8.1からの変換 583, 670
- F4862のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R894862) 497
- F4862の変換 - JD Edwards World A8.1からJD Edwards EnterpriseOneのプログラム (R894862B) 583, 670
- F48S001テーブル 19
- F48S912テーブル
 - 請求明細ワークファイル・テーブル (F4812)との調整 426
 - 請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H)との調整 426
 - 取引明細テーブル (F0911)との調整 424
- F48S95テーブル 62
- F49086テーブル 271
- F5201テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 502
 - JD Edwards World A8.1からの変換 589, 676
 - 説明 177
 - 多通貨向け設定 176
- F5201のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895201A) 502
- F5201のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895201D) 589, 676
- F52024テーブル (JD Edwards Worldから変換されない) 451
- F5202テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 508
 - JD Edwards World A8.1からの変換 595, 682
- F5202のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895202A) 508
- F5202のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895202D) 595, 682
- F52034テーブル (JD Edwards Worldから変換されない) 451
- F5204テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 515, 602
 - JD Edwards World A8.1からの変換 689
- F5204のA7.3からJD Edwards Worldへの変換プログラム (R895204A) 515, 602
- F5204のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895204D) 689
- F5212テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 516, 603
 - JD Edwards World A8.1からの変換 690
- F5212のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895212A) 516, 603
- F5212のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895212D) 690
- F52131テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 520, 607
 - JD Edwards World A8.1からの変換 694
- F52131のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R8952131A) 520, 607
- F52131のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R8952131D) 694
- F5213テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 518, 605
 - JD Edwards World A8.1からの変換 692
- F5213のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R895213A) 518, 605
- F5213のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム (R95213D) 692
- F5214テーブル

- JD Edwards World A7.3からの変換 521, 608
- JD Edwards World A8.1からの変換 695
- F5214のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R895214A) 521, 608
- F5214のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R895214D) 695
- F5215テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 522, 609
 - JD Edwards World A8.1からの変換 696
- F5215のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R895215A) 522, 609
- F5215のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R895215D) 696
- F52161テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 527, 614
 - JD Edwards World A8.1からの変換 702
- F52161のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R8952161A) 527, 614
- F52161のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R8952161D) 702
- F5216テーブル
 - JD Edwards World A7.3からの変換 524, 611
 - JD Edwards World A8.1からの変換 698
- F5216のA7.3からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R895216A) 524, 611
- F5216のA8.1からJD Edwards EnterpriseOneへの変換プログラム(R895216D) 698
- F5280テーブル
 - JD Edwards Worldから変換されない 451
 - 再作成 310
- JD Edwards World 449, 450
- JD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneへのアップグレード 449
- P0000プログラムの多通貨勤怠管理向けの設定 125
- P03B0011プログラム 322
- P0400047プログラム 406
- P050002Aプログラムの多通貨勤怠管理向けの設定 126
- P05001Cプログラムの多通貨勤怠管理向けの設定 125
- P051141プログラム 256
- P0900049プログラム
 - 請求書の生成 322
 - 総勘定元帳仕訳の生成用 296
 - 伝票の生成 406
- P0901プログラムの適格性コードへの影響 258
- P4805プログラム 85
- P48091プログラム 21, 27
- P48091プログラムの適格性コードへの影響 258
- P48096プログラム
 - 既存の割増規則への追加料金規則の追加 81
 - 処理オプション 50
 - 請求料金/割増規則のコピー 55
 - 請求料金/割増テーブルの設定 51
 - 多通貨向け設定 42
- P48124プログラム 254
- P48127プログラム 56
- P48128プログラム 60
- P4812Hプログラム
 - 処理オプション 291
 - 用途 291
- P4812プログラム
 - アドホック取引の入力 279
 - 間接費取引の確認 267, 269
 - 既存元帳取引のワークファイルへの追加 275
 - 多通貨 271
 - 追加料金取引の確認 268
 - 取引合計の確認 266
 - 非T&M収益取引の改訂 285
 - 保留状況の割当 283
 - 割増の変更 276
 - ワークファイル取引の分割 287
 - ワークファイル取引の履歴への移動 290
- P48221プログラム
 - 新しいバッチへの請求書の移動 347
 - アドホック・ワークファイル取引の請求書への追加 357

- 一時変更請求書印刷バージョンの割当 385
- 改訂
 - 契約請求管理の留保金額 392
 - 非T&M請求行の請求金額 344
 - 日付の一時変更 369
- 概要 330
- 確認
 - 仮の総勘定元帳仕訳 307
- 検討
 - 仮の請求書仕訳 368
 - 仮の伝票仕訳 413
 - 契約請求管理の請求書情報 335
 - サービス請求管理の請求書情報 333
- 作成
 - 仮の請求書仕訳 368
 - 仮の伝票仕訳 413
 - クレジット・メモ 362
 - 最終の請求書仕訳 370
 - 最終の総勘定元帳仕訳 309
 - 最終の伝票仕訳 413
 - 手動による請求書バッチ 352
 - バッチへの新しい請求書の 353, 354
- 処理オプション 332
- 請求書の手動印刷 385
- 総勘定元帳バッチの処理 297
- 多通貨 341
- 留保金の再計算
 - 契約請求管理 393
 - サービス請求管理 387
- 留保金のリリース
 - 契約請求管理 393, 395
 - サービス請求管理 388
- ワークファイル取引の削除 348, 410
- ワークファイル取引の請求書への追加 355
- P48250プログラム
 - 留保金が存在する最終請求書の無効化 400
 - 留保金のない最終請求書の無効化 400
- P4848プログラム 84
- P4860プログラム
 - 多通貨向け設定 78
 - 追加料金計算規則の設定 79
 - 複合追加料金の設定 81
- P4862Wプログラム 81
- P48S58プログラム 88, 89
- P48S95プログラム
 - 基本規則の設定 74
 - 再配賦規則の設定 75
 - 処理オプション 73
- P5201プログラム
 - 一時変更請求書印刷バージョンの割当 385
 - 契約マスター情報の設定 182
 - 最高限度規則の割当 188
 - 処理オプション 181
 - 留保金規則の割当 194
- P5202プログラム
 - 最高限度規則の割当 189
 - 支払時請求要件の定義 197
 - 処理オプション 205
 - 請求イベントの定義 214, 217
 - 請求行の定義
 - T&M 222
 - 間接労務費 245
 - 収益のみ 247
 - 手動計算の総額 207
 - 手動計算の単価 210
 - 進捗 216
 - 請求金額を計算するための総額 207
 - 請求金額を計算するための単価 210
 - 直接分割融資または率による分割融資 232
 - 追加料金 238
 - 手数料 234
 - マイルストーン 213
- 相互参照の定義
 - 間接労務費 246
 - 直接分割融資または率による分割融資 232
 - 追加料金 239
 - 定期請求金額の定義 208
 - 留保金規則の割当 195, 196
- P5204プログラム 193
- P52131プログラム 82
- P5213プログラム
 - 相互参照の定義
 - 手数料 235
- Payrollの契約/サービス請求管理との統合 7
- PeopleCodeの表記規則 xxviii
- R052901プログラムの多通貨勤怠管理向けの設定 129
- R09801プログラム

- 請求書バッチの転記 370
- 総勘定元帳バッチの転記 309
- 多通貨 371
- 伝票バッチの転記 414
- R48096レポート 705, 708
- R481202プログラム
 - 処理オプション 288
 - 用途 274
- R48120プログラム
 - 処理オプション 262
 - 説明 261
 - 多通貨 261
 - 用途 254
- R48121プログラム
 - 処理オプション 323
 - 請求書の自動印刷 385
 - 説明 320
 - 多通貨 367
 - 多通貨処理 320
 - マスター・ビジネス関数のバージョン 322
- R48122プログラム
 - 実行 407
 - 処理オプション 406
 - 説明 405
- R48127レポート 705, 709
- R48128レポート 705
- R48131プログラム
 - 買掛仕訳の作成プログラム(R48197)
 - による呼出し 412
 - 仮の請求書仕訳の作成 363, 368
 - 仮の伝票仕訳の生成 410
 - 処理オプション 367
 - 伝票の生成に使用されるマスター・ビジネス関数 406
- R48132プログラム
 - 仮の総勘定元帳仕訳 302
 - 収益認識に使用するバージョンおよびモード 295
 - 使用されるマスター・ビジネス関数 296
 - 処理オプション 304
- R48197プログラム
 - 最終の伝票仕訳 412
 - 処理オプション 413
- R48198プログラム
 - 最終の総勘定元帳仕訳 307
 - 処理オプション 308
 - 総勘定元帳仕訳の生成(R48132)による呼び出し 295
- R48199プログラム
 - 最終の請求書仕訳の作成 370
 - 処理オプション 369
- R48300プログラム
 - 仮の仕訳の確認 365
 - 仮の請求書仕訳の確認 368
 - 仮の請求書仕訳の作成 363
 - 仮の総勘定元帳仕訳の検討 305
 - 仮の伝票仕訳の検討 411
 - 仮の伝票仕訳の生成 410
 - 処理オプション 368
- R48405レポート
 - 処理オプション 710
 - 説明 706, 709
- R48504プログラム
 - 処理オプション 383
 - 多通貨 372
 - 履歴からの請求書の印刷 398
- R48507プログラム
 - 新規バージョンのチェックイン 97
 - スマート・フィールドの追加 96
 - 請求書フォーマット・テンプレート 92
 - 説明 88
- R4860レポート 706, 710
- R48S412レポート 706, 710
- R48S496レポート
 - 処理オプション 711
 - 説明 706, 711
- R48S710プログラム 415
- R48S711プログラム 419
- R48S720プログラム 424
- R48S721プログラム 424
- R48S730プログラム 425
- R48S731プログラム 426
- R48S751プログラム
 - 処理オプション 429
 - 説明 427
- R48S761プログラム 428
- R48S771プログラム 429
- R48S900プログラム
 - 収益バッチの削除 306
 - 請求書バッチの削除 346
 - 伝票バッチの削除 409
- R48S95レポート
 - 処理オプション 712
 - 説明 706, 711
- R48S999プログラム
 - 処理オプション 292
 - 用途 289
- R48TWレポート 706, 712

- R5201レポート
 - 処理オプション 712
 - 説明 706, 712
- R52120プログラム
 - 処理オプション 301
 - 説明 301
- R52121プログラム
 - 処理オプション 327
 - 説明 324
 - 多通貨処理 320
- R52412レポート 707, 713
- R52425レポート
 - 処理オプション 714
 - 説明 707, 713
- R52809プログラム 310
- R8948051Bプログラム 530, 617
- R8948051プログラム 452
- R894805Bプログラム 529, 616
- R894805プログラム 452
- R8948091Bプログラム 531, 618
- R8948091プログラム 453
- R8948096B9プログラム 534, 621
- R8948096プログラム 456
- R8948127Bプログラム 584, 671
- R8948127プログラム 498
- R8948128Bプログラム 585, 672
- R8948128プログラム 500
- R894812Bプログラム 536, 623
- R894812HBプログラム 552, 639
- R894812Hプログラム 472
- R894812プログラム 458
- R8948221Bプログラム 587, 674
- R8948221プログラム 501
- R894822Bプログラム 568, 655
- R894822プログラム 485
- R8948520Bプログラム 578, 665
- R8948520プログラム 493
- R894860Bプログラム 581, 668
- R894860プログラム 495
- R894861Bプログラム 582, 669
- R894861プログラム 496
- R894862Bプログラム 583, 670
- R894862プログラム 497
- R8952011Aプログラム 502
- R895201Dプログラム 589, 676
- R895202Aプログラム 508
- R895202Dプログラム 595, 682
- R895204Aプログラム 515, 602
- R895204Dプログラム 689
- R895212Aプログラム 516, 603
- R895212Dプログラム 690
- R8952131Aプログラム 520, 607
- R8952131Dプログラム 694
- R895213Aプログラム 518, 605
- R895213Dプログラム 692
- R895214Aプログラム 521, 608
- R895214Dプログラム 695
- R895215Aプログラム 522, 609
- R895215Dプログラム 696
- R8952161Aプログラム 527, 614
- R8952161Dプログラム 702
- R895216Aプログラム 524, 611
- R895216Dプログラム 698
- T2給与計算トランザクションの割増規則の検索 49
- T&Mおよび原価加算の請求行相互参照 221
- T&M請求行
 - 最高限度規則の割当 186
 - 収益認識および請求 299
 - 請求書の集計情報の検討 336
- T&M、単価、合計相互参照勘定科目テーブル(F5212)
 - JD Edwards World A7.3からの変換 516, 603
 - JD Edwards World A8.1からの変換 690
- UDC
 - 契約カテゴリ・コード11から15(52/11から15) 31
 - 契約カテゴリ・コード1から5(52/01から05) 30
 - 契約状況(52/CS) 30
 - 原価プール(00/12) 29
 - 作業オーダー・クラス(00/W7) 29
 - 請求行カテゴリ・コード3から5(52/A3からA5) 30
 - 税目コード(00/EX) 28
 - 設定 28
 - 調整理由(48/AR) 29
 - 追加料金コード(48/CM) 28
 - ビジネスユニット(職務)クラス(00/11) 29
 - 変更オーダー・カテゴリ・コード1から2(52/A1からA2) 30
 - 変更状況(52/CH) 30
 - 割増生成タイプ(48/MT) 126
- 「Voucher Detail Revisions」フォーム 408, 410

あ

相手勘定規則 57
 相手勘定の作成 370
 相手勘定の自動仕訳 370
 相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)
 JD Edwards World A7.3からの変換 500
 JD Edwards World A8.1からの変換 585, 672
 キー・タイプとテーブル・キー 58
 主要キー 58
 説明 57, 386
 通貨モードの一時変更 59
 相手勘定/留保金テーブル一覧レポート(R48128) 705
 「相手勘定/留保金テーブルの改訂」フォーム 60
 相手勘定/留保金テーブルのプログラム(P48128) 59, 60
 アドホック取引
 請求書への追加 357
 定義済 254
 入力 272
 アプリケーションの基礎 xxv

い

一時変更日付の改訂 365
 「一括請求行の改訂」フォーム
 契約請求管理の留保金の処理 391
 請求書情報の改訂 331, 343
 請求書の集計情報の検討 338
 一般会計固定情報プログラム(P0000)の
 多通貨勤怠管理向けの設定 125
 一般会計の契約/サービス請求管理との統合 6
 印刷バージョン
 請求書用 88
 相互参照テーブルの設定 89

う

売上原価勘定科目(4842)請求AAI 64
 売掛管理の契約/サービス請求管理との統合 7
 売掛金元帳から請求書集計への制御レポート・プログラム(R48S771) 429
 売掛金元帳テーブル(F03B11)(請求書集計テーブル(F4822)との調整) 429
 売掛仕訳の作成プログラム(R48199)
 実行 370

処理オプション 369

え

エラー
 仮の請求書仕訳の生成 365
 仮の総勘定元帳仕訳 305
 請求ワークファイル 263

お

親/子関係(契約) 178
 「親順序No.」フィールド(PRSQ) 260

か

買掛管理の契約/サービス請求管理との統合 7
 買掛仕訳の作成プログラム(R48197) 412
 処理オプション 413
 外貨モードの計算 15
 会計AAI 61
 「会計取引の選択」フォーム 275, 352, 356
 会計取引の選択プログラム(P48124) 254
 会社オプション・プログラム(P05001C)の
 多通貨勤怠管理向けの設定 125
 会社例外 27
 貸方に計上する課税対象売掛金勘定科目(4822)請求AAI 63
 貸方に計上する最高限度相殺勘定科目(4851)請求AAI 64
 貸方に計上する収益粗利益勘定科目(4871)請求AAI 64
 貸方に計上する請求粗利益勘定科目(4873)請求AAI 64
 借方に計上する課税対象売掛金勘定科目(4823)請求AAI 63
 借方に計上する最高限度相殺勘定科目(4852)請求AAI 64
 借方に計上する収益粗利益勘定科目(4872)請求AAI 64
 借方に計上する請求粗利益勘定科目(4874)請求AAI 64
 仮の請求書仕訳 363
 仮の総勘定元帳仕訳
 検討と改訂 305
 生成 302
 タイプ 296
 仮の伝票仕訳

検討 411
 生成 410
 為替レートが多通貨勤怠管理向けの設
 定 126
 勘定科目の検討と改訂プログラム
 (P0901)の適格性コードへの影響 258
 勘定情報
 振替 318
 ワークファイル取引に対する変更 297
 間接費
 適用済間接費行の相互参照行の選
 択 242
 適用済間接費の請求行について 240
 適用済間接費の請求行の定義 241
 適用済間接費の相互参照の定
 義 242
 取引の処理 257
 「間接費情報」フォーム 266, 267
 間接費請求フィールド 255
 間接費取引, 参照: 間接労務費取引
 間接費取引の確認 269
 「間接費取引の照会」フォーム 269
 間接費配賦テーブル(F0724) 255
 間接労務費請求行
 DBAまたは税タイプへの相互参
 照 244
 計算 325
 定義 243
 「間接労務費請求行相互参照の改訂」
 フォーム
 間接労務費請求行の定義 245
 間接労務費の相互参照の定義 246
 「間接労務費請求行相互参照の選択」
 フォーム 245
 間接労務費取引
 確認 267
 請求行 256
 請求ワークファイルに含める 255
 追加料金との関係 257
 適格性コード 256
 他の取引との関係 257
 間接労務費のPDBA 243
 「関連付けられた下書きおよび最終の伝
 票タイプ」フォーム 21, 28
 関連ドキュメンテーション xxvi

き

基本規則
 収益認識のみ(例) 102
 請求AAI用 100

請求のみ(例) 101
 調整ありの収益認識および請求
 (例) 108
 調整なしの収益認識および請求
 (例) 103
 定義済 70
 給与計算原価(間接労務費) 243
 給与計算トランザクション
 請求ワークファイルに含める 255
 補助キーの検索 45
 給与税(請求ワークファイルに含め
 る) 255
 共通フィールド xxx
 勤怠管理処理(多通貨) 125
 キー・タイプ
 相手勘定/留保金情報テーブル
 (F48128) 58
 請求AAI用 64
 説明 38

く

クレジット・メモ 361

け

警告 xxix
 契約
 親/子関係 178
 カテゴリ・コード 177
 契約タイプと顧客番号の割当 177
 最高限度規則 178, 186
 削除 179
 差引 229
 事前振込 229
 請求AAI 62
 請求行タイプ 174
 請求書フォーマット・コード 178
 設定 173, 177
 多通貨 176
 変更 179
 変更オーダー 175
 前払 229
 要素 173
 留保金規則の定義 190
 留保金の定義 178
 契約カテゴリ・コード11から15(52/11か
 ら15) 31
 契約カテゴリ・コード1から5(52/01から
 05) 30
 契約/サービス請求管理との統合 4

- 契約収益集計テーブル(F5280)
 - JD Edwards Worldから変換されない 451
 - 再作成 310
- 契約収益集計テーブルの再作成プログラム(R52809) 310
- 契約状況(52/CS) 30
- 「契約状況照会の処理」フォーム
 - 契約の状況の検討 398
- 契約請求管理
 - 概要 1
 - サービス請求管理との比較 2
 - 統合 4
- 契約請求行
 - 改訂 175
 - 間接労務費 243
 - 原価加算 221
 - 最高限度規則の割当 186
 - 支払時請求要件 196
 - 収益のみ 247
 - 従属 174, 228
 - 進捗請求 215
 - 総額 203
 - タイム・アンド・マテリアル 221
 - 単価 209
 - 直接分割融資 230
 - 追加料金 237
 - 適用済間接費 240
 - 手数料 233
 - 独立 174, 199
 - マイルストーン請求 211
 - 率による分割融資 230
 - 留保金規則の割当 196
 - 留保金の計算 192
- 契約請求行詳細テーブル(F5202)
 - JD Edwards World A7.3からの変換 508
 - JD Edwards World A8.1からの変換 595, 682
- 「契約請求行詳細の改訂」フォーム 208
 - T&M請求行の定義 222
 - 以前に請求した進捗請求行の変更 220
 - 間接労務費請求行の定義 245
 - 原価加算請求行の定義 222
 - 最高限度規則の割当 188, 189
 - 支払時請求要件の定義 197
 - 収益のみ請求行の定義 247
 - 手動計算の総額の定義 207
 - 手動計算の単価の定義 210
- 進捗請求行の定義 216
- 請求金額を計算するための総額の定義 207
- 総額請求行の定義 205
- 単価請求行の定義 210
- 単価を定義して請求金額を計算 210
- 直接分割融資または率による分割融資請求行の定義 231, 232
- 追加料金請求行の定義 238
- 適用済間接費の請求行の定義 241
- 手数料請求行の定義 234
- 手数料の契約請求行の定義 234
- マイルストーン請求行の定義 213
- マイルストーン請求の請求行の定義 213
- 留保金規則の定義 193
- 留保金規則の割当 195, 196
- 契約請求行詳細プログラム(P5202)
 - T&M請求行の定義 222
 - 間接労務費請求行の定義 245
 - 間接労務費の相互参照の定義 246
 - 最高限度規則の割当 189
 - 支払時請求要件の定義 197
 - 収益のみ請求行の定義 247
 - 手動計算の総額の定義 207
 - 手動計算の単価の定義 210
 - 処理オプション 205
 - 進捗請求行の定義 216
 - 請求イベントの定義 214, 217
 - 請求金額を計算するための総額の定義 207
 - 単価を定義して請求金額を計算 210
 - 直接分割融資または率による分割融資請求行の定義 232
 - 直接分割融資または率による分割融資の相互参照の定義 232
 - 追加料金請求行の定義 238
 - 追加料金の相互参照の定義 239
 - 定期請求金額の定義 208
 - 手数料の契約請求行の定義 234
 - 手数料の相互参照の定義 235
 - マイルストーン請求の請求行の定義 213
 - 留保金規則の割当 195, 196
- 「契約請求行の照会」フォーム
 - 契約請求管理の留保金の処理 391
 - 契約または変更オーダーの留保金のリリース 393
 - 請求行の留保金のリリース 395
 - 請求書情報の検討 335

請求書情報の削除 347
 請求書バッチの検討 331
 請求書履歴の検討 398
 非T&M請求行の請求書金額の改訂 344
 留保金の再計算 393
 契約タイプ 177
 契約の印刷レポート(R5201)
 処理オプション 712
 説明 706, 712
 契約のカテゴリ・コード 177
 契約の最高金額 186
 契約の請求タイプ 174
 契約別ワークファイル取引レポート
 (R52412) 707, 713
 契約マスター
 最高限度規則の割当 186
 作成 181
 留保金規則の割当 194
 留保金の計算 191
 契約マスター(F5201) 177
 JD Edwards World A7.3からの変換 502
 JD Edwards World A8.1からの変換 589, 676
 多通貨向け設定 176
 「契約マスターの改訂」フォーム
 契約の作成 181
 契約マスター情報の設定 182
 契約マスターへの最高限度規則の割当 188
 最高限度規則の割当 188
 請求書の印刷 383
 留保金規則の定義 193
 留保金規則の割当 194
 契約マスターの改訂プログラム(P5201)
 一時変更請求書印刷バージョンの割当 385
 契約マスター情報の設定 182
 契約マスターへの最高限度規則の割当 188
 処理オプション 181
 留保金規則の割当 194
 「契約履歴の処理」フォーム 398
 契約履歴レポート(R52425)
 処理オプション 714
 説明 707, 713
 契約ログ・テキストテーブル(F52034)(JD
 Edwards Worldから変換されない) 451
 原価加算請求行 221

原価の請求ワークファイルへの追加 261
 原価プール(00/12) 29

こ

ご意見 xxx
 「顧客が見つかりません」エラー 264
 顧客番号
 契約への割当 177
 請求ワークファイル取引 254
 「顧客マスターに情報がありません」エラー 264
 国内通貨モードの計算 15
 固定間接費 256
 固定情報(請求), 参照: 請求固定情報
 ご要望 xxx

さ

差異
 タイミングの違いによる 298
 最高限度規則
 契約 178
 契約への割当 186
 最高限度金額(計算) 326
 最高限度の計算例 165
 最終請求書の無効化 396, 400
 最終請求書番号の制御 19
 最終の請求書仕訳 365
 最終の総勘定元帳仕訳 296, 307
 最終の伝票仕訳 412
 再配賦規則
 収益認識のみ(例) 114
 請求AAI用 113
 請求のみ(例) 113
 調整ありの収益認識および請求(例) 120
 調整なしの収益認識および請求(例) 116
 定義済 70
 作業オーダー・クラス(00/W7) 29
 作業オーダー取引(税情報の決定) 56
 作業オーダーの契約/サービス請求管理との統合 8
 「作業オーダー番号が無効です」エラー 264
 作業勘定科目(確認) 209
 「作業/金額の改訂」フォーム
 非T&M収益取引の改訂 285
 割増の変更 276

ワークファイル取引の改訂 275
 ワークファイル取引の履歴への移動 290
 作業原価システム(予算) 203
 差引 229
 暫定および最終請求書伝票テーブル(F48S001) 19
 サービス管理取引の削除 270
 サービス管理の契約/サービス請求管理との統合 9
 サービス請求管理
 概要 1
 契約請求管理との比較 2
 統合 4
 サービス請求管理留保金のリリース相互参照ファイル・テーブル(F48221)
 JD Edwards World A7.3からの変換 501
 JD Edwards World A8.1からの変換 587, 674
 「サービス請求固定情報」フォーム 21, 27
 請求固定情報の設定 21
 「サービス請求書の入力」フォーム
 サービス請求管理の留保金の処理 387
 請求書情報の検討 335
 請求書情報の削除 347
 請求書の印刷 383
 請求書の改訂 331
 「サービス請求伝票の改訂」フォーム 408, 410
 サービス請求バッチ制御テーブル(F48011) 330

し

仕掛品勘定科目(4841)請求AAI 64
 時間会計の契約/サービス請求管理との統合 7
 時間入力MBF処理オプション・プログラム(P050002A)の多通貨勤怠管理向けの設定 126
 システム設定要件 11
 事前振込 229
 失効予定の請求料金/割増テーブル・レポート(R48S496)
 処理オプション 711
 説明 706, 711
 実際間接費 256
 実際原価 256

実績収益勘定科目(4811)請求AAI 63
 支払項目
 請求書からの削除 345
 伝票からの削除 409
 ワークファイル取引の削除 346
 支払時請求 196, 326
 支払条件の一時変更 58
 収益金額
 差異 298
 請求書金額と不一致 19
 収益金額と請求書金額の差異 298
 収益と請求の不一致可
 会社例外 19
 金額 19
 割増の調整 298
 収益と請求の割増(調整) 298
 収益(認識), 参照: 収益認識
 T&M契約請求行と非T&M契約請求行 299
 概要 293
 仮の仕訳の生成 302
 請求処理との組合せ 297
 伝票タイプ 296
 戻し(逆仕訳) 300
 収益の仕訳の戻し(逆仕訳) 300
 収益の仕訳(戻し(逆仕訳)) 300
 収益の認識 293
 収益のみ請求行
 完了率 248
 請求割合 250
 相互参照 251
 収益バッチ(削除) 306
 収益レコード(ワークファイルへの追加) 301
 収益ワークファイルの生成プログラム(R52120)
 処理オプション 301
 説明 301
 従業員給与計算情報の多通貨勤怠管理向けの設定 127
 従業員トランザクション明細テーブル(F06116) 255
 従業員トランザクション履歴テーブル(F0618) 255
 集計規則 83
 住所録の契約/サービス請求管理との統合 9
 従属請求行 228
 主要キー

- 相手勘定/留保金情報テーブル
(F48128) 58
 - キー・タイプ 38
 - 検索 45
 - 請求AAI用 65
 - 請求料金/割増規則 37
 - 生成タイプ 37
 - 「順序No.」フィールド(SBSQ) 259
 - 順序/集計規則
 - 概要 83
 - 説明 318
 - データ項目 84
 - 順序/集計規則のデータ項目 84
 - 順序/集計キーの設定 85
 - 「順序/集計データ項目の順序」フォーム 84
 - 順序/集計データ項目プログラム
(P4848) 84
 - 順序番号 259
 - 「上級操作」フォーム 96
 - 「上級バージョン・プロンプト」フォーム 96
 - 所有者支払項目(基本契約の変更) 176
 - 所有者支払項目テキスト・テーブル
(F52024)(JD Edwards Worldから変換されない) 451
 - 仕訳
 - 仮の伝票仕訳 410, 411
 - 最終の請求書仕訳 365
 - 最終の総勘定元帳仕訳 307
 - 最終の伝票仕訳 412
 - タイプ 296
 - 伝票タイプ 319
 - 仕訳MBF処理オプション・プログラム
(P0900049)
 - 請求書の生成 322
 - 総勘定元帳仕訳の生成用 296
 - 伝票の生成 406
 - 「仕訳作成の制御」オプションの適格性
コードへの影響 258
 - 仕訳の再配賦 70
 - 仕訳の生成プログラム(R48131)
 - 買掛仕訳の作成プログラム(R48197)
による呼出し 412
 - 仮の請求書仕訳の作成 363, 368
 - 仮の伝票仕訳の生成 410
 - 処理オプション 367
 - 伝票の生成に使用されるマスター・ビ
ジネス関数 406
 - 仕訳の生成プログラム(R48132)
 - 仮の総勘定元帳仕訳 302
 - 使用されるマスター・ビジネス関
数 296
 - 処理オプション 304
 - 仕訳の転記プログラム(R09801)
 - 請求書バッチの転記 370
 - 総勘定元帳バッチの転記 309
 - 多通貨 371
 - 仕訳の振替 297, 318
 - 仕訳編集レジスタ・プログラム(R48300)
 - 仮の仕訳の確認 365
 - 仮の請求書仕訳の確認 368
 - 仮の請求書仕訳の作成 363
 - 仮の総勘定元帳仕訳の検討 305
 - 仮の伝票仕訳の検討 411
 - 仮の伝票仕訳の生成 410
 - 処理オプション 368
 - 進捗状況請求イベント(完了) 218
 - 「進捗詳細の改訂」フォーム 332, 339
 - 進捗請求行
 - 計算 326
 - 請求イベント 216
 - 請求書の集計情報の検討 339
 - 置換 220
 - 定義 215
 - 変更 219
 - 「進捗請求行の改訂」フォーム
 - 契約請求管理の留保金の処理 391
 - 進捗請求の請求イベントの定義 216,
217
- す**
- 数値データ・フィールド
 - 変換 450
 - スマート・フィールド
 - 請求書印刷用 93
 - 請求書のデザイン 374
 - 請求書フォーマット・テンプレートへの
追加 96
 - 変更 96
- せ**
- 「税額計算基準の改訂」フォーム 56
 - 請求AAI
 - 売上原価勘定科目(4842) 64
 - 概要 62
 - 貸方に計上する課税対象売掛金勘定
科目(4822) 63

- 貸方に計上する最高限度相殺勘定科目(4851) 64
- 貸方に計上する収益粗利益勘定科目(4871) 64
- 貸方に計上する請求粗利益勘定科目(4873) 64
- 借方に計上する課税対象売掛金勘定科目(4823) 63
- 借方に計上する最高限度相殺勘定科目(4852) 64
- 借方に計上する収益粗利益勘定科目(4872) 64
- 借方に計上する請求粗利益勘定科目(4874) 64
- 基本規則 70, 100
- キー 64
- 契約 62
- 再配賦規則 70, 113
- 仕掛品勘定科目(4841) 64
- 実績収益勘定科目(4811) 63
- 請求サイクル 99
- 請求書および総勘定元帳仕訳の生成 67
- 見越し売掛金勘定科目(4832) 63
- 見越し収益勘定科目(4831) 63
- 未払税勘定科目(4815) 63
- 請求AAI情報テーブル(F48S95) 62
- 請求AAIテーブル一覧レポート(R48S95)
 - 処理オプション 712
 - 説明 706, 711
- 「請求AAIの処理」フォーム 73
- 請求AAIプログラム(P48S95)
 - 基本規則の設定 74
 - 再配賦規則の設定 75
 - 処理オプション 73
- 請求イベント
 - 完了 218
 - 進捗請求 216
 - マイルストーン請求 212
- 請求管理システム固定情報テーブル(F48091)
 - JD Edwards World A7.3からの変換 453
 - JD Edwards World A8.1からの変換 531, 618
 - 間接労務費の処理 255
- 請求行, 参照: 契約請求行
- 請求行カテゴリ・コード3から5(52/A3からA5) 30
- 請求金額
 - 契約での超過 186
 - 手数料 234
- 請求原価 261
- 請求固定情報
 - 仕訳作成の制御オプション 19
 - 設定 17, 21
- 請求固定情報プログラム(P48091)
 - 暫定請求書番号および最終請求書番号の制御の設定 27
 - 設定 21
 - 適格性コードへの影響 258
- 請求サイクル 99
- 請求書
 - 新しいバッチへの移動 346, 347
 - アドホック・ワークファイル取引の追加 357
 - 印刷 87, 371, 372, 385, 398
 - 改訂 341, 342
 - 仮の仕訳 363
 - 関連元帳バッチ 319
 - 金額の計算 325
 - 検討 334, 335
 - 削除 345
 - サービス請求管理の留保金のリリース 386
 - 手動作成 350, 352
 - 順序/集計規則 318
 - スマート・フィールド 374
 - 生成 314, 320, 324
 - 定期 326
 - デザイン 373
 - 伝票タイプ 319
 - バッチ 330
 - バッチへの追加 353, 354
 - 無効化 396, 400
 - 留保金の再計算 386
 - ワークファイル取引の削除 346
 - ワークファイル取引の追加 350
- 請求書印刷 91, 93
- 請求書印刷(スマート・フィールドあり)プログラム(R48507) 88, 92
- 請求書印刷の選択プログラム(R48504)の処理オプション 383
- 請求書印刷バージョン
 - 一時変更の割当 385
 - 選択 87
 - 相互参照 88
 - チェックイン 97
- 「請求書印刷バージョン相互参照の改訂」フォーム 89

請求書印刷バージョン相互参照プログラム (P48S58) 88, 89

請求書金額

- 計算 15, 16
- 差異 298
- 収益金額と不一致 19

請求書作成

- T&M契約請求行と非T&M契約請求行 299
- 収益認識との組合せ 297

請求書支払項目(ワークファイル取引の削除) 346

請求書集計アクセス・テーブル (F48520)

- JD Edwards World A7.3からの変換 493
- JD Edwards World A8.1からの変換 578, 665

請求書集計から売掛金元帳への制御レポート・プログラム (R48S761) 428

請求書集計からワークファイルへの制御レポート・プログラム (R48S751)

- 処理オプション 429
- 説明 427

請求書集計ワークファイル・テーブル (F4822)

- JD Edwards World A7.3からの変換 485
- JD Edwards World A8.1からの変換 568, 655

売掛金元帳テーブル (F03B11)との調整 428

請求明細ワークファイル・テーブル (F4812)との調整 427

請求ワークファイル履歴テーブル (F4812H)との調整 427

「請求書順序/集計テーブル」フォーム 84, 85

請求書順序/集計テーブル見出しテーブル (F4805)

- JD Edwards World A7.3からの変換 452
- JD Edwards World A8.1からの変換 529, 616

請求書順序/集計テーブル明細テーブル (F48051)

- JD Edwards World A7.3からの変換 452
- JD Edwards World A8.1からの変換 530, 617

請求書順序/集計のキー設定プログラム (P4805) 85

請求書仕訳

- 仮 363
- 最終 365

請求書テンプレート

- 説明 92
- 変更 96

請求書入力MBF処理オプション・プログラム (P03B0011) 322

請求書の印刷 87, 88, 385

「請求書の作成」フォーム

- 新しい請求書の作成 353, 354
- クレジット・メモの作成 362
- 契約請求管理の留保金の処理 392
- 契約または変更オーダーの留保金のリリース 393
- サービス請求管理の留保金の処理 387
- 請求書情報の追加 351

請求書の処理

- 概要 311
- 順序/集計規則 83
- 通貨モード 14

「請求書の処理」フォーム

- 新しいバッチへの請求書の移動 347
- 契約請求管理 331
- 契約請求管理の請求書の改訂 343
- 契約請求管理の留保金の処理 391
- サービス請求管理 331
- サービス請求管理の請求情報の検討 334
- サービス請求管理の留保金の処理 387
- 請求書情報の削除 347

請求書の生成プログラム (R48121)

- 処理オプション 323
- 請求書の自動印刷 385
- 説明 320
- 多通貨 367
- 多通貨処理 320
- マスター・ビジネス関数のバージョン 322

請求書の生成プログラム (R48504)

- 多通貨 372
- 履歴からの請求書の印刷 398

請求書の生成プログラム (R52121)

- 処理オプション 327
- 説明 324
- 多通貨処理 320

- 請求書の無効化 400
- 請求書バッチ
 - 検討 333, 335
 - 削除 345
 - 承認 370
 - 転記 370
 - バッチへの新しい請求書の作成 350
 - 分割 346
- 請求書番号の制御 19
- 請求書フォーマット
 - カスタマイズ 96
 - サンプル 92
 - スマート・フィールド 93
 - 設定 91
- 請求書フォーマット・コード(契約) 178
- 請求書フォーマットの改訂 - スマート・フィールド・プログラム(R48507) 96, 97
- 「請求書明細の改訂」フォーム
 - 契約請求管理 331
 - サービス請求管理 331
 - 請求書情報の削除 347
- 請求処理の完了 363
- 請求書履歴
 - 請求書の印刷 398
 - 説明 395
- 「請求書履歴照会」フォーム
 - 最終請求書の無効化 398
 - サービス請求管理の留保金の処理 387
- 請求書履歴の照会プログラム(P48250)
 - での最終請求書の無効化 400
- 「請求書を無効にする」フォーム 398, 400
- 「請求制御ID」フィールド(BCI) 259
- 請求対象取引
 - 請求不可取引からの分割 273
 - 請求ワークファイルに含める 254
- 「請求対象」フィールドの適格性コードへの影響 258
- 「請求不可の作業オーダー」エラー 265
- 「請求明細取引の選択」フォーム 352, 355
- 請求明細ワークファイル・テーブル(F4812)
 - JD Edwards World A7.3からの変換 458
 - JD Edwards World A8.1からの変換 536, 623
 - 改訂 270
 - 関連テーブル 253
- 整合性 415
- 総勘定元帳リンクテーブル(F48S912)との調整 425
- フィールドの取得 431
- 元帳取引の追加 271
- 「請求料金/割増テーブルの処理」フォーム 50
- 請求料金
 - キー・タイプ 38
 - 検索 44
 - コピー 55
 - 主要キー 37
 - 生成タイプ 37
 - 設定 33, 49
 - 追加料金情報 42
 - 通貨コード 39
 - 定義済 36
 - 複合割増 41
 - 補助キー 40
 - 割増計算の定義 40
- 請求料金/割増テーブル(F48096)
 - JD Edwards World A7.3からの変換 456
 - JD Edwards World A8.1からの変換 534, 621
 - 改訂 271
 - 説明 36
- 請求料金/割増テーブル一覧レポート(R48096B) 705, 708
- 請求料金/割増テーブルの生成タイプ 37
- 請求料金/割増テーブルの通貨コード 39
- 請求料金/割増テーブルのプログラム(P48096)
 - 既存の割増規則への追加料金規則の追加 81
 - 処理オプション 50
 - 請求料金/割増規則のコピー 55
 - 請求料金/割増テーブルの設定 51
 - 多通貨勤怠管理向けの設定 127
 - 多通貨向け設定 42
- 「請求レート/割増の改訂」フォーム
 - 既存の割増規則への追加料金規則の追加 81
 - 請求料金/割増規則のコピー 55
 - 請求料金/割増規則の設定 50
 - 請求料金/割増テーブルの設定 51
 - 追加料金規則の設定 79
- 請求ワークファイル 253

関連項目: ワークファイル取引
 エラー 263
 改訂 270, 285
 確認 263
 再計算 274
 作成方法 253
 生成 261
 履歴 260, 289, 290
 割増の変更 271, 276
 請求ワークファイル取引間の関係 257
 請求ワークファイル取引の分割 273
 請求ワークファイル履歴テーブル
 (F4812H)
 JD Edwards World A7.3からの変
 換 472
 JD Edwards World A8.1からの変
 換 552, 639
 除去 289
 整合性 419
 説明 395
 総勘定元帳リンクテーブル(F48S912)
 との調整 425
 取引の履歴への移動 289
 制御レポート 415
 税決定基準テーブル一覧レポート
 (R48127) 705, 709
 税決定基準テーブル・プログラム
 (P48127) 56
 税決定規則 56
 税決定情報テーブル(F48127)
 JD Edwards World A7.3からの変
 換 498
 JD Edwards World A8.1からの変
 換 584, 671
 税情報の決定 56
 税タイプ(間接労務費の計算) 244
 製品ガイド
 注文 xxvi
 生命保険料(請求ワークファイルに含め
 る) 255
 税目コード(00/EX) 28
 設備/工場管理の契約/サービス請求
 管理との統合 8
 設備取引 47
 前提知識 xxv

そ

総額
 手動計算の定義 207
 請求金額を計算するための定義 204

定義 203
 定期金額の定義 205
 総額収益レコード(ワークファイルへの
 追加) 301
 総額請求行
 計算 325
 請求書の集計情報の検討 338
 総勘定元帳仕訳
 仮 302
 最終 307
 タイプ 296
 総勘定元帳仕訳の作成プログラム
 (R48198)
 処理オプション 308
 説明 307
 総勘定元帳仕訳の生成(R48132)によ
 る呼び出し 295
 総勘定元帳仕訳の生成 67, 295
 総勘定元帳仕訳の生成プログラム
 (R48132) 295
 総勘定元帳取引の請求書への追
 加 356
 総勘定元帳バッチ
 請求書バッチを使用した転記 370
 説明 297
 転記 309
 総勘定元帳バッチ処理 297
 総勘定元帳リンクテーブル(F48S912)
 請求明細ワークファイル・テーブル
 (F4812)との調整 426
 請求ワークファイル履歴テーブル
 (F4812H)との調整 426
 取引明細テーブル(F0911)との調
 整 424
 相互参照 xxix
 T&Mおよび原価加算の請求行 221
 間接労務費 244
 請求書印刷バージョン 89
 直接分割融資 232
 追加料金 237
 手数料 235
 率による分割融資 232
 「相互参照行の選択」フォーム 234
 「送信済ジョブの検索」フォーム 96

た

タイミングの違い(差異の原因) 298
 「タイム・アンド・マテリアル、原価加算、
 単価、合計相互参照の改訂」フォーム
 T&M請求行の相互参照設定 223

T&M請求行の定義 222
 原価加算請求行の相互参照設定 223
 原価加算請求行の定義 222
 総額請求行の定義 205
 単価請求行の定義 210
 タイム・アンド・マテリアル請求行, 参照:
 T&M請求行
 「タイム・アンド・マテリアル請求行の改訂」フォーム
 契約請求管理の留保金の処理 391
 請求書情報の改訂 331, 336
 タイムカード仕訳の作成プログラム
 (R052901)の多通貨勤怠管理向けの
 設定 129
 タイムカード(多通貨) 128
 多通貨
 相手勘定/留保金テーブルの設定 59
 売掛仕訳と元帳仕訳の作成 367
 勤怠管理 125
 契約 176
 固定情報 20
 請求書印刷バージョン相互参照の設定 89
 請求書金額の計算 15, 16
 請求書の印刷 372
 請求書の生成 320
 請求書の無効化 396
 請求料金/割増テーブル(P48096) 42
 設定 13
 総勘定元帳の転記 371
 通貨モード 14
 取引 14
 ワークファイルの改訂 271
 ワークファイルの生成 261
 多通貨勤怠管理 125
 多通貨タイムカード
 入力 128
 例 130
 単価収益レコード(ワークファイルへの
 追加) 301
 単価請求行
 計算 325
 自動計算 210
 手動計算 210
 請求金額を計算するための定義 210
 請求書の集計情報の検討 337
 定義 209
 「単価請求行の改訂」フォーム
 契約請求管理の留保金の処理 391

請求書金額の改訂 343
 請求書の集計情報の改訂 331, 337

ち

注意 xxix
 注意事項 xxix
 超過請求の修正 361
 調整理由(48/AR) 29
 重複するワークファイル取引 272
 「直接分割融資行の改訂」フォーム
 契約請求管理の留保金の処理 391
 請求書情報の改訂 343
 請求書バッチの検討 332
 直接分割融資行の集計情報の検討 340
 直接分割融資請求行
 請求書の集計情報の検討 340
 相互参照の定義 232
 定義 230
 賃金外給付金(請求ワークファイルに含
 める) 255

つ

追加ドキュメンテーション xxvi
 追加料金
 間接労務費取引との関係 257
 計算規則の設定 79
 請求行への相互参照 237
 多通貨向け設定 78
 定義 237
 定義済 76
 複合 77
 複合計算規則の相互参照 77
 例 77
 割増規則 42
 割増規則への追加料金規則の追
 加 81
 追加料金/間接費請求行相互参照詳細
 テーブル(F5215)
 JD Edwards World A7.3からの変
 換 522, 609
 JD Edwards World A8.1からの変
 換 696
 追加料金規則
 設定 76
 割増規則への追加 81
 追加料金コード(48/CM) 28
 追加料金コード/間接費相互参照テー
 ブル(F5214)

JD Edwards World A7.3からの変換 521, 608
 JD Edwards World A8.1からの変換 695
 「追加料金コード相互参照の改訂」フォーム 79
 追加料金請求行
 計算 325
 相互参照 237
 労務の独立請求行への相互参照 244
 「追加料金請求行相互参照の改訂」フォーム 238, 239
 「追加料金請求行相互参照の選択」フォーム 238
 「追加料金請求行の改訂」フォーム 391
 追加料金相互参照テーブル(F4862)
 JD Edwards World A7.3からの変換 497
 JD Edwards World A8.1からの変換 583, 670
 「追加料金相互参照の改訂」フォーム 81
 追加料金相互参照プログラム
 (P4862W) 81
 追加料金テーブル一覧レポート
 (R4860) 706, 710
 「追加料金テーブルの改訂」フォーム 79
 追加料金テーブル・プログラム(P4860)
 多通貨向け設定 78
 追加料金計算規則の設定 79
 複合追加料金の設定 81
 追加料金テーブル・マスター(F4860)
 JD Edwards World A7.3からの変換 495
 JD Edwards World A8.1からの変換 581, 668
 説明 256
 追加料金テーブル明細テーブル(F4861)
 JD Edwards World A7.3からの変換 496
 JD Edwards World A8.1からの変換 582, 669
 追加料金取引
 確認 268
 処理 256
 他の取引との関係 257
 「追加料金取引照会」フォーム 266, 268
 追加料金の計算規則 79

「追加料金連結番号」フィールド
 (CLNK) 260
 通貨(固定および非固定) 14
 通貨モード
 一時変更 59
 外貨 15
 国内通貨 15
 請求用 14
 設定 14

て

定期請求額 205
 定期請求書 326
 適格性コード
 間接労務費取引と労務費取引 256
 非T&M収益取引の改訂 273
 割当 257
 「手数料行の改訂」フォーム
 契約請求管理の留保金の処理 391
 請求書情報の改訂 343
 請求書バッチの検討 332
 手数料行の集計情報の検討 338
 手数料請求行
 計算 325
 請求書の集計情報の検討 338
 相互参照 235
 定義 233
 レート・コード 82
 手数料請求行相互参照詳細テーブル
 (F5213)
 JD Edwards World A7.3からの変換 518, 605
 JD Edwards World A8.1からの変換 692
 「手数料相互参照詳細」フォーム 234, 235
 「手数料レート・コード・テーブルの改訂」フォーム 82
 手数料レート・コード・テーブル・プログラム(P52131) 82
 伝票
 検討 407
 削除 408
 自動生成 405
 支払項目の削除 409
 説明 403
 転記 414
 伝票支払項目(ワークファイル取引の削除) 409
 伝票仕訳

- 仮 410
- 仮の仕訳の検討 411
- 最終 412
- 伝票タイプ
 - クレジット・メモ 361
 - 収益認識 296
 - 請求書の処理 319
- 伝票入力MBF処理オプション・プログラム (P0400047) 406
- 伝票の自動生成 405
- 「伝票の処理」フォーム 408, 410
- 伝票の生成プログラム(R48122)
 - 処理オプション 406
 - 説明 405
- 伝票バッチ
 - 削除 408
 - 説明 405
 - 転記 414
- 伝票バッチの現在の活動インディケーター 405
- テンプレート
 - スマート・フィールドの追加 96
 - 請求書印刷用 92
- データの整合性 415
- データ・リレーションシップ
 - 契約入力 182
 - 契約入力の概要 180
- テーブル・キー
 - 相手勘定/留保金情報テーブル (F48128) 58
 - 請求AAI用 64
 - 定義済 38
- 「テーブル情報」フォーム 275
- テーブル変換(JD Edwards WorldからJD Edwards EnterpriseOneへの変換) 449

と

- ドキュメンテーション
 - 関連 xxvi
 - 最新版 xxvi
 - ダウンロード xxvi
- ドキュメンテーションのダウンロード xxvi
- 取引 253
 - 関連項目: ワークファイル取引
 - アドホック 254
 - 改訂の適用 274
 - 請求書への追加 350
 - 請求対象 254
 - 多通貨 14
 - 追加料金情報 42

- 分割 273, 287
- 補助キーの検索 48
- 履歴から再有効化 260
- 履歴からの移動 291
- 履歴への移動 290
- 割増の適用 37
- 取引合計の確認 266
- 取引明細から元帳リンクへの制御レポート・プログラム(R48S721) 424
- 取引明細テーブル(F0911)
 - 総勘定元帳リンクテーブル(F48S912)との調整 424
- マイナスの取引の処理 361
- ワークファイル作成後に取引を追加 271
- ワークファイルの生成時に取引を含める 254

に

- 日次タイムカードの入力プログラム (P051141) 256

ね

- 年齢調べ情報の間違いの修正 365

は

- バッチ
 - 収益 297
 - 請求書 330
 - 元帳 319
- バッチの検討プログラム(P48221)
 - 新しいバッチへの請求書の移動 347
 - 一時変更請求書印刷バージョンの割当 385
 - 一時変更日付の改訂 369
- 改訂
 - 非T&M請求行の請求金額 344
- 概要 330
- 確認
 - 仮の総勘定元帳仕訳 307
- 契約請求管理の留保金額の改訂 392
- 検討
 - 仮の請求書仕訳 368
 - 仮の伝票仕訳 413
- 作成
 - 仮の請求書仕訳 368
 - 仮の伝票仕訳 413
 - クレジット・メモ 362

最終の請求書仕訳 370
 最終の総勘定元帳仕訳 309
 最終の伝票仕訳 413
 手動による請求書バッチ 352
 バッチへの新しい請求書の 353, 354
 処理オプション 332
 請求書情報の検討
 契約請求管理 335
 サービス請求管理 333
 請求書の手動印刷 385
 請求書への取引の追加 355, 357
 総勘定元帳バッチの処理 297
 多通貨 341
 留保金の再計算
 契約請求管理 393
 サービス請求管理 387
 留保金のリリース
 契約請求管理 393, 395
 サービス請求管理 388
 ワークファイル取引の削除
 T&M請求書支払項目 348
 請求書支払項目 348
 伝票支払項目 410
 バッチの削除プログラム(R48S900)
 サーバーに送信する方式 346
 収益バッチの削除 306
 伝票バッチの削除 409
 「バッチの処理」フォーム
 仮の総勘定元帳仕訳の作成 308
 契約請求管理 331
 契約請求管理の請求書の改訂 343
 契約請求管理の請求書バッチの検討 335
 サービス請求管理 331
 サービス請求管理の請求情報の検討 333
 収益バッチの削除 307
 請求書情報の削除 347
 請求書情報の追加 351
 請求書仕訳の作成 367
 請求書の印刷 383
 伝票仕訳の作成 413
 伝票の検討 408
 伝票バッチの削除 410
 「バッチ・バージョンの処理 - 使用可能なバージョン」フォーム 96
 「バッチ・バージョンの設計」フォーム 96
 「バージョンのコピー」フォーム 96
 「バージョン・プロンプト」フォーム 96

ひ

非T&M収益取引の改訂 273, 285
 非T&M請求行
 収益認識および請求 299
 請求書金額の改訂 342, 344
 非アクティブなレコードの履歴からの除去 289
 非給与計算トランザクション(補助キーの検索) 47
 ビジネスユニット間接費のフラグ 255
 ビジネスユニット(職務)クラス(00/11) 29
 「日付の一時変更」フォーム 367, 369
 日付フィールド(変換) 450
 表記規則 xxviii

ふ

複合追加料金 81
 複合割増 41
 不動産管理の契約/サービス請求管理との統合 9
 「分割融資実行相互参照の改訂」フォーム 231, 232
 「分割融資の実行相互参照改訂」フォーム 220

へ

変更オーダー
 契約 175
 最高限度規則の割当 186
 留保金規則の割当 195
 留保金の計算 191, 193
 変更オーダー・カテゴリ・コード1から2(52/A1からA2) 30
 変更状況(52/CH) 30

ほ

補助キー
 検索 45
 請求AAI用 66
 請求料金/割増テーブル 40
 複合割増 41
 割増計算の関連付け 40
 「補助元帳無効」エラー 265
 「保留コード」フィールドのE(エラー)値 264
 「保留コード/リリース日付の改訂」フォーム 275, 283
 保留状況

改訂 273
リリース 283
割当 272, 283

ま

「マイルストーン詳細の改訂」フォーム 332, 339, 343
「マイルストーン/進捗状況イベント完了」フォーム 218
マイルストーン/進捗請求行相互参照詳細テーブル (F52161)
JD Edwards World A7.3からの変換 527, 614
JD Edwards World A8.1からの変換 702
マイルストーン/進捗請求情報テーブル (F5216)
JD Edwards World A7.3からの変換 524, 611
JD Edwards World A8.1からの変換 698
マイルストーン請求イベント(完了) 218
マイルストーン請求行
計算 326
請求イベント 212
請求書の集計情報の検討 339
定義 211
「マイルストーン請求行の改訂」フォーム
契約請求管理の留保金の処理 391
請求イベントの定義 213, 214
前払 229
マスター・ビジネス関数
請求書の生成 322
総勘定元帳仕訳の生成用 296
伝票仕訳の生成 406

み

見越し売掛金勘定科目(4832)請求AAI 63
見越し売掛金(差異) 298
見越し収益勘定科目(4831)請求AAI 63
未承認の請求書のバッチからの削除 346
未払税勘定科目(4815)請求AAI 63

め

「明細履歴の処理」フォーム 290, 398

も

元帳取引の請求ワークファイルへの追加 271, 275
元帳への伝票の転記プログラム (R09801) 414
元帳リンクから取引明細への制御レポート・プログラム (R48S720) 424
元帳リンクからワークファイルへの制御レポート・プログラム (R48S731) 426

ゆ

ユーザー定義コード(UDC), 参照: UDC

よ

予算
確認 209
予定値との一致 203
予定値(予算との一致) 203

り

「率による分割融資行の改訂」フォーム
契約請求管理の留保金の処理 391
請求書情報の改訂 343
請求書バッチの検討 332
率による分割融資の請求書情報の検討 340
率による分割融資請求行
請求書の集計情報の検討 340
相互参照の定義 232
定義 230
留保金
JD Edwards EnterpriseOne契約請求管理の計算の例 135
契約請求管理 390
契約請求管理の場合のリリース 390, 392
契約に対する定義 178
契約の計算 190, 193
契約の計算例 192
最終請求書の無効化 400
サービス請求管理 386
サービス請求管理の場合の再計算 387
サービス請求管理の場合のリリース 386, 388
留保金規則
契約に対する定義 190
契約への割当 194, 195, 196
設定 57

留保金規則情報テーブル(F5204)
 JD Edwards World A7.3からの変換 515, 602
 JD Edwards World A8.1からの変換 689
 「留保金規則テーブルの改訂」フォーム 193
 留保金規則テーブル・プログラム (P5204) 193
 留保金情報(相手勘定/留保金情報テーブル(F48128)) 58
 「留保金のリリース」フォーム 387, 388, 392, 393
 料金(請求ワークファイルに含める) 256
 リリース済留保金(最終請求書の無効化) 400
 リリース日付の改訂 273
 履歴
 請求書の印刷 398
 取引の再有効化 260, 291

れ

レポート
 仕訳編集レジスタ(R48300) 305
 取引明細から元帳リンクへの制御レポート(R48S721) 424
 元帳リンクから取引明細への制御レポート(R48S720) 424
 元帳リンクからワークファイルへの制御レポート(R48S731) 426
 ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート(R48S730) 425
 ワークファイル履歴制御レポート(R48S711) 419
 連続した請求書番号の制御 19
 連絡先情報 xxx
 レート・コード定義情報テーブル(F52131)
 JD Edwards World A7.3からの変換 520, 607
 JD Edwards World A8.1からの変換 694
 レート・コードの手数料の定義 82

ろ

労務費
 間接労務費 256
 請求ワークファイルに含める 255
 定義 243
 労務費取引

間接労務費取引との関係 257
 適格性コード 256
 労務費の割増(追加料金規則) 76

わ

割増
 間接費 257
 追加料金 256
 追加料金規則 76
 ワークファイル取引用に変更 271, 276
 割増規則
 検索 44
 コピー 55
 主要キー 37
 設定 33, 49
 定義済 36
 割増規則の計算 40
 割増生成タイプ(48/MT)の多通貨勤怠管理向けの設定 126
 割増テーブル
 キー・タイプ 38
 生成タイプ 37
 追加料金情報 42
 通貨コード 39
 複合割増 41
 補助キー 40
 割増の計算 40
 割増の計算
 検索 44
 タイプ 40
 ワークファイル, 参照: 請求ワークファイル
 ワークファイルから元帳リンクへの制御レポート・プログラム(R48S730) 425
 ワークファイル合計レポート(R48TW) 266, 706, 712
 ワークファイル制御レポート・プログラム(R48S710) 415
 ワークファイル取引 253
 関連項目: 取引
 T&M請求書支払項目からの削除 348
 アドホック 254, 272
 親/子関係 257
 勘定情報の振替 318
 勘定情報の変更 297
 間接費 257
 間接労務費 255, 256
 給与計算 255
 顧客番号 254
 再計算 274

- 手動入力 272
- 順序番号 259
- 請求書支払項目からの削除 346, 348
- 請求書への追加 350, 355
- 多通貨勤怠管理 130
- 重複 272
- 追加料金 256
- 追加料金取引との関係 257
- 適格性コード 257
- 伝票支払項目からの削除 409
- 取引明細テーブルからの追加 271
- 取引明細テーブルに格納されない 254
- 非T&M収益 273
- 振替 297
- 分割 273, 287
- 保留状況の割当 272, 283
- 履歴 289
- 履歴から再有効化 260
- 履歴からの移動 291
- 履歴への移動 289
- ワークファイル取引の再有効化 260
- ワークファイル取引例外レポート (R48S412) 706, 710
- ワークファイルの印刷レポート(R48405)
 - 処理オプション 710
 - 説明 706, 709
- ワークファイルの改訂プログラム(P4812)
 - アドホック取引の入力 279
 - 間接費取引の確認 269
 - 間接労務費取引の確認 267
 - 既存元帳取引のワークファイルへの追加 275
 - 多通貨 271
 - 追加料金取引の確認 268
 - 取引合計の確認 266
 - 取引の履歴への移動 290
 - 非T&M収益取引の改訂 285
 - 保留状況の割当 283
 - 割増の変更 276
 - ワークファイル取引の分割 287
- ワークファイルの再計算プログラム (R481202)
 - 実行 287
 - 処理オプション 288
 - 用途 274
- 「ワークファイルの処理」フォーム
 - ワークファイル取引の改訂 275
 - ワークファイル取引の確認 266
- ワークファイルの生成プログラム (R48120)
 - 処理オプション 262
 - 説明 254, 261
 - 多通貨 261
 - 多通貨勤怠管理 130
- 「ワークファイルの入力」フォーム
 - アドホック・ワークファイル取引の追加 275, 279, 352, 357
- ワークファイルの履歴の照会プログラム (P4812H)
 - 処理オプション 291
 - 用途 291
- ワークファイルの履歴の除去プログラム (R48S999)
 - 処理オプション 292
 - 用途 289
- 「ワークファイル分割基準」フォーム 275, 287
- 「ワークファイル分割金額」フォーム 275, 287
- ワークファイル履歴制御レポート・プログラム(R48S711) 419
- 「ワークファイル履歴の照会」フォーム 266